とある師弟の成層圏

カツヲ武士

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

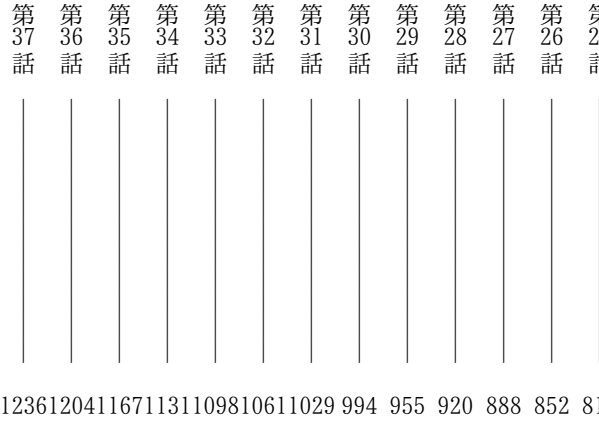
【あらすじ】

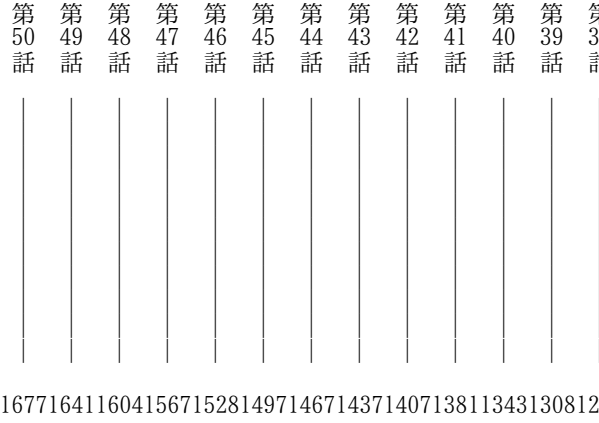
ふと思いついた蛇足シリーズ。
キャラクター使い回し。
とあるお弟子さんが主人公になりそう
原作は崩壊する（割といつものこと）
基本的に設定に対するアンチで、
ほとんど戦わない作品となります。
戦う前にするべきことをしなさい
って感じの作品です。

同じ作者の作品である
【とある策士の外史旅（仮）】と
【ダンジョンに～（長いから以下略）】
を見れば登場人物に対する理解が
深まる可能性があります。

目次

とある師弟の成層圏 1
第2話 25
第3話 52
第4話 78
第5話 107
第6話 142
第7話 177
第8話 213
第9話 248
第10話 286
第11話 324
第12話 358
第13話 395
第14話 428
第15話 464
第16話 498
第17話 532
第18話 565
第19話 599
第20話 635
第21話 671
第22話 714
第23話 744
第24話 780


第25話
第26話
第27話
第28話
第29話
第30話
第31話
第32話
第33話
第34話
第35話
第36話
第37話
816
852
888
920
955
994
1029
1061
1098
1131
1167
1204
1236


第38話
第39話
第40話
第41話
第42話
第43話
第44話
第45話
第46話
第47話
第48話
第49話
第50話
1271
1308
1343
1381
1407
1437
1467
1497
1528
1567
1604
1641
1677

考察
とある作者の考察（成層圏、コアの数編）――1712

とある師弟の成層圏

「アイツは馬鹿か」
　いや、馬鹿だな。
「おや、師よ何かありましたか？」
「あぁ、日本で阿呆が馬鹿やらかしやがった」
　もうなんていうか・・・本人も周りも
　馬鹿過ぎるだろ。
「阿呆ですか？・・・あぁ確かに馬鹿してますね」
　御歳６歳の我が弟子も納得の馬鹿さだよ。
「とりあえずこの論文丸々特許申請だ。
　今すぐ、この会見が終わる前に。
　中国だけじゃなく国際機関にもきっちり
　申請するように」
　これはヤバイだろ。なにを考えて・・・何も
　考えてねーな。これだから技術に溺れた

技術者は駄目なんだよ。

「かしこまりました・・・大丈夫ですね。

我々が一番乗りのようです」

よし、やはりリアルタイムだと時差の関係もあるからな。あとはあの馬鹿が気付いた時のカウンターだ。

さて、もともとのコンセプトは・・・宇宙服？

いや、宇宙服より先に作るものが色々あるだろ。

あ、資料を見る前にすることがあったわ。

「良くやった。さすが我が弟子」

やったら褒める。教育の基本だな。

「ふ、この程度造作もありません」

６歳のお子様が胸を張っても威厳どころか微笑ましさしかないぞ。

とりあえず頭を撫でてやろう。

「ふむぅ。この調子で阿呆が阿呆してくれたら師には利益が出ますし、私も師に

褒められてＷＩＮ―ＷＩＮなんですけどねぇ」
「いや、阿呆が負けてるから」
微妙に使い方が違うぞ。
「良いのですよ。この情報社会であんな
馬鹿をやらかした阿呆は全てを奪われて
終わるだけです」
「ま、そりゃ否定はしないがね」
さてさて、今までそれなりの発明で知る人ぞ
知る天才と言われてたアイツだが、今回の
コレで知る人ぞ知る武器職人になるぞ。
まったく、結構な勢いで発明品を作っては
売ってを繰り返して金を稼いでるから、
何か金が必要な環境だったかと思えば
コレ作ってたのかよ。
しかし今の段階じゃこれを正しく理解
できるヤツは周囲にいないだろうな。
理解できても無駄なプライドが邪魔して

認めるようなことはしないはずだ。
はぁ。初っぱなから周囲に自分を認めさせた
弟子や、家の力と金の力で法をねじ曲げた
俺とは違い、中途半端な常識を持つ大人たち
に囲まれてそれを脱却できなかったアイツは
・・・やっぱり壊れたか。
織斑千冬のような中途半端な理解者が
居なければアイツも自力で檻を破壊
出来たんだろうが・・・
いやはや、普通に考えて画一的な人材を
作る日本の義務教育なんざアイツにとって
地獄でしかなかっただろうよ。
せめて親に海外留学や自宅学習を選ぶ
ことが出来るような開明的な視野が
有ればここまで歪むことはなかった。
周りの連中はソレに気付くことも止める
ことも出来なかったか。

はっきり言って環境が産んだ化物だよ。
周りは自分についてこれない連中ばかり
なんだ。ずっと空を見てたんだろうな。
そんなアイツが宇宙に恋い焦がれるのも
理解は出来る。
だが人生経験が足りなすぎた。
「阿呆の暴走に備えよう。起業するぞ」
アレは絶対にやらかす。この技術は確実に
軍事に舵を切るだろう。
国が手を付ける前に色々稼がせてもらおうか。
「はっ！内容は宇宙開発事業で？」
流石に話が早い。
「そうだ。社名は・・・冬林技研だ」
うむ、即興にしては中々
「そんな！弟子が師を差し置いて先に名乗るなど！」
別に良いだろうに。
前は断捨離とか出来なかったから、こうして俺を立てるのは仕方ないと言えば仕方な

いんだかな。
「林冬だと良くわからんだろ?それに俺は
冬景色が好きだから冬が前で良いんだよ」
「むぅ・・・いや、しかし・・・」
まだ納得しないか。
「それに俺は黒幕だ、前に出るのはお前の仕事だろう?」
「・・・それは、そうですが」
目立ちたくないとかじゃないな。
そもそも冬と林で俺達を識別出来るヤツ
なんて居ないだろうから、どうしても
俺の前に立ちたくないだけか。
コイツの意識は少しずつ変えていこう。
いつまで経っても俺を追いかけるとか、
ある意味永劫の呪いじゃないか。
俺もな。2度や3度くらいなら良いが
あんまり繰り返してると魂が磨耗しそう
だし、もし転生の中でコイツを忘れたら

きっと忘れられたコイツは自我崩壊を
起こすくらいの衝撃を受けるだろう。
少し寂しくは有るが、コイツにはコイツの生き方がある。
せめて楽しく生きて欲しいんだがな。

むぅ。また師が考え込んでますね。
アレは私が師を追いかけることに対する
罪悪感みたいなモノでしょう。
私は好きで師を追いかけてるんだから
気にする事は無いんですけどね。
師は自分が居なければ、私は私の人生を
歩めるとか言ってましたが、それは
大きな間違いです。
師が居ない人生に意味など有りません。
いや、これが師に依存していると言われたら

そうなのでしょうけど・・・実際問題、師は
私の理解者であることを忘れてませんかね？
私たちが当たり前に出来る事でも、周りには不可能なんですよ？
誰にも理解されない孤独は地獄と同じです。
その結果が日本の馬鹿じゃないですか。
親も友人も周囲の誰にも理解されず環境に
壊された子供です。
あれはこれから周囲に破壊と混乱をもたらし
世界に失望して「でも、いつか、きっと」と
淡い希望を抱くが故に自決も出来ず、ただ
壊れたまま踊り続けるのでしょう。
・・・本来なら。
完全に壊れる前に師が見つけましたからね。
師はヤツすら理解して許容するでしょう。
その証拠にクソみたいな連中に知識や
技術を盗まれる前に保護して、
ヤツの夢を守る為に起業するのですから。

まぁ当然それだけではありませんが。
私も政治やら経済やらに関してなら経験や
才覚も有りますが、技術的な才覚はアレには
勝てませんからね。
有用な人材を獲得したと考えたら良いのでしょうか。
まぁアレが自分が理解者を得たことに
気付くのはまだ先でしょうけど。
しかし冬林技研ですか・・・。師と私の
合作ですよね。
しかも私たちにしかわからない真名で
確かに繋がってます。
ふふふ。今はまだ6歳ですから嫁ぐことは
出来ませんが、あと１０年もすれば正式に
結婚出来ます！
側室をどうするかはありますが、まずは正室の座を確保しますよ。
前とは違い、師も無理はしてません。
託されたものが有ったからあの後も生きて

いけましたが、本来なら私くらいは殉死する
べきだったと今でも悔やむ気持ちはあります。
もしかしたら同い年で転生出来たかもしれません。
もし、万が一、師が早世するなら、今度こそ私もついていきましょう。
師にも理解者は必要ですし・・・師に邪魔と
言われるまでは、ずっと一緒に生きるんだと
決めてますからね。
私は師の理解者足り得ませんが、それでも
共に歩める随行者です。
大体、師だって私が貴方を探し歩くことは
わかってたでしょうに。
今生でご挨拶したときの、あの呆れたような、
納得したような、悪いことをしたかのような。
それでも、少し嬉しそうな笑顔を見たらね。
私から師を孤独に落とすようなことは絶対にしませんよ。
これは依存ではありません。惚れた弱味というのです。
もし私が共に歩むのが嫌だというなら、

私に失望されるような男になってください。
千年。いえ、それ以上の時を越えての恋
だから、そう簡単には行きませんけどね。

――――――――――――――――

ふん。これで私とこの子たちを馬鹿にした奴らを見返してやれるんだよ！
「・・・今回はもうやってしまった
ことだからしょうがないが、今後は
必ず事前に連絡を入れるようにしろよ！」
ふふ。ちーちゃんはなんだかんだ言って
手伝ってくれるから良いけどさ！
もう少し世の中の馬鹿どもは現実を見るべきだね！
「ん？なんかメールが来てる・・・冬林技研？」
この大惨事の直後に束さんに直接メールを
送ってくるとは・・・馬鹿にしては中々
見る目があるね！

まぁ普通なら見ないで放置なんだけど
今回はお披露目後の第一号だからね！
話くらいは聞いてやるよ！

『特許使用料支払いのお知らせ』

・・・

「どーゆーことだよ?!」
いや、ほんと、どーゆーことだよ！
なんで束さんが造ったＩＳを束さんが使って
特許使用料とか払わなきゃいけないんだよ!!

「束？何があった？」
「あ、ちーちゃん！コレ見てよー」
ありえないんだよ!!!

ーーーーーーーーーーーーーーーー

なるほど、これは・・・アレだな。
「・・・お前、以前記者会見したとき、
いや、記者会見する前に技術や論文に
対する特許とか申請したか？」
「え？そんなのしてないよ？だって束さんの技術じゃん」
やっぱりか。発明を前に出して申請を
忘れたパターンだ。
日本人にわかりやすく言えばパチンコな。
技術しか追求しないからこうなる・・・
「あのな束、法律上は向こうが正しい」
「ええ?!ありえないでしょ?!」

それが有り得るから問題なんだろうが
何のための特許制度だと思ってる。
それに産業スパイが何のためにいると思ってるんだ。
いや、私もソコまで知ってるわけじゃ
無いが・・・まぁコレはアチラが上手だ。
しっかり国際機関にまで申請を
終わらせているとは・・・
この様子だと最初から束の論文に
価値があると見出してたな。
その上で束が暴走するのを読んでいたか？
純粋な技術や戦闘なら私たちに勝てるヤツ
はそうはいないが、こういった法律や
政治的な手段を取られるとな・・・
「ふ、ふふふ！この束さんの発明を
掠め取ろうだなんて許せないんだよ！」
まぁ技術者としてはそうだろうが、
企業家とか経営者としては相手が正しい

からなぁ。この場合は止めたほうが良いのか？
「とりあえずこの冬林技研って会社を
めちゃくちゃにして、特許権を
束さんに譲渡するようにしてやる！」
お、サイバーテロだのウィルスを送って
めちゃくちゃにして終わりかと思ったら、
ちゃんと特許を取り戻そうとしてるあたり
意外と冷静だな。
いやこれは・・・特許権の怖さを調べた？
なんたって世界を跨ぐ一撃だからな。
あのネズミが世界最強と言われるのは
伊達ではない。
「実際その会社がどうなろうが
特許権を持たれたままだと、何を
するにしても金を取られるからな。
回収はしたほうが良いだろう」
法律上は相手が正しいかもしれんが

こんな姑息なことをしてくる相手を庇う気にもならん。
なんだかんだでコイツの夢の結晶を横から掻っ攫った連中だし、まぁコイツを敵に回したことを後悔することになるだろうな。
「ふふん。中国の田舎企業が生意気に束さんに楯突くから・・・・・・」
「ん?どうした?」
冬林技研とやらを調べてた束の手が止まった?「中国の田舎企業」と言っていたから、場所や会社の概要は掴んだのだろうが・・・なんだ?
「ふ、ふん。潰す前に話くらいは聞いてやっても良いんだよ!」
「はぁ?!」
何だと?この束が妥協した?!

自分の夢を穢した相手から話を聞く?!
ありえんだろう!一体何があった?!
「ん?求人情報?」
なんでこんなページを?・・・あぁ

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

募集人数　若干名。
募集資格。
年齢性別学歴国籍問わず宇宙に興味のある方。
中国語または日本語または英語での
意思疎通が可能な方。
職務内容
観測員・作業員・技術者・企画運営など
※営業ノルマは一切ありません
試験内容
書類審査の上、面接と簡単な試験有り。

初任給（日本向け法人）
基　本　給　１９３，０００円（税込）／月
特別技術手当　有
残　業　手当　有
各種資格手当　有
　昇　給　有（５０００／年～）
交通費　最大　１２０００／月
各　種　保険　別紙参照
週　休　二日　有
年末年始、ＧＷ、夏季長期休暇　有
賞　与　年　２　回（６ヶ月分）

就労場所・就労時間については応相談。
（中国国内と日本国内を予定してます）
夜勤・日勤（早番遅番）有り
観測員だけでなく人工衛星の作成や
デブリ除去などの作業も予定しています。

（各種危険手当有り）

宇宙開発事業に興味のある方は募集要項を
クリックし専用の履歴書とＰＲ用紙を
ダウンロードし、必要事項を記載の上。
下記アドレスにメール送信願います。
その際の表題は必ず「求人について」と
記載願います。
資料請求については専用ページから
資料請求用の用紙をダウンロードし
各項目を記載の上、下記アドレスに
メール送信願います。
その際の表題は必ず「資料請求」と
記載願います。
その他質問などありましたら
下記メールフォームから・・・・・・
定員になり次第、募集は締め切らせて

頂きます。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

・・・なるほど、自分の技術を宇宙開発に使われてたら束が文句を言えるはずもない。
そもそもがそのための記者会見だったし理解者とパトロンを見つけたと思えば、な。
しかしコレは・・・もしかして私も応募できるんじゃないか？日本国内の観測員とは具体的に何をするんだ？
募集人数は若干名？
えぇい具体的には何人だ？
資料請求するか？いや、そんな悠長なことをしていたら募集が締め切られないか？
とりあえず履歴書を書いて送るか？
「むぅ初任給１９３，０００円（税込）か」
年齢学歴性別問わずでコレなら普通に

魅力的だ。しかも休みも多いし賞与も有る。
それに私にはＩＳ操縦の経験者としての
アドバンテージもあるし・・・
しかしこの給料は本当か?高すぎないか?
いや宇宙開発と考えれば安いのか?
そ、相場がわからん。
しかしコレなら他の職に移る際にも
経験としては十分だし、職業柄各種
資格も取れるだろう。
一夏のことを考えれば不安定なバイト
三昧よりは定職に就いた方が良いよな。
学校も今は通信教育とかあるし、
高卒資格も取れる。
就労場所と福利厚生次第では・・・
「あ、もしもし、冬林技研さんですか?」
あ、あの束が電話連絡?!しかも丁寧語だと?!
それだけの案件と判断したか!

コレは・・・コイツの暴走を抑える
為にも私も動く必要が有るな！
とりあえず書式をダウンロードして・・・

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「師よ、宇宙開発にしては給料安すぎ
ませんかね？」
デブリ除去とか国家予算使ってますから
かなりの利鞘が予想されますが・・・
「ん？まぁまだ実績が無い会社だからな。
このくらいが現実的だろうさ」
いや、まぁ確かにそうですが・・・
有用性は白騎士が実証しちゃいましたよ？
軍事にも手を出すつもりでしょうか？
あっちは軍閥が絡むから面倒って
言って避けてたんですけどね。

「とりあえず兎から電話が来るだろうから来たら俺が相手をしよう」
「メールではなく電話ですか・・・
あぁ、アレはそういう性格でしたね」
ウチの連中が何度か発明品購入してますから、なんとなく分かりますよ。
メールしろって言うのに電話してくるんですよね。
電話しろって言ったらメールして来るし。
意図的に反対のことをしてるんじゃなく、ただ話を聞かないだけだから何とも言えませんが。

『あ、もしもし、冬林技研さんですか?』

・・・はぁ。天才の行動を読み取る師が凄いのか兎が単純なのか・・・まぁ両方ですね。

精々師を楽しませて下さいよ?

第2話

『こちら冬林技研副所長李文優です』
ふ、普通に副所長が出ただと？しかも
流暢な日本語まで！
「あ、こちら日本の篠ノ之束と申します」
『ご丁寧にどうも。ですが普段通りで
構いませんよ？』
た、束が普通に会話しているだと?!
いや、私や一夏とは普通に会話
出来るし、箒ともコミュニケーションは
とれるから興味を抱いた相手には
それなりに出来るのは知っていたが！
しかも相手も束の性格を知ってる？
ま、まぁ記者会見の際に提示した
資料を特許申請するくらいだから

そのくらいは調べるか。
「ソレは助かるよ。それで、今回の
特許の件についてなんだけどさ?」
お前もお前で遠慮しないのな。
『あぁ、自分でも良い仕事をしたと
思ってますよ』
おい、受話器がミシミシ言ってるぞ
大丈夫かソレ?
「・・・まぁ、一応言い訳を聞いて
あげるよ」
が、我慢してる?あの束が?
『言い訳も何も、貴女のことを散々
馬鹿にした連中に権益を取られるよりも、
宇宙開発という目的の為に技術を
使ったほうが貴女の気分も良いだろうと
思ってのことですが?』
ソレはその通りだろうな。実際コイツが

やらなくても他の連中が勝手に特許の
申請をして金儲けをしていたはずだ。
そうなれば本当の意味で束の夢は穢されていた。
「なるほどなー。まぁ束さんとしても
アイツ等に使われるくらいなら、こうして
君に使われた方が良いと思うんだよ?」
おい、あんまり無礼な口の利き方を
するな。私の就職だってあるんだぞ!
『でしょう?それに記者会見を拝見
しましたけど、貴女は天才科学者では
ありますが経営者としては無能です』
おい、またミシミシ言ってるぞ。
諦めろ事実だろうが。
「たたた、確かに束さんは経営なんて
考えたことなかったからね!」
正面から無能と言われてめちゃくちゃ
動揺してるな。

『あの会見を見て貴女の技術者としての
レベルの高さと貴女の周囲に居る人間の
レベルの低さに愕然としたものです。
「子供の願い事は未来の現実。それを
夢と笑う大人はもはや人間ではない」
と言うのは日本の諺でしたか?』
聞いたことがあるような無いような・・・
「・・・あいつらは人間じゃないと?」
『えぇ、少なくとも大人でもなければ
企業経営が出来るような人間では
ありません。知ってますか?貴女の
会見の後、その日のうちに特許申請を
したのは全て日本国外の企業や研究者ですよ』
つまりあの場に居なかった連中の方が
束の価値を正しく理解できていた?
「その言い方だと君は会見中に特許
申請したのかな?」

『Ｅｘａｃｔｌｙ』
　そのとおりでございますって
　なんでココで英語？日本語か
　中国語じゃないのか？
『以前日本の動画でネズミさんが
「夢が見たいなら金払え」と言ってる
　動画を見ましたが、まさしくそれですよね』
　そんなニッチな動画まで網羅してる？
　コイツ、もしかして暇なのか？
「・・・つまり束さんの夢もお金が
　必要だってことだよね？」
『そうですね。けど貴女はお金を
　設備投資や資材購入と言う意味でしか
　捉えていない』
　ここはＥｘａｃｔｌｙじゃないんだな。
「他にお金なんて何に使うんだよ？」
『生活ですね』

なるほど。ストレートに来たな。

「生活う？」

『普段ご飯を食べるには食材を買うお金が必要ですし、家賃や光熱費もかかります。子供を学校に行かせるにも、学費だとか、あぁ日本だと給食代とかもあるんでしたっけ？それに恥ずかしい格好で虐められないように服や靴もそれなりに必要です』

「ちーちゃん・・・？」

「その通りだ」

簡単に学校に通わせるとは言うが、今副所長が言ったように費用はかかる。それに普通に生活するだけでも金は必要だ。

『そこに織斑さんも居るようですね？まぁ聞かれて困る話をする気はありませんから別に良いのですけど』

束が呟いた「ちーちゃん」の一言で

私のことを見抜いた？
・・・まぁ束を調べれば交友関係
なんざ一発か。
『夢を見る為にはまず現実を生きねば
なりません。宇宙に恋焦がれるのは
貴女だけではありませんが、今の
生活を投げ出してまで夢に向かうこと
が出来るのは、ほんの少数です』
「・・・」
そうだろうな。私だって束に協力したい
とは思っても、ソレだって生活に
支障がでない範囲での話だ。
『つまり彼らが夢に向かうことの
出来る環境を作ってからでないと、
いくら貴女が画期的な宇宙服を
作っても意味がないのですよ』
ふむ。順序立てての説明が上手い。

研究所の副所長だもんな、その辺の
教師とは違って当然か？
しかし束にソレが伝わるとは思えんが・・・
「なるほど。夢を実現させる為には
同じ夢を持つ人たちを従業員として雇って、
その従業員が生活できるだけのお金を用意
しないと駄目なんだね？」
ま、まさか！束が社会性に理解を示しただと?!
『その通り。正確には給料と社会的
地位と言ったところでしょうかね？
まったく、言われればこうして理解
出来るのにねぇ。きっと貴女の周囲には
マトモな大人が居なかったのでしょう』
なっ！柳韻先生を冒涜する気かっ！
「うん。それはそうだね」
「束?!」
いや、確かに仲が悪いのは知っていたが

見ず知らずの他人に言われて肯定する程に
見切りをつけていたのか?!
『織斑さん。周囲が彼女を理解出来て
いたなら普通にアメリカだのドイツ
だのに海外留学させますよ。
もしくは私たちのように起業して彼女
の為に技術局のような部署を作ります』
それは・・・そうだな。
『勘違いしてる人が多いんですがね?
重要なのは理解しようと努力すること
ではありません』
「どういうことだ・・・ですか?」
私まで理解する努力を諦めたら、コイツは
一人で壊れてるだろうがっ!
『あぁ、織斑さんもいつもどおりの口調で
構いませんよ?調べればわかりますが、
私も貴女方と同年代ですからね』

「な、なんだと?!」
明らかに年上だろう?!
「ちーちゃん、ほんとだよ」
た、束が言うならそうなんだろうが・・・
『理解できないモノはどうやったって
理解できないんです。雀と鷹は違う。
無理やり自分たちの常識で推し量ろうと
すると、束さんのように壊れることになる』
「・・・」
「なんだとっ!」
コイツが壊れたのは私たちのせい
だとでも言う気か!
『いや、どう考えても束さんを
義務教育の小学校や中学校に
入れるのはおかしいでしょ?
海外なら最低でも飛び級で大学
入って研究室貰ってますよ?』

「・・・」
『大学生が小学校に居て、周りに合わせなさい！なんて言われたらそりゃ壊れますよ』
「・・・」
それはそうだろうな。正確には大学生以上の頭脳を持った束だ。
相当辛かったのかもしれん。
『つまりは無理やり常識の檻に閉じ込めるのではなく、いっそ放逐・・・とは少し違いますが、解き放つことが必要だったんですよ』
常識の檻から解き放つ、か。
確かに束にとって周囲の環境は、自らを閉じ込める檻でしかなかったと言われれば、納得出来るところもある。
私のおせっかいは本当にタダの・・・

『今までは織斑さんが居たから致命的な
問題は起こりませんでしたけどね。
それだって・・・いや、別にお説教される
為にこちらに電話をかけたわけじゃないで
しょうから、この話題はもう良いですね』
ん？何を言いかけた？私は束に何か
してやれていたのか？
「それはそうだね。束さんとしては
束さん個人の理解云々より、宇宙開発
事業に本気で取り組む気が有るのか
無いのかの確認がしたかっただけだし」
あ、あぁ、そうだったな。本題はソレだ。
もしも本気で宇宙開発に取り組むなら、
コイツらは束が初めて見つけた本当の同士。
あわよくば就職して一緒に夢を叶えたいと
思ったからこそ、こうして電話をしてる
んだろうしな。

『本気の度合いの確認ですか?ふむ。
当社には30年後を目指した計画がありますが、流石に社外秘ですので見せるわけには行きませんねぇ。
しかしそうなると我々の本気をどうやって証明したモノか・・・』
30年?!それが本当なら宇宙開発は間違いなく本気だな。
「こっちがいくらハッキングしてもそんな計画は出てこなかったんだよ。
重要情報はスタンドアローンで管理してるのかな?」
ハッキングってそんな正直に・・・
いや、ここは正直に言う方が信頼関係を築けるか?
『当然ですよね?エシュロンだのなんだのとハッキングシステムは

いくらでもあります。
自作のファイヤウォールを作っても
いずれは突破されますからね。
ならば初めからどこからも接触
出来ないようにしたら良いだけです』
むぅ・・・よくわからんが鉄の金庫を
作るのではなく別の場所に置いてると
いう事なんだろうな。
「情報管理もできてるし、未来の
構想もある・・・少なくとも今の束さん
よりは１０歩進んでることは認めるよ」
「そうだな、技術力では負けない
だろうがその運用能力が違いすぎる」
間違いない。コイツは束とは別種の天才だ。
『いや、貴女の１０歩前とか、それじゃ
後ろに進んでますよね?それも全力で』
「え?」

「ん？」
　どういうことだ？
『いや、さっき自分で起こした事件忘れてません？』
「あっ！」
　まずい！ミサイルの撃墜とか航空機
との戦闘だとかは明らかに戦闘行為！
このままだと、この技術が軍事力として
利用される！そうなれば宇宙開発など！
「どどど、どうしよう！リー君！」
　おぉとうとう束がコイツを認めたか！
い、いや、そんなことを言ってる
場合じゃないな！
『リー君って。間違いではありませんけど』
「落ち着き過ぎじゃないかな?!」
『結局は他人事ですから』
　確かにそうだが！
『とりあえずこのまま日本に居たら

妹さんとか周囲を人質に取られて
アレを量産するよう圧力が掛りますよね』
そ、そうだな。アレだけの性能を
持つ兵器だ。国家としては当然
量産させようとするだろう！
「誰だろうが箒ちゃんにナニカシタラ
絶対にゆ〃　る〃　さ〃　ん〃　！」
「そ、それはどうやって
発音してるんだ?!」
気持ちはわかるが落ち着け！
『んー?人質は無事だから意味が有る
んですよ?織斑さんの弟さんとかもね』
な、なんだと?!
「誰だろうと一夏にナニカシタラ
絶対に　ゆ〃　る〃　さ〃　ん〃　!!」
『あんたも出来るじゃねーか』
落ち着く?出来るわけないだろ！

ーーーーーーーーーーーーーー

まったく性格が悪い。流石我が師。
『そ、それで、どうすれば良いのかな?!』
死ねば良いんですよ。
このクソ兎。さっきドサクサに紛れて
師をリー君とか呼びましたよね?
それだけで万死に値します。
「暫くは政府の言いなりになって量産するしかないでしょうね」
実際周囲の人間のことを考えれば簡単には
亡命とか国外逃亡とかはできませんよね
『そんな?!』
「落ち着いて考えましょう。貴女がコアを
量産してくれればコッチに特許使用料が
入ってきます。つまり私はウハウハです」
『『お前最悪だな!』』

何を今更・・・師が善人なわけ無いでしょう

「不労所得って・・・素敵やん?」

『君、東さんより日本の文化詳しくない?!』

師は日本のネタ好きですからねぇ。

いや、確かにＨＥＮＴＡＩ国家と言われるだけのことはありますよ。

野菜の品種改良一つ取っても、我が国とは深さが違いますから。

「冗談はさておき、特許使用料が入れば、それだけコッチは社員の福利厚生に回せます」

優秀な人材を囲うならそれなりの出費が必要ですからねぇ。

『あぁ!つまり間接的にリー君のお仕事の役に立つ。東さんも宇宙開発に関係出来るってことだね!』

この兎、またリー君って言いやがった!

「そうですね。あ、なんなら日本支部で

織斑さんを雇いましょうか？」

『なんだと?!』

いきなり自分の話題になってビックリしてますね。自分だって重要人物なのに。

確か彼女は幼い弟を抱えての二人暮らし。

基本は生活費を稼ぐアルバイト三昧でしたか。

「ウチが篠ノ之さんの技術に対する特許を持ってることは調べればわかります。

それに日本政府としても織斑さんと篠ノ之さんの繋がりはすぐに把握するでしょう。

そうなると織斑さんも無関係とはいきません」

そんな状況なら織斑千冬を抱え込もうとする行為に違和感は無い。むしろ当たり前です。

『・・・そうだね』

『・・・確かに』

「ご家族の関係上、逃げることができない

なら、より良い環境を目指すべきです」
より良い環境、ですか。
確かに嘘ではありませんね
『その「より良い環境」が冬林技研だと？』
「日本政府の奴隷よりは良くないですか？
少なくともウチは「お国の為に」とか
言って人質を取ったりしませんよ？」
流石我が師、上手いこと言いますね。
まだ確定ではありませんが、そのような
行動を取ってくる可能性は非常に高い。
それにここで織斑千冬を押さえれば
いずれは篠ノ之束も手に入ります。
「住む場所も、冬林技研の社員寮を
用意しましょう。敷地内なら日本の
役人も不法侵入で追い出せますしね。
貴女が留守の時も弟さんを守れますよ」
『・・・なるほど、一夏に対する不当な

接触も抑えることができるわけか』
「えぇ。もし貴女が普通に学校に通いながら
アルバイトとかしてたら、貴女の不在時に
どうなるかわかりませんからね」
こちらが中国の企業だからこそできる
ことですよね。
政府には「篠ノ之束の関係者を抑えている」
とでも言っておけば補助金すら出そうです。
『む、むぅ・・・』
考えてますねぇ。引越しとか弟君の
転校とか安全を考えてます?
と言うか現状認識するの遅すぎませんか?
「そしておそらくですが篠ノ之さんの
ご家族は政府の保護プログラムで
離散することになるでしょう」
保護兼人質ですよね。
『え?箒ちゃんとお別れすることになるの?!』

「・・・この場合は他国に拐われる
よりマシと考えるべきでしょうね」
少なくとも我が国に拐われた場合
マトモな人権は無いでしょうねぇ。
ソレこそ「生きてさえいれば良い」
を地で行く連中ですから。
『あーうー!!』
自業自得でしょう。妹には罪はありませんが
兎は悩んで胃に穴を開けてしまえ。
「一応貴女もウチで雇うというのも
考えていたんですけどね?」
『あ!じゃあソレで!』
この反応の早さ。こいつ、
この言葉を待っていたな?
だが甘い。
「いやぁ流石にあんなデモンストレーション
したら問答無用でテロリストじゃないですか。

そんなの雇い入れたらウチが全世界に
潰されちゃいますよ」
全世界のミサイルハッキングって
やり過ぎでしょう。程度ってものを
知らないんですかね?
『あうちっ!』
『ま、待て!アレが束の仕業だとバレているのか?!』
は?この阿呆は何を言ってるんですかねぇ?
「あんなタイミングで白騎士（笑）さんが
現れて、その後で堂々と天才発言したらね」
『『ぐはっ!!』』
完璧にバレバレですよ。
「そんなわけで篠ノ之さんはどうしても
政府預かりになってしまいます」
不発弾の管理みたいな感じですよね
『じゃ、じゃあこの際日本のお金で資材集めて
沢山造ったほうが良いのかな?そしたら

そっちにもお金入るんだよね！』
ふむ。ここが微妙なところなんですよねぇ
「うーん。私としてはあまり量産はしない方が良いと思いますよ？」
『なんで？』
「希少価値という意味も有りますが、現状
だと対抗出来る兵器が少ないですからね」
まったく無いわけではありませんが
コストを考えれば【現状】では少ないですねぇ。
『それだと駄目なの？』
これだから技術者は・・・
「下手に量産すると戦争が起きますから」
『あぁーそっかー』
『せ、戦争?!』
少し考えればわかるでしょうに。
いや、それがわからないのが技術者
という名の変態なんですけどね。
織斑に至っては完全にそこまで考えて

ませんでしたね？
いくら素質があっても所詮は14か15の子供ですから仕方のない話ではあります。
「国連辺りも干渉して来るでしょうね。何だかんだ理由をつけて一ヶ月に1個の生産くらいで良いと思いますよ？」
実際一人で戦闘機を造れって言われてるようなモノですからね。
コイツが馬鹿やらない限りはその程度のペースでも文句は出ないでしょう。
『なるほど。ソレで時間を稼いで箒ちゃんやいっくんを守れるような何かを造れば・・・』
そういう事ですね。人質の意味が無くなればあとは自由にやれば良いのです。
「人質が居なくなって自由になれたとしてもテロリストとしての評価はどうしようもないんで、表だって雇うことは出来ないん

ですけどね」
司法取引は国とやる事案ですからね。
更に軍閥が関わるので私達も無理を通すのは面倒なんですよねぇ。
『あうちっ!?』
『わ、私はどうなる?!』
『ち、ちーちゃん?!』
あ、兎を切り捨てましたね。
いやはや女の友情とは儚いモノです。
「白騎士さん（笑）は美少女戦士並に正体不明ですからね。知らぬ存ぜぬで良いでしょう」
『ぐはっ！』
『ぷっ美少女戦士（）』
『も、もとはと言えば貴様がっ！』
おーおー戦ってる戦ってる。
確かに織斑千冬の存在も確実にバレてはいますけど、証拠はありませんからね。

暫くはテストパイロットとしてウチで
何食わぬ顔して働けば良いのですよ。

いずれ帰属は日本になるでしょうけど、
それまではウチで馬車馬のように働いて
貰うとしましょうか。

第3話

「は？いや、ソレってウチら関係無いです
よね？そもそも関わるなって言われてますし、
えぇそうです国軍の技術廠に言って下さい」
ふむ、また軍部か政府からの無茶振りです
かね？何だかんだで師も楽しんでますから
邪魔はしませんが、相手の担当者は
もう少し師に対する敬意が必要ですよね。
・・・さて、履歴を調べて担当者を確認
しますか。
「あぁ、アレですか。けどアレって
特に拘る必要有りますか？それに確か
繋がりがある代表候補生が居るのでは？」
む、代表候補生が絡む事案だと？
「はぁ、いや、確かにウチも繋がりは

有りますが、あくまで姉です。アレに関してはノータッチですよ？」
我々と繋がりがある姉とアレですか。
つまり話題は男性操縦者の一人、織斑一夏。
何やら面倒事の臭いがしますね。
とりあえずこの担当者は尋問確定です。
「はぁ？本気ですか？」
師が本気で呆れてる？コレはまた珍しい。
「いや、確かに技術大佐って階級はありますが軍関係に関わるなって言ってきたのはソチラですよね？」
そうですね。ＩＳが兵器である以上、民間人に運用を任せるわけにはいかないと言う事で、我々にも技術大佐だの技術少佐だのと言った役職はつけられました。
私たちが所持してるコアは元々国から与えられたモノでも有りませんし、政府も流石に私たちから

強奪は出来ませんからね。
そう言った形で我々を取り込んだだけの筈が、
今さら役職を押してきた?
「はぁ、しかしアレは使い手と作り手が
未熟だったと言うだけの話ですよね」
役職をどうこう言うと言うことは、ソレに
伴う責任と権利が発生します。
軍はそう言うのには煩いですからね。
責任だけ押し付けるような行為は自らの
首を締める行為となりますから中々
出来ません。それに相手は師ですからね。
敵に回すような事はしないでしょう。
「いや、今さらですか?別にアレで勝った
からって何も得にはなりませんよね?
むしろ最新技術は隠すべきでは?」
つまり師に何らかの仕事をさせる為に、
技術大佐としての権利を与える?

さらにそれは代表候補生絡み？
ついでに織斑一夏が関わる？
それにアレとか勝つとか・・・
さ、私はご飯の仕度でもしましょうかね。
今日のご飯は師が好きな八宝菜ですよー。
「はい、一応本人には伝えておきますけど
技術少佐とか辞めると言うと思いますよ？」
やっぱり私かっ！腐れ担当者め、私に
言えば絶対問題になると思って師に
泣きつきやがった！
師は気難しいように見えて【面白い】
と思えば何でも有りだから、ある意味
説得しやすいからなっ！
技術廠の連中、一体私に何をさせる気だ?!

「そんなワケで、日本に出張だ」
「もう決定事項ですか」
伝えてみるとは一体何だったのか・・・
「出張と言っても日本支部での生活だから
大してやることは変わらんよ・・・俺は」
「俺はって。私は向こうで何をするんです?」
この時期にわざわざ日本に行くんですから
やることはわかってますけどね。
「既にお察しの通り、ＩＳ学園だ」
「そうですかそうですか」
やっぱりそうですか。師も日本に行くなら
別に良いんですけどね。ただ担当者と担当部署
には地獄を見てもらいましょう。
具体的には予算の削減。異動も退職も許さん。
私たちに仕事をさせるくらいなら連中に
やる給料など無い。
全部コッチで使ってやりますよ。

「軍としては織斑一夏の情報が欲しいとのことだが、それに関しては既に十分な量が有るから特に何もしなくて良いぞ」

ですよねぇ。日本支部で姉と二人暮らしさせてましたから、普通に髪とか有るし姉がモンドグロッソで優勝した後は、自家発電したときの残骸からＤＮＡの塊を回収してますし。

黒髪の姉と巨乳モノが趣味でしたっけ？

兎も一緒になってやってましたよね。

黒髪巨乳は良いけど幼馴染みを忘れるな。

とか言って近所の住人に幼馴染みモノを渡すように指示してましたっけ。

兎としてはアレを悪用させないために管理するという大義名分も有ったようですけど。

「それじゃ何しに行くんです？」

軍の命令は完璧な形でクリアしてるなら連中の予算を奪うだけでしょ？私がＩＳ学園

に入る必要無くないですか?

「仕事としては内部監査と人材の確保だな」

「内部監査はまだしも、人材の確保、ですか?」

正直な話、私と師と・・・兎が居れば

宇宙開発も特に問題無いですし、先進国に

蔓延する女尊男卑の風潮のお陰で優秀な

人材はいくらでも拾い放題なんですけど。

「いくらか目を付けてるのが居る。それに

暫くは彼処が物語の中心になりそうだからな。

介入する為の伝手はあって困るもんじゃ

ないだろ?」

「物語の中心ですか?」

まぁ女しか使えない筈のＩＳをいきなり

男が使えるようになりましたからね。

そりゃ世間の注目も集めますか。

「別に男が使えようが使えまいが、

絶対数が決まってるから乗り手が

増えるだけの話なんだがな」

「そうですね。乗り手が女だろうが男だろうが、整備や開発に男女は関係有りません」

むしろ女だけに拘ってるから連中の開発は恐ろしく遅いんですよね。

いきなり理系だとか兵器開発・兵器運用が出来る筈もなく、しかも乗り手が年頃の小娘だから、気分で調整が変わります。

ウチなんかだとトップダウンで一言「やれ」で済む話ですら、わざわざ時間かけて機嫌取ってからじゃないと出来ないって。

更に良い結果が出なければ臍を曲げて、似たような実験には散々文句を垂れて、最終的には技術者を脅すか殺すまでが一連の流れ。

トライ&エラーのトライも出来ないしエラーで殺される環境はねぇ。

そりゃ人材も流出しますよ。
「しかしＩＳ学園に居る人材だと引き抜きも難しいんじゃないですか？」
基本は各勢力に所属してますしね。
候補生じゃない小娘どもだって一応日本所属ですし。
「建前上あの学園は国や勢力の干渉を受けない事になってるだろ」
「あぁ、確かに」
所属は日本ですが応用は利きますもんね。
実際生徒会長はロシアの国家代表です。
建前や法は有効に使うために有りますから普通に技術者の引き抜きは可能ですか。
「理解したところで、コレがリストだ。最優先がコイツ。コイツを引き抜ければ後は遊んでて良いな」
「なるほど・・・コレなら難しくは

ありませんね。問題は既に他の連中が関わってる場合ですか」
コレだけの好条件なら誰だって目を付けますからね。
「その時はその時で構わんさ。内部監査だけしてれば良い」
「対象は【天才】ですか」
わずか一年足らずで代表候補生の地位を勝ち取ったと言いますが・・・明らかに織斑姉弟との繋がりが評価を底上げしてますよね。
「【鬼才】には足りんが、まぁ軍としてはどっちかが上手く行けば良いし、お前を俺から引き離す為の策でもある」
あぁ。軍にも女尊男卑の勢力が居ますからね。
連中は師が連中の言うことを聞かないのは私が居るからだと勘違いしてますし。

「幼い頃から洗脳教育してた」と言いますが
元々教育なんて多かれ少なかれ洗脳行為
ではありませんか。
連中の腐りきった思想なんか要りません。
そーゆーのは織斑千冬にくれてやれば
良いのです。
「引き離したところで連中の手駒に
なると思ってるんですかね？」
開放したとか言って恩を着せる気
でしょうか？
「思ってるんだろ。そんな連中が幅を
利かせつつあるのが今の軍部だ」
「つまり、師は連中の標的であり
男性の守護者ですか？」
黒幕のはずが妙に目立ってますよ。
まぁ表立っては裏表のない良いヒトで、
「実は影の総裁だった！」なんてのは

良くあるお話です。
しっかり良い人っぽい悪役をして
もらいましょう。
「連中が騒げば騒ぐほど俺の元に
人材が集まるという謎仕様ってな。
まぁ予算もあるから抱え込む分には
問題ない」
元々潤沢な予算でしたが、それに加えて
上層部の連中も知り合いの保護を求め
たりして来ますからね。
予算と権力の両立が出来てますが、
師を排除したらヒステリックな女共が
騒いで自分の首を絞めるという
どっちに転んでも地獄状態。
普通に会話できて、権力欲が薄くて
利益も配分してくれる師の方がマシ
だって感じなんですよねぇ。

良識の有る女性や結婚を控えてる
女性も旦那や彼氏を守るために
コッチに来ますし。
人材と予算が集まるから更に陣営が
強化されると言う雪だるま方式。
やっぱり阿呆が馬鹿やってくれると
師にはプラスに働きますね。
最終的にはそういう風になるよう
段取りを組んだ師が凄いのですが。
「あとは国外の技術水準も見てみたい。
全体的にはアレだが、部分的なモノに
関しては見るべきモノがあるかも
知れんしな」
「有りますかね?まぁ無いとは
言い切れませんけど・・・」
「実際の成果は微妙でも、
発想だけでも十分な収穫になる。

無駄を知り見識を広めることにも
なるから損だけではないさ」
最終的には私の見識を広める為ですか
・・・まったく、この人は。
もう少し自分を大事にしてくれても
良いと思うんですけどねぇ。
「それに目標はクリアしてるんだ。気楽に
婚前旅行に行くにはちょうど良いだろ」
「こっ・・・そ、そうですね！」
い、今、婚前旅行と言いましたか！
確かに言いましたね！
ええ絶対言いましたよ！
そう言われて見れば日本は先進国の
中でも清潔ですし、食べ物も
美味しいですからね！
我が国では立場や柵も有りますから、
なかなか自由には行きませんが

たまには羽目を外すのも良いでしょう！
ふふふ、担当者連中の予算は
9割カットの予定でしたが、8割で
勘弁してやりますよ！

ーーーーーーーーーーーーーーーー

「久しぶりですね中将」
まぁ8割カットで許すのは予算だけ。
他に関してはきっちりと精算させて
頂きましょう。
私と師に手を出せばどうなるか、連中が
忘れたというなら思い出させてやります
『はっ！お久しぶりです！』
「ここは「少佐の態度では無いぞ！」
と叱りつけるところでは？」
と言うか少佐に敬礼する中将という

のも微妙ですよね。
『ご冗談を。陛・・・閣下に対して
そのような言動をする者はこの国
には教頭殿を除いておりません！』
「ふむ。貴女は私の母なのですから、
そのくらいは教育の一環と思うのですが」
実際普通の子供なら歪みますよ？
『閣下の母となれたことは司馬家当主
として最高の名誉であると自認して
おります！
ですが閣下の教育に関しては教頭殿に
一任しておりますので、私如きが母親面
して口を挟むつもりはございません！』
まぁそれもそうですね。そのおかげで
やりたい放題出来てますし。
この辺は姉上や子供達がきちんと
師や私のことを言い残していたから

こそなんでしょうけどね。
コイツの態度は変わらないか。
ならやはりアノ命令はおかしい。
「それは重畳、では今回の私に
対する命令はどういう事だ？」
師から見れば人材の発掘や他国の
情報を国の予算で確認できる上に
こ、婚前旅行も出来るから良い
ということですが、それはあくまで
私を納得させる後付けの理由です。
そもそものきっかけであるＩＳ学園
への出向はどういうつもりなのか。
出立の前に確認せねばなりません。
『え？め、命令ですか？』
「貴女が私に対する命令を知らない？
どういうことです？怠慢だと言うなら
永遠に休ませてあげますが？」

どういうことだ?一応技研の所長は
コイツなのにコレが知らない?
となれば、一体どう言った経緯で
私に命令が出た?
『も、申し訳ございません!至急
確認させていただきます!』
「えぇ、裏取りは任せます。ちなみに
任務の内容はＩＳ学園への出向です」
『はぁ?!閣下が国外に出向?!』
「声が大きい」
『し、失礼しました!直ちに
担当者を尋問します!』
「ですねコレが師との会話履歴です。
内容を纏めて明日の１６：００まで
に報告なさい」
『はっ!』
・・・普通はこうなりますよねぇ

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「先輩、今回はお疲れ様でした」
「あぁ、山田君にも苦労をかけたな」
まったく、タダでさえ世界初の男性操縦者が見つかって現場は混乱しているというのに、よりにもよってソレがウチの一夏だとは。
正直言って、ＩＳ学園などより冬林技研で保護してもらった方がアイツの為では有ったんだが・・・今回は日本政府の動きが早かったな。
「セシリアさんも角が取れたように大人しくなりましたしね。
これでクラス対抗戦までには弟さんもしっかり訓練できます」
「そうだな。ＩＳを理論的に教えるなら

代表候補生にまでなったオルコットが
居れば問題ない。
アイツもソコソコの腕にはなるだろう」
教科書を捨てた等と言った時は
危うく教頭の命奪崩壊拳（劣化）を放つ
ところだったが・・・
まぁ最低限のことは中学時代に技研の
バイトで学んでたから大丈夫だろうが、
実際に使うとなると色々と勝手が
違うからなぁ。
「代表候補生と言えば、これからも
大変そうですよね・・・」
「あぁ、中国とドイツとフランスが
何か画策してるようだったな」
特にフランスはなぁ・・・奴ら
一体何を考えてるんだ？
「直近は中国からの候補生ですね」

「凰鈴音だったな。アレならまだマシだ」
「お知り合いですか？」
「昔、数年間近所に住んでてな」
技研の社員寮に移った後も学区は
同じだったから転校も無かったし。
あいつも友人と離れずに済んで
良かったと思ったものだ。
実際はその辺をあの人たちが調整
してくれてたんだろうがな。
しかしアレも一夏に惚れてたから、
箒やオルコットとひと悶着あるだろうなぁ。
また寮の壁とかドアを壊さないように
最初にしっかり言い聞かせよう。
「へぇ。じゃあもう1人の人も
お知り合いですかね？」
「もう1人？代表候補生が2人も
来るのか？」

さすがに聞いてないぞ。連絡ミスか？

「もう1人は代表候補生ではく
技術士官だそうですよ？
年齢は同い年ですけど、多分
凰さんの機体の調整とかをする
んじゃないですかね」

「なるほど」

技術士官か。確かに最新型を候補生に
持たせても、メンテナンスや各種情報の
フィードバックには専門家が必要だしな。
更に中国のような国では喩え中立を謳って
いるとはいえ、日本にあるＩＳ学園の
関係者に自国の最新鋭機を弄らせたくは
ないだろう。
若手の経験にもなるから、そういう
機会を逃したくないのも分かる。
だが知り合いというのはなんだ？

「なんでもその人って冬林技研所属の
人らしいですよ?」
「ほう」
そういうことか。確かに政府からの要請で
倉持に招聘されるまでは冬林技研の日本支部
所属だったが・・・
「多分知り合いではないな。基本的に
日本支部の職員は中国本部の連中とは
絡むことがなかったんだ」
「へぇーそうなんですか?」
言葉や意識の壁もあったが、本部では
武装やら何やらの研究もしてたからな。
国外の従業員は基本的に日本支部で
宇宙開発関連の仕事に専念してたんだよ。
デブリ除去や燃料切れの人工衛星の
分解にＩＳも使ってたが、それよりも
人工衛星の打ち上げに成功したり、

探査機のアマツバメが小惑星に到達したときは思わず涙したものだ。
アレに間接的にとはいえ、少しでも関われたことは私に取っても宝だよ。
束も泣いて喜んでたしなぁ。
「私も名前を聞いただけですから中国本部の人か日本支部所属の人かまでは聞いてませんでした」
あぁ、今は技術士官の話だったな。
「ま、それが普通だよ」
自分の受け持つ生徒ならまだしも他のクラスの生徒のだし、しかも他所の国の組織の内情なんて普通はわからないからな。
「ですよねー。司馬さんなんて日本にもいますしねー」

（ ☒―☒ ）

「せ、先輩。近年稀に見る真顔？
（っていうか阿呆面？）ですね」
い、いまコイツ何て言った？
「と、冬林技研の技術士官で、
高校1年の司馬だと?!」
別人だよな？いや、あり得んだろ？
「え、えぇ、司馬さんです。漢字も
アノ晋の司馬懿と一緒らしいですよ」

（　☒―☒　）

「せ、せんぱーい?!」

第4話

ゴクリと生唾を飲み込む音が静寂の
中で響き渡る。
いや、実際には響いたりはしていない
・・・はずだ。
普段は緊張とは無縁と言われてるし
代表候補生を決める試合でも緊張
なんてしたことはない。
だけど今は別。
・・・冬林技研
司馬家が起業した、ＩＳやＩＳに使われている
技術を利用して宇宙開発事業を行う
会社であり、幼馴染であり想い人でも
ある織斑一夏の姉である織斑千冬が、
あの世界最強のブリュンヒルデが、

遅刻した際普通に頭を下げて出勤し
上司に説教喰らうような会社である。
コレだけでも胃が痛いのに、問題は
今回の呼び出しの内容だ。
代表候補生として日本に行くことに
なった自分の機体調整役兼お目付け役が
まさかの司馬家の鬼才、司馬仲達
その人だと言うではないか。
中国人なら誰もがその名を知る。いや
世界でも知らないモノはまともな教育
を受けていないか、そもそも教育前の
子供くらいだろう。
もちろんソレは歴史上の人物の話で
あって、自分のお目付け役がその
ご本人様というわけではない。
ただ、漢の時代から続く名門中の名門
司馬家の総本家の人間全員が、彼女に

その伝説とも言える名の継承を認めたと言う事実が恐ろしい。

「司馬家の歴史は中華の歴史である」とさえ言われる名門。その権益を巡る争いは「骨肉の争い」では済まない程だろうし、その澱みもまた自分が想像も出来ないようなモノなのだ。

そんな家であるにも関わらず、現当主を差し置いて満場一致で伝説の始祖の名を継ぐと言う事がどれだけのことか。

ただでさえ司馬家の総本家のお姫様。日本人にすれば天皇陛下のご息女に呼ばれたようなものだ。

しかも司馬家には２０００年の間蓄積された財力も権力も武力もある。

当然ＩＳもある。なんといっても世界最強

がテストパイロットをしていた企業だ。
それが何でしがない中華料理屋の娘の
お目付け役になるのか・・・
普段は強気な母親もオロオロして
「失礼がないように！」を繰り返す
機械のようになっていたが、その
気持ちは凄く良くわかる。
生粋の中国人である母にしてみれば
司馬家の総本家のお姫様など現人神
そのもの。
無礼があったらそのまま殺される。
いや、殺されるだけならマシと
言われるような目に遭うだろう。
それも家族親族遡って、一族全員。
彼らにはソレをやるだけの力
があるのだから。
・・・あぁ、自分はただ日本に

居る想い人に会いたかっただけ
なんだけどなぁ。
何でこんなことになったのか・・・

ーーーーーーーーーーーーーーー

「つまりは兎ですか・・・」
『はっ！裏で糸を引いていました。
担当者たちは兎の関与も知らずに
踊っていただけのようです！』
あのクソ兎。私と師を引き離して
既成事実を作り、自分が正妻の座に
納まる気でしたね？
で、師は兎の関与を読み取り
逆に連中から予算や権限を搾り取る
策とし、ついでに私との婚前旅行
にまで利用したと・・・。
流石我が師ですね！

「とりあえず無能な担当部署に回す
予算はありません。技研に回す必要も
ありませんから・・・今回は諜報部の
福利厚生に充てなさい」
『はっ！』
日本の歴史とか見れば分かりますが
ニンジャに対しての報酬をケチった
組織は情報弱者となります。
人である以上、仕事をこなしたら
褒めて報酬もきちんと支払うべき
でしょうに。
職に貴賤はありません。
彼らは職務上、表立って名誉が
得られないのですから、せめて
報酬で支払うべきです。
私たちが諜報を重宝していると
・・・なかなかの弟子冗談ですね。

今度師に教えてあげましょう。
『閣下?』
お、いけませんね。今は電話中でした。
「いえ、少し我が国の諜報について
考えておりまして・・・」
『あぁ、なるほど。閣下が使っていた
張燕様のような達人ともなると中々数を
揃えることができませんから・・・』
張燕様、ねぇ。確かにそこそこ役には立って
いましたけど、アレって達人ですか?
唯の賊面だったような気がしますけど。
まぁいいや(ー)
「この情報化社会では、諜報はどうしても
兎のような技術力重視となってしまいます。
ですが所詮その技術を使うのも人だと
言うことを忘れないように」
『はっ!』

ＩＳ搭乗者とて起動前ならば銃弾一発で殺せますからね。
油断慢心ダメ絶対の理を忘れてはいけません。
「今回に関しては師が既に対処済みですから、貴女方を罰するつもりはありません」
『ありがとうございます！』
「こんなつまらないところで死んでは私や師の創る世界が見れませんからね。ただ今後は、師の手を煩わせることが無いようしっかり手綱を握るように」
『はっ！かしこまりました！』
まったくあの兎め。
確かに織斑千冬のように万年乙女では哀れと思い、師の寵愛を受けることを認めましたが・・・所詮は兎。

性欲と独占欲が強くて困る。
師は独り占めできるような方では
無いと何故わからんのか・・・
「少佐！鳳准尉が到着しました！」
あぁ、そう言えば呼んでましたね。
ふむ、まだ時間には余裕がありますが、
流石は日本で教育を受けただけの
ことはあります。
時間を無駄にしないのは良い事です。

「良く来ました鳳准尉。自己紹介は必要ですか？」
「け、結構です！司馬様のご高名は存じ上げておりますので！」
う、うわぁ。ホンモノだよ！オーラが違う！
てゆーか、今のしゃべり方で大丈夫?!
教官役の人が遺書とか書いてましたけど、
問答無用で無礼討ちとかしませんよね?!

「ふむ。貴女の立場を考えれば慣れない話し方なのは仕方ありませんね。最低限の礼儀を守れば不敬扱いでの断罪は行わないと約束しますので、気を楽にしてくれても良いですよ？」

「あ、ありがとうございます！」

いや、貴女の最低限と私の最低限って絶対に違いますよね?!

しかも断罪って・・・いや、そもそも不敬以外はあるんですよね?!

「お互い軍人としての立場が有りますがＩＳ学園が国家権力による干渉を受けないというお題目を掲げている以上、学園内部での不敬や上官命令に対する不服従は罪には問われません」

「学園内部では、ですよね？」

「当然です。貴女に貸し出されるＩＳは国家の

所有物。代表候補生としてソレを使う以上、貴女の言動には国家としての意思が反映されていると見なされます。
故に貴女の言動はチェックされますし、その内容によって卒業後の貴女の待遇も変わります。コレはわかりますね？」
「はい！」
ま、まぁ当たり前の話よね。部品交換やら弾薬の補充やらは国家の予算で行われるモノだし、ＩＳコアも装備も全部国の財産だもんね。
それなのに国なんか関係無い！なんて言ったらコアを没収されて、身柄は拘束されるわよ！
「ちなみに先日ＩＳ学園において、イギリスの代表候補生と日本の男性操縦者がこのような口論をし、決闘騒ぎにまで発展したそうです。コレがその映像資料です」

「「・・・」」

いやいやいや、何してんの一夏！アイツ馬鹿じゃない?!しかもイギリスの候補生は何を考えてるの?普通に国際問題よね?!

「ツッコミどころは多々有りますが、まずイギリスの螺旋頭です」

「ら、螺旋頭ですか」

この人って意外と冗談とかわかる人なのかしら?

「ええ、そもそもの癇癪の原因である推薦ですが、自薦他薦問わずと言っているのですから、さっさと自薦すれば良いのにソレをしませんでした」

「確かにそうですね」
「他の連中が自分を推薦するという確信が有ったのでしょう。ですが、普通に考えればイギリスの代表候補生よりも世界に一人しかいない男性操縦者の方が希少です。学園としても、少しでもデータを録るためにも男性操縦者にクラス代表をさせようとするのが当然でしょう」
「そうですね。学園だけでなくＩＳ委員会でもそう考えているのでは無いでしょうか？」
つまり、完全にピエロよね。
「その通り。しかもこの螺旋頭、織斑千冬の目の前で日本を文化後進国扱いし、日本人を東洋の猿扱いしています」
「織斑千冬も篠ノ之束も日本人ですし、更にモンドグロッソで優勝してます。ＩＳに関しては名実共に間違いなく先進国ですよね？」

ほんと、馬鹿じゃない？千冬さん個人に挑戦するために喧嘩を売るって言うならまだしも、いや、ソレもアレだけど、まぁ気概としてはわからないでもない。
だけど、この言い方だと日本に対してイギリスが国として挑発してるじゃない。
コイツはＩＳを学ぶためにＩＳ学園に行ったんじゃ無かったの？最新技術と理論が有る日本は技術先進国でしょ？
文化についても、ウチやらインドやらエジプトに比べたら後進かも知れないけど、イギリスにどうこう言われるレベルでは無いわよね？
それに、東洋の猿に負けた他のＩＳ乗りやそんなＩＳしか造れなかった関係者は何だって言うのよ？
ＩＳ関係者全員に喧嘩を売ってるじゃない。
「その通り。あまりにも現実が見えていません。更に決闘とか言い出してます」

「はい。ＩＳは彼女個人のモノではありませんから、もし決闘をするとなれば生身での決闘をしなくてはいけませんよね？」

コイツの気分で弾薬やら部品やら浪費することになるわ。

「そうですね。一応補足するなら今回の件に関しては、男性操縦者が扱うＩＳとの戦闘データを間近で録れましたから、イギリス本国としても丸損では有りませんでしたね」

「あぁ、確かに。双方で貴重なデータが録れたと言うことですよね」

うん。それなら一概に税金の無駄遣いとは言い切れない、か。

「それはそうですが、あくまで結果論です。ついでに言えば、我々は一元も使うことなく情報を獲得していますよ？」

「あっ！そうですね！」

そう言えばそうだわ！つまりアイツらは
税金を使って私たちに軍事機密を公開
したってことになるわ！
「わかりますか？つまりは、こう言った無駄な
行為を控えるようにしてくださいと言いたい
のですよ。これはお願いではなく命令であり
警告です」
「は、はい！」
周囲に悪影響を与えて、更に税金まで使って
他所が得するような事をしてたら・・・
そりゃ無能の烙印を押されるわよね。
「更に法律上の問題も有ります」
「ほ、法律上ですか？」
なんかややこしい話があるのね。
「知っての通り、ＩＳ学園に置ける基本的な
法は国際法と日本の法律です。所属する
国が違う場合は互いの国の法律を踏まえた上で、

国際法による判断が行われます」

「は、はい。そうですね」

日本の領土だし、国際法でカバー出来ないような細かいところは日本の法律よね。

後は文化や宗教の違いによる擦り合わせも有るから、問題が起こると外務省と法務省が凄く忙しくなるのよね。

「それでいくと日本の法律上では、決闘は違法行為です」

「えっ?!犯罪なんですか?!」

知らなかった!犯罪は知らなかったじゃ済まないから、コレは気を付けないと!

「ええ。決闘を申し込んだ者。決闘を受けた者。立会人を務めた者。場所を提供した者。観客となった者。決闘を知りながら黙認した者。それぞれが罪人となります」

かかわった人全員が有罪になるの?!
「分かりやすく言えば殺人か殺人未遂。
殺人教唆。傷害と傷害未遂。脅迫と恐喝。
それぞれの共犯です。使うモノによっては
銃刀法違反も付きますね」
「い、言われて見れば決闘ってそう言う
行為ですよね!」
負けた方が奴隷とか言ってるし、しかも
使うのがＩＳと言う兵器なら尚更・・・
「イギリスの法律でも決闘は違法行為ですね。
あの国の関係者の中では彼女の個人的な評価は
地に落ちてるでしょう。何せ国の威信を背負い
税金を使ってまで犯罪を犯したのです。
しかも個人の感情で兵器を振り回すと言う
最悪の犯罪行為です」
ありえないわ。私たちなら軍法会議?
いえ、司馬様に後ろから撃たれてるわね。

「普通なら強制送還の上で軍法会議を
すっ飛ばして実刑判決ですよね？」
だって現行犯だもの。別に代表候補生がコイツ
しか居ないわけでも無いだろうし、むしろ
コイツを引き摺り降ろしたい連中からすれば
格好の餌よね？
「普通ならそうです。コレがいまだに本国に
召還されてないのは、コレが実質負けて決闘
云々があやふやになったところを、
織斑千冬が決闘ではなく試合として
処理をしたからです。
それと、このお遊戯の結果偶然男性操縦者と
仲良くなったからですね」
「コイツが一夏と・・・」
戦ってお互いを認めたって感じ？
いや、だけどコレは無いでしょう。
それとも男性操縦者にはそれだけの

価値が有ると見なされてる？

「学園を卒業後、螺旋頭がどのような扱いを受けるかは・・・今後の成長や男性操縦者との関係次第でしょう。しかしながら、このお遊戯が確実に彼女の評価と未来に影を落とすことになるのは確実です」

「なるほど」

それはそうよね。

ＩＳを使い始めたばかりの素人相手に油断慢心で接近を許し、さらにこの近接戦闘の拙さ。未来どころか今の評価は確実にマイナス。しかも個人の感情で兵器を私物化したって評価はずっと付いて回るわ。

軍事も政治も「謝罪しました。はい終わり」なんて甘い世界じゃ無い。弱味を見せたら徹底的に喰われることになるんだから。

「ちなみに貴女には織斑一夏への接触の任務も

下されてますが、ソレは上手く行こうが失敗しようが貴女の立場には関係しません」

「え？」

いや失敗はともかく、上手く行けばそれは良い事じゃないの？

「貴女に命令を伝えた派閥の者は男性操縦者に一定の価値を認めてましたが、我々は特に価値を認めてませんからね」

「ど、どういうことですか?!」

ＩＳが男性にも使えたら今の女尊男卑の社会が覆るから、女権団体も男の政治家もアイツらを重視してるんじゃないの?!

「まず、普通に考えたらわかることだと思いますが、私が軍部の命令でＩＳ学園に出向するなど、本来は有り得ません」

「そ、それはそうですよね！」

普通にお姫様だからってのも有るけど、そもそも司馬様は大学を卒業してるし

冬林技研はＩＳを研究するなら世界最高の
環境だもん。
ＩＳ学園の学生みたいに一般の高等学校の
授業を受けながらＩＳを弄るような中途半端な
事をする必要が無いわ。
「命令系統に不備が有りましてね。担当者
と担当部署は物理的に地獄を見ています」
「・・・」
えっと、ソレは何と言いますか・・・
「つまり貴女に命令を出した、男性操縦者に
特別な価値を認めている連中は今はもう
居ないと思って下さい」
「は、はい！」
思うって言うか、もう居ませんよね?!
「別に我々が女尊男卑に染まっているわけでは
ありませんよ?実際、男が使えようが女が
使えようが、ＩＳの数は決まってますよね?」

「そ、そうですね！」
　下手な意見は要らないわ！まずお話を理解しないと・・・今、私はヤバイところに居る！
「今でさえ乗り手の数が過剰なのに、ここから増えても争いが激化するだけです」
「そうですね」
　今でさえ派閥だ女権だの色々あるのに、男まで絡んできたら・・・
「つまりは下手にアレに関わって、権益だの利害調整だのに時間と労力と予算を使うくらいなら、いっそ他に使うべきだと言うのが我々の意見なんです」
「な、なるほど！」
　予算を使っても手に入らない可能性もあるし、手に入れても厄介事が確定してるもんね。
　それならいっそ相手に渡してかき混ぜた方が良いって判断してるのか。

「それに冬林技研では男性が使える簡易的なＩＳ、
　ＡＣを開発し宇宙開発事業で使用しています」
「えっ？アレってＩＳだったんですか?!」
　普通に宇宙服としてデブリ除去とか、
　人工衛星の修理とか廃棄作業してましたよね！
「ええ。何をもってＩＳとするかの判断は微妙
　では有りますがね。
　簡易的とは言えＩＳと名乗れば騒ぐ連中が
　居ますので名乗ってないだけですよ。
　そして、知っての通りＡＣは男性も普通に
　使えるモノです」
「な、なるほど！」
　ソレなら一夏に特別な価値を認めないって
　言うのもわかるわ！
　だって他にいくらでも居るってことだもの！
「つまり、イギリスのように男性操縦者と
　仲良くなったからと言って、罪が許される

ことはありません」
「は、はい」
むしろ仲良くなって結婚とかすることに
なったら・・・面倒事として処分される?!
「普通に仲良くなって婚姻だの妊娠
だのをした場合は、我々が保護することに
なるでしょう」
「わ、我々と言うと、冬林技研ですか?」
保護して貰えるの?!
「そもそもが正式な命令でも有りますから。
やっぱり邪魔だとか、騙して悪いが・・・
などと言った真似はさせませんよ」
「あ、ありがとうございます!」
司馬様が言うならきっと大丈夫よね!
「いや、お礼を言われましてもね。まだ
何も確定してませんよ?」
「それでも、問答無用で政府によって取り上げ

られて実験に使われるとか無いだけマシです！」
可能性はいくらでも有ったからね！
コレで遠慮無く一夏を落とせる！
「我々も多少のデータは録らせてもらいますが、普通の医療機関で録るようなデータ位ですね。こちらとしても、姉も弟も無関係では有りませんから多少の融通は利かせます。上には人材確保の一貫として計画書をあげますが、すでに担当者は居ませんので無理をする必要はありません。故に織斑一夏に関しては自由恋愛と言う形となります」
「ほ、本当ですか?!」
やっぱり任務ってのがあると、どうしても一歩引いちゃうし、一夏や千冬さんだって面白くは無いだろうとは思ってたけど！
「余計な下心は相手に不快感を与えます。
私たちは織斑姉弟に特別な価値を認めては

居ませんが、だからと言って敵対したいわけでは有りませんので」

「あ、な、なるほど！」

何て言うか、当たり前の話だけど、中国的な発想じゃ無いわよね。いや、私にとっては凄く良いことだから良いんだけど！

「とりあえず話を纏めましょう。

まず、ＩＳ学園では私が貴女の上官となります。

任務の内容は織斑姉弟との接触と甲龍の実地試験、他国の技術調査が主な任務です。

機体や武装の調整は冬林技研で行います。

生活に関するバックアップもこちらですね。

軍属となるので当然給料も発生します。

給料の振込先の確認や各種保険の資料、就労規約をきちんと読み込むこと。

何か質問は有りますか？」

「あ、い、いえ、今はありません！」

てっきりお国の為に機械みたいに働けって
言われるかと思ったら、予想以上に自由度が
高いし、バックアップ体制もアフターフォロー
も完璧な状態じゃない！
司馬様が担当者を潰してくれて良かった！
「それでは資料を読み込んだあとで何か
疑問があれば、私か冬林技研の人間に
問い合わせるように。
貴女のバックアップを行う人員の代表の
連絡先は資料に書いてますから、きちんと
自分の端末に保存しなさい」
「はい！」
助かった！司馬様に直接連絡とか絶対無理！
「よろしい。それでは今、この時より
准尉は私の指揮下に入る。
私の事は学園外部では少佐。
学園内では・・・主任と呼ぶように」

「はっ！了解致しました！」

助かった！司馬さんとか絶対無理だから！

第5話

いやー。本当のお金持ちは空港に行かないっていう話は本当だったんだね。
行きますよって言われてから2時間で日本に着いちゃった。
荷物は纏めておけって言われてたから後で送ってもらえば問題は無いけどさ。
「まずこのままＩＳ学園に行き着任の挨拶と生活拠点となる部屋の整理整頓。特に発信機や盗聴器の類は見つけ次第私に報告をするように」
「は、はい！」
普通に湖から飛空挺が出て、ＩＳ学園近くの海に着水。そこには既に冬林技研から迎えが来てて学園まで一直線って。

もう一切の無駄がない。いや、そもそも軍関係の人たちは時間を無駄にするようなことはしないんだけどね。

もしもコレで「うわー懐かしい」とか「昔住んでたところを回って良いですか?」なんて言おうモノなら『職務中に何を?』とか『回りたいなら回してあげましょう首だけで』とか普通に言われるわよね。

「凰准尉は1年2組です。あえて対象とクラスを分けた理由は分かりますね」

「はい! 我が国にとって織斑一夏は最優先事項では無い為、適度な距離を置くようにとのことでした!」

私にとっては最優先事項でも国にとっては違うからね。

説明受けたように、厄介事は他に任せるつもりなんだって言われたし。

けど、アレよね。ああやってハッキリ言って貰った方が覚悟決まるわよね。

「その通りです。かと言って全く興味が無い素振りを見せては、他国の連中に無駄な警戒をされてしまいますからね。我々にとっては適度な距離が重要なのです」

「はいっ！」

ＡＣが有れば一夏は必要ないという事実が露呈するのは不味いのよね。だけど、いえ、だからこそ一夏にとっては冬林技研が唯一の安息の地となることが出来るのよ。

他の国だとどう転んでも本人も子供も実験動物になるしかないんだから！

「また、あのクラスにはフランスの阿呆やドイツの人形の編入が決まってますからね

国際的な面倒事を避けるという意味も
あります」
「フランス・・・あぁ、アレですか。
奴ら何を考えてるんでしょう?」
いや、ドイツのデザインベビーは
わからないでもないわよ?
連中は昔っからそういう遺伝子組み換え?
的なことはヤってたみたいだし。
だけどフランスのアレって何がしたいの?
「落ち目の企業を使った国ぐるみの
自爆特攻ですからねぇ。
織斑一夏の遺伝子情報と各国の
最新技術を獲得することが出来れば、
企業の一つくらい潰しても別の形で
再生出来ると踏んでるのでは?」
「なるほど」
完全にトチ狂ってるわね。

まぁ自爆特攻なんてトチ狂った
連中がするモノだけどさ。
それに企業再生か・・・確かにＩＳに
関わる企業は国の税金が入ってるから
半ば国営と言っても過言ではない。
フランスにしてもデュノア社一つの
犠牲で済むなら十分な見返りが
あると判断したってことかしら？
それとも一夏の遺伝子情報を担保に
いくつかの国と取引済みなの？
社長は捕まるだろうけど、それだって
罪としては経歴詐称と産業スパイ容疑？
国としてはいくらでも司法取引とかで
便宜を測れるわよね。
企業再生も、会社の名前を変えたり
本人も整形したりすれば問題ないし。
「それにＩＳ学園が受け入れを決定

した時点で、連中にはフランスに
対して抗議は出来ませんからね」
「え?そうなんですか?」
いくらでも出来そうだけど・・・
「学園は何と言って抗議する気です?
男性だと思ってたら女性でした?
そんなことしたらこの程度の偽装に
気付かない無能であると全世界に
公表することになりますよ?」
「あぁ、そういう事ですか」
自爆特攻もそれなりに根拠があるのか。
それはそうよね。普通に考えたら
その程度何故気付かない?ってなるし。
世界に二人目の男性操縦者として
編入させるなら当然その周囲は
情報を集めるわよね。
ウチだって情報を集めて、最終的に

社長の愛人の娘って身元まで
しっかり把握してるんだもの。
で、編入を受け入れたＩＳ学園がそれに
気付かない？ありえないだろうって
言われて、逆にフランスとの談合を
疑われることになるのか。
「つまり強制的にＩＳ学園が共犯者にされて
しまいましたね。ただし学園が受け入れた
理由は申請を受けた際の身元調査で
愛人の子であるシャルロットに対する
デュノア家の扱いを知った轡木十蔵による
干渉があったはずですので、学園側が
一方的に損をしているというわけでは
ありませんが」
「えっと、轡木十蔵ですか？」
誰だろう？それに手を出してきたのは
フランスじゃないの？

この場合学園は救済するつもりなのよね？
「ＩＳ学園の学園長の旦那で理事長です。
かなりのタヌキですよ。この件も同情１割
引き抜き９割の腹積もりですからね。救済？
そんな甘い相手ではありません」
あぁ、やっぱり政治が絡むのか。
「あれのＩＳ適合値はＡで世界トップクラス。
現在の待遇も悪い。さらにフランスの弱み
すら握れます。
日本に帰化させることを条件にすれば
日本を説得するのも簡単ですよ」
なるほど。
「学園としては、優秀な人材をアッチから
差し出してきたから引き抜く為に乗った、と？」
さっきは少しは意味があるかと思ったけど、
やっぱり自爆特攻なんて避けられたら
それまでよね。弾丸に使った兵器ごと

回収されて敵に利用されるだけ。
「それもフランスの弱み付きで、ね。
『ＩＳ学園は虐待を受けた子供を助ける
為にあえてフランスの策を受け入れた』
と言った美談とすれば周囲からの無能の
謗りも免れます。
おそらく他所の国に突っ込まれたら
そのような方向で話をもって行く
つもりでしょう」
「なるほど・・・」
確かにそれならＩＳ学園から抗議は
できないけど、周囲を説得できるという
一見矛盾した話が実現するわね。
「ＩＳ学園としては織斑一夏とソコソコ
親密な関係を築かせ、日本から離れられ
ないようにする腹積もりですね。
もしかしたら地元の縛りがないことを

利用してＩＳ学園だけの戦力として使うつもりなのかもしれません」

「それは、ありそうですね」

実際千冬さんだって日本と言う国家に所属してるし、他の先生方も基本的には各国からの出向扱いだもの。

今回のコイツがフランスから亡命すれば完全な根無し草。

ＩＳ学園に根を張らせることが出来れば国の意思に関係ない戦力を得ることになるわね。

「そのくらいの策を練る相手で無ければ受け入れの許可など出しません。

今の准尉からすれば私の考えすぎと思うかもしれませんが、政治とは准尉が思う以上に澱んでいます。

国連を・・・世界を相手に立ち回る

　轡木十蔵を過小評価してはいけませんよ」
「はっ！」
　ソレを読み切る司馬様が凄いって話よ！
　いやほんと味方で良かった！
「とは言え政治についてはこちらがヤリ
　ますから、特別命令がない限り貴女は
　搭乗者として、学生として普通に過ごし
　てください」
「はっ！」
　コレもね。最初から学生に政治は
　無理だから、中途半端なことしないで
　ダメなことはするなって命令なのよね。
　中途半端に外交官の真似事したら
　イギリスの螺旋頭みたいに足を
　掬われる・・・まぁアレは勝手に
　滑って転んで頭打っただけだけど。
　あんな風になったら普通に殺される

より悲惨な目に合わされるからね！
器物破損と傷害はダメ。
許可なくＩＳの展開もダメ。
教員から命じられてもダメ！
専用機は司馬様が管理する。
授業は専用機ではなくＩＳ学園の
訓練機で受けること！
決闘もダメ！
もしも挑まれたら司馬様に報告！
何もかもが当たり前の話よね。
大量殺人が出来る危険な兵器を学生に、
それも何のロックも無しで持たせる
バカがどこに居るって話よ。
緊急事態なんてそうそう起こらないし
起こったとしても学生の私が
対処するようなことでもない。
特に専用機については軍事機密の

塊だからね。
一夏と訓練したいってのはあるけど
今の私じゃ差がありすぎて訓練に
ならないし。
私も咄嗟の感情で動く時が
あるから、初めから司馬様が
手綱を握ってくれる方が良い。
さからうなんてとんでもない
「あぁそうそう。学園に着いたら准尉にも
政治と言うものを教えてあげます。阿呆に
権限を持たせると言うことがどういう事か
見ておくと良いでしょう」
「よ、宜しくお願いします！」
・・・コレは確実にＩＳ学園が負けるわ。
私も馬鹿やらかして勝ち馬から降ろされたら
どうなるかをしっかり確認しておかないと、
本当に洒落じゃ済まないからね！

「更識、盗聴器とカメラを全て外せ」
「えー？全部ですか？」
心配しすぎじゃない？
「馬鹿が。あの人にそんなことしてみろ
外交問題になる前にＩＳ学園が消えて
無くなるぞ！
政治的にじゃなく、物理的にな！」
「いや、いくらなんでもソコまで・・・
するんですか？」
どんだけお姫様が大事なのよ。そんなに
大事なら国内から出すなって話よ！
「あぁ。間違いなく殺る。
更識、中国における司馬家をなめるな。
貴族じゃないんだ。武力と財力と
権力を保有する王家なんだ。

そこの姫様を盗撮盗聴？そんなの
戦争だろうが！」
いや、それはそうかも知れないけど。
だからって普通はいきなり戦争なんか
しないわよね？
「私たちもソレなりに長い期間色々
殺って来ましたけど、司馬家は基本的に
政治的な力を使ってくる家ですよね？」
そこから自分達の要求を出してくる連中よね？
どうせ配慮しなきゃいけないんだから。
あえて弱味を作って相手から提案させて、
こちらも譲りやすいようにするための
小細工なんだけどなー。
「基本的にはな。武力行使は李家の
仕事と言われてるが・・・李家に
ついてはお前たちも詳しいだろう？」
「えぇ。何代か前の当主はあの李書文

の教えを受けてますから」
絶対に敵対するな。むしろ関わるなって
遺言がそのまま更識の家訓になってる
くらい怖い連中らしいわね。
「冬林の副所長はその李家の当代当主で、あの人の婚約者だ」
「はぁ?!」
つまりお姫様に何か有ったら、司馬家と
李家が敵に回るの?中国の表と裏の
全部が一斉に潰しに来るってこと?!
駄目じゃん!物理的に消されるじゃん!
何でそんなのを国外に出すのよ!
「事態の深刻さに気付くのが遅い!
まぁお前もまだ学生だから仕方ないが、
学生だからと言って無礼が許される
わけではないんだぞ!」
た、確かにそうよね。更識なんて李家に
してみたら路傍の石。しかも冬林の

副所長って言ったら織斑先生の師匠の
師匠でＩＳを素手で破壊した化け物じゃない！
そんな化け物が周りに居たら情報なんて
手に入らなくて当たり前よね。
お姫様の周囲の防諜が完璧すぎて、事前に
動きも情報も何も獲られなかったのも
単純に相手が悪かっただけ、か。
暗部としては戦う前から負けてる。
あ～そりゃ盗聴盗撮なんか論外よね。
せめて何か交渉材料を見つけてから
出ないと同じテーブルにも座れない。
最初っから全面降伏するしかないのか。
下手な小細工は政治的な失点を重ねる
だけで、十蔵さんの足を引っ張ることに
なるのね。
「あと、個室を二つ用意するように」
「個室ですか？」

いやいや、特別待遇は不味いでしょ？
同じ中国の生徒なんだから、同じ
部屋で良いじゃない。
「冬林技研からの情報でな。今回十蔵
さんは確実に負けるそうだ。
無駄な抵抗をして時間と労力を使う
くらいなら、初めから用意しておけば
要求もソレだけで済ませるとさ」
「負けるって。ウチに彼女たちの
特別扱いを受け入れなきゃいけない
理由があるんですか？」
あの政治の化け物が負ける？
想像もつかないんですけど。
「らしいな」
らしい？つまり織斑先生も細かい
内容は知らないってこと？
それにしては冬林技研の情報に確信

があるみたいだし。

「そもそも何故冬林技研がそんな情報を織斑先生に流して来たんですか？」

昔の伝手があるのはわかるけど、

普通に考えて勝ちが決まってるなら

搾り取れるだけ搾り取るのが政治でしょ？

ソレをわざわざ情報漏洩までして

抑えるってどういう事？

まさか織斑先生がスパイをしてるとは

思えないんだけど・・・

コッチに恩を着せての得点稼ぎ？

「お前の懸念はわからんでもないが、今回は杞憂だ」

「そうなんですか？」

杞憂だと言われてソレを信じてたら

世の中に諜報員なんて必要ないわよね。

「冬林、と言うか司馬家としてはだな。

彼女に無駄な時間を過ごして欲しくないんだ」

「はぁ」
どういうことだってばよ
「つまり『部屋が用意できておりません
ので少々お待ちください』
なんてのは論外と言うことだな」
「はぁ?」
その程度のことなの?いや、司馬家を
天皇家と考えれば、皇太子殿下に対する
無礼は許さないって感じなんだろうけど。
だけど普通私たちの弱みをその程度の
要求を叶える為に使う?
わけがわからないわ。
「何にせよ準備とは言えベットを一つ
運び出してアメニティも減らすだけだ。
もし十蔵さんが勝ったら元に戻せば
良いだけの話だろ?」
「まぁ、ソレはそうですけど」

今回はどっちに転んでも酷いことには
ならないけど、負けたときに少しでも
相手の印象を良くしておくのは
基本でもあるか・・・
しかし「我侭言うなら来るな」って
言うのが基本スタンスのＩＳ学園で
ここまで我侭を押し通すだけの根拠と
力があるのか・・・一体どんな
弱みを握っていると言うの？

―――――――――――――

「そういうわけで、生徒兼技術士官兼
監査員として赴任することになりました。
司馬仲達です。階級は少佐です。
コチラは我が国の国家代表候補生
凰鈴音です。凰准尉、挨拶を」

「ご紹介に預かりました、鳳准尉です！
よろしくお願いします！」
「えぇ、よろしくお願いします」
やられた！織斑君に連絡があったから
万が一に備えて個室の準備はさせていた。
だが私とて、そう簡単に特別扱いなど
許す気は無かったが・・・
ただの生徒ではなく監査員ときたか！
事前情報が無いのも当然だ。
何と言っても今その話がＩＳ委員会で
提案され可決されたんだからな！
リアルタイムで会議と決定を見せつけ
られては文句も言えん。
常任理事国のイギリスとアメリカと中国が
賛成でフランスが反対、ロシアが保留。
フランスにはあの件で発言権など無い
ことを考えれば、反対意見すら奴らの餌。

何せそもそもの議題である
「ＩＳ学園における中立性に関する疑問」
という議題は反対するような内容でも無い。
在校生による生徒目線での監査と言うのも
現在代表候補生や留学生を送り込んでる
国にしてみれば反対する理由にはならん。
さらに最初の監査員が五大国の一員で
ある中国の人間で、さらに大学を卒業して
いくつかの新技術と知識で世界に確固たる
実績を証明している冬林技研が抱える
鬼才、司馬仲達。
能力にも実績にも文句の付けようがない。
その上で監査員と一般生徒が同室になるなど
ありえない。と言われてしまえば、監査を
受ける立場である我々に反対することはできない。
そこを切り口として監査員から幾つか
指摘を受けた以上、その改善は義務だ。

今後は代表候補生が個室を望むなら与えねばならん。
現時点で持っているカードに差がありすぎて勝負にならんぞ！
「既に冬林の代理人よりコチラの要望は伝えています。委細問題ありませんね？」
「・・・ええ、とは言え要望は個室の用意だけですからね。代理人の方からは特別な部屋を作る必要は無い。元々の2人部屋を1人部屋にするだけで良いと伺っております。司馬殿はソレで良いのですか？」
普通なら屋敷を建てろと言ってくるレベルの相手だからな。
部屋が貧相だからと言って文句を付けられてもたまらんぞ。

「ええ、盗撮盗聴の心配がなく、私の職務に影響を与える環境で無ければソレで構いません」

「・・・そうですか」

これは更識に関してだけじゃないな。

他の生徒にもおかしなことをさせるなと言うメッセージか。

しかしコレには何と返せば良い？

何を言っても墓穴。

かと言って何も言わなければ、

彼女の職務に問題のある環境だと自分で認めることになる。

・・・王手飛車取り、か。

ならば飛車を切るしかあるまい。

「それなら問題ありませんよ。

当方は防諜にはそれなりの自信がありますので」

さぁこい。ただでは殺られん。
貴様らも巻き込んでやる！
「そうですか。ではそれに期待しましょう」
何？取りにこなかった？考えすぎたか？
・・・違うな。読まれたんだ。更に
言えばいつでも取れるから見逃したか。
それにコレで私がどういう行動を
取るのかを確認しようとしている？
くそっ。２０００年の歴史があるとは
言えそれはあくまで家のことで、
彼女個人はまだなんとかなると思って
いた自分の迂闊さに腹が立つ！
確かに彼女に関する情報は全く入手
できなかったし、手探りとなるのは
覚悟していた。
だが、まさかここまで手も足も
出ないとは・・・

どうやればこの歳でこれほどの
人物が出来ると言うんだ！
「わざわざ言う必要は無いと思いますが、
今回の件に関してはそちらの自爆です。
我々を警戒するのは構いませんが
まずは足元を固めた方が良いですね」
「・・・ご指導感謝します」
それ以外何を言えと？
「いえいえ監査員として、防諜に問題が
あるならテコ入れが必要と判断しただけ。
これも職務ですので感謝は不要ですよ。
尤も、不備を指摘されて不貞腐れる小娘共
よりは好感が持てるのは事実ですが」
それはＩＳ乗りの教育が出来ていない
と言う皮肉か？
だがＩＳ乗りの協調性の無さは各国から
問題点として指摘されているのも事実。

それにこの状況で下手に何か言えば
正面から叩き潰される未来しかない。
・・・この化物が。
「では部屋に案内してもらいましょう。
鳳准尉。荷物を持ちなさい」
「はっ！」
普通なら生徒同士に序列は無いと嗜める
ところだが、監査員と生徒だからなぁ。
「あぁそれと理事長」
「・・・何でしょう？」
まだ何かあるのか？今は準備が
足りな過ぎて抵抗すら出来んから
正直時間を稼ぎたいのだが・・・
「私程度を化物などと思っていては
いずれ本物に足を掬われますよ？」
「・・・御冗談を」
声に出していたか？・・・いや

凰鈴音は首を傾げている。
つまり読まれたと言う事か！
圧倒的優位にありながら油断も
慢心も無い。
個人としても組織としても隙が
無いとか、一体どうしろというのだ！
「別に何もする必要はありません。
ただ邪魔をしないことですね」
・・・また読まれた。もうやだコイツ。
学生とかしなくて良いから普通に
監査してさっさと帰ってくれよ。

ーーーーーーーーーーーーーー

いやー。話の内容は良く分からなかった
けど、最終的に理事長の背中が煤けていた
から司馬様が完全勝利したみたいね。

流石司馬様！
それに全寮制で二人部屋が基本なはずなのに普通に個室貰えたし！
普通なら二人部屋とかでも良いけど司馬様と二人部屋とか、絶対心労で死ぬからね！
冬林技研もその辺ちゃんと考慮してくれたってことかな。
「今回貴女にも個室を用意したのは機密の関係もありますが、織斑一夏を部屋に連れ込みやすくするためでもあります」
「そ、そうなんですか！」
そこまで気を使ってたんですね！
ありがとうございます！
「篭絡に失敗した場合も一人で寂しく泣くこともできますしね」

「そ、そうなんですか・・・」
そこに気を使って貰えるのは
ありがたいと言うか、なんと言うか。
「そもそも専用機持ちを一般の生徒と
一緒にすること自体が間違いなのです」
「それは、そうですよね」
ＩＳは最新の軍事機密だからね。実際に
相部屋になった人が何も知らなくても
ナニカを知る可能性があるだけでダメじゃん。
本人に知識が無くても、話を聞いたりする
周りの人間が分かる事だってあるんだし。
知らず知らずのうちに他の国の
機密に係わってるなんて怖すぎるでしょ。
なら最初から距離を置いて係わらない
ようにしてあげるのが優しさよね。
「さらにイギリスの代表候補生の部屋を
見れば、いっそ1人部屋にしろと言う

のが当たり前だと思うんですがね？」
「確かに。アレはひどいですよ」
２人部屋だって言うのに、片方だけめちゃくちゃスペース取ってんじゃん。アレで平等？頭おかしいんじゃない？
アレは確かに学園による虐めの黙認よ。
「さらに我々にここまで情報を握られる防諜の甘さも問題です」
「そうですね。これで防諜にそれなりに自信があるんだから驚きです」
女子寮の各部屋の情報なんて普通は手に入らないのに、世界一を自認するＩＳ学園の女子寮の情報が抜かれるってもう駄目じゃん。
結局は司馬家とか冬林技研が凄いって事なんだろうけどさ。
「いえ、アレは私からの指摘を誘った

理事長が仕掛けた罠ですよ」
「罠、ですか?」
一体あの会話にどんな意味が
込められていたのか・・・
政治はホント難しいわ!
「えぇ、アレで私が防諜に関して
指摘をしたら、フランスの阿呆の件を
我々に打ち明けて協力させる気でしたね」
「え?!」
そんな離れ業が?!
「あの場で何か指摘したら、実は・・・
とか言ってあの件を防諜のミスとして
打ち明けてくるつもりだったのでしょう」
なるほど!引き抜きと言う自分の狙いを
防諜のミスとして誤魔化した上で
「協力してくれ」とか「何か意見をくれ」
とか言って巻き込むつもりだったのね!

それを読んだからこそ司馬様はあのとき
何の指摘もせずにスルーしたのか。
来るときにも話したけど、学園は
あの件を指摘されるのを待ってる。
まさか自分から打ち明けるわけには
いかないからね。
それに理事長の言葉をスルーしたことで、
コッチがもつ情報量も隠した。
相手は私たちがこの情報を知ってるか
知らないか分からないし、司馬様相手に
下手な行動を取れば自分の策が根こそぎ
破壊されることになると警戒したから
あそこでは何も言ってこなかったのね。
これだけの思考をあの一呼吸で
やってるの？なんて面倒な世界！
そりゃ負けた理事長も司馬様を化物
扱いするわよ。

いやー司馬様が味方でよかったわ！

第6話

「「監査員？」」
そう来たか。確かにそれなら個室になるのも当然よねぇ。
しかしそんな動きがどこにあったの？
それだけ大きな動きの予兆が有れば
この人が気付かないなんて
ありえないわよね？
「えぇ、自らを駒として私を拘束し、
その間に国連の常任理事国を集めて
問題提起と監査員の派遣をリアルタイムで
決定させるという離れ業ですよ」
「「うわぁ」」
今の今で仕掛けてきたの？根回しも
最低限よね？

一体それでどうやって国連の連中を
説得したのよ！
「根回しは恐らくしてません。その場での
利益配分と弁舌で場の流れを操ってます」
な、なんて無謀な！だけどソレを海千山千の
外交官相手にやって、成果を挙げてみせた。
とりあえず私たち更識には出来ない荒技！
流石は政治の澱みの中に住む司馬家の人間。
政治的な手腕じゃ絶対に勝てないわね。
「カメラ越しでも圧力がわかりましたよ。
流石は李家の教頭」
「李家の教頭？」
李とか多いから姓だけじゃわからない
のよね。しかも教頭ってまた微妙な。
「更識・・・さっき話した李家の当主で
冬林の副所長のことだ」
「はぁ?!」

武門の李家の当代当主が政治の場で連中を手玉に取る?!

「更識さんが驚くのも無理はありませんが彼はそもそも司馬監査員の師であり、冬林技研のＩＳ操縦者たちの武術指導役であり、司馬家の政治的な相談役です」

教師の頭って意味?!有り得ないわよ!

「つ、つまり司馬家のお姫様に対して指導と意見を言えるだけの能力が有ると司馬家が認めていると言うことですか?外戚としての権力や立場を利用したモノではなく?!」

「それなら司馬家の相談役にはなれんし、こうして中国を代表して国連大使との話し合いでヤツらを転がすことなど出来ん」

「た、確かにそうですけど!」

何?私たちはこんなのと知恵比べをしなきゃダメなの?

「利害調整と感情の折り合いを見事に
調節されました。コレは私の不徳と
言っても過言では無いですね」
「理事長・・・」
「十蔵さん・・・」
もともと連中は十蔵さんに手玉に
取られて来た経緯もあるから感情的には
納得させやすかったのかもね。
非常任理事国のドイツやインドも反対する
理由は無いし、日本は当然賛成しなきゃ駄目。
なんたって監査の理由が「中立性の確認」
これは受け入れないなんて選択肢はない。
普段の十蔵さんならそれでものらりくらり
躱して時間を稼いで対抗策を練るんだけど
目の前に司馬のお姫様が居て、銃口を押し
付けられてたらのらりもくらりも不可能。
それに・・・実際コレは無いわ。

「セシリア・オルコットの部屋ですか」
織斑先生も驚いてるけど・・・
確かにコレは無い。何よこのベッド。
二人部屋の意味理解してる？
こんなの学園による虐めの黙認と言われても
否定が出来ないわ！
「こんなの許すくらいなら最初から
1人部屋にしろ」
って言われたら誰だって「あ、はい」
としか言えないじゃない！
「コレが盗撮とかなら逆に文句も
言えたんですけどね」
もう珍しく本気で疲れ切ってるわねぇ。
まぁそれはそうよね誰がどう見ても
盗撮じゃないわ、だってこの子ってば
「セシリアさんめっちゃカメラ目線
ですから、盗撮で押し通すのは・・・」

カメラ慣れしてる事の弊害よね。
写真撮った子も自分が機密情報を
扱ってるなんて思ってないし。
こんな子たちから情報収集するのは
少しでも諜報の心得があれば朝飯前よねぇ。
今までは更識が止めてきたけど、李家が
相手だと何時接触されたのかすら
分からないんですもの。
「それではイギリスが賛成に回ったのは・・・」
それでも現実を確認に行く織斑先生が
凄いわよね。
「先日の騒ぎに関してもしっかり映像資料
として残されてましたし今回のコレです。
反対出来るわけがありませんよ」
映像資料まで取られてるか。
そりゃ反対できないわよね。
「ではアメリカは?」

「今期は司馬殿ですが次の監査員は
アメリカから出すそうです」
なるほど、今まで手も足も出なかった
所にいきなり食い込める余地が出来た
もんだから飛びついた？
だけど轡木十蔵は甘くないわよ？
今回は奇襲と速攻、最初から落とし
どころを告知して来たから負けを
認めたけど、次回からは同じ手は
通じないでしょう。
中国・・・いえ、司馬家にしたら
お姫様在学中の待遇さえ良くなれば
ソレでいいのよね。
ソレを読み切ったからこその譲歩。
しかし第一手でＩＳ学園の不文律を
変えてくるとは。
「そして委員会では織斑先生と

山田先生への不信任案も出されました」
「「えぇ?!」」
お、織斑先生に不信任?!
世界一ＩＳを教えるのに相応しい
ヒトでしょ?
どういうことだってばよ?!

ーーーーーーーーーーーー

「いや、普通に考えて授業中に生徒が口論
してたら止めなさいって話です」
「ごもっともですよね」
いやほんと。しかも口論の原因を
作ったのも千冬さんだし。
最低限ホームルームの時間にヤれって言うね。
「副担任もオロオロするだけですし。
学生じゃないんですよ?」
「ですよね。コレ完全に舐められますって」

仲良くなるには良いかもしれないけど
お友達じゃないんだから。
上下関係ははっきりさせないと事故の
元になるでしょうに。
まぁ千冬さんも目の前で代表候補生が
自分を東洋の猿とか言ってきてフリーズ
したかもしれないけどさ。
「ＩＳを教える以前の問題です。
そもそも織斑千冬は正式な教員過程を
経てＩＳ学園の教員になったわけでは
ありませんからね」
「え？そうだったんですか?!」
まぁ言われてみれば経歴おかしいわよね？
「そうだったんです。兎と同い年なので
今は２４です。ですので3年前のモンド
グロッソで優勝したとき２１歳。
１年ドイツで教官して２１～２２歳

1年置いてからＩＳ学園に所属したので２３歳。ですが教員歴は2年以上ある」
「・・・あれ？なんか1年おかしい？」
それに２１歳なら大学も途中だし・・・けど3年前は普通に仕事してたよね？
「１５～１８は冬林技研で仕事をしながら通信教育と高卒資格でしたか？ソレを取ってましたね」
飛び級で大学には行ってないわけね。
「なるほど１７の時に冬林技研の企業代表として日本選手権で優勝して日本の国家代表そのまま第一回のモンドグロッソですか？」
「まぁ実際あの当時はＩＳが世界に認知されて僅か3年しか経ってませんでした。
当然コアの数も少なく、さらに戦闘行為が出来る程度の完成度がある機体は冬林技研でしか作れませんでしたから、日本選手権と

言うよりは品評会でしたがね」
あぁ、それもそうよね。コアの絶対数が
足りなかったから、そういうこともあるわ。
まぁソレは今は良いとして、それから
コアの数が増えてようやく出来たまともな
世界大会が四年後の第二回モンドグロッソ。
なら千冬さんが教員免許を取ったのは
１８歳～２１歳の間？けど２１歳の時は
途中でドイツの教官してるから大学に
行ってたとしても中退してる？
１８～２０歳の間に短大や専門学校を出たと
しても、講師には成れても教師には成れない。
しかもＩＳ学園なんて国際的な教育機関だと
尚更よね。
ＩＳだけを教える体育教師的な存在？
それなら担任って言うのはおかしいわ。
つまり教師として不適切って言うのは

間違いじゃない。
実際イギリスの螺旋頭が騒いだときは
授業がヒトコマ潰れてるし、学級崩壊に
近い状態を作り出してる。
「更に肉親の担任なんて何処の国の法律
でも禁止されてます。つまりあり得ません」
「それもそうですね」
教育に関する法律はわからないけど、
肉親が担任なんかしたら公平な査定が
出来てるかどうか疑われるもんね。
実際今回の螺旋頭の問題に関しては
明らかに一夏に経験を積ませようと
してたし。
アレがＩＳ学園や委員会の指示でも、千冬
さんが関わったら依怙贔屓になる。
「とりあえず織斑千冬が教師として不適切な
経歴と実績の持ち主なのはわかりましたが、

このような指摘をしてもよろしいのですか？」
千冬さんが逆恨みして司馬様を敵視
しちゃうんじゃない？いや千冬さんは
そんなことしないか。
けど千冬さんを崇拝する連中は司馬様に
ちょっかいかけてくるんじゃないですかね？
「事実ですからね。ちょっかいをかけて来る
連中には地獄を見せれば良いだけですし、
アレがＩＳ学園を退職したらウチで雇うだけです」
地獄ですか。そうですか。比喩とかじゃ
無いですよね？ツッコミませんよ！
「しかし、織斑千冬がＩＳ学園を辞める理由を
作ったのに引き抜きなんか出来るんですか？」
普通は馬鹿にするな！ってなりませんか？
「アレは元々冬林技研所属でしたし、
知り合いも多数居ます。それにアレの目的は
ＩＳ学園でなければ果たせないと言うモノでも

有りませんからね」
「目的・・・ですか？」
やっぱり情報量が違うってのは大きいわ。
どこまで行っても掌の上なのね。
「そう、目的です。それに准尉も理解
しているように、織斑一夏が安全に過ごせる
のは今のところ世界でも冬林技研だけです」
「た、確かに！」
つまりコレはさっさとＩＳ学園辞めて冬林技研
に来なさいって言うメッセージなのか。
恐らく千冬さんもソレを理解出来るから
感謝・・・は微妙だけど恨むってことは
無いわね。

け、経歴の不備と学級崩壊の現行犯って
「ＩＳを教えるだけならまだしも、教師として

学生を導けるとは思えない・・・ですか」
お、織斑先生も密かに気にしてるところを
ピンポイントで抉ってきたわ！
「ちなみにコレが、そのときの映像です」
『第一のツッコミが、授業中にやるな。
ホームルームでやれ。
第二のツッコミが、イギリスの代表候補生が
暴走してるのはわかるだろ教師なら止めろ。
第三のツッコミが、そもそも織斑一夏が
代表と決まってるんだからその旨を告知
して、生徒に現実を教えるべきだ。
第四のツッコミが、副担任は何してる。
第五のツッコミは、ＩＳを使った試合なら
イギリスの許可を取らせるようにしろ。
第六のツッコミは、織斑一夏のＩＳが無い状態で
倉持の許可もなく勝手に試合を決めるな。
第七のツッコミは、素人に一週間しか時間を

与えないと言うのはどういうことだ。
兵器運用を何だと思っている。
第八のツッコミは、練習機もアリーナも使わせないとは何を考えている。
兵器運用を何だと思っている。
第九のツッコミは、ファーストシフトもしていない専用機を試合で使うな。
兵器運用を何だと思っている。
第十のツッコミは、何故織斑一夏の担任を肉親の彼女が行っている？有り得んだろ。
学校教育を何だと思っている』

「・・・」

う、うわぁ。全部正論過ぎて何も言い返せないしフォローも出来ないわ。

『他にも細かいツッコミが多々有るがとりあえずこのくらいにしよう。いまの私の指摘を聞いた上で織斑千冬が教師

として相応しいと思う方が居るなら反論
してもらおう。
あぁ、発言は挙手と国名、及び発言者の名を
名乗ってからだ。
この場は各国の政府が管理する議会ではない。
それぞれが国家を背負い、意見することを
許された大使が集まる国際会議の場だからな』

「「・・・・・・・・・」」

これはひどい
感情論での反論をばっさり切り捨ててる。
少なくとも肉親が担任って言うのは
先進国なら有り得ない。
コレはＩＳ学園の方針。つまりは学園長と
理事長に対する皮肉でもあるのね。
もう織斑先生もヨツンヴァイになって

るじゃない。
「私はこの映像をリアルタイムで見せられ、『何か反論は有りますか?』と言われました」
う、うわぁ。監査員による学園の責任者に対する追求も有ったのか。
しかも時間稼ぎが出来ない状況で?
事前情報も何もなく?
そりゃ乾いた笑いしか出ないわよね。
もしも十蔵さんが勝ったら部屋を戻す?
寝ぼけるなって話よね。
万に一つどころじゃないわ。勝負の土俵にすら立ってない。
準備万端整えた料理人が待ち構えてるまな板の上に載せられた食材に勝ち目なんか有るわけないじゃない。
せめて痛くないようにって身を差し出すしかなかったのね。

私、こんなのと知恵比べをしなきゃ駄目なの？
「あぁ更識くんにも言及されてね」
「はいぃ?!」
何？私も目を付けられてたの?!
「えぇ『何でも最強こそが生徒会長の条件
であり、何時でも何処でもどんな方法でも
挑んで良いと聞きましたが本当ですか？』
って聞かれましたね」
「う”っ・・・」
そっちか！いや、確かに言ってるけども。
組織運営力や政治力が力じゃないとは
口が裂けても言えないけど！
コレの弟子に挑まれる？何時でも何処でも？
どんな方法でも？戦わずして織斑先生の心を
叩き折った悪魔の弟子に?!
それに、もしも勝ったら師匠が更識ごと
潰しに来るんじゃないの?!

『ふふふ、よくも我が弟子を!』とか
言って、マントを脱ぎながら階段降りて
来るんじゃないの?!
歴代の楯無から『関わるなって言ったろ』
って慰められるまで頭に浮かんだわ!
「ち、ちなみに司馬さんには専用機とかは
有るのでしょうか?」
せめてこっちなら意地を見せれるかも!
「資料には有りませんが。冬林技研の
秘蔵っ子に専用機が無いと考えるのは
楽観的過ぎますよね。織斑先生は何か
ご存知ですか?」
ヨツンヴァイからは立ち直ったみたい
だけど、目元が・・・
いえ、ココは見なかったことにしましょう。
「はい、もちろん専用機は有ります」
やっぱり有るのか・・・当然よね。

白騎士事件が起こる前から天災が公表した技術の特許を申請して、事件のあとで天災に特許使用料の支払いを請求して支払わせるような連中だもの。

お姫様に自衛手段を仕込まないなんて有り得ないわよね。

「とは言え私が知るのは冬林を辞める前ですので、ようやく第二世代が出来るかどうかの時代でした。現在の機体性能やコンセプトなどはわかりません」

「なるほど」

それもそうよね。いくら伝手が有っても お姫様関連の最新情報なんて極秘案件。

内部の人間にだって教えないわよね。

「ちなみに当時の彼女は生身の戦闘において私と戦闘ができる実力がありました」

「はぁ?!」

いや、織斑先生って生身でもヤヴァいくらい強いわよね?!
しかも冬林に居た頃って10~7年前でしょ?
司馬さんは何歳よ!
「あの当時より私も成長したと言う自負はありますが、教頭に鍛えられ続けた彼女の実力はもはや次元が違うでしょうね」
「なるほど」
え?ここで十蔵さんが何に納得したの?
「私は目の前に居ても彼女の力を推し量る事が出来ませんでしたが、アレは擬態ではなく、規格が違うからですか」
十蔵さんが目の前に居る相手の力量を量りきれなかった?!
「恐らくはそうですね。グラムを量る計量機でトン単位の重さは量れませんから」
最低単位がキロですらない?!

え、何？私はそんなのと力比べしなきゃ駄目なの？

「ふ、不戦敗はダメ・・・ですよねぇ」

二人がスゴく生暖かい目で見てくるけど、コレはシカタナイわよね?!

「さすがに最強を謳って生徒会長になって、現在実務もこなしている更識君が不戦敗は不味いですよね」

「ですね。更識が彼女の地位に負けたなんて噂が立てば、無駄に彼女に挑む阿呆が出てくるでしょう」

あ、そうか。彼女の事を知らなければそう言う噂が立つ可能性もあるのか。

更にわざとそう言う噂を流して自分を襲わせれば正当防衛を主張して、

監査員としてＩＳ学園に介入してくるわよね。

「ち、ちなみに十蔵さんは司馬さんの質問に

対して何て答えたんでしょう?」
あっちは全部知った上での確認だから
惚けるのも無理よね。
だけど十蔵さんなら!十蔵さんなら何とか
してくれる!
「『本人はそう言ってますが、ただの
腕自慢に生徒会と言う組織は運営できません。
学園としては学生同士の話し合いの結果だと
認識しております』と言っておきましたよ」
「ありがとうございますっ!」
実際には話し合い（物理）だったけど、この際
関係ないわ!そう、話し合いましょうよ!
私たちは蛮賊じゃないんだから!
流石は十蔵さん!コレならいきなり殺される
ようなことは無い!
「流石理事長。そのまま認めていたら
学園ごと更識が殺されてましたね」

「マジですか?!」
組織力が違いすぎるでしょ?!サツバツ!
「でしょうね。これは更識くん一人が
公開処刑されるか、学園全てが公開処刑
されるかの選択でした。
あの一瞬で第三の道を見付けることが
出来た自分を褒めてやりたいですよ」
公開処刑って・・・まぁそうよね。私が
手も足も出ずに完膚無きまで叩き潰されたら
彼女に挑むなんてヤツは居なくなるし。
逆にそうしないと他の生徒が彼女に挑んで
闇から闇に葬られる。そしてその責任を
ＩＳ学園に押し付けてくるんだもんね。
何せ彼女にしたら明確な正当防衛だし。
ふざけたルールを認めたＩＳ学園が悪いなんて
言われたらまさに公開処刑。
うん。私一人が切り捨てられなくて良かった!

「そう言えば凰准尉、ＩＳ学園における生徒会長になる条件を知ってますか？」
うぇ?!生徒会長?!軍人を育成する学校にそんなの居るの？
兵器運用に生徒の意思なんて関係無くない？
け、けど士官学校とかにも生徒代表みたいなのって居るんだっけ？
「す、すみません！わからないです！」
不味い。調査不足として矯正される？
居るとしたら普通に選挙とかじゃないの？
いや、わざわざ聞いてくるって事は違うわよね。下手な憶測は死を招く。
知らないなら知らないと正直に話すわ！
「まぁ編入のための準備で忙しかったで

しょうし、いきなり目指すモノでも
有りませんからね。事前調査から漏れる
のも仕方ありません」
「すみません！」
いや、許して貰えそうではあるけど、
ここで「ですよねー」なんて軽く言ったら
間違いなく矯正される！
私は詳しいのよっ！
「いえ。普通の学生として過ごすようにと
言ったのは私です。不勉強ではありますが
学生とは未熟だからこそ学舎で学ぶのです。
自らが無知で有ることを知りなさい」
「はっ！ご指導ありがとうございます！」
絶対同い年じゃないですよね?!
いや、言わないけどさ！
「では質問の答えですが」
「質問・・・あぁ！生徒会長の条件ですね！」

危なっ！普通に忘れるところだったわ！
「・・・まぁ良いでしょう。その条件とは『最強であること』だそうです」
「・・・『最強』ですか？」
「えぇ、何時でも何処でもどんな方法でも良いので、彼女に挑んで勝てば良いとか」
「・・・」
おいおい、死んだな。
冬林技研の本部には数日しか居なかったけどどう考えても司馬様に勝てる人間なんてこの世に居ないわよ？
副所長？アレが人間なワケないでしょ。
司馬様は第二世代の訓練機で私の甲龍を完封出来るし、副所長に至っては生身で完封出来るのよ？
もう、あの人、ヒト？を見たらＩＳが最強の兵器なんて言えないわよ！

そんな副所長に司馬様は専用機なら勝てるんだもの。あのエグい機体にロシア代表の専用機ごときが勝てるわけ無いわ。
しかも、そんな司馬様相手に先手を譲る？
奇襲でも正面からでも良いから来いって？
馬鹿じゃない？
普通に衛星軌道上からの神の杖による超々遠距離狙撃で死ぬわよね。建物ごと。
オーバードウエポンだってＩＳの武装だし。
狙撃がダメなんて言わないでしょう？
頬むから発射前に一声かけて下さいよ？
巻き添えで死ぬなんて嫌ですからね？
いや、もしかしたらＩＳは国家の財だから生身の体術限定とかの縛りがあるかもしれないけど、それなら司馬様の
命奪崩壊拳を生身で受けるってだけの話。
いやぁおとぎ話の中の産物だと思っていた

けど、なんか実在したらしいのよねぇ。
伝説に残る最強の将軍公孫賛ですら恐れた、
李家の直系にのみ伝わる幻の奥義。
司馬家の中でさえ司馬様が再現するまで
幻と言われていた、防御不能・回避不能・
命を奪わず尊厳を崩壊させる殺人拳。
この目で見て、体で喰らって理解する絶望の一撃。
少なくとも私は喰らいたいとは思わない。
うん。ここの生徒会長がどれ程の実力者かは
知らないけど、やっぱり司馬様の前で最強を
名乗るなんて自殺を越えたナニカよね。
死ぬなら私を巻き込まないところで死んで欲しいわ。
「私もね、さすがに強いだけで組織の長に
なるのは異常だと思い確認を取ったのです」
「それはそうですよね。そもそも力と言っても
たくさんありますし、組織運営に必要な力って
言うのも有りますから」

実際どれだけの権限が有るかは知らないけど、国連直属の学園だもの。
必要なのは人を動かす指揮能力と状況把握能力、更に政治力とか各種の人の上に立つ資質が優先されるべきよね。
腕力も必要ないとは言わないけどさ、古代国家じゃあるまいし、腕力だけで組織の長になられてもねぇ。
それを考えたらやっぱり司馬様が最強なんじゃない？
「ですね。それで向こうの返答ですが、何でも『生徒会長はそう謳ってますが学園としては生徒同士の話し合いの結果だと認識しております』だそうですよ」
「日和ましたか」
実際は話し合い（物理）だったんでしょうけど司馬様には勝てないと踏んだわね。

賢い判断ではあるわ。
「そうですね。それに今の生徒会長の更識は、日本の暗部の中の暗部と呼ばれる家の人間ですからね。それなりの人員や組織力も有るのでしょう」
「暗部の中の暗部ですか？」
普通に暗部で良くない？もしかしたら暗部を監査する組織みたいなモノかしらね。
「副所長に言わせれば子供のゴッコ遊びですね。瞬きする間に組織ごと滅ぼせる案山子だそうです」
……あのヒトならそうでしょうよ。
「つまり現在のＩＳ学園は轡木十蔵と更識が手を結び、日本が私物化しつつある組織と言うことですね」
「あぁ。なるほど。設立の経緯から維持まで、日本にしてみたら面白いはずがないですもんね」

だとすれば、学園がたまに日本政府の決定に逆らっているように見せてるのもポーズ、か。逆にポーズじゃなければ、轡木十蔵が学園を私物化しようとしてるってことになるわ。

……そりゃ監査も承認されるわよ。

「後ろ暗い連中の目には我々はさぞや脅威に映るでしょう。故に直接的な闇討ちは勿論ハニートラップや友人を利用した策への警戒を怠らないように」

「はっ！」

ハニトラはともかく、一夏を餌にして周りを巻き込むってのは有り得なくもないからね。

闇討ちは・・・司馬様の為に狙撃ポイントは全部潰してるはずだから、有るとすれば普通の喧嘩や事故を装った攻撃よね。

つまり常時自分の意思で展開できる

専用機持ちとの接触には注意が必要か。

はぁ・・・ここも立派に政治の伏魔殿。
専用機持ちとして、何も知らないままじゃ居られないのはわかるけど、普通に学生してる連中が羨ましいわ。
あの螺旋頭みたいには成りたくないけど。

学園の裏も知らず、政治も理解できず現実を見ていない馬鹿たちに一夏は守れない。

一夏は絶対に私が守るんだから！

第7話

「え〃クラス代表?」
なんで編入初日にそんな話題が?
「うんうん、凰さんって中国の
代表候補生で専用機持ちでしょ?」
フランクにとは言ったけど、馴れ馴れし
過ぎない?これが日本の女子高生?!
「いや確かにそうだけど、私が
来る前にクラス代表は決まってるよね?」
あの螺旋頭と一夏みたいな面倒事が
無ければ、その日の内に決まるよね?
「そーだけどさ!やっぱり優勝したい
じゃん!」
優勝って・・・あぁクラス対抗戦?
私に見世物になれって?殺す気か?!

それにクラス代表は色んな雑務があるんでしょ?絶対に嫌よ!

「ええっと、でも専用機持ちがＩＳ素人の織斑一夏で他二人が訓練機でしょ?今から私にしたら流石に不平等じゃない?」

そもそもの話、レベルが違いすぎるわよ。いくらなんでもタダのイジメよね?むしろ普通に訓練機の方が全員のレベルも揃ってて良いんじゃないの?

それに私がクラス代表になったからって４組の司馬様が出てきたら、訓練機相手でも優勝なんて不可能よ?

「おぉ、あのイギリスの代表候補生に良い勝負をした織斑君を素人扱い!コレは行けるんじゃない?!」

良い勝負って・・・アレが?

いやいや、どう見ても素人に対して油断

慢心した螺旋頭が馬鹿なだけだったよね？
まぁ代表候補生でもなければ、みんな
素人だからその辺はわからないかも
しれないけど。
そのレベルの相手に対しても私が専用機
で戦うの？ソレじゃただの公開処刑よ？
「「よし！コレで勝つる！」」
なんで周りも乗ってんのよ！
普通は転校生が生意気な！とか
なるんじゃないの?!
「いや、だから、元々の代表の人
にもシツレイだし・・・」
だからこの話題はやめようよ！
「それは大丈夫！」
何が？っていうか人の話聞いてっ！
「だって私が代表だから！」
「お前かよ!!!」

なんで折角なった代表譲ろうとしてんのよ！
いい経験になるじゃない！頑張って
ぶつかってこいよ！
「いやー実際プレッシャーもあるしさー
優勝したら半年間デザート無料だしさー」
「で、デザート？」
普通に買おうよ！それにそんなことの
ために最新技術を公開しろと？殺す気か！
「あ！凰さん。さてはデザート無料を
甘く見てるわね?!」
「「なんだと?!」」
「あ、あはははは」
知らないわよ！そもそもデザートは
甘いモンでしょ！

ーーーーーーーーーーーーーーー

「司馬様ー！・司馬様ー！・」
騒がしい。それに学園内では主任と呼べと言ったでしょうに。
「何ですか？貴女には2組のクラスメイトと親睦を深めるよう指示を出したはずですが？」
昼休みは仲良くご飯を食べるものだと聞いてますよ？
私は職務がありますから馴れ合う気が無いし、人気のないところで師と連絡取りたいから邪魔しないで欲しいんですけど。
「き、緊急事態なんです！」
「・・・緊急事態を大声で告知してどうするのですか」
「あうっ?!」
本来なら矯正ですが、普通の女子高生が

騒がしいのは当たり前らしいですから、
師の許可なく矯正や教育的指導（物理）
は出来ないのですよねぇ。
「はぁ。それで、何ですか？」
話を聞いてさっさとコイツを
2組に返しましょう。
「し、親睦を深めた結果、クラス代表に
されちゃいました！」
「「えぇ?!」」
「・・・はぁ？」
何がどうなればそんなことに？無理やり
代表の座を奪ったと言うなら謝罪させて
返上で済む話ですが、見た感じ焦ってますし
「されちゃいました」ですから不本意な筈。
・・・不本意ですよね？
「とりあえず場所を移しますか。
そこで状況を説明しなさい」

「は、はい」

ーーーーーーーーーー

カクカクシカジカシカクイムートンイトウ

ーーーーーーーーーー

「いや、何ですかソレは」
専用機持ち⇒強い⇒優勝出来る⇒
デザート無料?
「十代女子は理解から最も遠い存在だ」
と師が言っていましたが、まさか
コレほどまでのモノでしたか。
当時の兎が世間から理解されなかった
のも頷けます。
「何がなんだかわからないまま、

なし崩しに決められまして・・・」
ふむ、どうやら嘘では有りませんね。
日本の学校に有りがちな「多数決」による数の暴力に流されましたか。
そもそも自分たちが何をしにこのＩＳ学園に通うことになったのか理解していないんですかねぇ？
クラス代表なら優先的にＩＳに乗れるでしょう？専用機が無い生徒にとっては喉から手が出るほど欲しい経験じゃないんですか？
その機会を投げ捨ててデザートを取る？
わ け が わ か ら な い よ
「ちなみに担任教師は何と？」
普通は止めますよね？生徒の意欲というか秩序的に。クラス代表はクラス対抗戦だけが仕事ではありませんが、それでも

コレは後出しジャンケンになりますし。
「織斑ごときにデカイ顔させるなって・・・」
「あぁ女尊男卑思想ですか」
先進国ほど染まってるとは聞いてましたが、公私混同も甚だしい。
ソレが教師のすることですか。
これは監査員として・・・
「いえ、それが千冬さん。織斑千冬の方みたいでして・・・」
「・・・そうですか」
コレはどう判断したものでしょう。
いや、公私混同なのは間違いありませんが、私たちが仕掛けた離間計が成功したとも言えます。
そうなると教師を叩くのは逆効果で、むしろもっとヤレと言うべきなのでしょうけど・・・なんだかなー。

「とりあえずソレはいいです。しかし主席入学の国家代表候補生があの程度なら訓練機でも勝てますよね？織斑一夏なんて尚更でしょうし、訓練機で出れば良いのでは？」

それなら誰も損しませんし。

ＩＳ素人の織斑一夏が専用機で他が訓練機なら・・・それでも凰准尉が有利ですが、丁度いいハンデにはなりますよね？我が国としても代表候補生の実力の違いを見せつけることになります。

「それが、現在学園の訓練機は各クラス代表が使ってるから、専用機持ちは訓練機を使った訓練が出来ないんです」

あぁなるほど。納得はできます。

しかし……

「そうなるとぶっつけ本番で使ったことも

ない機体を操縦することになるんですね？」
「そうなんです。流石に兵器運用の観点からソレは有り得ませんし、だからと言ってこんなことで専用機を使って技術を公開するのも有り得ませんよね？」
「当たり前です」
どこの世界にデザートの為に軍事機密を公開する阿呆が居るんですか。
別にこんな試合でなくとも機体調整はできますし、そもそも我々の任務は素人の教導でもなければ、弱いものイジメをすることではありません。
国家の威信？こんなお遊戯で本気を出すほうが問題でしょう。
「とりあえず分かりました。クラス代表にされてしまったのは事実ですし、これからどうするかは今日の夜に

本国と連絡を取ってみましょうか」
「は、はい！よろしくお願いします！」
鳳准尉の学校生活としては緊急事態でしょうが、我々としては別に棄権してもいいですしね。
試合前に整備不良が見つかったとか言っておけば問題ありません。
さてさて、この動きに対して師はどう判断しますかね？

――――――――――――――

鳳准尉の問題は【面白い】話題の一つとしてストックしておくとして私は私でお仕事しないといけません。
整備室は・・・ここですか。
しかし、何というか、何ですかね？

「はぁ」
　この徒労感。これが学園生活というモノなのでしょうか。
「機密情報が集まるＩＳの整備室前に不審者が一名・・・ＩＳ学園の警備は一体どうなっているのですか？」
　コレも改善案件です。
「い、いきなり後ろに立って不審者扱いするのやめてくれませんか?!」
　この水色は何を言ってるんです？
「中途半端に気配を消した上で、物陰に隠れて「簪ちゃんハァハァ」とか言いながら中の様子を伺う水色が不審者じゃなくて何だと言うのですか？」
　どれか一つでもダメでしょうに。
「ぐぬぬ！」
　何がぐぬぬだ。

「自覚症状なし、反省の色なし、
職権濫用とストーカー行為の現行犯です」
生徒会長だからって何をしても
良いと言う訳ではありません。
法の裁きを受けなさい。
「ちょ、違う！私は姉として!!」
「姉妹だろうがなんだろうが一人の人間。
当然プライバシーはあります。
むしろ家族だからこそ、その距離感は
大事だと言えますね」
「ぐはっ！」
暗部の長女と次女が仲違いって。
暗部云々よりまず家庭を何とかしろ。
家庭を纏められないモノが組織を
纏められると思うな。
なんて態々教導する気はありませんがね
「とりあえず理事長、コイツです」

「・・・はい」
「十蔵さん?!」
「理事長。私はこれから一週間ほど学園内を
監査してから、私の視点で見つけた問題点を
報告させて頂きます。
ちなみに問題点は既に二桁を超えてますので
覚悟しておくように」
「・・・はい。行きますよ更識君」
「え、ちょ、ちょっと!ちょっと
待ってぇぇぇぇ!」
聞く耳もたん。さっさと連れてけ。

ーーーーーーーーーーーーーー

「ん?」
いまなんかお姉ちゃんの声が聞こえた
気がするけど・・・
ダメダメ!気にしすぎ!私は私なの!

「ふむ、コレが噂の天才、更識簪ですか」
「あひゃあ?!」
あ、あひゃあって何!自分で言って
すっごく恥ずかしいんだけど!
って言うか誰?気配とか全く
なかったよね!
「あぁ、驚かせましたか。中国から来た
司馬仲達です。本日付で1年4組に編入
しました。貴女は授業を休んだので
知らないでしょうが、クラスメイトですね」
「あ、さ、更識簪です・・・」
し、司馬仲達さんってもしかして、アノ司馬仲達さん?!
「アノが何か知りませんが。司馬です。
こんな時期に編入して来たのですから噂
くらいはされてますよね」
「えぇ?!」
こ、声に出してた!?

「声には出していませんでしたが、貴女は少し
思ったことが表情に出やすいみたいですね？
それでは相手に読まれますし利用されて
しまいますよ？」
「いや、そんなの普通出来ないですって！」
表情から読むって言ってもアノとか
細かいところは無理ですよね！
「いや、貴女の相手は普通では無いという
ことですね。いくら自身で生まれや家庭環境
を否定してもソレはずっと付いてくる
モノです。受け入れるにしても反発するに
しても個人の自由ですが、本人が忘れたから
といって周りも忘れるわけではありません。
何が言いたいかといえば・・・現実を見なさい」
「あう・・・」
い、言い返せない。
初対面の癖に私の何がわかる！とか

言うのが普通なんだろうけど、
この人達は私以上に私を知ってるはず
なんだよね・・・
「話を戻しましょう。ここに来るまでに更識の
監視は排除しました。その上で私がこうして
貴女に接触しているのは当然理由があります」
「さ、更識の監視?!」
わ、私は監視されていたの?!
「何を驚いてるんですか?貴女の情報を
調べましたが、普通に実家は更識の屋敷で
帰省先も更識の屋敷。
家族も親族も更識の娘として扱ってるじゃ
ないですか。そりゃ監視くらいされますよ。
もしかしたらアチラは監視じゃなくて護衛と
でも言い張るかもしれませんが、本人が
知らなければ監視ですよね」
「・・・そうですね」

当たり前に私の個人情報も調べられている
けど司馬家のお姫様が国外に出るなら
周囲の人間を調査するのは当然だよね。
さらにウチは更識だし、警戒されて当然、か。
「納得して頂けたところで、こちらの
用件を言ってもよろしいですか？」
「あ、はい！」
接触したのには理由があるって言ってた
もんね！なんだろう？
「こんにちは死ね」とかじゃないよね！
「天才更識簪。貴女、冬林技研に来て
その才能を使いませんか？」
「はい？」
天才？誰が？え？何？スカウト？？
お姉ちゃんじゃなく、ワタシを？！
ーーーーーーーーーーーーーー

む？このリアクションは全く想定して
いなかったと言ったところでしょうか？
いやいや、亀もそうでしたがね。
周りの評価も自己評価も低すぎませんか？
ＩＳの操縦、企画、開発、製作、更に行動力。
コレは普通に天才と呼ばれる存在でしょう？
「あ、あの、私をスカウトしても更識は・・・」
あぁ、そう言う心配が先に来ますか。
「私は別に更識の家なんかに興味は
ありませんよ。・・・あぁ、流石に
『なんか』はシツレイでしたね」
シツレイシツレイ、弟子シツレイ。
「い、いえ！司馬さんの家に比べたら
比べることすら烏滸がましいと
言いますかなんと言いますか！」
ふむ。コレは日本人の謙遜ではなく事実を

正しく認識してると見るべきなのでしょうか。
「知っての通り、ウチは諜報組織も
資金も人材もありますから。
取り込むなら正面から飲み込みます。
貴女を使って取り込むような真似はしませんよ」
こういう時は事実をそのまま伝える
のが良いんです。
「そ、そうですよね！それで、その、
本当に私をスカウトしてるんですか？」
ふむ、感触は悪くはなさそうですね。
「そうですね。それ以外に聞こえたなら
私の日本語がおかしいか、貴女の耳が
おかしいかという話になります」
「な、なるほど！そうですね！」
ここでそうですねって・・・あぁ
なんか目がぐるぐるしてますよ。
コレは余裕が無いんですねぇ？

常に姉と比較されて褒められ慣れてないんでしょう。

本当に最初の頃の亀に似てますね。

「ついでに言えば、別に冬林技研に所属したからといってそれが日本を敵に回すことにはなりませんし、更識の家も敵に回すことにはなりませんよ」

「え？そうなんですか？」

勘違いするのはわかりますがね。

世の中敵と味方だけではありません。

「それはそうです。別に戦争状態じゃありませんし。

実際に冬林技研の日本支部には沢山の日本人の方が居ますが、彼らを売国奴と呼んで敵として扱う人が居ますか？」

「い、居ないですね」

実際は居ますけど。女権団体とか。

ですが普通に考えて、多国籍企業なんて
いくらでもありますからね。
「それに織斑千冬も冬林技研に所属
していたときに日本代表として
モンドグロッソに出場して優勝してます」
「た、確かに！」
その後倉持に移りましたが。コレは
兎と日本政府のやり取りの結果です。
「さらに更識としては我々との繋がりが
手に入りますからね。面白くは無いかも
しれませんが反対や敵視はされないでしょう」
「面白くはない、ですか」
ここで喜ぶとか言えば反発しそうですし。
あえて実家が嫌がるようなニュアンスで
行けば悪い気はしないでしょうね。
「それに何より、貴女が今作成している
ＩＳに関して、ウチの副所長が強い興味と

感心を示してるんですよ」
いや、なんでか知りませんけど
妙にテンション高かったですよね
「え？ふ、副所長さんが」
「えぇ、ナッ○ーミサイルだとか
板○サーカスだとか・・・
何でもロマン兵器と言いましたか？
貴女にはそれを開発する才能があるそうです」
正直その話を聞かされたときは嫉妬も
しましたが、変態技術者共が賛同して
騒いでましたからね。
アレを見ると・・・この娘の才能は
ＨＥＮＴＡＩの才能。兎の才に近いモノ
があるのでしょう。
師が私に求めている才能とはまた別モノ
ですからね。・・・住み分け住み分け。
「ロマン兵器って、それは本当ですか?!」

おぉ？なんか妙に食いつきが良いですね？
やはりコイツもＨＥＮＴＡＩでしたか・・・
「ええ、貴女が倉持に出した企画書を
入手しましてね。その内容を見た副所長が
『コイツは天才だ！』と評価を下しました」
アリサワとかキラサギもベタ褒めでしたが
奴らに褒められるって本物のアレですよ？
「な、なるほど！」
ふむ、やはり技術者は自分の技術や発想を
褒められると喜びますね。
とりあえず初日の掴みは良好です。
このタイプは押せば押すほど良いのですが
あまり押しすぎてもしり込みしますからね。
今日のところはこの辺で引きましょう。
「ただまぁ初対面でいきなりこんなことを
言われても困ると言うのはわかります。
コチラが私の名刺で、コチラが冬林技研の

研究室への連絡先となります」
「え、えぇ?!」
驚くのも無理はありませんよね。
「いきなり研究室への直通はハードルが高いでしょうから、同じクラスの私に言って貰えれば取り次ぎはしますよ?」
「い、いや、そっちもかなりハードル高いですよね?!」
うん?休み時間に私に接触するのがハードル高いんですか?
立場云々も有るでしょうが、凰准尉は普通に駆け込んできましたし。
あぁ、虐めでしょうか?なにやら代表候補生の座も姉や家の力で手に入れたと言う陰口も叩かれてたようですし。
倉持もＩＳの製作を投げ出しましたからね。
このような才を持つ者がここまでぞんざいな

扱いを受けては自信もなくしますよ。
つまり今の彼女は授業に出るのが辛いと言うことですか。
ソレで授業も受けずに専用機を自作していると・・・
本来第三世代型の専用機を造るなら専用の人員を集め専用の研究室で専用の機材を使い、専用の計測器を持って作業を行うものです。
武装、関節、装甲、火気管制、機動部、ハイパーセンサー、慣性制御、空気抵抗空中機動用バーニアや各種バランサーに重力計算。更には量子変換機能です。
簡単に言ってコレだけの知識と技術が必要でさらに資材だって必要なんですよ?
全てを備えたデュノア社ですら第2世代からの脱却が出来ていないと言うのに、コイツは一人で凡そ4割～5割を造り

あげていますからね。
この、学生なら誰でも使える整備室で。
学生なら誰でも使える設備だけで。
それも半年も掛からずに、です！
まぁ一人で行う弊害として多少視野が狭くなっていますが、ソレでも倉持に織斑一夏の専用機を優先すると告知されてから、ここまで自作した期間を考えれば・・・
この進捗は異常の一言。
まったく日本の選考者や教育者は何を見てるんですかね？
兎と言いコイツと言い、どれだけの才能を腐らせる気ですか。
アリサワなんか戦う技術者として、勝手に後継者にしようとしてますよ？
ソレがコイツにとって幸せかどうかは
わかりませんが、少なくともこの整備室で

誰にも見向きもされないまま一人殻にとじ込もって腐るよりはマシですよね。

「更識簪。貴女は自己評価が低すぎるし、周囲の評価も何故か低すぎます。まずはソレを自覚なさい」

「え、えっと、その、私なんかじゃお姉ちゃんには・・・」

お姉ちゃん？あの変態が何かしたのでしょうか？それとも派閥的なモノ？

しかしそれなら納得もできますね

「なるほど、更識が手を回していましたか。それならこの不当に低い評価もわかります」

違っても構いません。猜疑心とは可能性があるなら勝手に大きくなるモノですから。

「え？更識…私の家が？！」

「憶測ですがね。普通なら名家の娘が不当に

評価を落とされていたなら、何かしらの行動を取るものですしょう?」

「何かしらの行動?」

「えぇ。噂の払拭や、新しい噂を流すなどはわかりやすいですね。なんにせよ不当な評価をしている連中を野放しにすることは有りません。

よって期間限定の嫌がらせ程度はあったとしても、今も嫌がらせが継続しているなどあり得ないことなんです」

惑え・迷え・疑え。

「あり得ない・・・?」

「更に研究開発を途中放棄?ISをコアごと民間人に貸し渡す?あり得ませんよね?」

普通に考えて理解不能です。

「確かに。研究開発を途中放棄するのは・・・まぁ織斑が貴重な存在だからって

言われたらそうかもしれないけど、一介の
代表候補生にコアを貸し渡すなんてことは
絶対に無いですよね」
最新型のエンジンを学生に渡す車メーカーは
ありませんし、航空機のジェットエンジンを
学生に貸す企業もありませんよ。
それがＩＳコア？量産できる兎ならともかく
日本の一企業が？
「そうですね。ですが裏に日本政府と繋がり
をもつ更識の手が入ってるなら・・・」
「可能性は有ります・・・目的は何でしょう？」
ふむ。初日だから無理はするつもりは
ありませんでしたが、コレはいけますか？
「予想でしかありませんよ？」
実際完璧に理解できてはいませんからね。
「構いません！教えてください！」
答えを欲するなら対象が理解出来る

答えを垂れ流せば良い。今回は
ソレほど難しいモノではありません。
「・・・嫌がらせでしょう。夢を見るな。
現実を見ろ。貴女には何も出来ない。
だから何もするなと言う無言の圧力です」
「何も・・・やっぱりっ！」
私にはソレ以外想像出来ないって言う
のも事実なんですけどね。
姉を当主にすることにしたから、妹は
何も考えずに黙って従ってろ的な。
「ＩＳコアを貸し渡したのは、機体を完成
させることが出来ない事を理解した上で
貴女から泣きつかせようとしたのでは？」
心を折るのは基本ですからね。
「完成・・・出来ないんですか？」
「えぇ。不可能です。あぁ勘違いがないように
言っておきますが、完成出来ないのは貴女の

能力の問題ではなく、単純に資材や設備の問題ですよ。冷静に考えなさい。第三世代型が学園の整備室で出来るなら、各国の企業の研究室は何のために有るんですか？」

「・・・設備。そうか。そうですよね」

「学園にあるのはあくまで整備室。しかも基本は第二世代型用です。最新型である第三世代型の武装や装甲を開発するための設備ではありません」

「・・・」

「正直このような環境でココまで機体を造り上げた貴女の才能は異常と言っても良いでしょう」

「私が・・・異常？」

何で自覚しないんですかね？

まぁＨＥＮＴＡＩは自分をＨＥＮＴＡＩと認識しないからこそ自由な発想が出来るのでしょうが。

「えぇ、少なくともロシアと言う国のバックアップを受けた更識楯無とは比べ物にならないと断言しましょう」
「え？私は、お姉ちゃん以上なんですか?!」
「無論です。私たちが欲したのは貴女の姉ではなく、更識簪。貴女です」
あんな普通の変態は要りません。
「うっ・・・ぐっ・・・うぇっ」
いや、泣かれても困りますが。
・・・そういえば亀も泣いてましたね。
私には師と言う理解者が居ましたが彼女たちには居なかった。
やはり師は凡百の連中とは違いますね。

初日にしては慌ただしかったですが、
とりあえずこんなところですか。
更識簪は落ち着かせて、今日は休むように
言って部屋に帰しましたし。
なんか憑き物が取れたような顔してました
から、明日以降の接触が楽しみです。
鳳准尉の面白い話題と併せて師には良い
報告が出来ますね！
では資料を纏めて師に報告と行きましょう！

「司馬様ぁ！司馬様ぁ！一夏が！
一夏が酷いんですよぉ！」
・・・

初日に事件起きすぎじゃないですかねぇ?!

第8話

「司馬様ぁ聞いて下さいよー!」

まぁ上司への報告・連絡・相談は基本です。
態度に関しても「不敬は許す」と言ってますし
コレを矯正したら今後の報告などに差し障り
が出ますか。
コレが十代女子・・・しかしココは軍人や
兵器運用をする人間を育てる環境では
ありませんね。
意識が軽くて規則が温くて、規律が緩い。
その上教師は中途半端な教官役で万事に
対しても無責任。
つまりこんな学園なんかに入れるから
操縦者に学生気分が移り、我儘で阿呆な
特権意識をもった無能になるようです。

今後ＩＳ搭乗者は我が国の軍機関で育成
することを義務付けるよう提言ですね。
ＩＳ学園に対しては・・・どうしますかね。
阿呆を育ててくれると考えればこのまま
野放しでも構いませんが、監査員として
考えれば職務怠慢です。
コレも師とお話してさじ加減を決めますか。
今回は織斑一夏に対しての接触任務
がありましたから、相手のレベルに
合わせる形で染まってしまったのは
仕方ないのですが、休日になったら
冬林の日本支部で矯正して学生気分を
抜きましょう。コレは危うい。
「それはそれとして、とりあえずは
准尉からの報告を聞きましょうか」
何を殺るにしてもまずはソレから
ですよね。

「は、はい！アイツ酷いんですよ！」

カクカクシカジカマールイムートンイトウ

「なんですかソレは？」
「ですよね！司馬様もそう思いますよね！」
いや、コレって織斑一夏が悪いのですか？
毎日酢豚？拷問でしょ？師だって毎日
八宝菜とか言ったらキレますよ？
それを受け入れる人間って居るんですか？
いや、しかしコレが日本における１０代
女子のプロポーズの常識なら織斑一夏に
非があることに・・・なるんですか？

あまりに理不尽・あまりに不可解。
だが凰准尉は特に疑問に思っていない。
私の常識がおかしくなったのですか？
「・・・男性の意見を聞いてみましょうか」
もしかしたらコレが常識なのかも
知れません。
もしそうだとしたら私はどうしたら
良いのでしょうねぇ？

「凰准尉が悪い」
『そんな?!』
いや、嘘だと言ってよバーニィみたいな
顔されてもな。
弟子を見ろ。「ですよねー」って顔してるぞ。
しかし弟子にも友達が出来たようで何よりだ。
俺は情緒や政治を教えてやれる楊修や武を指導
する李厳の代わりは出来ても、対等の目線で

普通に張り合える香っ子や後輩として接する
亀っ子や白っ子の代わりは出来んからな。
一応年上の同僚の狐っ子ポジションには束が
居るがアレだけだと教育に良くないし。
この調子で無駄を取り込み、人として成長
してくれれば言うことはない。
本来兵器運用者が人として成長したら
ダメなんだけど、弟子なら全部飲み込める。
なんなら反抗期とか来ても良いんだぞ？
『私の何が悪かったんですか?!』
強いて言うなら全部だな。
『まずは態度だな。准尉、貴様は誰を
前にして意見しているつもりだ？』
『ひ、ひぃ?!』
あぁ待て待て。普通ならソレが正しいが
今回は問題ない。
「少佐、確かに准尉が大佐に取る態度では

無いが、学園内部では学生として暮らすよう命じたのはコッチだ。だから矯正はいらんぞ」言ってしまえば知り合いの大人に恋愛相談してるだけだからな。ある意味任務を忠実に遂行してるとも言える。

『……大佐がそう仰るのでしたら』

『アリガトウゴザイマス！』

スゴク・不満そうなのと、スゴク・助かった！って言う対比が面白いな。

んじゃ悩める若者に今回の問題点を一つずつ分かりやすく教えてやろうじゃないか。

「まず第一に毎日酢豚は健康に悪い。

冗談にしか聞こえんぞ」

なんでよりにもよって酢豚にしたんだよ。

炒飯とかスープとか色々有るだろ。

弟子もですよねーって（ｒｙ

『それは・・・そうですけど！』

自分でもチョイスがおかしかったかな
って思い始めてるじゃねぇか。
「第二に織斑家の家庭の事情だ」
『か、家庭の事情?!』
相手の事を考えたらわかるだろうに。
これは思春期に少年から大人に変わる男と、
幸せは誰かがきっと運んでくれると信じてる
階段を登る前のシンデレラの違いか?
「両親がいなくて姉が高校にも行かずに
働いてるのを見て育って来たんだぞ?
弟が恋愛なんかできるわけねーだろ?」
『あっ!』
おいおい、まさか本当に気付いて無かった?
弟子を見ろ、コイツマジか?!って珍しく
普通に驚いてるぞ?
「さらに准尉もヤツが家計に不安を持ってた
ことは知ってたんだろ?」

学校終わった後、ウチでバイトしてたし
『は、はい・・・』
「それなら『毎日酢豚食べてくれる?』なんて
自分を励ます冗談、もしくは飯くらいなら
何時でも食わせてやるよっていう男前発言だ」
シチュエーションやニュアンスも有るが
この場合はなぁ。家庭事情を知らないとか、
せめて酢豚じゃなくて別のにしておけば
冗談以外の選択肢も出たかもしれんが。
『そ、そうなっちゃいます・・・か?』
認めたくないもんだよな。若さ故の過ちは。
「そうなっちゃうな。つまりお前の酢豚発言は
プロポーズの言葉として成立していない。
これは受けた織斑の問題ではなく、お前の
言葉のチョイスが悪い」
『あうっ!』
なんだ酢豚って。

俺だって「は?」ってなるわ。
「だいたい結婚を前提としたプロポーズなら「結婚しよう」とハッキリ言え。
最低でも「ただの友達としてじゃなく、一人の女と見て欲しい」と伝えるべきだろ。
それが覚悟と言うものだ。
中途半端に日和って伝えて、相手の答えが自分の想定と違うからって被害者面して騒ぐのはルール違反だ」
何のルールかは知らんが。
『た、確かにそうですね。一夏の家庭の事情も踏まえて考えたら・・・』
コイツも両親の離婚とかでテンパっていたんだろうけどな。
そういうのは相手に関係ないんだよ。
「准尉も現実を理解出来たようで何より。
もうわかったと思うが、織斑一夏という男は単純に鈍感なんじゃない。

最初から恋愛に関しての事柄は無意識に全てをシャットアウトしてるんだろう」

これを恋愛に鈍感と言うのは酷だろうよ。

『シャットアウト?!』

ただの鈍感としか考えてなければ怒ったり非難されたりするのだろうが、背景を知れば誰だって織斑一夏という男に理解を示すさ。

この姉魂ってな。

「そうだ。元々の家庭の事情だけでなく、今の状況のせいで尚更防壁が強化されてしまった形だな」

『い、今の状況ですか?!』

コレもな。女子にはわかるまい。

「まず女子高に男一人で入学して、右も左も女子に囲まれた状況では恋愛なんかできん」

色々怖すぎるわ。
『で、出来ないんですか？』
できるわけねーだろ。
「准尉、男子校にいきなり一人で入学させられて『よーし、恋愛するぞ』なんてなるか？
自分の意思で入学したんじゃないぞ？
なんかいきなり入学させられたんだぞ？」
『・・・なるほど』
ここでいきなり『ひゃっほーい逆ハーだ！』とか言えるのはゲームの主人公だけだ。
「わかったようで何より。それにヤツの場合はハニトラへの警戒は当然として、特定の相手と親密になれば敵味方を明確にすることになる。
周囲の人間の背後関係がわからない以上、今は八方美人を維持して状況把握に

専念する時期だろう。
おそらく織斑千冬からもそういった
指示が出ているはずだ」
問答無用の時限爆弾である束の妹や
イギリスの紐つきセシリア・オルコット。
安牌と見せかけて更識の布仏が良い例だ。
『た、確かに。私だって何も知らなければ
中国の紐つきです!』
「だな。まずは正しい状況把握をさせるよう
しっかり誘導しろ。具体的には名刺を渡せ」
コレだけで凰准尉に対する心理的な壁は
かなり低くなるはず。
『名刺ですか?あぁっ!私、冬林技研所属
になってる!』
おいおい。コレが十代女子か。
『准尉・・・後で話があります』
『ひ、ひぃ?!』

「この辺の教育はそちらに任せる」
『はっ！お任せ下さい！』
　流石にはっちゃけ過ぎだ。故に矯正。
「第三に単純に学力と実力の問題だな」
　コレはもう恋愛以前の問題だろう？
『な、なるほど！なんの事前知識もなく、いきなり専門知識と兵器の操作技術を学ぶ学園なんかに入れられたら、恋愛なんかしてられませんよね?!』
　おーおー。必死だな。ま、人間追い詰められた方が走る速度も上がるからな。
　その調子で追い詰めるように。
「そういうことだ。だから今は話を恋愛にもって行くのは不可能。そもそもいきなり目標を落とすなど無理なんだ。まずは外堀を埋める作業を行うのが妥当だろう」
　この外堀が埋まらない限り、夜這いして

既成事実を作る以外に織斑一夏を攻略することはできんよ。

『はっ！ありがとうございます！・・・

それで、この場合の外堀ってなんですか？』

おいおいマジかコイツ。

弟子の顔を見ろ。弟子もマジかコイツって顔をしてるぞ？コレが十代女子の平均って言うなら、いくらなんでも織斑一夏の胃がもたんぞ？・・・マジでヤバくないか？

「・・・大前提として織斑一夏に恋愛をさせるためには、織斑千冬に彼氏を見つけさせる必要がある」

『ち、千冬さんに彼氏ですか？！』

驚いてる驚いてる。確かに俺もアレに彼氏が出来て幸せそうにしてる絵面が想像できんがな。

「自分を苦労して育ててくれた姉が

ずっと独り身で、夜中に一人寂しく
ビール飲んでるんだぞ?そんなところに
彼女連れて行って『俺幸せです?』なんて
言えるような性格してるのか?」
弟魂の織斑千冬としてはそれで本望かもしれんが、姉魂の弟としてはそんなんできんだろうよ。
『さ、流石に無理だと思います』
「そうだろう?つまり織斑千冬をなんとか
しない限り、織斑一夏は恋愛できんのだ」
いっそ姉弟で結婚すればいいのに。
遺伝子情報的にはアレだから問題は
・・・あるのか?どうなんだ?
『あ、あぁ。なるほど』
「逆に言えば織斑千冬が彼氏を作って
織斑一夏に対し『お前に学園を卒業
出来る見通しがたって、就職先も決まり
その上で彼女を紹介してくれたら、

私も自分の幸せを探すことができる』
と言わせれば良いわけだ」
そしたら織斑一夏は全力で勉強して
彼女を探そうとするだろう。
もしくは彼氏を倒す為に鍛えるか？
『は、ハードル高すぎませんか?!』
それが織斑の姉魂だからな。
「いや、ＩＳ学園を卒業したら就職先に
困ることはないし、お前を選んだら
たとえ中退しても冬林技研が待ってる。
だからお前だけはハードルが低いんだよ」
『はっ！そうでした！』
しかもその場合大好きな姉も同じ
職場に転勤だ。もうみんな大喜びじゃないか。
「現状は把握したな？」
『はい！まずは名刺を渡して私は
敵じゃないとアピールしつつ

千冬さんに男を作るよう誘導します！』
ジ○リ映画か何かか？
『准尉・・・』
『え？ち、違うんですか?!』
うん。もうその辺の調整は任せよう。
「間違ってはいない。注意点としては奴の周りにはハニトラ要員が多数いるから、女をアピールしすぎると引かれるだろう。故に今は友情優先で奴の近くに居ることを第一とするんだな」
『だ、大丈夫ですかね？』
「引かれたり嫌われたりしたら意味がない。周りが織斑一夏を狙っている間にお前は姉の織班千冬を味方につけろ」
そうすりゃ最終的にお前の勝ちだ。
『なるほど！』
「味方に付ける方法は多々あるが

コレも急ぎすぎるなよ。織斑千冬は
『弟が幸せになっていないのに恋愛なんか
できるか』とか考えている生粋の弟魂だ」
『めんどくさっ！』
本心が出てるぞー。横で弟子が無表情になってるぞー。
「標的も姉魂拗らせて変な方向に行く
可能性もあるから、そのへんの
見極めは現地でするように。この件に
関しては以上だ」
もう十分だろ。あとはソッチでヤレ。
『はい！ありがとうございます！』
「で、次の案件についてだが」
『え？次ですか??』
『准尉・・・』

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

この阿呆は・・・

「准尉、貴女のクラス代表の件です」

「あ、あぁ！そうですね！」

コイツ、本気で忘れてたな?!

初日でコレって学生気分に浸りすぎだろう?洗脳でもされたのか?

一度地獄で血の池に浸らせるべきじゃないかな?かな?

『少佐、十代女子とはそういうものだ。

それに織斑一夏の攻略は凰准尉に与えられた正式な任務でもある。

クラス代表などと言った案件に割く労力や余裕が有ればソッチに向けると言うのは職務上間違いではない』

まぁ、確かにそうですけど。

確かにそうなんですけどね?

「あ、あはは・・・すみません」

『とはいえ准尉、少佐の我慢にも限界はある。あまりにもハメを外していると判断した場合は少佐の判断で貴官に対する殺傷の許可も出している。つい殺っちゃうことも有るだろうから己の言動には注意を払うように』

「は、はい！」

うむ、流石我が師。引き締めをキチンとしてくれましたし、さらりと殺って良いと言う許可もくれました。殺れないと殺らないでは精神的な負担が違いますからね。

『それでクラス代表だが、なったモノは仕方がない。現地での任務と思いこなすように』

「は、はい！」

なるほど、そう判断なさりましたか。

「クラス代表戦はどうしましょう？
　准尉の場合専用機を使うことに
　なりますが？」
　棄権か出場か・・・まぁ今回はクラス
代表を任務と認識したのですから、
　コレも出場とは思いますが。
『所詮甲龍は国軍が開発した第三世代。
　冬林技研で開発した少佐の水銀の蛇や
俺のＡＣである月狼と違い、所謂見せ
武器でもある。故に見せても構わんよ』
「はいっ！わかりました！」
『ただ、無駄に全性能を見せる必要も
　無い。相手は・・・更識簪が出ないなら
接近戦しかない織斑一夏と凡百の生徒が
使う訓練機だろう？』
「サラシキカンザシ・・・？」
　コイツは本当に織斑しか見ていな

かったか・・・コレを指導
するのが私の仕事なんですよねぇ。
「そうですね。では近接武器のみの
使用を許可します」
「え?えぇ?!」
いや、それで十分でしょう?
『そうだな、まさか完全な素人の
学生や稼働時間が１００時間にも
満たない織斑に近接戦闘で負ける
ようなことはあるまい』
・・・コレは負けたら私まで
矯正されますね。
「ですね。こちらでも調整と訓練は
行いますが、休日には冬林技研にて
錆を落とす必要がありそうです」
「えっ・・・」
不服そうですが・・・まさか見世物

とはいえ兵器を使った作戦行動が
控えているというのに、兵装の調整を
行わないつもりだったんですかね？
「准尉。あまり不抜けていると消すぞ」
別にお前が居なくとも最大目的である
更識簪に対する接触任務は出来たのだ。
極端な話、もうこの学園に来る必要
すらないということを教えてやるか？
「も、申し訳ありませんでしたっ！」
『准尉。さっき言ったばかりだろうが。
ＩＳ学園の生徒に毒されたのか洗脳され
たかは知らんが、准尉は兵器を運用して
いるという自覚が足りん。
学生生活を満喫するのは構わんが、
それはやるべきことを全てこなして
いることが最低条件だ。
中途半端な意識で兵器運用をする奴が

大事故を起こす前に消す。少佐の判断は
大げさでも無ければ間違いでもない』
そうでしょうそうでしょう。
十代女子だからと寛容に接して
ますが無制限に甘やかすという
意味ではないのですよ。
「はっ！申し訳ございません！」
そうですよ。師が許してるとは言え
上官であり上司です。最低限の
礼と言うモノがありますよね。
『では准尉は部屋に戻って休むように
少佐は別件の報告を聞こう』
「はっ！それでは失礼します！
お疲れ様でした！」
『「ご苦労」』
ーーーーーーーーーーーー
お疲れ様でしたか・・・本当に

疲れましたよ。
『弟子よ、アレが１０代女子と言う
生き物だ』
「想像を絶するナマモノですね」
いや、あんなの無理ですって。
さっさと殺しましょうよ。
『我知無知の精神からいけば
アレを理解できればまた成長に
繋がるのかもしれんが、その前に
お前が倒れそうで怖いな』
「えぇ、まだ初日でコレですから、
コレが毎日だと間違いなく倒れるか
その前にその原因を倒すでしょうね」
まぁ初日だからこそって言うのも
あるかもしれませんが・・・
いや、コレはむしろそうあって欲しい
という願望です。

『学校を爆撃する場合は事前連絡を
忘れるなよ？』
「ええ、無論です。少なくとも
更識簪は回収しますよ」
アレは確かにＨＥＮＴＡＩで天才。
金で買える人材ではありませんしね。
『よろしい。明日以降の接触に
期待出来るという事だったが、
本当にアレに対して誰も接触して
いなかったのか？アレだけの才能だぞ？
国が放棄するなどにわかには信じ難い』
「そうですよね。普通は罠を疑い
ますが現地に来てわかりました。
更識が裏で手を回していて、更に
学園内では轡木十蔵も動いていた
ようですね」
泣きながら姉に言われたとか

言ってましたからね。
姉としての不器用な優しさと言うより現実を理解していない小娘の戯言です。相手に伝わらなければイジメでしかありません。
『ほう？鱒木ねぇ・・・なんだコレ当代の更識楯無は馬鹿なのか？』
「少なくとも阿呆で変態ですよ」
何もしないで居なさいって・・・何もしなかったらタダの穀潰しで政略結婚の道具じゃないですか。しかも暗部の宗家のお嬢様です。興味がないような素振りをしても身柄を狙われますよね？
遺伝子情報だって普通に希少です。それにアレだけの才能があって飼い殺しって耐えられるわけ無いでしょう。

『組織ぐるみでシカト?というか
そこまではしてないな冷遇?でもない。
噂を否定しないし、イジメも黙認。
付き人である布仏は普通に友人だし、
家族や先代も死んだわけでもない。
何でこんなアホな決定を認めたんだ?
更識簪の持つ才と力は暗部・・・
というか諜報向きだし、実行者を
婿として迎え入れれば姉よりよっぽど
家の役に立つじゃないか』
本当に何故でしょうね?家督争いでも
無いみたいですし、本人も姉を支える
気でしたし。
埋伏計として利用するための餌かと
思えば、接触すらさせないように
監視と護衛がいるし。
心を折らせて自分の良いように使う

のかと思えば、話を聞けば最初から反発はしてないし、あの性格なら普通に従いますよね。
家族が弱点と思われるって・・・
そうやって突き放す時点で弱みだってバレますよね？
そもそも突き放すなら家系図からいじらなきゃ意味ないでしょ？
本当に中途半端ですよ。
「そうですね。全てにおいて中途半端な姉に比べて、数多くの分野で特出した能力の持ち主ですからサポート役としては最適です」
気質が暗部の当主に向いていないだけで、他の全てを任せることが出来る逸材です。
なんなら兎の代わりに師の側室

として認めても良いくらいですよ。
・・・あれ？中々いい案ですね。
味方に引き入れて更識簪に技術的な補佐をしてもらえば、テロリストの兎がいなくても師の構想を活かすには十分なのではないでしょうか？
『そんな人材とコンタクトが取れて初日で連絡先まで交換できたなら、引き抜き工作としては最良の結果だ。よくやった。流石我が弟子』
ふふふ！そうでしょうそうでしょう！
私は素直で最高の良い弟子ですからねって・・・交換？
「・・・連絡先って交換するものなのですか？コッチは知ってますよね？」
住所氏名電話番号メールアドレス
その他諸々全部調べてますよね？

『・・・そうか。うん。そうだったな』
「え、えぇ」
あれ？何かしくじりました？

――――――――――――――――――――

まぁ、そりゃそうだよな。
弟子にしてみれば相手の情報は
全部知ってるのが当たり前だし、
用があったら呼びつけるんだもんな
『えっと、アレですかね？今から
名刺とかもらって来ましょうか？』
「やめてさしあげろ」
夜中は迷惑だし、色々葛藤とかも
あるだろうし、そもそも相手は
名刺持ってないと思うぞ。
『は、はぁ』

「まぁお前にはそう言う学生としての
人付き合いを学ぶ為に学園に行かせた
というのもあるからな。
徐々に見識を広げていくように」
『はい。わかりました?』
うむ、良くわかってないな
「とりあえず明日だな、
更識簪が授業に出てきたら
「連絡先の交換をしましょう」
と言って連絡先を交換しとけ」
『はっ!』
モンペじゃねぇんだから、ここ
まで指図するのは本来ダメなんだ
けどなぁ。
かといって常識の教育っていうのも
難しいもんだし。
この辺は准尉と・・・あぁ、更識簪も

お嬢様だから色々話も合うだろう。
うん、仲良くしてくれることを祈ろうか。
「あと、連休中に行く旅行先の
リストを送るから行きたいところを
チェックしておけよ」
ＩＳ学園って土日休みで夏休みもＧＷも
あるんだよなぁ。
真面目に兵器運用する気無いだろ？
普通の学校が休みのときに授業を
進めないと一般科目と専門科目の
両立って不可能だと思うんだが？
『は、はい！チェックします！』
うむ、コイツはコイツで働き過ぎ
だからな。
休ませてやろうじゃないか。
「そこには日本国内しかないが、
要望があれば他の国でも大丈夫だ。

ゆっくり考えてくれ」
『はい！ゆっくり考えます！
ありがとうございます！』
うむうむ、考える時間が一番
楽しいって言うしな。
夜くらいゆっくりすると良いさ

ーーーーーーーーーーーーーー

へぇ？ゴールデンウィークに旅行とな？
束さんだってリー君とそんなことした

思い出がないのに？
ふふふ、この束さんを差し置いて
しーちゃんだけ良い思いはさせないんだよ！
日本が誰の地元か思い出させてあげよう！

第9話

「かんちゃーん。まだ寝ないのー？」
「・・・うん、今日はちょっとお昼寝したからまだ眠くないんだ。本音は先に寝てて良いよ」
司馬さんに今日は戻って休めって言われてから、部屋に帰ってきたけど、ここ最近じゃ考えられないくらいスゴク・ゆっくり休めたんだよね。
「・・・いっつもみたいに無理して作業しちゃだめだよー。それじゃーおやすみぃ」
「うん。おやすみなさい」
・・・更識の監視か。実際本音も虚に積極的には報告とかしてないみたい

だけど、ソレはあくまで織斑が同じ
クラスに居るから。
単純に私への優先順位が下がった
だけなんだよね。
おそらくこの部屋にだって監視
カメラや盗聴器も沢山あるだろうし。
それも本音に場所を教え無いようにして
るよね?本音に確認しても私に知られない
ようにそれらを設置してるはず。
・・・冬林技研への接触はどうしよう。
まさかトイレとかに仕掛けては
ないと思うけど、暗部だしなぁ。
正直言って倉持は信用出来ないし
その後ろにいる更識も政府も信用
できないし、したくない。
他の人ならともかく、司馬さんから
見て更識に興味が無いって言うのは

本当だよね。
つ、つまり、あのスカウトも本当で。
冬林技研は本当に私の才能が
欲しいってことなんだよね？
そうじゃなかったらこの研究室への
直通の番号とか、ましてや司馬さん
直通の番号なんか絶対にもらえない！
・・・つい端末に打ち込んだ番号を
凝視しちゃったけど、どうしよう。
こんな時間に司馬さんに
直接連絡はシツレイだよね？
コッチの研究室の番号は・・・
『連中は２４時間３６５日誰かが
作業しています。何時でも連絡をして
構いません』って言われたんだよね。
流石世界に名立たる冬林技研の
根幹を支える天才たちの巣窟！

ふ、ふふふ。私もその一員に名を連ねるのにふさわしいって思われたんだね。

こんなの言われたの初めてだけど、嘘とかお世辞なんかじゃないのはわかった。

あの人はそんなことをするような人じゃない。

それに本音や虚みたいな同情混じりの慰めでも無かった。

事実をありのまま。思ったことをそのまま真っ直ぐに伝えてくれた。

それに自分に都合が良いようなことでさえ「あくまで予測」とか言って、私に日本や更識に対する悪意を植え付けようともして無かった。

アレは自分で考えて決断しろって

言う意味なんだよね？
私は自分で選んで動いても良いんだよね。
司馬さんから見て、私にはそれだけの
価値があるんだから！
それにロマン兵器の才能・・・
まさか○野サーカスやナ○トー
ミサイルに興味を示す人が他にも
居たなんて！それも副所長さんとか！
確かに私は視野が狭くなってたね。
私もお姉ちゃんみたいに一人でＩＳを
作ってやるって思ってたけど、実際
設備や資材は一人ではどうにもならない。
つまりお姉ちゃんが一人でＩＳを完成
させたっていうのは嘘！
最低でも日本かロシアの設備と
資材の提供を受けてるじゃん！
なんで気付かなかったんだろ。

まぁ私はソレを真に受けた馬鹿だけど、
その結果一人で、しかも学校の設備で
第3世代機をあそこまで完成させた。
自信を持て更識簪。司馬さんも言ってた。
私は自己評価が低すぎるって。
周囲の評価は更識や政府が手を加えた
からだけど、自己評価は自分の出した
結果から生まれるモノ。
そして私は司馬さんに選ばれた！
その結果を誇れ。そして評価しろ。
殻を破れ、螺旋の力で壁を貫け！
小宇宙を燃やすんだ!!」
『螺旋の力は本来天井を壊すモノだし、
小宇宙も・・・そこで燃やす分には
良いですが、原子を砕くような一撃
は控えたほうが良いでしょうね』
「あひゃい?!」

ーーーーーーーーーーーーーーーー

あひゃいって・・・
なんかいきなり俺の研究室直通の
電話が鳴ったと思ったら、更識簪が
一人で燃えてた件について
『あ、あの、どちら様でしょうか?』
ふむ、そっちから電話をかけてきて
このリアクション・・・新しいな。
「こちら冬林技研副所長の李文優です。
そちらは更識簪さんかと推測しますが?」
推測もなにも、わかってるがな。
『は、はい!こちら更識簪です!』
無線か。
「ご丁寧にどうも。今回はウチの司馬
から聞いた連絡先へそちらがご連絡を

入れて下さったと思っているのですが？」
『わ、私が冬林技研に連絡?!
あっ！通話になってる!!』
あぁ、なるほど。電話番号を端末に
入れてニヤニヤしてたら、いつの間
にか自分の世界に入ってて、気付かぬ
内に通話ボタン押してたか。
・・・コイツ、持ってるなぁ。
「細かい経緯はわかりませんが、早速
ご連絡を頂けたことは歓迎しますよ」
いや、さっきの様子は見てたが
まさか初日の接触でここまで影響
を与えるとは。
今までどんだけ冷や飯食ってきたんだ？
『あ、えっと、その、や、夜分遅くに申し訳・・・』
「あぁ、気になさらず。時差の
関係でこちらはまだ夕方ですから」

実際は夜だが、まぁこのくらいはな
『そ、そうなんですね！えっと、あのですね！』
コレはあれか。緊張と恥ずかしさで
ダメになってるパターンか。
それに男にも慣れてないな。
押すだけ押して、ちょっと引くのが効果的と見た。
「落ち着いてください。別に壁を壊そうが
小宇宙を燃やそうが構いませんから」
『あうっ！』
これ以上の恥はないから安心しろってな。
「それに実際我々は貴女を認めてます。
問題があるとすれば・・・」
『あ、あるとすれば・・・？』
「どこの研究室に所属させるか、なんですよね」
これが悩みどころなんだよな。
各種才能があるからどうしても
適性で振り分けるって言うわけ

にもいかんし。
『え?あの、やっぱり私は冬林技研に・・・所属出来ないんですか?』
あぁ勘違いさせるような言い方はいかんな。ヘタに引っ張ると勘違いして、説明を聞く前に電話を切って一晩泣くパターンか?
「いえ、皆が更識簪という逸材を欲してましてね。
争奪戦が行われそうなんですよ」
特にアリサワとキサラギがな。
『そ、争奪戦?!』
「ええ、貴女を巡っての争奪戦ですね。
なんと言えば良いですかねぇ?
日本のお嬢さんだと、ドラフト会議で複数の球団に一位指名された選手を争っている状況を想像してもらえれば

わかりやすいですか？」
この辺どうだろう？野球に興味がなくても、なんとなく分かってもらえると思うが。
なにせ相手は１０代女子。予測なんか出来んナマモノだからな。
『な、なんとなくわかりました！』
ふむ、それは重畳。
「あぁそれと、この電話は盗聴とかはされませんのでご安心ください」
これ言うの忘れてた。先に言っておいたほうが忌憚のない意見を聞かせてもらえるだろうし。
『そ、そうなんですね！』
「今更ですがこちらからかけ直しましょうか？国際電話ですから電話料金もかかりますし」
誰が払うか知らんが、こういう

心理的負担は減らしてやらんとな
『あ、はい！すみませんがよろしくお願いします！』
「ええ、では一度切りますね」
ま、少しずつ話をしていこうじゃないか。
初日に全部終わるなんてことはないんだからな。
――――――――――――

ま、まさか端末を通話状態に
しちゃうなんて！
しかも螺旋の力とか小宇宙とか聞かれたし！
あれ？でもこの人、別に笑ったり、
下に見たり、何言ってんだコイツ？
みたいなこと言わなかったよね？
むしろ天井を穿つとか原子を砕くとか
細かい設定まで理解してなかった？
「あ、あの、それで副所長さんは
どこから聞いてました？」

て言うかどこから口に出してたの?
『流石は・・・天才たちの巣窟!からですね』
連絡先見てからほぼ全部だ?!
『考えを口に出すのは技術者
にはありがちなことです。
さらにお若いですからね。
評価されれば嬉しいのも当たり前。
特に恥ずかしがることはありませんよ』
「あ、はい・・・どうもありがとう
ございます」
な、慰められた?それとも普通に
よくあることだから流した?
ま、まぁ盗聴されてないから
大丈夫だね!
あ、でもあくまで電話での会話で
あって、集音されたらバレるよね。
それに本音も寝てるとは限らないし。

だ、だけどあんまり待たせちゃシツレイだよね！

『ん？別に急いでませんから、落ち着いてゆっくり考えて下さってかまいませんよ？』

読まれた?!電話口だよ!?

『あぁ、この辺は経験ですよ。ウチの司馬もできるでしょ？』

「あ、はい」

そ、そうなのか。経験なんだ。

『電話口だけで大きな商談が決まる場合もありますからね。立場上必須なんですよ。実際私以外にも、大体のお偉いさんは電話口の相手の思考を予想したりしていますよ』

……なるほど。そう言われればそうだよね。

世界を相手にしてるヒトが私の
思考を読めないわけがない、か。
『とりあえず今日の連絡は、移籍した
場合の上司がどんなニンゲンなのか？
どんな条件での移籍になるのか？
メリット・デメリットの確認と
いった感じで目的を定めて見るのを
おすすめします』
「あ、はい」
なんか「あ、はい」しか言ってない
気がするけど、実際それしか言えないよね！
『それと目上で年上の異性が相手の
電話ですから緊張するのは当然です。
むしろ緊張を隠して虚勢を張るより
そうして貰った方がこちらもやりやすい。
あぁこの場合のやりやすいと言うのは
こちらから話題を提供した方が話をし

易いだろうなと判断ができるという
意味ですよ？』
「あ、はい」
き、気を遣ってもらってるよ。
メッチャ気遣ってもらってるよぉ。

ーーーーーーーーーーーーーーーー

「あ、はい」しか言えない状況か。
まぁ彼女の立場からすればそうだろうな。
とはいえ、ずっとこのやりとりを
するわけにもいかん。
対象の緊張を和らげるためと思えばソレも
有りだが、さすがにそこまで暇じゃないし。
とりあえず話を進めようか。
「先程も言いましたが、移籍した場合の
上司については、それぞれの研究室の

争奪戦が終わった後になるので、暫くは
少佐・・・司馬が貴女の上司になります」
いきなり訳のわからんＨＥＮＴＡＩの巣窟に
投げ込まれるよりはこの方が良いだろ。
それに弟子の近くにいればヤツらも
暴走しないだろ。
『し、司馬さんですか！それは助かります！』
そりゃそうだよなぁ。
「司馬の上司が私なので、人間関係
としては司馬とコミュニケーション
を取れてれば組織上問題はありません」
貴重な友人として頑張って欲しい。
『な、なるほど！』
コイツも「コミュ障」とまでは言わんが
随分周りにヤられて来たからなぁ。
最初は出来るだけ接触は少なくて
良いだろうよ。

……ウチのＨＥＮＴＡＩ共が色々ぶち壊す可能性が高いが、今はダメだ。
折角の才能に逃げられたら困るし。
なんたって弟子の成果だからな。
それが連中のせいで逃げたら切れるだろ。
「それで、次は就労条件ですね。
この辺は通常の新入社員扱いか、
ＩＳ操縦者扱いかによって変わるのですが
一般の場合は基本給１９３，０００円（税込）
からです。各種保険や手当については名刺に
書いてあるホームページに飛んで貰って確認
お願いします」
カーレ○ジャーのレッドもびっくりの
高待遇だぞ！
『は、はい！』
「ＩＳ搭乗者の場合は、また色々と
ありまして、コレは電話口でささっと

説明できるモノではありません」
『で、ですよね』
だがしかし
「本来なら資料請求が必要になるのですが、更識さんは運がいい！」
気分はチャイ○ネット！
『え？運ですか？』
コイツ、今までは相当運とか巡り合わせが悪かったからなぁ。
「今回はわかりやすい例がいるんです」
まさかこんな形で役に立つとは
アイツは弟子に胃痛を与えるだけの存在じゃなかったな。
『えと、いるんですか？あるんじゃなく？』
ほほう、緊張していながらもしっかり相手の話を聞いて問題点を理解してるか。
いいねぇ。優秀だねぇ。

「えぇ、いるんです。具体的には
貴女が所属するＩＳ学園の1年2組に
いる鳳鈴音准尉と同じ待遇になります」
『鳳鈴音・・・中国の代表候補生?!』
しかも情報も集めている。本当に逸材だ。
日本はなんでこの才能を野放しにしている?

ーーーーーーーーーーーーーー

中国の国家代表候補生と同じ待遇?
ど、どういうことだってばよ?
『給料は技術士官としての給料です。
あと専用機も当然用意することに
なりますが・・・』
専用機?!でもなりますが・・・
ってことは、やっぱり難しいよね。
『貴女が今製作中の機体はコアごと

倉持に返却してもらいます
当然初期化もしてもらいますよ』
え？倉持に？なんで？じゃあ
専用機はどうなるの？
『そもそも貴女がいじってるコアは
現在貴女に貸し出されてますが、
所有権はあくまで倉持にあります』
あ、司馬さんもそう言ってたね。
『連中は貴女が完成させることはないと
判断してましたが、ソレでも途中まで
作ったモノをそのまま自分たちのモノ
にするつもりでしたね』
「・・・なんっ！」
そうかソウカそうか！そう言うことか！
ソレはそうだ！司馬さんは言わなかった
けど、あのままどこかの研究所を借りて
完成させても、その所有権は連中のモノ！

自分たちは織斑に専念して、どうでも
いい私に「勝手に作れ」って言ってコアを
貸して!もし誰かの助力で完成出来たり、
連中が思った以上の性能があったら
奴らが持っていくつもりだったんだ!
コアもどうせ研究しないで放置するコア
だから、私にやらせれば損はしない!
これは倉持の提案を日本政府が飲んだ?
もしくは日本政府が倉持に持ちかけた?
どっちにしろ更識が動いたのは
間違いない!・・・本音や虚が手伝うと
言ったのはコレもあったからか!
『卑怯で汚いのが大人と言うモノです。
アナタも感情に走って行動を起こして
はいけませんよ?大人はそういう行動
すら予測して策を練るのですから』
「・・・はい」

それを言ったらコノ人も?
『もちろんです。我々も得があるから
こそ、こうして貴女と交渉してます』
あぅ・・・読まれるんだった。
『それでも少なくともこうして交渉
しているだけ、日本政府や倉持より
マシだと自負してますよ?』
それはそうだ。質問にも答えて
もらえるし考える時間もちゃんとくれるし。
「ちなみに私をスカウトが成功したとして
そちらにはどんな得があるんですか?」
交渉相手に聞くことじゃないけど。
私には一切の知識がない。
本当か嘘かを見抜く以前の問題。
だからこそコノ人が教えてくれる
内容を聞きたい。
それから判断したいんだよね。

『交渉相手に聞くことではありませんが
それを理解した上でなら・・・まぁ
口説いてるのはこちらですからね
誠意を見せるべきでしょう』
「くどっ・・・そ、そうですね！」
あくまで技術者として！ＩＳ操縦者と
してなんだから！
『得としては簡単です。天才を
腐らせることなく抱え込めます』
・・・そうだった。そもそも
この人たちは私の身柄が目的
なんだよね。隠してないじゃない。
『加えて言えば、こうして我々が接触した
ことで貴女の才能に気付いた日本政府や
倉持に持っていかれるのは癪だ、というのも
ありますね』
「・・・なるほど」

このままじゃ私が他に行っちゃうもんね。
飼い殺しにしようとした更識にとっては痛手。
連中から指摘を受けた倉持がこれから
支援してくるかもしれないし・・・
『たとえばの話になりますが、今日司馬が
貴女に接触したことで焦った学園長あたりが
公衆の面前で「今までごめんなさい」とか
言って謝罪するなどして、貴女に反論できない
ような空気を作り、そのままなし崩し的に
貴女を囲うような環境を作ってくることも
予想されます』
「そうですか。そう来ますか」
学園の教師共も動くかもしれないのか。
教師と縁のある企業の設備や資材を
使わせてやるって感じで恩を着せて
くる可能性だってある。
それで出来上がった機体を感動の

物語で彩って、私から奪う気か！
『まぁあくまで予想です。当然
今まで通り監視だけに留める
可能性もあります』
「それは私が倉持のＩＳコアを持ってる
限り、連中の掌の上に居るからですか？」
あのコアに拘る限り私はずっと
連中の作った檻の中に居るんだ。
『その通りです』
なら、それなら捨ててやる！
「じゃあコアを返却した場合、私の
専用機はどうなりますか？」
中国の代表候補生と同じ扱いで
専用機をくれるって言ったのは
嘘じゃないはず。だってそんな嘘
ついてもこの人たちには得がない。
『無論コアはこちらで用意します。

中国ではなく冬林のコアですから、
貴女が従うのは司馬だけになりますね』
それは・・・別に悪くないよね？
『いや、貴女が頑張って手に入れた
日本の代表候補生という立場も
辞めてもらうことになるんですよ？』
「え？別に良いですよ？」
代表候補生になったからって何か
支援してもらったわけじゃ無いし。
むしろ虐められたし。専用機はコレだし。
『あぁ、その歳で苦労してますね』
「・・・どうも」
スゴク同情されてるけど不快じゃない。
これは今までの連中みたいに、他人事
としての上から目線の同情じゃないから？
少なくともこの人たちは同じ目線。
いや、上からだけど手を差し伸べて

くれてるもん。
現状を認識させてくれて、その解決策を提示してくれて・・・その上で無理やり歩かせんるんじゃなく自分の意思で選べって言ってるんだよね。
うん、大人は汚くて卑怯って言うけど、この人たちは汚さの種類が違うんだ。
卑怯のスケールも違うんだ。
自分達だけじゃなく、私にもしっかり利益を用意した上での引き抜き工作。
うん冬林技研に所属させてもらおう！
もともと悩むことでもなかったけど、コノ人たちになら利用されても笑って許せる気がする！
「よ、よろしくお願いします！」
『いや、いきなりよろしくと言われてもリアクションに困るんですが』

「あぅ・・・」
読まれること前提にしてたけど
・・・そりゃそうだよねぇ。
ーーーーーーーーーーーーーー
『あぅ・・・』
いやなんとなくわかるぞ？
しかし話の流れをぶった斬るとか
じゃなく、頭の中を読まれてることを
前提にして会話を飛ばすとは・・・
コイツ、やるな。
「なんにせよ決断してくれたのは我々に
とっても嬉しいことです。ですが勢い
と気の迷いと言うこともあります」
『そんなことないです！』
おーおー。熱いことで。
まぁ今の状態を鑑みれば、彼女にとって
今回のスカウトは正しく蜘蛛の糸。

地獄から抜けだせるなら熱くもなる、か。
だが古巣の連中ってのは意外と
面倒なもんだ。それも同室の布仏は
そういう情緒に訴えかける専門家。
「私も貴女を疑ってるわけではありませんよ。
しかし本気なら本気で用意しなくてはいけない
モノが多々あります。
とりあえず今日は休んで明日にでも司馬に
貴女の連絡先を教えてやってもらえませんか？」
とりあえず一日ゆっくり考えろ。
実際用意するものといえば・・・
何だ？個室？それとも鳳准尉と
同じ部屋に移すか？
『あ、そうでした！私、司馬さん
から連絡先をもらったのにコッチ
は何も渡してない・・・』
さすがボッチ。所属云々より

そっちを気にするか。

「なんだかんだで司馬とも今日が初対面でしたからね。そもそも年頃の娘さんにとって無理に交換するようなモノでもないですし」

『無理なんかじゃないです！是非交換させてください!!』

さすがぼっち（ｒｙ

「それは良かった。司馬も編入したばかりで友人が少ないですからね。是非とも仲良くしてやってください」

『はい！よろしくお願いします！』

いや、だから、俺に言ってもなぁ・・・

――――――――――――――――――――

「で、束。お前は更識簪をどう思う？」

『あれ？束さんが聞いてたのバレた？』

当たり前だ。態々特殊な波長出して
向こうの機器を全損させただろうに。
「アレは耳に響くんだよ」
『え～あの周波って普通の人間には
聞こえない音域なんだけどなぁ～？』
何が普通の人間だ。
「俺もお前も普通じゃないだろうが」
人間であることは否定せんが、自覚
しないとＨＥＮＴＡＩ連中の仲間入りだ。
『否定はしないけどさ～』
「で、質問の答えは？」
コイツから見て更識簪という
才能はどう見えるんだろうな。
『う～ん、あの学園の設備でコレかぁ。
中々良いんじゃないかな？
方向性を決めれば火星の計画にも使え
るし小惑星探査機の方に回してもいい

と思うけどさぁ～』

あまり好意的ではないな。

「現時点で宇宙に興味を抱いて無いのが問題か？」

『そうなんだよねぇ～』

やはりそうか。しかしアレは今までの

環境が悪かっただけだ。

なにせ姉のせいで視野が狭まったせいで

目の前しか見てこなかったし、周囲の連中も

宇宙を見るような連中じゃないからな。

凰准尉に関しては、そもそも彼女自身が

織斑姉弟の知り合いであることや、

学園内での恋愛は妹を応援しているが、

その後の生活やら何やらを考えれば

冬林技研とも伝手が有ったほうが姉弟の

ためになると理解してるからこその黙認。

「内部に抱えるにはまだ早いって

のはわかる。だがアレが宇宙に

目を向けた場合、お前の補佐が
できる程度の力はあると思わんか？」
『ん～ソレは否定はしないよ～？
クーちゃんもお休み欲しいだろうし
束さんも【連休】とか欲しいし！』
連休を強調してきたか。
ふむ。束は学校があるわけでもないし
仕事も自分のペースでできるもんな。
ＧＷが終わったら連休をやれば
良いだけの話なんだが・・・
問題は俺の休みか？
いや、別に休んでも良いんだが。
むしろ休まなきゃダメなんだが。
俺が居ないと暴走する連中がいるからなぁ。
「連休についてはわかった。
後で日程を合わせるから行きたい
ところがあったら決めとけ」

『ひゃっほーい！流石リー君！愛してる～！』
素直でわかりやすいんだが、
その分コイツは壊れやすい。
周りが捻じ曲がった連中しか
居なかったから捻じ曲がったまま
形が決まってしまった。
早熟なのも災いしたな。
ま、別に俺は正義の味方じゃ
ないから、好きにヤらせるけど。
弟子にも程よい刺激になるしな。
「とりあえず更識簪についてだな。
彼女はようやく日本と更識が作った檻から
開放されたんだ。
これからの教育次第だと思って
長い目で見てやれ」
『う～ん。周りが馬鹿しか居なかったんなら
シカタナイネ！こっちにきたなら

束さんが直々に宇宙の良さを、骨の
髄まで教えてあげようじゃないか！』
昔はともかく、今のコイツは宇宙に
目を向ければ同士。それ以外は敵か
ゴミか予備軍だ。これほど
わかりやすい価値基準は無い。
つまり同士予備軍だと思えば壊さない。
実際いきなり教育させるようなことは
しないが、いずれ教育はおこなうぞ。
「安心しろ束」
『ほぇ？何が？』
「お前が教育するまでもないってことだ。
なにせ技術者で宇宙に興味が無いヤツ
なんかこの世に存在しないんだからな」
つーか存在する意味がない！
『あ、あはははは！そーだよね！
ソレが当たり前だよね！流石リー君！』

当たり前じゃないか。簪だって
宇宙戦艦に興味があるはずだ！
あとは所属組織の都合だが・・・
ガキじゃねーんだ。そんな組織に
所属した自分を呪え。

『うんうん、リー君が言ったと〜り！
宇宙に興味を持たない技術者に存在
する価値なんかないんだよ！』

第10話

師に旅行先のリストを渡されましたが
アレは私を気遣い日本の観光地の中でも
メジャーな、言ってしまえば外れがない
場所をピックアップしてましたね。
いや気遣いは嬉しいのですが、基本的に
私は師が居れば何処だって良いのです。
ならば師が喜びそうなところを選ぶのが
良い弟子と言うモノでしょう。
師の趣味は多数ありますが、この日本に
有るモノの中では農林水産業の存在こそ
師にとっての最大の魅力があるコンテンツ！
実際リストの中にも試される大地がありました！
しかし師の嗜好を考えると、メジャーどころ
よりもマイナーな観光地を喜びます。

日本の観光地は他の国とは違い、マイナー
どころでも施設はしっかりしてるんですよね。
普通は予算削減で手抜きするのにねぇ。
マイナーなところや険しい立地にある温泉を
秘湯と表現して客を呼び込むと言う発想は
日本人にしかありませんよ。
秘湯の凄いところは、険しい道に対して
施設やサービスが充実してるところです。
中〇や韓〇なんか疲れて辿り着いたところが
寂れた民宿モドキで、食事も地元の旬の
野菜どころか、産地や賞味期限すら怪しい
モノを「熱すれば良いだろ」と言わんばかりの
調理をして出してきますからね。
辛味と苦味で誤魔化しますが、素材の味
なんか確かめようモノなら普通に吐きます。
最高で、その日に山で採れた野菜ですからね。
日本の場合素材の時点で品種改良に品種改良を

重ねたモノですから、野菜すら甘い。
しかも○国や○国と違い、空気が澄んでますから、余計なモノが溶け込まないんでしょう。
土や水も綺麗です。
土と水と空気が綺麗で、病的な拘りをもって品種改良までしてる農作物が不味いわけがないんですよねぇ。米や小麦の味すら違うし。
大体米の銘柄多すぎです。都道府県ごとに自慢の銘柄があるって何ですか?
全部ササニシキじゃ無いんですね。
しかも同じササニシキでも地域によって味が違うとか、炊くときの水の量が違う?
しかも日本人の大半は銘柄による味の違いに気付くって。もうソムリエですか?
さらに炊飯器に至っては・・・何考えてるんですかね?釜と同じ?釜を買いなさい。
パンが出来る?炊飯しなさいって話です。

ま、まぁそんなＨＥＮＴＡＩ　技術に支えられた
日本のマイナーな観光地ですが、流石に
ただの田舎を回っても意味が無い。
あくまで観光なんです。故に目指すは
マイナーながらメジャーでニッチな観光地。
日本人ですら「え、そこ？」と言うような
場所こそ、師に取っての正解っ！
いやはや、長い戦いでした。日本に来ると
決まってから一月足らずでしたが、日本
支部の連中にも情報を募り、師が喜びそう
な場所を見つけましたよ。
東日本に候補は三つ！
ひとつ、伝説の秘境グンマー！
ふたつ、黄金の離島サド！
みっつ、陸の孤島アキタ！
ふふふ、私が特にオススメするのは
陸の孤島アキタです。

このマイナーさ加減はかなりのモノですよ?
有名なのは、トーホクなのにカントー祭り!
そしてアキタの山に住むアカカブトを主食に
すると言うナマハゲ!
ふ、ふ、ふ。コレで一体何を観光すれば
良いのでしょうね?見当もつきません!
あとは食糧自給率を高める為に態々日本で
二位の面積を誇った湖を埋め立てて
造ったにも関わらず、政府の減反政策に
よって存在意義と都市構想が根こそぎ
破壊されたオオガタムラ!
それでもあえて稲作を辞めない
農家諸君の背中には意地と誇り
だけじゃないナニかを感じること
が出来るでしょう!
それに何気に農業に関して、日本で一番な
モノは無くともそれなりの成果はあるし、

何故か上層部に中○や韓○に対する
理解が深いんですよねぇ。
いや、まぁ海を越えたら隣国ですから、
そりゃ気を使うのもわかりますが、
まずは国内に目を向けるべきだと思いますよ?
さて、ではアキタについての情報を・・・
ほほう、オーガ半島にはＵＦＯの発着場が・・・
「し、司馬さん!おはようございます!」
ん?この浦安で大騒ぎしてそうな声は
更識簪?
おはようって・・・０６：３０ですか。
なかなか規則正しい生活をしている
ようで何より。
朝の調練の誘いですかね?
学生のコミュニケーションは難しい
ですが、コレもまた我知無知の哲学で
迎え撃とうではありませんか。

師からも連絡先の交換をするよう
言われてますしね。

ーーーーーーーーーーーーーー

「少々お待ちください」
「は、はいっ！」
つ、つい来ちゃったけど、まだ
０６：３０だよ！どうしよう！
こんな朝早くに来て連絡先交換して
ください！って絶対おかしいよね？
あーうー！
「おはようございます。昨日は初対面で
慌ただしくてすみませんでしたね」
うわ！先にアイサツされちゃった！
「オハヨウゴザイマス！あの！
コッチこそいきなり泣き出して
スミマセンデシタ！」

司馬さんもどうしていいか分からないって感じだったもんね！

「あぁまぁ、貴女の境遇を考えれば無理はありません。まぁ立ち話もなんですから、とりあえず中へどうぞ」

そ、そうだよね！朝から騒がしくしてたら周りに迷惑だよね！

「お、お邪魔します・・・」

お邪魔しますなんて言ったの何年ぶりだろ？本音は同じ家だし、友達なんて居なかったからなぁ。

ーーーーーーーーーーーーーー

なんか後ろに影が見えますが、いきなり過去を思い出して一人で暗くなられましてもねぇ。

「それで、今日は貴女から訪問
していただいたわけですが、
ご用向きは何でしょう？朝の調練
へのお誘いでしょうか？」
日本の暗部である更識が行う調練。
興味が無いといえば嘘になります。
「あ、調練とかじゃなくてですね」
ん？それ以外だと何があるのでしょうか？
「えっと、昨日副所長さんと連絡を
取らせてもらいまして・・・」
「ほほう」
まさか初日で動くとは、この私の
予測を越えてきましたね。
流石はＨＥＮＴＡＩに認められし天才。
「それで、冬林技研に所属したいなって」
ほうほう。まぁ師に直接説得をされてなお
首を横に振るようなら、私がそのまま

捩じ切ってますからね。
「なるほど。手前味噌ではありますが良い決断だと思いますよ？我々にしても貴女にしても実際これだけの天才を抱え込めるほど更識や倉持の器は大きくありません。器が壊れるか、中身が腐るかなら、もっと大きな器に移すのは当然です。
「はい、私もそう思いました！
それで、私の上司は司馬さんになるって言われたのでご挨拶をと思って来たんです！」
おおぅ。喋ってるうちにテンション上がってきましたか。
これも技術者の癖ですよねぇ。
「ふむ、そういえばまだ所属する研究室が決まってませんでしたね」
初日で引き抜きできるなんて誰も

考えてませんでしたからねぇ。
しかし流石我が師。私の工作を
完全に引き継いで篭絡してますよ。
「はい！なんでも私を巡って研究室の方々が
争奪戦みたいなことをしてるって言ってました！」
うむ、しっかり自分の評価を受け入れ
てますね。昨日の「私なんて・・・」とか
無意味な遠慮が無くなってます。
アレは見ていてイラっとするから、正直
非常に助かりますよ。
「ですね。才能と適正がありすぎるのも困ったものです」
これが鳳准尉のように搭乗者としての
才能しか無いのなら話は簡単だった
んですけどね。
「え、えっと。今までそういう評価を
してもらったことが無いので、私も
何と言って良いのか・・・」

はぁ。これが遠慮じゃなく事実ですからねぇ。
「今までは師に恵まれませんでしたね。
安心なさい。副所長は凡百の師など
１０００人集まってもまだ足りぬ方。
今後は貴女も正しく導いてくれること
でしょう」
本当にこの国の連中は・・・更識簪の
周囲に居た人間の目は節穴揃いでしたね。
全員の目をくり抜いて焼却して、義眼に
してやった方が良いと思うんですけど。
「あ、た、確かに副所長さんって言う
よりは先生って感じの人ですよね！」
ほう、短時間の接触で師の教育者たる
本質に気が付くとは。やりおる。
コイツ、兎より絶対側室に向いてますよ。
「ええ、あの方は自らを教育者と定め
てますからね。才を見定めたモノを

弟子として育てることが趣味なのです。」
農業もそうなんでしょうね。「育てる」
そして「育つ」ということに喜びを
感じるのでしょう。
「な、なるほど！」
「とりあえず貴女のＩＳコアについて
の話は聞きましたか？」
師は交渉の最初にデメリットをきちんと提示
する方ですから、本来その辺の心配は不要
なのですが、相手が１０代女子というのがね。
自分に都合の良いように記憶を改竄されても困ります。
「はい！倉持や日本に私の手が入ったＩＳコアを渡す気はありません！」
・・・素晴らしい。倉持に対する
憎しみは勿論、日本政府に対する
疑惑が憎しみの域にまで届いてます。
「結構。では今日は授業を休んで、各種手続きといきましょうか」
本来ならゆっくり追い込むつもりでしたが、

今回はさっさと逃げ道を塞ぐべきです。
鉄は熱いうちに打つのですよ。
「え？良いんですか?!」
うむ、コレは自分が授業を休むこと
ではなく、私が授業を休むことに
対する遠慮ですか。
気遣いは必要ですが、今回は不要です。
「これでも大学を出てますからね。
それに技術者としてもＩＳ学園で学ぶ
ことなどありません」
なにが悲しくて初心者用の参考書を
本気で素人と一緒に読まなきゃいけ
ないんですか。
「えっと、それじゃ司馬さんは一体
何をしに来たんです？織斑ですか？」
まぁ、普通に考えればそうなりますよね。
「織斑になど興味はありません。

私の仕事は貴女のスカウトと
鳳准尉の機体調整です。あぁ一応
学園の監査という任務もありますが」
元々は織斑一夏に対する接触任務
だったらしいですが、そのような
命令を発行した馬鹿はすでに居ません。
直接の上司である技術大佐という役職を
もつ師からも、更識簪の勧誘以外は好きに
しろと言われてますからね。
二日目でミッションコンプリートです。
「な、なるほど！」
「比重としては貴女が9割ですよ」
「そ、そうなんですね！」
そうなんです。
実際甲龍とかいう木偶に関しては、調整
どころか全部弄る必要がありますからね。
鳳准尉もへんに今の機体に慣れて

しまうと、色々劣化してしまいます。
軍部はなんであんな欠陥機を出して
きたのか・・もう一歩踏み込めば
対ＩＳ用の兵器の開発も出来たでしょうに。
ま、それが連中の限界なんですがね。
「そんな9割の比重を持つ貴女に
関する手続きをするのです。
授業など出ていられませんよ」
更識や理事長が動く前に全てを終わらせる。
ふふふ。誰が相手でも戦わずに、いえ
戦わせずに勝つのは相変わらずです。
ですが師にとっては当たり前のことを
当たり前にしているだけに過ぎません。
轡木十蔵が真の意味で師の怖さを
知るのは何時でしょうかねぇ？
「よ、よろしくお願いします！」
おっと、まずはコッチを確実に

終わらせましょう。
段取り八分とは言いますが、
言い換えれば二分をしくじれば
失敗すると言うことですからね。
日本の役所が業務を開始するのは
０９：００から。
それまでに全部書類を書かせて提出
させましょうか。
「まずは代表候補生を辞退する為の
書類と倉持への書類を用意しましょう」
「はい！書式はコレですよね？」
「ええ。それです」
ふふふ。これで完璧。あとは旅行先を
考えれば・・そういえばコイツは
生粋の日本人でＨＥＮＴＡＩでしたね。
もしかしたら師が喜びそうな場所も知ってるのでは？
次回以降の旅行先も考えねばなりません

からね。大事に使いましょう。

――――――――――――――――

またやられた・・・

「か、簪ちゃんが代表候補生を辞退?!」

二人で授業を休んだのは知っていたが、

まさか早朝の一発目からコレか。

「その上、ＩＳコアを倉持に返却?!」

これは完全に日本と倉持に対する決別。

しかも退学後の所属先まで用意しているとは。

「それで冬林技研の日本支部へ就職?!

しかもＩＳ学園への退学届け?!」

いやはや徹底している。これは金輪際

お前らとは関わらないと言う意思表示。

実際彼女が冬林技研へ所属すること以外は

想定していなければいけない事柄だった。

しかし、接触したのは昨日だぞ?

初日に代表候補生の引き抜きが
終わるって、一体連中は何をした?!
「十蔵さん!抗議を!抗議をしないと!」
「・・・何と言って?」
実際考えましたけどね。全部ダメです。
「代表候補生の引き抜きなんてダメでしょ!」
「そんな法律はありませんし、所属を
冬林にしたのは代表候補生の辞退が
認められてから1分後のことです」
つまり彼女はフリーの状態だった。
ならばどこに所属しようが彼女の自由。
「文句を言っても「候補生の辞退を
認めた方が悪い」と言われるだけですね」
「いや、そもそも誰が、何でこんなのを認めたんですか?!」
そんなの決まってますよ。
「誰が?と言えば彼女の扱いを見た役人が、
何で?と言えば政治を忖度した結果ですね」

外からみたら政府も倉持も彼女の
存在を認めてないようにしか見え
ませんからね。
「そ、そんな・・・」
「さらに言えば、簪さんは彼女に否定的
な噂を流していた一派の人間に書類を
提出しています」
連中にしてみたら彼女が抜けた穴を
自分の派閥の人間で埋める好機。
それを逃がすはずが無い。
「じゃあ今まで簪ちゃんが製作してたＩＳコアは・・・」
「初期化の上で返却です。これも既に
ＩＳ委員会の日本支部が了承してます」
あそこまでＩＳの開発に執着していた彼女に
ＩＳコアを放棄させるとは。一体なにをした？
代わりのコアを用意するだけでは
不可能なはず。司馬監査員との

会話は聞き取れなかったし、
昨夜にどこかに連絡を取っていた
のは知っているが、会話の内容は
全て抹消されている。
同室の布仏本音は彼女を警戒させ
ないように「室内では諜報員ではなく
ルームメイトとして接するように」と指示
が出ているから普通に就寝してしまった。
諜報を機械に頼った結果がコレだ！
「ＩＳ委員会にしてみれば、無駄に学生に預けて
遊ばせていたコアが返還されるのです。
当然喜んで提案を受け入れるでしょう」
「む、無駄って・・・」
実際第三世代機の開発が学園の
整備室で、しかも入学したばかりの
学生の手で出来るなら世界中の
企業に務める人間は用無しだ。

彼女の癇癪を抑えるためだけに成功
する可能性のない作業をさせる？
そんなのはまさしく無駄でしかない。
私は技術者ではありませんからね。
正直更識簪の技術者としての実力は
わからなかった。今回はそこを突かれた。
完全に情報量とそれを扱う人間の能力が違う。
加えて立場上我々は常に受け手にならざるをえない。
……あれだけの組織力と政治手腕と実績を持つ
相手に何の情報も持たず正面から立ち向かう？
しかも常に先手は向こうだと？
勝てるかっ！
「じゃ、じゃあ冬林技研への所属も？」
「個人の就職に関して学園が何を言えと？」
学園が口を出せるのはあくまで学業と
学園内での行動。
就職先の斡旋はあっても、その反対は無い。

故に所属云々は一切関与しないし、できない。
「か、監査員が自分が所属する組織に
引き抜くって職権乱用では?!」
「それを言ってみますか?」
明らかに誘いですよ?
「・・・ダメなんですか?」
「ダメでしょう。そもそも彼女は監査員で
あると同時に技術者でもあり一人の生徒でも
あるのですからね」
こうなれば連中は、最初から彼女を
狙っていたと考えるのが妥当か。
「え、えっと?」
わからないか・・・これが楯無とは。
ＩＳという機械に頼りすぎだ。
「技術者が青田買いするのは当然のことですし、
生徒が自分の所属する組織に友人を勧誘する
のも当然のこと。

そして監査員が監査先で虐められている
生徒を保護するのも当然のことです」
保護した先が自分の所属する組織なのも、ね。
いやはや中国という国家ではなく、あくまで
多国籍企業と言うのがまた厭らしい。
「イ、イジメって！」
「簪さんへの扱いを聞かされて、組織ぐるみの
イジメじゃないと言える人間はいませんよ」
誰がどう見てもイジメです。私だって、
何でそこまで？と思いましたし。
いや、思うだけだったのがダメだったか。
私だけでも手を差し伸べていればここまで果断な行動は取られなかっただろうに。
「・・・そんな・・・私は・・・」
小娘が。暗部の当主が妹を蔑ろにした
ところを付け込まれただけの話だろうが。
「どんなつもりだろうと相手がイジメ
だと思えばソレはイジメです。

そしてイジメが原因で学園を退学
したいと言われてしまえば、我々に
取れる手段はありません」
日本政府、倉持技研、ＩＳ学園、そして
更識。全てに見切りをつけたなら学園
に残る理由もなし。
「けど退学なんてしたら！」
視野が狭い学生にしてみればショックかもしれんがな。
「彼女にとってはプラスになっても
マイナスにはなりませんよ」
「え?!」
そりゃそうだろ。
「実際高等教育に関してはここで
学ばなければダメという法も無し。
ましてＩＳの技術を学ぶなら最初から
企業に所属したほうが良いでしょう。
それに彼らには織斑千冬と言う

世界最強を育て上げた実績があります」
この実績が厄介だ。我々が教育した
生徒が織斑千冬を越えたか？と
言われたら答えはＮＯだからな。
そもそも、ここは専門の企業に就職する前に
基礎的な技術と知識を学ぶ為の学園だ。
世界中の人材を集めるとは言っても、
実際世界中の人間の教育など不可能。
各国の国内でもＩＳ関連の知識や
技術を教えている場所はある。
ならば、どうしてもＩＳ関係の学校を
出たいならそこでもいいんだ。
さらに最初から企業に就職している
ならＩＳ学園に入る必要などない。
「高校は卒業しておくモノ」と言う
日本人特有の常識の差異も突かれたな。
結論を言えば、反撃は不可能。

精々が退学を思いとどまるよう説得するくらいだが、それは加害者が言う事ではない。
……そもそも連中は更識簪に何を見たのだ？
連中にとって今更更識の家の力など要らんだろうし、疎遠にされていたから情報を抜くにしても無意味だろう？
代表候補生を搭乗者としてキープする？
ないな。司馬仲達や鳳鈴音で十分だ。
では技術者として？
態々学生を引き抜くほど人材が居ないわけでもないだろうに。
わからん。連中、何が目的なんだ？
それがわからんことには簡単に更識簪の退学を認めるわけにはいかんよな。
・・・さて、探り合いだ。
李家の教頭は確かに尋常では無い相手。
しかし現地に居る分、私に多少のアドバンテージがある。

つまり問題となるのは今ここにいる司馬家の鬼才。
奴が相手では当代の楯無では相手にならん。
アレを抑えながらの仕事かよ・・・
ふっ、やりがいが有りすぎるな。
――――――――――――――――

「退学ですか？別に良いですよ」
最初は驚いたけど、よくよく
考えたら司馬さんと一緒で、私も
この学校に居る意味ないですよね？
「何というか、思ったより軽いですね？」
「え？だってＩＳをちゃんと学ぶなら
学校の一般授業とかいらないし、
専門知識なら教員にも負けませんから」
つまり今考えれば私がここにいるのは
整備室を使うためだったってことに
なるのかな？

それならコアを返還したらここに居るのって
時間の無駄にしかならないですよね？
ＩＳだって私より詳しいのって
織斑先生くらいでしょ？
……あの人にナニカ聞こうとは思わないし。
「そうですね。貴女の知識はすでに一流の
技術者に匹敵します。
少なくともこの学園で基礎知識を
学ぶような段階ではありません」
ですよねー。
「選民思考って言うわけじゃない
ですけど、少なくとも私は代表候補生に
なるまでに最低限の基礎を学んでます。
シミュレーターや実際のＩＳ稼働時間を
考えても、彼女たちと私が同じ授業を
受けること自体がおかしいっていう
ことに気がついたんですよ」

私と彼女たちって同じなのは年齢だけですよね？そりゃイギリスの代表候補生が主席で入学しますよ。

「その通りです。日本は義務教育を重視するあまり、幼少期の飛び級とかが無いですからね。協調性や均一化を育むには役立ちますが、尖った才能を持つ人材は排斥される傾向にあります」

ですよねー

「今までは排斥されても行く場所がなかったからここに居ましたけど、行く場所が出来たならソッチに移るのが普通ですよね？」

「そうですね」

なんで態々イジメられてるところに残んなきゃダメなの？って話だよ。

それに学園に居たら連中は本音とかを使って
説得とか脅しをしてくるはず。だから私は
できるだけ早く学園から離れた方が良い。
「で、今の私は一般の生徒ですから
向こうも退学届けを受理しないってことは
出来ないと思うんです」
政府とか更識の狙いはともかく、
ルール上は受理するしかないよね。
「そうですね」
受理されたらそのまま・・・あっ！
「司馬さん？私って学校辞めたら
すぐに社員寮とかに移れますか？」
辞めることだけ考えて、寮を出たあとに住む場所考えてなかったよ。
「あぁ・・・貴女は本当に技術者ですねぇ」
ほ、褒められてるのかな？
うん、そう思うことにしよう！

「ふむ、退学な」
『はい、最初は本人の覚悟の確認と
学園に対する揺さぶりのつもり
でしたが、本人が予想以上に乗り気でして』
またもや弟子の想定を超えてきたか。
流石１０代女子のＨＥＮＴＡＩ。
こんなことが出来るのは同じＨＥＮＴＡＩか
酔っ払って泣きながら俺に愚痴たれた
どこぞの州牧くらいのもんだ。
「お前が見たところ、ＩＳ学園は真面目に
兵器運用を教える気も無ければ
一般教養も不足気味なんだろ？」
日程とか時間割見ればなぁ。
臨海学校なんかやってる場合じゃ
ねーだろ。移動時間も勉強に

当てないと、どう考えてもコマが足りんぞ？
基礎訓練の時間も無いし、整備も
開発も片手間で出来るモノではない。
そんな環境に居るくらいなら、好きな
作業に専念したいって言うのはわかる。
スゴク良くわかる。
『はい、生徒には兵器を扱う覚悟は
無いですし、ＩＳと言うものを何に
使いたいのかと言うビジョンが全く
見えませんね』
ふむ、弟子の言うことも尤もだが、さすがに
二日か三日で全部を決め付けるのは早計か？
「まだ一年の最初だからな。
三年にもなれば兵士の卵くらい
にはなるかもしれんがな」
せめてそのくらいはなるだろ。
しかし兵士を育成されてもなぁ。

これが宇宙開発用の人材として教育して
いたなら束もＩＳ学園に協力してたかもしれんが
宇宙開発は利権やら軍事バランスやらで色々
あるから、学園が現在の認識や方針を改める
ことはないだろうな。
『三年で兵士の卵の育成ですか。
・・・無駄ですよね？』
「だな」
大前提として一般教養と専門技術は分けるべきだ。
もしくは高専みたいに５年にして、授業も
びっしり組み込む感じにしないと・・・
いや、それでも兵器運用には足りんけど。
「こうなるとＩＳ学園はＩＳを扱う人間の
教育や育成ではなく、横の繋がりを作る
為の場と考えるべきかもしれんな」
国とかの垣根を越えた仲っていう
のは確かにある。そのための組織と

して考えるなら間違ってはいない。
・・・日本人が多過ぎるがな。
『あぁ、そういうのもありますか
なら改革案は出さない方向で？』
「そうだな。わざわざ阿呆を量産して
輩出してくれるんだ。止める必要は無い。
後任やＩＳ委員会になにか言われたら
『今までコレでやってきたんだから
きっと無意味ではないと考えた。
これ以外に意図が思い浮かばなかった』
と説明するとしよう」
実際それ以外で意味を見出すのは不可能だし。
『かしこまりました。ではそのように』
「更識簪の社員寮についてはすぐにでも
用意できる。だが、おそらく連中は
引き伸ばし工作をしてくるだろう」
俺たちの意図を理解できてないからな。

手駒になるかもしれないモノを安易に
手放すようなことはしないだろうさ。
『・・・引き伸ばし、ですか』
「説得は無意味、と言うか逆効果
だからな。時間を稼ぎに来るはずだ」
『ここから時間稼ぎですか？一体
どんな手を使ってきますかね？』
ん？弟子にはわからんか？
ふむ。シカタナイといえばシカタナイんだが、
さすがに教育する必要があるか？
…いや、一人で全部やるようになっても困るな。
今回は知らない事を知ってもらおう。
ついでに言えば俺の予想外の行動を取って
くる可能性もあるからな。
「予想はできるが確定ではない。
かといって今更どう転んでも俺たちに損がある
わけでもなし。轡木十蔵が俺の想定を越えるか

どうか見定めようじゃないか」

『なるほど・・・かしこまりました』

お前も頑張って考えろよー。

あとは・・・一応邪魔が入らなかったとき用に

学園内に更識簪の個室を用意させておこうかね。

ーーーーーーーーーーーーーー

「『長引くようなら更識簪に個室を

用意するように』ですか。

・・・これは完全に読まれてますね」

「ええ?!」

第11話

「まさかあんな手段で来るとは・・・
汚い、流石大人、汚いっ！」
所詮は科学者であり技術者ですからねぇ。
いかに才能があろうとも、政治の世界に
生きてきた連中がなりふり構わず来たら
こうなりますか。
とは言え私も完全に思考の隙を
突かれましたけど。
今まではこういった隙を師が
埋めてくれていたのでしょう。
また一つ師の偉大さを知りましたよ。
「まさか学園を退学するには保護者の許可がいるなんてっ！」
うん。当たり前の話ですよね。

ーーーーーーーーーーーーーー

「で、退学はできなかったけど個室は手に入れたわけですか」

これを予想して「時間がかかるようなら更識簪に個室を用意するように」と学園側に要望を出していたとは。

流石我が師。

「そうですねー」

燃え尽きてますねぇ。

まぁアレだけ決意して、学園としては拒否できない！とか社員寮に移ったらどんな生活しようかな？とか色々考えていたのが見事に空振った形ですから気持ちはわからなくはありませんよ。

ただ、退学は保留されましたが、部屋は速攻で用意されましたから最悪ではない。

何やら抵抗しようとしていたようですが、

イジメの被害者の保護という観点
から見れば隔離するのが当然です。
布仏本音もイジメに加担していた更識の人間ですからね。
監査員である私や専用機持ちの凰准尉は、
あくまで機密を扱うからこその個室
ですから一緒にすると言う選択肢も無い。
部屋を用意しなければソレが退学の
口実になると判断したのでしょう。
ただ、その判断と個室の準備が連動しているというのが、ね。
この時点でどれだけ理事長のワンマン
経営なのかがわかりますよ。
残る問題は更識簪に授業へ参加する気が
無いことくらいですか。
しかしそもそも退学待ちの人間ですからね。
何かあっても学園が下せる罰則は停学くらいでしょう。
その場合更識簪は遠慮なく個室に籠るか、
冬林技研で用意したアパートに帰ります。

あちらはすでに正式な契約は結んでますし、
契約金を使って彼女が自分で契約した
アパートですから、未成年略取にもなりません。
社会的にはイジメを受けた少女による
高度な家出。と言ったところでしょうか？
裏で動く連中はウチが消しますし、
表から堂々と来る連中は本人が
接触を拒否してますからね。
あまりしつこいようなら、法的措置をとって
更識の情報を公表してあげましょう。
当代の楯無が恐れたという、更識の家への報復を受けるがいい。
それはそれとして。
「暫くのあいだ貴女は私の直属の部下として
ＩＳの開発業務にあたってもらうわけですが」
「はい！　頑張ります！」
気合いが入っているのは結構。
しかし空回りはいただけません。

「先に貴女の構想している専用機に搭載する
武装について駄目出しが入っていますので
確認をお願いします」
「ぶ、武装に駄目出しですか?!」
技術者にとっては最悪の言葉ですよねぇ。
「ええ、今回は山嵐とかいうシステムです」
「そんな!?コレが無ければナット○ミサイルがっ!」
こだわりますねぇ。でも駄目。
「コストと実用性が悪すぎます」
「こ、コストと実用性!?」
技術者にとって最強最悪の敵の一つですね。
ちなみにもう一つは時間（締め切り）
それ故、冬林技研のキャッチコピーである
『夢を現実にする企業』には
【技術者に愛の手を】と書いて
【ＨＥＮＴＡＩに時間と金を】という
副音声が付いているのです。

「大体ですね、ＩＳに通用する弾頭が付いた実弾が一発いくらするか分かりますか？」
「・・・あ」
言われてはじめて計算しましたね？
「普通の弾頭ですら一発一千万を超えます。それがＩＳに通用する弾頭で、量子変換機能付き。それにマルチロック？２４発か４８発を三連斉射って。いや、予算もそうですが、普通のＩＳ戦は１対１ですよ？貴女は一体何と戦うつもりですか？」
一体の敵に使うには無駄が多すぎます。
「え、えっと」
「そういうのをすっ飛ばすのがロマン兵器らしいですが、流石に普通の軍事目的以外に使えない機能をＩＳに乗せるわけにはいきません」
兎が破壊しにきますよ？

それに条約を何だと思ってるのですか。

「・・・ですよねー」

「それに副所長からもツッコミがあります。心して拝聴なさい」

「ふ、副所長さんからも⁈」

これほど早く直々に教えを受ける機会を

賜るとは流石ＨＥＮＴＡＩ。

全く羨ましくないのがまた凄い。

「えー『確かにナットーミ○イルはロマンでは

ある。だが、あれは相手の回避が無ければ

タダの実弾兵器でしかない。

言い換えれば外すのが前提と言うことだ。

そんな後ろ向きなロマンは無い！』だそうです」

「（ 。д。）ハッ！」

・・・貴女もそれ、できるんですね。

ーーーーーーーーーーーーーーーーー

そ、そりゃそうだよね！
1対1でナットーミサ○ルが生じるって、
ことは、それだけ外してるってことだよ！
アレはあくまで相手の回避によって
生まれる奇跡の螺旋！
回避されることを前提とした兵器は
兵器じゃないよね？
そう。ドリルは一発勝負だからこそ力が
籠るし、気合いが籠るからこそ
「躱されても当たるまで突く」って
いう矛盾した一発勝負が成り立つんだ！
さ、流石副所長さん。深い！
「私にはそりゃそうだとしか
言えませんが、貴女には何か響く
モノがあったようですね」
「はいっ！すぐに設計図が書きたいです！」
疼く！私の右手が！メガネが熱いっ！

「・・・そうですか、とりあえず
設計図や武装の案があったらラフ絵
でも良いので送るよう言われてます。
あぁ、書いたものはボツ案でも
捨ててはいけませんよ?」
「え?そうなんですか?」
ボツ案を含めたら物凄い数になりますよ?
「貴女にとってはボツ案でも、他の
技術者にはそうじゃないかもしれません。
何かしらのインスピレーションが沸く
場合もあるそうですからね」
「(。д。)ハッ!」
た、確かにそうだ!他の人の趣味・・・
ロマンが詰まった資料は宝物だ!
「・・・生粋の技術者ではない私には
分かりませんが、貴女の部屋から出た
ソレを清掃員を装った更識に持ち去られ

たり、倉持の連中のインスピレーション
の切っ掛けになったら嫌でしょう?」
「絶対嫌です!」
やっぱりプロの技術者の人たちは
発想が違う!あぁ今まで捨ててきた
聖衣風のラフ画とかどうなったかな?
・・・ギリシャとかに行ってないよね?

ーーーーーーーーーーーーーーー

さて、更識が納得したところで
今後の予定について・・・
「司馬様ー司馬様ー居ますかー?」
あぁ、もうそんな時間ですか。
「え、えっと?」
「中国の国家代表候補生の凰鈴音です。
とりあえず転入から一週間は一日の

出来事を報告するように命じていましてね」
更識簪には人見知りの気がありますが、凰准尉なら問題ないでしょう。
「今開けますので待ちなさい」
「はーい。わっかりましたぁ！」
ふむ、昨日と比べれば随分明るい声ですね。
アチラもいい結果が出たのでしょう。
普通は一日二日で状況が変わるモノではありませんが、ここに引き抜きに成功した更識簪が居ますからねぇ。
今日の報告はどうなることやら。

ーーーーーーーーーーーーーー

「お邪魔しまーす！」
「・・・もう少し声を抑えなさい」
「す、すみません」

普通に怒られたわ。まぁそうよね。
私は一歩前進して気分上々でも司馬様は関係無いし、なんか今日は休んだみたいだし。
転入二日目で休むって何かあったのよね？
学園には環境の変化による体調不良とか言ってるけど、そんな温いことを言うような方じゃないわ。
「あ、あの、こんにちわ」
「(Φ ωΦ)」
「え、えっと？」
司馬様の部屋に今日の報告に来たら見たことも無い水色の眼鏡が居る件について。
どういうこと？服を見ると学生よね？
司馬様は副所長と婚約してるから同性愛者じゃない・・・

となると現地協力者的な何かかしら?
「鳳准尉、疑問を抱くのはわかりますが
アイサツにはアイサツを返すのが礼儀です」
あ、そうよね!とりあえずアイサツ
しないとシツレイよね!
「こんにちわ。1年2組に転入してきた
鳳鈴音です。中国の代表候補生してますけど、
基本的には一般の学生と同じように
フランクに接して貰えると嬉しいです」
ふっ、自己紹介は昨日したばかり
だから抜かりは無いわ!
「フランクに接した結果がクラス代表
でしょうが。貴女は反省という言葉を
知らないのですか?」
「あうっ!」
そ、そう言えばそうだった!日本の
10代女子のフランクさは常識を

遥かに超えるんだった！

「あ、1年4組の更識簪・・・です」

た、助かった！見た目通り弱気で内向的みたい。

ん？さらしきかんざし？

「昨日少し話に出てきましたね。元日本の代表候補生で、今は貴女の同僚になった、日本が誇るＨＥＮ・・・天才ですよ」

今ＨＥＮＴＡＩって言い掛けませんでした？

いや、口に出したら矯正されるから絶対に言いませんけど。

だけど今の短い一言の中にかなりのツッコミどころがあったわよね？

「【元】代表候補生ですか？」

この歳で元ってどういう事？

「あ、それはですね！今日返上したんです！」

「返上？それに今日？」

なんか自信満々に言ってるけど、それって良い事なの？いや、日本の国家代表候補生の

扱いはわかんないけどさ。結構な競争を勝ち抜いて得た立場なんじゃないの？
それに学生の専用機持ちは一夏とイギリスのあれしか居ないんじゃなかったっけ？
ツッコミが追い付かないわ！
「その辺の経緯は私が説明しましょう」

――――――――――――――――

カクカクシカジカアリジェネムートンイトウ

――――――――――――――――

「何ですかソレ？」
いや、関係者全員馬鹿じゃない？
「改めて聞くとスゴイですよね？」
凄いとしか感想が出てこないわ。

「って言うか自分のことよね？」
しかも昨日までの。いや、正確には今日の日中までの自分のことよね？
なんて言うか、達観しすぎじゃない？
「あぁ、それはそうなんですけど、今となったらどうでも良いかなって」
なるほど。家族や政府に対して完全に見切りをつけているのか。
実際そこまで追い詰められてたってことよね。つーかそんな扱いするなら初めから代表候補生になんかすんなって話じゃないの？
立場を与えたならサポートしなさいよ。
まさか日本って国に一夏以外の候補生を支えるだけのリソースが無いってわけじゃないんだからさ。
「関係者全員が阿呆だったおかげでこの才能を手に入れることができたのですから、我々と

すれば有り難い話ではありますがね」
うん。そうですよね。実家とか関係なく、
普通にイジメられてたみたいですから
引き抜きには困りませんよね。
「わ、私としても結果的にですけど
理解のある上司と、やりがいのある
仕事が出来そうですから・・・」
あぁほんとそうよねぇ。なんたって
直属の上司が司馬様だし?中国人なら
誰もが羨む地位だし、どれだけ望んでも
馬鹿には得られない待遇よ?
それもこれも偏にこの才能、いえ才能って
だけじゃないわよね。
「操縦技術で代表候補生になれる実力が
あるだけじゃなく、学校の設備で
第三世代機のひな型を造り上げた?
さらに一人で?期間は数か月?こんなの

才能の一言で片付けて良いモンじゃ無いですよね？」

才能だけじゃなく実績まで残してる天才じゃない！

くわえて実家が日本の暗部の家ってなによ。

副所長や司馬様みたいに幼少時から鍛えてきたってことでしょ？

その技術と積み重ねを考えたら、武術を嗜んだばかりの今の私じゃ操縦技術だけでも勝てないと考えるのが妥当よね。

いや、本当に万能の天才じゃない！

そりゃ司馬様もＨＥＮＴＡＩ扱いするわ。

「その通りです。更識簪は今の准尉では届かない高みにいると思ってください」

「はい」

私だって天才だなんだの言われてきたけど、積み重ねが無いからどうしても脆い。

司馬様みたいなホンモノの天才が鍛練を積み重ねてきた相手には絶対に届かないわ。

つまりはこの水色は司馬様の下位互換？
いや、機械技術的な面を見たらそうとも
言い切れないわよね。
「あう・・・」
「……なるほど」
褒められ馴れて無いからこそこういう
一見弱気のリアクションだけど、
根元には自信がある。
つまり一度スイッチが入ったらヤバいタイプ。
これは最高の拾い物、いや最初から
狙ってたんだろうから最高の収穫よね。
「・・・さっきも言ったけど、鳳鈴音よ。
先輩でも准尉でもリンでも好きに
呼んで。ただしリンインは止めて」
同い年で代表候補生になるだけの実力者。
さらに実績もあるし、勘だけじゃなくて
しっかりと積み重ねた基礎がある強さの

持ち主なんて、もぉ最高じゃない！
司馬様は背中を追うには遠すぎるからね。
良い目標が出来たわ！
「更識簪です・・・階級はわからない
ですけど、更識って言われるのが
嫌いなので、簪って呼んで欲しいです」
あぁ、まぁさっきの話を聞いたらねぇ。
「わかった。じゃ簪って呼ぶわ。よろしくね！」
「ハイ！リンちゃん！」
まずは簪を越える！最低でも並ぶ！
これが国家代表候補生としての私の
ＩＳ学園での私の目標ね！
ーーーーーーーーーーーー
ふむ、これぞ青春。ですかねぇ。
それに更識簪の階級の問題もありました。
国家に所属してるわけではありませんから
軍属ではありませんよね。

ならば立場は冬林技研のテストパイロット兼技術者あたりが妥当でしょうか。
そうなると階級というよりは役職が自然。
私が主任ですから・・・主任の部下って平ですよね?
ですが専用機持ちになりますから名目上でも
何らかの役職は必要です。
ふむ。これは今日の報告で師に確認しておきましょう。
「それで、凰准尉。本日の動きは?」
先にこちらの話題を済ませましょうか。
「あ、はい、まず一夏に名刺を渡しました!」
「ふむ」
「・・・名刺って?」
あぁ、更識簪には訳が分かりませんよね。
今後も日本の10代女子の常識を確認したり、
我々が思いつかない意見を出してくれる
かもしれません。
「准尉、更識簪に経緯を説明しますが宜しいですね?」
任務とは言え個人の恋愛に関する

恥ずかしい内容ですからね。
一応確認しておきましょう。
嫌だと言われたら？
任務が優先されますから、当然無視です。
「だ、大丈夫です！簪の意見もあれば
猶更成功率が上がるかもしれませんし！」
「せ、成功率？」
「よろしい。では説明をしましょう」

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

カクカクシカジカトナリノムートンイトウ

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「す、酢豚って・・・正気？」
何がどうなれば告白で酢豚？しかも

ソレを副所長さんに相談？有り得るの？
「・・・アンタ、良い性格してるわ」
「いえ、このリアクションで正解ですよ」
ですよねー
「ソレに織斑の家庭の事情ですか。確かに
そういう事情があるなら、まずは安定した
就職先があるのは強いですよね」
正直織斑にはいい感情無いけど、
逆恨みだってのは分かってるし。
いや、専用機の重みを理解してないのとか
織斑千冬の特別扱いは正直今でも納得でき
ないし、機会があれば説教したいくらいだけど。
説教って事は織斑の為になっちゃうからね。
勝手に自爆して死ねって言うのが素直な
気持ちだけど、リンちゃんのことを考えた
らなぁ。
「でしょ?!一夏も私が冬林技研に所属

してるってわかったら、何か親しみって言うのかな？そう言うのが見えたし！」
ただでさえ有名企業なのに、自分も姉の織斑千冬もお世話になった組織だもんね。
そりゃ親しみも沸くよ。
「とりあえず周りで騒ぐだけの兎の妹や、イギリスの螺旋頭よりは好評価を得られましたね」
「ハイッ！流石は副所長です！」
はぁ？コイツ馬鹿？
「「【さん】を付けろ！」」
「ひ、ひぃ～」
このデコスケ野郎！・・・実際【様】とまでは言わなくても【さん】は付けるべきでしょ？
司馬さんなんか滅茶苦茶尊敬してるじゃん。
言葉の節々でわかるよね？
司馬さんに様を付けるなら、その上司にだって

敬称を付けるべき・・・あれ？役職に敬称ってどうだっけ？
内部の部下が課長さんとか部長さんって逆にシツレイなような気がするけど。
い、いや、ここは司馬さんの気分を優先するべきだよね！うん。そうしよう！
「そ、それで、来月のクラス対抗リーグ戦で専用機を使うのはわかりましたけど、織斑一夏程度だと戦いになりませんよね？」
リンちゃんがどれくらい強いかは知らないけど、代表候補生クラスの実力があるなら、あの程度の雑魚なんか普通に最初の一太刀で終わりでしょ？
「程度って・・・まぁそうだけどさ」
「そうですね。実際問題、あれに苦戦する程度なら鳳准尉からコアを没収しますからね」
「えぇぇぇ没収ですか?!」

いや、実際国を代表する立場としてはアレに苦戦って相当ヤバイよね？イギリスのアレはあくまでＢＴ兵器に対する適性が高いから、その実験用としての代表候補生でしょ？
アレも欠陥だらけの出来損ないだけどね。
そもそも第三世代型は試験運用中だから欠陥があるのが当然なんだけどさ。
「ちなみに准尉がコアを没収されるような試合をした場合。
本国にいる准尉を代表候補生に推薦した人間や賛成した人間。代表候補生を選考する連中。
そして決定を下した担当の目も没収されます」
「「怖っ！」」
節穴だから要らないって？怖いよ！
「何を温いことを言って居るのですか？
そもそも国家の威信を背負うと言うのはこう言うことですし、己の仕事に責任を

持つと言うのもこう言うことですよ」
首が飛ぶんですね。わかります。
でもそうだよね。国家の代表を選ぶん
だから、感情とか賄賂とかで選ぶような
ヤツラは駆逐するべきだし、自分達の
決定に責任を負わないような連中も排除
しなきゃマトモな組織とは言えないよね。
税金だってかなり使ってるんだから、
関係者一人一人の意識が高くないと不正と
腐敗の温床になっちゃうんだ。
実際権力を握っても、その使い方を正しく
理解出来てない女権団体のせいで、政治や
経済はかなり歪んできてる。
私の専用機だって、男が自分の立場を
巻き返す為にリソースを奪った結果
とも言えるだろうし。
それに別に司馬さんは無理なことは

言ってないよね？
「リンちゃん、勝てば良かろうなのだ！」
素人に対して、勝つべくして勝てって言ってるだけだよ！
「いや、ソレはそうなんだけどさ・・・」

実際素人に苦戦するようなヤツを国を代表するような立場にしたら、そりゃ担当者には見る目が無いって言われても否定は出来ないだろうし、そんな未熟者をずっと代表にしてコアを預けるほど甘い組織じゃないのはわかるわよ。
・・・私の評価に関しても、一夏や千冬さんとの縁があって下駄を履かせて貰ってることもわかってる。

だからこそ司馬様は『実力を見せろ』って
発破を掛けてるのよね。
一夏が可哀想とか、一夏と少しでも長く戦い
たいとか、そんな感情を見せたら即座に矯正
いえ、粛清されるわね。
司馬様が言ったように私は国家の威信を
背負って甲龍に搭乗してるのよ。
使うのは兵器。スポーツ競技とは言われてる
けど決して遊びじゃないんだから。
苦戦は許されない。イギリスの馬鹿みたいに
無駄口叩いたり挑発したりも不要。
駆け引きって考えれば無くは無いけど、
私が感情的になる場合だってあるからね。
そうなったら、コアの没収も担当者の目も
ヤるでしょう・・・明言されてはいない
けど、多分私自身にだって事故死が待ってる。
昨日も言われたわよね？消すって言うのは

警告であって警告はただの脅しじゃない。
学生気分は持ってても良いが、軍人としての立場が優先されるのよ。
「司馬様、休みの日や放課後の鍛練に簪を借りてもよろしいでしょうか？」
当人の許可はもちろん。直属の上司である司馬様の許可は絶対に必要よね。
「ふむ、そうですね。更識簪については所属や就労条件の見定めも有りますが、とりあえずは許可を出しましょう。ただし休日の鍛練については個人の問題になるので、本人の許可を取るように」
そっか、簪は軍属じゃないから休日はそう言う扱いになるのね。
「簪？」
まさか嫌とは言わないわよね？
「もちろん構わないよ！ただ、休日と

放課後だけじゃなく、朝の鍛練もちゃんとやらなきゃダメだと思うよ？」

あぁ、覚悟を決めたつもりでも本物から見たら所詮はつもりでしか無いのね。

「望むところよ！」

国中に恥を晒したあげくに失望されて死ぬくらいなら、休日だろうが朝だろうが鍛練するに決まってるわ！

「ＩＳを使っての鍛練は休日に冬林技研で行いますので、まずは更識簪が行う基礎鍛練を行いなさい。我々とは違う形ではありますが歴史と経験に基づく鍛練をしているはずですからね」

「はいっ！」

近接戦闘は生身の延長だからね！司馬様のトレーニングに着いていけない以上、他の遣り方を捜す必要があるとは思ってたし。

ソレが歴史ある暗部の鍛練方法なら
文句なんかあるはずが無い！
「更識簪。貴女に与える最初の任務です。
クラス対抗戦までの期間は短いですが
そもそも基礎鍛練は恒久的に行うものでも
有ります。
私の言わんとするところはわかりますね？」
「はい！リンちゃんには焦らずにきちんと
武術の基礎を学んで貰います！」
よしっ！これで私に足りなかった基礎が身に
付けられる！
それも付け焼き刃じゃない。対抗戦が
終わった後もちゃんと役に立つモノよ！
まともな師匠が居ない私には今まで得られ
なかったモノがここで得られるなんてね！
ぬるま湯の中は居心地は良いけど、ずっと
居たら確実に自分が錆び付いていく。

ＩＳなんか無くても一夏の側に居られるなら
ソレでも良いけど、実際私がココに居られる
のはＩＳが有ることが大前提！
だからこそ、今も本国で血と汗と涙を流して
トレーニングしているヤツラに追い越される
わけにはいかないんだから！

一夏。現実を見ることなく周りに甘やか
されて、半ば遊びながらＩＳを纏う貴方には
勝ち目も見せ場も与えない。

それどころか戦いにすらならないってことを
対抗戦で教えてあげるわ！

第12話

ふむ、ＩＳ初心者が訓練とは言えコレ
ですか・・・流石は超人と言いたい
ところですが、遺伝子だけで勝てるなら
世の中に技術と言う概念は存在しないと
言う現実を知るべきでしょうね。
それにコンセプトがねぇ。キサラギが見た
ところ、あくまで兵士としての存在強化。
ソレも視野の狭い科学者と一部の人間が
望むような、さいきょーの兵士。
視野狭窄や感情の揺れ幅。正義感？のような
思い込みの強さを見るに依存体質もある。
反逆防止ですかねぇ？見た感じ依存先
である姉に逆らう気は無いですし。
ついでに各種フェロモンを出して周囲に

適合させると言う特徴から潜入工作
にも使えますか。
「コレ、ＩＳと言う兵器に適合出来なかったら
かなり厄介な工作員でしたね」
ですがここまで注目を集めてしまえば
工作員としては使えません。
肉体的な強化も調整前のようですし
全体的に中途半端なままですね。
『そうだな。やってることはドイツの人形と
一緒だが、ドイツが確かなコンセプトをもって
やってるのに対し、こっちはＨＥＮＴＡＩが理想を
詰め込んだ結果だ』
「なるほど、超人と言う割りには織斑千冬の
能力が歪なのはそう言うことでしたか」
超人と言うより超兵ですね。ヒトとして
不完全過ぎます。これは製作者が自分の
地位を脅かすようなモノを望まなかった

と言うことでもあるか。

『ＩＳなんてのが出来て、織斑千冬が世界大会で優勝し、世間の評価を集めたのは・・・連中にしてみたら誤算だろうな』

「裏の存在が表に出ちゃいましたからね」

しかも世界的に堂々と。実験成功では有りますが、代わりに織斑千冬に対する各種疑惑が世界的に浸透しましたからね。蒸発したと言う両親の情報も一切無いし。まぁ兎の影響と判断したようですが実際はコレですからねぇ。

何で政府は織斑千冬をそのまま放し飼いにしたのか。

この国の暗部って頭悪すぎませんか？

さらに世界大会でしょ？なんでアレを日本代表にしたんです？

裏の世界の関係者連中にしてみたら、

どうなんでしょうね？・・・政治も何も
考えないＨＥＮＴＡＩならば成果の確認を
優先したのかもしれませんが、アレは
表に出すような存在じゃないでしょう？
結果を出したことで、連中の頭の中は
嬉しさ八割で注目を集めたことに対する
困惑二割と言ったところだったでしょうが
今は後悔１０割・・・いや、ソレすら
ありませんか？
すでに研究施設はブチキレた兎により壊滅。
研究員とスポンサーは師と兎が
実験材料として家族親族もろとも散々地獄を
見せた後、遺伝子レベルで分解して火星に
撒く苔と改造恐怖公にブレンドして発射済み。
施設にあった紙媒体の資料は全て兎により
分子分解処理済みで、データベースに
残されていた資料は内容を改竄した上で

トラップをしかけて放置。
印刷された資料を読み込むと発狂。
映像で見ても発狂。
トラップを解除出来ても、その資料の根幹が
間違ってるから出来上がるのは成長率など
存在しない普通のお人形。
それに気付くのは最低でも五年はかかる。
生き残りがいて同じ計画を実行しようにも
予算や資材の関係上必ず動きが有りますから、
その間に師や兎には絶対にバレますからね。
あとは普通のお人形を保護して普通に
生活させれば良い。
全部潰したり隠すから駄目なんですよね。
こうして程よく出しておけば、あぁ言う
連中は必ず釣れます。
必要な素材はこちらで押さえてますし。
所詮は日本の闇ですね。浅い。温い。

この程度では我々には関係有りません
から、正面から叩き潰します。
もしも更識簪が実家と疎遠でなく、
普通に楯無の補佐をしてたら兎に
分解されてましたかね？
いや、先代楯無が知らない筈は有りません
が、まだ生きてると言うことは関係者と
言えるようなモノではないと判断したので
しょう。
それとも更識簪の才能を知った師が止めた？
うーむ。兎がこの件で止まるとは思えま
せんから、やはり関係者とまでは言え
ないと判断したのでしょうね。
所詮は日本の暗部の暗部（笑）
「しかし相手が超人の切れ端なら、鳳准尉の
近接戦闘縛りは厳しいですかね？」
身体能力に特化した兵士ですからね。

調整前で今はただの野性児でも学生と
言う括りで見ればソレなりに強い筈です。
『いや、選択肢を増やせば増やすほど
相手に付け入る隙を与えることになる。
何せ甲龍の衝撃砲は便利だが予備動作が
でかいからな』
「あぁ確かに。それに便利ですが威力が
小さいですから経験されたらただの
餌ですね。それならはじめから近接戦闘
のみであたった方が良いですね」
いくら超人でも基礎技術と言うのは
積み重ねです。
お遊びで温い剣術しかしてこなかった
織斑一夏では短いながらも軍の教育を受け、
今も血を吐いて修練している凰准尉に同じ
土俵の上で戦えば勝てる道理も無し。
今度の連休では師との旅行前に命奪崩壊拳

を受ける栄誉を与えましょうか。
簪にも使ってやっても良いかも知れません。
・・・いや、まだ早いですか。
師の許可を頂いてからにしましょう。
『そう言うことだ。そして更識簪の立場についてだが』
「はい、どうなるのでしょう?」
そうそう、毎回フルネームと言うのもね。
水色だと姉と被るし、水色眼鏡だと本名の方が短いし。
かといって本人は更識と呼ばれるのを嫌がってますから、何かしらの呼び名を考えねばなりません。
凰准尉もそうですが、本名とは言え嫌だと言ってる名前で呼び続けるのはパワハラです。せっかく手に入れた人材の信頼を無駄な行為で無くすこともありません。

『とりあえず第一研究室所属研究員だな』
まぁ私の部下ならそうですよね。
『テストパイロットとしての手当てと
技術者としての手当ては出るが、流石に
お前より下がるよ』
私にとっては待遇より呼び名が
大事なのですが・・・まぁ待遇を
キチンとしないと組織としては
駄目だっていうのは当然ですね。
「テストパイロットとしてはともかく、
技術的なモノは私以上だと思いますが?」
実績も有りますし。あんまり給料が安いと
他所に行っちゃいませんか?
『実績はコアを初期化したことでリセット
されたからな。成果を出したらすぐに
給料に反映させるが、初任給から主任を
越える給料をやるわけにもいかんよ』

「あぁ、確かに」
　他の研究員の立場も有りますからね。
　現在の更識簪一人ですら技術者十人分を越える実力が有ることを知ってるのは幹部だけですから、結果を出して不満を抑えるまではこう言う扱いになりますか。
『恐らく更識簪の性格上、不満や不服は無いだろうが、最初に説明だけはしてやるように』
「かしこまりました」
　今までは評価すらされてませんでしたからねぇ。評価されるだけでもマシか。
　それに報酬は小出しにするものです。
　この辺のコントロールは上司であり現地にいる私の仕事ですよね。
『ついでに階級は特尉だ』
「え？軍に所属してませんが宜しいので？」

流石に難しいのでは？

『そこは現地協力者に対する野戦任官みたいなモノだと思え』

なるほど。師は現場指揮官で大佐ですもんね。

それくらいの権限は当然ありますか。

『ＩＳを扱うのに軍属じゃないのは問題になるし、特尉なら正式ではないが立派な軍属扱いが出来る』

「そうですね。職務は私のアドバイザーですから、権限は私のモノに準ずる形ですか？」

現地登用した副官みたいな感じですかね？

『そうだ。護衛と副官を兼ねたモノだな』

あぁ、そう言えば私の護衛に関してはかなり揉めてましたよ。

ですがＩＳの専用機持ちであり、師と私が直接見いだした存在であり、師と私が直接勧誘した

現地の暗部の宗家の娘ならばギリギリ及第と言えるでしょう。
・・・対抗意識を燃やして無理や無茶を言わないように私から釘を刺しますか。
『で、旅行先は秋田で問題ないが、お前は大丈夫か？資料を見るかぎり山と川と海と盆地と平野、開拓地に国有林に鉱山と油田っていや、何でこんなに資源があってここまで開発されてないんだ？資源が無い日本にしてみたら最優先で開発すべき土地だろ？』
いや、ホント不思議ですよねぇ？
そういった不思議ポイントが師のセンサーに直撃すると判断しました！
「ココまで来るとトワダコやタザワコの湖底に秘密基地があると言う都市伝説すら信憑性が出てきませんか？」

オーガ半島のＵＦＯとか。
『何か隠されてるんじゃ無いかって
言う浪漫はわかる。特に十和田湖の
二段底と生態は面白い』
ですよねー。不自然ですよねー。
ふふふ、この分では師には十分喜んで
貰えそうですね！

ーーーーーーーーーーーーーー

「と、特尉ですか?!」
か、かっこいい！しかも副官?!
一年と２２日振りですねって
エレガントな感じで言わなきゃ！
「護衛も兼ねますので、専用機の
用意も急がねばなりませんね」
「そ、そうですね！」
護衛だもんね！不殺に拘る気は無いけど！

「パーソナルカラーは未定ですがアリサワが
『オジョーなら真鍮か鈍銀色だ！』と
騒いでまして・・・まぁ銀は私の色である
黒と銀に被るので真鍮っぽい色。
流石に真鍮はアレなので、おそらく金に
近い色になるでしょうね」
「真鍮か金ですか！」
凄い！紫と真鍮を合わせたらメタ○マンだよ！
これで私もメ○ルマンの人だっ！
赤に金ならアイア○マン！
スーパーヒーロー着地だって出来る！
司馬さんの黒と銀に合わせて、黒に金なら
銀河の英雄の帝国っぽいし、私も遂に
就職した！夢が広がりんぐ!!
「う、嬉しそうですね？」
「はいっ！」
司馬さんと会えてからの3日間は

毎日がずっと最高です！

「・・・いや、貴女が良いなら良いんですけどね？」

「はい！最高ですよ！」

「・・・そうですか」

なんで微妙なリアクションなんだろう？

あ、あんまり一人でテンション高いから引いちゃったかな？

で、でも司馬さんってそんなタイプじゃ無いよね？知らないモノを排斥するんじゃなく、とりあえず理解しようとする感じの人だよね？

アレ？これはもしかしたら布教出来る？

司馬さんが好きなら他の人たちも・・・

「とりあえず機体については連休前に構想を冬林技研に送って下さい。

ソレをもとに基本部分の組み立てを

行わせます。完成までは第2世代型のテンペストか、鳳淮尉の甲龍と同系統の第三世代型の機体を準備する予定です」

「テンペストか第三世代型ですか！」

代替にしてもスゴク贅沢！コレが許されるのが私に対する冬林技研の評価なんだね！

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

思考が読めませんが、とにかく何か怪しげなことをしようとしてませんかね？

なんでパーソナルカラーの話をしたとたんに妙な歓喜に包まれるのか。

真鍮とか金って悪趣味じゃないですか？

いや、ソコに反応するからこそ彼女はＨＥＮＴＡＩなのでしょうけど。

まぁ敵意とかは無いので特に害の

あるようなことはしないでしょうが、
ＨＥＮＴＡＩの常識は非常識です。
更に１０代女子ですからね。
暴走に巻き込まれたら確実に良くない
方向に流されますし、この場合は
師も笑って許すでしょう。
故に流れを断ち切ります！
「私としては変な癖をつけない
ようにするために、第三世代機では
なく第二世代のテンペストの改修機
が良いと思うんですけどね」
「テンペスト改！セカンド！ｍａｒｋ２！
流石司馬さん良いですね！」
いや、ソコで私の名前を出すんですか？
ちょっと勘弁してくれませんかねぇ。
それに命名に関してはナベシマに
聞いて下さい。

「・・・機体の名前はともかく、
第二世代であっても貴女の身体操作能力
があれば中途半端なイメージインター
フェースを装備した機体よりはよほど
動きやすいでしょう」
アレは要するに肉体の能力が劣る
人間でもイメージ。つまり思考で
動作を補助する装置です。
元々思考に動作が追い付いている
私や織斑千冬のような人間には
無用の装備ですし。
まぁ特殊兵器に関してはアレですが、
山嵐が無い以上は特に必要ありません。
下手に衝撃砲みたいな装備に馴れて
しまっても困りますもんね。
「あぁ～確かにそうですね。今の
イメージインターフェースだと

特殊兵装メインですから、実験機の
第三世代よりもキチンと整備された
第二世代の方が護衛には向きますね」
流石ＨＥＮＴＡＩ。現実さえ見れば
しっかりと問題点と改善点を理解して
最適解を出せるのは素晴らしい。
「出力自体は特殊兵装に向ける
分を火力に回すので、後は各部品の
掛け合わせになります。
ピットと呼ばれる速度重視から、
ガチタンと呼ばれる防御重視まで
好きなように改良しても良いですよ」
「ふぉぉ！良いんですか？
光に包まれちゃいますよ！」
光？そういえばコジマも似たような
事を言ってましたが、アレって
宇宙空間で太陽光を直視した時の

セリフでしたよね？
ＨＥＮＴＡＩにとって光とは何かの隠語なのでしょうか？
・・・深く考えるのはやめておきましょう。連中が手招きしてるのが見えましたよ。
「護衛任務には硬さか敵を早期殲滅する速さが必要ですからね。バランス型は長期戦や継戦能力に長じますが、我々は護衛にそのようなモノを求めては居ませんから」
量子変換機能の関係上、相手が何を使って来るかも分からないのに長期戦など出来ません。
今の社会で護衛に求められるのは、攻撃は出来ないがどんな攻撃も防ぐ楯か、防御は出来なくともどんな楯

も貫く脆いけど鋭い槍なんです。
「流石です！中途半端はロマンじゃないですもんね！」
・・・理解はしているようですがなんか認識が違いませんかねぇ？
まぁソレも個性として受け入れましょう。
「ソレと副官となる以上、知識の共有が重要となります。最低限知っておくべきことを資料として纏めてますので、コチラを読み込みなさい」
「はっ！（＾・ω・＾）ゞ」
・・・ノリノリですねぇ。

ーーーーーーーーーーーーーー

いや、コレって・・・馬鹿じゃない？
「司馬少佐、フランスって馬鹿

なんですか?」

「学園内では少佐と呼ぶ必要は
・・・あぁ、退学予定ですから
ソレでいいんですね。
質問の答えは『その通り』です」

ですよねー。
娘を男装させて入学させるって。
学園がソレを受け入れたのは何故?
フランスの弱みを握って、さらに
コイツに二重スパイでもさせる気?
それとも戦力として取り込む?
それって日本の為になるかな?
お姉ちゃん・・・楯無ってそんな
馬鹿なの?それとも更識は日本じゃ
無くＩＳ学園に従ってるの?
まぁ超短期的には下手な国より

軍事力はあるかも知れないけど、
最初の一発目で勝ちきれなかったら
兵糧攻めされて終わるよ？
命運を預けるには弱すぎない？
それともＩＳを過信した？
先代が当主を譲ったのはＩＳがある
からだし、その可能性もあるか。
まぁ当代を囮にしてるってのも
有るんだろうけどさ。
司馬少佐（少佐って響き良いよね！）に
更識の介入を示唆されてなかったら
織斑一人を憎んでたんだろうけど、
コレも連中のヘイトコントロールだった
と分かれば、客観的にモノを見ること
くらい出来る。
イジメや冷遇の元凶はアホの織斑
じゃない。更識や日本政府！

そうやって敵として見れば今回のフランスのアホがどれだけアホで、ソレを迎え入れようとする連中がどれだけ腹黒いかも良く分かる！

「コレに関して我々はどう動くんです？」

コレは知っておかないとね。学園の目的は別にどうでもいいけど下手に干渉して少佐の計画を狂わせるわけには行かないし。

「今のところは静観ですね」

静観か。ＩＳ学園が引き抜きや何やらをしようとしてるところを静かに観察するんですね？

見られてる方は気が気じゃ無いでしょう。ふふ、いい気味だ！

ならフランスは無視で良いよね。

次はこっちのお人形について。

「ドイツの狙いは何でしょう？
やっぱり織斑の遺伝子ですか？」
これしかないと思うんだけど。
そもそもこのお人形の経歴も
おかしいよね？
「ソレもあるでしょうが、本題は
第三世代型の性能実験でしょう」
「ＡＩＣですか。確かに今のＩＳ学園には
イギリスと中国と・・日本の第三世代機
が有りますからね。
ＥＵの最新型選考のプレゼンには
ちょうど良い舞台でもありますね」
姉に守られてぬるま湯に浸かったアホの
織斑が日本代表みたいな扱いって
言うのがどうしても認めたくないけど！
認知度としてはそうなんだよね・・・
「その通りです。欠陥機を宣伝して

どうしようと言うのか、理解に
苦しみますがね」
ま、まぁ試験機だから欠陥機では
あるよね！代表候補生に持たせて
国際的に披露するならちゃんと
完成させてからにしろって言う
のは良く分かります。
「けど、それにしてもコノお人形
経歴おかしくないですか？
この経歴でこの歳で少佐？
ドイツも馬鹿なんですかね？」
「年齢と階級は私も同じですが？」
んん？あぁ、コレは引っ掛けですね？
「いや、司馬少佐は実績と家の関係で
この階級なんですよね？大学も出てますし、
中国国内における佐官教育どころか
将官教育も終わってますよね？」

ふふ、ちゃんと上司の最低限の情報を持ってるかどうかの確認ですよね？
引っ掛かりませんよ！
「ふむ、私の意図も正しく読み取れましたか。結構。話の腰を折ってすみませんでしたね」
「いえ、少佐にしてみてもいきなり出来た副官ですからね。部下の実力を試すのも当然だと思います！」
こ、こういうの憧れてたんだよね！
優秀な上司と優秀な副官みたいな！
「そう言って貰えると助かります。さて人形の経歴ですが、やはり普通に考えれば異常ですね」
「ですよね。軍学校に通っていたようですが、それなら現役の少佐と言うのはおかしいです」

デザインベビーなのはともかく、
コレが織斑千冬に出会ったのは3年前。
つまり12歳の時に織斑千冬に会って
鍛えられたってことになる。
だけどそれまでは優秀だったけどISの
特殊兵装と連動する事が出来なくて
落ちこぼれ扱いされた？
落ちこぼれ扱いが1年だったとして
11～12歳。手術とリハビリと適合試験
を考えて落ちこぼれの烙印を押すには
最低でも1年はかけて様子を見るよね？
つまり手術は10歳で11歳まで観察？
5年前なんて第二世代がようやく世に
出始めたころでしょ？
その時に特殊兵装の適合手術なんか
したら普通は失敗するんじゃない？
ドイツの狙いがわからない。

さらに織斑千冬に鍛えられたのは
1年だから教育期間は12〜13歳。
そこから評価を覆して云々する為には
最速でも1年はかかるでしょ?
なんたって国が下した評価だし。
更に他の人だって遊んでるわけじゃない。
それに派閥とか序列とか色々あるよね?
それに対してコレは何の後ろ盾もない
状況で廃棄一歩手前でしょ?
どうやって序列に割り込んだの?
「武力で力ずく」なんて規律を重ん
じる軍って組織じゃ絶対に許され
ないことだよ?
そういうのをご都合主義で乗り越えて
最速で動いても13歳〜14歳。
この時点での待遇は最高で准尉か少尉でしょ。
ココから1年で少佐?おかしくない?

それとも、どこかで1年で民間人が大尉になれるような大戦争でもあったの？
もしくは織斑千冬の存在がある内に評価を覆したって可能性があるけど、
それでも13歳～15歳で少佐？
それにドイツの冷水って・・・あぁ
活躍し始めたら中学〇年生だったか。
けどこの経歴なら、間違いなく佐官教育はしてないよね？正規の士官教育してたらソレで1年～3年潰れるもん。
実は司馬少佐クラスの天才で、
飛び級して9歳の段階で佐官教育が終わっていたって可能性も無いわけじゃないけど、その場合は手術が失敗しても天才の頭脳はあるわけだから将官として使えば良いだけの話。
無駄を嫌うドイツ軍人に捨てられる

って話にはならないよねぇ。
つまり最終学歴は幼年学校卒業。
残りは織斑千冬による軍人教育とＩＳ訓練。
一番うまく使える兵士かもしれないけど、
指揮官に求められるのはソレじゃないよね。
後進国とか新興国ならまだしも
ドイツっていう組織がきちんと
出来てる国の軍でこの経歴で
少佐って言うのはどう考えても異常。
何か特殊な命令を預かったから
今回の任官ってわけでも無い。
だって本国で小隊の隊長してるし、
副官は大尉だし。
それにコノ学歴ならＩＳ学園に編入する
だけの基礎学力無いよね？
普通に赤点で留年するんじゃない？
監査員は司馬少佐だし、次はアメリカ

なんでしょ？
どうやって入学したの？いや、何で入学を許可したの？
「異常な経歴を持つこのお人形の入学を学園が認めた理由って？」
「普通に考えれば織斑の存在を確認したドイツがねじ込んだと考えるべきなんですがね」
「有り得ません。ソレが通用するなら世界中がＩＳ学園に自国の生徒をねじ込んできます」
ドイツを認めたなら自分も！って感じできますよね。
「その通り。フランスに関しては表面上は納得も・・・出来ますか？まぁ出来るとして、ドイツのコレは本来ＩＳ学園としても認められる

モノではありません」
「では？」
何か面倒な連中が面倒なことを
しようとしている？
「ＩＳ委員会の中のある一派が介入
した結果ですね。上層部で決まった
ことだからＩＳ学園も承認するしか
なかったのでしょう」
「ある一派・・・ですか？」
うわぁ！政治の闇だ！
「こんな仕掛けで何がしたいかは
知りませんが、ドイツの策に便乗して
周囲に混乱をもたらすつもりです」
「こんな仕掛け？・・・ＶＴシステム？」
確か他の搭乗者のデータを使って
動かすシステムだよね？搭乗者を
タダの認証用の部品として使うモノ

だから非人道的だって話だけど、
デザインベビーを軍事利用する国が
そんなこと気にするはずも無いか。
「今更三年前の第二世代型の
性能をコピーして何になりますか？
コアを量産出来るならそれなりの
成果があるでしょうが、それなら
わざわざ昔の織斑千冬に拘る必要
なんか無いでしょう？」
「ですね。量産出来るなら数を集めて
イギリスのアレで遠距離から拠点を
狙撃するだけで勝てますし」
正しい戦争利用の仕方だよね。
つまり・・・何がしたいんだってばよ？
「現場の混乱と、ドイツの信用の失墜。
あとは織斑一夏の殺害でしょうかね？」
「あぁ、なるほど。いきなり暴走して

殺しちゃいましたって感じですか」
女権団体的には美味しい計画よね。
いいぞ！モットヤレ！
「轡木十蔵も情報を集めてますがＶＴシステムには気付かないでしょうねぇ」
「・・・そう言えば何でこの情報がココにあるんです？」
軍事機密って言うか、それ以上のナニカですよね?!
「特尉、ＩＳに使われてる根幹技術の特許を握ってるのは誰だと思ってるんですか？」
特許？あ、そう言えばそうだよ！
１０年前からＩＳの技術を研究してきたのはこの人達だ！
「副所長さん・・・いえ大佐殿ですね」
あの人ならＩＳをタダの単体兵器なんて

扱いにはしないよね。
もっと私たちが想定出来ないことに
使ってるはず。コアネットワーク
にも干渉できるのかな？
それならコノ情報量も納得です！
コレは、ＩＳを使う限りどう転んでも
相手はこっちの掌の上ってことだよね。
さっさと所属を移って良かったよ～。
「フランスの阿呆とドイツの人形に
関しては以上です。
あぁ、今のところ鳳准尉はドイツの人形の
情報に関して表面上のモノしか持って
いないので、そのつもりで居るように」
「はっ（ˇ・ω・ˇ）ゞ」
なんだかんだでリンちゃん民間人だし、
情報の漏洩の可能性が高いからね。
つまり信用されてる！私は信用されてる！

この信用に応えるように頑張らなきゃ！
リンちゃん！暫くは地獄を見て貰うよ！

第13話

簪に修行を受けるようになって一ヶ月も経ってないけど、私がどれだけ未熟で自惚れてたかは良くわかったわ。
「ふむ、中々成長しましたね」
「ハイ！ありがとうございます！」
いまだに司馬様には触れることも出来ないけどね！
「年期が違いますからね。私は准尉が幼稚園や小学校に通っている間にも副所長に鍛えられてきました。実質2年にもみたない訓練とＩＳが有ることを前提とした鍛練を積んできた准尉が私に届かないのは当たり前です」
それはそうよね。簪だって物心ついたときから鍛練はしてたって言うし。

本物の天才が歴史に裏打ちされた鍛練を積んだ結果が簪で、それに加えて本物の天才に監督されて鍛練を積み重ねて来たのが司馬様。
更に私が鍛練を積んでる間も、私より厳しい鍛練を積んでるんだもの。勝てるわけがない。
「少佐は戦闘訓練にＩＳが普通に使われるような鍛練をしてますからね。この歳になるまで地獄を知らなかった私たちじゃ、届くのは難しいですよね」
そうよね。まぁあの副所長に鍛えられてる様子を見たら、悔しいって言うよりもマジですか？って感じの方が強いけど、まんまバトル漫画ですよね？
「准尉の現状としては、まだまだ未熟ですがＩＳ学園内では更識楯無以外に負けるようなことは無いでしょう」
「更識楯無ですか。そうですね、今のまま

鍛練を続ければ半年以内には届くでしょうけど、流石にリンちゃん・・・
准尉が壊れちゃいます」
生徒会長で簪のお姉ちゃんよね？なんか色々裏で動いてたらしいけど、秀才以上天才未満の普通の変態って話よね？
・・・普通の変態って何かしら？
しかも「私が壊れる」か。司馬様や簪より温い鍛練をしてる私が壊れる心配をされるって、どれだけ情けない姿を晒してるのよ！
「准尉、確かに今の貴女が受けている鍛練は私や特尉よりも温い鍛練です。ですが焦って我々と同じような鍛練をしても、土台が出来ていない貴女では疲労が溜まるだけで、何の意味もありません」
「・・・そうなんですか」
厳しければ良いってモノじゃ無いのは

わかってるけど、そもそも積み上げる為の土台が無いのね。

「だから今はきちんとした土台を造らなきゃダメなの。地味な作業だけど、コレがちゃんとしないとリンちゃんの天才性がただの器用貧乏になっちゃうから、嫌がらずに・・・」

あぁ勘違いしてるわね？

「嫌がってなんか無いわよ？少なくとも私は自分が成長してるってわかってるし！」

それに簪や司馬様みたいな本物の天才が私の中にも伸ばすだけの才能が有るって認めてくれてるんだもの！

これで燃えなきゃ女が廃るわ！

「ふむ、ここで腐るようなら宇宙空間に飛ばして第三世代機の耐久性能の限界値確認作業をさせる気でしたが、きちんと前を向いているようですね」

「危なっ?!機体だけじゃなくて、人間としての耐久力の限界も測ることになるんですよね！死刑囚やテロリストの有効活用とか言って宇宙に飛ばしてるアレですよね?!」

「ま、まぁ普通に銃殺するよりは有効活用してるよね?」

宇宙空間に放り投げられて何時間で狂うのか?とか空気が無くなって行く様子をリアルタイムで見せつけられるのよね。

被害者やその家族にもキチンと刑の執行を見せることで、被害者は納得するし、犯罪の抑止にもなる。

やり過ぎだ！とか非人道的だ！とか騒ぐ連中も居るけど、対象は死刑囚とテロリスト。

テロリストを許して自分の家族や友人がテロに巻き込まれて死んだらお前らが責任取るのか?なんて言われたら自称人権団体

にはどうしようもない。
死刑囚が犯した犯罪もきちんと告知されてるから、一罰百戒の理を考えれば抑止力としても十分。
実際、ＩＳが浸透してからと言うもの、中国では犯罪発生率が落ちてるし。
共産党員だろうが女権団体の連中だろうがキチンと罪を暴いて処刑するもんだから、何気に今の政府は本当の意味で国民から支持を得ているのよね。
後ろに今まで国政に参加してこなかった司馬家が居るのも無関係じゃ無いわ。
政治的なアドバイザーとして副所長が就いたからこその改革。
ＩＳに使われてる技術の使い方が他人とは違いすぎるのよ。
本当の意味での黒幕よねぇ。いや、普通に

汚職や性犯罪。民族差別も無くなってきてるから良いことなんだけどさ。
つまり今回、私が無様を晒すと言うことは処刑されても文句を言えない案件だと言うことよ。
国の税金使って開発した機体を預かると言うことはそう言うこと。
国の威信を背負うと言うのはそう言うこと。
今の私の双肩には、私の未来と関係者各位の期待（）が掛かってるのよ！
面白半分で学園生活を満喫してる一夏やデザートの為に戦う他のクラス代表ごとき鎧袖一触出来なくて何が国家代表候補生か！
「おぉ～リンちゃんの背中に波紋が見える！」
コレが私の甲龍よ！
「准尉、衝撃砲はブラフでも使わないように」
「・・・はい。気を付けます」

ロックを掛けて使えないようにすると
各種制動にラグが発生するから、あくまで
自分の意思で押さえなきゃダメなのよ。
それも訓練だって話なのよね。
まぁ負けるよりは良いからいざって時は
使うようにって言われてるけど・・・
使ったら矯正確定らしいわね。
うん。さっさと終わらせて一夏には現実を
直視してもらいましょうか。

「あーこりゃ勝負にならんな」
今の准尉と織斑じゃ、当たるとか当たらない
じゃなくて、最初の接触で白式が爆発四散する
まで容赦なくコンボを続けるだろうよ。
何と言っても試合開始前に見せる関係者各位
からの熱い激励（）の言葉が詰まったビデオ

レターまで用意したからな。
何故か全員病院のようなところに居て、
必死の形相で「良いか、真面目にやれ！」とか
「絶対に遊ぶなよ」って激励（〇）してくれてる
んだぜぃ。
もちろん遊んだらリアルタイムで手術執行を
見せてやるし、自分もそうなると言う事を
理解させてやろう。
兵器を使った戦闘で遊ぶなど有り得ん。
そんな害悪に生きる価値無し。
それが軍人と言うものだ。
自分から望んでこの世界に入ってきた以上、
普段の生活に余裕や遊びはあっても、任務中
の怠慢は許さん。
ここまで追い込んだら喩え１０代女子の
恋愛脳で対戦相手が織斑一夏でも、無駄な
会話や遊びはしないだろうさ。

人質とられた悲劇のヒロインっぽいけど、
こっちからの指示は「絶対に遊ぶな」と
「真面目にやれ」だからな。そうすれば
間違いなく勝てるから「絶対勝て」とは
言わせてないし。
それくらいはわかってると思うけどなー。
「だから束。最初の接触前に動くの禁止な」
「えぇ?!」
おいおい。ヤる気だったのかよ
「いや、だって、今のいっくんじゃ普通に
鎧袖一触だよ?三次元戦闘における自分の
間合いすら理解出来て無いから、近付いたら
そのまま刻まれて終わるんだけど?!」
だからだろうが
「凰准尉にソレが出来るかどうかの確認と、
織斑一夏に現実を教える為に必要なこと
だと思わんか?」

あのガキは自分のルーツを知らんとは言え人生を舐めすぎだ。この世の中で男がＩＳを使うと言うことがどういうことか、身をもって知る必要が有る。

「うーん。うーん。確かに成長には挫折も必要だけどさー。一方的に負けて保健室とかでちーちゃんに「俺、悔しいよっ！」とか泣き言を言ってちーちゃんとの仲が深まるのも・・・アレ?普通に良くない?」

「まぁ青春モノとしては有りだろうさ」

それにその辺の素人に負けるならまだしも、今の段階で代表候補生に勝てるわけがないと言うのは世間一般の常識だからな。

「負けても良い戦いなんて今後いつあるかわからんのだ。負けを知るなら今が一番良いタイミングでもある」

「あ～確かに。それにこれならいっくんの為

にもなるか。それで最初の接触が終わってからコッチが動けば勝敗もあやふやに出来るし。つまり公式には負けじゃない。更に姉弟の仲も良くなる？あれ？コレ普通にちーちゃんに感謝されるんじゃないカナ？カナ？」

奴の性格上素直にはしないだろうが、内心では助かったって思うだろうな。

「ま、恨まれることは無いな」

「だよねー！態々嫌われる必要もないし！それなら今回はいっくんに負けを経験して貰おうじゃない！命拾いしたな貧乳！」

貧乳なぁ。何だかんだで認識はしてるみたいだし、織斑と妹の敵として問答無用でゴミとして潰されるよりはマシだろう。

「それで、イギリスのアレはどうした？」

「アレ？あぁあの生体兵器？キサラギが特殊な分離器にかけるってさ」

「なるほどなー」
まぁ妥当なところだろうな。つか分離器なんてあったのか？リムーバーとかは有るけど、遠心って言葉を使わなかったと言うことは別の理屈でヤるんだよな。
・・・外道スライムとか創るなよ？
「まったく、あんなのが有ると宇宙が汚れるんだよ！そもそもイギリスの金持ち程度が秘密裏にＩＳコアを確保なんか出来るわけ無いってなんで気付かないんだろうね?!」
だよなぁ。世の中に５００も無い兵器のコアが行方不明などあり得ん。
企業連中だって表の顔は有るんだからな。
更に言えば個人が金を積んで得られるモノじゃない。
そうだとしてもイギリスのオルコット家程度の資産でなんとかなるわけもないし、

なんとかなっても、資産なんか吹っ飛ぶぞ。
つまりアレはイギリスがＩＳで宇宙用兵器を造るための第一歩だろうが・・・そんな無粋な兵器を束が許すはず無いだろうに。
神の杖みたいなロマン兵器とは違うんだぞ？
アレだって束を説得するのがドレだけ大変だったか・・・

「イギリスの問題は片付いた。フランスの連中は監査員である弟子をどうするかで頭を抱えていて、ドイツの人形は・・・織斑一夏の暗殺が目当てで良いのか？」

「さあ？いっくんに何かする気ではあるだろうけど、ちーちゃんの知り合いだし？何かしようとしたらちーちゃんが止めるだろうから、ソレでより一層いっくんと仲良くなれば良いんじゃないかな！」

なるほどなー。なんでこいつがアレを

黙認してるか不思議だったが、そう言う
方向でモノを見てるのか。「とりあえず死ね」
じゃないとは、こいつも成長したもんだ。
「うわっ！何で急に頭を撫でるの?!
いや、嬉しいけど！なんか嬉しいけど！」
ははは、存分に撫でられるが良いわ。

「いいか織斑。勝とうと思うなよ。
胸を借りるつもりで行け」
・・・・いや、この表現はセクハラに
なるか?うーむ。ＩＳと言う兵器を使う以上、
パワハラは仕方ないかもしれんがセクハラ
はいかんよな。
しかも凰は胸にコンプレックスを抱いて
居るようだし。しまったな。今のは

教師としても女としても不適切だったか。

「勝とうと思うなってどういう事だよ！」

「そうです！そんな後ろ向きな考えでは勝てるものも勝てません！」

コイツらは・・・未熟で現実を知らんからこそ、こうなんだろうな。

「織斑。相手はお前の幼馴染みではなく、代表候補生で冬林に所属する軍人鳳鈴音だ」

土台が違う。経験が違う。技量が違う。意識が違う。覚悟が違う。熱量が違う。

「えっと？どういうことだよ？」

「代表候補生だからオルコットと同じだと思うな。オルコットは近接戦闘が苦手だし無駄な会話や遊びがあったが、凰にそんな隙は無い」

「・・・」

見ればわかる。少し前まであった甘さが

完全に消えている。
アレは冬林技研で地獄を見てきたんだろう。
スイッチがしっかり切り替わってる。
「良いか、まずは様子を見ろ。生半可な動きで奴の間合いに入れば条件反射の域で繰り出される連撃で、何も出来ずに沈められるぞ」
今の一夏ではどうやっても勝てん。
ソレどころか同じ土俵にすら立てんな。
「俺じゃ勝負にならないって言うのか?!」
「そうだ」
それ以外に聞こえていたら私の言い方がおかしいと言うことになるな。
「織斑先生、いくらなんでも一夏をバカにしすぎじゃないですか?! 一夏だって今まで遊んできたわけではありません！」
「いや、遊んでいたも同然だ」
「「なっ！」」

根本的な理屈を理解していないから、一夏が
今までしてきた鍛練は基礎訓練ですらない。
オートマの車だって表面上の操作は
アクセルとブレーキとハンドルを回すだけ
だが、実際に運転が上手い人間はもっと
色々なところに気を使っているんだ。
ＩＳがどれだけの部品と機能を有してると
思っているんだ?
コイツらはソレをどれだけ理解出来ている?
「オルコットだって自分の機体を理解できて
いないからＢＴ兵器を完全に扱えて居ない
んだ。お前は白式の何を知っている?
高々１ヶ月で熟練の使い手にでもなった
つもりか?自惚れるなよ?」
厳しいかもしれんが、この先一夏が負ける
ことを許される戦いなど無いだろう。
今なら、ただのＩＳを使える素人が代表候補生

に負けたと言うだけで済む！
男と言うだけで貴重なんだ。
下手な下駄を履かされて評価を無理やり
上げられてから梯子を外されるような事に
なる前に、素人として評価を定めてしまえば！
「・・・わかった」
「一夏?!」
よし、悔しいかも知れんが今の凰はお前を
遥かに越える修練をした上で遥か先に立って
居るんだ！まずはソレを自覚して、悔しさを
バネに・・・
「千冬姉に見せてやるよ！今の俺の実力をな！」
「そうだ！その意気だ！それでこそ一夏だ！」
いや、自分の実力を自覚して欲しいのだが
・・・これはしくじったか。

出てこないのは整備不良？それとも

千冬さんから何か策を授けられてる？
・・・卑怯とは言わないわ。人脈も立派な力だもんね。
それに私のすることは決まってる。
遊ばない。真剣にヤる。これだけよ。ソレが一夏の為にもなるし少なくとも千冬さんはしっかり意味を理解してくれるはず。
そうよ。大佐も言ってたじゃない。
一夏が普通に負ける事を許されてる舞台は、今、ココにしかない！
他の試合は全部外部からの観客が入るからその戦いぶりが見られちゃう。
未熟さも、拙さも、甘さも、全部が見られちゃうのよ。
そうなったら一夏の立場はどうなる？
今現実を知れば、少なくとも甘さは消える。
未熟さも拙さも一夏がＩＳに関わった期間を

知ればそんな意見は封殺できる。
だけど甘さはダメ！こんな環境ですら甘さが残るようなガキが良い評価なんかされるはずもないわ！
・・・一時的に恨まれてもかまわない。
それでも一夏を守れるんだから！

うん。リンちゃんは大丈夫だね。
焦らされても焦りも怒りもない。
「どうやら准尉は己のやるべき事を理解出来ているようですね」
少佐も納得のコンディションだよね！
「はい。まぁあそこまで気合いの入ったビデオレターを見ても真剣にならないならどうしようも有りませんよ」
実際鬼気迫る内容だったしなぁ。
「遊ぶなと真剣にヤれですからね。どれだけ

准尉が気分屋だったのか良くわかります」
ですよねー。あ、やっと来た。
「ようやくアホの織斑が出てきましたよ」
第三世代機・・・いや、3．5世代機の白式。
まさか倉持じゃなくて篠ノ之束が造った機体だったなんて。
つまり倉持は私の第三世代機の制作より全員でアレを解明することを選んだの？
その結果何もわからず、そのままロールアウトして情報の収集に専念してる？
自分達で新しい機体を造ることも諦めて？
・・・情けない。ソレでも技術者か。
あんな奴等に私の造ったＩＳを奪われる可能性があったかと思うと、腹が立つのを通り越して、眼鏡から闇の炎が出そうになるっ！
「やはり雪片と言う単一にして一撃必殺の力をもつ兵器の存在がアレの行動を未熟な

モノにしてますね」
あぁそうだ。今はアホの織斑の話だ。
「ですね。当たりさえすれば何とかなると言った感じで、未熟なアホの心の支えにもなってます」
その代償として遠距離攻撃への無理解と無駄に直線的な機動。まぁ機動自体は無理をすればバレルロールくらいは出来るだろうけど、そんなのは戦闘機ですら出来ること。
ＩＳの変態機動はそんなモノじゃない。
「つまり、准尉は織斑を越える技量でもって回避し続けても、相手がその差を理解できる水準ではないので無駄な特攻を繰り返すわけですね？「諦めなければ何とかなる」「当たれば勝てるんだ」と自らを鼓舞して」

「そうなります。それが諦めないど根性に見えて、見る人を楽しませることになるのでしょう」

クソだね。技量の差とは積み重ねの差。

根性？そんなのみんな持ってるよ。

努力？そんなのみんなしてるんだよ。

友情？そんなの努力をするためのエッセンスに過ぎないんだよ。

戦いは強い方が勝つ。この場合の強さとは

才能×装備×士気×熟練の度合い

才能があって装備がいくら良くても、熟練の度合いが低ければ最終的な数値は低いまま！

勘違いのオルコットと違い、そんな薄い覚悟と積み重ねがない技じゃ今のリンちゃんの動揺は誘えない。

それ以前に食い下がることすらなく瞬殺だよ！

何が超兵だ。アホの織斑が悪いわけじゃ無いけど、そんなドーピングしたやつに負けてたまるか！
もしリンちゃんがふざけた試合をして長引くようだったら、二人とも私が沈めて殺るんだから！
・・・ついでに退学にもなれるかな？
少佐に迷惑は・・・まだかからないよね？
保護者がどうこう言われてるってことは私は対外的には更識の人間だし？
中々良い案だけど、はじめからリンちゃんを殺ることを前提にしたらダメだよね。
うん。失敗失敗。特尉失敗だよ。
「こうなると、最初の接触で准尉がどれだけの覚悟と自覚を持って居るかわかりますねぇ」
ですね。私が介入するとしたらその

後じゃないとダメですよねー。
「はい、つまりは無駄に長い時間を取られることは無いでしょう」
最初の接触でシールドエネルギーをゼロに出来れば、アホの織斑にやる気があろうが秘密兵器があろうが関係無いですからね。
その選択を出来るかどうかが唯一の見所。
選択できなかったら・・・
リンちゃん?私たちを失望させないでね?

「よう、リン。調子はどうだ?」
試合前の舌戦かしら?まぁ乗っても良いわよね?
「・・・戦いに出た軍人に調子を尋ねる?
一夏、貴方は私を馬鹿にしてるの?」

試合前に少しでも時間があるなら一夏に現実を教えてあげなきゃ。

「いや、馬鹿にしてるつもりは無いけどさ。千冬姉に言われたんだよ！」

「千冬さんに？」

妙に興奮してるけど何を言われたの？

って言うかこの場で千冬さんがどうとかっておかしくない？私を見なさいよ！

「あぁ、絶対に勝てないから、胸を借りるつもりで戦えってさ」

まぁ当然のアドバイスじゃない？

「・・・そうね。その通りよ」

流石に千冬さん良くわかってる。

だけどひとつ大きな誤算をしてるわ。

多分私なら必要以上に一夏を追い込まないで、近接戦闘に付き合うって思ってる。

そうじゃないと胸を借りるなんて言葉は

出てこない。
だけど私は胸を貸す気なんか無いわ。
一撃。いえ、最初の接触で終わらせる。
情けも容赦も無い。言い訳すら許さない
完敗を突きつけてやるのよ。
それが軍人としての凰鈴音と、幼馴染みとしての凰鈴音に出来る唯一の優しさだもの。
「借りる胸なんか無いのにな？はは っ」

コイツ、今、ナンテイッタ？

「・・・」

・・・・・・落ち着きなさい凰鈴音。

アレは挑発アレは挑発アレは挑発アレは挑発アレは挑発
アレは挑発アレは挑発アレは挑発アレは挑発アレは挑発
アレは挑発アレは挑発アレは挑発アレは挑発アレは挑発
アレは挑発アレは挑発アレは挑発アレは挑発アレは挑発

私は軍人なの。挑発に乗って兵器を使う
ようなら螺旋頭と一緒じゃない。
怒るのは良い、だけど感情で動くな。

エモノはコロスべくしてコロセ！

「・・・シネ」
「えっ？」

「・・・最低ですね」

あのアホ。男として、いえ、人として最低。
リンちゃんのコンプレックスを指摘して
何が面白いの？
「ふむ、凰准尉は胸にコンプレックスを抱いていましたから挑発としては悪くありません。もしも准尉がこれに乗って隙を晒すようなら、事故を起こす前に粛清すべきですね」
そ、そうだ。今の私は軍人なんだよ。
だったらアホの挑発に対しては女子学生として感想を述べるんじゃなく、軍人として意見しなきゃダメだったんだ！
「じ、准尉は下を向いたまま動きませんがアレは自らを律しているからですよね」
合図と同時に怒りで我を忘れて突っ込むとか無いよね?!
「合図の前とは言え敵を前にして視線を逸らすのはどうかと思いますが、まぁ

相手には近接戦闘しか有りませんからね」
うん。普通なら奇襲してくださいって
言わんばかりの行動だけど、今のアホには
近接戦闘しかないから奇襲は不可能。
「今の准尉なら間合いに入ったところで、
反射的に対応出来る程度の実力はあり
ますから、誘いかも知れませんよ！」
と、とりあえず良い方向に考えよう！
あとはその反射を抑えたり騙したりする
技術を身に付ける必要があるけど、
今回のアホ程度なら問題ないよね。
「あぁなるほど。あえて隙を晒して己の
間合いに入らせてからのカウンターですか。
無駄がない良い戦略ですね」
「そうですね。それなら准尉の動きや
機動の癖を読まれることもありませんし」
それなら後から映像資料を見ても、アホ

みたいに突っ込んでカウンターを喰らった
だけだから今後の参考にすらならないよね。
よし、アホを完膚なきまでに叩き潰せ！
「あぁそれと特尉」
「はい？」
何かな？何か命令でもあるのかな？
「試合開始の合図が鳴ったら、ＩＳを起動させ
なさい」
「え？いや・・・了解です」

な、なんだか良くわからないけど少佐がそうしろって言うならそうしないとダメなんだよね。
だって私は副官で特尉なんだから！

第14話

一夏、あの阿呆が！態々凰のコンプレックスを指摘して笑い者にするだと？
ソレがお前が言う男として誇れる行為かっ！
いや、そもそもの切っ掛けは私か。くそっ。
謝罪と言うのは・・・嫌味になるか。
今の状況では私が説教しても逆効果にしかならんし。
他の生徒に説教させるのも凰にとっては屈辱的なことだろう。
はぁ・・・頭が痛い。まぁいい。
とりあえず試合開始だ。
負けるのはわかってるが、少しでも凰の技術を肌で感じてくれれば・・・
「先輩！いえ、織斑先生！観客席にＩＳ反応です！」

「何?対象は誰だ!」
開始の合図と同時にＩＳを展開だと?観客席だと専用機持ちか?
「さ、更識簪さんです!1年4組の!隣には司馬さんが居ます!」
「更識簪だと?!」
どういうことだ?冬林に所属するために退学届けを出しているのは知ってるが、その為か?いや、それなら別に今、このタイミングである理由がない。
何故このタイミングでＩＳを展開する必要がある?冬林の指示で一夏を殺る気か?いや、それなら普通に暗殺するだろう。何だ?何が有る?
「行けっ!一夏!そんなヤツ切り捨てろ!」
箒?いや、切り捨てるだと?様子を見ろと言ったろうが!コイツらは観ることの意味すら知らんと言うのか?!

『行くぜぇぇぇ！』
行くな！
『・・・はぁ』

「・・・はぁ」
あまりの阿呆さ加減に思わず溜め息が
でちゃったけど「真面目にヤって無い」って
ことにならないわよね?!
・・・と、とりあえず何も言われて
ないから大丈夫そうね。
真剣に、気を引き締めて行くわよ！
で、一夏の予測軌道は正面から真っ直ぐ?
視線や制動から回避パターンは・・・無し。
コッチの攻撃はマシンサポート無しの勘で
避けるつもり?舐めすぎよね?
狙いは上段からの切り落とし。受けたら

雪片の防御貫通で大ダメージで避けたら当たるまでヤる？右手の力みから両手を利き腕のように使えるわけじゃない。

・・・強化したハイパーセンサーって本当に凄いわ。いえ、コレが本来のＩＳの能力なのよね。音速どころじゃない、宇宙速度に対応するためのモノなんだから。

あとは使い手が反応出来るギリギリまで出力を解放すればこうなるか。

一夏、音の世界で満足してる貴方に教えてあげるわ。

そんなの生身だって超えられるのよっ！

『うぉぉぉぉぉぉ！』

何の技も事前の崩しも無い、勢いだけの上段なんか当たるかっ！

『なっ避け?!』

避けただけじゃないわよ！回避は攻撃の

予備動作！受けなさい！
『攻撃とはこうやるのよっ!!』
コレで終わらせる！死角からの連撃を
喰らえっ劣化超級武神覇斬っ！

『あ、間に合わないかも?ま、いーや!
行けっ！ごーとぅーへーるだよ!』

『なっ?避けっ・・・』
「馬鹿がっ！」
あんな見え透いた攻撃が当たるものか！

しかも避けられたことに驚く暇など
有ると思っているのか?!
『えっ?!ぐおっっ?!』
「一夏?!」
終わった。死角からの一撃で最初に脳を
揺らされた。もう一夏にはまともに戦う
ことなど・・・
何?連撃?!しかも上から下に叩きつける
ような形で吹き飛ばないように一夏の体を
大地に固定している?
更に闇雲の一撃が当たらんように雪片を
持つ右手を先に破壊?!
不味い!手加減はしているようだが、
アレでは経験など何も得られないまま
終わってしまう!
『織斑先生!上からエネルギー反応っ!』
そうだ!試合より更識の行動を考えねば

ならなかったのに?!
しかし上だと?更識が何かしたと言うわけでは無いのか?
「上に何が居るか確認を急げ!
それにエネルギー反応と言うことは狙撃か?ならばバリアが・・・何っ?!」
破壊された?!一瞬で?!着弾点は・・・
アリーナ?不味いっ!一夏っ!

「少佐っ!」
ＩＳ学園に侵入者?それもバリアを貫いて正面からの奇襲?!
私にＩＳを展開させたのはコレが理由?!
「ふむ、こうも簡単に正面からの奇襲を受けますか。見たところ特にステルス性能も無いようですが・・・どう言うことです?

いや、単純に油断慢心でしょうか」
うわぁ流石司馬少佐。普通に監査員としての仕事してるよぉ。いや、緊急時の対応も重要な監査対象ですけども。
「特尉もアレに気付いて居ませんでしたから、コレは単純に無能と言うよりセンサー類のリミッターの問題ですかね？」
あぁ、司馬少佐は最初から上空に不審なアレが居るってわかってたんですね。
「恐らくはそうです。私もまだ完全に解除するのは許可されてませんから」
本来ＩＳの機能は宇宙と言う広大な空間に対応する為のモノ。
特に各種センサーの性能は速度なら最大第三宇宙速度まで対応できるし、距離も地上から月までは対応出来る。
あとは使い手が発狂しないレベルまで機能を

解放すれば良いだけ。一昔前ならセンサー類だけでも世界が取れる機能だよ。
少佐はどこまで解放してるかわからないけど、少なくともＩＳ学園の設備よりは上なんですね。
ＩＳ学園側としては観測員の単純な見落しか機械の性能不足。
コレで世界有数の防御能力を誇るんだから世界がどれだけ使えないかって話だよね。
所詮篠ノ之束の造った機械を掠め取って使ってるだけの三流ども。
「まぁリミッター云々は個人でやるからこその問題です。機械の補助と組織で動く観測員には然程関係ありません。つまり制限解除を知らないか出来ないかと言うことになります。結局連中が無能なことは変わりませんね」
「そうですね。世の中は結果がすべて。

こうして侵入された以上はその評価を
粛々と受け入るべきでしょう。
大体予告してからテロを行うテロリスト
など居ませんから、観測員は常に緊張感を
持って日々の職務に当たらねばなりません。
その上でこの醜態なら・・・予算の無駄です」
つまりは学園側の人員の無能さが証明された。
教員、事務員、観測員、警備。そのすべてが
世界トップクラスの一流と自称していたＩＳ
学園が。ソレに協力している更識も。
情けないなぁ～。コレが世界のトップなの？
改造や改良どころかコピーすら出来ない技術者に
満足に使いこなせない使い手たち・・・
コレじゃあ篠ノ之束だって関わるのを止め
て行方を眩ますよ。
「それに奇襲を許しただけでなく、システム
にも干渉されてますね。なんたる無様」

え？あ、本当だ！私が仕込んだハッキング
システムも無効化されてる！
「えっと、バリアを破られた衝撃に驚いて
いる隙に浸入したのでしょうか？」
それともアノ黒いのを基点にハッキング
してるの？
「違いますね。今、普通に防壁を貫いて
ハッキングしたのですよ」
「・・・正面からのハッキングですか」
度重なる失態。だけど、コレは相手が悪い？
正体不明のＩＳに、こんなハッキング技術を
持ってる人間なんか一人しか居ないよね？
「では篠ノ之束の目的はなんでしょう？」
「ほう、コレだけで兎の存在に気付きますか。
流石特尉です」
褒められるのは嬉しいんですけど・・・
「いや、気付かない人って居るんですか？」

ソレ以外無いよね？
「この学園は無駄に敵が多いですからね。
理事長のように心当たりが多いと特定に
時間がかかるのですよ」
「なるほど」
そう考えたら、学園側にしてみたら私たちも
容疑者になる可能性も有るんだよね？
そうやって無駄にリソースを割いた結果が
中途半端な防諜に中途半端な防御か。
「それで、兎の狙いですが」
「はい、態々今日を狙って仕掛けてくる
理由がわかりません」
今日は事故が無いように教員もＩＳを纏って
待機してるよね？そんな警備の中に侵入？
挑発かＩＳ学園の防御能力の確認？
「試合を壊すことと私の命ですね」
「はぁ?!」

試合を壊す?そんなことして何が?それに
少佐の命?!てっきり篠ノ之束は冬林技研で
確保してると思ってたのに?!
「とりあえず凰准尉に全力戦闘の許可を。
負けたら特尉が回収しなさい」
「あ、はい」
い、命を狙われるのに馴れてます?
「当然です。実際今まで私の暗殺に失敗して
滅んだ組織が多すぎましてね。今やフリー
の人間・・・さらにマトモに情報収集も
出来ない阿呆しか暗殺依頼を受けないんです」
嘆かわしいことですって言ってますけど、
アレですか?司馬少佐にしてみれば暗殺は
緊張感を保つための訓練か何かですか?
「私だけでなく周囲の護衛の訓練でもあります。
ちなみに唯一暗殺に失敗しても生きてるのが
兎ですよ。アレは師も認めてますからね」

「え”大佐殿が？いやいやいや、大佐殿は
司馬少佐の婚約者なんですよね？」
愛することは壊すことなんですか?!
「細かいことは先程師から送られてきた
データを確認なさい」
「あ、はい」
ほぇー。ハッキングやジャミングされてて
もちゃんと情報の受け渡しが出来てるん
ですねぇ。では確認をさせて貰いますか。

（？Д？）

またアホの織斑かよっ！

更識がＩＳを展開したのはコレが理由かっ！
「先輩っ！システムがハッキングされてます！

防壁が全部閉じました！」

「なんだと?!」

生徒が閉じ込められた?!

いや、この場合は教員による援護を封じたと言うことか！

更識はいつ気付いた?元々知っていたと言う線は・・・ある。だが、それならＩＳを展開しただけと言うのはおかしい。攻撃なり防御なりするのが普通だろう。

司馬が何かしたか?

いや、更識が司馬の側を離れないのは護衛の為だ。自分で何かをしたなら更識も動かす。

つまり、この侵入者は司馬の敵?では犯人は束では無いのか?

アイツにとって冬林技研の人間は同じ夢を追う仲間であり同士。

その実質的なトップの司馬を襲うことは

無いだろうし、教頭の婚約者を狙ったらアイツでもただでは済まん。
しかしＩＳ学園に正面からの奇襲を仕掛け、さらにシステムにハッキングを仕掛ける阿呆が束以外に居るのか？
そしてこの介入のタイミングは何だ？
それに現場には一夏がっ！くそっとりあえず生徒の安全を最優先だ！
「凰、聞こえるか?!」
『聞こえてます。状況どうぞ』
流石に軍人としてスイッチを切り替えてるだけのことは有る。
今の凰なら戦力の1つとして数えても大丈夫だろうな。

千冬さんの声は聞こえてるけどさぁ。
焦りすぎじゃない？高々侵入者一体よ？

生徒を護るために普通にアリーナと繋がる防壁を降ろして、教師が出てきてフクロにすれば終わりでしょ？
それなのにハッキングを解除して生徒の避難と教師が来るまでの遅滞戦？
いやいや、避難の邪魔をしてる中の防壁を何枚か壊せば良いだけでしょ？
生徒の避難って言ったってただの女子校じゃ無いんだから、緊急時の対応くらいキチンと出来るわよ。上級生も居るでしょ？
あ、それとも修繕費用とか考えたら簡単には出来ないのかしら。
なんたって天下のＩＳ学園だし？
侵入者にあっさり侵入されました。
ハッキングもされちゃいました。
どうしようも無かったんで壁を壊しました。
すぐに修繕するので予算下さい。

なんて言えないわよね？
・・・バカじゃない？自分達に面子に拘るだけの価値があると思ってるの？
いくら千冬さんが弟魂でもねぇ。余裕を無くした指揮官に従う気は無いわ。
まぁ結果的に遅滞戦にはなるだろうから、後から文句も言われないかな？
これなら司馬様から届いた命令を確認する方がよっぽど大事よね。
え～何々？

（Φ ωΦ）

いや、試合を潰すのはわかるけどさ。
一夏の立場を守るためでしょ？千冬さんが篠ノ之束に依頼したのかしら？
なら千冬さんの焦りは擬態？それとも

こんな方法で干渉してくるのは想定外？
どちらにせよ茶番ね。
理想は私たちが苦戦したところを一夏が
倒すことで、一夏の評価を高めようとした？
いや、実力も無いのに評価だけ上がったら
ダメでしょ？
流石は篠ノ之束。技術者の極みはやっぱり
ＨＥＮＴＡＩなのね。人の機微がわかってない。
それから司馬様の殺害ね。中国の本部に
居たときから副所長さんが司馬様には程よい
刺激になるって言ってたもんね。
そりゃそうよ。本人や千冬さんが来るなら
ともかく、人形じゃ司馬様には勝てないわ。
どんなに頑張っても刺激止まりよね。
あとは司馬様と言うよりは周囲の人間に
緊張感を持たせる為のモノなのかも。
あぁ、一応バリアを破るくらいの出力が有る

攻撃が出来るくらいだから、一撃の重さが
今回の刺激になるなのかしら？
それとも私や簪の戦力調査？少なくとも、
アレはその辺の生徒や今の一夏なんかよりは
よっぽど強そうだけど。
『司馬少佐の権限により、甲龍の全武装の
使用を許可します』
あぁ～やっぱりそっちだったか。
ついでのように全力戦闘の許可も出てるし。
とりあえず一夏に対しては真面目にヤって
実力の差を見せつけたってことで、関係者
各位は無事に解放されたみたいね！
これで肩の荷（）が降りたわ！
あとはコイツを普通のイレギュラーとして
処理すれば良いのよね？
目的からすればコイツは一夏を狙わない。
だから私が一夏が寝てる方向にさえ行かな

ければヤるのは普通の一騎討ち！
それなら機械人形なんかに負けてられない！
さぁ行くわよっ！

『遅滞戦？別に倒しても良いのでしょう？』

『ＧＡＡＡＡＡＡＡ！』
左、上段降り下ろしからの
右、胴回し回転蹴り。
『ＧＡＡＡＡＡＡＡ！』
続けて右裏拳で距離をあけつつ
左でチャージしたビーム？兵器。
『ＧＡＡＡＡＡＡＡ！』
流れるような動きで無駄が無いけど、

無駄がないからこそ避けやすい！
「左手先端部。貰うわ！」
『ＧＡＡＡＡＡＡＡ！』
さっきから同じ言葉？ばっかりじゃない
もう少し機械音声にも拘りなさいよ！
残る武装はバリアを貫いた右のビーム兵器
よね？まぁ肉弾戦もあるけど、これだけ
なら特に問題ないわ！
『ＧＡＡＡＡＡＡＡ！』
右の直突き！
確かに早いけどねっ！
『ＧＡＡＡＡＡＡＡ！』
左の・・ジャブ、のつもり？
軽いっ衝撃砲で逸らす！
『ＧＡＡＡＡＡＡＡ！』
蹴りも早いけどね！
重心がズレてんのよっ！

『ＧＡＡＡＡＡＡＡ！』
連撃も早いだけで緩急がない！
威力が強い単発は虚実がない！
簪や司馬様に比べたらこんな単調な攻撃じゃ、怖くも何とも無いわよ！
『ＧＡＡＡＡＡＡＡ！』
防御力も高いみたいだけど、流石に武装を備え付けた先端部分は脆いわね！
『このまま削りきるっ！』

ふっ、遅滞戦では無く倒すなどと言ったときは自惚れかと思ったが、流石に強い。
「ファ、凰さんはここまで強かったんですね！」
山田君が驚くのは良くわかる。
第三世代機として単純なスペックが違うと言うのも有るが、凰は予想以上に機体の

理解度が高い。
アレには楯無とて楽勝とは行かんだろうよ。
「山田君、ハッキングと生徒の避難状況はどうなっている？」
見惚れるのは構わんが、本来アイツは私達が守るべき生徒。
一人で戦わせる訳には行かんよな！
「は、はい、防壁は一部開放し生徒は順次避難してます！ただ更識さんと司馬さんはその場を動いていません！」
「更識と司馬が？」
動かない？何故？生徒の命に値段をつける気は無いが、司馬も更識も国家の宝とも言える人材だぞ？とくに司馬は監査員。
優先的に避難させねばならない対象だ。
「こ、個別に避難勧告をしますか？」
緊急時に生徒を特別扱いするのは避けたいが、

いや、そう言うことか？

「必要無い。あの二人はあそこに残ることが一番安全だと判断したのだろう」

非常時におけるＩＳ学園の対応についての監査もあるだろうがな。しかしコレは流石に・・・十蔵さんの胃がもたんぞ。

「司馬少佐、避難はどうします？」

この場に居るよりは避難した方がよさそうなんですけど。動く気配が無いんですよね。

「必要ありません」

ですよねー。

だけど今後のためにもその判断の根拠は聞いておいた方が良いよね。

「凰准尉が勝つからでしょうか？」

まぁ負けても司馬少佐が自分で動けば瞬殺出来る相手だからって言うのも

あるだろうけどね。

「勝ち負けと言うより、暗殺に対する心構えの問題ですよ」

「・・・暗殺に対する心構え。ですか？」

ま、不味い！もしかしたら暗部の常識みたいなのが有るんじゃない？

ソレを知らないなんて、コイツ大丈夫か？とか思われたらどうしよう！Σ（ノд＜）

ふむ、暗部向けの性格ではありませんし家業から離れていたからわかりませんか。まぁまだ若いのですから知らないことを叱責するより、噛み砕いて教えるのが正しい上司と言うモノでしょう。

「特尉、私が一般の生徒と共に避難した場合暗殺者はどのような行動をとりますか？」

特尉ならコレだけでわかると思いますけどね

「暗殺者ならですか？・・・あぁ他の生徒に紛れての暗殺か、他の生徒ごと爆破しますね」
「正解です。コレをヤられた場合、私や特尉は無事でも他の生徒が死にますからね。周囲を煽り社会的に殺そうとするのですよ」
自分だけ助かるように動いた！とか何で他の生徒を助けなかった！とかそもそもお前が居なければっ！とか。
「本来なら暗殺者とソレを雇ったモノを非難すべきなのにその矛先をこちらに向け、感情論でもって反論を封殺し、社会的な圧力をかけてくるわけです」
兎が社会学にまで手を伸ばしてきたのは意外ですが、残念ながらまだまだ甘い。
「なるほど。マスゴミは元より、感情的な１０代女子の思考を操るなんて簡単に出来ますよね」

この場合面倒なのは学生ですね。口封じするにも世間の目を気にする必要がありますから・・・普通ならね。

「えぇ。そう言うことです」

そもそも教師ですら我儘な小娘ですから、ハッキリ言って政治的には駒にすらなりません。

暗殺者云々述べましたが最終的な兎の狙いは私が我先にと避難したら、これ見よがしに動画やら何やらを作って師に見せて私の評価を落とすつもりなんでしょう。

誰が引っ掛かるか。

「つまり下手に避難すれば逆に暗殺されやすくなる。対してこうして堂々としていれば、相手は隠れて無い司馬少佐を暗殺する為に自分も表に出て来なければならないんですね？」

真面目に暗殺について考えてますねぇ。
まぁ護衛とすればソレが正解なんですけど。
「そうなります。まぁ私の認識範囲外からの狙撃と言う手もありますが、その場合相当な距離がありますからね。着弾までの間に対処出来てしまいますので狙撃はお奨めしませんよ」
神の杖のような攻撃なら有りかも知れませんが、その場合は私個人の能力云々では有りませんからね。普通に司馬家や師が動きますから。・・・実際イギリスがなんか宇宙用兵器を造ったけど潰されましたからねぇ。
今ごろ連中も機業も大慌てですよ。
「確かに。最終的に暗殺者の第一手目はあぁやって正面から来て、司馬少佐を動かそうとするってことになるんですね？」

「ええそうです。だから動かないのが正解なんですよ」
理解が早くて助かります。流石に現場の准尉はそこまで考えていませんが、まぁ彼女はあくまで兵士ですからね。
「なるほど、わかりました。しかし准尉は中々良い戦いをしますね。スペック上負けてるようですが、武装と体の使い方が昨日までとはまるで違いますよ」
「そうですね。アレは訓練で産み出すのが難しい、命懸けの戦いの中でのみ作られる緊張感の中に身を置くことで己を追い込み、ソレに順応と抵抗をすることで加速度的に成長しているんですね」
准尉は気分屋だし、実戦で己の蓋を破るタイプの人間ですからね。
まぁどんな人間でも土台さえ作れば後は何処

でも何でも積み重ねて勝手に強くなることが出来るんですけど。

「ミックスアップ！・・・とは少し違いますけど、そんな感じですね！」

「アレは互いのレベルアップですが、今回は准尉が一方的にレベルアップしてる形です。結果として、特尉が言うように微妙に違いますが感覚的には一緒と言っても良いでしょう」

それにアレと准尉は上手く噛み合ってますから、良い感じで成長してますね。

ふむ。今後はあの速度域での鍛練が可能ですか。これは生身の場合での認識能力の成長度合いも測る必要がありますね。

「それでも特尉には届きませんが、今後は一方的に叩き潰すと言うのは難しくなりそうですね？」

「そうですね。生身ならまだまだ楽勝なので

しょうけど、ＩＳを使った戦闘だと少し苦労することになりそうです。良い訓練相手が出来て嬉しいですよ」

うむ、良く現状を理解出来てますね。

これからも二人で競いあって成長して欲しいものです。護衛と国家代表候補生が無能では困りますからね。

さて、今回の報告書について理事長との打ち合わせをしなければなりませんか。

「あれ？し、少佐、あの。あちらを御覧下さい」

「特尉？あちらとは・・・いや、アレは何をするつもりなんですかねぇ？」

アレは兎の妹ですよね？確か管制室に居たはずですが、避難もしないで放送室って。

自衛手段もない姉頼りの勘違いの阿呆が一体何をするつもりなのやら。

これは・・・このまま教師を突入させたら、
鳳のリズムが崩れて救援どころか逆に足を
引っ張ることになるな。
「織斑先生、今の状況ならこのまま鳳さん
に任せた方が良くないですか？」
山田君も気付いたか。確かにこのままでも
勝てるし、何より今の鳳は自らの殻を破って
急成長している最中だ。
コレを邪魔したら教師ではない。
だが生徒に危険な相手を任せて居るのも事実。
手を出さない方が鳳の為になるんだが・・・
「そうだな。鳳の集中が切れた時に備えて
教師陣は待機だ。何時でも行けるように
この映像はリアルタイムで転送するように」
いくら優勢でも鳳はまだ学生だ。何かの拍子
で崩れる可能性も有るからな。

「了解です！」
さて、あの速度域での戦闘が当たり前に出来るなら、この勝負は揺らがん。
生意気な小娘が大きくなったじゃないか。
よし、私は後始末の準備を行うとしよう。
・・・報告書の作成前に司馬との調整が必要だろうが、その調整は誰がするんだ？
わ、私は無理だぞ！
「せ、先輩っ！あちらをっ！」
ん？まさか凰が崩れたか？いや、山田君が示しているのはアリーナではない。
え？放送室？
「・・・は？いや、いつの間に？と言うかヤツはあそこで何をするつもりだ？！」

『立て！一夏ぁ！男なら・・・男なら
その程度の敵に勝てなくてなんとするっ！』

『『「「はぁ？」」』』

『・・・おうっ！お陰で目が覚めたぜ。
リンっ！今まで一人で戦わせてすまなかった！
俺も戦うぞっ！』

『「「はぁ？」」』

第15話

『うおおおおおおおお！』
あぁもうっ！一夏が！邪魔っ！
せっかくコイツの動きや間合いを
掴んで、速さにも対応出来てきたのに！
『リンっ！危ないっ！』
危ないのはアンタが居るせいだからね！
下からの左前蹴り！見えてるのよって
・・・遅いっ！振り抜いた先に一夏
が居るから、同じ姿勢で同じ技なのに
速度がズレるっ！
「あぁぁもうっ！一夏邪魔！下がってよ！」
一夏のせいで敵の動きに緩急が
出来てるのよ！
『何言ってんだ！一人で勝てるわけ無いだろ！』

うがぁぁコイツ！何も理解出来てない！
さっきまで一人で勝ってたし！
そもそも一夏と連携訓練なんかしてないし、
実力が違うから邪魔にしかならないのっ！
『一夏！油断するなっ！』
何が油断よ！一夏の実力なんてこんなモン
でしょうが！
今だってコイツが手を抜いてるから生きてる
だけでしょ?!
私に対する攻撃の重さとか速さとか連撃の
回転とかと比べて全然違うじゃない！
ハイパーセンサーが無いから気付かないの？
そもそも何でアイツは普通に放送室に居るのよ！
『おう！俺たちの戦いを良く見ておけ！』
俺たちぃ？もうコレ何とかしてよ！
学校の教師はどうしたの？もうとっくに
準備できてるでしょ？さっさと介入してっ！

せめて一夏を外に叩き出してぇぇぇ！
『ふっ、お前の勇姿を見せてもらおう！』
・・・・・・・
コイツら絶対私の邪魔する為に居るよね？
『行くぞリン！俺たちの力を見せてやろう
じゃないか！』
アンタの力はさっき見たわよ！
っていうか何で上から目線なのよ！
もうやだ！帰りたい！簪とアホな映画
見て頭を空っぽにしたい！
「司馬様ぁー司馬様ぁーー！もう無理です！
助けて下さいよぉー!!」

ーーーーーーーーーーーーーーーー
うん、リンちゃんからの泣きが入ったけど
気持ちは良くわかるわ。
助けて上げたいのは山々だけど、少佐の

意見はどうなんだろ？

「・・・少佐、アホの織斑が無駄にやる気を出してますけど。コレってどうします？」

いや、何なの？熱血モノ？それにしても酷いんじゃない？

リンちゃんの邪魔になってるのが何で分からないかな？

「まぁ、兎的には有りかも知れませんが。准尉には邪魔以外の何者でもありませんね」

ですよねー。でもココで思考停止しないでコレをどう利用するかを考えるのが出来る副官の仕事だよね！・・・利用かぁ。アホの使い道って生贄以外何かあるかなぁ。

「特尉。阿呆は単一で見るのではなく、集団の一部として見るのですよ」

ほむ・・・なるほど。

「集団の一部・・・つまり阿呆を抱え込ん

でる連中の弱点として活用すると？」
この場合はＩＳ学園ですよね？
「そうです。阿呆は単純に投げ捨てるモノではありません。敵に向かって投げ捨てるのです。今回は阿呆の正しい使い方を見せますので、よく学ぶように」
「ハイッ！」
流石司馬少佐！少佐くらいになると産廃モノの阿呆も有効活用出来るんですね！
「あぁ、それと介入の用意を」
「あ、はい！・・・アホのせいで准尉のリズムが崩されましたもんね」
よかったねリンちゃん。少佐にもちゃんと助けるつもりがあったよ！
それにしてもあのアホども。
黙ってれば勝てたのに余計なことを！
「そうですね。ただ、この程度で負けるのが

今の凰准尉の実力と言うことです。
変に慢心されるよりは良いと思いましょう」
「ですね！」
これから先、何があるかわからないから
こういう状況でもきっちり勝てるように
鍛えてあげるよ！

ーーーーーーーーーーーーーーーー
あのバカ・・・今更何をしているっ！
連携訓練も何もしていない素人が加わった
ところで凰の邪魔になるとわからんのか！
「先輩！司馬さんから回線です！」
「回線？・・・そうか。こちらも凰に連絡が
取れるくらいだもんな。よし、繋いでくれ」
嫌な予感がする。とてつもなく嫌な予感が
するが、まさか拒否するわけにも行かん。
『こちら監査員の司馬です。音声は

正確に届いてますか?』
・・・学生の身分でなく監査員としてか。
コレはもうアレだ。本来は私の管轄
ではないが、現場指揮官として応えねば
まずいだろうな。
「こちら織斑です。監査員殿の音声は正常に
届いております」
なんの用でしょうか?だの忙しいからさっさと
用件を述べろ!などとは絶対に言えん
・・・こんな状況でわざわざ入れてくる連絡だ。
おそらく相当厄介なモノ。ヘタに省略など
されては要らぬ言質を取られるからな。
具体的にはアンタが省略しろって言ったん
じゃないかって感じになるだろう。
『結構。これより監査員として織斑教諭を現場
指揮官として認め、いくつかの質疑を行います。
この内容は記録され、後日ＩＳ委員会で開催

される査問委員会においての公的な資料となりますので、明確な返答を期待します。
許可のない発言や、質疑に無関係な発言は控えるように。
尚、質疑について3秒以上の無言は肯定とみなしますのでコレを了承するように。
・・・よろしいですね？』
査問委員会だと?!何をする気だ?!しかも三秒？いや、確かに監査員や査問官が相手に時間を与えるはずがないのは知っているがっ！
『1・2・3。肯定したと見做します。
ではこれより質疑を行います』
「え?ちょ、ま、待てっ！」
今のも質疑になるのか?!
『許可のない発言は認めません。が、一つ教えましょう・・監査員が監査対象に「待て」と言われて待つようなことはありません』

そ、それはそうだろうが！

『では尋ねます。あの正体不明の機体はＩＳ学園に関係する戦力ですね？』

・・・は？何の話だ？何を言っている？

何故ココでそんな結論が？

「先輩っ！ダメです！」

「あっ！」

しまった！

『３。肯定と見做します』

やられた！司馬は最初からコレが狙いかっ！

しかも卑怯でも何でもない！最初から無言は肯定だと告知してきていたし、待つことはないと説明も受けていたではないか！

その上、イエスかノーの二択に対して無言。

これではまさしく肯定と同じ・・・

『それでは質疑の続きの前に、待機している教師陣の手で以て現在凰鈴音の邪魔を

している、織斑一夏の戦域からの排除を
求めます。この行動を６０秒以内に行わない
場合はＩＳ学園による監査活動に対する明確な
妨害行為と見做します。よろしいな？』
「・・・了解です」
コレは考えるまでもない。素人をテロの
現場に残すなどありえんからな。
「山田君。織斑に撤退の指示を。それと
教師陣に織斑を隔離するよう通達を」
「はいっ！」
山田君も今の状況の不味さに気付いたな。
ヘタに異論を唱えようものなら、ソコから
全てを持っていかれる！
つまりこの質疑は我々の自作自演を
疑うモノで、ソレを確定させる場か！
くそっ！十蔵さんですら勝てない政治の
化物と、こんなところで戦わされるとは！

『結構。では質疑を続けます。
篠ノ之箒を放送室へ向かわせたのは
凰准尉に対する妨害行動の為ですね？』
「ち、違う！」
そんなはずがあるかっ！
『では『立て！一夏ぁ！男なら・・・男なら
その程度の敵に勝てなくてなんとするっ！』
とは何でしょう？織斑一夏を気絶させたのは
中国の国家代表候補生である凰鈴音ですが？』
くっ！
「そ、それはあの正体不明機で・・・」
『私はアノ機体はＩＳ学園が男性操縦者の
敗北をうやむやにする為に出した戦力だと
判断しています。
その証拠に織斑一夏に対する攻撃は凰鈴音
への攻撃に比べて遅く、鈍く、軽い』
「なんだと?!」

そんなことを質疑をしながら観測して
いるだと?そんなことが可能なのか?
「・・・先輩、本当です」
ま、まさか、そんな。
・・・いや、山田君がこの状況で私に嘘を言う必要がない。
『さて、それを踏まえた上で問います。
その程度の敵とは誰でしょう?
勝てないとは誰に?あのまま戦っていたら
協力者が負けるから織斑一夏に邪魔を
させて凰鈴音のリズムを狂わせたのでは
ないのですか?』
い、いや、それは!
『さらに彼女は貴女方が特別扱いをして
本来立ち入り禁止区域である管制室に
居て試合を見ていたはず。
私も試合開始前に上空に不審な物体が
飛翔しているのを確認していましたが、

世界有数の設備とスタッフを誇る管制室で
観測出来ていないはずがありませんね？』
「ち、違う！」
観測など出来ていなかった！だがソレを
認めればスタッフの無能の肯定・・・
どちらにせよ介入されるっ！どうしろと
言うのだ！
『イエスかノーの質疑において、それ以外の
返答は無言と同意です。3。肯定と見做します』
「くっ」
ダメだ！この状況はすでに司馬による
独壇場！今更十蔵さんが出てきても
どうしようもない！後日の査問委員会で
「あくまで現場指揮官である私が間違えた」
という形で持って行くしかないのか・・・
『ＩＳ学園は、試合をうやむやにするために
勝負がつく直前にあの機体を試合場へ突入させ、

織斑一夏の負けの判定を消した。
そして凰鈴音の戦力調査とあわよくば監査員である私の協力者の戦力を減らすために、凰鈴音に対して遅滞戦闘を行うよう指示をだしたのでしょう?』
「そのようなことはしていない!」
「先輩?!」
反論すれば潰されるのはわかってるが、ここまでこじつけられて黙っていられるか!
『ならば緊急時に所属不明機の排除より、防壁を破壊せずに開錠を優先したことに対する意図は何ですか?教師が出ずに学生に遅滞戦をさせる意図は何ですか?』
「くっ!」
予算や学園の面子などとは言えん・・・
『さらに本来なら避難誘導を行いアリーナから人を遠ざけねばならない状況で、ワザワザ

放送室に乗り込ませて自己ＰＲをさせることが
邪魔でなくてなんだと言うのですか？』
アレは・・・確かに邪魔以外に言い様がない
『管制室にいた人間がワザワザ危険地帯へ？
そんなの貴女方が意図的に差し向けないと
不可能ですよね？少なくとも管制室から
外に出した者が居るでしょう？』
・・・普通に考えればそうだろう。
こちらとて防壁のハッキングを解除
してる最中だったとはいえ、管制室の人間全員が
ドアが開いていることに気付きません
でしたなど言い訳にすらならん・・・
『そもそもアレは自分がナニをしているのか
わかっているのですか？
新人消防士の保護者気取りの素人が火事場に
防護服もなく乗りこんで、身を潜めていた
要救助者を武器で殴り気絶させ、他の先輩

消防士が細心の注意を払い爆弾処理をしている最中、その横にいて先輩消防士の作業の邪魔をすることしかできない未熟な新人消防士に対して、無駄にでかい声を出して応援してるんですよ？邪魔でしょう？』

「「・・・」」

そうだな。アレはそういう行為だ・・・

『これが妨害行動で無くて何だと言うのです？こんなの自分が安全であると理解していないと出来ませんよね？』

「「「・・・」」」

まさしくその通りだ・・・

『それで、貴様らは今ナニをしている？織斑一夏を痛め付けられた腹いせに、鳳鈴音をテロに見せかけて殺す気か？』

「そんなことはしない！」

それだけは絶対に否定しなければっ！

『ならばさっさと動け！未熟な邪魔物を
排除しろ！やかましいバカを黙らせろ！
ソレが貴様らの仕事だろうが！
すでに６０秒経過しているにもかかわらず
織斑一夏は戦域を離脱していない！
監査員として直ちに行動に移るよう勧告する！』
「・・・了解です」
『こちらの質疑は終了です。あとは行動で
示すように。以上』

「・・・先輩」
あぁ、わかっている。完全敗北だ。
「織斑に繋げ。私が説得、いや、命令する」
「・・・はい」
このままでは一夏まで処罰されてしまう。
せめてそれは防がねばならん！

―――――――――――――――

「はぁ?この状況で俺だけ下がれって?
リンを置いて?!」
『そうだ、お前が凰の邪魔になっている』
良し!ようやく教師も介入してきた!
さては司馬様が動いたのね!
これで休めるわっ!
「邪魔?そんなこと無いだろ!こんな
ヤツ相手にリン一人で戦わせるなんて
出来るかよ!」
気持ちは・・・嬉しくないわね。
普通に邪魔だし。素人に「私は軍人として
未熟だから一人には出来ない」って言われ
てるようなものだし。
それに今は普通に教師が戦っているし。

メインの武器を潰したから、あとは回避と欠損部分を攻撃すれば第二世代機でも十分勝てるわよね。

戦闘パターンも十分見てただろうし。

『いや邪魔だ。その証拠にお前が邪魔するまで無傷だった凰の機体が、今やボロボロになってるじゃないか』

そうなのよねぇ。甲龍も無駄に損傷させちゃったわ。

……コレはあれよね。

不測の事態に対応できなかったって判断されて訓練が厳しくなるパターンよ！

「いや、だって、でも！」

うん、流石はＩＳ学園の教師。機体の特徴を良く理解してるし、連携も十分。

アレなら安心して見ていられるわ。

『いい加減にしろ。今回のお前の行動は援護ではなく乱入であり、凰の手柄の

横取り行為と言うのだ』
そうなのよねぇ。このままなら勝てたのに
散々邪魔された挙句に、篠ノ之束の計画だ
と止めは一夏が持っていくんでしょ？
完全に横取りよね。
「よ、横取りって！それに今は手柄とか言ってる場合じゃないだろ！」
いや、信賞必罰は組織運営に欠かせないモノ
だからね？軍人の戦いに対して正当に評価を
するのは当たり前のことじゃない。
『・・・お前が居なければ既に戦いは
凰の勝利で終わっていただろう。
勝ちが見えた状態だったのを無駄に
混戦にしたのはどう考えても邪魔で
しかないな』
それ以前に動きを止めて会話してる
自分が狙われないことに対して
違和感を抱きなさいよ。

それに、せっかく目の前で教師が全力で戦っているのよ？
じっくりみて個人技にせよ連携にせよ参考にするべきじゃない？
『何をする！離せっ！』
「箒!?」
あぁ、ようやくアッチも動いたか。
アイツと一夏の掛け合いは、ホント
ヤスリで神経をゴリゴリされてる
気分だったわ・・・
「千冬姉！箒に何をする気だよ！」
『何をするも何も。アリーナに面した
放送室は本来危険区域だ。自衛手段の
無い篠ノ之を避難させるのは当然だろうが』
そうよね。あの機械が篠ノ之束の手先
だからこそアソコに攻撃が行くような
角度で攻撃されることはなかったけど、
本来なら巻き込まれてるわよねぇ。
「避難・・・そうか、確かに箒は生身だし。

だけど無理やり運ぶのは違うだろ！」
いや、違わないでしょ？素人が戦場に
居てああして喚いてたら邪魔じゃない。
気絶させて運ぶのが常識よね。
『寝ぼけるな。避難誘導に従わん
素人は気絶させて運ぶモノだ』
そうそう。溺れてるヤツだってヘタに
意識を保ったままだと、抱きついたり
して救助する人間を巻き込むからね。
「そんな、ソレが教師のすることかよ！
『パンッ！』・・・え？な、なんで?!」
お、やっと撃った。まぁそうなるわよねぇ。
『言ったはずだ。避難誘導に従わん素人は
気絶させて運ぶモノだ、とな』
「千冬・・・姉ぇ・・・」
『・・・織斑を運び出せ！』
『『了解』』

うーん。弟魂の千冬さんがココまで
はっきりとした行動を取るとは。
司馬様は相当追い込んだみたいね。
いいぞ！もっとやれ！
流石に今回は一歩間違ってたら普通に
死んでるか、良くて四肢欠損くらい
してたもんねー。
いやはや、無事に済んで良かった良かった
『気を抜きすぎです准尉。今すぐその場を離れなさい』
「ハイッ！スミマセンデシタッ！」
いきなり司馬様の音声連絡は心臓に
悪すぎるわよ！でも離れろ？何で？
いや、考えるより動け!!
って・・・アレ？なんかアイツ膨張してない？
あ。おいっ。まさかアイツ！一夏が居なく
なったからって、アレをヤる気?!
「っていうかそんな機能付けるなっ！」

―――――――――――――――

さ、流石司馬少佐！篠ノ之束の意図を知りながら、完璧に学園のせいにしてみせた！

「分かりましたね？阿呆とはこのようにして使うのです」

「了解です！」

いや、コレは正直凄いとしか言いようがないですよね。

政治的な判断が出来ない織斑千冬に対して、非常事態と現場指揮官という肩書きを使い逃げることを許さず、さらに状況判断と否定をさせない質疑で追い込んでるよ！

「ようやく教師陣が積極的に動きましたね。まったく、命令を聞かない生徒など最初から後ろから撃ってシールドエネルギーを空にすれば良いだけでしょうに」

「アホの織斑が無駄にアレに近接戦闘を仕掛けましたからね。あそこでシールド

エネルギーが空になったら、アホの安全が
保証されませんでしたから・・・」
ソレもアレがアホに対して必要以上
に危害を加える事がないと判断されて、
普通に鎮圧されたけど。
「さて、残るは凰准尉ですが・・・随分ヤられましたね」
「はい。アホが加わったことで今まで
自在に動けていた間合いが潰された挙句、
あの所属不明機によるアホに対する手加減
が、結果的に攻撃に緩急を生みました」
いきなり味方に間合いを潰されて、集中を
乱されてリズムを壊されたら・・・
そりゃヤバいよね。
撃墜されなかっただけでも大したモノだと
思うけど。
「戦闘中に邪魔が入ることを想定して
居ないというのは問題です。

まぁ准尉も無能な味方がどれだけ危険な
存在か肌で感じることが出来たでしょう」
「そうですね」
災難ではあるけど貴重な経験でもあるもんね。
「おや、ようやく阿呆が外に連れ出され
ました。貴女の介入も必要なさそうです」
「ですね。コレで後は教師陣による制圧ですか・・・」
本来ならリンちゃん一人で制圧して
アレのコアとかを冬林で持って行け
たんだろうけどなぁ。
「いえ、兎がそんな事を許すはずが
ありません。アレを良く見なさい」
「これからまだ何かあるんですか？
・・・え？なんか膨張してません？」
アレって・・・もしかしなくても自爆
ですよね？本気？いや、確かに自爆は
ロマンだけど！

機械兵が負けたら自爆するのはお約束でもあるけど！本気でヤるの?!
コアとか勿体無くない?!
「証拠隠滅の基本です。コレはＩＳ学園にとって良くもあるし悪くもありますね」
「あぁ証拠隠滅されたら、自分も被害者だとして声を上げますか？」
自爆で教師が傷付くことが条件ではあるけど。まぁ起死回生の一手にはなりますか？
「いえ、それ以前にアレが無人機であることがバレますからね。
ＩＳの無人機なんて存在すら想定されていませんから、私に対しても口止めを依頼してくるでしょう」
「・・・表面上は無かったことにする、と？」
確かに無人機が出来るなら男性も女性も

ないからね。そうなると世間が混乱する
から表面上なかったことにして裏で
調べていきましょうって？
けど調べるもなにも、行き着く先は
篠ノ之束じゃない？
いや、決めつけは危険だよね。それ以外の
天才が応用を利かせる可能性もあるし。
というか、元々宇宙で動くモノなんだから
遠隔操作くらいできて当たり前だと思うん
だけど・・・
いや、冬林技研に所属するまでは私も
気付かなかったけどさ。
「そうでしょうね。私としてもいくつか
譲歩案を飲ませることで承認することに
なるでしょう。
元より兎にしてみたら学園は敵ですし。
教師が傷つこうが学園が傷付こうが

構いません。妹も織斑姉弟も無事だし
『もういいや』って感じですかね？」
軽っ！いや、自分でコアを量産出来るなら
そうなるのかな？
「そこまでは理解しました。あとは
自爆後の後始末に関して協力するか
どうかになりますか？」
普通なら篠ノ之束を抱え込んでる以上
そんなのいらないけど、向こうはソレを
知らないんだもんね。
無人機の残骸に興味が無いっていうのは
流石に怪しまれると思うし。
「そうですね。後片付けに関しては准尉と
特尉に任せることになりそうです。
尤も、その前に危険地帯に居ながらも
「もう終わった」と油断しきって阿呆面を
晒しているあそこの准尉に、警告を与える

必要があるようですけどね」
「・・・ですね」
もう、油断しちゃダメだよリンちゃん。
家に帰るまでが戦場なんだからさ。
「気を抜きすぎです准尉。今すぐその場を離れなさい」
あ～あ。最後の最後で評価を落としたね。
ま、コレがオチと思えば悪くないか。
ん～自爆の時のＳＥは何だろ？
「おしおきだべぇ」とかかな？

ーーーーーーーーーーーーーー

「先輩！凰さんが高速移動を開始しました！」
「そうか、なら位置調整をしなくてはな」
休憩は十分と言うことか？
こちらとしても手柄の横取りになるのは
避けたかったから止めは凰に譲っても…ん？

「違います！進行方向は後方です！」
「何だ？全力で距離を取る？高火力の
遠距離攻撃でも行うつもりか？」
そんな武装はなかったと思うが、まぁ
国家機密だからな。隠し玉の一つや
二つは・・・
『千冬さん！教師陣を後退させて！
っていうか何で誰も気付かないの?!』
「は？」
教師の後退はわかるが・・・気付く？
止めの為に距離をとったんじゃないのか？
『アイツ！不自然に膨張してるでしょーがっ！』
「何？膨張だと?!」
この状況で膨張・・・まさかっ！
「先輩っ！右腕の熱源反応が急速に
増大してます！コレは、バリアを破った
ビーム攻撃の準備です！」

『「違うだろ！」』
　なんでそうなるんだ！
「え？ち、違う??」
　なんでわからんのだっ！
「現場の人間は今すぐ対象から距離を取れ！
　同時に対ショック体勢！シールドを展開し
　破片にも注意しろ！今すぐだ！無駄な問答
　してたら死ぬぞっ！」
「「りょ、了解っ！」」
「先輩？」
　まだわからんのか！いや、ＩＳコアの
　浪費と考えたら逆に誰も思いつかんのか？
「山田君！アレは自爆準備だ！」
　なんで気付かなかった！束ならそれ
　くらいヤるだろ！
「「じ、自爆?!」」
「山田君！光量と音量調整！防壁降ろせ!!」

「りょ、了解です！」
　ＩＳが自爆したらどれだけの規模の
　衝撃になるんだ？建物は耐えれるのか?!
『織斑教諭、一つアドバイスです』
「なんでしょう！」
　いきなりなんだ?!とか言わない！
　今なら何でも聞くからさっさと
　言ってくれっ！
『素直で結構。それではアリーナのバリアを
　出来るだけ狭めて上部だけ解除しなさい』
　狭めて上部だけ？・・・そうか！
「山田君！聞こえたな！」
「はいっ！」
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

お、ちーちゃんったらバリアの上だけ
開放した？コレはあれだね？アレをヤレと
言うメッセージだね！
ならば乗ってあげようじゃないか！

『コレが我が生涯最後の一撃！
我が生涯に一片の悔いなーし！』

ぽちっとな！

第16話

「なるほどそれであの火柱が」
施設に影響もなく、人的被害も出ませんでしたが、生徒は随分ショックを受けたようですねぇ。
・・・コレのケアは大変でしょう。
暫くは気のいい用務員でいる予定ですが、どこまでできるやら。
「はい、周囲に衝撃が向かないように上の部分だけシールドを開放するよう司馬監査員よりアドバイスがあり、それが一番被害を抑えれるモノと判断し、私が実行を命じました」
花火や大砲の原理ですよね。
よくもまぁ咄嗟に判断できたモノだ。

流石は司馬監査員と見るべきか、
最初から知っていたと見るべきか・・・
いやはや何が何だかわからないうちに
アリーナの防壁がおりて、外部との
連絡もとれなくなったから何があった
のかと思えばコレだ。
最初から管制室に居れば良かったのだが、
表の「用務員」と言う顔が邪魔した形
ですよねぇ。
「というか学生を特別扱いして管制室
なんかに入れちゃダメでしょう。
そうした行動が学生同士の交流に
溝を生むのですよ?」
他の教員までも篠ノ之束の妹だからと
当たり前のように特別扱いしているし。
意識してるかどうかはわからんが
特別扱いが当然だというような形で、

本人の増長にも繋がってるぞ？
その程度のことにも気付かんのか？
「・・・申し訳ございません」
これは何に対する謝罪なんだかな。
「それに、そうやって篠ノ之箒を特別
扱いしたことで、所属不明機による
介入が我々の計画通りなのではないかと
いう状況証拠にもなってしまいましたね」
篠ノ之箒に万が一が無いよう避難させて
いた。と言われたらどうやって反論する？
アレも偶然コレも偶然・・・そんなのが
査問委員会で通用するか？
しかも全てにおいて言質と映像資料まで
取られているじゃないか。
他言無用？監査員に知られた時点で
終わりだろうよ。
「・・・」

その上で防壁の破壊より解除を優先、か。
一組織としてはソレも正しいが、
学園としては生徒を優先すべき場面
でもある。
監査員の手前なら尚更なりふり構って
いる場合ではなかった。なにせコレは
【敵の排除より防壁の解除を優先する
余裕があった】ということだからな。
この辺が教官と教師の違いだろうなぁ。
しかし、これに関しては政治を知らない
教員に狙いを定めた司馬監査員の手腕を
褒めるべきなのだろうが、な。
さらにそれより不味いのがある。
「無人機の襲撃と自爆ですか」
ほぼ確実に篠ノ之束の仕業だが、冬林の
ような企業の天才がヤル可能性も有る
には有るんだよなぁ。

なにせ相手が無人機でコアらしきモノも
見つかっていないから、ＩＳである証拠が無い。
ＩＳでは無いなら篠ノ之束の関与であるという証拠もない。
疑わしいのは確かだが確たる証拠も無しに
査問委員会でこの様な憶測を言えば、
篠ノ之束は完全に敵に回る。
・・・それも周囲を味方につけてな。
しかも映像を見る限り、確かに指摘され
たように織斑一夏とソレ以外の敵に対して
の攻撃の重さと速さがまるで違う。
つまり凰鈴音に対してもこの敵は
手を抜いていないということだ。
コレでは冬林技研や中国は完全な被害者。
司馬監査員の余裕は、自分なら問題なく
潰せるからと言われてしまえばソレまで。
怪しいのはどちらかと言われたら・・・
客観的に見て我々だよなぁ。

廃材を集めてはいるが、決定的な
証拠は得られんだろう。
そもそも自爆とはそのためのモノだ。
つまり世界一を豪語する我々ＩＳ学園が
正体不明の無人機に襲撃を受け、
バリアを破られ、ハッキングまでされ、
さらに犯人の特定すら出来ません、と。
どうしようもないな。
「司馬監査員に良いようにやられて
しまいました。申し訳ございません」
司馬監査員だけならまだ良いのだが。
それもこれも司馬監査員にしてみたら
付け入る隙を見せた我々の自爆。
良いようにヤられたのではなく、我々が
勝手に自滅したと気付けない時点で勝負
にもならん。
「いえ、相手が悪かったとしか言いようが

有りません」
２５前後の小娘が相手を出来るような生易しい存在ではないのは事実だし。
まぁ相手は１５なんだが・・・やはり幼少期の鍛え方が違うか。
「織斑一夏に関しては現場での命令違反を犯していますが、彼はそもそも自分の立場を正しく理解出来ていませんでした。
故に、罪が有るとすれば学生への教育を怠った我々であるというのが司馬監査員の意見です」
そう来るか。確かに正式に所属も決まっていない学生を罪に問うことは出来んが・・・
「まぁ緊急時は教員が指揮を取る。指示に逆らったらどうなるか書類に書いてる。
なんて学生相手に通用しないと言われればそのとおりですよね」
それは軍としては正しいが教育機関の

在り方ではない。
そもそもＩＳと言う兵器をタダの学生に使わせるなという皮肉なのだろうな。
普通に考えれば軍学校のように専門知識だけを教えねばならないのだ。
それなのに一般の高等教育まで教えようなど・・・そんな片手間で習得出来るようなモノではないよなぁ。
「更に言えば、彼は学生で民間人で初陣。緊張と無理解で入れ込むのもしかたない。故に今回の件は上記の学生を言葉で制止しようとした現場指揮官による判断ミスである。と監査報告が上がっています。コレに対しては私も全面的に同意します」
「・・・そうですか」
織斑千冬としても、弟に罪をかぶせることなく自分で責任が取れる。コレは

司馬監査員による彼女に対する救済処置か。
「後は緊急時におけるＩＳ学園側の対応と
生徒の行動についての改善意見ですね」
これもな。こちらとしては改善案を
飲むしかない。
「生徒の避難誘導の粗さや凰さんへの
遅滞戦の指示に関しての指摘も粛々と
受け止めるしかありません。
事実、本来なら学生にヤらせるモノ
ではありませんからね」
「・・・はい」
それはそうだろうさ。どこの世界に
テロリストの鎮圧を高校生にやらせる
国際組織があるというのだ。
タダの学校では無いのだぞ？
と言うか更識楯無は何をしていた？
まさか一般生徒に混ざって避難誘導

ではないだろうな？
カウンターテロとはこういった場合に
反撃するためのモノだろう？
味方の犠牲より敵の殲滅を任務とする
暗部の長が表の連中に混ざって避難誘導
など笑い話にもならん。
現場にすら到着してないってなんだよ。
後で報告を受けるが、まぁ避難誘導か
防壁の解除活動をしていたのだろうな。
・・・コレだから覚悟も何もなく機械に
頼り切る小娘はダメなんだ。
感情を切り捨て機械を使いこなす妹の
更識簪の方がよっぽど暗部に向いている。
「それに『学園としては防壁とテロリスト
の鎮圧ならテロリスト鎮圧を優先すべきで、
最低でも織斑一夏が乱入する前に教師を
戦域に突入させ、気絶していた織斑一夏を

抱えて先に退避させるべきだった』ですか
なるほど、その通りです」
それ以外何も言えん。凰鈴音の邪魔に
なるから介入しなかったと言う現場の
言い訳は、この【織斑一夏を放置した】と
言う事実がある限り考慮に値しない。
コイツが一番邪魔したじゃねぇかってな。
そして篠ノ之箒による自己ＰＲもなぁ。
あの茶番は何か?と言われたら、
なんとも言えん。
何故管制室に居たのか?何故管制室から
放送室に移動したのか?何故放送室の
機材の電源を落とさなかったか?
何故すぐに放送室へ人員を送り彼女を
避難または隔離させなかったのか?
・・・・・・
ホント何でだよっ!俺が聞きたいわっ!

これだけでも突っ込みどころが多すぎて、
司馬監査員も状況を文章に纏めるのが
さぞかし大変だったろうな！
「とりあえず篠ノ之箒に関しては
傷害の現行犯で2週間の停学を」
「・・・よろしいので？」
そうするしかない。無かったことに
出来れば良かったが、司馬監査員が
交渉を受け入れるかどうかがわからん
からな。交渉の前段階として篠ノ之箒
を罰しておくのは当然の事だ。
「よろしいも何も直接的な被害者が二人。
それに間接的に作戦行動を邪魔された
凰さんがいますからね。
彼女を無罪放免にしては司馬監査員に対し
更なる介入の口実を与えてしまいます」
まぁどうせ篠ノ之束の機嫌を取る

ために委員会の手が入るんだろう？
司馬監査員の権限がＩＳ委員会の監査員
である以上、委員会を通したならこの
件を無かったことにすることは不可能
ではないのだ。
委員会に篠ノ之箒に対する減刑処分の
命令を出させよう。
後は甲龍を中破させられた中国と
冬林との交渉になるな。
つまり余計な組織を背負っていない、
司馬仲達との交渉というわけだ。
・・・もうこの時点でダメだろう。
勝てる気が全くしない。
前は個室と言うささやかな要求
だったが、今回は流石にそうも
行くまい。
中国と冬林技研に対する何らかの

便宜を図ることになるか？
あぁ。向こうは絶対こっちの現場の連中が見てても、その意味が分かってなかったって感じの厄介な手札を持ってるよなぁ。
それに対して現場にすら居なかった私ではどうしようもないんじゃないか？
「とりあえず織斑一夏君は今日と明日で精密検査を受けるように。
篠ノ之箒さんは今日から停学処分。
寮の外には外出禁止です」
甘い処分だが流石に独房は、喩え一日でも篠ノ之束が許さんだろう。
後は司馬監査員との交渉か・・・
いや先にＩＳ委員会だな。コッチを先にしないと、ＩＳ学園が食い荒らされる。
「了解です」
「織斑先生に関しては、交渉の内容

によりますね。無かったことになれば
罰を受ける理由もなくなりますし、まぁ
減棒３ヶ月は覚悟しておいてください」
普通なら教育課程をやり直しなんだが、
ＩＳ学園と言う組織としてはこんなもん
だろう。
「はい。了解です」
本人も納得してるし。
さぁＩＳ委員会に連絡だ。
あぁ、一応更識の報告も聞いてからにするか？

――――――――――――――――――――

「簪ー。恋愛ってなんだろーねー」
燃え尽きてるねぇ。だけどゴメンね？
その質問には答えられないんだ。
本当に申し訳ないと思っている。

「んー私にはわかんないなぁ」
実際今まで女子中～女子高だし、小学校のときも周囲は大体大人の人だったし。
アニメとかの恋愛は、ほとんどがイケメンにナデポニコポされるか吊り橋効果だし？
「えぇ？初恋とか無いの？そんなに可愛い顔とバランス取れたスタイルしてたら寄ってくる男なんか沢山いたでしょ？」
可愛い顔？それリンちゃんが言う？
それにバランス取れたスタイルって、ソレは褒めてるのかな？かな？
リンちゃんの胸部装甲はアレだからアレかもしれないけどさぁ。
「なんかスゴク不愉快な視線を感じるけど、私が言い出したことだしね。
今回は許してあげるわ！（、・ω・、）」
そんな、ぐでーっとしながらキリッと

言われてもなぁ。
こういうのが可愛いって言うと思うんだけど。なんで自覚ないのかな？
やっぱりアホの織斑のせい？
「質問の答えとしては、無いね」
実際そういうのは無かったなぁ。
そもそも習い事とＩＳ研究と鍛錬とアニメ鑑賞が忙しかったし。送迎もあったから出会うきっかけがないよ。
「え～そんなの勿体なくない？宝の持ち腐れじゃん？」
宝（胸部）ですね。わかります。
私も司馬少佐に出会うまでは他の人と比べてさりげなく一喜一憂してたし。
具体的には楯無とか虚とか本音とかっ！
アイツらはなんであんなに・・・
いや、司馬少佐に自分と周りをちゃんと見ろって言われて確認するようになって、

ようやく私もそれなりにイイ感じなんだって
分かるようになったけどさ。
流石に篠ノ之箒とかみたいなのは
搭載したいと思わないけど、程々は
欲しいよねぇ。
「ほら、家があいう家だったからね。
おかしな虫が付かないように色々ヤって
たみたいなんだ。私も男の人より
アニメとかＩＳの研究とかしてた方が
楽しかったから不満に思ったことは
なかったんだよね」
実際私の周りには更識の監視が居たし？
家もね。一見したら黒服が出入りするヤのつく
自由業だし。アレじゃ友達も呼べないよ。
「あぁ～家の事情もあるのか。やっぱり
お嬢様だからお見合いが基本なの？」
「だね。あのままだったらお姉ちゃん

・・・当代の当主が決めた人とお見合いして、そのまま結婚してたんじゃないかな？」

何もするなっていうのはそういうことだしね。

「ふぅん。お見合いを否定するわけじゃないけど、お嬢様も中々大変よねぇ」

「ソレが当たり前だって思ってたからなんとも言えないなぁ」

今だって別にお見合いに忌避感とか有るわけじゃないし。

リンちゃんがコッチにいたのは小学校5年～中学2年だっけ？そのくらいなら初恋とかも普通にするかもしれないよね。

その相手がアホの織斑だったわけだ。

何ていうか・・ご愁傷様でした。

「ほぇ～。そんなもんかもねぇ」

「うん。そんなもんだよ」

初恋かぁ。そもそもここ数年で、

家の人以外で普通に会話とかした
男の人って大佐殿だけなんだよね。
あの人は優しくて冗談も理解できてネタも
しっかり返してくれるイケメンだけど、
司馬少佐の婚約者さんだからね。
そういうのがなかったら好きになってた
可能性はあるんだよなぁ。
あ、そうそう、司馬少佐がいるじゃん。
「だけどお嬢様って言ったら司馬少佐
なんか私なんかとは比べ物にならない
くらいのお姫様じゃん？何か参考に
なる意見とかあるかもよ？聞いてみたら？」
お姫様っていうか女王様って感じだけど
「え？司馬様はお見合いどころか普通に
婚約者じゃん？そこに好きとか嫌いとか、
そういうのって有るの？（　Φ ω Φ　）？」
なんか今初めて気がついたって顔してる

けど、これは「司馬少佐はそういうもの」って初めから固定観念が有って、疑問とか覚えなかったパターンだね？

「確かにあの人は子供の時から相手が決まってるんだもんね。

リンちゃんにしてみたら何だかなぁって思うかもしれないけど・・・少佐的には大佐殿が大好きだと思うよ？」

実際なんか勘違いした名家とかが大佐殿に対して「司馬様を解放しろ！」とか言ったらしいけど、当の司馬様に

「余計なこと言うな。死ね」って言われて普通に処刑（）されたらしいし。

「そうですね。好きとか嫌いは確かに良くわかりませんが、少なくとも師を敬愛しているのは間違いありません」

「「うわっ!!」」

こ、この人は気配が一切しないから
本当に驚くんだよね！
「し、司馬様、ＩＳ委員会からの用事は
終わったんですね？」
あ、さっきまでの話を無かったことに
しようとしてる。
こういう機会に司馬少佐にも色々聞いて
みるのも良いと思うんだけどなぁ。
「えぇ、予想通りＩＳ学園は篠ノ之箒を処罰
することでＩＳ委員会に対して一種の脅しを
仕掛けました」
「なるほど～篠ノ之束博士が黙ってないぞ！
処罰しても良いのか?!って感じですね！」
「逆転の発想と言うか何と言うか・・・」
司馬少佐の監査員としての立場はＩＳ委員会
の承認が前提だから、あっちを押さえれば
良いっていうのは確かだけど・・・

「その通り。結果的に今回の襲撃事件は
何も無かったことになりました。
どうやら轡木十蔵は襲撃事件の事を隠した
まま、篠ノ之箒が何かしたとだけ大げさに
伝えその罪状を消すよう依頼させたようです」
ん?それっておかしくない?
「そもそも罪状は放送委員に対する
傷害の現行犯ですよね?」
コレを無くすのはまだわかるけど、
襲撃事件と切り離したら・・・
あぁ、ソレが司馬少佐の狙いか。
「ん~あの暴力女、普通に殴り倒した
みたいですけどねぇ。あんなの揉み消せ
るんですか?」
アレは武力じゃなく暴力だったよねぇ。
普通ならあっちはあっちで揉み消すのは
大変だと思うんだろうけど。

殴り倒された被害者が黛さんだからなぁ。
・・・おっと今は少佐の補佐をしないと！
「被害者の一人である黛さんは当代の
楯無とも友好関係がありますからね。
学園側からでは無く、生徒側からの
アプローチをするものと思われます」
何かしらの「お願い」はするんだと思いますよ？
「なるほど、学園側のもみ消しではなく
生徒同士の交渉という形でまとめる気ですか。
良手とも言えませんが悪手ではありません。
コレが現状のＩＳ学園の限界でしょうね」
「え？でも事を大きくしないため
には良い手じゃないんですか？」
ん～一見すればそうなんだけどね？
「リンちゃん。そうなると学園側が言う
『他言無用』は誰からの命令になるの？」
「ん？それは・・・あぁ命令じゃなくて

生徒からの個人的なお願いになるのか。
それならソコから情報漏洩しても、校則とか規約によって罰することは出来なくなる？」
「そういうことだね」
責任逃れの最大のデメリットだよね。
「つまり我々の介入を嫌ったが故に、あえて俗物を介入させ命令系統をうやむやにして、我々の行動を縛ろうとしたのです。その結果この中途半端な情報統制となりますね」
統制できないならそんなの無意味ですよね。
「しかしＩＳ委員会の軛がない方が司馬少佐は手ごわいことを知ってるでしょうに。
学園は何が狙いなんですかね？」
ＩＳ委員会より中国や冬林技研の方がマシと判断したということ？

「利権に絡もうと必死になる俗物どもよりは、最初から目的がわかってる我々の方がマシと判断してるのは事実です」

いや、絶対にマシじゃないですよ。

理事長も更識も馬鹿なんじゃない？

絶対目的読み違えてるよね？

司馬少佐が無欲な善人に見えるの？

「目的、ですか？司馬様がココに居るのって、簪の勧誘と私の機体調整が任務でしたよね？」

・・・何かしらの新しい任務が出されたって考えるのが妥当かな。

そのことを理事長は理解できてる？

それともできていない？それによって司馬少佐との交渉の成否は別れることになるよね？

「まさか。引き抜き任務が終わったから

と言ってソレで終わりにはなりません。
当然次の任務がありますよ」
「あ、あぁ、そうですよね！
あの副所長さんが司馬様を遊ばせて
おくはずがないですよね！」
『あの副所長さん』って言い方はどうかと
思うけど。その通りだよね。
「では次の任務というのもＩＳ学園絡みでしょうか。
もしかして他に引き抜く相手が？」
誰か居るのかな？本音は・・・
無いね。これ以上更識の人間は
いらないだろうし。
あの子の整備能力もあくまで学生に
してみたら上って感じだし。
「引き抜きや破壊工作といった特定の
何かではありませんね。
取り合えずの任務はＩＳ学園の戦力

を低下させることです」
「「あぁ」」
なるほど。そりゃ中国としてもＩＳ委員会としても懸念事項ではあるよね
「普通に考えれば過剰戦力ですもんね！」
「しかもまともに使えない連中が兵器を持っている状態ですから。しっかり管理したほうがいいです」
管理できないなら減らせってね。
「最初の目標としては学園の実機を減らして高精度のシミュレーターを導入させることになります。
今のままでは実機の数が少なすぎて、まともにＩＳに触れることすら出来ていませんから、そこを突きます」
「なるほど。実機がなくなれば戦力としてはダウンですが、それを上回る数の高精度

シミュレーターが有れば学生の質の向上に繋がりますし、事故による負傷者も減ります。学園としてはそれが正しいですよね！」

「ですね。整備に関してもＩＳの実機なんか２～３体有れば十分でしょうし」

所詮学生が使うモノ。一流企業ですら３体も整備に使うなんて出来ないんだし、中途半端な腕の人間しか育てられないＩＳ学園なんかには尚更必要無いよね。で、浮いた分は各国の研究室に送られることになるのか。

うーん。これって学園側としては相当ヤバイと思うんだけど・・・

「けどＩＳ学園はソレを知りながら司馬様との交渉を選んだんですか？」

まぁ知らないでしょうね。こんな発想は大佐殿や司馬少佐くらいしか

出来ないもの。

「まさか。連中は中国や冬林技研に便宜を図る程度しか考えてませんよ」

やっぱりか。

これなら襲撃や篠ノ之箒の映像は強力な武器になるよね。

何せ司馬少佐は篠ノ之束に対して遠慮や配慮をするような人じゃないんだから。

これはもしかしたら…ＩＳ委員会の俗物も狩る気かな?

「とりあえず今回の襲撃に関しての我々の要求ですが、連中から何か接触があったら伝えますし、何も無ければ保留です」

保留?あぁなるほど。

「え?保留で良いんですか!?」

こういう時こうやって素直に聞けるのが

リンちゃんの良いところだよね。
・・・軍人としては矯正対象だけどさ。
「リンちゃん、いや准尉。この場合は
溜めるって考えるんですよ」
「溜める？」
「特尉の言うとおりですよ准尉。
ドイツの人形とフランスの阿呆が
来るではありませんか」
やっぱりね。
「あぁ！絶対問題なりますもんね！」
「ですよね。私にはＩＳ学園が勝手に爆弾
抱え込んで派手に転んで自爆してるよう
にしか見えないんですけど・・・」
ここまでくればコントですって
「まさしくその通りですね。そうやって
無様を晒した連中を散々笑い倒した後で
我々も動きます。とりあえずは両名に

フランスの阿呆シャルロット・デュノアへの接触を禁じます」

「はっ！」

わざわざ危険物に近づく気はありません！

「ドイツの人形ラウラ・ボーデヴィッヒは向こうが勝手に准尉に絡んで来るでしょう。その目的は第三世代機甲龍の戦力調査です。それ故准尉には

1・自衛以外での専用機の展開禁止。

2・映像記録を必ず取ること。

3・挑発行為に乗らないこと。

4・接触してきたら即座に私か特尉に連絡。

以上の4点を命じます。

ちなみに違反した場合ですが・・・」

「ですが・・・？」

この人が引っ張るってことは相当アレなことをさせる気だよね？

「コジマより、深海における人間としての耐久実験と、深海でも光は見えるのか？と言う実験の稟議書が上がっているとだけ教えておきましょう」

「了解です！絶対違反しません！」

に、人間としての耐久実験って、ＩＳは関係・・・あるか。火星の海とか他の星にも海とかあるみたいだし。

でも宇宙放逐クラスのアレですよねぇ。

それに深海で見える光？クトゥルフ？

ま、まぁ兵器の私的使用は銃殺が普通ですから違反した場合の人材の有効活用案なんでしょうけど。

まさかリンちゃんにまでそんなことしないですよね？

あくまで脅し・・・だといいなぁ。

「あぁそれと特尉」

「はい！」
私も絡まれたりするんですか?!
専用機はありますけど第二世代ですよ?!

「貴女、師の側室に興味ありませんか?」
「はい?」

第17話

大佐殿の側室かぁ。うーん。普通に考えたら・・・有りだよね！あんな理解のある人は中々居ないし、正妻の司馬少佐公認なら私の立場も安泰だし！

「し、司馬様！そ、側室ってアレですか？2号さんとかお妾さん的なアレですよね？！」

ん？あぁ、リンちゃんは勘違いしてるね？コレは司馬様や大佐殿の名誉に関わるからちゃんと訂正しなきゃ！

「リンちゃん。側室とお妾さんは全然違うよ？」

今はプライベートな話題だから准尉じゃなくても大丈夫だよね？

「え、そ、そうなの？」

そうなのよ。まぁ知らなければ勘違いする

かも知れないけどさ。

「そうですね。どこの世界に婚約者に妾を薦める正妻が居るのですか。それに妾になれなど女性にもシツレイ極まりない提案です。私はコレでも礼儀作法は厳しく躾られてますからね。そのような無礼無作法は作戦行動での挑発行為以外では行いません」

ですよねー。

「えっと、とりあえず司馬様の礼儀作法がしっかりしてるのはワカリマシタ」

まぁ、元の違いがわかってないからね。

「リンちゃん。側室は家から認められた正式な奥さんだよ。さっき2号さんって言ってたけどソレに近いかな?イスラム教とかの第2夫人とか第3夫人って立場になるね。

家に認められてるから子供に継承権はあるし、社交界における本人の扱いも普通に奥さん

として扱われるの」
貴腐人とかお超腐人は全くのベツモノだから
夫人と言う言葉に反応しないように。
「へ、へぇ」
「対してお妾さんって言うのは、家が認めて
無い人で、言うなれば旦那さんの愛人や
浮気相手のことなんだ」
「ほ、ほぉ？」
良くわかってないのか、それとも恋愛を
すっ飛ばしたお話だから思考が追い付いて
いないのか・・・
「そうですね。正妻や周囲が黙認することは
有りますが、あくまで浮気相手です。
子供に継承権は有りませんし、本人の扱いも
公式には存在しない者として扱われます」
存在しないからどんな扱いをされても
文句も言えないし、下手したら相手の

家に殺されちゃうんだよね。

「ドラマとかにある正妻による2号さんのイジメとかは大体コッチなの。何せ側室は正式な奥さんだからね。それに普通は側室にもバックがついてるから、イジメなんかして無駄に争えば旦那さんや家に迷惑が掛かるでしょ？大事なのは家の存続だから家督相続が絡まないなら、普通はお互いを認めてて仲が良いんだよ」

その家督相続だって大体は法とか家のルールで決められてるから中々荒れたりはしないし。て言うか、毎回家督相続の度にドロドロしてたら家が無くなっちゃうよね。

あぁ言うのは本来どっちかが新興の家の場合とか、王の権限が弱い王家みたいな特殊な場合にしか有り得ないんだよ。

普通はそうなる前に殺すか出家だし。

まぁ貴族社会の末期に大小様々な貴族が
醜態を晒したから、ソレを見た民衆が
貴族の評判と存在意義を貶める為に広めた
フィクションの影響が大きいんだってさ。

「そ、ソウナンダー」

まぁ当主である旦那様が差別したら周りも
ソレに合わせたりするんだけど、大佐殿は
その心配とかは無さそうだよね。
人間的にどうとかじゃなくて、そんな見え
見えの付け入る隙を作るような人じゃない。

「さらに今回の場合は、私にバックが無いから
私の立場の補強って意味もあるんだよ?」

今は普通に冬林技研に所属してるけど、
学園を卒業したら色んな組織が関わって
来るからね。
大佐殿の側室としての立場が有れば司馬家や
李家が私を守ってくれるってことだよね?

「た、立場の補強?!」
「そうですね。司馬家としても当家の家督争いに関わらない、かつ優秀な側室と言うのは得難いモノです。それに李家の後継のことを考えたらどうしても側室は必要なのですよ」
あぁ、司馬少佐の子供はどうしても司馬家の子になるからね。
「あれ?な、なら私に子供が産まれたら、その子が李家の宗家の当主になるんですか?!」
「ここで好きとか嫌いじゃなく、普通に子供の継承云々が出てくるあたり、やっぱり簪もお嬢様なのよねぇ・・・(;´Д`)」
リンちゃんが何か言ってるけど、そんなこと気にしてる場合じゃ無いよね?!
「准尉、婚姻に個人の好き嫌いなど関係ありません。そう言うのは家を保つ為の最低限の義務を果たしてから育めば良い

のです。まぁ生理的に受け付けないなど
は有るかもしれませんので、こうして
特尉には確認を取っていますがね」
「な、なるほど?」
「私から見て大佐殿は理想的な男性なので
嫌と言うことは有りません!ただ、それだと
李家に正妻として嫁入りするようなカタチに
なってしまいませんか?」
それに子供が李家を継ぐなら司馬家の
援護云々は無いじゃん!
「確かにそうですね。子に継承権は有りますし、
師には私以外に妻は居ませんから、師と特尉の
子が優先的に見られるでしょう」
や、やっぱりっ!そうなったらどうなるの?
李家の中では孤立無援だから、周りにナニか
されないように、目立たないようにして
子供と寂しく暮らすことになるの?!

それとも子供も李家の人達に取られて
私は一人で寂しく暮らしていくの?!
「もう結婚した後と子供について真剣に
話してるし・・コレがお嬢様の結婚かぁ」
いや、子供と結婚後の事を考えないで
結婚なんか出来ないよね?
「ただし、李家の当主は血統と実力で決まり
ますから、継承しない場合も貴女の子供に
何かするようなことはありません」
ん?あぁ、初めから実力が無い子は跡を
継げないから、無駄に虐めたりしないのか。
一門として他の仕事をさせたりするのかな?
血統は李家の血だよね?分家とか本家は
有るから養子も有りかな?あとは実力だけど。
「じ、実力って言うのには何か明確な
指針があるんですか?」
更識みたいに漠然と「暗部に向いてる」とか

みたいな曖昧なヤツだと困るよね。
当代の楯無みたいなわけのわからないヤツが
当主になって、私の子供にも私みたいな思い
をさせちゃうなんて流石に嫌なんだけど・・・
「えぇ、正確には李家秘伝の奥義の習得が
出来るかどうかです。ソレが出来なければ
どれだけ他が優秀でも宗家は継げません。
まぁここ最近はまともに使えたのが一人
しか居ませんでしたので、相対的に優秀と
見えるようなモノを分家から養子に取り
宗家を継がせていたようですけど」
ん？・・・李家秘伝の奥義とな？
なんだろうこの香ばしさ！コレはもしや
子供にとってもご褒美じゃないかな？
「李家秘伝って・・・あっ！（？□？・）!!」
おや？リンちゃんは何か知ってるみたい
だけど、地元じゃ有名なお話なの？

「准尉は気付きましたね?そう、該当する技は
いくつかありますが、まずは命奪崩壊拳の
習得が出来れば、問答無用で李家の当主として
認められていたのです」
「命奪崩壊拳っ?!実在したんですねっ!」
何代か前の楯無が李書文に受けたとされる
伝説の魔拳!
受けたモノは七割が死に、三割が精神を壊す
と言われ、当時の楯無も命は奪われなかった
けど、自信やら誇りやら尊厳を完膚なきまで
崩壊させられて精神を壊されたんだよね。
そして生還してからは常々「ヤツらはヤバイ」を
繰返し、遺言でも「絶対に李家に関わるな」と強く
戒めた為に今やソレが更識の家訓にまでなった、
李家に伝わる秘伝の技!
「実在してたんです。そもそも徐州李家の
初代であり、武神と呼ばれた李厳殿は自らを

議長家における武の執行者として定め、子である李豊や孫の李白に対して常々己の本分は武であると説きました」

あ、その話は知ってます！

「政の楊家と、軍事の公孫家、武の李家に統治の司馬家ですよね？」

議長家としての序列が1位だった楊家が「自分たちは司馬を支える宰相」って言って、2位の李家が「武の執行者」を自認。

4位の公孫家が「兵を率いる将帥」となることで、司馬を支える体制を作ったんだよね！

「当初の司馬には統治などする気は無かったのですが、楊家と李家からは『諦めろ』と言われ、公孫家からは『勘弁して下さい』と泣きつかれ、仕方なく議長家の取り纏めをしたんですよ」

「仕方なくって・・・本当ですか?!」

おぉ、リンちゃんも知らない歴史の裏話！

コレは良い文明だよね！

「ええ。本当です。なんでこうなったんだか。
それはさておき、初代の李厳殿は様々な
技術を李豊と嫁の孫尚香に伝えましたが、
どうしても全ての技を伝えきることが
出来ませんでした。まぁ李厳殿は万能の
武人では有りましたが、教育者では有りま
せんでしたし、李豊も才はありましたが
既に戦乱は治まり、李厳殿のように武に
必死になる理由もありませんでしたからね」

ま、まるで見てきたかの様な・・・多分
司馬家には詳細な資料が有るんだよね！

「そして己の命が尽きるまでに全ての技を
伝えきることが出来ないと判断した李厳殿は、
断腸の思いで李家の当主として最低限習得
すべき技を選別しました」

「自分が習得した技を切り捨てたんですか?!」

・・・リンちゃんが驚くのも無理は無いよね。
それは当時の武人としては本当に最後の最後。
まさに血を吐く思いでの決断だったと思う。
「その通りです。超人１０２芸と呼ばれた技
のうち、李厳殿が習得出来たのはおよそ七割。
さらに李豊が習得出来たのは半分に満たず、
孫の李白に至っては１０も習得はできま
せんでした。まぁコレに関しては徐州李家と
して為政者としての仕事もありましたから、
どうしても仕方の無いことでは有りましたが」
「「超人１０２芸?!」」
つ、つまり本来は秘奥義の命奪崩壊拳も
１０２の技の一つでしか無かったの?!
「貴女方の気持ちはわかりますよ。正直に
言えば１０２も必要だったか?と言われれば
我々も首を傾げる話ですからね」
「違わないけど微妙に違いませんか?!」

た、確かに、なんかニュアンスが違うよね。
「・・・准尉、深く考えたら負けですよ」
し、司馬少佐ですら理解を諦めるくらい
当時は凄い時代だったんだね！
それもそうか。漢が腐敗して自滅して、腐敗を
しないように「千年戦い続ける国家となれ」って
言う国是の国が出来たんだもん。
だけど腐敗より千年の戦いを選ぶって相当な
腐り具合だよねぇ。実際曹操なんか英雄で
ありながら同性愛にしか興味がなくて後継者
すら居なかったって言うし！
宦官とかも当たり前に居たよね！「アッー！」
とか「うほっ」とか「やらないか」とかが当たり前
に横行してて、みんな腐ってたのかも・・・
「当時の混乱はともかく、李厳殿が奥義と
して継承せよと言い残したのが、知名度も
効果も高くて習得も比較的簡単な命奪崩壊拳。

他は心霊台。新血愁。そして幻魔拳です」
凄い！凄い香ばしい技ばっかりだ！
北〇の拳の原作者は武の李家関連の
人って言うのは本当なのかも！
車田先生も関係者だったのかな?!
「新血愁とか心霊台は・・・なんか日本の
漫画で見たことが有るような無いような」
「あぁ、〇斗の拳ですね。えぇ、効果は
まさしくアレに近い技ですよ」
ふぉぉぉぉぉぉ！
漫画の技をリアルで使えるなんて絶対
に子供にはご褒美だよね！
私も「アヤツは私が育てた」とか言えるよ！
「えっと。どれかを使えたら後継ぎって
ことは後を継ぎたくないなら覚えなくて
良いし、継ぎたいなら教えるって感じで
しょうけど・・・

そんな簡単なモノなんですか？秘伝の奥義で使い手も少ない筈ですよね？」

あ、そうだよね。継ぐのが嫌な場合は継ぎたい子に任せれば良いだけなんだろうけど、継ぎたいって思ってもすぐに覚えれるようなモノでも無いはずだよね？

「問題有りませんね。李家を継ぐにせよ継がぬにせよ、子がどちらを選んでも良いように師は技を叩き込むでしょう」

「す、スパルタと思えばいいのか、子の為に労力を惜しまないと言えば良いのかもぉわかりませんね・・・」

名家とすれば子と家のために全力を尽くす素晴らしい当主だよね。

「そもそも失伝した技が多すぎますからね。現在の李家の連中は全員が鍛え直しの最中です。師にしたら命奪崩壊拳くらいで

ガタガタ抜かすなと言ったところなんですよ。
だから特尉の子が産まれたら最低でも半分
は教えることになるでしょうね」
「は、半分?!李厳様の子供の李豊様と同じ
領域ですか?!そんなの日本人である簪の
子に伝えても良いんですか?!」
そ、そうだよね！って言うか
「あの、大佐殿は失伝した技も使える
んですか?」
最低でも半分ってことは、大佐殿はソレ
以上の技を習得してるってことだよね?
「何を今さら。子は師の子ですから母親の
生まれは関係ありません。
そして師は超人１０２芸全てを資料通り
忠実に再現し、使いこなして見せた実績を
立て問答無用で李家の当主となった達人です。
ここ数年はさらに技を増やし、４８の殺人技

と言うジャンルまで作り出してますよ」
ふ、ふぉぉぉぉぉ！大佐殿は漫画より漫画みたいな人だった！
「いや、凄いとは思いますけど、そもそもそんなに殺人技って必要なんですか？」
な、なんて馬鹿な事をっ！
「リンちゃんっ！何を言ってるの?!織斑のアホが移った?それでも中国人?!」
とかちつくちてって何だよ！ちゃんと発音しろよ！
「えぇぇ・・・（；´Д`）」
これだから酢豚なんてわけのわからないモノで、アホにプロポーズなんかするんだよ！
「ふむ、私も深く考えたら負けだと理解して突っ込むことを諦めてましたが、特尉にはナニか私には見えていないモノが見えて居るのでしょうか？」

司馬少佐にはわからんのですか?!
「ロマンです!ロマンの前には数の大小
など些細な問題なんですよ!」
流石は大佐殿です!側室とか関係なしに
一生付いていきます!
「そ、そうですか・・・やはり貴女ほど
師の側室に相応しい女性は居ませんよ」
「ですねー。って言うか性格とか趣味も
ありますけど、簪の生まれの関係上、
副所長さん以外の人とはまともな結婚生活
って出来ないんじゃ無いですかね?」
右手が疼く!すぐに新しいナニかを
大佐殿に提案したいっ!
「まぁそれも有りますね。お互い自由恋愛
など出来ぬ身です。せめて幸せになれる
選択肢を選んで欲しいと思いますよ」
あぁもう最高っ!今はスゴく楽しくて、

将来もスゴく明るい！こんな充実して幸せな
生活を送れるなんて、考えてもみなかった！
更識の連中と織斑のアホと倉持のクズに
感謝は・・・しないけどプギャーはしてやるよ！
「・・・なんか、既に幸せそうですよ？」
「・・・そうですね」
ふはははははははははははははは！
夢が現実になる世界！ここが楽園かっ！
「「・・・・・・・」」

「箒だけが処罰対象で三日謹慎と反省文って
どういうことだよ千冬姉っ！」
どう言うことだも何も。
「一日は精密検査で二日目と三日目は土日。
実質的な罰は反省文だけ。軽すぎる処罰だな」
一夏に関しては最初から司馬が処罰の

対象外としてくれていたからな。
まったく、借りが溜まる一方だよ。
クビになったら冬林に行くことになるだろうから、十蔵さんも私を免職にする気は無いようだし・・・後は減棒がどれだけのモノになるかだな。しばらくツマミは無しかなぁ。
「そう言う問題じゃないだろ?!」
一夏。コイツはあの場で何を見ていた?
まさか応援してくれた筈が不当に罰を受けたと勘違いしてるんじゃないだろうな?
コイツはこれから様々な問題に突き当たるだろう。その際、毎回毎回独自の価値観で動くような英雄症候群など起こされてはたまらんぞ。
現実と言うのをしっかり知って貰わねば。
・・・冬林の我慢にも限界が有るんだからな。
「そうだな。本来なら、緊急時に隠れていた

無抵抗で無防備な放送部員を木刀で殴って気絶させ、避難すら出来なくしたのだ。
傷害の現行犯はもちろんのこと、下手をしたら殺人未遂として法的に裁かれるところ
謹慎三日と反省文だ。
被害者に対してなんと説明したら良いか私にもわからんな」
こうしてみたら軽すぎる処罰だろ？
と言うか何で普段から木刀を持ち歩いているんだ？立派な武器だよな？
・・・問題を起こして突っ込まれる前に教室や学園内では没収するようにしておこう。
「あ、いや、だってアレは仕方ないだろ?!」
なんでさ
「何が仕方ないものか。あのあと箒が放送部員を抱えて避難したなら救助活動として認めることも出来たが、実際に行ったのは

放送機材を使って状況を悪化させただけ」
色んな意味で悪化したよ。
特に十蔵さんの胃がな。
「状況を悪化させたって・・・俺を応援
してくれたじゃないか！」
この阿呆が。お前の応援の為に箒が傷害罪を
犯したとなれば、折角無処罰で終わっていた
ところに刑事罰が下るぞ！
とは言っても理解出来んだろうし。
「あの放送のせいで放送室に人が居ると
言うことが、テロリストにバレた。
もし狙われていたら、箒は逃げることが
出来たかも知れんが気絶させられていた
二人の放送部員はどうなっていた？」
こう言う方向ならどうだ？箒が間違った
行動を取ったと理解出来るだろう？
そもそも応援の為に他の人間を木刀で

殴って気絶なんかさせたら駄目だろ。
なんでソレが仕方ないになるんだ？
「だけどそんなことには・・・」
「ソレは結果論だ。確かに放送室は狙われることなく死者は出なかった。だが今回罰を与えねば、箒は今後も緊急時に避難指示に従わずに生身で危険地帯へ行き、周囲の人間を応援の為に殴り倒すことになる。再発防止の為にも箒には罰が必要なんだよ」
問題は箒も自分が悪いと認識していない場合だ。反省文の内容を良く吟味して必要なら説教もしなくてはな。
「・・・確かに生身で危険地帯へ行くのも木刀で人を殴り倒すのも良くないことでは有る。被害者への謝罪と再発防止が必要なのもわかった」
「そうか。ならお前は・・・」

「けど、それなら他にも罰を受けなきゃ
ダメなヤツが居るじゃないか！」
「部屋で勉強をって罰を受けなきゃダメなヤツ？
まぁ対応が遅かった我々教師もそれなりに罰を
受けることになっているぞ？」
コイツの立場からすれば教師は何をして
たんだって話だろうしな。
「違うっ避難指示が出てたのに観客席から
動いてない生身の二人組が居ただろ！
水色の髪をした小柄な人と黒髪のヤツが！
何でアノ二人は処罰対象にならないんだ？
傷害は起こしてないけど命令違反だろ?!」
命令違反って・・・アホかお前が言うな。
それに更識簪に対しては小柄な人で司馬
に対しては黒髪のヤツ？何故一夏が司馬に
敵意を抱いているんだ?本能が恐怖を感じ
てしまい、無意識にソレに反発してるのか？

「勘違いするな。そもそもアノ二人には避難
　指示など出して居ない」
「はぁ？何でだよ？」
「何でって・・・お前。彼女を知らんのか？」
　まぁ所詮はバイトだったからな多国籍企業の
　実質的なトップの顔など知らないか？
　報告書では、自分がテロリストの標的の可能性
　もあったし避難したところを他の生徒と一緒に
　爆破などされたら困る。と言う理由であえて
　動かなかったと説明されて居たが・・・まぁ
　否定は出来んよな。
「えっと・・・あの人は有名な人なのか？」
「世界的な有名人だ。更に我々とも無関係
　ではない。そもそも彼女達は専用機持ち
　で、いざと言うときは凰の援護をするために
　あの場に居たのだぞ。ソレを何故処罰せねば
　ならんのだ？」

処罰されるのはコッチだと言うのに。
「世界的?て言うか専用機持ちなら何で早く援護してくれなかったんだよ!コッチは必死で戦ってたのに、まるで実験動物を観察してるかのような目で見られてたぞ!」
なるほど、一夏が彼女らに不快感を覚えたのはそこか。ただなぁ。
「彼女らが動かなかった理由は、凰一人で勝てたからだ。あのときお前にも言ったが、勝てるところに割り込んで邪魔するのは援護とは言わん。お前が乱入した後は我々にすぐに動くよう連絡を入れてきたくらいだ。援護をしていないなど勘違いも良いところだぞ?」
「・・・けどあの目はっ!」
もしや本人も覚えていないような、古い記憶の中にある研究者連中の目を思い出したか?

まぁ正直彼女から見たらアレも一夏も凰も実験動物のようなモノだから仕方ないがな。

「一夏、最初に言っておくが、あの人にとっては私もお前も等しく価値がない」

「は？」

とにもかくにも、司馬に対しては悪感情を持っているのは不味い。ただでさえ人は悪意に敏感なのに、アノ人たちは・・・絶対にコレは矯正せねばならん！

「だから私の弟だからとか、男性操縦者だからとか。そう言う色眼鏡で見られる心配が無いと言う意味では、私たちにとって世界で最も信用出来る相手でもある」

第一回の世界大会で優勝したときもその前と変わらず普通に接してくれたのはあの人たちだけだったしな。

「千冬姉を特別扱いしてないからこそ信用

出来る?それってまさか・・・」
流石に気付いたか。コイツは異性の好意以外には鋭いところも有るからな。
「そうだ。あの人は冬林技研の関係者だ。ちなみに、名は司馬仲達さんで冬林の実質的トップの一人だよ」
クラスで噂とかにならなかったのか?いや凰のインパクトが強かったせいかもな。
「・・・」
ん?固まった?
「・・・マジか?!同じ学校に居たのかよ!俺あんだけ冬林の人達にお世話になったのにアイサツとかしてないよ!どーしよ!コレヤバイよな?!すぐにお茶菓子とか買ってこないとっ!あぁダメだ!世界的な企業のトップが飲み食いするレベルのお茶なんて想像出来ねーよっ!つーか何で教えてくれ

なかったんだヨツンヴァイ?!」
「落ち着け、そうやって慌てて接触されても迷惑だろうし、この学園内では立場の関係は無いことになっているだろうが」
まぁ学生なら焦る気持ちもわかるがな。
「い、いや、そうは言うけど無視は不味いだろ?!セシリアと違って「知らなかった」なんて言えるような人じゃないし！」
セシリアもこの業界ではそれなりに有名人なんだが・・・まぁ東洋での知名度は比較にすらならんのは確かだ。
それも歴史上の偉人としてではなく今を生きる本人の知名度だからな。
「そんな有名人に世界で唯一の男性操縦者が近付いたなんて噂が立ってみろ。次の瞬間には冬林技研の技術者連中にかっ攫われて気付いたときには生身で宇宙遊泳してるぞ」

アノ人達は司馬と教頭の為ならそのくらい当たり前にやるからな。

「・・・それ、冗談に聴こえねぇよ」

「本気だ。だからお前は絶対に自分から接触するな。そもそも相手は社長令嬢みたいなモノだぞ？元社員やバイトにアイサツされてもリアクションに困るだけだろ」

まぁ普通に「そうですか。有り難く頂きます」くらいは言うだろうけど。

「そ、ソレもそうだな。とりあえずアノ人についてはわかった。さっきのは忘れてくれ。コッチからは絶対に関わらないし、アッチからナニか言われたら最優先で行動すれば、キサラギさんが待つ奇跡の部屋に運ばれるようなことは無いよな！」

キラサギさんか。アノ人はリアルにマッドなんだよなぁ。1度束も分解されかけたし。

一夏にとっては世話になった人でもあり本能が恐怖を覚える存在でもあるか。
まぁアノ人のお陰で研究所は完全に潰せたから間違いなく恩人では有るんだが・・・
「正直言ってアノ人の行動基準は私程度では予測出来ん。とにかくシツレイの無いようにしておけとしか言えんな」
いやほんと。コジマさんやアリサワさんもアレだが、私たちにとってはキラサギさんが一番の天敵だろうよ。
「・・・わかった。絶対にシツレイの無いようにするから、もし捕まったら何とかして助けてくれよ！」
「あぁ全力は尽くそう」
としか言えんよ。
流石に冬林に殴り込みは出来んし、そんなことしても普通に返り討ちだからな。

一夏はコレでよし。後は箒か。
それからフランスとドイツからの転入なぁ。
・・・ラウラって一般の学力大丈夫なのか？

第18話

「司馬様ーフランス人って馬鹿なんですか?」
リンちゃん。いきなり何を言うかと思えば。
「准尉、軍人や為政者の有能無能は結果で語るモノです。簡単な題材としては・・・マジノ線要塞群と言うのを知ってますか?」
「はい!第一次大戦の後ドイツに備える為に多額の税金を投入して造っておきながら、結局アレだったヤツですよね?」
流石司馬少佐!凄い説得力だよっ!
「近代ではソレですね。近世においてはナポレオン・ボナパルトがアレだけの国を築いたにも関わらず、その後継を名乗ったルイ18世にまともな統治は出来なかったし、更に中世でのジャンヌ・ダルクの扱い等を

見れば、どう好意的に見ても指導層が優秀とは言えないでしょうね」

「なるほど一個人的には優秀な人が居るかも知れないけど、指導者層はアホなんですね？」

うん、そうなるよね。マジノ線だって元帥と大臣の派閥争いの結果妥協したって説もあるし。

軍事要塞造るのに妥協したら駄目じゃん。

指導者層って基本的には歴史があったりするお金持ちだから、一定の価値観が定まっちゃうんだよね。

日本だって明治維新終わった後、薩長を重んじて会津系とか東北の人間を徹底的に差別して、軍閥の結束に利用してたし。

戦後軍閥や財閥は解体されても、実際には彼らの影響力はあるってわかるよねぇ。

つまり革命があろうが何だろうが、
指導者に必要とされる能力や価値観が
変わらない以上、国のやり方や気質は
変わらない。
さらに民主主義は国民の気風を直接受ける
から、フランスではドイツ軍人みたいな
合理主義者が台頭することは無いんだよ。
つまりフランスの指導者層は私たちの
価値観からすれば・・・馬鹿だね。
「それで、いきなりでしたが何か異常
があったんですか？転入生が来たのは
今日ですが、いきなりボロを出すような
真似はしないでしょう？」
接触禁止令が出てたもんね。あっちが
甲龍の情報収集するために接近して
くる可能性はあったけど、そもそも
専用機の展開は許可されてないし。

「いやー何と言いますか・・・
隠す気無いんですよねぇ」
「「隠す気が無い？」」
バレてることを前提とした自爆特攻？
「いやぁ、本人は隠してるつもりなの
かもしれませんけどね？あまりにも
お粗末でして・・・周りも気付いてて
知らない振りしてるレベルですよ」
あぁ志〇～後ろ～！って感じかな？
「ふむ。良く分かりませんね。
映像記録を見せてもらえますか？」
「はい、コチラです！」

ーーーーーーーーーーーーーー
カクカクシカジカフランスニムートンイトウ
ーーーーーーーーーーーーーー
「・・・なるほどコレはひどい」

「少佐、こいつ等馬鹿なんですかね？」
いや、リンちゃんが連中の頭の中を疑うのも良く分かるよ。
「世界第二の男性操縦者という触れ込みでありながらＩＳに詳しく、専用機を持ちＩＳの操縦も既に代表候補生並とは。・・・馬鹿ですかね？」
ですよねー。
「大前提として、シャルル・デュノアを名乗るアレが世界初の男性操縦者ならば、デュノア社はその情報を公表して、男性操縦者の情報を担保として世界中からデータや資財を集めたことでしょう」
ですよね。わざわざＩＳ学園に入れて情報の漏洩をする必要が無いんだよ。
「そうですね。つまりソレをしていないと言うことはアレの設定は、あくま

で織斑のアホがＩＳを起動したことで国中
の男性が調べられた時に、偶然起動出来た
人間なはず。それなのにコレは無いですよ」
ＩＳの知識云々はデュノア社の人間
だから開発やら何やらを学んだで
済むかもしれないけど、それならＩＳに
触れることだってあったよね？
何年も前からＩＳに関わってたのに
触れたのは数か月前？有り得ないでしょ。
「そうですね。ＩＳの搭乗者として
不備が無い程度に整備が出来る習熟
度合いが有りながら、ＩＳに触れた事が
無いとでも言うのでしょうか？」
「更に触れてから数か月で代表候補生
クラスの操縦技能？イギリスのアレ
と違い特殊兵装の適正で選ばれた
わけでも無いのに？」

アホみたいに遺伝子操作を受けたわけ
でも無いのに?有り得ないでしょ?
「これらの矛盾を一切合切隠していない
と言うのは、流石に異常です。
更にドイツの人形は何故コレに反応
しない?情報収集も任務でしょうし、
不倶戴天の隣国の弱点ですよ?」
ですよね。ドイツとフランスが手を
組んだとでも言うんですかね?
「さらに山田教諭・・・自分が兵器を
扱っていると言う自覚が無い」
「そうですね。制御を失って落ちて
くるとか・・・コレ、あと数メートル
ずれてたら生徒が肉塊に変わってますよ?」
普通に出てこいや。
「織斑・螺旋頭対山田教諭については
・・・まぁ教導と言うことで手加減

したのでしょう。
コレが全力ならＩＳ学園の警備に教員を使うことを禁じる必要があります」
こんなのまるっきり案山子ですよねぇ。
スッと行ってドンで終わりますよ。
「しかしアレですね。この映像を見てると盗撮動画みたいですよね」
「「・・・」」
あ、あれ?!引いた?まさか少佐まで?!
「ま、まぁ実際盗撮だし?」
「・・・一応授業内容の監査の為に映像資料を残すことは伝えてますが・・・まぁ痴女みたいな恰好してる連中の動画ですからね。特殊な趣味の持ち主にとっては高値で取引するモノなのかもしれませんね」
で、ですよねー

「そ、そう言えば司馬様は最初から
だけど、簪もズボンタイプの制服に
したよね！」
リンちゃんナイス！せっかくだから私は
このビックウェーブに乗るぜ！
はいはい！この話題はココまでー
盗撮なんか有りませんでしたー！
「うん。大佐殿の側室云々は別に
しても、男の人に肌を見せるのは
ちょっとアレだし・・・そもそも
整備するのに制服がスカート
とか有り得ないでしょ？」
整備室で恰好なんか気にしてるんじゃ
ねーよ。整備ならツナギだろツナギ！
「そうですね。私も基本は技術士官
ですし、非常時に戦闘になる事も
ありますから行動を阻害しない服装

にするのは基本です。そもそも私は
師以外に肌を晒す気もありません」
さすが司馬少佐！愛、覚えてますね！
「なるほどなー。私もそういうの
気にしないと、周りから痴女とか
言われちゃうんですかねぇ？」
え？今なんて？
「「今更？」」
ホラ、司馬少佐も普通に驚いてるよ？
「（。Д。）」
あ、なんか本気でショック受けてる？
いや、だけど自覚無しって有り得なくない？
「いや、リンちゃんは控えめに見ても
露出狂でしょ？
健康的な露出と過度の接触で織斑を
落とすつもりなんじゃないの？」
ぱっと見制服もソレ目的で改造してる

よね?それ以外考えられないよ?
「(　。Д。)」
「そうですね、私もてっきり周囲からの
誹りや嘲りを覚悟した上で任務の遂行
の為にソッチに振り切れたモノだと・・・」
ですよねー
「(　。Д。)」
「あの無駄に露出の多いＩＳスーツだって
見栄えを良くして男の興味を引くための
モノじゃなかったんですか?」
「え?そうなんですか?!」
なんかアレを着た方が稼働率とかに
プラス修正が付くんじゃなかったの?!
「いや、それ以外に何があるんです?」
「え、いや、ＩＳの稼働率に・・・」
そ、そうそう。そうじゃなかったら
あんな痴女っぽい恰好なんかしませんよ!

「ソレは嘘ですよ。こんなの少し考えれば
わかるでしょう」
「（。Д。）」
今日のリンちゃんは驚きすぎだよね！
「もしアノ恰好が必要なら織斑だって
同じ格好しないと駄目でしょう？
アマチュアレスリングみたいに」
ア、アマレスか。まぁ確かにそうなるよね？
「更に言えばアレで稼働率が上がるって
どんな理屈ですか？素材云々言うなら
全身を包んで全体的な接触をさせるべき
だし、直接の接触が必要なら量子変換で
部品として服を出せば全身ＩＳと接触して
るってことになりますよね？」
「・・・」
た、確かにそうだよ。ロボットモノ
だって普通は全身を包むか裸だよね！

中途半端に水着みたいな格好にする
理由が・・・無い?!
「え、じゃ、じゃあコレは何で?」
「先ほど言いましたが、男の興味を
引くためでしょ?軍人であると共に
スポーツ選手でも有りますし。
あと軍としてはシールドエネルギーが
切れた時に対象を殺すことも考えたの
ではないでしょうか?
防弾スーツとか着こまれたら生存率
が上がってしまいますからね」
なるほど・・・ISスーツもソコソコの
防弾性能はあるけど、本格的な専用
装備と比べたらアレだし、その上で
この露出だもんね。
これだったらいくらでも隙は突けるか。
うん。普通に武装してたら、ISが無く

なっても生存されちゃうもんね。
これはつまり搭乗者をＩＳに依存させるためのモノなんだよ。
「そ、それが何でコレを着ることが常識みたいになったんですか?!普通誰か気付きますよね?!」
最初に気付くのは軍の関係者だからＩＳの搭乗者が裏切ったときとか調子に乗った時の粛清手段を公表したりはしないよね?
研究者が個人的に気付いても予算とか回さなければ研究は出来ないし、勝手にやったら予算の横領扱いだし。
「軍の意向もありますが、所詮は１０年にも満たない期間しか研究していないにわかの研究者ですからね。
元々兎が言い出したことですし。

製作者が言うならそうなんだろうって
感じで受け入れられたのもあるのでは？」
「（　。Д。）」
「ふぅ。コレだから技術に便乗するしか
出来ない三流の技術者は駄目なんです」
篠ノ之束が悪いのか、そこから一歩も
進めない技術者が悪いのか？
いや、まぁ国もＩＳスーツの見た目より
ＩＳ自体の性能の向上を優先してたし
予算の割り振りもソッチ向きだったはず。
織斑千冬のせいで、細かいことは個人の技量
だって言う風潮もあるね。
「ちなみに兎がこんなことを言い出した
のは織斑千冬にあの恰好をさせる為です」
「（　。Д。）」
予想以上にくだらない理由だったなぁ。
「そもそもが宇宙服ですよ？露出したまま

だと生命維持に掛かるエネルギーが無駄にかかるでしょう？
出来るだけエネルギー消費を抑えるなら簡易の宇宙服の上から展開するべきだし、無駄な動きを無くして最大の操作効率を出すなら、全身を覆うタイプのＩＳスーツを纏いその上にＩＳを纏うのが最良です」
なるほど。そもそも宇宙服ですもんね。
肌着とコートみたいな感じかな？
「ソレをしない理由は、軍の意向と
今までの常識を否定したくない研究者。
そして量子変換のスロットを節約する為ですか・・・」
所詮ＩＳを戦力に考えてる人たちってごっこ遊びなんだよね。
コストパフォーマンスが悪すぎだし。
整備とか部品代とかもあるけど、結局は

搭乗者個人の能力に依存しすぎなんだよ。
ＩＳを装備した連中が１００人いても
司馬少佐一人に勝てないんだから兵器
としては失格だよね。
それでも各国がＩＳの開発を止めないのは
篠ノ之束と冬林技研がＩＳに依存
するような社会を作ったからか。
もっと細かく言うならＩＳに使われてる
機能を個別に研究させない為に、ＩＳと
いう偶像だけを見るようにしてる？
元々ハイパーセンサーの機能だけで
世界を取れるモノだからね。
飛翔ユニットや生命維持システム
だけでもかなりのモノなのに、ソレを
解明するような動きが無いのは、研究の
ためにはコアをバラす必要があるから。
連中はコアを自作出来ないからどうしても

コアがあることを前提とした技術を研究することが出来ないんだよね。
篠ノ之束を抱えると言うことはそういう障害を全て無視できると言うこと。
だから世界中の国家や組織が彼女を探してるけど、彼女は発見されてない。
中国や冬林技研が抱えてるんじゃないかって意見は昔からあったけど、その証拠が無いしこの前の無人機の件で私たちも被害者と言う印象を植えつけることが出来た。
・・・まぁ実際被害者ではあるけど。
「まぁ結局のところ予算の関係もあるでしょう。全身のＩＳスーツは基本的にオーダーメイドだし、素材だって安いモノではありません。私や特尉は普通に購入できても何のコネも資金も

無い学生では手が出ませんからね。
支給された一般の装備を使うしか無いのであれば、最終的にコノ痴女の見本市のような光景が出来上がるのでしょう」
「痴女の見本市って・・・え?まって!
簪も全身タイプなの?!（。Д。）」
あ、そこ気付いちゃった?
「そりゃそうだよ。細かい理由は今知ったばかりだけどさ。そもそもの話、全身タイプがあるならソッチを選ぶのが普通じゃないかな?」
何であんな【きわどいみずぎ】を授業中に着なきゃ駄目なの?水泳でも無いのに。
私はアナタと違って痴女じゃないんだよ。
ＩＳだって体の線を隠すための装甲もちゃんと装備してるから、見た目にはフルプレートの騎士みたいな感じかな?

「司馬様は余裕ある道着タイプだし！私だけ痴女って思われてたの?!」

「「なにを今更」」

司馬少佐は多少効率が落ちても体の線を出さないことを優先したんだよね。

冬林技研も司馬家もソレが当たり前って感じでＩＳスーツの開発してたし。

おかげで全身スーツのノウハウも手に入って冬林技研もにっこり、司馬家もにっこり、少佐もにっこりでみんな大満足。

大佐殿?あの人が見たいって言ったら少佐が嫌がるわけ無いじゃん。

普通のＩＳスーツも着るんじゃない?

あぁ、いまはリンちゃんか。愉悦愉悦っと。

「そうだよ?みんなしてアイツも大変だなーって噂してたくらい見世物なってたよ?」

代表候補生として写真とか普通に

撮られてたしねー。

「（　。Д。）」

あんなの、どのアングルからみても痴女のサービスショットだから。

私はイジメに遭ってたからそういう意味での露出は無かったけど、今考えたらラッキーだよね！

「リンちゃんとか他の代表候補生なんか写真からウス＝イ本まで、幅広い用途で相当数の悩める男子諸君のオカズとして今日も食卓に上がってるよ？」

現在進行形で。

「（　。Д。）」

まぁコレは織斑千冬とか山田教諭も一緒だけどね。

ふっ、リンちゃんは犠牲になったのだ。

少佐や私の代わりにな。

いやーアレ歳を取ったら黒歴史だよねー。
「し、司馬様！私にも！私にも全身
タイプのＩＳスーツ下さいっ！体の線が
出ないヤツをっ!!」
リンちゃんは何着ても真っ直ぐだよねー。
「簪、アンタ私を見てナニを考えた？」
ふ、そんな目をしても可愛いだけだよ！
そういうのはアホにやってあげなさい。
「さて、フランスの阿呆が隠す気が
無いのか、隠蔽が出来ない程の阿呆
なのかですけど、少佐はどう思います？」
「無視しやがった！（。Д。）」
任務優先なのは当然だよね？
「まだ初日ですから何とも言えま
せんが、おそらくは両方でしょう」
両方か、なるほど。
「えっと、両方って言うのは？」

リンちゃんは素直だからなぁ
「リンちゃん、もともとこの阿呆は
潜入工作が出来るような性格でも無いし、
自分たちの計画が上手く行くって思って
いるようなバカでも無いんだよ」
父親と義理の母親に虐待を受けて
いるから、会社の為に何かしようとも
思っていない。投げやり状態だね。
「そうですね。特尉の言う通りでしょう。
つまりは学園が予測し、望んだ人間が
そのまま来たと言う形になります」
「あぁ、引き抜こうにも馬鹿じゃ
使えませんもんねー」
そうだね。後はアホの織斑と仲良く
させて引き抜くだけか。
恋愛脳の１０代女子を潜入工作に
使うことが間違ってるって話だね。

引き抜かせることまでが狙いかも
知れないけど、その場合は何かする
前にフランスとデュノア社を潰す
くらいのことは出来るよねぇ。
いくら追い詰められてるとは言え
世界的企業の社長がナニをして
るんだって話だよ。
「まぁ織斑一夏も、同室なら男性と
女性の違い程度はすぐに気付くでしょう。
我々は高みの見物をすれば良いだけ」
学園は女を引き付けるフェロモンを持つ
アホの織斑にアレを接触させて、アホを
引き抜きさせる気か。
それで引き抜いたなら責任とれって感じで。
なし崩し的に織斑も手に入れるつもりかな？
まぁ引き抜きが成功したら我々は
学園の美人局を非難できますもんね。

女性と知りながらアホの織斑と同室にしたのは何故だって感じから切り込むかな？

「でも一夏とフランスの女を一緒にして間違いがあったら・・・」

いや、別に良いんじゃない？

「最終的にリンちゃんが織斑を獲得出来れば良いんじゃない？

そうやってアホの織斑が持つ女に対するハードルを下げて貰えば良いじゃん」

「ん？な、なるほど・・・」

「ですね。今一時的に体の関係を持って周囲と軋轢を生んで捨てられるよりは、最終的に添い遂げる為の雌伏と思えば良いでしょう」

「か、体の関係！」

そうですよね。この辺は理解あるところを見せるのが好感触だと思うなー。

「そうそう、篠ノ之と螺旋頭が揃いて、
フランス人がこねた餅をリンちゃんが
食べればいいんだよ」
まぁ学園での思い出を胸に一人
寂しく生きるのも有りだけどねー。
「最後の勝者になる為に・・・か」
うんうん。少し前ならソレすら認めな
かっただろうに。
やっぱりアノ襲撃で洗脳じみた恋心
に綻びが出来たのかな？
それともそういう駆け引きっぽい
のに疲れただけ？
ま、私たちとしてはどっちでも良い
話なんだけどね。
大佐殿はやさしかったし。ちゃんと
私も見てくれるし、意見を笑わないで
真剣に聞いてくれたし。

・・・アホとは違うのだよアホとは！

「そうですね。結婚後の事を考えれば
シャルロット・デュノアはどうしても
安定感がありません。篠ノ之箒もソレは
一緒です。螺旋頭は・・・間違いなく
家庭が破綻するでしょう」

まぁアホに貴族的な考えとか企業の
トップに必要な判断はできませんか。
最悪バツ1かバツ2になったのを
拾っても良いよね。

「普通に考えたら好きだけじゃ結婚
なんかできませんよねぇ。その後の
生活や子供のことを考えたら、今は
地道に昇進して足場を固めつつ千冬さん
の攻略ですね！」

お、この前の私たちの話を聞いて
結婚について深く考えたんだね？

けど私もこの前初めて知ったけど、幸せな家庭を築くには体の相性も大事だからねー。
ひんぬーは駄目だとか言われたりして体に不満を持たれてＮＴＲとか笑えないよ？
更に言えばアホには８０１疑惑あるんだし。
野獣のような先輩に迫られたら、勢いに負けて「アッー！」しちゃうかもよ？
「その通り。急がば回れとも言いますし、今は必要以上に過敏になる必要は無いでしょう。むしろ余裕を見せることでアレにとっての数少ない癒しの対象になるのも良いかもしれませんね」
さすが司馬少佐です！
「確かに。大人しい猫って癒し効果ありますもんねぇ」
確かにソッチ方面ならリンちゃんの一人勝ちだよね。

寄り添って甘えさせれば良いんだよ。
「ふむぅ（Φ ωΦ）」
あ、「さぁ私に甘えに来たまえ」って
言うのは特尉の私のセリフだから
リンちゃんは言わないでねって、後で
釘を刺さなきゃ。
「とりあえず近日中に動きがあるで
しょうから、その時に備えて学園側を
追い込む仕込みをしておきましょう」
追い込む仕込みか・・・流れとしては
1・アホの織斑がデュノアが女性と気付く
2・織斑千冬に相談する
3・学園とフランスの折衝
4・デュノアが女だったと公表する
5・フランスが被害者面する
6・デュノア社がトカゲの尻尾切りに遭う
7・デュノアが学園内で亡命ｏｒ帰化宣言

ってところだよね？
私たちが関わるとしたら、最速で3かな。
後は好きな時に介入できるね。
介入のタイミングごとに発生する
メリットデメリットを考えて司馬少佐
のサポートするのが私の仕事だね！
「そのときリンちゃんはデュノアを責める
んじゃなく、認めてやる方向で行けば
アホの織斑の好感度も上がると思うよ」
なんたってあのアホは力も無いくせに
「自分が何とかしなきゃ」って思う
ような人間だからね。
自分が守るって決めた人間を非難
するより、認めてもらった方が印象は
良くなるはず。
「え？良いの？」
「まぁ積極的に行くと駄目だけどね？

どうせ学園とフランスで話をつける
んだから、こっちには何の責任も無いし。
連中に便乗してやれば良いんじゃない？」
一石二鳥どころじゃないよね。
フランスは勝手に恩を感じるし、
アホの織斑からの好感度も得られるし、
織斑千冬とも共通の話題が出来るし、
私たちの行動の隠れ蓑にもなるし。
もうウハウハじゃない？
「特尉の言う通りです。貴女にこの
情報が入るのは学園とフランスの折衝
が終わった後でしょう。
故にあくまで理解を示すだけにしなさい。
下手に協力する姿勢を見せれば我々
の動きが警戒されてしまいますからね」
「了解です！」
普通に考えたらそのタイミングだよね。

司馬少佐に連絡が来るのは2の
織斑千冬に相談が入った時かな？
勝手にフランスと折衝する前に
一報くらいは入れてくるハズ。
もし無視したらそれも介入の口実
になるし。
しかしフランスもアレだよね。アホを転入
させる準備が終わって書類とかの処理が
終わったと思ったら司馬少佐の監査員就任
だもん。焦っただろうねぇ。
常任理事国の会議と、ＩＳ委員会で司馬少佐
の監査員就任に反対票を入れたのは間違い
なく失策だった。
過去の一挙手一投足がそのまま墓穴に
変わるのが政治の世界。
司馬少佐と大佐殿の怖さは轡木十蔵を
遥かに凌ぐんだよ。

今回更識は無能の烙印を押されるかな？
あえて受け入れたと言えば学園の
美人局。知らなかったと言えば無能。
どっちに転んでもプギャーで愉悦っ！
「簪、なんか機嫌良いですね？」
「・・・まぁ学園と更識に吠え面
かかせてやれますからね」

私は日本の敵になりたいのだっ!!

ーーーーーーーーーーーーーーーー

「司馬様ードイツ人って馬鹿なんですかぁ?」

第19話

今度はドイツかー。問題を起こすのは知ってたけど、三日目で問題起こすって相当だよね。

「ドイツですか。私の印象を言うなら合理主義で頭の良い生真面目な馬鹿ですね」

「「あぁ」」

なんかしっくりきますよ。たぶん日本の人も大体そんな感じの印象あるかも。

「基本的に合理主義で天才や秀才を容認するだけの器の大きさはありますし、ソレを育てる経験や法整備もありますね。

「居るんだから有効に使う」という発想でしょうか。それ故医学・工学・軍事など合理を求めムダを嫌う分野に置いては近隣

諸国を突き放すだけの素養はあります」
ですよね。基本的にそう言う部分では
優秀ですよね
「ただし、合理で片付かない分野に
おいては理解が遅れる節がありますね。
感情と言うモノが蔓延する民主政治の本質は
彼らには理解できていない可能性も有ります」
ありえる。これは日本人もそうだけどね。
今の民主政治は国民の意思で政治家を選出
してとか言うけど、日本人ってもともと
そう言う国民性じゃないんだよね。
「軍人が一番わかりやすいですが、彼らは
基本的に自分の専門分野以外に口を挟む
ことをしないのです。
軍人は政治に口を出さない。科学者も
政治に口を出さない。と言った感じで、
他には目もくれないからこそ一つの分野を

極めるようなことが出来るのではないでしょうか?」

あぁ、確かに一つに没頭して他を切り捨てる印象はあります。

・・・っていうか技術者って基本的にそんなモンですよ?倉持のクズが政治を忖度するのだって予算の為でしょ?

「文民統制としては文句ないですよね?」

まぁ専門家にアホが反対意見を言わないって意味ではそうだね。

「そうですね。ただ肝心の統制する文民。つまり政治に対する理解が無いので、政治が暴走する可能性を孕みます。

そして自分たちの邪魔をされることに強い不快感を覚えるようですので、一度反発すると修復が非常に難しい。

政治家が軍事に口を出すな!とか反対に

軍人が政治に口を挟むな！とか、
政治家が医術の発展の邪魔するな！ですね」
最後のはマッドなアレですよね?!
「ストッパーが居ないってことですか?」
「そうなります。まぁ一応軍事の場合は
政治家を兼任する軍務大臣に命令して、
ソレを軍務大臣が認めれば、後はトップ
ダウンで命令が行き渡りますので暴走は
抑止出来ますよ?
軍も別にクーデター等を起こす気はないので、
ある意味では正しい役割分担と言えます」
政治は政治家の役割だから、軍人である
自分達が上に立って何かをしようとは
思わないって言う事ですか。
まぁ軍人としては正しいよね?
問題は軍人気質の人が政治の主導権を握った
場合だけど・・・まぁ世界的に警戒されて

るからね。近隣諸国、特に政治に関しては相手を腐らせることに定評が有るイギリスが居るからね。あの国がその辺の内部を色々コントロールすると思うけど。
でも今はイギリスそのものが分裂してるからなぁ。またドイツが台頭するかも。
「ですから、今回の人形のように政治的役割を踏まえた作戦行動と言うのは本来彼らの苦手分野なのです」
「なるほど」
まぁ生粋の軍人だもんね。軍事以外に興味も経験もないのに、いきなり政治的な役割まで押し付けられて混乱してるのかな？
「本来なら准尉と私のように役割を分けるべきなのですが、軍事と政治の壁でしょう。特に現場の軍人は政治に無関心どころか政治に関する役人を嫌いますし、

そもそも人形の存在は少し調べたら政治的にアウトだとすぐにわかる存在です。
軍部としても政治将校のような存在を付けるわけには行かなかったのでしょう」
「政治なんて面倒事に関わるくらいなら
いっそ全部任せた方が楽ですけどねー。
最低限の信頼関係が無ければ無理ですか」
「まぁ「デザインベビーを量産して産まれた時から軍事教育してました」なんて言うのは政治的には間違いなくアウトですからね」
軍部の中の派閥とか政治の中の派閥とか色々あるだろうけど・・・まぁどっちにしろお人形さんは孤立無援の単独任務。
そりゃ混乱するし肩肘も張るよね。
「本来のドイツ軍人なら出来ないことをさせるような気質ではありませんし、準備を怠るような無能でもありませんが、男性操縦者が

織斑であったこととフランスの阿呆の存在に
軍部も政治も引っ張られましたね」
なるほど、織斑千冬はドイツの教官も
してたから縁はある。織斑一夏の情報を
得るなら、姉と特に接点があった人形を
派遣することが一番マシって軍部は判断
したのか。
だけどその人形に政治が出来ないから
どうしようって感じ？それともそういうの
関係なしでＶＴシステムを暴走させることで
織斑を殺して軍部に介入しようとしている
派閥でも有る？
いや。そのＶＴシステムを使うのが人形なら、
デザインベビーを作って軍事利用している
連中に対するカウンターになるよね？
さらに無駄にＩＳに拘る連中を掣肘する
ことも出来るか。

・・・アレ?これって連中の作戦が
成功したほうがドイツっていう国は
マトモになるんじゃない?
「それで、そのドイツが何を
しでかしたのですか?」
あ、そうだよね。生真面目なバカが何を
したかの報告だったよ。
「はい!では映像の確認をお願いします」
・・・盗撮とかは絶対言わないぞ!

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

カクカクシカジカドイツノムートンイトウ

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「・・・なるほどコレはひどい」
「少佐、こいつ等馬鹿なんですかね?」

いや、フランスのときも思ったけどさ。
関係者全員バカだよね？
「まずこの人形ですが第三世代機の調査は
わかりますが、無駄に織斑一夏を敵視して
ますね。コレは何か理由が？」
私も織斑のアホは嫌いだし仲良くしようとは
思わないけどさ。
国とか組織を滅茶苦茶にしてまでつっかかる
って相当だよ？
アホだからって理由で第三世代機で攻撃
していいなら、このＩＳ学園そのものが
消えて無くなってるし。
「なんでも以前一夏が攫われたせいで、
千冬さんがモンドグロッソの決勝を辞退
したことが気に入らないとか」
「「はぁ？」」
何を言っているのかな？

「いや、そもそも織斑千冬は弟魂ですよ？
ＩＳか弟かと言われたら弟を取るでしょう？」
ですよねー。日本代表だって本人的には
別に望んでないわけだし。
そんなことして悪目立ちするくらいなら
普通に就職したかったって話だよね？
「もうそっとしてくれ」って感じでさ。
「それにドイツで開催された大会で
大会参加者の関係者が誘拐されたん
だから、悪いのは誘拐した犯人と
警備を担当したドイツじゃないの？」
普通に考えたら織斑千冬の連覇を
邪魔に考えてる人間なんかいくらでも
いるじゃん？
「人質とって邪魔したるぜよ！」なんか
誰でも真っ先に考える妨害方法だよね？
そもそもコレに関してはアホの織斑は

誘拐された被害者だよ？
無用心だって言う言い方もあるかもしれないけど、中学生がプロに狙われて逃げるって無理じゃない？
そもそも日本政府は何をしてたの？
織斑千冬の唯一の弱点なんだから連覇して欲しいならちゃんと護衛しなきゃダメじゃん。
おいこら楯無、何してた？
織斑千冬の連覇を阻むための誘拐という作戦行動でしょ？
絶対に突発的なヤツじゃないよね？
必ず組織が絡む計画があるよね？
ドイツや日本の上層部にその計画を認めてた奴がいたんでしょ？
まさかドイツも日本もその他警備のプロも揃いも揃って裏をかかれたとか？

『誘拐か・・・その発想は無かった』
なんて真顔で言わないよね？
「その辺アレの思考回路が良くわかんないんだよねぇ。普通なら軍部の失態をお詫びしなきゃダメじゃん？なんで憎むのかがさっぱりでさー」
確かに分からないね。
「そしてイギリスの螺旋頭に対する暴行ですか。コレはまぁ挑発に乗った螺旋頭も非がありますね」
「そうですね。ただでさえ以前にヤったアレで感情で兵器を振り回すと判断されたのに、今回のコレですからね」
さらにボロ負けしてるし。まぁ近接戦をするための機体じゃないし、あくまでＢＴ兵器のテストパイロット的な候補生だから勝ち負けより兵器の稼働率が問題

なんだろうけど・・・コレは無いよなぁ。
「個人的には一夏を馬鹿にされたって
言うのはムカつくけど、だからって兵器
使ってまで戦うのか?と言われたら・・・
ありえないでしょ?」
「「ですね」」
「この挑発もなんというか・・・流石
１０代女子ですね。もう少しまともな
口上は無かったのでしょうか?」
「普通にお互いの第三世代機の性能
試験として・・・とか言えば螺旋頭も
無下にはしなかったと思いますが」
国の威信がかかってるからね。
下手な戦闘もアレだけど、だからと
言って尻尾巻いて逃げるのも違うし。
本国や担当者に許可を取ってからなら
正当な試験になったと思うんだけど

「狙いはあくまで一夏だったみたいですから。同じクラスの専用機持ちである螺旋頭を倒して挑戦状みたいな形にする気だったんだと思います」

「・・・」

いや、なに？その世紀末思想？

「コレでドイツの特殊部隊の隊長かつ少佐ですか。尉官教育どころか兵卒としての再教育の必要性を感じますよ」

まさしく兵器の私物化ですもんね。

学園的には場所はＩＳの展開が許されたアリーナだから特に問題はないけど、コレは訓練に身が入りすぎた結果ってことになるのかな？

「さらに織斑一夏による乱入行為ですか」

これもなぁ。緊急だと思ったんだろうけど、先にアリーナの担当監視員に

連絡入れるべきだよね。
「うーん。何故わざわざ乱入したんで
しょうね？」
まさか先生にチクるのカッコ悪いとか
言うつもり？
「自分で助けたかったんじゃない
ですかね？」
「いや、無理でしょ。なんだかんだで人形は
軍人としては・・・ダメだけど、兵士として
も・・・ダメか。えっと、ＩＳ操縦者としては
それなりの実力者だよ？
アホの織斑が勝てるわけ無いじゃん」
「だよねぇ（；´Д｀）」
それとも同族嫌悪？量産型のくせに
生意気だって感じ？
無理無理。遺伝子操作されてる上に
軍事オンリーの人生を歩んで来てて、

織斑千冬に教導されて脳まで筋肉になったんだよ？
ＩＳの稼働時間だって比べ物にならないし。
ドイツでの扱いが悪かったからアレかもしれないけど、コレはちょっと前の私でも苦戦する相手。
それに対してアホは姉に守られて生ぬるい学生生活してたでしょうに。
もうこの時点で勝てるわけないじゃん。
「さらにフランスの阿呆も参戦しますか。
・・・ドイツのビールがホットって、
フランス冗談ですか？」
出来はスゴク・悪いですよね。
さらにココで戦闘行動取ればフランスの阿呆の性別に疑問を抱く連中が増えるんじゃない？
いつ・どこで操縦技術を学んだのかって

感じになるんじゃ無いの？
工作員が目立ってどうする気なんだろ？
「そもそもドイツの冷水と呼ばれた
人形がここまで感情的になって
良いものなんですかね？
普通にＡＩＣも見せびらかしてますし」
秘密兵器でしょ？可動実験も兼ねて
るのかもしれないけど、コレ後頭部
隙だらけだよね？
これから弱点の修正するのかな？
「ふむ。確かに感情に任せて兵器を振り
回しテロリストを殺してそうな感じですね。
装備の実験などで相手を殺し回った結果の
通り名でしょうか？」
「え？それ言ったら司馬様とか副所長さん
なんか冷酷非情どころじゃないですよね？
・・・ひぃっ！（つд⊂）」

・・・リンちゃん。君は馬鹿なのかな？

「・・・まぁ否定はしませんよ。軍事的な実験に犠牲は付き物ですからね。むしろ中途半端に妥協したら行けません。その結果マジノ線要塞群のようなモノが出来上がるのです」

「「金と時間と人材の無駄ですね」」

確かに中途半端はいけない。トライしてエラーする前に最低限の計画を立てなきゃダメだって話だよ。

「そもそも師は李家の当代当主ですよ？世界中の暗部にとっての恐怖の象徴が、冷酷非情という言葉で収まらないのは当然のことでしょう？」

そうですよねぇ。普段は優しいけど必要なら笑顔で人体実験出来る人じゃないと、超人１０２芸とか披露することすら出来

ませんよねぇ。
アレ、普通に人を殺すことが前提の
技ですし・・・
「確かにそうでした！（・ω・）」
「私もその師の弟子筆頭として恥じぬ
程度の実力はあると自負してますからね」
そりゃ冷酷非情なんかじゃ収まりませんね。
そもそも政治の世界に温さなんて必要
無いですから。
人形が何人殺したか知らないけど、
司馬少佐は普通に殺すだけじゃなく
書類の上でも人を殺してる。
単純な犯罪者から政治関連の死傷者を
合わせたら既に１００００は殺してるよね？
司馬少佐の持つマル秘リストに名前が
乗っただけで死亡が確定するんだから、
コレはもうリアルデスノートだよ！

「筆頭？でも司馬様が弟子入りする前
から副所長さんは李家の当主ですよね？
李家に筆頭の人とか他に居たんじゃ
・・・ひぃ!?（つд⊂）」
・・・リンちゃん。君は馬鹿だな。
「私が筆頭です。前の筆頭？そんな
モノは存在しません。いいね？」
「「あ、はい」」
何故か私も答えたけど、この人たちを
見たらドイツの人形なんかやっぱり
人形だよねぇ。
「ち、ちなみにその筆頭である司馬様は
１０２芸のウチどこまで使えるんです？」
「え？司馬少佐も使えるんですか？李家
の秘伝ですよね?!」
いや、弟子筆頭だから使えて当然なの？
「別に李家だけの秘伝でもありませんよ。

もともと超人１０２芸は李厳殿の師の技で
あって李厳殿のオリジナルではありません。
前に言ったでしょう?李厳殿が習得できた
のはおよそ7割だと」
あ、そういえばそうだ!別に李厳様が
開祖ってわけじゃないんだもんね!
「り、李厳様の師匠?!」
ん?あぁ、中国では李厳様が武神なんだ
もんね。その師匠なんか想像もつかないよね。
「ええ。その師匠は様々な教えを門下生
に教え様々な人材を育てました。
武人としては李厳殿や姜維、徐晃や呂布
趙雲に華雄などが有名ですね」
「（。Д。）」
門下生が有名過ぎませんか?!
「武将としては公孫賛や張任や張遼、
他にも楊任や楊奉、孟達ですか。

為政者としては孫堅やその娘の孫尚香、
李恢に徐庶や袁術。董卓も・・・まぁ
門下生と言えますかね?」

「(。Д。)」

「いや、ソレ晋の有名どころが
ほとんど門下生じゃないですか!」

そんなの有り得るの?北〇神拳だって
一子相伝なのに、当時の知識とか武術
って継承者以外には伝えないのが普通
じゃないの?!

「そうですよ?むしろ門下生によって
出来た国が晋です」

「(。Д。)」

「陳登や黄叙も・・・まぁ一応弟子とは
言えるかも知れませんが、どうでしょう。
陳登は徐庶付きですし、黄叙は孫尚香の
弟子のようなモノですから、今回は

除外でいいでしょう。馬騰に関しては・・・アレは門下生では無いですね」

「（。Д。）」

豫州徐家の宰相として知られる陳登と四将伝の作者の一人と言われる黄叙も関係者なの?!

って言うかリンちゃんが驚いたまま固まった?!カッチカッチだぞっ！

「その中でも冀州司馬家の初代として知られる司馬仲達は幼少の時から筆頭弟子として扱われていました。彼女の前にもその師匠に教わっていた張松達が居たにも関わらずです」

「（。Д。）」

正確には姉の司馬朗が初代ですがって言ってますけど、今さらりと出てきた張松も有名人ですよね?!

「そ、それは何故でしょう?」
基本的に当時の中国は年功序列だし、他の人たちだって決して無能じゃないよね?ソレなのに何で幼少で後から弟子入りした当時の司馬懿が筆頭扱いなの?!
「師匠の全てを継げると判断されたからですね。政略軍略謀略の三略に加え、個の武術から医術、思想まで託すに値すると判断されたのです」
なんか少佐がスゴク誇らしげだけどちょっと寂しそう。コレはなんだろう?
「じゃ、じゃあ晋を作ったのって当時の司馬懿様じゃなく、その師匠じゃないですか!何でその人が無名なんですか?!」
あ、リンちゃんが復活した。だけど

そうだよね。普通ならそんな人が
居たら歴史に名を残してるだろうし。
あ、けど司馬懿の師匠として有名な
のは楊修だよね？
「もしかして楊修様がその師匠なんですか？」
それなら楊家が序列第一位になった理由も
わかるし・・・だけど楊修は政治に特化
した人間だって話だと思ったけどなぁ。
「楊修殿は師匠の幼馴染です。彼は
文官の極みと言って良い人間でしたが
軍略や武術にはからっきしでした」
や、やっぱりそうなんだ？
なら他に師匠っているの？
「当時の司馬懿達の師匠は己の名を売る
ことに消極的でしてね。
曰く、『策士が名を知られたら駄目』とか
『獲物の前で名乗りを上げる狩人なんざ

存在しない』と常々語っていたそうです」
そ、それはそうだけど！
「その師匠の通称は教頭でした。
暗黒将軍とか暗黒卿と言うのも
ありましたが、流石に本人に対して
正面からそのようなことを言う
阿呆は居ませんでしたね」
「「教頭?!」」
あれ？確か今の大佐殿って・・・
「特尉は気付きましたね?そう現在
李家の教頭と呼ばれる我が師李儒文優。
その名の元である李儒殿が当時の司馬懿
達の師匠です」
「「え、えぇーーーー?!」」
司馬少佐の名前は初代の名前を継承
したのは知ってたけど、じゃ大佐殿の
名前もその人の名前を継承してたの?!

いや、それ以前の問題だよね！
「李儒って人畜無害だけど狭量で、
司馬懿の功績に乗っかって出世して
ただけの人じゃ無いんですか?!」
「だ、だよね！李儒って言えば司馬懿
の足を引っ張るような人だよね?!」
本当にみんなの師匠なら
なんでそうなったの?!
「その悪評の元は曹操となってますが、
実際は李儒殿がその悪評をあえて広め
己の評価としたのです。
謀は密を持って為すと言いますからね。
更に司馬懿に晋を造らせるにあたって
自分の存在は邪魔にしかならないと
判断したというのもあります」
「（。Д。）」
なんて香ばしい生き様！

「そして・・・まぁ色々ありまして。
若くして死期を悟った彼は、弟子達に対し己の名を残すことを禁じました。
コレは先ほど言ったように新たな国を造る英雄に師匠の存在は不利益になると判断したためです」
その色々が聞きたいです！
既にこれだけで2時間じゃ足りない映画になりますよね?!
「え?何で不利益になるんですか?」
え?司馬懿の名前の重みが減るからじゃないの?
「李儒殿は３０前後で早世したのです。
その死因はともかくとして、師匠であり国家の礎を築いた英雄を司馬懿が殺したなどと噂が立ったらどうなりますか?」
「・・・司馬懿の英雄としての名に

傷が付きます」
そうだね。国を興した英雄が、実は
師匠の功績を掠め取っただけって
言われたら・・・
「それに国家の正当性も。暗殺によって
出来た国なんか認められませんよね?」
１０００年戦うどころか、１００年、
いや５０年持たずに戦いで滅びちゃう。
「そうですね。李儒殿の存在を正しく
伝えてしまえば、それが国家を乱す
原因となります」
関係者が生きているウチはまだしも、
関係者が死んだ後で資料だけ見たら
それを口実に出来るもんね。
「けどそれはまさに暗部の生き方
じゃないですか?己の名を消して
まで国の礎を築くなんて、当時の

武将にできることなんですか？」

家の存続を何よりも尊び、次いで名声を求めた当時の人たちの中で自分から名を消して弟子を支えるなんて普通は無理なんじゃないの？

「普通は出来ませんね。李儒殿が特別だったと言うことでしょう。そして名を残すことを禁じられた弟子たちは彼の名を教頭とだけ呼び、その名と教えを子々孫々伝えることとしました」

これは「自分の先生が言ってたこと だからよく聞くように」って感じかな？

「その中に超人１０２芸もあったんですね？」

あ、そうそう。元はその話だった。

当時の裏話面白すぎるよね！

「そうです。司馬家と姜家、そして李家がその技の一部を伝授されたのです。

まぁ司馬懿も姜維も李厳殿の域には到達できず、司馬懿が習得したのはおよそ6割。姜維が習得したのはおよそ4割と言ったところでしょうか。まぁ数はともかく使いこなすという点では李豊以上であったとされていますけどね」

ほほう・・・コレはまた随分香ばしい感じがしてきましたぞ？

「そして質問の答えですが、現在私が使えるのが7割。到底使いこなしていると言えるレベルではありませんがね」

「「7割?!」」

もう武神じゃんっ!!

いや、大佐殿が神だから・・・何だろ？

拳王？聖帝??

「ふむ。我が国の昔話はこの程度で良いでしょう。今はドイツの人形の話です」

「「・・・あ、そうでしたね」」
いや、別にいらなくないですか？
私としてはソッチの方を聞きたいんですけど。
「なるほど。それで最後に織斑千冬が乱入して「試合でケリをつけろ」ですか。問題の先延ばしと言うか何と言うか、まず最初から止めろと言いたいですね」
ですよねー。少なくとも螺旋頭に対する過剰攻撃は見逃してますね。
「あぁ、千冬さんは本来今日の担当じゃなかったみたいです。担当に応援として呼ばれたって言ってましたよ」
教員のくせに情けないって言いたいところだけど、今回はしょうがないかな？
「・・・なるほど、第三世代機の衝突ですからね。戦闘になれば教員と

いえども第二世代では不覚を取る
可能性もあるし、学園のＩＳを損傷させる
わけにもいきませんか」
「ですね。ヘタに手加減して負けたり
したら今後の授業にも関わりますし。
まぁ警告くらいは出すべきだったとは
思いますけどね」
なんかそういうの一切してないよね？
自主性を重んじるとかそう言うレベル
じゃ無いような気がするんだけど。
「とりあえず関係者全員が馬鹿で
阿呆なのはわかりました。
イギリスが抗議するかどうかは
わかりませんが、第三世代の評価
試験を兼ねていると考えれば公には
したくないでしょうね」
惨敗ですからねぇ。１対１じゃ勝て

そうに無いし。
「これ、結局処分とかはありますかね？」
「学園としては生徒同士の接触という
形にしてしまえば楽ではありますが、
そうすればこの人形は無罪放免。
周囲の感情的にはどうでしょうかね？」
「かといって公にすれば管理不十分で
司馬少佐が介入する口実になります。
コイツら自爆しすぎじゃないですか？」
首輪でも付けて、勝手にＩＳ展開したら電流
でも流れるようにしたら良いと思うんだ。
「まぁどちらに転んでも我々は損してる
わけでもないですし。
月末の試合を楽しみにしましょうか」
「試合ですかぁー面倒ですねぇ（´Д｀）」
私たちは別に出なくても良いけど、
リンちゃんは普通の学生しなきゃ駄目

だもんね。だけど気を抜きすぎじゃない？
「リンちゃん、油断したらダメだよ！」
司馬少佐に怒られる前に注意しなきゃ！
「いや、油断って言うか余裕でしょ？
あんな欠陥機に負けないって」
い～や油断だねっ！
「人形がＶＴシステムで盛大な自爆を
するだろうから、巻き込まれないように
しないとダメだって！」
超至近距離で花火が炸裂するようなもん
だよ？油断するなんてとんでもない。
「そうですね。自分が信号で止まって
いても、相手が突っ込んでくることが
あるという事実を忘れてはいけません」
です！予期せぬ貰い事故が一番怖いんです！
「確かにっ！了解です（＊、・ω・）ゞ」
敬礼は右手だけど・・・シカタナイネ！

コレで暫くはドイツの人形は動かないし。
あとはフランスの阿呆と織斑のアホの
学園ラブコメの見物かな？

――――――――――――――――

「簪ー簪ー私とペア組んでーーー！」

第20話

「リンちゃんが司馬様ー!!ってこないのは珍しいねって・・・ペア?」
ペアって何?クマ?洋梨??
それとも中国語でなんか有るの?
「そうなの!コレ見てよ!いきなりよ?どーなってんのよ!!(#。д。)」
いきなりとかどうとか言われても・・・
「とりあえずそのチラシ?握り潰してたら見れないからね?」
手の中にあるものをどうやって見ろと言うのか・・・ハイパーセンサーでも無理だよね?
「あ、あまりの衝撃で握りつぶしちゃった。ごめんごめん。ハイ、ちょーっとシワが

寄ってるけど見れるから良いわよね！」
「・・・まぁいいけどさ、司馬少佐に
見せる書類はこんな風にしちゃダメだよ？」
普通にお仕置きだからね？
「わかってるって！流石に司馬様には
そんなこと出来ないわよ！」
私なら良いのかよ！ってツッコムべき
なのかなぁ？だけど、な、仲がいい友達
ってきっとこんな感じなんだよね？
「ま、まぁわかってるなら良いよ。
で、チラシの内容なんだけど・・・」
はぁ？ペアってそういう意味？！
って言うかバカじゃない？！
ーーーーーーーーーーーーーー
『ふむ、フランスもドイツもアホだな』
それ以外なんと表現すれば良いのやら、
流石の師もお困りの様子ですね。

「ハイ。更に織斑千冬が乱入し問題を
先送りにしました。これによって後日
アレに搭載されたＶＴシステムが衆目に
晒されることが確定しましたね」
あの場で発動させていれば秘密裏に
抑えることも出来たでしょうに。
タイミングが悪いのか、それとも
狙ったのか・・・
『その場で片付ける方が教育者として
は楽だと思うんだがなぁ。あのアホは
ウチで何を学んだんだか』
そうなんですよねぇ。ただ通信教育で
授業を受けただけではなく、キサラギ
の研究室の連中がしっかり教育を
施したハズなんですけど。
あの様子では連中は参考にも反面教師
にもなってませんよ。

生徒としての目線しかなかったと言うのでしょうか？
やはり大学に通わせまっとうな教育過程の単位を取らせるべきじゃないですかね？
もしくは担任ではなく指導員として一切の権限を剥奪するとか。
「そうですね。試合は月末ですので、言い換えれば織斑千冬は月末までの間、人形の教育を放置すると言うことです」
時間を無駄にしていると自覚してますかね？
二週間あれば凰鈴音を学生から准尉にするくらいの教育はできるというのに。
『それにしても人形のコノ精神状況はあきらかに異常だ。
織斑千冬に対する依存だけで片付けて良いものでもなさそうだな』
己を軍人であると定義付けて居る者が、

この支離滅裂な言動ですからね。
「ですね。ドイツの人形は兵士としての思想教育は受けたようですが、軍人としての教育を受けたとは思えません」
薬物でも投与されているのでしょうか？生まれや環境を考えればソレも有り得ますが・・・
アレではＶＴシステム関係なしに事故を起こすでしょう。
『人形が勝手に自爆する分にはドイツの勝手なんだが、その事故にお前や更識簪が巻き込まれるのは面白くはないな』
「そ、そうですね」
ふ、ふふふ。まったく、普段は厳しいくせに私生活だとこんなに優しいんですから・・・ほんと卑怯ですよねぇ。
それに特尉も順調に側室として認めら

れてるようで何よりです。
各種相性も悪くないようですし、コレで兎の比重も減れば最高ですね！
「では介入しますか？月末までは完全に孤立しているでしょうからいくらでも接触出来ますが？」
あの分だと普通の学生は接触を避けるでしょうし、織斑千冬としても学園としてもヘタに接触すればイギリスやフランスの不評を買いますからね。
イギリスはともかく、阿呆を引き抜く予定のフランスに隙を見せるようなことはしないでしょう。
『だな。その前にこちらで根回しを行うから、接触は明日か明後日になるだろう。まぁ細かい予定はこれから組むがお前もそのつもりで居るように』

「はっ！」

勝手に自爆させるよりそちらの方がドイツに貸しを作れると踏んだ？

ま、まぁ私たちの心配もあるでしょうけど！

『で、次の旅行に関してだが・・・』

「はいっ！来月一年の生徒は臨海学校に行きますので、その後の土日を含めて３泊４日の旅行が可能です！」

歩行訓練を始めたばかりの連中が外で何をする気なのか、これはもうわけが分かりませんよ。

こんな行事は無視です無視。それより師と旅行です！

特尉はどうしますかね？准尉の補佐に付けるか、それともこちらの旅行に同行させるか。

正妻としては、側室を邪険にしないと

言う意味も込めて同行させても良いと思うのですが、それだと夜の分担が・・・ん？誰か来たようですね。

「司馬少佐、今お時間よろしいですか？」

特尉？それに准尉も居るようですがまたナニカあったんでしょうか？

暴行事件の当日ですよ？ドイツだのフランスの連中は、もう少し落ち着くということを知らないのでしょうか？

『ふむ。まぁコッチの話は明日でも良いか。まずは連中の相手をすると良いだろう』

「はい・・・」

あぁ、師との憩いの時間がぁ。

旅行の話もしたかったのに・・・

特尉と准尉が悪いわけでは無い。むしろ緊急時の報告連絡相談は急いで当然。

だけどねぇ、もう少しあるでしょう？

まぁへうへうよりはマシですけど・・・

「今、開けますので少々待ちなさい。

・・・では大佐殿、失礼します」

『あぁ、疲れてるだろうが無理はするな。

基本的にお前には自由裁量が認められているが、相手は１０代女子だ。考えるのが嫌になるようなことがあったら自棄になる前にコチラに連絡をするように』

「はいっ！必ず連絡します！」

師に心配をかけるのは本意ではありませんが、心配してもらえると言うのは嬉しいモノですね！

―――――――――――――――

「それで、わざわざ夜更けに二人で来るということは相当な事案だと思いますが、

また連中が何かやらかしましたか？」
あぁ、大佐殿との報告の時間を潰された
司馬少佐がちょっと不機嫌だよ。
この人が感情を外に出すくらいだから
中身は相当荒れてるよね。
新しいチラシ持ってきて良かったぁ。
「そうなんですよ！コレ見てください！」
今度は握り潰さないようにね！
「コレ？チラシですか・・・はぁ」
司馬少佐もため息つくレベルですよねぇ。
「選抜タッグマッチってオカシイですよね！
しかもいきなりの変更ですよ！」
リンちゃんは怒るポイントがズレてる
と思うんだよね。
「少佐もお気付きでしょうが、連中は
まさしく異常です。
そもそも選抜と言っても、ついこの前

最初の歩行訓練したばかりの学生に戦闘行動なんか取れるわけがありません。
さらにタッグマッチ・・・連携です」
「あっ！（　。　Д。）」
こんなの訓練すらできませんよ。
「そうですね。その上、試合中にダメージを受けた機体の整備を考えれば・・・
誰がどう考えても無謀な試みでしょう」
ですよねー。誰とペアを組むとか
それ以前の問題ですよねぇ。
コレを毎年ヤってた？今まではペアじゃ無いにせよ整備不良で死者とか出なかったの？
「（　。　Д。）！」
リンちゃん、今気付いたって顔してるけど、私にペア頼む前に気付こうよ。
まぁ私をパートナーに選んでくれたことは嬉しいけどさ！

「ふむ。コレはつまり学園側はドイツの
お人形を標的にしたようですね」
「え?アレがどうしたんですか?」
あぁ、なるほど。狙い撃ちにしてきた?
「リンちゃん。主席入学で専用機持ちの
螺旋頭が、手も足も出ずに完敗した上に
重傷まで負わされたんだよ?1対1で
戦える生徒が私たち以外にいると思う?」
普通に考えたら居ないよねぇ。
フランスの阿呆だって第二世代だし、
遺伝子操作と軍事教練漬けだった
人形に勝てるかと言われたら・・・
「あぁなるほど。つまり人形に足手まとい
をつけて弱らせて、一夏に勝たせるのが
学園側の狙いだと?」
お、ここでアホの織斑に行き着くなんて
成長したんじゃない?!

「そうですね。おそらく姉魂をフランスの阿呆と組ませ、ドイツの人形と戦わせる。そうすることで吊り橋効果も狙っているのではないでしょうか？」

なるほど、フランスの阿呆をアホの織斑に依存させる一手ですか。

「連携でもって強敵に立ち向かう二人って感じですかね？まぁ三流の配役と脚本ですけど役者は本気ですし、観客よりも役者を満足させるための演劇と考えれば・・・ありえますね」

英雄症候群とシンデレラ症候群の合わせ技って感じだよ。

私は砂糖か反吐を吐きそうだけど。

「コレ、そんな茶番だったんですか？

あ、その上ＶＴシステムまで起動したら、人形は完全に悪者で正義の味方の二人

に教師も味方して公開フルボッコですか？
人形に同情するつもりはありませんけど、
コレ教育機関としてはどうなんです？」
うん。普通にイジメ案件だよ。
どう解釈してもありえないよねぇ。
まぁドイツにはお人形を切り捨てる
ことを前提に作戦組んでるヤツが
いるっぽいけど。
けどコレは内部犯なのかな？ココで
そんなことしたらドイツにとって
取り返しがつかない失点だけど・・・
あくまで今の政権に対するダメージと
しか考えてないならソレもあり得るか。
もしくはドイツ単体では自浄出来ないから、
他所の手を借りて膿を出しきろうとした？
「ドイツの作戦としてはともかく、
教育機関としての在り方を考えるなら

間違いなく無しです。
他の生徒との実力差を鑑みてのハンデキャップと言えば聞こえは良いかも知れませんが、一人の生徒を対象にした差別やイジメとも言えますからね」
ですよねぇ。
「人形は軍人だし連携訓練もそこそこできるでしょうが・・・どうしても相方が足を引っ張りますよね？
最悪だと相方を後ろから撃って一人で勝とうとしませんか？」
リンちゃん良い勘してるよ。
合理的に考えれば足手まといは邪魔なだけだからね。
通常なら相方を無視する形でヤると思うけど、苦戦するような相手の場合、つまりアホと阿呆のコンビ相手なら

おそらくそうするだろうね。
「そうですね。アレと連携を組む為には軍人的な思考と能力を持った人間が必要ですが、この学園には私たち以外にそのような者は存在しません。
かといって私たちはこの茶番に参加するつもりもないので、このままなら人形は孤立無援となって暴走。結果として暴走の鎮圧を理由にシステムごと殺されるか、生き延びてもドイツが証拠隠滅の為に殺すと言ったところでしょう」
どちらにしろココでお人形さんは終わりってことだよね。このままなら。
「え？（。Д。）」
ん？リンちゃんは何を驚いてるのかな？
「どうしました准尉？何か疑問が有る

なら溜め込まずに聞きなさい。
それが貴女の持ち味でしょう?」
あ、司馬少佐もアレはリンちゃんの
持ち味だって思ってたんだ?
まぁそうじゃなかったら矯正してるよね?
「い、いや、私たちって試合には
出ないんですか?」
「・・・」
「え?なんですかこの「何言ってんだ
コイツ?」みたいな空気?」
この子ったら・・・コレがぽんこつって
ヤツですかねぇ?
「リンちゃん、夕方言ったよね?自爆
と貰い事故に気をつけろって」
私と司馬少佐の話をちゃんと
聞いてなかったのかな?かな?
タッグじゃないならまだ良かったかも知れ

ないけど、こうなったら確実にお人形は爆発するよね？これは貰い事故にならないの？

「あ、そ、そうよね！もう爆発するって確定してるんだから、わざわざ爆心地に行く必要なんかないよね！」

花火は上に打ち上げるのを遠くから見るから良いんであって、至近距離に打ち込まれたらタダのテロだからね？

「まぁ今回は爆発する前に師が動くそうです。明日か明後日に彼女と接触しますので、二人もそのつもりで」

「え？接触するんですか？」

さっきこのままならって言ってたもんね。何かするとは思ってたけど、これは爆発する前に信管を抜く感じかな？

――――――――――――――

「さて、ドイツの人形に関してだが」
あんまりといえばあんまりだろう。
「う〜ん。ちーちゃんが何とかする
と思ったら、まさかの投げっぱなし
だからねぇ」
アレもなぁ。ほんと教育者という仕事を
なんだと思ってるのやら・・・
「それに学園の方針もな。教育者の
端くれとして、アレは許せんよ」
事情を知らないのもあるだろうが、
一人の生徒を狙い撃ちにするヤツが
あるか。
アレだって別に卑怯な真似をしたわけ
じゃない。あくまで自分の鍛えた技と
国家が開発した技術を駆使しただけ
だろうが。

やりすぎだってんなら止めなかった
学園の教師連中が悪い。
生徒を止めれずして何が教師だ。
歪だとわかってるなら壊して導け！
「あ～リーくんはそうだよね。
私としてはアノ計画から派生したって
時点で殲滅対象だけど・・・
まぁアレが悪いわけじゃないし？」
アレを捌いたらクロエも似たような
扱いになっちまうしな。
「とりあえずドイツにはウチの連中を
向かわせる。そこで人形について調べた
ところ、存在の不自然さに気付きその
まま調査したってことにする予定だ」
もう全部知ってるが、何の動きも無い
のに情報が抜かれてるってわかったら
無駄に警戒されるからな。

ウチの連中にとっても、制限時間内に
どこまで正確な情報を持ってこれるかって
言う訓練にもなるし。
「回りくどい気もするけど、まぁ政治って
そんなもんなんだよね？束さんはソッチは
わかんないや。リー君に任せるよ！」
思考することを諦めてると言えるが
束は自分を科学者として定めてるからな。
純度を落とすのを嫌ったと思えば、
無理に矯正する必要も無いか。
「まぁそうだな。それで研究施設は
もちろんのこと、どこから資金が流れて
るのか、どこに情報が流れてるのかを
入手したってことにしてドイツ上層部に
連絡を取り、人形を我々が引き受ける
よう働きかけることにする。
アレに対する教育はそれからだ」

証拠を握った上で施設を連中に潰させよう。
もし連中が研究施設を潰さなかったら
俺がＡＣで仕掛けてやろうじゃないか。
「ま、反対はしないよ。だけどＶＴシステム
の方はこっちで潰してもいいかな？」
ん？まぁアレは束の美学に反するからな。
あんなものを造って喜ぶ変態はこいつに
潰してもらうか。
それに粛清手段が明確に違えば、束と
俺が別勢力だと勘違いさせることも
出来るしな。
・・・いや、もしかしたらソレも考えた
上で自分が動くと言ってるのか？
だとしたらこの兎、ほんとに成長した
もんだよなぁ。
「うわっ！だ、だからいきなり頭を
撫でるのは何でなんだよ！」

ふはははは。人の成長を喜ばぬ教育者がどこに居るというのか？
おとなしく撫でられるがよいわ！
「ま、まぁいいけどさ！あの、それで、クーちゃんはもう寝たから・・・」
「あぁ、わかってる。防音も十分だし、たまにはハメを外すと良いさ」
好き勝手やってるように見えて、本当に大事な妹や織斑千冬とは触れ合えて無いからな。
多少の憂さ晴らしも必要だろう。
「う、うん。ただ・・・」
「ん？どうした？」
コイツが言い淀むなんて珍し・・・くもないか。
なんだかんだでコレ系にはいつまで経っても慣れないからなぁ。

まぁ青春時代を丸々日本政府に監禁されてたようなモンだから、この歪さもシカタナイと言えばシカタナイんだろう。壊すには形が出来上がり過ぎてたし、少しずつ変えるしか無かったって言うのが、教育者として情けない限りだ。

「あの・・・リー君も遠慮とかしなくて良いからね？束さんは頑丈だからさ！」

・・・こいつめ

「アッーーーーーーーーー！」

ーーーーーーーーーーーーーーーーー

う～んやっぱり、リー君は凄いなぁ。
細胞単位で優秀な束さんも足腰立たない
なんて相当だよ。
これはしーちゃんも側室さんを入れる
気持ちがわかるよね！
・・・ほんとならそんなの許す気も
無かったけど、リー君の家の為って

言われたらなぁ。
私はテロリストだから、流石に正式な
奥さんとかにはなれないし。
あ〃～あんなことする前に特許のこと
とかちゃんと調べてればリー君に
もっと早く会えたのになぁ。
まぁ過ぎたことだからしょうがないけどさ。
んで、しーちゃんの子だとどうしても
アッチの家の子になるもんね。
それにかんちゃんはかんちゃんで
宇宙戦艦に興味深々だったし、それなり
に素質もあるからシカタナイね！
この良妻兎は許してやろうじゃないか！
「お母様、おはようございます！」
「あ、おはよ～クーちゃん！調子はどうかな？」
調整失敗で廃棄されそうなところを拾って
来たこの子も、最近じゃ随分明るくなって

来たよね。
教育って大事！流石はリー君だよ！
「最近は調整も不要なくらい調子が良いですね。やはりキサラギ様は技術者ではなく医者を名乗るべきだと思いますよ」
キサラギかぁアレは・・・ダメだと思う。
医術とかじゃなく、あくまで生体ユニットとしてクーちゃんを調整したのは正直凄いと思うよ？束さんとはベクトルが違う天災なのも間違いはないだろうし。
束さんも一回捕まりかけたけど、毒とか効かないはずの束さんが麻痺させられるって、一体ナニヲサレタんだろうね？
宇宙と生命の神秘は果てしない！って言ってたけど、アイツはいつか宇宙に変なナマモノを創って放出する前に、一度矯正する必要があると思うんだ。

まぁ束さんが言うことじゃないかもしれないけどさ！

「キサラギについては・・・本人がそう名乗ってるんだからソレを尊重してあげようじゃないか！それよりリー君とはもう会った？」

束さんと一緒に動いてるからクーちゃんは中々リー君と会えないからね！

・・・夜は早く寝るように言ってるし！

「はい、お父様はクロエの頭を撫でてくれましたし、ご飯も作ってくれました！」

うんうん。クーちゃんのお父さんなら束さんの旦那さんだからね！その調子でリー君に甘えるんだよ！

「それで、なんでもお二人の次の標的はドイツだとか？」

おぉ？まぁクーちゃんの生い立ちを

考えれば、好きにはなれないよねぇ。
「そうだよ！クーちゃんを造ったような
施設もまだあるみたいだけど、そっちは
リー君が潰すんだって。
束さんたちはＶＴシステムとか言う馬鹿
みたいなシステムを造って、束さん達
の夢を馬鹿にしてる連中を潰すんだよ！」
ちーちゃんのデータのコピー？
上辺だけちーちゃんを真似るのも許せない
けど、データだけとは言えちーちゃんを
操って戦わせるって言うのが許せないんだよ！
しかも中途半端な状態でしか再現できない
ってなんだよ！もう何のためのシステムだよ！
「・・・そもそも連中に生きる価値など
ありませんが、お母様の夢を穢すなら
なおさらですね。・・・粛々と埋葬します」
埋葬する必要なんか無いね！もう野晒し

にして斧で叩き割るべきだよ！
「作戦の決行はいつでもできるけど、
リー君からのゴーサインが出るまでは
禁止だよ！
フライングしたら怒られるから、今は
準備だけで我慢だね！」
ホントはすぐにでも殺りたいけど
リー君そういうの厳しいからなぁ。
政治的に一番効果が出るタイミングで
殺らなきゃだめだからって話だけど、
正直良くわかんないよね！
いつ殺っても一緒にしか思えないよ！
まぁリー君の指示に従って悪いことに
なったことが無いから、無駄に反発
とかはしなけどさ。
「?!絶対にフライングはしません！」
うんうん。お父さんの言うことは聞かないとね！

「し、司馬様ー！司馬様ー！」
「・・・朝からなんですか騒々しい」
元気なのは良いことですが、周りの迷惑を考えなさい。
ただでさえ朝起きたら兎からの自慢メールが来ててイラっとしたと言うのに。
もう次の旅行は絶対に外せませんよね。
アキタ以外の観光ポイントを早急に探さねばなりません。

・・・しかし次に行こうとしていたサイタマが予想外ですよね。
有名なマルノウチ・スゴクタカイビルがどこにも無いんですよ。

海もないし？ツナミとか殺人マグロは？
築地ってトウキョウなんですか？
ソウカイヤは居るようですがメガコーポ
はトウキョウかオオサカが本拠地ですし。
北に向かえばグンマーですから、
やっぱりソッチにしようかなぁ。
もしくは監査の仕事って一学期だけとか
じゃ駄目ですかね？
もう十分指摘しましたよね？帰って師と
訓練したいんですけど。

「司馬様！試合が！試合の優勝者が・・・！」
准尉？あぁ、そう言えば居ましたね。
「試合？それに試合の優勝者？」
試合って月末のアレでしょう？
優勝もなにも出場者居るんですか？

イギリスの螺旋頭は損傷が激しくて
欠場ですし、ドイツの人形もこれから接触
しますから普通に考えたら出ないでしょ？
フランスの阿呆は織斑一夏とペアを組む。
我々は出場しないし。ほかの生徒は戦闘行動
なんか取れない上に連携訓練も出来ない。
こんなの良くて４人で２チームくらい
居れば良い方じゃないんですか？
「優勝したら一夏と付き合えるって
言う話なんです！
これはチャンスじゃないですか?!」
「はぁ?」
コイツは・・・いや、コレが１０代女子
の暴走なのでしょう。
もう師に連絡しても良いですかね？
「いや、だから！」
「落ち着きなさい准尉、軍人が

不確かな噂話に踊らされてどうする。
醜態を晒す前に・・・死ぬか？」
「―？―〇　スミマセンデシタ！」
いや、朝から廊下でそんな大声で
ドゲザされましてもねぇ。
これは上官に対する嫌がらせですかね？
まぁいいや（）
今回は１０代女子の暴走と言うことで
勘弁してやりますよ。
「とりあえず結論から言いましょう」
さっさと冷静になれ
「け、結論ですか？」
「ええ、そうです。確定した結論なので
異論があるなら自分で裏取りでも何でも
するように」
そもそもそんな噂話を私の元に持って
くる時点でアレなんですが・・・まぁ

第一報としてならアリということにしてやりましょう。
「は、はい！わかりました！」
「では心して聞きなさい。
・・・試合で優勝したら織斑一夏と付き合えると言ったな？」
「は、はい！だからっ試合に！」
落ち着けというに。

「それは嘘だ」

「（。Д。）」

第21話

『さて、お初にお目にかかります首相殿』
「・・・ええ、ハジメマシテ」
中国の殺戮兵器が国連大使を通じての接触とはな。
・・・最近我が国に対し活発に人員を派遣して来ているのは知っているが。何の用だ？何かを探り当てたか？
『長々とアイサツするような間柄でもありませんからね。ここは単刀直入に行きましょうか？』
単純に時間を惜しんでる？それともこちらに考える時間を与えない為か？どちらにせよ拒否するような提案でもない、か。

「ええ、それは助かります。時間は有限でお互い暇ではありませんからな」

本来なら相手を探るために時間が欲しいところだが、今回は正直ありがたい。何せコイツは根回しもせずに、今まで誰も干渉できなかったＩＳ学園に監査員を送り込むという難事を容易く行った政治の化物。さらに暗部としての情報網やら実行力まで備えてるときた。

時間を与えたり、些細なことで言質を取られたら一発でアウトだ。

接触は最小限に。提案を受けた後は、後日返答と言う形にして直接の接触を終わらせるのが最良だろう。

『流石は実直を好むドイツの首相。大変結構。話が早くて助かります』

褒めてるようだが上から目線だな。

しかし、いきなりこのような無礼を
何の理由もなく行うような男ではない。
一体コイツは我が国の何を知った？
「・・・ご用件をどうぞ」
反撃も納得も後。まずはソレを確認せねば
コチラは何もできん。
『では、当方は貴国に対し国連安保理に
よる制裁決議案とＩＳ所有権剥奪決議案を
提案する準備がある。
どちらを受けるか。それとも当方との
取引を行うかを選ぶと良い』
「は？」
コイツ、いま何と言った？制裁決議案？
ＩＳ所有権剥奪決議案?!
『当然証拠隠滅の時間を与える気はない。
この場で選べ。立場を言うなら既に
貴国は罪人でありコチラは全ての証拠

を握っている検察といったところだな。
対等な立場ではないと明言しておこう』
罪人？検察?!なんだこの自信は?!
我々は一体何を知られたのだ?!
「いや・・・本題を要求したのは私ですが、流石に何のことかわかりません。ソレなのに決断しろと言うのは無理な話です」
その選択肢なら取引しかないが、内容もわからん取引など出来ん。
拒否するにせよ、聞いただけでダメな情報というものは往々にして在る。
『ふむ。コレは私の持論だが、国家元首、否、政治家も軍略家もそうだが、指導者たる者は常に最新の、そして正確な情報を得る為の努力を惜しむモノではない。ソレを惜しむ者に指導者たる資格などないと思っている』

無能か怠慢か、そのどちらも指導者
にはあってはならない・・・か。
それはその通りだろう。つまりコレは
私が知らないハズがないと判断している？
『あぁ、誘導尋問と思われているなら
ソレは無用の心配だ。先程も言ったが
情報は既に揃っている。
更に国連安保理による貴国への制裁を
拒否する国は無い』
それはそうだろう。イギリスもフランス
も隙あらば我々を貶めようとしているし、
ロシアやアメリカが我々の味方をする
筈がない。中国は提案する側だ。
さらにＩＳコアの所有権。イギリスも
フランスもロシアも喜んで承認する
だろうさ！
私が知らないうちに、どこかの誰かが

付け入る隙を作ったと言うのか?!
『まぁ当然の話だな。試験管の中から
産まれた、遺伝子改造を施された
人造人間を使った軍事力の強化など、
政治的にも倫理的にも認められること
ではないだろう?それも貴国では尚更だ。
少なくとも表立って貴国を援護する国
など、この地球上に存在しない』
「・・・は?」
コイツは今、何と言った?遺伝子改造?
人造人間を使った軍事力の強化?!
『とぼけるなよ。貴様らがＩＳ学園に送り
込んだ人形。ラウラ・ボーデヴィッヒの
経歴を首相が知らんとでも言うつもりか?』
ラ、ラウラ・ボーデヴィッヒだと?
確かにＩＳ学園に通わせると言う書類は
承認したが、経歴??

『なんだその顔は?まさか軍人共に
騙されて政治的な生贄にされたか?
それとも野党の息が掛かったテロリスト
に嵌められたとでも言うつもりか?』
軍人?テロリスト?コイツは何を?!
『本当に知らんのか?情けない。
コレが先進国の国家元首とはな』
も、持っている情報に差がありすぎる!
しかもさっきの内容が一部でも本当なら
我が国はまた世界中を敵に回すことにっ!
『ではこちらが入手した情報の一部と
時間を・・・そうだな10分やろう。
この場で確認するように。あぁ証拠
隠滅に動くようなら、今すぐに国連
に制裁案を提出するのでそのつもりで』
「・・・わかりました」
完全に身動きを封じられた!この場で

資料の確認以外の行動を取ったら
証拠隠滅に動いたと見做される。
いや、もうその判断さえコイツの
胸三寸っ！視線を資料から離すな！
咳もくしゃみも、汗を拭う行動すら
口実になるぞ！

「・・・15歳で少佐？」

いや、なんだコレは？10歳で改造手術？
適合できなくて落ちこぼれとして処分
されかけたところを12歳のときに
織斑千冬に出会い教導された？
その落ちこぼれが2年で少佐??
テロ殲滅？ドイツの冷水？
なんだこの経歴はっ！軍は成人も
していない子供にテロリスト相手
とはいえ殺人をさせたのか?!
コレは天才児がどうとかではない

だろう?!
１０歳の子供の目に改造手術を施すという行為だけでも世界的な非難は免れんと言うのに、それまでは優秀だった？つまり８歳や９歳の子供に軍事教練をしていたと言うことか？
さらにこの私生活のカバーストーリーはなんだ?!矛盾だらけじゃないかっ！
こんなのを国際社会の関心の坩堝であるＩＳ学園に送り込むとはどういう事だっ！
軍部は何を考えている？この情報が漏れて調査が入ればドイツという国がどうなるかの予想も出来んのか！
『我々が最初にこの情報を掴んだようだが、遠からず他の国も彼女の歪さに気づくだろう。
その際ここまでとは言わんが、近い

内容の情報は得るだろうな。
何せこの歳で特殊部隊の隊長で少佐だ。
どんな実績を上げたかを調べるのも当然。
その結果はご覧の通りだ』
これは、今から隠蔽してもどうしよう
もないレベルの失態！
政治を知らん軍人と科学者が中途半端
に周囲を欺いた結果がコレかっ！
『ちなみにコレはあくまでお人形の経歴
だけであって、産まれに関しては一切
触れてはいない。この情報に遺伝子改造
の人造人間と言う追加情報が加わったら、
キサマらはどう対処するつもりだ？』
これだけでも安保理による制裁決議案も
ＩＳ所有権剥奪案も間違いなく承認される
というのに・・・制裁内容はどうなる？
経済制裁だけではすまんだろうな。

冗談でもなんでもなく国が滅ぶ。
「・・・そちらが提案する取引の内容を教えてもらえますか?」
乗るしかない。わざわざ取引をもちかけて来たということは、少なくとも即座に国を滅ぼすようなことは無いし何より時間も稼げる。
『何、簡単なことだ・・・・・』
「え?そ、ソレだけで良いんですか?!」
それは願ったり叶ったりだが、コイツは何を企んでいる?
『こちらが何を企んでいようが貴国には関係がないことだよ』
読まれた?!ここで心証を悪くするのはマズイと言うのに!
『心証で取引を決めるように思われたのなら心外だな。まぁ己の生命線を

握る取引相手の機嫌を損ねたくないというのはわかるがね』

「恐縮です・・・」

・・・この化物がっ！

『さて、取引に応じる証拠として・・・』

「ええ、はい。直ちに動きましょう」

その程度でこの問題が片付くなら

すぐにでも実行してやる！

軍務大臣は更迭するか？そもそも

コレは軍のどこまでが関わっている？

軍部内の調査と技術者どもの動きを

注視しないと。

情報漏洩からの逃亡など許さんっ！

『当方の要求が通った事が確認され次第

当方が握る情報をそちらに渡そう。

他に気取られる前に証拠隠滅でも何でも

すると良い』

「えぇ・・・情報提供感謝します」
少なくともコレは本心だ。
イギリスやフランス、アメリカにこの
情報が握られていたら、被害はコレ
どころでは済まなかったからな！
『互いにいい取引が出来たということに
しましょう。それでは、Ｇｕｔｅ　Ｎａｃｈｔ』
「えぇ、Ｇｕｔｅ　Ｎａｃｈｔ」

寝れるかっ!!

さっさと軍務大臣を詰問せねば・・・
何だ?データ添付??ウィルス等では無い
だろうが、確認した方が良さそうだな。

「・・・はぁ?!」

関係者各位の名簿と金と資財の流れ、
研究所の場所と研究の進捗状況、さらに
・・・廃棄処分場だと?!
コレが情報の一部って、奴らは国を
滅ぼす気かっ!!

ーーーーーーーーーーーーーーー
いきなり本国から緊急指令が下ったので
何かと思えば中国から派遣されている
ＩＳ学園監査員司馬仲達の元への出向命令。
軍務大臣と首相、大統領の連名で
出された最重要緊急指令。
さらに部隊や関係者への連絡は厳禁
で違反したら国家反逆罪とは・・・
本国で一体何があった?

タイミングで考えるなら先日のイギリスの代表候補生との戦闘行為だが、アレは学園が関与して訓練という形で落ち着いたはず。
さらに司馬仲達には絶対に関わるなと言う命令も出ていたはずだが・・・
まぁいい。軍人として最重要の緊急指令と言うならそれを遂行するまで。
「失礼します！ラウラ・ボーデヴィッヒ、本国の命により出向致しました！」
「話は聞いています。入りなさい」
情報では、同じ少佐ではあるが先任だしさらに監査員だ。上官扱いで間違いは無いし、何より本国からの命令だ。
ここは下手に出るべきだな。
「はっ！失礼します」
「よく来ました、そちらへどうぞ」

・・・なるほど、コレが司馬仲達か。
明らかに【使う側】の人間だ。
それに私とは軍人としての格が違うな。
「さて、話に入る前に確認ですが、
今回の出向命令に関してどこまで
内容を告知されていますか?」
基礎的な情報の摺り合わせか?
「はい。出向せよと言うだけで、
内容に関しては何も触れられて
居ませんでした!」
おそらくココで命令されるであろう
内容が、最重要機密に分類される
モノであると予想しているが・・・
「なるほど、では最初に辞令から
お見せしましょう」
「辞令・・・ですか?」
出向の正式な辞令か?まぁ命令系統

の関係を考えれば必要ではある。
「えぇ、ラウラ・ボーデヴィッヒ少佐は本日を持ってその所属を現在のドイツ連邦共和国軍より、冬林技研へと移籍することとなります。階級は大尉とし、専用機及びＩＳコアはドイツ連邦共和国軍へ返却すること。
追記としてＩＳ学園への通学は引き続き行うことを許可しますが、卒業と同時に国籍も中華人民共和国へ移すこととなる。この手続きは既に完了しているので、情報漏洩の可能性を鑑みて長期休暇の際ドイツ連邦共和国への帰国を禁ずる。以上です」
は？ドイツ軍から移籍？大尉？専用機の返却？？国籍も移る？？帰国の禁止？？？
「大尉、復唱」
「は、はっ！私ラウラ・ボーデヴィッヒは

本日を持って所属を冬林技研へと移籍！
階級は大尉で、専用機はコアごとドイツへ返却します！また情報漏洩の可能性を鑑みて、ドイツへの帰国を行いません！」
ど、どういう事だ?!
「随分省略しましたが・・・まぁ今回は良いでしょう。いきなりのことで動揺しているのはわかります。
説明を行うので、そこに座りなさい」
「はっ！」
ヨロシクオネガイシマスッ！

ーーーーーーーーーーーーーーー

目がぐるぐる回ってますが・・・
随分動揺してますね?
こうなる可能性を考えて居なかった

のでしょうか？

「さて大尉。話の前に再度確認しますが・・・貴女は自分の経歴を疑問に思ったことはありますか？」

「け、経歴でありますか?!」

まさかの自覚なしって。

本当にお人形さんでしたか？

「ええ、私と違って大学を出たわけでもなければ家の力があったりした訳でもない、技術的な実績を上げた訳でもない１５の少女が特殊部隊の隊長で、少佐と言う身分を与えられていた現状に、少しでも疑問や違和感を覚えたことはありませんか？」

「いえ、それは・・・」

あぁ、産まれのことですかね？

軍事機密であると言う自覚はある

ようですが今更でしょう。
「貴女の産まれについては当然我々は
知ってます。その上で尋ねています」
「そ、そうでしたか。それでは答えは
『疑問を覚えたことはありません』と
なります！」
私が一番ＩＳを上手く使えるんだって
自負ですかね？
でも問題はそれ以前の問題でしてね。
「では自分の産まれを度外視して
考えて見なさい。
産まれた時から施設で軍事訓練を行い、
１０の子供に改造手術を施して、その
調整が上手く行かないのを自分たちの
未熟さではなく被験者のせいにして、
その被験者に対して何の得にもならない
集団虐待を行う組織をどう思いますか？」

「・・・控え目に言って未熟なテロ組織です」
ですよねぇ。
「13歳～15歳の子供に兵器を持たせ
危険思想の人間と戦わせ、一方的に
殺させて置きながら、それを功績だの
データ取りだのと抜かすような連中が
のさばる組織をどう思いますか?」
「・・・危険思想のテロ組織ですね」
ですよねぇ。
「遺伝子改造を行った改造人間を大量に
産みだして軍人教育を施し、軍事力拡大
を狙う組織をどう思いますか?」
「・・・危険な悪のテロ組織ですね」
ですよねぇ。
「そんな組織が欧州のど真ん中に国として
あるらしいのですけど、これが他の国に
知られたらどうなると思いますか?」

「・・・孤立させられて叩かれますね」
ですよねぇ。
「まぁ普通は経済制裁とか食料の輸出制限から入りますが、その国は前科がありますからね。追い詰める前に囲んで滅ぼそうとするのが普通でしょう」
「・・・そうですね」

「さて大尉、再度質問しましょう。
貴女、自分の経歴に疑問を覚えたこと・・・本当にありませんか？」

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「・・・ありませんでした」
なるほど、言われてみれば普通に酷いな。
私は何故これに疑問を抱かなかった？
・・・ソレが私のアイデンティティ

だったからだ。
まさか真っ向から自分の経歴が異常だと突きつけられるとは思って居なかったが。コレは流石になぁ。
「それでは中国がこの情報を入手して、我が国・・・ドイツと交渉を行った結果が私の移籍でありますか？」
って言うか本国でカバーストーリー的なものを作っていた筈だがそれも見破られた？
まぁ先の情報を完全にカバーするストーリーを作るなんざ不可能か。
「そうなりますね。それに貴女方の存在は国家公認のプロジェクトではなく一部の軍部の暴走だったようでしてね。今の今までドイツの首相をはじめとした上層部は気付いていなかったようなんです」

「はぁ?!」

気付いてないってナンデ?!私は国防を担うＩＳ部隊の隊長だったんだぞ！国が知らないなんてことがあるんですか?!

「まぁ驚きますよねぇ。予算だってかなり使ってますし、正体不明の小娘にＩＳ部隊の隊長をさせるなんて普通は思いませんよ」

デスヨネ！

「ただ、先程も言いましたが遺伝子改造を行った子供を人工的に産みだして戦わせるなんて行為を認める国家はありません。

それはもちろんドイツも同様です。さらにドイツは欧州各国に色々警戒されてますので、コレが明るみに出れば良くて国家解体。悪ければ国全土が焦土と化します」

「・・・そうですね」
フランスやイギリス、ロシアなんか
喜んで潰しに来るだろうし
内政に悩むスペインやギリシャも
積極的に介入してくるだろうな。
そうなれば四方八方を敵に囲まれて
の蹂躙戦。残るのは焦土だな。
「つまりドイツとしては可及的速やか
にこの問題を片付けねばなりません」
「問題解決・・・つまり私は」
証拠隠滅のために売られたと？
「ドイツの連中が証拠隠滅を図る前に、
我々で保護した形となりますね」
「・・・保護、ですか？」
え？祖国に売られたんじゃないの？
「証拠隠滅を図るなら売るのではなく
殺すでしょう？」

「あ、た、確かにそうです！」
国外に出したら面倒になるのは
分かりきってる。
ソレなのに国外に出したということは
・・・冬林技研に保護されたから！
「大尉が正式に冬林技研所属となった
今、責任転嫁を図るドイツの軍部が何を
言ってきてもコチラは貴女を売り渡す
ことはありません」
お、おぉ！確かにそうだ！そうじゃ
なかったら最初から受け入れなんか
しない！
「この行動による我々が得るものは
簡単ですね。貴女と言う生きた証拠
がある限り、ドイツという国に対して
半永久的に政治的な優位を取ること
が出来ます」

「な、なるほど」
そうだよな！本来なら死体だって証拠になるのに、わざわざ生かして出向させたのは将来を見据えた為だ。
ソレなら彼らが私を殺すこともない。
つまりこの出向は、冬林技研が本気で私を生かそうとしている証拠となる。
「本来なら貴女が勝手に暴走して暴発しドイツを追い詰めて終わる話だったのですが、貴女の行動と織斑千冬の行動があまりにも酷くてね」
「私と教官の行動・・・ですか？」
何かしましたか？
「ええ、3年前にドイツの不手際で拐われた被害者の民間人に対する暴言と暴力。
本国に無許可の専用機の展開と、仮想敵国に対する挑発と戦闘行為ですね」

「・・・ドイツの不手際?」

どういうことだ?!アレは織斑一夏の油断が原因だろう?!

「例えば彼が、公園でツナギを着た年上の男に口説かれてホイホイ着いて行った結果の誘拐事件なら、その責任は彼と誘拐犯にあると言えます。

ですがＩＳの世界大会の出場者の身内を狙った組織的犯行であるなら、その計画を未然に防げなかった警備にこそ責任が有りますね。

まぁ無論犯行組織が一番悪いのですが」

「・・・」

言われてみれば・・・

「特に織斑千冬は世界的な有名人でした。

その身内を誘拐して、彼女の邪魔をしようとするのは妨害行動としては普通の行動ではないですか?」

「・・・そうですね」
教官は初出場とかでは無い。日本に優勝されたくなかった連中や教官に勝たれては困る連中にすれば、どうにかして妨害しようとするのは当然だし、その為に身内を拐うのも常套手段だよな。
「要人警護の任務に失敗したからと言って、警護対象の要人を責めるのって異常な行動ではないですか？しかも当時の織斑一夏の周囲には特に人員の配置は無かったそうですよ？」
「・・・異常ですね」
確かにおかしい。世界大会参加者の関係者の護衛を疎かにするのもおかしいし、まして決勝まで進んだ教官の身内だぞ？なのに護衛が居ない？ドイツもそうだが、日本は何をしていた？

「それでいて、織斑千冬に弟の状況や
居場所を伝えたのはドイツ軍だとか？」
「そうですね。その恩を返すために
教官は私を含む部隊の指導をすること
になったのですからって・・・あれ？」
これ我が国、いやドイツのマッチポンプ？
「それで、誘拐された民間人に対して
ドイツの軍人を代表した立場にある
特殊部隊の隊長にして少佐が
「お前が居なければ」とか抜かした
そうですよ？自分たちの無能を棚に
上げて何を言ってるんでしょうね？」
「・・・」
ま、マズイ。政治は正直良くわからんが
今の私が非常にマズイ状況なのはわかる！
「まぁ所属も変わりましたし、遡及して
罪に問うような真似は出来ませんから

コレを理由に罰することはありません」
「あ、ありがとうございます！」
ふ、普通に死を覚悟したぞ!?
階級がどうこうではない、この少佐は
生物として私より圧倒的に上だ！
今は助かったが、先ほど告知された
私の罪はまだあったよなぁ・・・
「次に個人の感情に任せた専用機の
展開に関してです。ちなみに先程
からのコレはタダのお説教や解説
ではなく、貴女の人事考査に関わる
内容ですのできちんと聞くように。
反論があるならその都度伺いましょう。
いいですね？」
「はっ！」
人事考査も兼ねていたのか・・・
そういえば司馬少佐はもともと

監査員だったな！

「よろしい。大前提として専用機と
言うのは国家の財であり兵器です。
そして国家の兵器を用いて、軍人が行う
行動を世間一般では戦闘行動と言います。
異論はありますか？」

「はい！いいえ！異論ありません！」

まったく持ってその通りです。
それを理解してないからこの学園の
学生どもは・・・

「ちなみにドイツの法において
許される戦闘行動は【防衛のみ】と
言うのはご存知で？」

あうっ！

「・・・はい。知ってます」

そうでしたね。学園の生徒云々じゃ
なくて、私の話でしたよね。

「イギリスの螺旋頭を挑発して戦闘。
織斑一夏を挑発して戦闘。フランスの
阿呆は・・・まぁ良いでしょう。
それで、この戦闘は【防衛】ですか？」
映像記録まで録られてたっ！
「はい。いいえ。防衛とは言えません」
下手な反論は逆効果だ。だがコレでは
人事考査の告知というより査問委員会じゃ？
「さらに担当者にまで事後承諾は
頂けませんね。専用機とは言え貴女
個人のモノではありません。
武器弾薬、装甲、エネルギーなど全ての
費用は国家の税金から出ています」
「・・・はい。その通りです」
もう「そうですね」としか言えん。
「国家の武装を私物化して感情の
ままに振り回し、あまつさえ私闘に

使うなど軍人としては言語道断」

「・・・はい」

そうですね。その通りです。

「それらを省みて、貴女は一度教育を受けなおすべきと判断されました。よって移籍した時点では大尉でしたが、現在は資格無しとして少尉への降格処分を言い渡します。

コレは特殊部隊の隊長を努めた経歴も加味した人事ですが、貴女に異論はありますか?」

「はい。いいえ!ありません!」

確かに私の行動は軍人として失格だ。普通なら階級剥奪の上で独房や営倉入り。悪ければ銃殺刑だって有りうる犯罪。

降格処分は・・・まぁ問題ない。

何せ上司が司馬少佐だ。この方の下で

勉強しなおすと考えればむしろ当然。
「よろしい。少尉のＩＳに関しては
専用機を冬林技研で用意しますが、
それについては後日説明します」
「はっ！」
ま、まさか専用機を預けて貰えるとは。
任務と用途は少佐の護衛か？
「あとは織斑千冬の件ですが、それに
関しては別の映像資料を確認のうえで
解説を行います。
今後少尉として小隊を任せる場合も
あるので、反面教師として学ぶように」
「はっ！」
教官が反面教師とは・・・だが司馬少佐
から見ればそうなのかもしれん。

所属は変わったし階級も変わった。
国籍も変わるらしい。
・・・だが不思議と不安はない。
コレはやはり司馬少佐が原因だろうな。
教官とは違うが明確な強さを備えた方だ。
指針とするには最適とも言えるよな。
この方についていけば、間違いなく
私は教官に近付ける。

いや、超える事だって出来るかもしれん！
まずは学べ！この方から吸収出来るものは
何でも吸収するんだ！
「では少尉、貴女の先任で中国の
国家代表候補生である凰鈴音に紹介
しますのでついてきなさい。
彼女の階級は准尉ですが、同じ学生。
階級に差はないと思いなさい。
故に先任としての敬意を忘れないように」
「はっ！」
それはそうですね！あくまで私は新入り
ですから、先任を立てるのは当然です！

人形からの脱却ですか。中々良い心構えですが・・・アレに近付かれても困るんですけどねぇ。
そのへんの教導もきちんとしないと。

――――――――――――――――

「あれ？司馬様？オハヨウゴザイマス」
司馬様がコッチに来るなんて珍しいって言うか初めてですよね？
それにドイツのお人形も？まぁ土曜だし接触するとは言ってたけど・・・
「ええ、おはようございます」
「凰准尉殿、おはようございます！」
「(・ω・)」

なんかお人形がめっちゃ素直になって
司馬様に従ってる件について。
いやわかるよ？司馬様は明らかに【使う人】で、私たちは【使われる人】だもんね？
軍人としてはスゴク・逆らい難い空気を自然に纏ってるもの。
簪は・・・状況によりけりかな。
なんだかんだでお嬢様だから使うのも慣れてる感じがするのよねぇ
「准尉、アイサツには・・・」
あっ！ヤバッ！
「ハイ。オハヨウゴザイマス。
ボーデヴィッヒ＝サン」
顔は知ってるけど話したことはなかったから、どんな風に接して良いかわからないんですけど。
「彼女は政治的な理由から冬林技研に

所属することとなりました。階級は
少尉ですが、同じ学生で准尉が先任
なので、階級の差は無いものと考えて
先達として接するようにして下さい」
「呼び名はラウラで結構です！
よろしくお願いします！」
「凰鈴音です。呼び方は、リンか
凰准尉でお願いします」
少佐から少尉?!まぁ確かにコイツに
大隊隊長代行ができるかと言われたら
無理って答えてるだろうけど
それでも欠片も不満そうにしてないって
・・・司馬様はコイツにナニをしたの?!
「ナニかするのはこれからです。
准尉、部屋を借りますよ?」
「・・・え?」
いや、ナニって何を??

「少尉、こちらに」
「はっ！失礼しまスパルタンっ!?」
い、いきなり殴った?ナンデ?
ナンデ殴ったの?!って言うか今
拳が貫通してませんでした?!
「准尉、コレが命奪崩壊拳です」

「（　。Д。）」

で、伝説の魔拳がいとも容易く
目の前で再現された件について。
「しばらく痛みで立てませんし
垂れ流しになるので、風呂場に
置いておくのが良いでしょう。
専用機の使用を許可します。運べ」
「た、垂れ流し?!」
尊厳を殺すってそういうこと?!

「准尉、私は【運べ】と命じました。
もしかして貴女も受けたいのですか？」
「シツレイシマシタ！（＊、・ω・）ゞ」
え、えげつねぇ！この人には絶対
逆らっちゃダメよ！
この歳で垂れ流しなんか絶対に
嫌なんだから！
「まぁ己の殻を破るために必要な
洗礼のようなモノです。貴女にも
キチンと施しますから、今のうちに
少尉に恩を売っておきなさい」

「（。Д。）」

第22話

日曜の夜がアンニュイになるってこう言うことなんだねぇ。
今までは学園の整備室に籠るだけだったから特に曜日なんて気にして無かったけど、冬林技研からコッチに戻ってくると色々虚しさを感じるよぉ。
昨日、一昨日と夜から朝まではずっと大佐殿と居れたし、昼は専用機の開発も出来るから私としてはずっと冬林技研に居たいんだけど、ソレをやったらアイツらに介入の口実を与えちゃうし、大佐殿にも無駄な労力使わせちゃうからなぁ～。
とりあえず授業には出るように言われてるけどさ、こんなの時間の無駄だよね？

大佐殿が言うには、ＩＳ学園卒業の肩書きがあった方が良いって言うようなありきたりな常識論じゃなくて、私がＩＳ学園に居た方が冬林技研として都合が良いって話だからシカタナイけどさ。
それに、学生だから学校に行くのが仕事だって言われたし。退学予定であっても学生は学生。仕事を疎かにするわけに行かないか。
まぁ司馬少佐の補佐も有るから暫くは退学出来ないかもしれないけど、ソレはソレでやりがいがある仕事だからね！
けどこんなに寂しく感じるなら、帰る前にもう一回大佐殿とシてきた方が良かったかもなぁ。
いやいや！足腰が立たなくなるから駄目だって。送迎はあるけど、学園の入り口から部屋に帰れなくなるから！
まさかいまだにアホを狙っててアレなリンちゃんに「はりきり過ぎて足腰立たないから迎えに来て」

なんて言うわけにもいかないし、第一人形関連の仕事で学園に残った司馬少佐の事を考えたらね。少佐はただでさえ普段の学園生活でかなりのストレスを溜めてるから、週末に冬林技研に帰れなかった今、何か失敗したら何時もより危険なお仕置きが待ってるのは確実だよね。八つ当たり・・・とも言えないか。あくまで今まで容認していた些細な罪にも罰が下るってだけだし。

・・・リンちゃん無事かなぁ。あの子って普段は要領良いのに、何故か地雷を狙って踏み抜くようなところがあるから普通に心配なんだけど。

まぁいいや（）

とりあえず司馬少佐に帰還の報告とお土産渡さないとね。

来週は司馬少佐もアッチに行けるし今回は
大佐殿からのお土産だから機嫌も良くなるよ！
「司馬少佐。更識簪、帰還しました！」
学園が出向先なのか冬林技研が出向先なのか
わからないけど、一応学生だから帰還で良い
よね？
「入りなさい」
あれ？鍵を開けてる？珍し・・・くもないか。
私が戻る時間とかも知ってるだろうし。
「はっ！」
て言うか、名字変えれないかなぁ？李じゃ
なくても良いからさ。更識以外にしたいです。

「いや、もう、本当に、なんと言いますか」
「（Φ ωΦ）」

なんかここまで大人しいとスゴイ・違和感があるわよね。

まぁ土日を垂れ流しで終わらせて、普通に介護されたらプライドも何も無いのはわかるけどさ。

完全に足腰立たない状況だったし。

「あぁ、普通に話して良いわよ。司馬様も言ってたけど、私が先任だけど准尉だし。

そもそも学園内は階級とか無いらしいからね」

軍としての階級が有ろうと無かろうと、人としての階級的なのは無視しちゃ駄目だけど。

具体的には司馬様。

「あぁ、うむ。そう言って貰えると助かる。

今までは上官や部下は居ても、まともな同僚と呼べる者が居なくてな。どんな風に接したら良いのか皆目検討もつかんのだ」

まぁ、コイツの環境ならそうでしょうね。

「その辺はゆっくり学んで行くしかないわ。

私も日本の１０代女子との付き合い方に自信なんか無いし」

アレはもう理解を諦めるべきナマモノよ。

「確かにあの連中は良くわからんな。

しかし今後はクラスの連中に対しても何らかの接触が必要になるか？特に織斑一夏に対しての謝罪は必要だろうしな」

「・・・（；・ω・）」

・・・し、司馬様はコイツにナニをしたの?!

いや、命奪崩壊拳は見たけど！

「ま、まぁそうね。ただイギリスの螺旋頭とフランスの阿呆は気にする必要は無いわよ？」

「む？そうなのか？」

挑発に乗ってＩＳを展開した時点で、アレも立派な犯罪者だし。そもそも喧嘩してタコ殴りにされた相手に謝罪されてもねぇ。

アレにプライドが有るなら謝罪なんかされ

ても、許すも許さないも無いでしょうし。
フランスの阿呆は乱入しただけでしょ？
それに一夏を狙う産業スパイのクソヤロウに謝罪なんか要らないわよ（＃゜Д゜）
一夏に関しては、普段の言動の謝罪よね。
「そうなのそれで問題ないわ。ついでに言えば今のラウラに必要なのは、私たちと認識を共にするための情報とこれからの指針。直近の話題だと月末の試合についてよ」
「うん。確かに情報は必須だろう。それに試合か・・・そうだな。そんなのもあったな」
完全に心が折れてるわ。まぁあんな目に遭ってようやく自力で立って歩けるようになったんだもんね。それに今の状況で戦う気力があるなら、最初の標的は自分に地獄を見せた司馬様でしょ？無理無理。普通ならリハビリしなきゃ司馬様の前に立つことすらできないわよ。

更に戦うとなればねぇ。対策を練らなきゃただの特攻だけど、対策って言われてもさ。
アレ、絶対ＩＳのシールドエネルギーとか関係無いわよね？
それに下手に対策を考えてみなさいよ。
「では試しましょう」とか言われて、問答無用で垂れ流し&地獄行きじゃない！
「まぁそもそも試合が行われるのかって言う心配も有るんだけどね」
私たちはＩＳ学園の作る茶番なんかに参加する気はないし、コイツだって所属が移るってことは専用機とＩＳコアは本国へ返却でしょ？
螺旋頭は欠場で、他の連中は連携どころか戦闘すら出来ない。
まともに戦えるのが一夏とフランスの阿呆だけだから、優勝は確定する。
あ、だからタッグにしたのか。一夏一人だと

コイツに勝てないのも有るけど、フランスの阿呆や私にも勝てないもんね。
どっちかと組ませれば一夏の優勝は確実なんだから。
・・・やっぱり茶番だったか。
「試合が行われるのかの心配?いや、私が出場しなくとも生徒は他にも居るだろう?」
あぁやっぱりこうなるか。だからこそ情報の共有とすり合わせが必要なのよね。
「とりあえず試合についての私たちの考察を教えるわ。えーと、資料は・・・あった。コレを見ながら解説するからラウラも何か疑問を覚えたら質問して頂戴」
「うむ、了解した」
流石にブリーフィングには慣れてるわね。
「言うまでも無いことだけど、わからない事はわからないままにしないこと。情報分析の邪魔

になるから、知ったか振りは絶対に止めてね」
「うむ。そうだな」
私もコイツに教えることで、何か気付くことがあるかもしれないし。
簪が戻ってきたら三人で打ち合わせとかもした方が良いかな？

カカカシカジカシアイニカンスルムートンイトウ

「と、まぁこんなところかしら？」
「な、なるほど」
た、確かにコレでは試合など成り立たん！私は何故この程度のことに気付かなかったんだ!?
「ＩＳ学園としたら、今の段階で生徒に戦闘行動の難しさを教える為って言うことも出来るんだけど、それなら外部のお客さんを招く

のは有り得ないじゃない?」
「そうだよな。つい先日歩行訓練をしたばかりの連中に戦闘行動。まして連携なんか取れるはずが無いんだよな。つまりコレは織斑一夏の為に用意された茶番だろう・・・」
こんなの少し考えればわかることじゃないか。これで特殊部隊の隊長経験者?そりゃあ司馬少佐殿も私に資格無しと判断するさ!
「学園の狙いはラウラを敵として、一夏とフランスの阿呆を協力させたうえで倒させて優勝してもらうことね。吊り橋効果を利用して二人の仲を良くするんだって(# 。Д。)」
「そ、そうか!」
さっきも見てて思ったんだが、凰准尉のアレ、顔つきと言うか何と言うか。アレはなんだ?不機嫌で怒ってるのはわかるが・・・なんだ?
そ、それにデュノアが女だと?!いくら

関心が薄くとも、隣国で仮想敵国だったんだぞ？
当然ヤツに関しての情報収集も任務に含まれていたが・・・同じクラスですぐ側にいながらこれほどまでに明確な弱点を放置していたとなれば、もはや無能どころか職務放棄としか言い様が無いではないか。
・・・冬林技研に拾われて無ければ、普通に命令違反か適正無しとしてドイツに呼び戻されて、そのまま証拠隠滅されてたよなぁ。

しかしＩＳ学園の意図が読めん。
「織斑一夏を勝たせる為にタッグ戦にして、私に足手まといを押し付けた後で1対2で狙い撃ちにすると言うのは戦術上は正しい。だが教育機関がここまで露骨で明確な贔屓をしても良いモノなのか？
確かに私は軍人としては失格だし、周りの

気分も良くないと言うのはわかるのだが・・・」
建前上ＩＳ学園は何処にも属さないからこそ、
デュノアを引き抜けると言うのはわかる。
更に男性操縦者たる織斑一夏を目立たせる
ことで、現在の行き過ぎた女尊男卑社会に
波紋を起こそうと言うのも、まぁわかる。
だが、ソレは一教育機関がやることなのか？
ＩＳ委員会の意向も有るだろうが、デュノアの
引き抜きを考えたら、どうしてもＩＳ委員会
と言うよりも学園の意思が絡んでいるように
見えるのだが・・・
「良いわけ無いでしょ。あんまりにも露骨過ぎ
たから、冬林技研の副所長さんだってラウラを
憐れに思って保護することにしたんだから」
「・・・そうか憐れか。評価としては屈辱的
なんだろうが、今なら同情されるのもわかる」
端から見たら散々な状況だからなぁ。

それに冬林技研の副所長と言えば司馬少佐殿の上官で階級は大佐だったな？
色々な噂や逸話の有る方ではあるが、私の上官でもある。後で感謝を伝えねばならんだろう。
「千冬さんにしてみたら「ラウラが一夏とフランスの阿呆のコンビに負けたら連携の大事さを知ってくれるだろう」って感じかもしれないけど、そもそもは意識と価値観の違いが生んだ問題じゃない？」
そうだな。そもそもの発端は私の勘違いだ。
司馬少佐殿のようにドイツ軍に非がある事を理解させ、私の意識を矯正することが問題解決には必須だった。
試合で勝つとか負けるとか。連携の大事さとかは今回の事案に対して一切関係ない。
もともとそういう話では無いのだからな。
「つまりはフランスの阿呆と一夏のための茶番。

ラウラは当て馬ね。まぁラウラの機体に積まれていたＶＴシステムについては、学園とは別の勢力の企みだけどね」

「・・・だろうな」

まさか私の機体にＶＴシステムが搭載されて居たなんてな。

自らの専用機の事すら正しく理解出来て無い者には兵士足る資格すらない。

准尉や司馬少佐殿から見たら、私は軍人などではなく、軍人モドキの小娘でしか無かったんだろうな。

「コレは正直意図が良くわかってなくてね。ドイツ国内の研究所で研究開発されて、軍部からの予算も下りてる。将来的には量産機や無人機に至る為の研究なんだろうけど、ソレをＩＳ学園に通うことになったラウラの機体に載せる意味がわからないの」

「そうだろうな。普通に考えれば派閥争いとかなのだろうが・・・」

ＶＴシステムを造った連中が実験の為に載せたのか。

それともＶＴシステムの存在を知った誰かが計画を潰す為に載せたのか。

あるいは私のような存在に問題をおこさせて、他国の干渉をもって国を変えようとしたのか。

はたまた担当技官がテロリストかナニかで単純にドイツを貶める為に載せたのか。

他国のスパイと言う線は・・・無いな。

隠謀は明るみに出す前に情報を持ち帰り、政治的に利用するのが国と言う政治組織だ。

折角見つけた他国の弱味をなんの要求も無しに暴走させて自爆させるような真似はしないだろうよ。

実際大佐殿は政治的に利用して私を引き抜いた

んだからな。
あとは、システムを暴走させて織斑一夏を殺させる為に女権団体が仕込んだのか？
普通ならどう考えても後半の二つしか無い。
ソレ以外に公の場で国際条約で禁止されているＶＴシステムを起動させる理由など無いし。
何せここでシステムが起動したら、ドイツと言う国はあらゆる意味で終わっていた。
改革どころではない。普通に国家解体まで行く案件だったのだぞ。まさか気付かんなんてことは・・・有るかもなぁ。
私の事を知らなかったって実績が有るくらいだもんなぁ。
私、今年で１５だぞ？少なくとも最低でも１５年前からの計画に気付かないって。
関与してたのは軍の一部って曖昧にしてたけど、コレ一部で済むのか？ドイツ軍は基本的に縮小

傾向にあったし、予算と資財に余裕があった訳じゃ無いんだぞ？
まぁそれはそれとしてだ。
政治も倫理も放り投げたＭＡＤならやりかねんが、連中は計画だけは絶対に放り投げん。
事が露呈したら予算が止められる心配があるからコレをやるには軍部の許可が必要だ。
そして軍部は絶対にこんな計画を認める事はない。
国が云々以前に、無人機や量産機に至る実験をしているなどと言った最新の軍事機密情報は、隠して隠して隠し通すのがドイツ軍人の基本だからな。
コレはもうドイツ軍人とはそう言う生き物だとしか言い様が無い。
対してテロリストなら国際条約なんざ関係なしにシステムを開発・使用するだろうし、

女権団体は元々国のことなどを考えるような連中ではない。
ただ、ＶＴシステムを仕込んだ先が問題だ。
現在のドイツ軍における最大の軍事機密の一つ（残りは私たちとＶＴシステムだがな）であるＩＳの新型試作機の第三世代機だぞ？
接触出来る人間は限られているし、そいつらの背後関係だって徹底的に調べるだろう。
それらの警戒を掻い潜って基幹部分たるシステムに接触してＶＴシステムを仕込む？
リソースだってかなり喰うだろう？いくらなんでも後付けされたら私だって気付くぞ。
最初からＶＴシステムを搭載することが前提の機体だった？いやいや、そもそもＥＵの次期主力機を争ってるんだ。ワザワザ自爆するようなモノじゃないか。
やはり怪しいのは女権団体だが・・・

「まぁコレに関しては時限爆弾が私たちを
捲き込んで爆発する前にドイツに返却できた
からね、後はアイツらで処理するでしょう。
連中の動きを見ればいずれその意図も読める
だろうから、今はほっといても良いわよ」
「・・・まぁそうだな」
昔は昔。その辺は切り替えろと言うことか。
「あとは今後の方針ね？試合に関しては、明日
出場辞退を申請してもらうわ。理由は所属変更
による専用機及びＩＳコアの返却と、新しい所属
先である冬林技研によるＩＳ展開禁止令よ」
「うむ。了解だ」
私はまだ専用機を受領していないから
展開の許可も何も無いのだが、これは学園
からの強要を抑える為の名目なんだろうな。
それに、ＩＳだろうが何だろうが武装を使う

なら許可を取れと。まぁ当然の話だ。
あとは政治の問題だ。司馬少佐殿か大佐殿が学園をあしらって終わりだろう。
「後は・・・そろそろ冬林技研から帰ってくる簪との顔合わせね」
「カンザシ?」
誰だ?冬林技研の関係者が准尉と少佐殿以外に居たとは聞いていないが。
「あ~ドイツでも知られて無かったの?コレは日本政府の嫌がらせって言うか、更識の家の力かしら?(;´Д`)」
「?」
いや、家の力かしら?と言われてもな。
「あぁ、わかりやすく言うなら、更識簪は元日本の国家代表候補生ね」
「元日本の国家代表候補生?」
そんなのが居たのか?!私が編入する際に

与えられた資料にはそんな人物は居なかった筈だが・・・ドイツの情報部は大丈夫か？
本当に色々情報不足過ぎないか？
「ええ、それで更識って言う家は・・・
ん～簡単に言えば日本で諜報を司る家なの。
だから情報を隠されてた可能性はあるわね」
「なるほど」
ジャパニーズニンジャか。それならシカタナイ。
ヤツらの地元で余所者が勝てるわけ無いもんな。
「階級は特尉で今の仕事は司馬様の副官ね」
「特尉で司馬少佐殿の副官か・・・」
元日本の代表候補生で、あの司馬少佐殿の副官となると・・・ＩＳの知識はもちろんのこと政治や軍事、場合によっては経済や組織運営に関しての知見も無ければならんよな。
「ええ。基本的に何でも出来るけど、ＩＳの設計や開発に関しては司馬様すら凌ぐって

言う、まさしく万能の天才ね」

「司馬少佐殿を上回る？」

・・・想像が出来ん。いや、司馬少佐殿はあくまで指揮官だ。誰よりも優れた兵士で有る必要も無ければ、誰よりも優れた技術者で有る必要も無い。

それはわかるんだが・・・

「比較対象が司馬様だから雲の上の事みたいに思うかもしれないけど、会って話をしてみればわかるわ。アレは日本と言う国にしか生息しない生粋のＨＥＮＴ・・・天才よ」

「そ、そうか」

今ヘンタイって言いかけなかったか？

「人形からの脱却ですか」

まぁ大佐殿としては嬉しい話だよね？あの人って自分で思考や選択が出来ない人が嫌いだし

「えぇ。今ごろは命奪崩壊拳の痛みや苦しみから脱却して、己の殻を一つ破っていることでしょう」

何ですと？

「め、命奪崩壊拳を使ったんですか?!」

さらりと言ったけど、コレはとんでもないことですよ！

「えぇ。アレは己の殻を破る為の洗礼で有り、儀式のようなモノですからね」

ん？え？アレ？なんか聞いた話と違うくない？

「あの命奪崩壊拳って、喰らったら7割が死んで命を奪われて3割が精神崩壊する魔拳じゃないんですか？」

だから命奪崩壊拳なんじゃ無かったの？

洗礼？儀式？死屍累々ですよね？

「いいえ?命を奪わず尊厳を崩壊させる拳で命奪崩壊拳ですね」
漢字は同じでも解釈がまるで違うっ!
これが日本の現代文と漢文の違いなの?!
「そもそも7割殺すってなんですか。
殺すならきちんと殺しなさい」
デスヨネー。普通に考えたら7割って中途半端過ぎですよねー。
「3割が精神崩壊って・・・そんなことして何になるんですか?恐怖を広めるなら新血愁が有るじゃないですか」
デスヨネー。普通に考えたら三日三晩苦しみ抜いてから破裂して死ぬ方が怖いですよねー。
「武術とは活殺自在が基本です。活人だの。殺人だの。不殺だの。そんなのは使い手の気分次第じゃないですか。そもそも武術に哲学を求めるんじゃありませんよ」

まぁその通りなんですけど。
「元々が戦場で生き延びる為のモノですし、考える前に殺るのが武術ですもんね」
そうして生き残ったときに哲学的な考えが頭を過るのかもしれませんけど、あくまでソレは生き延びた後の話。
順番が違いますよね。
「無論近日中に特尉にも受けて貰います。理想としては来週の週末でしょうか？垂れ流しになるので後片付けを考えるならラウラ少尉のように風呂場で受けることをお奨めしますよ」
「き、金曜の夜から日曜夜までの垂れ流しですか?!」
絶対に昨日と一昨日大佐殿に会えなかったことを根に持ってますよね?!
「ＨＡＨＡＨＡ、正妻を差し置いて幸せを満喫

してきた側室に対する躾です」
「そこは誤魔化して下さいよ！」
まぁ確かに大佐殿を独占して司馬少佐には申し訳ないとは思ってたけど！
だからって私も学園に残ろうとは微塵も思って無かったけど！
ただ、やっぱり大佐殿と一晩中って言うのは幸せだけど、途中から意識が曖昧になるんだよね。今だけは大佐殿を独占したいって言う気持ちは有るけど、司馬少佐も居てくれたらなぁって言うのも確かに有るんだよね。
初めての時はそんな感じだったし。
アレは正妻としての確認だけじゃなく、私の負担を軽減してくれてたんだよね。
さ、流石に二人同時とかはまだ無いけど！
ちゃんと部屋はわけてるし！声も聞こえないようにしてるし！

・・・私のは聞かれてると思うけど。
「まぁそれはさておき、師からのお土産は・・・師が自ら調合したお茶に、新たな指令ですか」
いや、さておかないで下さいって言いたいところだけど、まぁ大佐殿からのお仕事優先ですよね。
「はい、何でもその指令は今回のお人形・・・いえラウラ・ボーデヴィッヒ少尉の勧誘に成功したことに対する司馬少佐への報奨も兼ねてると仰ってました」
報奨を兼ねた指令ってなんでしょうね？
「ほほう。師が報奨を兼ねるなどと言う言葉を使うなど珍しいですね？」
「ですね。基本的にあの人は報奨は報奨だし、仕事は仕事って人ですから」
それにワザワザこんな命令書みたいな形で出すくらいなら、普通に通信で出しますよね？

「まぁワザワザ封筒と言う形にして、
さらに特尉を使ってのモノです。悪いモノ
では無いのはわかるんですが・・・・・・」
な、何?封筒の中身をチラ見したと思ったら
凄い勢いで封筒を抱え込んだ?!
「た、確かに報奨となる任務です。間違いなく
受領したと師にお伝えしましょう!」
す、スゴク気になるけど、下手に触れたら
絶対にダメなヤツだよね。
「あ~了解しました。それでは私はこの辺で
失礼しますね?」
どうも直ぐにでも封筒の中身を見たがってる
みたいだし。私が居たら見れないんだよね?
「そ、そうですか。私とラウラ少尉は明日の
授業を休んで各種手続きを行います。
特尉はいつも通り准尉と合流して鍛練をする
ように。その際に准尉から紹介を受けると

良いでしょう」
「はっ!それではオツカレサマデシタっ!」
・・・一体どんな命令だったんだろ?

ふ、ふふふ。現地指揮官と日本の文化の調査任務!け、結婚式場の下見調査って!
体験コース有りって!好きな場所やコースを選べる?全部選んじゃ駄目ですかねぇ?!

第23話

「はぁ?ラウラ・ボーデヴィッヒが?」
コレは・・・どういうことだ?転入してから
今まで連中とは何の接点も無かったはずっ!
この週末にドイツと中国の間で何があった?!
これだけの動きに対して根回しも何も無いなど
有り得んぞ!
「ん?またアノ子が何かしたんですか?」
このっ!・・・仮にも暗部組織の長だろ?
いや、まさか既に知っていた?学生の
間では常識でワザワザ私に報告すべき
内容では無いと判断しているのか?
「更識さん、この書類の内容を確認してください」
とりあえず見せてみよう。リアクションを
見ればわかるだろう。

「えっと、ラウラ・ボーデヴィッヒさんが
ドイツ軍から冬林技研に所属を変更?!
更に専用機とＩＳコアはドイツに返却したから、
選抜戦には不参加ぁ?ど、どういう事?!」
・・・知らなかったか。
ドイツ側の書類はラウラ・ボーデヴィッヒ本人
からの所属変更届けに加え、首相と大統領の
連名付きで正式な公文書も添付されている。
これに関しては「そうですか」としか言えん。
国籍や所属、階級などには関与しないと言う
ＩＳ学園の理念からすれば、所属の変更に関して
はあくまで問題発生時の連絡先や、責任の所在
を明確にするためのモノだからな。
ラウラ・ボーデヴィッヒからの書類には
冬林技研の所属で有ることを認めるモノ
も有るし、これも受理するしかない。
問題はこの後だ。ラウラ・ボーデヴィッヒが

選抜戦に参加しないとなると、試合は織斑一夏とデュノアの二人で優勝は確定する。
ＩＳ委員会としては問題ないが、このまま何も無くデュノアが功績を挙げてしまえばフランスと我々が追い込まれる事になる！
「・・・織斑先生を呼んでください」
「は、はい！」
一回戦の第一試合で織斑一夏とデュノアのコンビとラウラ・ボーデヴィッヒを戦わせ、他の一般生徒やＩＳコアの損耗を防ぎつつＩＳ委員会からの要望である織斑一夏を優勝させると言う策だったがな。
ついでに吊り橋効果でデュノアとの仲を進展させ、ラウラ・ボーデヴィッヒの鼻っ柱をへし折ることでその素行を改めさせると言う狙いまで有ったが、流石に欲張りすぎたか。

考えるべきは、ここで我々の梯子を外して
誰に何の得が有るのかと言うことだ。
中国と言うか、冬林技研の連中は自分達から
彼女への接触はしていない。
ラウラ・ボーデヴィッヒも、彼女らとは
関わらないようにしている節があった。
しかし司馬監査員もラウラ・ボーデヴィッヒ
も更識簪も、特に他の一般生徒と関わって
ないから普段の動きが全く読めないんだよな。
機械が潰された今、諜報は人の力を使わねば
ならんが、更識はあくまで日本の暗部の暗部。
人材の量も質も、いや、それ以前に格が違う。
情報の収集は3歩は遅れると見るべきだ。
そうなると現状から予測するしか無い
わけだが・・・
そもそもの話。今さらコアも専用機を持たない
ドイツの軍人など手に入れて奴等に何の得が

あると言うのだ？
いや、特殊部隊の隊長と言う実績があったな。そこから情報を得る？
だが、それならドイツが手放す理由が無い。ん？まて、特殊部隊の隊長？アノ歳で？
・・・っ!!そう言うことかっ！私もＩＳと言う存在に踊らされていた！
１５で隊長？１５で少佐？おかしいだろう！
士官教育はどうした！実績はどうした！
少年兵として強制従軍でもさせたか？
この眼帯は何だ？戦傷を隠すためのモノか？
先進国ならばどこの国のどんな部隊だってその存在自体が政治的汚点ではないかっ！
さらに、よりにもよってドイツだぞ?!
学校を卒業してから兵士にするのではない。
既に実績がある少年兵だっ！
この存在がどんな意味をもつ？あのドイツが、

２度の世界大戦を起こしたあの国が非人道的
行為を用いて軍事力を強化していると言う
動かぬ証拠だろう！
それがＩＳ学園で学生だと？問題行動云々では
無いだろうがっ！これなら根回しなどいらん。
この事実だけでドイツを動かせる！
・・・完全に腑抜けていた。
問題行動を起こすモノの、我々に被害を
及ぼす存在では無いと判断し、政治的な
価値を考えることを放棄してしまった。
フランスの小娘に気を取られたなど
言い訳にもならん。
しかし今まで放置しておきながら、今この
タイミングで彼女を引き抜いたのは何故だ？
裏取りに時間が掛かったのか？
それとも我々の狙いの邪魔が目的か？
その場合の目的とはどちらだ？織斑一夏の

優勝を邪魔することか？それともデュノアへの介入？
どちらにせよタッグ戦にしたことは失敗か。
元々織斑一夏を優勝させる為には、凰鈴音やデュノアとの戦いにも勝つ必要があった。
だからこそ敵を減らす為にタッグ戦にしたと言うのに、敵が居なくなればどうなる？
周囲からはどう見える？
専用機持ち二人による初心者に対する無双・・・学園が絡んだ八百長ではないか。
八百長でフランスに便宜を図った学園の立場はどうなる？
小娘の立場を守るためと言えば聞こえは良いかも知れんが、本来は犯罪者だ。
犯罪者を守るために小娘に実績を与える？
それが中立を唱うＩＳ学園のすることか？
世界で唯一の男性操縦者の立場を守るの

とは訳が違うぞ?

「十蔵さん。織斑先生を呼んできました!」

来たか。

「遅くなりました。月曜の朝から緊急事態と言うことでしたが?」

コイツは・・・本当に政治的な目は無いのだな。更識も、いくら暗部でも政治を全く理解していないなど、普通に考えたら大問題だと思うんだが。

いや、私も気付かなかったんだから偉そうな事は言えんがな。

「ええ、こちらの資料をご覧ください」

さて、コイツはどう行ったリアクションを取るのだろうな?

「はぁ?!」

・・・普通だな。

「はぁ?!」
ラウラがドイツから冬林技研に移籍だと?
出向ではなく?!
「織斑先生。彼女らが編入してきてからまだ一週間ですが、彼女達に何か目立つ接触は有りませんでしたか?」
「い、いえ、私が知る限りは何も・・・」
そもそもアイツは私の後ろを追うことと一夏に対して執着していたし、どんな理由があろうとも自分で亡命や帰化など政治的な判断が出来るようなヤツでは無い。
つまりは純粋にドイツの首相と大統領からの移籍命令が出たと言うことだ。
軍人としての生き方しか知らんアイツは、命令なら何の文句もなく従うだろう。
移籍先が冬林技研で有ると言うのが唯一の救いではあるが・・・

「ちなみに織斑先生がドイツで、教官をしていたのは三年前でしたか?」
ん?私の経歴など既に知っているはずだが・・・次の話に必要な確認なのだろうな。
「正確には三年前~二年前の一年間ですね。それから一年置いてからＩＳ学園に教員として、招聘されました」
何だかんだで二年目の新人教師なんだよな。それなのに防衛指揮官だとか学年主任とかどうなってるのやら。
それにアイツと出会ってからもうそんなになるのか。そりゃ小娘も生意気に育つか。
「いや、その時点でおかしいと思って下さいよ・・・」
「・・・え?」
な、何かおかしい事が有ったか?!
「3年前なら12歳ですよ?その年頃の

子供が特殊部隊に所属しているのは異常なことでは無いと言うのですか？」

・・・・・・・ん？

「・・・あっ！」

わ、私はドイツで何をしていたのだ?!

アイツが一夏と同い年と知っていただろう？

少年兵に改造手術と軍事教練を施すってまんまテロリストじゃないか！

先進国のやることでは無いだろうがっ！

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

コイツは・・・

「つまり、今の今まで少年兵の教導に関して何の疑問も抱いてこなかったと」

「・・・はい」

いや、いくら弟の情報をもらった相手だからといって、盲目的になりすぎなんじゃ無いか？

「まぁ私もこの動きが有るまで特に
疑問を覚えませんでしたから偉そうな
ことは言えませんがね？
流石に直接面識がある織斑先生くらいは
疑問に思いましょうよ」
どう考えてもおかしいだろうが
「・・・はい」
それにこの情報があれば彼女の問題
行動には別の側面が見えてくる
「つまり彼女は軍事以外のことを知らない
少年兵です。
ソレがいきなり軍事と切り離されたＩＳ学園
に転入なんかしたら、一般の生徒との
価値観の違いから衝突するのは当然です。
むしろ衝突しない方がおかしい」
どう考えても衝突するし。その解決
方法は軍人的思考から考えて暴力を

前提とした話し合い（）だ。
「・・・はい」
「それなら彼女は隔離・・・というと語弊がありますが、一般生徒とは別にしてカウセリングやメンタルケアを行うべきではありませんか？」
そうしないと両方壊れるだろうが。
一般生徒に混ぜるのはそれからだろう？
「・・・はい」
「ソレらの問題を放置してＩＳを使った戦闘行動の容認なんかしたら、大惨事間違いなしですよね？」
ドイツの自爆と言えば良いかもしれんが教育機関としてのＩＳ学園だって無関係ではないぞ？
たかだか一ヶ月でも学園の生徒だ。
「教師は何をしていた」という意見は

必ず出るし「少し背後関係を見れば歪さに気付くだろう?」と言われれば我々には返す言葉もない。

「・・・はい」

これに対して試合で片を付けろって・・・

「選抜戦は不参加だそうです。これは冬林技研が彼女にＩＳ展開の許可を与えない為だそうですが・・・簡単に人の命を奪う兵器の使用許可を多感な１５歳の少女に預けるようなことはしない。というのがあちらの言い分です。まぁ当然ですね」

「・・・はい」

本当にな。一応校則で無許可のＩＳ展開は禁止事項としているが、明確な罰則がある訳でもないしロックを掛けているわけでもない。

つまり専用機持ち同士の喧嘩に巻き

込まれたら普通に人が死ぬ環境なわけだ。
篠ノ之箒のように感情で木刀を振り回して学園の施設を破壊し、テロの現場で無関係の一般生徒を殴り倒すようなのも居るんだ。
コレが１０代女子と言うなら私には制御できん。
これは各国に各種武装のロックを要請するべきだよな。
「それで、織斑一夏君とデュノア君に敵が居なくなったわけですが・・・結果として茶番の八百長試合を各国の要人に見せることになりました」
もともと選抜戦をタッグマッチにすると言うのは、単独でラウラ・ボーデヴィッヒと戦える生徒が中国の鳳鈴音しか居ないと言う事情がある中で、ＩＳ委員会から

織斑一夏を選抜戦で優勝させろという
指令があったから。
それに対して当初はラウラ・ボーデヴィッヒ
と凰鈴音を戦わせて勝った方にデュノアを
当て、さらに損耗したところに織斑一夏を
ぶつけるというのが私の想定した流れ
だったが、織斑千冬や山田君からの報告で、
それでも織斑一夏は勝てないと判断された。
そこでタッグマッチに変更して、まともな
連携が取れないラウラ・ボーデヴィッヒ
や凰鈴音と戦わせればなんとかなるかもと
言う意見を採用したんだがな。
その結果がこれだ。
まぁそもそも素人の織斑一夏を優勝
させろというのが無理なんだよ。
例年どおりなら、まぁ何とかなった。
専用機さえあれば相手は訓練機で

まともな戦闘行動を知らない一般の生徒。
相手によって苦戦する可能性はあるが
最終的には勝てただろう。
だが今年のメンツを見ろ。
イギリスの代表候補生を皮切りに中国
・ドイツ・フランス・場合によっては
更識簪まで参加だぞ？最悪司馬仲達も。
同じ専用機持ちで訓練も積んできている
相手に、何の訓練も積んでないガキが
勝てるわけないんだよ。
必然的に対戦カードやルールを変更して
織斑を有利に持っていくことになるが、
それだけ準備を整えたあとでその敵が
軒並み居ないのではなぁ。
このままでは少なくとも女権団体あたりが
「ＩＳ学園が男性操縦者を不当に優遇した」
と騒ぐことになる。

デュノアについても公式には男扱いだから
反論も何も出来ん。
かといって現在参加に消極的な冬林技研
の連中に参加を要請したらどうなる？
司馬監査員の護衛である更識簪が出てきて
凰鈴音とタッグを組み、無双して終わりだ。
ラウラ・ボーデヴィッヒと戦わせて
損耗させると言う策も使えない以上、
織斑とデュノアに勝ち目など皆無。
あちらが我々に華を持たせる理由も無い。
何せ織斑一夏を優勝させると言うこの
小細工は、本来なら監査対象だからな。
ＩＳ委員会の指示と言っても切り捨て
られて終わり。
流石に司馬監査員を相手にするのに
あんな連中を後ろ盾には出来ん。
後ろから撃たれるに決まってる。

八百長か、惨敗か。
今後の予算編成を考えれば、今の段階でＩＳ委員会に逆らうことなどできん。
そして委員会の連中からすれば
「雑音は現場で片付けろ」で終わる話だ
・・・八百長しかないか。
最初からラウラ・ボーデヴィッヒの歪さに気付いていればメンタルケアを理由に出場権の剥奪も出来たものを。
いや、過ぎた事だな。後は司馬監査員が止めを刺しに来る前に、選抜戦への参加を見合わせてもらうよう交渉するか。
今の段階なら交渉で何とかなるからな。
参加も不参加も表明していないのはそういうことだろう？
「はい。コチラ更識・・・ドイツで緊急放送？テロ？国家転覆?!じゅ、十蔵さん！

テレビ!テレビ付けれますか?!」
ドイツで?向こうは真夜中だぞ?しかし
このタイミングは偶然ではないだろうな。
「ええ。ちょっと待って下さいね」

「「・・・」」

「ド、ドイツの上級軍人、科学者による
生体兵器の作成?!関係者をテロリスト
と認定し国家転覆罪で極刑・・・
資金提供者も実名を公表?!」
「生体兵器ですか・・・これは彼女
のことですかね?」
そうか、遺伝子改造も受けていたか。
それに彼女の眼帯も改造手術の結果

だったとか？

コイツは、なぜソレに疑問を抱かないっ！

「・・・おそらくそうです」

・・・ドイツは証拠隠滅に動いたか。

この逮捕から報道までの動きを見るに

接触したのは昨日か一昨日。

ドイツの上層部は知らなかったのだろうな。

時差を考えればあちらは深夜だが、

むしろ深夜だからこそ担当者を拘束

しやすかったと言うのもあるだろう。

報道されるということは全部終わった

という事。

今更連中をつついても何もならん。

一応調査はさせるが、まぁ当たり障りの

無いモノしか出てこないだろうな。

彼女の目についても、失明したから

手術したと言うことにして、その後の

経過に多少問題があったようだと言う感じか？
ソレを織斑千冬の教導のおかげで克服したと。
わざわざ虐待だの落ちこぼれだのと言った扱いはしないだろう。
特殊部隊の隊長についてはどうする？
・・・適当な論文を公表して天才指揮官扱いで良いか。
その実績を買われて冬林技研に出向しているとすれば誰も文句は付けられん。
織斑千冬とてこれに対して否定的な発言をすればドイツがどうなるかくらいはわかるだろうから、口を噤むしかない。

完敗だ・・・また勝てなかった。

「それで、私たちは正式に選抜戦には
参加しないことになったんだよ」
言われてみれば試合に参加しない
って言うのは私たちの中でだけ決定
してたんだもんね。
リンちゃんにタッグの申請書類を提出
させなかったのは、出場を保留してる
って認識させるためだったのか。
「へぇ。確かにラウラが出場しないなら
私たちが欠場する理由もなくなるけど、
私も好き好んで一夏を一方的に痛めつけて、
一夏の評価を落としたいわけじゃ無いし？
参加の見合わせは妥当かな（´・ω・`）」
優勝者はアホの織斑と付き合えるとか
言うアホみたいな噂も、司馬少佐に

正面から嘘だって諭されたからね。
普通に考えたら人権侵害だってわかる
と思うんだけどさ。
アレは何なんだろ？参加者を棄権させ
ないために学園が用意した罠？
スゴク・アホくさい罠だけど１０代女子
には効果的みたいなんだよねぇ。
「私はそもそも参加資格が無いし。
万が一あってもその気が無いからな。
今日織斑一夏に謝罪したら、冬林技研で
一週間のカウセリングと一般教養の授業。
専用機のフィッティングを予定しているよ」
コッチはコッチでスゴク・丸くなってるし
・・・ドイツだけにマルク？
・・・
流石尊厳を崩壊させる伝説の命奪崩壊拳！
私の尊厳も崩壊するところだった?!

それに一週間かぁ。教師は誰かな？
それに土日はどうするんだろ？
司馬少佐の邪魔はしないと思うけど・・・
「そういえばラウラさん？」
「んむ？」
こうして座ってデザート食べてると
タダの可愛い銀髪ロリなんだけどねぇ。
「命奪崩壊拳って・・・痛いの？
私、週末受ける予定なんだけど」
麻酔みたいな感じで、知らないうちに
全部終わってるとかだと嬉しいんだけ
どねぇ？
「「はぁ?!」」
め、滅茶苦茶驚いてるけど、やっぱり
普通はそうだよね！死ぬんだもんね？
何やったんだってなるよね？
「あ、アンタ何やらかしたの?!

副所長さんを寝取ったとかじゃないでしょうね！」
し、シツレイな！
「私は司馬少佐公認の側室さんだから、寝取るも何も普通にシてるよ！」
浮気じゃないもん！
「（　。Д。）オトナノカイダンノボッテルダト?!」
もう登りまくりだよっ！
「寝取るが良くわからんが、側室はわかる。ならば、正妻である少佐殿から簪特尉に対するイジメか何かか？」
司馬少佐がそんなことするはず・・・躾って言ってたなぁ。
アレは冗談半分で本気半分だよね。
けど今回は違う意図があるってわかってるし。
「それなら態々告知なんかしないよ。

何でも地獄を経験することで人として
不要な殻を破り、強制的に成長させる
ための洗礼みたいなモノだって話だよ?」
地獄から這い上がってきて初めて
人は成長出来るって言ってたね。
「そ、そうか。確かに私も殻を破った
と言われればその自覚はある」
うん。人形から脱却してるもんね。
まさしく『「馬鹿は死ななきゃ治らない。
ならば死ねば治る」の理』だよ。
『「治るまで死ね」の理』でもあるって話
だけど、流石古代中国の戦争を勝ち抜いた
人たちの教えだよね。
そこに容赦って言葉が無い。
まぁ、そんなのを許容出来る時代では
無かったと言うことなんだろうけどね。
「私は見ただけだけど、確かにアレを

喰らったら「もう何も怖くない」って
領域に至れるのはわかるわ」
自分のだらしなさを見つめるんだよね。
ラウラさんはリンちゃんに介護された
って言うから、尚更か。
「うむ。アレはその場の痛みだけで
なく痛みが持続するのだ。
更に痛みで目の前が見えなくなるのに
ナニカが目の前に居るのがわかるんだ」
・・・やっぱり痛いのかそれに
「な、ナニカ?」
「(；。д。)ゴクリ・・・」
「赤くて青いのだったり、白いのに
黒い硬い液体っぽいのがな。徐々に
近づいてくる感じだ」
わけがわからないよ!
クトゥルフじゃん?!ＳＡＮ値直葬され

てるじゃん！

「アドバイスとしては、アノ優しさ（？）に包まれたらダメだな。起きれなくなるだろうから、包まれる前に跳ね返すことだ」

「「優しさ（？）ってナニ?!」」

一体ナニに包まれるの?!

「後は・・・やはり垂れ流しだからな。食事は取らず、風呂場で受けるのが良いだろう。ヘタに携帯用オムツとか使うとタイヘンなことになると思うぞ」

「な、なるほど・・・」

食事は取らないほうが良いんだね？

何時から抜いたほうが良いのかな？

前日の夜からとか？でもそんなことしてたら栄養が足りなくなるんじゃないかな？

司馬少佐に、いや、ここは大佐殿に聞いた

方が良いかも！
「・・・ねぇ、ソレって私も受けるのかな？」
何を言ってるのかな～この子は？
「そんなの当たり前でしょ」
「当たり前だな」
「（。Д。）」
いや、そんな驚かれてもね。
「むしろなんで自分だけ無事で済むと思っているのか知りたいよ」
洗礼とか儀式なら、最初はリンちゃんが受けるのが普通だよ？
「そうだな。言ってはなんだが、操縦者として現状一番の未熟者は准尉だ。成長する機会は逃すべきではないぞ？」
まぁ受けるには資格が必要だって言うならまだ大丈夫かもしれないけど、そういうのは早めに済ませたほうが

良いと思うんだよね。
・・・一番良いのはラウラさんみたいに
いきなり受けることだけどさ。
告知有りって滅茶苦茶不安なんですけど！

―――――――――――――――

おまけ

「しかしラウラさん？少尉が織斑先生に
会ったのが三年前～二年前だと
時間的におかしく無いですか？」
「む？おかしいと言われてもな」
朝の鍛錬に向かうと言われて、向かった
先で待っていた更識簪特尉を凰准尉に
紹介してもらい、そのまま自己紹介と
なったんだが・・・
経歴がおかしいって言われてもなぁ。
実際そうだし。
ん？まてまて。四年前教官が２０～２１の

ときに第二回世界大会で２１～２２の間で
我々の教官、２２～２３は１年間ＩＳから
離れて、去年ＩＳ学園に招聘されて２３～２４。
それで今年２４～２５だから、やはり
間違いは・・・うん？
つまり今年が第三回世界大会？んん？
そんな話聞いたことがないぞ？
誕生日の関係で多少のズレはあるかも
知れんが、それでもおかしくないか？
アレ？私の年齢は書類上のモノだから
アレだが、教官の年齢は今が２４で
今年２５になる感じで間違ってないよな？
いやそうなると教官が第一回世界大会で
優勝したのが、１６～１７になるぞ？
まてまてまてまて。今から１０年前にＩＳ
が世界に公表されたろ？
そのときの教官との時系列はどうなる？

ＩＳが公表される　１４～１５　（５～６）
第一回世界大会　１６～１７　（７～８）
第二回世界大会　２０～２１　（１１～１２）
ドイツの教導　２１～２２　（１２～１３）
１年置いて　２２～２３　（１３～１４）
学園の教師　２３～２５　（１４～１６）

教官はＩＳ学園の教師として二年目で
ドイツの教導は丸々１年だった筈だ。
もしかしたら２０の後半～２２だが
これでまぁ問題ないんじゃないか？
いやはや１０～１１の私に改造手術を
行うドイツは確かにロクデナシだな。
まぁそれはそれとしてだ。
世界大会は二回しか行われて
いないから、４年に１度。
３年に１度なら去年に第三回世界大会

が無ければおかしいからな。
あれ？やっぱり今年が世界大会？
それとも何かあって中止とか延期
になった？
・・・可能性が有るとすれば織斑一夏
だが世界大会だぞ？
莫大な金が動いてるし、女権団体にして
みたら自分達の権威を高めるチャンス。
むしろ織斑一夏無しで行うか、あえて素人の
織斑一夏を参加させることで見せしめにしよ
うとするだろう。つまり止める理由が無い。
つまり・・・どういうことだ？

わたしのまわりのじかんの

ながれがおかしい？

「ダメだラウラさん！これ以上は
　せかいのほうそくがみだれるっ！」
「ツッコンだのアンタじゃん（——）」

第24話

「おはようございます司馬少佐殿！」
「えぇ、おはようございます」
ふむ。出発前のアイサツですかね？
まぁアイサツは大事です。
師も言ってますから間違いありません。
「それで、朝から申し訳ありませんが
一つお尋ねしてもよろしいでしょうか?!」
ん？朝のＨＲ前に織斑一夏に謝罪したら
冬林技研に行く予定の少尉が、わざわざ
私に会いに来てアイサツだけでなく
質問まですると？
「まぁ、私に答えられることなら」
時間がないわけではないですし、少尉は
人形から脱却したばかりですからね。

学園内において変な考えを持つ前に
私がしっかり教導せねばなりません。
「ハッ！ありがとうございます！
では・・・凰准尉からの情報で
「大佐殿を寝取ればラウラの将来は安泰ね」
と言われたのですが、コレはどういう
意味なのでしょうか？」
「・・・ほう」
さて、コレはどういう意図があるのか。
少なくともコイツが私に喧嘩を売って
いると言うことでは無いというのは
わかるんですがねぇ。
「現状、何か私の将来に不安があるとは
思えないのですが、何か問題が発生
する予定があるのでしょうか？それと
そもそも寝取りとはなんなのでしょう？
凰准尉からは、ぼかした説明しかなく

結局のところ良くわかっていないのです」
・・・コイツはあくまで自分の将来に不安があるなら、今のうちに何とかしたいと思ってるだけだな。
それ自体は当たり前の話ではある。
「知らないことを知らないままにせず、キチンと確認しようとする少尉の姿勢は評価しましょう」
話の流れからすれば師に会う前に必要な知識だとはわかるが、正しい寝取りについての意味はわかっていないと。
コレはココで処分する必要はないな。
知識については・・・特尉に教えさせるか。
冬林技研だとＨＥＮＴＡＩ共がおもしろおかしくいらんことを吹き込んで、師を巻き込む可能性があるからな。
師の子供のことを考えれば、コイツも

遺伝子的には悪くはないかもしれんが
・・・母体としての相性やらなにやら
も研究させるか。
何せ遺伝子改造された存在だし。
キサラギなんかは頼まれんでもヤる
だろう。報告させればいいだけだ。
「・・・なるほど、少尉の心配は
わかりました。現状は特に問題が
発生する予定はありません。
寝取りに関する知識は特尉に聞きなさい。
更に言えば師を寝取ることは不可能
ですし、ソレを試みた時点で貴女は
宇宙に投棄されることになるでしょう」
私公認ならまだしも、また師が自分の
意思で手を出すなら目こぼしもしますが、
これでは師に対するハニトラですからね。
流石に認めることはありませんよ?

「か、かしこまりましたっ！ご教授
アリガトウゴザイマスッ！」
さて、問題は准尉だな。
「えぇ、迎えはもうすぐ来ますから、
特尉への確認と織斑一夏への謝罪は
出来るだけ早く済ませるように。
あぁそれと凰准尉を呼びなさい。
大至急だ。何をしていようと関係ない」
授業？休ませろ。
「た、直ちに凰准尉を呼び出します！」
「急げよ」
「はっ！」
さてさて、一般常識に疎い少尉に余計な
ことを吹き込んでくれた准尉には、ナニを
どうしてあげましょうかねぇ。

――――――――――――――――

なんかラウラがめっちゃ焦って呼びに
来たから、急いで司馬様の部屋に来たら
有無を言わさず床に正座させられてる
件について（ ・ω・）
いや、え？なんで司馬様怒ってんの？
「さて鳳准尉。授業前の貴女を呼び
出した理由ですが。わかりますか？」
「わ、わかりません」
いや、え？なんで司馬様怒ってんの？
大事なことだから二度言うけど、
司馬様って怒ってるのを外に出す
人じゃないですよね?!
「そうですか。では質問を変えましょう。
冬林技研に向う直前のラウラ少尉に対し、
師の寝取りを教唆したと言う情報に
関して何か心当たりはありますか？」

・・・寝取りの教唆？（゜。Д。）アレカッ?!
ヤバイって！冗談じゃ済まないっ！
このままじゃ司馬家と李家に殺される！
宇宙空間か深海か、もしくはGと合体
させられて火星に投棄されるっ！
「ね、寝取りの教唆って。ち、違います！
話の流れでそういう話題が出て、ラウラ
から「結局寝取りって何なんだ?」って
聞かれましたので、簪と司馬様を例に
してラウラを加えただけなんです！」
そう、世間話の一環で！冗談交じりで！
・・・（；・д・）ハッ！
「そうですかそうですか・・・
授業や任務があるので今は殺らんが、
今週末は貴様にも地獄に落ちてもらう。
これは確定事項だ。いいな?」
「・・・ぁい（つд⊂）」

冗談交じりで副所長さんと司馬様を
ネタにして良いわけ無いじゃん・・・
どんだけ緊張感ないのよ。
いくら親しくしてくれてても司馬様は
上司でお姫様なんだから。
うん。この場で殺されなかっただけ
良かったと思おう。
「まぁ上司の陰口は兵士の数少ない娯楽の
一つですから、普段はいちいち咎める
ような真似はしません。ですが流石に師を
巻き込むのは不敬です。
内容もいくら１０代女子の暴走であっても
目こぼし出来る内容ではありません」
「・・・はい」
ですよねぇ。冗談でも「婚約者を寝取れ」
なんて言われて、怒らない女はこの世に
居ないですよねぇ。

「次はない。任務中だろうが何だろうが
必ず殺す。貴様だけではなく関係者全員だ」
「ハイッ！キモニメイジマスッ！」
け、警告で良かった。本当に良かった！

ーーーーーーーーーーーーー

「簪特尉！」
おや？朝練が終わった後で司馬少佐に
アイサツに行ったラウラさんが
血相変えてるけどどうしたんだろう？
ドイツの冷水（笑）はどうしたの？
「そんなに慌ててどうしたの？
司馬少佐が居なかったの？」
それなら焦るよね。上司にアイサツ
しないまま出立とかありえないし。
「いや、少佐殿は居たのだが、どうやら
ご機嫌を損ねてしまったようでな」

「ええ?!勘弁してよ～」
おいおい、私これからアイサツしに
行く予定なんだけど。って言うか
機嫌を損ねたってことはアイサツが
原因なんだよね?
どんなアイサツしたらあの司馬少佐を
怒らせる事が出来るの?
「いや、本当に申し訳ないと思っている」
メタ○マンっぽく言っても駄目だから!
ちゃんと戻ってきたら色々布教するのは
確定として・・・
「で、何を言ったの?わざわざ私に
会いに来るくらいだから私も無関係
じゃ無いんでしょ?」
元々時間があるわけでも無いんだし。
「うむ。司馬少佐殿に、朝話題になった
「大佐殿を寝取ればラウラの将来は安泰ね」

と言う准尉の言葉の真意の確認をしに行ったのだ。将来に不安があるなら備えたいし、大佐殿が関わるなら冬林技研に行く前に確認せねばならんと思ってな」

「・・・・・・いや、まぁ確かにリンちゃんはそんなこと言ってたけど」

それ司馬少佐の逆鱗直撃してるよね？

あの人は側室も妾も浮気も認めてるけど、ソレはあくまで大佐殿が望むならって話。

ハニトラは絶対認めないんじゃない？

しかもこれから大佐殿のところに行こうとしている、銀髪ロリの可愛い女の子が

「自分の将来の為に婚約者を寝取る」

なんて宣言したら・・・もう戦争よね？

この子、なんで生きてるの？

「それで『とりあえず将来に不安は無いから心配するな。

寝取りについては簪特尉に聞くように』
と言われてな。大佐殿にシツレイをする
前に聞きに来たのだ！」

聞きに来たのだ（、・ω・`）キリッ！って
なるほど。まぁ。うん。そうか。
確かに大佐殿に聞くのは論外。私たち
全員が説教と矯正されるね。
冬林技研の人たちは・・・ネタとして
盛り上がりそう。
ヘタに乗せられて夜這いとかしたらどう
なるかなぁ。まぁ寝室に辿り着く前に
警備に捕まって終わると思うけど。
警備の人も悪乗りする可能性は・・・有る。
まぁ悪乗りと言うか、あの人たちは
大佐殿には出来るだけ多くの子を
残して貰いたいって思ってるんだよね。

側室とかで無くても良いからって、
司馬家や李家の分家の人たちからも
かなりの数の要望が来てるみたいだし。
それはそれとして。大佐殿がラウラさんの
奇襲を受けることは無いから、普通に
相手をするよね？その場合の相手となると
女の覚悟を考慮して関係を持つ？
それとも知識が無い子供のやってること
として、一緒に寝てあげるくらいかな？
それから間違いなく全員説教だよね。
司馬少佐はどうするかな？説教では
済まないような気もするんだけど。
どちらにせよ私にとってもあんまり
面白くは無いことになるから、ここは
変にぼかしたりしないで正しい意味を
教えて、ラウラさんを暴走させない
ようにしないと駄目だよね！

・・・これが側室としてのお仕事なのかな？

「わかったラウラさん。ちゃんと説明
するからしっかり聞いてね。
それと冬林技研でこんなこと絶対に
口に出しちゃダメだからね？」

「う、うむ！よろしく頼む！」

素直なのは良いことなんだけどなぁ

「あのね、寝取りって言うのは・・・」

ーーーーーーーーーーーーーー

「では次の用件です。あぁ、そのまま
正座してなさい」

「はい・・・」

まだお話があるようだけど、正座は継続
ですね。わかります。

「先ほど関係者の末路について多少言及
しましたが、准尉の関係者についての話です」

末路って・・・いやいやソレはひっくり返しちゃダメな話題よ！

「私の関係者と言うと・・・楊さんと教官、甲龍開発チームとお母さん。後は台湾の叔母さん一家くらいですよね？」

このうち台湾の叔母さん一家については中国とはまた別だけど・・・まぁ司馬家や李家には関係ないわよね。

普通にご近所＝サン扱いでしょ？

「いや、貴女は少尉と違ってちゃんと父親も居るでしょう？

その父、劉楽音についてのお話です」

「ち、父親は関係ないですよ！」

急にお母さんに冷たくなって離婚したし！

血縁上は父親だけど関係ないです！

「そうなんですか？今の准尉なら伝手を使えば普通に彼の癌の治療が

出来ますが・・・不要と言うことで
よろしいですか?」
「・・・え?」
え?ガン?ガンって・・・癌?!
「まぁ私も師も他人の家庭の事情に口を
挟む気はありませんので、准尉に不要と
言われればそのままなんですがね」
「ちょちょちょ!ちょっと待って下さい!」
意味がわからない。癌ってナニ?!
「ちょっとですね。わかりました
・・・あと7秒です」
「(゜Д゜)7ビョウ?!」
そうだった!偉い人のちょっとって
最大10秒だった!
「准尉にもわかりやすいように簡単な
解説をするとですね。
そもそも冬林技研は宇宙開発を主とする

企業です。そして宇宙で活動するにあたって、宇宙線と癌は切っても切れない関係にあります」

「ソ、ソウデスネ！」

うん、ソレは聞いたことがある！って言うか紫外線とか普通に直で当たるもんね！

「そのため癌に対抗するための医療手段の開発と言うのは急務でした。

まぁココでもキサラギが色々ヤったわけですが、結果としてＩＳを利用したナノマシンコントロールと抗がん剤が開発され、現在では癌細胞のみを狙い撃ちにした治療も可能となり、ある一定以上の体力があれば治療は十分可能な病気となっています」

「ソ、ソウダッタンデスネ！」

それでもイタチごっこなのが現状ですって言ってるけど。それ以前の問題

ですよね?!ナニ?あの人って癌だったの?!
「どんな最新技術が開発されようと
流石に伝手がなければ治療は出来ません。
何せＩＳコアを使ったナノマシン制御が
絶対に必要な技術です。治験以外で
コレを受けることが出来る一般人は
居ませんし、通常の治療も今や金持ち共が
順番待ち状態」
師、曰くウハウハですって言ってる
けど、あの人そんなこと言うんですね?!
って言うかそりゃそうですよ!
癌に怯えるお金持ちにしてみたら、
世界一受けたい治療ですよっ!
「そんな順番待ちの癌治療ですが
その技術を確立し、金持ち共に施す前
に当然治験する必要がありました」
「ソ、ソレハソウデスヨネ!」

しっかりとしたデータがなければ
施術を受けようとはしませんよね！
まぁ一縷の望みをかけてってパターンも
有るかもしれないけど、普通は貧乏人
に試させてからって言うのが普通の
お金持ちのイメージですよね！
「で、その治験の候補者は当然癌を
患ってる人間でなくては意味がありません」
「・・・そうですね」
癌治療の技術の治験ですもんね。
「そしてその候補者を絞る条件として
癌を発症していて、更に自覚もしている。
社会的権力が無い。
失敗しても騒ぐような身内が居ない。
成功の見込み（一定の体力）がある。
というのが挙げられました」
「なるほど」

・・・父親は全部当て嵌ってますね。
「准尉の父親である劉楽音が審査で弾かれたのは、当時ＩＳ搭乗者の養成所で注目を集め始めていた准尉が、彼の血縁上の娘であると言うことが判明したからです」
わ、私が騒ぐ身内に該当したってこと？
「え？じゃ、じゃあ私のせいで?!」
私のせいで父親・・・お父さんはその治験を受けれなかったの?!
「まぁ理由の一つではありますね」
そ、そんな。そんなことって・・・
「勘違いして欲しくありませんが、彼は候補者の一人程度でしかありませんでしたし、当時行っていたのはあくまで治験であって決して今のような確立された治療技術ではありませんでした。
治験を受けることができたからといって、

病状が治まると断言出来るようなモノでは
無かったと言う事は覚えていて下さい」
「そ、そうなんですね」
そうよね。あくまで治験なんだもん。
ある意味では失敗することを目的と
してる行為ってことでもある。
けど、お父さんは今も癌で苦しんでるって
ことでしょ?
もし治験を受けれていたら治ってた
可能性も有ったんだし・・・
「すでに過ぎ去った事を真剣に気に
病んでも物事は何も進展しませんよ。
今なら我々の伝手を使って優先的に治療を
受けさせる事ができる。コレが現状です。
・・・それで、本当に治療は不要ですか?」
「・・・」
不要かって言われても・・・

「私にとっては完全に他人事ですが、
師はアレで子供好きでしてね。
基本的に子供が親を亡くすことを嫌います。
ただ准尉も知ってのとおり、あの方は
「全ての子供に無償の愛を」などと
言うヒトでもありません。
誰にでも無条件に手を差し伸べるなんてこと
も無ければ、その手を払われたら二度と
同じ相手に手を差し伸べることもありません」
「・・・」
わかんない。急にそんなこと言われても、
正直どうして良いのかわかんないよ！
「准尉。人生において選択の時と言う
のは、往々にして本人が望むタイミング
で来ることはありません」
「・・・そう、なんですね」
「子供に決定権がある選択などその機会

すら無いのが普通です。
既に師から慈悲の手は差し出されました。
ソレを掴むか払いのけるかは准尉の選択。
どちらを選んでも我々が准尉を罰すると
言うことはありません」

「私の、選択・・・」

副所長さんにしてみたら所詮私は
司馬様の部下の一人。ソレなのにこんな
特別扱いしてくれるのは、子供が親を
亡くすのが嫌いだから？
・・・それとも他に何かあるの？
だけど私に恩を売って何があるの？
お金？私の体？ＩＳ搭乗者？代表候補生？
全部ありえない。お金にも女性にも
ＩＳ搭乗者にも困ってないもん。
ならやっぱり・・・同情なのかな？
元々ラウラのことを憐れに思って助ける

ような優しさがある人だし、簪だって
才能を腐らせるのは勿体無いって言う
のはあるけど、その大元は同情みたいな
モノだって言うし。
「まぁなんだかんだ言いましたが、
別に時間制限が・・・無いわけでは無い
ですが、准尉が今すぐ一人で決めること
でもありません。一度母親や本人を
交えて協議してみると良いでしょう」
「お母さんはともかく・・・本人ですか?」
けど連絡先とか・・・あぁ司馬様なら
普通にわかりますよね。
「准尉を冬林技研に所属させる前に
身辺調査は一通りしてますからね。
そこで通院の履歴と以前の治験候補者
リストに名が載っていた事から、師が
温情をかけることを決めたのです。

本人は現在中国に居ますから、国際電話になりますが・・・准尉の今の給料なら問題無いでしょう。
コレが連絡先ですので、しっかりと両親の意向を確認するように」
「あ、ありがとうございます！」
と、とりあえず治療を受けるにせよ受けないにせよまずはお母さんに確認だよね！お母さんが癌のことを知ってたかどうかを確認しなきゃ！
それから、お、お父さんにもちゃんと確認しないと！
もし離婚の理由が癌なら治ればまた一緒に居られるし・・・
私も寂しかったけど、お母さんはもっと辛かったはず！
気丈に振舞ってたけど、私が見てない

ところでずっと泣いてたんだから！
とりあえず癌のせいで離婚したって
言うなら、無理やり治療受けさせて、
お母さんと二人で殴ってやるんだから！
「私からの話は以上です。准尉からは
何かありますか？」
「いえ特に・・・いや、あ、あの」
なにも無いって言おうとしたけど、
私は馬鹿か！あるじゃない！
絶対に言わなきゃいけないことが！
「ん？なんでしょう？」
話を蒸し返すことになるけど、コレは
絶対に言わなきゃ駄目！私の自己満足
かもしれないけど、ちゃんとしなきゃ
私が私じゃなくなっちゃう！
「あの、冗談でもラウラにあんなこと
言ってスミマセンデシタっ！」

私、こんなに良くしてくれてる
司馬様にまだ一言も謝ってないっ！
例えもう一回怒られても、コレは
ちゃんとしなきゃ駄目なことよ！
「・・・謝罪は受け取りましょう。
ただし次はありません。
そして上官の陰口なら私までにしなさい。
師を冒涜する言動を許す気はありません
からね」
「ハイッ！ありがとうございます！」
なんだかんだで結局は自分のことより
副所長さんのことで怒ってるんだもんね。
本当にスミマセンデシタ。そしてこの
ご恩は絶対にお返しします！
「では私はコレでシツレイします！」
「えぇ、今日の授業は休んでも良いので、
まずはそちらの事情を優先なさい」

助かります。学校なんて私生活あってのモノだし、今日はマトモに授業なんか受けれるとは思えないもの。
正直ありがたいです！
「はいっ了解です（＊ˇ・ω・）ゞ」
さて、すぐに自室に帰ってお母さんと連絡を取らなきゃって景気よく思ったものの、コレはちょっと・・・
「おや、まだ何かあるのですか？」
いや、司馬様には何もないんですよ？
何もないんですけどね？
「あ、足が痺れて立てません（つд⊂）」
「・・・そうですか」
元々正座ってそういう罰ですもんね！
ーーーーーーーーーーーーーーーー
「おはようございます司馬少佐。

あの、リンちゃんが泣きながら足をプルプルさせてましたけど・・・」
あれぞまさしく生まれたての小鹿って感じだったよね。
お説教だけじゃなくしっかり罰も下したのかな?それなら機嫌も少しは良くなってると思うんだけど・・・
「あぁ、おはようございます特尉。
アレは少尉に対して阿呆なことを吹き込んだ罰の一環ですよ」
「やはりそうでしたか」
足がアレってことは長時間の正座かな?
「それと准尉の家庭の事情に多少口を挟んだ形ですね」
「家庭の事情ですか?」
基本的にプライベートには関わらない司馬少佐にしては珍しいですよね。

「ええ、師が私の学友の為にって
気を配ったらしいのですよ。
まったく、あの人は私に甘すぎます」
とか言いながら嬉しそうですよね？
「しかし少佐の学友としてですか」
まんまお父さん視点だけど、わからない
ではないよね。
そもそも司馬少佐に「司馬様ー」なんて
言って世間話が出来るのってリンちゃん
くらいだもん。
私もそれなりに仲は良いけど、あの軽さは
ちょっと難しいし。
私と少佐は副官と上司で側室と正妻。
あえて下世話な言い方をすれば・・・
さ、〇姉妹だもんね。
なんであえて下世話な言い方を
したのかは知らないけど！

「お姉さま」とか言わないけど！
「何を葛藤してるかは知りませんが特に
隠すことでもないので特尉にも内容は
伝えておきましょう。
因みに今週末は二人で命奪崩壊拳ですので、
一緒に受けるか別々に受けるか相談なさい」
「別々でお願いします！」
そんなの相談するまでもありませんよ！
どっちかが無事なら介護を頼む可能性も
微レ存ですけど、二人ともダウンしてたら
意味ないですよねっ！
「特尉の希望はわかりました。あとは
准尉ですね」
「リンちゃんも別々を望むと思いますよ？」
変な趣味があるわけじゃないだろうし・・・
「ふむ。まぁソレは確認してからで良い
でしょう。先にアドバイスしておきますが

突然の客人が来た時に備えて置くようにした方が良いですよ。

「部屋からうめき声が聞こえる」とか「外出してないはずなのに何処にもいない」とか言われて部屋に踏み込まれても嫌でしょう?」

あぁ、確かに。ソレで垂れ流し現場を誰かに見られるのは嫌だなぁ。

そういう時に限って誰かが何かしてくる可能性は高いし。

具体的には楯無とか本音とか。

コレはリンちゃんが居ても居なくても同じだろうから、むしろ外出許可を取ってからにした方がいいのかも?

それまでにラウラさんが戻ってくれば介護を頼めるけど、多分戻りは日曜夜に司馬少佐と一緒だと思うし。

うーん。まぁその辺はリンちゃんと相談
しておこうかな。
「それで、准尉の家庭の事情について
ですが・・・」

――――――――――

「おぉ織斑一夏。良いところで会った。
これから貴様に会いに行こうとして
いたところだ」
「「ラ、ラウラ・ボーデヴィッヒ?!」」
な、なんだ?「試合まで待てん!」とか
言って襲いかかって来るつもりか?!
「な、なんだ?!試合まではお互いに
接触しないんじゃなかったのか?!」

けどなんか・・・雰囲気違わないか？
「ん？そうかまだ知らんか。しかしアレだな。貴様はもう少し周囲の情報を集めるようにした方がいいと思うぞ？
貴様が周りに無関心でも、周りはそうではないのだからな」
「・・・そ、そうか？」
ちゅ、忠告してくれてるんだよな？
いや、しかしなんだこの感じ？
今まで有った、アノ敵意って言うのか？
トゲトゲしさが全くないんだけど・・・
「貴様！一夏に何の用だ?!」
「箒・・・」
警戒するのはわかるが、アッチが会話を望むならコッチは跳ね除けちゃダメだろ？
せめて何を言うかを確認しないと。

「一夏、先週あんな事があったのに
いきなり態度を変えてきたら怪しむ
のは当たり前だよ！」
「そ、そうか？シャルがそういうなら
そうなのかも知れないけど」
いや、だけどなぁ・・・
「うむ。朝は暇ではないから時間は
有効に使うべき。それ故さっさと用件に
入れと言う意見は正しい」
なんか素直に聞き入れてるし・・・
コイツ、本物か？
「ま、まぁソレはそうだな」
いや、本物にせよ偽物にせよ言ってる
ことはその通りだ。遅刻したら
千冬姉に叩かれるってのは万国共通だしな。
「一夏！こんな奴の相手をする必要はない！」
いや、だから、そうやって会話を跳ね除け

ちゃダメなんだって。
それに「何の用だ」って聞いたの等だぞ？
「うむ用件としては織斑一夏に対する
謝罪だな。
あぁ、いや、その前にアイサツが先か。
うん失礼した。オハヨウゴザイマス」
「「しゃ、謝罪?!」」

コイツ・・・偽物だな?!

第25話

「・・・」
「「・・・」」
な、なんだ？何も喋らないけど、
何か企んでいるのか？
「・・・ふむ。まぁいいか」
「「何が?!」」
コイツは一体、何に納得したんだ?!
「謝罪に来ておきながら申し訳ないが
コチラもそれほど時間に余裕がある
わけではなくてな。
今回の謝罪はあくまでケジメの問題で、
貴様が許すかどうかは無論別問題だ。
私に対して文句があるのは当然だし、
公衆の面前で頬も叩かれているのだ。

貴様にはソレに対して報復する権利がある」
謝罪って割には態度が大きいような気も
するんだけど・・・いや、まぁ別に土下座
しろとか言うわけじゃ無いぞ？
何と言うか、その。もによると言うかだな。
「えっと、それは、ナニに対する謝罪
なのかな？」
シャル！そ、そうだよな。謝罪って
言ったって
コイツは今まで色んなことを・・・ん？
そもそも俺コイツに何されたっけ？
「無論、織斑一夏に対する暴言と
暴力だ。特に誘拐されたことに対して、
警備を担当していたドイツの不手際
だったにも関わらず、護衛対象である
織斑一夏にその責任を押し付けるような
無責任なことを言ってしまった。

本当に申し訳ないと思っている」
あぁ、ソレがあったか。けどソレについてはなぁ。最初は確かにイラついたけど、的外れな批判では無いんだよな。
「いや、まぁ誘拐されたのは俺が無用心だったってのも、無いわけじゃ無いと思うし・・・」
大体が初めての海外旅行で浮かれてて、何の警戒もしないで彷徨いてたせいで誘拐されたってだけの話だし。
日本じゃないんだから警戒しろよって言われたら、その通りだもんなぁ。
そんな俺のせいで千冬姉が決勝を辞退したのも事実だ。
千冬姉のファンなら誰だって怒るし、俺だって悔しいとは思ってるんだから。
「いや、世界大会参加者であり第一回

世界大会優勝者である教官に対する
妨害工作は、警備を担当するならば考慮
して然るべき案件だ。
組織的かつ計画的犯行に対して民間人で
ある貴様が対抗出来るはずもない。
その程度のことも弁えず、謂なき暴言
と暴力を加えた私には当然罰が下るべき
であり、再度言うが貴様には私だけでなく
ドイツに対して報復する権利があるのだ」
えっと、コレは・・・アレか？
誘拐事件は予想出来たモノで、それに
対処出来なかったドイツが悪いって
言ってるのか？
それに妨害工作か。オリンピックでも
地元選手を優勝させるために、他の選手に
嫌がらせみたいなことをするってのは
聞いたことあるような無いような。

「・・・一夏に対する謝罪はわかった。
だけど、君が謝罪する相手は一夏だけじゃないだろう？」
そ、そうだ！セシリアはコイツのせいで！
「織斑一夏以外への謝罪の必要は無いな。
あ、いや、同じクラスの人間に対しては空気を悪くしたことに対する謝罪が必要かもしれんが」
「く、空気を悪くしたって・・・その前にセシリアに謝罪をしなきゃダメだろう！」
コイツ、微妙に変わったかもしれないけど結局のところは一緒じゃないか！
「それは違うぞ織斑一夏。私とセシリア・オルコットに関しては訓練中の事故だ。
ソレを謝罪するということは、ＩＳ学園が行った政治的配慮を無視する行為だし、
何より互いに第三世代機で打ち合ったのだぞ？

勝ってすみませんでしたと謝罪するのか?」
いや、確かにアレは訓練ってことになったし、
コイツも卑怯な手を使ったわけじゃ無いけど
よぉ・・・
「それにしたってやりすぎだろう?」
入院とかはしてないし、土日安静に
したら普通に授業に出れるくらいには
回復してるけど・・・ISは損傷してて
試合に出れないくらいのダメージ
負ってるんだぞ?
「ふむ。コレは価値観の相違というヤツ
だな。織斑一夏にわかりやすく言うなら
・・・チェス、いやショウギだよ」
「「将棋?」」
なんで将棋?いや、チェスよりはわかり
やすいけど・・・
「そうだ。我々は第三世代機と言う同じ

コマを持ち、世界的に有名なプロキシを
育成する学校に通う同級生であり競争相手。
そこで訓練という名の戦いが起こり、
片方が一方的に勝って、負けたほうが
心に傷を負ったとしよう」

「ふむ」

まぁあんまり一方的に負けたら心が
折れるときもあるし、そうやって夢を
諦める人も居るよな?

「この場合勝った方に遠慮しろと言うか?
それとも負けた方に精進しろと言うか?
因みに対戦したのはアマチュアではなく
プロ・・・いやセミプロか?とりあえず
国を代表して国外に来ている人間だぞ?」

えっと、将棋だと奨励会みたいなもんだろ?
それなら・・・負けた方に精進しろって

言うのが普通だよな?
大体勝った方から「遠慮しなくて悪かった」
なんて言われても、そんなのは謝罪じゃない。
って言うかそもそも罪ですらないから、謝る
理由がないってことか。
ただ、その喩えが正しいかどうかが
わからないことにはなんとも
言えないんだけど・・・どうなんだ?
「シャル?今の喩えはどうなんだ?」
「・・・間違ってはいないよ。ＩＳ社会は
競争社会。ソレにドイツとイギリスは
競合相手でもあるからね」
そうか。常識としては間違っていないのか。
そうなるとコイツが謝罪すべきは・・・
やっぱり最初のアレだけなのか?
周りの空気に関しては自分で謝罪する
みたいなことも言ってるし、しかも

今回の謝罪はあくまでケジメであって、
ここで俺に許されないこともしっかり
考慮して来てる。
これ突っぱねてもなぁ。
「ゴチャゴチャと抜かしてるが、
結局はお前が試合で負けるのが
嫌で謝罪に来ただけだろうが！」
「等？」
それはちょっと違わないか？
そんな話してなかったし。いや、まぁ
遠慮しないで戦うって話はしてたけど。
そもそもコイツが、今の俺たちでは
単独では勝てないくらい強いって
言うのは事実なんだぞ？
しかも2対1でも一方的な戦いに
はならないだろうって話だから、
シャルとの連携訓練もしてるって言うのに。

「あ～織斑一夏、私が言えたことではないがもう少し周りを見たほうが良い。周りの勢いに流されているだけだと、いずれ溺れ死ぬか、誰かに利用されて踊らされるだけの道化になるぞ？」

「貴様っ?!」

おぉ～箒の暴言を完全にスルーしたよ。なんて言うか・・・余裕あるよなぁ。突っ込んでくる闘牛をひらりと避ける感じで。しかも将棋とか道化だとか日本語の語彙も多いし。怒ってばかりの箒より、絶対使ってる日本語の数は多いよな。

ん？なんだこのピピピッて？

「あぁ、すまん。私の迎えが来たようだ。本来なら電源を切るのが礼儀なのだろうがコチラも色々あってな」

「そ、そうか」
ま、まぁ謝罪に来たって言うなら携帯の電源は落とすのが礼儀かもしれんが。
コノ場合は無礼だって怒ればいいのか？
「迎え？授業には出ないのかい？」
お、そ、そうだ。礼儀について考えてる場合じゃないな。
流石は話の流れを元に戻すことに定評があるシャルだ！
「うむ、最初に言ったように予定があってな。細かいことは教官がＨＲで伝えるだろうさ。すまんがこの辺でシツレイさせてもらう」
「あ、あぁ」
まぁコイツに用事があるってんならな、別にコッチが呼び止めたわけじゃないし
「あぁそれと織斑一夏、一つ警告だ」

「け、警告?!」
なんか物々しいな!
「アイサツにはアイサツを返すものだ。
ソレをしないとスゴク・シツレイでムラハチされるぞ?気をつけることだ・・・ではな」
「「・・・」」
うん、間違ってるけど間違ってない。
アイツはちゃんとオハヨウゴザイマスって言ってきたのに、それに対して俺は何もアイサツ返してなかったもんなぁ。
最初の沈黙は俺がアイサツを返すのを待ってたのか。
・・・うん、アイツの考えはともかく、俺が日本人としてシツレイなことをしたのは確かだな。
「・・・あのドイツ人がっ!私など眼中に無いと言いたいのかっ!」

まぁ元々俺に謝罪に来たんだし、それに
実際筒とは接点ないよな？
「僕もそうだったけどね」
シャルに関しては・・・まぁあの理屈
で言えばフランスも競合相手だもんな。
特に謝罪の必要もないし、第二世代型
だから敵とも思ってないのか？
結局よくわからないんだが、次はせめて
アイサツくらいしないとだめだな。
「まぁ、とりあえずアレだ。そんなに
時間もないし、さっさと朝飯食って・・・
やべっ！」
飯食ってる時間がっ！
「「あっ！」」
コレが奴の仕掛けた罠かっ!!
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
「なるほど。リンちゃんのお父さんが

癌を発病してて、ソレを理由に離婚してたんですか」
離婚してたってのは知ってたけどその理由までは知らなかったよ。
司馬少佐が言うにはリンちゃんも知らなかったみたいだって話だけどさ。
なんて言うか、香ばしい生き方ではあるかもしれないけど、ちょっと焼き加減が足りないかな?
コレは鉄板の上で焼き土下座案件だね。
「結局は男の独り善がりですよ。離婚して慰謝料払って、自分のことは忘れて生きてくれって感じだったらしいですね」
なんて言うか、ダンディ気取ってるけど所詮まるで・だめな・お父さん。つまりマダオだね。
「理由も告げずに離婚してくれって言われた相手や、自分の子供はどうなると

思ってるんでしょうかね？」
ちょっと無責任でしょ？癌だって今じゃ普通に・・・とは言わないけど、ちゃんと治る病気だし。二年前か三年前だって抗がん剤とか薬とか。相当末期じゃない限りは治療方法は普通にあったよね？
今まで生きてるってことは末期じゃ無いでしょ？
「自分を最低の男だって思って反発すれば、それが生きる気力になると判断したらしいですけどねぇ」
んー上手に焼けてません。生焼けです。
「少なくとも結婚して子供もいて１２、３年一緒に居た旦那さんを無条件で嫌うのは難しいんじゃないですかね？」
しかも夫婦で中華料理屋してたんでしょ？
まさしく二人三脚じゃん。
どっちかが浮気してたとかならまだしも、

そういうのじゃ無いって言うのは奥さんにはわかるだろうし。

「難しいというよりは無理ですね。別に家庭内暴力があったわけでもないようですし」

なんて中途半端な・・・そんなんじゃ、一見冷たく見えても行動の節々に自分に対する愛情があるってわかりますよねぇ。

「愛するが故に突き放す。まぁフランスの阿呆と同じですね」

おや？この言い方は・・・

「デュノア社の狙いが判明したと？あぁこれが資料ですか。シツレイします」

ＩＳ学園はともかくフランスの狙いがイマイチよくわかって無かったからね。まさか阿呆だからと言う理由で片付けるわけにもいかないし。

諜報員の皆さん。お疲れ様です。
「コッチは准尉の家に輪をかけて
意味がわかりません。
なまじ社会的地位と金銭があるから
こその暴走ですね」
「・・・バカじゃないですか?」
いや、愛人の子の存在を知りソレを
抱え込んだものの、暗殺とかの
危険性を鑑みて冷たく扱った?
相続権があって、当主や正妻に冷たく
されてる愛人の子って・・・そりや政略
結婚か暗殺の対象になるでしょ?
それでもなんかヤバイと思って、国や
組織に関与されないＩＳ学園に逃がした?
バカじゃない?
そもそも正妻が不妊症って。ラウラさんが
どうやって生まれたと思ってんのよ。

普通に卵子と精子を使って体外受精
しなさいよ。ソレ自体は別に法律で禁止
されてるわけでもないんだし。
まぁ十字教圏だとどうかわからないけど、
それなら愛人の子って時点でダメでしょ？
お金もあるんだし、そのくらいなんで
出来ないの？
何をやるにも中途半端すぎ。
そしてＩＳ学園を避難場所にって頭大丈夫？
普通にイギリスでもドイツでも
イタリアでもスイスでも、亡命って言うか
帰化させればソレで済む話じゃないの？
今のままだと負債抱えて倒産するん
だから、相続権も放棄させてさ。
特に何か秘密を握ってるワケじゃ
無いんだし。
わざわざ男装させて国際組織に対して

産業スパイさせる必要ないじゃん。

「正直私にも意味がわかりません。

さらに第三世代機の開発が遅れてる事実がありながら、この状況でデュノア社に予算を投入するフランス政府の考えも全くわかりませんね」

ですよねー。

ドイツやイギリスに対抗してるのかもしれないけど、中途半端な予算と技術で何かするくらいなら他所から買ったほうが良いんじゃない？

○国の浮かばない潜水艦とか凍る銃座とか、幽霊を映し出すレーダーみたいなのを標準装備した、お笑い漫画軍隊が出来るって。

そもそもEUって仲間じゃ無いの？同じ規格の装備にした方が良いんじゃないかって話になってて、統合計画なんでしょ？

武器ならドイツ製で良いじゃん。
軍の一部の技術者とかは捕まったけど、
普通のＭＡＤはまだ居るよね？
イギリスは・・パンジャンがあるからなぁ。
国民感情も有るかも知れないけどさー
それ以前の問題だよねぇ。
「これでシャルロット・デュノアが助かった場合、アルベール・デュノア個人は良いかも知れませんが、フランス政府やデュノア社の関係者は軒並み吹っ飛びますよ？」
なんてったって政府ぐるみで国際組織に提出する公文書の偽造だもん。
関係者は間違いなく有罪判決だよね。
デュノア社の人間なんか間違いなく全滅するんだけど。社員の生活とか株主への説明とかちゃんと考えてるのかな？
こんなことを誰も内部告発しないなんて、

政府もデュノア社もどうなってるの？
まさかドイツと同じで、フランスの上層部もデュノアの性別を理解できてないとか言わないよね？
もしそうだとしたら、暴走する一部の人間が多すぎませんかねぇ？
「そうですね。間違いなく弾け飛びます。それで師としては『これに関して我々が求めるなら動いても良いが師からは動く気は無い』とのことです」
「あぁ。大佐殿からすればそうですよね」
勝手に自爆して、汚ねぇ花火咲かせてろって感じかな？
ラウラさんは軍人としての洗脳教育のせいで自分の意思って言うのが希薄で、さらに軍の命令に従って動いてただけだったからその責任は軍にあるって判断したんだよね。

それなのに軍に切り捨てられるのが確定
してたし、ＩＳ学園も彼女を追い込んだから
「それはない」って感じで助けた。
だけどシャルロット・デュノアは違う。
自分が犯罪を犯してるって言う自覚が
あるのにソレを改善しようとしていない。
普通に自首して亡命だって出来るのに、
我が身可愛さでソレをしてないなら
立派な共犯だよ。
年齢的に子供ではあるけど、別に大佐殿は
子供なら誰でも助けるって人じゃないし。
能力的にも人格的にも、フランスと協議して
まで手を差し伸べるような人材では無いって
ことだよね。
私の場合は色んな適性で、リンちゃんは
操縦技術と適応力。それに司馬少佐の
学友って言うか友達としてでしょ？

ラウラさんは改造された遺伝子とあの目が
凄く貴重なんだよね。
特にあの目はハイパーセンサーと連動
できるから、リミッター的にはかなりの
領域まで外せるらしいし。
そしてソレについて行けるだけの体が
あるんだもん。鍛えなきゃ勿体無いよ。
それを考えればシャルロット・デュノア
には何も無い。タダの器用貧乏じゃん？
技術以外の点において司馬少佐の下位互換
である私の更に下。
こんなの助けるためにワザワザお金と労力は
使えないよね？
税金はもちろん、冬林技研の予算だって
社員が頑張って稼いだお金なんだよ？
この情報だって諜報員の人たちが
頑張って手に入れた情報だし。

産業スパイを助けるよりはフランス政府相手に使うべき情報だよね？

「あ、だけどそれだと司馬少佐の監査が甘かったってことになりませんか？」

現場の監査員がこの事実に気付かなかったのか？ってなりません？

まぁ大佐殿が少佐の評価を落とすようなことはしないと思うんだけど・・・

「問題ありませんね。こちらとしては『当然把握していたが正式にＩＳ委員会の審査を通って来た人員なので、何か隠された意図があると思いあえて接触しなかった。委員会からの説明を受けるまで待っていた』と言う形の報告書になります」

なるほどなー。

「何もかもがあまりにも未熟で、逆に策にしか見えなかったと言うことですね」

実際コレはなぁ・・・国家まるごと阿呆なのか
それとも策なのかを疑うなら、策を疑うよね。
「そうですね。まさかデュノアの個人的な
感情から、ＩＳ学園に産業スパイを送り込む
などと言った行動を起こすなんて想像も
つきませんよ」
それをフランスが支援してるんですもんね。
そりゃ誰だってわけがわかりませんよ。
「とりあえずコチラはこの爆弾が爆発する
のを待ちましょう。少尉の場合と違って
暴走に巻き込まれても何か被害がある
わけではありませんからね」
ラウラさんの場合は・・・存在そのものが
違法でさらにＶＴシステムがあったもんなぁ。
試合自体は放置で良いけど、後始末とか
監査の仕事を考えたら普通に面倒事
でしたもんね。

それを考えたら大佐殿は、ラウラさんって
言うか司馬少佐の胃を守るために動いた
んですよね？
流石正妻司馬少佐。愛されてますよねぇ。
「んんっ！まぁ今回例外があるとすれば
シャルロット・デュノアが自分から
我々の元に亡命を希望してきた場合ですね」
おや？なんか顔が赤いですけど、風邪とか
ですか？・・・週末までに治さないと私達
が悲惨な目に合いそうなので、何とか
治してくださいね？
「亡命ですか・・・ソレならコッチは特に
労力もなく彼女を手に入れる事ができて、
フランスにも普通にコアを返却するだけで
済むでしょうけど・・・」
けどそれだとアイツ、タダの器用な小娘に
なるんじゃないんですか？

デュノア社だって普通に潰れて、政府の関係者も全員逮捕でしょ？
イギリスあたりからフランスのＩＳ所有権剥奪決議案も提出されますよね？
生温い処罰にしたら今後同じようなことをしてくる連中が出てくるから、ＩＳ委員会もきっちり〆るだろうし。
「彼女を迎え入れても得があるようには思えないのですが・・・何か有るんでしょうか？」
コレは未熟者って思われちゃう？
「もちろん彼女には何もないですよ。
せいぜいがアルベール・デュノアや轡木十蔵の狙いを潰した上でフランスに貸しを作り、コレに関与したＩＳ委員会の無能共を排除することで私の生活環境が穏やかになる程度でしょうね」
い、色々あるけど、肝心なのは彼女本人

じゃなくその背景なんですね。
まぁこれが政治的な意味って言うなら
まさしくそうなんだろうけど。
そして結局のところは司馬少佐の生活
環境の向上なのが何とも言えないよね。
まぁ自分には関係なくても不発弾がすぐ
傍で準備運動してたらウザいですからね。
さっさと処理しろや！程度の事なんだよなぁ。
「アレが政治的な駒になりえるのはわかり
ました。ですが今まで何の行動も起こして
来なかったシャルロット・デュノアが
今更亡命なんて手段を取りますかね？」
それならもっと早く動くんじゃ無いですか？
「可能性はありますよ。何せお隣で軍人や
科学者が国家転覆罪で捕まり、同級生の
軍人さんが冬林技研に移籍したでしょう？」
「あぁ、なるほど」

このままだと自分も産業スパイとして
じゃなく、テロリストとして処罰される
かもしれないと言う恐怖と、ラウラさん
の背景を考えつくことが出来れば・・・

「普通なら少尉は国際法に違反した存在
ですからね。それが何の処理も受けずに
学生として所属を移籍しただけで済んだ
のです。
自分にも救いがあると考える可能性は
低くはありません」

「確かに。そして全てを捨てて亡命と言う
選択をした子供を、大佐殿が見捨てること
は無いんですね？」
あの人は優しいから、自分からは動か
なくても向こうから来たら動くよね？

「正確には、師がそう動くと知っている
我々が受け入れるのですけどね」

「そうですね」
司馬少佐も面倒ですがこれも仕事の内ですって苦笑いしてるけど、コレは仕事って言うか惚れた弱みだよね。
文句を言おうとか全然思わないもん。
「まぁあくまで自分で亡命と言う答えを見つける事が出来て、その決断が出来た場合です。
ソレができない場合は予定通り学園の戦力として引き抜かれることでしょう」
「学園の戦力ですか・・・そういえば学園で第三世代機を造るって計画も上がって居るようですが、アレの搭乗者候補となるんでしょうか？」
元々私が出来てたことだからって感じらしいけど、舐めた真似してくれるよ。
本音や虚が動いてるらしいけど、やっぱり

私の手伝いをしようとしてたのはこういう下心があったんだね。
やつらはコノ計画の為の下準備の為に私の技術を盗む気だったんだ。
大丈夫？って心配するような顔して！
手伝おうか？って優しく言ってきたのもやっぱり全部ウソだったんだっ!!
「特尉、落ち着きなさい。今の貴女はヤツらの人形では無いでしょう？」
「・・・すみませんでした」
そうだよ。あんな奴らとは縁を切ったんだから！
「質問の答えとしては、可能性は高いとだけ言っておきましょう。
ただ、学生だけでＩＳを造るなどと言った、自由研究のような真似が許されるほどＩＳコアに余剰などありません。

その入手が大前提になりますね」
・・・そうだよね。私の場合だって
コアは倉持が握ってたんだもん。
設備だの資財は日本からの提供を受ける
にしても、コアはどうするの？
それに今だって世界的に見てＩＳ学園は
戦力過剰って言われてるんだから、
ＩＳ委員会も学園所有のＩＳコアなんて
認め無いよね？
こんなこともあろうかと！って言って
用意できるモノでも無いし、司馬少佐
は学園のＩＳを減らす気だし。
つまり企画倒れに終わる？それとも
楯無が日本政府管轄のコアを秘密裏
に入手してくるかな？
私が返還したＩＳコアとかの所有権を
日本政府に回すとかやりそうでは

あるけど・・・それでも所詮学生の
自由研究だよ。
冬林技研で製作中の私の機体は、連中の
技術と想像を二段階超えてるんだから！
お金と時間さえあれば技術者の夢は叶う
って本当だったね！
だからこそ言ってやろう。学園の小娘共！
貴様らにＩＳが造れるなら造って見ろ！ソレを
私が正面から叩き潰してやるっ！
そして私が連中の魔王として君臨するのだっ！」

「・・・（これだからＨＥＮＴＡＩは）」
「え？すみません少佐、何か仰いました？」
あぁ、自分の考えに没頭してて全然聞いて
なかったよ。
これじゃ副官としてダメダメだね。

「いえ、早く特尉の専用機が組みあがると
良いですね」
「はいっ！楽しみです」
あ、そっちだったんだ？
調整と特殊兵装の稼働試験が終わったら
私が最終調整とファーストシフトして
完成だもんね！
来月頭には使えるようになる予定だし、
ようやく司馬少佐の鍛錬にも
お付き合いできるようになるから
司馬少佐も待ち遠しいんですね！

そう言えばラウラさんは最初から
専用機が出来上がってたから、調整が
終わったらすぐに使えるんだよねぇ。
純粋な使い手としてはソレで良いんだ
ろうけど、技術者として自分でも構想

を練れたらもっと面白い機体になってたかもしれないのに。

・・・ちょっと勿体ないよねぇ。

――――――――――――――――――――

「「ラウラ・ボーデヴィッヒが移籍?!」」

第26話

ラウラさんはドイツの特殊部隊の隊長でしょ？
ソレが移籍？そんなこと出来るの？
「そうだ、ドイツの緊急ニュースを見て
知っている者もいるだろうが、アイツ
の上司もソレに関与していたようでな。
本国もかなりの混乱が予想されるのだが、
学生であるアイツは当然無関係だ。
よって当分は友好国である中国に本社を
持つ冬林技研への移籍と言う形で避難
・・・とは少し違うが、まぁ保護
される事となった」
ドイツの緊急ニュース？そう言えば彼女も
さっき「知らないのか？」って感じの事を
言ってたけど、一体何があったの?!

「それで各種手続きの為に、今週一杯アイツは休みとなる。来週の試合も辞退となった」
「「はぁ？」」
辞退って。いや、それはそうか。
「出向ではなく移籍だからな。当然ＩＳコアはドイツへ返却することになる。いずれ専用機は与えられるだろうが慣熟訓練も終わっていない者にＩＳの展開許可を出すことは無い。と言うのが彼らの基本方針だ」
・・・なるほど、ソレは当然のことだよね。ラウラさんだって慣熟訓練が終わってない機体で試合しようと思わないだろうし。
そもそもあの感じだと一夏への執着も無くなってるみたいだから、試合をする理由も無くなったって感じだけど。
けど冬林技研が彼女に用意する専用機か。

当然第三世代機だと思うけど、その機体情報はかなり重要度が高いよね？
まぁ技術は基本の積み重ねだから、第三世代の基礎が出来て無いウチにはあんまり意味が無いと思うんだけどね。
お父さん・・・社長は一体僕に何を調べさせたいんだろう？
一夏の遺伝子情報と白式のデータが欲しいのはわかるけど、白式の何が知りたいのかわからないと正直どうしようも無いんだけど。
「慣熟訓練？千冬姉、俺はセシリアとの試合前にそんなの・・・アダッ！」
「織斑先生だ。そしてお前の場合は例外中の例外。本来兵器を使うものは慣熟訓練を欠かすべきではないのだ」
・・・一夏、君は馬鹿だな。
「いや例外もなにも、そもそも一週間って

期間決めたのも千冬姉・・・アベシッ！」
なんで懲りないんだろうねぇ。
同じことは2回やったら馬鹿なんだよ？
それともコレは姉弟の数少ないコミュニケーションなのかな？
そう考えれば、しつこく織斑先生を姉と呼ぶのもわかる気がするけど・・・
一夏。ソレは甘えだし、特別扱いをして貰ってるって思われちゃうよ？
「織斑先生だ。あの時はすまなかったと思っている。今後あのようなことは無いだろうが、何が起こるかわからんのが世の中と言うモノだ。日々の訓練は怠るなよ」
「・・・は？」
あ、条件反射でツッコミ入れたら織斑先生からの謝罪が入ってフリーズした。
・・・謝罪するなら出席簿で叩かなきゃ

良いのに。
あぁ、ソレはソレなのかな？
「アイツが欠場するとはいえ月末の試合は予定通り行うことになっているからアリーナを使った放課後の鍛錬は今までと変わらず行っても構わん。
あぁ、それと2組の凰鈴音は不参加だ。当然技術者の司馬もな」
「えっ!?」
箒が驚いてるけど、気持ちはわかるよ。
優勝したら一夏と付き合えるのに、試合に出ないなんておかしいよね？
「え？あ、いや、うん。ソレはそうか」
一夏も何かおかしいけど、凰さんが出ないことに何か心当たりでも有るのかな？
ソレにシバさんか。中国の英雄・司馬仲達の名前を継いだ天才って話だったけど、

彼女はあくまで技術者であり経営者であり指揮官だもんね。
自分が戦う必要なんか無いから試合には出ない。まぁ当たり前の話だよね。
もし他の意図があったとしても、彼女には絶対に関わるなって沢山の人に言われてるから、探ろうとも思わないけどさ。
ソレを言ったら凰さんも間接的に関わってくるから、本当は彼女との接触も危険なんだよね。
一夏の幼馴染だから、一夏を通じて軽く会話するくらいはしょうがないと思うけどさ。
アッチも僕とは関わろうとして来ないから、やりやすいと言えばやりやすいんだけど。
けどコレってどうなるの？僕と一夏の専用機コンビに勝てる人って居ないん

じゃないかな?
公平さを考えるなら一夏とは別のコンビを組むべきだと思うんだけど・・・
ソレはソレで問題が起こるのか。今の僕は男だし、女の子に過剰なスキンシップを取られたら正体がバレちゃう。
余計なことは言わないでおこう・・・

ーーーーーーーーーーーーーー

「お初にお目にかかります!この度冬林技研に所属することとなりましたラウラ・ボーデヴィッヒと申します!」
ふむ、めっちゃ緊張してるが、無理も無い。
アッチは新入り少尉なのに対し、こっちは上司の上司。階級も大佐だからな。
「冬林技研副所長、李文優だ。少尉からすれば上官の上官ではあるが、司馬少佐

から命奪崩壊拳の洗礼を受けたのなら
間接的な弟子と認めても良いだろう。
故に親しみを込めて教頭と呼ぶことを許可
しようじゃないか。あぁ、無論大佐殿でも
良いし副所長でも構わんよ」
「はっ！で、では教頭殿と呼ばせて頂きます！」
うむ。親しみも何も無いが、上官が最初に
出した提案はもはや命令だからな。
軍人として染まっていない簪や凰ならアレ
だが、コイツにはまだ厳しいか。
「うんソレで良い。まず少尉の待遇に
ついての説明だが、現在の少尉の地位は
あくまで冬林技研所属の少尉であり、
細かく言えば予備役少尉に近いモノとなる。
ただ基本的にＩＳ学園は士官学校に準じる
扱いとなっているので、卒業後には
正式な少尉として任官されることになる

ので、今後はそのつもりで学ぶように」
「はっ！」
この辺が面倒でなぁ。それでも俺と弟子が保証人だから、誰にも文句を言わせる気は無いが、アホは何処にでも居るからな。
「住む場所は、更識簪や凰鈴音が部屋を借りている建物と同じ建物で部屋は簪の隣になる。防諜の関係上拒否は許されん。それと、不在の場合の掃除に関しては望むか望まないかを指定できる」
「なるほど」
なにせ週のほとんどが不在だからな。寝室だけ立ち入り禁止にして掃除とかも出来るから、私物に関しても特にプライバシーの侵害を心配する必要は無いんだが、この辺は信用の問題だ。

時間をかけてゆっくりやって行けばいいだろう。

「少尉には学生寮があるから、週末や長期休暇の際に帰ってくるホテルのような感じだと思ってくれればいいだろうな。細かい間取りや設備はこの資料を見るように」

「はっ！ありがとうございます！」

流石に好きな場所に住ませるわけにも行かんからな。纏めた方が楽だし。だがそもそもコイツにしてみたら個室があるだけで十分なんじゃないか？

「あとは、給料や各種保険についてだな。細かくは書類を見て貰うが、目立つ手当としては少尉としての役職手当・専用機の搭乗者手当と弟子の護衛手当。まぁコレは危険手当とも言うが」

「なるほど！危険手当ですか！」

あぁうん。そこに反応するか。そこはかとなく嬉しそうだし、やはりコイツは軍人だな。

「そうだ。つまり学園における少尉の仕事は、一般常識の取得と司馬仲達少佐及び更識簪特尉の護衛になる」

「・・・はっ！」

ん？今の間はなんだ？アレか？弟子だけを護衛すれば良いと思ってたか？

「何か疑問があるなら質問を許可するので言ってみろ」

イチイチ許可するのも面倒だが、これも軍人教育の弊害・・・とも言えんか。話を進めるならこの形が楽ではあるんだ。

「はっ！それでは質問させて頂きます！護衛対象のお二人は教頭殿の正妻殿と側室殿と言う意味での護衛なのしょうか？」

・・・あぁ、そういう事か。プライベート

の護衛なのか、軍務での護衛なのかって事だな。これは同じようで違うからちゃんと確認しようとするのは正しい。

「そこまで公私混同する気は無いぞ。

司馬少佐は正式な監査員だし簪特尉は現地協力者と言う立場だ。

現在は簪特尉が護衛も兼ねてるが、本来ならば彼女も護衛対象なんだよ」

それを言えば国家代表候補生の凰鈴音も同じ立場ではあるんだが・・・

あれは守られるより、守ってた方が結果的にプラスになるだろうからな。

「なるほど！失礼しました！」

「構わんよ。今後も疑問に思ったことは聞くようにすると良い。少尉は軍人でもあるが、学生でもある。そして本来我々大人が庇護すべき子供なのだからな」

普通なら護衛任務なんか与える必要も
無いんだが、これまで軍人として教育
されてきた少尉に今更「何もするな」
だの「民間人として暮らせ」なんて言った
ところで何も出来んだろう。
まずは段階を踏んで、学生で子供と言う立場
を経験させていこうじゃないか。
「は、はっ！ありがとうございます！」
うむ。軍人としてはともかくマトモな子供
扱いをされたことが無いからリアクション
に困ったな？
親の愛も教師の愛も知らずに育てられたんだ、
情操教育を重点的に行うべきだな。
とりあえず頭を撫でてやろうじゃないか。
「きょ、教頭殿?!何故私は頭を撫でられ
てるのでしょうか?!」
「ふっ、子供だからさ」

「???」

子供が甘やかされたり甘えたり出来ない社会ってのは嫌だねぇ。
そんな余裕のない国や地域があるのも知ってるが、少なくともコイツは軍人として国民の生活と安全を守ってたんだ。
少しくらいは子供扱いしてやっても良いだろう。

さて、情操教育といえばペットだが、
ウチに何か良いの居たか？
犬とか猫は平日留守にする少尉の立場では飼育出来ないし、ハムスターとかも・・・帰ってきたら死んでるよなぁ。
ＡＭＩ○Ａはまだ完成してないし、ここはあえて生命力が強い爬虫類とかはどうだ？
もしくは熱帯魚とか。

水槽にタイマーで動く自動餌やり装置
とか付ければ、帰ってきたら死んでるって
ことも無いだろう？
うむ。それ系が良いかもしれん。
水槽と生命力を強化した魚類を渡して
コイツに育てさせてみるか。
最初は任務だろうが、それでも生き物を
生かすと言うことを知ってくれれば良い。
その上で敵を殺すことが出来る心の
強さを持ってくれれば、正式に弟子の
護衛になれるかもしれん。
武術は活殺自在が基本。活かすべき時に
活かせず、殺すべき時に殺せないような
半端者はアイツの周りにはいらん。
その辺の教育もしていこうかね。
ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

ふむ・・・これはまた中々の数値ですね。
母体としてはソコソコ優秀。本人は今までの境遇や環境が災いし、性交や婚姻・後継などについては特に考えたことも無いと。
つまり刷り込みし放題と言う訳ですね。
これはドイツの研究者が次世代を残したり、己の性的欲求をぶつけやすいようにした結果でしょうか？
実際兎のところの子兎の仲間も廃棄される前に似たような扱いを受けて居たようですし・・・
しかし親が居ないので、柵という意味では完全にフリーですが、その反面特尉のような地元の特殊な血統と言うブランドによる周囲の説得は不可能。
少尉が良いなら自分の子の方が！と言ってくる連中に対しての説得力に欠きますね。

まぁそんなの捻り潰せば良いだけですが、
組織運営の観点から言うとあまり良いこと
ではありません。
それに師の子を授かると言う名誉を、
自分の子に与えたいと言う親の気持ちも
わかります。
生まれた子に継がせる分家などいくら
でもあるのですから、師がもう少し積極的
になってくれると良いのですが・・・
この辺は奥を取り仕切る私の腕の見せ所
と言ったところなのでしょうね。
「司馬少佐、ラウラさんの身体情報をみて
何かお考えのようですけど？」
「ええ、少尉の母体としての能力を確認
してましてね」
あの目が遺伝にどのように関わるかも
気になりますよね。

武において目に頼るのは良いことではありませんが・・・使えるものは何でも使うと言う観点から見れば、生まれつき使える武器があると言うことになります。
コレは腐らせるには勿体無いですよね
「母体として・・・確かに大佐殿は特に急いで子供を作ろうとはしてませんが、コレって名家としてはあんまり良い事では無いですもんね」
流石は更識の家で教育を受けただけの事はありますね。
コレで准尉のように、自分一人が！と言った独占欲を出すようなら面倒な事になってますよ。
まぁ本人も側室であることは認めてますし、自分の子に李家を継がせようとも思ってませんからね。

「そうですね。正妻である私に遠慮して
いるのでしょうけど、私の子は司馬家で
育てることになるので別に私の子が最初
である必要はないのですけど・・・」
とは言え私をないがしろにする気は無いと
言うのを、態度で示しているからこそ
司馬家も師に忠誠を誓っているのです。
師に対して恐れ多い事ですが、アレらは
あくまで私の一族。私を立てるのもあり
ますが、結局は私の後ろ盾のつもりなの
でしょうかね。
そんなことしなくても、今も昔も
師はちゃんと私を大事にしてくれて
いると言うのに・・・
だいたい姉上達が残した言い伝えが少し
大げさなんですよ。
自分の幸せを省みることが無かったとか、

国の為に己の幸せを捨てたとか。
師の教えと寵愛を受け、子を産んで真名を預かって、そして最期を看取って。
その遺志を託せる子や友が居たのです。
あの時代を生きた他の人間と比べても、私は十分幸せだったと思うんですけどねぇ。
「うーん。大佐殿が少佐を気遣ってるのは確かでしょうけど、今は自分の子の教育よりも司馬家と李家の人間の再教育に忙しいって言うのもあると思いますよ？
特に李家に関しては、練度が低すぎるって嘆いてましたし」
「あぁ、それもありましたね」
失伝した技が多すぎますからねぇ。
まさか命奪崩壊拳すらまともに継承出来ていなかったとは思って無かった

と言ってましたし。
機械に頼って気を軽んじた結果がコレですからね。
となると教育体制が整うまでは師の子供はお預けですか？
そもそも子が居ない今の私では、正式に奥を纏めることは出来ません。
また学生の私に子を産ませたとなると師の対外的な評価も落ちてしまいます。
・・・ＩＳ学園など来なければ普通に１６で婚姻して子を産めて、そのまま師と共に居れたモノをっ！
まぁそうなれば特尉も引き抜けませんでしたから、コレに関してはまぁシカタナイの精神で諦めてやりますが、これ以上の邪魔を許す気はありません。
「そ、それに私も、もう少し大佐殿と

こう言う関係で居たいって言うのもありますし」

「・・・なるほど」

確かに。今の関係は正式な妻や側室ではなく、言うなれば恋人関係ですからね。子が出来てしまえばどうしても子や家に配慮しなくてはいけませんが、今はその辺も自由ですし。

ふむ。今しか体験できないことを無理に投げ捨てる必要もありませんか。

もう少し現状を楽しむ余裕と言うのが有った方が、師にも余計な気を使わせずに済みますよね。

「ですから私としても誰かが大佐殿の子を産むことになっても特に文句はないです。それがラウラさんであっても」

あぁ、そもそもが母体の話でしたね。

第一側室である特尉が認めるなら特に問題は無いでしょう。
私としても寝取り云々でないと言うのであれば問題ないですし。
母体として問題が無い以上少尉も立派な候補の一人です。
もしも少尉から許可を求められたら快く許可を出そうではありませんか。
まぁ表に出せない情報が多すぎるので兎と同じ妾扱いになりますが・・・
「週末に会ったら、いえいきなりだとアレですから近日中に少尉の意向を確認してみましょう。彼女にも確固たる後ろ盾は有った方が良いですからね」
「ですね。今のままではいつ切り捨てられるか分かりませんし、子が出来ればその心配もかなり軽減されますよね」

立場的には特尉も似たようなモノですが
特尉は立派なＨＥＮＴＡＩですからねぇ。
普通に技術者としても己の立ち位置を
確保しつつあるからこその余裕ですか。
ふむ。週末は私一人ですし、少尉にも
師のお相手をさせるには都合が良いかも
しれません。
無理強いはしませんがね。少尉が嫌だと
言うならソレまでです。師の寵愛を受け
たいと言う者はいくらでも居ますから。

ーーーーーーーーーーーーーー

「こ、コレが私の専用機ですか！」
凄い！シュヴァルツェア・レーゲンと
比べて５倍以上のエネルギーゲインがある！
「そのスペックは宇宙空間で使用した
場合でリミッターを全解除した場合の

モノだ。大気圏内で今の少尉の能力だとかなり制限されたモノになる」

「そ、それでも私が使っていたドイツのシュヴァルツェア・レーゲンとは比べ物になりませんよ！」

流石世界がＩＳの有用性に気付く前に篠ノ之束の技術を認め特許取得し、技術を研究しつつ篠ノ之束にまできっちり特許料を支払わせた冬林技研！

ドイツの科学力など歯牙にも掛けない性能差だ！

「ソレはそうだ。第五世代型は伊達じゃない」

「だ、第五世代?!」

ど、どう言うことだ?!現在世界各国で試行錯誤して第三世代型を造ってるのに、ココではもう第四世代すら超えて第五世代まで製造していると言うのか?!

「軍事機密になるから、他所での口外を

禁じるが、ココなら問題ない。
そもそも第三世代型と第四世代型は武装やシステムに関するものでな」
「は、はぁ」
「第三世代で強化されたイメージインターフェースは、思考に体が追いつかない者の為の補助システムだ。
特殊兵装に関しても、実際の火器兵装とは違い衝撃砲やらＢＴ兵器やらＡＩＣやらと言った兵装。言うなれば思考を使った小細工を機体に積み込んだモノと言える」
「な、なるほど」
技術的なことは良く分からんが、まぁなんとなくわかる。
コレが無いと我々や教官のように身体を徹底的に鍛えた者で無いと、マトモな機体操作が出来ないんだよな。

故に教官はＩＳ戦闘の強さを分ける明暗は
理解度にあると言う持論を持っていた。
第三世代型はソレをより強化したモノ
だと言う事だろう。
「第四世代は即時万能対応機。コレはまぁ
分かりやすく言うならパッケージか？
装甲に流動性を持たせると共にエネルギー
を攻撃や防御・速度に流用できるように
するシステムだな」
「？」
よ、良くわかりません！
「あ～例としては織斑一夏の雪片弐型だ。
アレの単一仕様能力はデータを見れば
分かるように、己のエネルギーを使って
攻撃力を上乗せすると言うモノだ。
同じ要領で防御力の増幅や、推進力
の強化も出来るようにし、状況に応じた

体型を取らせるのがこの世代だ。
展開装甲と呼ばれるエネルギーによって
形状を変える特殊装甲を使用することで
攻撃特化仕様とか推進力特化仕様と言った
仕様変更を、その場で出来るという利点を持つ」
「な、なるほど。パッケージとは
そういうことですか！」
なんとなくだが分かった、確かに画期的な
システムかもしれんが・・・
「ですがソレだとエネルギーがいくら
有っても足りないのでは？」
どう考えても短期決戦用の機体だ。
まぁモンド・グロッソのような一対一の
戦闘に限定すればソレなりに使えるか？
いや、無理だな。アレは別に連戦では無い。
一試合一試合きちんと時間を取るから
相手にあわせて兵装を換装する時間は

十分あるし・・・多種多様な敵に囲まれた
場合でも継戦能力が無いから、すぐに
エネルギー切れで落ちることになる。
コレはよほど特殊な状況下で無いと使う
ことは無いんじゃないか?
「その通り、流石訓練を受けた軍人だ」
頭を、頭を撫でないで下さい!
嫌とかじゃなく・・・何と言いますか、
リアクションが取れないんです!
「それらの欠点を無くすための基幹
機能に改良を加えたのがウチで言う
第五世代だよ」
「改良・・・ですか?」
燃費の向上でしょうか?まぁ部品1つ、
武装一つ減らすだけでも随分違うと
言うのは聞いたことがあるが・・・
「わかりやすいぞ?『エネルギーが

足りなければ、他から持ってくれば
良いじゃないか』という理屈から生まれた
技術だからな」
「他から？」
ハイブリッド車のようにガソリンと
バッテリーを分けるみたいな形にしたのか？
まぁ確かにＩＳのエネルギーについては
元が電力なのか何なのか良く分かって無い
らしいが・・・
「うむ。コアが一つと誰が決めた？
飛行機のエンジンは一つか？」
「あ、まさか・・！」
そうだ！考えればわかることだった！
ただＩＳコアが希少で１つも持たない国や
企業があるし、複数ある国だって部隊間
の派閥争いや企業間の争いで１つも余剰
が無いからこそ出来なかっただけで！

「ついでに言えば、いまだにＩＳコアの
限界を引き出せて無いから、ソコまで
考えるゆとりが無いと言うのもあるがな」
「そ、そうですか！」
それはそうだ！ようやく第三世代機を試作
している段階で、第四世代の欠点を改良
しようなどと思う者は居ないっ！
「宇宙空間で使うのが燃費悪いなんて
自殺行為だしな。そんなわけで我々が
掲げた第五世代のコンセプトは
『複合コアシステム搭載型』となる」
「ふ、複合コア搭載型っ！」
シュヴァルツェア・レーゲンの数倍の
出力を誇るのも当然だ！特殊兵装や
火器管制を一つのコアに纏めたなら
残りは全てエネルギーに回せるんだからな！
「そうだ。そして展開装甲を使ってはいるが、

やはり万能機よりも特化型にした方が無駄が少ないと言うことで、少尉の機体は万能型ではなく、強行偵察型として開発されている」

「強行偵察型・・・」

確かに「なんでもできる」よりも何かに特化した方が無駄は省けるが・・・

「まぁ性能差があるから、偵察ついでにそのまま強襲して任務が終わる可能性の方が高いんだがな」

いや、ソレ冗談じゃないですよね?!

「機体名はヴォルフガング」

「ヴォルフガング、狼の道ですか?」

私が使うからドイツ語にしてくれたんでしょうか?

「俺のＡＣが月狼だからな。その前に道を造るのが少尉とこの機体の仕事だ」

「・・っ!ハイ!」

こんな新入りの、戦うしか知らない私に
ココまでの機体と信頼を預けて貰えるとはっ！
「パーソナルカラーは黒を基調にした
メタリックブルーだ。少佐が黒と銀。
特尉が黒と金だから、まぁお揃いだな」
「ありがとうございます！」
司馬少佐殿や簪特尉と一緒と言うことは
私を飼い殺しではなく、きちんと扱うと
言う教頭殿からのメッセージ！
内部だけでなく、外部にも示すことで
政治的にも私の安全を守ると言う意思
表示でもあるんだ！
「複合コアにしたことによる演算能力の
向上と、少尉の目と基礎能力があれば
ハイパーセンサーのリミッター解除も
そうそう難しいモノではなくなるだろう」
「なるほど。容量が空けばその分を他に

回せるでしょうし、ソレをエネルギー
だけに限定する必要も無いですからね！」
補助機能が強化されるのか。猶更強行偵察
に向いた機体だし、私の能力をフルに
活かせると言う事でもある！
「そういう事だ。当然使いこなすには
少尉の基礎能力が必要になるので、
機体の慣熟訓練とは別にそちらを向上
させる鍛錬も受けてもらう。食事・睡眠・
休憩時間は与えるが、それは決して無駄な
時間ではない。成長に必要なモノと判断して
スケジュールを消化するように」
「はっ！」
時間が無いと焦って詰め込んでも、碌な
事にならないのはドイツで経験済みです！
「うむ。よく動き・よく学び・よく遊び・

よく食べて・よく休む。これぞ○天老師が提唱した鍛練の極意よな」

「はっ！誠に素晴らしい教えだと思います！」

理に適った教えなことは確かだ。

「そうだろうそうだろう！まずは一週間と言う短い期間だが、少尉の成長を期待しているぞ」

「はっ！教頭殿の期待を裏切らぬよう精進致します！」

知らないことは聞くようにとは
言われたが・・・流石にこの流れで
「武○老師殿が誰かわかりません」
とかは、言わない方が良いよな？

第27話

まったく、お父さんもお母さんも世話が焼けるんだから！
結果的に癌が理由でお母さんに離婚を申し入れたってことが分かったから、治療を受けて完治したら再婚するって話で片付いたけどさ！
再婚の前に一発殴ることも約束させたから、結果的には良い事だったけど！
ソレもコレも司馬様と副所長さんのおかげよね（Φ ω Φ）♪
だけど、私が司馬様のお側に居るって知った時のお父さんのリアクションも凄かったけど、司馬様のご温情で治療が受けられるって知った時の二人の

リアクションは予想以上だったわ。
でもまぁそうよね。私よりもずっと
長い間中国に住んでた二人にしたら
司馬様なんか現人神様だもんね。
そんなお偉いさんに娘が世話になってて
その上、自分の治療までしてくれるって
言うんだもん。
そりゃ感謝感激よ。
お母さんにしてみても、娘が迷惑かけて
無いかって毎日心配してたところに
お父さんの病状と、治療の提案でしょ？
そりゃ感謝感激よ。

提案を受けないなんてとんでもない。

まぁ本来は副所長さんに感謝すべき
なんだろうけど、アノ人は一応暗部らしいし？

美談とかあっても困るから司馬様に感謝させとけって話だったわよね。
・・・いや、けどアノ人って暗部って言うか、普通に正義の味方よね？
悪逆な共産党員を捌いて、非道な女権団体員を捌いて、男性の保護や平等主義の女性の保護もして、少数民族に対する差別を是正して、ＩＳに使われてる技術を使って農業用の機械や水や空気の清浄機なんかを開発して、テラフォーミングの予行練習として特殊な苔を使った土壌開発とか、医療技術の発展にも貢献したわね。
さらにＡＣを使った僻地のインフラ整備とか。
表向きは全部司馬家がやってることになってるけど、普通に知ってる人は知ってるし？
更に国連とかＩＳ委員会で無双してるし、

ソレで暗部って言われてもねぇ。
今や李家とか冬林技研が弱者にとっての駆け込み寺みたいな感じになってるけど、アレって良いことなのかなぁ？
いや、まぁ人材と情報が集まるから良いことではあるんだけどね？
とりあえず二人は治療を受ける事に異論はないって言うか「むしろお願いします」って感じだったから良いんだけど、
思い返してみたら司馬様ってさらりと爆弾発言してたのよね。
『時間制限が・・・無いわけでは無いですが』
これってどーゆーこと（。Д。）?!
いや、ちゃんと確認しなかった私が悪いんだけど、偉い人の【ちょっと】って１０秒じゃん？【しっかり】話すと良いでしょうの【しっかり】ってどれくらい？

１０分？１時間？２時間？映画一本分?!
【ゆっくり】よりは長いわよね？少なくとも
レビューしてる３０～４０分以上でしょ?!
一日経ったら駄目とか無いわよね?!
もしそうなら目の前で蜘蛛の糸が切れる
よりヤヴァイんですけど?!
すぐに確認しなきゃって思っても、
授業時間中に寮をうろついてたらサボり
扱いされるから部屋から出れないし！
もし「決断が遅い。時間切れです」なんて
言われたら、お父さんもお母さんも膝から
崩れ落ちてサメザメ泣くと思うんですけど！
まさかコレがアサ○ラムの罠ですか?!
大体シャー○ネードってサメも被害者
じゃないんですか？
避けられたら地面に刺さるか、呼吸
が出来なくて死ぬだけじゃないんですか？

そもそも竜巻の中で呼吸出来てるんですか?!
いや、つい暇つぶしで簪から借りた映画に
突っ込んじゃったけど・・・そもそも
チェンソーってあんなに斬れるもんだっけ?
いや、日本では神様すら殺す武器として
有名らしいけど、あぁ言うアレじゃ無い
わよね（Φ ω Φ）?
って違う（ 。 Д。）!
もしもの時は簪も巻き込んで嘆願しなきゃ
駄目だと思って、授業が終わったころを
見計らって司馬様の部屋に行こうとして
たのに・・・
「・・・待て、凰」
何なのこのモップは?普段は一夏に
べったりで螺旋頭とか阿呆にヤキモチ
妬いてるだけの癖に、こんな時だけ単独
行動してきて・・・

コイツのせいで私がセカンド幼馴染とか
言われてるけど、弾とか数馬は幼馴染
じゃないのかしら？
それにそんな無駄な贅肉なんか羨ましく
無いんだからね！
アンタなんか赤い無能とかスイッチとか
言われて、無駄に脱いで周りの足を引っ張る
お色気担当になってれば良いのよ！
「で、何かしら？私はコレから大事な
用があるんだけど？」
まぁ用の有る無し以前に、正直言って一夏の
腰巾着で篠ノ之束の妹であるコイツには
あんまり関わりたく無いのよね。
司馬様と篠ノ之束って仲が良いのか悪いのか
イマイチ良く分かんないし、副所長さんを
巡って争って・・・はいないけど、篠ノ之束
はコイツに執着してるって話だし。

変に敵対すればアレを完全に敵に回すから、
コイツは夜這いでも何でもして一夏を落と
して女関係のハードルを下げてから、冷静に
なった一夏に振られてくれれば良いって感じで
放置してたんだけどさ。
って言うかコイツって態度大きくない？何様？
「大事な用だと？ソレは一夏より大事だと
言うのか？」
「（。Д。）はぁ？」
何言ってんのコイツ？比べるような事じゃ
無くない？
それとも今すぐ何かしないと一夏が危ない
とか？
「わからないか？私は何故タッグ戦を辞退
したのかを聞きたいのだ」
「（。Д。）はぁ？」
あの出来レースの茶番に出るかどうかなんて

コイツに関係なくない？
それにソレが一夏となんの関係があるのよ？
「とぼけるな！優勝者は一夏と付き合える
と言うのに、何故それを求めんのかを
聞いている！」
「はぁ・・・（＊´Д｀）」
何だタダのアホか。
そんなの人権侵害だし、千冬さんや一夏が
認めてるわけ無いじゃん。
自分が逆の立場になったらどう思うか
考えたこと無いの？
・・・私も司馬様に言われるまで全く
気付かなかったけど、アレはまだ初日
だったから冷静になれなかっただけだし。
何日経過してると思ってんのよ。
「何だその溜息は！質問に答えろ！」
だから何で上から目線なの？そもそも

質問に答える義理なんか無いんですけど。
「別にアンタには関係ないでしょ」
自分一人じゃ勝てないから私をパートナーにしようとしたのかしら？
お断りよ。
私闘で専用機なんか使ったら司馬様に殺されるし、そもそもアンタと組んだら勝てるモノも勝てなくなるわ。
学園もラウラが出てたらアンタと組ませようとしてたんじゃない？
実力も協調性の欠片も無いコイツと、足手纏いなら味方でも撃つラウラでしょ？
幼馴染を傷付けられた一夏が、怒りの反撃って感じの茶番を作ろうとしたんじゃないの？
「くっ！お前は正直気に食わんが、それでも一夏に対する好意はホンモノだと思って居たのだがな！」

別にコイツにどう思われようと関係無いし。
そもそも好意が有ればナニをしても良いって訳じゃないでしょ?
一夏の行動を見張って、一夏に好意を抱く女を見張って、気にくわなければ武器と姉の名前で脅すんでしょ?完全にストーカーじゃない。
螺旋頭も似たような感じみたいだし、周りにこんなのしか居なかったらそりゃ一夏も男に逃げるわ。
今度弾の家にでも行くように言っておこうかしら?弾には一夏が慣れない環境のせいで疲れてるみたいだから、リフレッシュさせてやってくれって感じで言っておけば良いわね。
直ぐでなくてもいいけど、いつかこの事を弾がやんわりとでも伝えてくれれば一夏の中の私の株も上がるんじゃない?
「別にアンタの評価なんてどうでも良いわ」

大事なのは一夏と千冬さんからの評価だし。
まぁ最近は一夏と結婚した後のことを
考えてると、浮気とか寝取られとか、
無理やり既成事実を作られたりとか、
目の前のモップとか螺旋頭にストーカー
されたりとか、姑が怖すぎるとか、
色んな心配事が次から次へと浮かんで来て、
幸せになれる自分が想像出来ないのよね。
「な、なんだと?!」
政治的なゴタゴタも有るだろうし、その都度
司馬様や副所長さんに迷惑かけることになる
でしょ?
いや、副所長さんは従業員はちゃんと守って
くれるだろうし、司馬様だって自分の言った
ことを違えるような人じゃないけどさ。
迷惑かけっぱなしで幸せになれるのかって
言われたら・・・やっぱり微妙なのよねぇ。

コイツってそう言うの何か考えてるのかしら？

「・・・貴様には失望した！」

うん。コレは何も考えてないわね。

この辺はしっかり側室としての地位を確立した簪が羨ましいわ。

政治的にも庇護されるし、子供だって司馬様が正式に認めてるから、変に遠慮する必要は無いもんね。

正妻が認めた側室だから他の連中もガタガタ言わないし、本人が側室で良いって認めてるから争いにもならない。

今じゃ最初の頃の弱気が鳴りを潜めて、節々に自信が出てきてるのよね。

アレが勝ち組の女の余裕なのかしら？

「さっきも言ったけど、別にアンタの評価なんかどうでも良いし。大体ただの幼馴染みが正妻面しても滑稽なだけよ？」

司馬様を見てると、尚更コイツの滑稽さがわかるわ。
まぁ私は一夏に側室とか愛人を認めることは出来ないから、絶対に争いになるわよねぇ。
それで醜い女の争いを見せてしまって一夏に愛想を尽かされるわけか。
螺旋頭なら貴族らしいから、側室とかは認めてもよさそうなモノだけど・・・
あぁ、十字教だから一夫一妻？ソレだと側室は愛人扱いでアウトになるのかな？
そういえばフランスの阿呆は現時点でどこまで一夏に依存してるのかしら？
一夏的にも随分信頼してるみたいだけど、ここで誰かが「アイツは女で一夏の遺伝子情報と、白式のデータを取りに来た産業スパイなんだぜ」とか言ったらどうなるかしら？
信頼を裏切られたと嘆く？それとも何か理由が

有るんじゃないか?とか聞くかしら。
・・・事故とか自分から自白したならそうなるだろうけど、誰か他のヤツが悪意をもって伝えたら仲違いするわよね?
人間不信になったところを慰める?いや、その場合私すら信じなくなって、本気で公園に居る良い男に人生相談とかするんじゃない?
うん、ダメね。どう転ぶかはわからないけど、とりあえずアレには頑張って悲劇のヒロインになってもらいましょうか。
「なっ!?」
あぁ、そう言えばまだコイツが居たわね。
普段から一夏に近づく女を牽制してるから女生徒には嫌われてるし、一夏にしてみても友達として接してる私や無害なクラスメイトにまで睨みを利かせるコイツには微妙に困ってるみたいなんだけどさ。

一夏も困ってるなら困ってるってはっきり言えば良いのに、何故か言わないのよね。
ＩＳの練習だってコイツが居るせいで大した練習が出来てないじゃない。
まぁ練習相手が近接戦闘が出来ない螺旋頭と、機体性能が違うから正面から打ち合えない阿呆でしょ？
コイツに到っては一次移行すらしてない訓練機だから何にもならないし。
苦手な相手との戦闘経験は積めるかも知れないけど、長所が伸ばせないじゃん。
私が相手をすれば良いのかも知れないけど、そもそも私だって修行中の未熟者。
それに誰かに教えるなんて柄じゃ無い。
それでも一夏に頼まれたらなんとかしようとは思うけど、一夏の周りには自称コーチが三人も居るから、今更頼めないでしょうね。

とりあえずアレよ、コイツが自分の身を弁え無いで偉そうにしてるから空気が悪くなるのよ。

「あのさアンタの近くにいたら一夏に嫌われちゃうから、用が済んだらさっさと消えてくれないかしら？」

一夏のこともあるけど、今はこんなヤツさっさと放置して一刻も早く司馬様に会いに行かないと、お父さんとお母さんが不安で倒れるわ。

だけど、まさかこんなの引き連れて司馬様の部屋に行くわけにも行かないのよね。

部屋の近くでコイツに喚かれたら、コイツを近付けた元凶として矯正されるかもしれないし、気分を損ねたせいで治療の話が無くなったら、私はコイツを殺すわよ？

篠ノ之束の威光とか関係なく、何がなんでも殺してやるんだから。

「私が近くに居たら一夏に嫌われるだと？

それはどういう意味だ！」
ワザワザ大きな声出さないでよ。
「まんまその通りじゃん。はっきり言って今のアンタ、相当ウザいわよ？」
ここ最近はラウラが居たからそれほど目立った感じじゃ無かったけど、最近は異常なくらい周りに目を光らせてるもんね。
たぶん本能的にフランスの阿呆が危険だって気付いたからなんでしょうけど。
アレを男として危険と見たのか女として危険と見たかは知らないけど、私の相手をしてる暇が有るなら、アッチに行って無駄に喚いてなさいよ。
「な、なんだとっ？」
さっきからこんなんばっか。コイツと話すだけ無駄じゃん。
・・・一回部屋に帰ってから出直そう。

こんな気分で司馬様に会いに行ったら、
雰囲気だけでシツレイって言われちゃう
かもしれないし。
そもそもなんでコイツが私と対等の顔して
話しかけてくるんだろ？
私はこれでも国家を代表するエリートで、
無人機の時とか、普段の甲龍を使ったデータ
採取でもそれなりの成果を出してる新鋭よ？
だからって敬えとか言うつもりは無いん
だけどさ。司馬様とか簪とかラウラに
比べたら全然未熟だって言うのは自分でも
わかってるし。
だけどＢＴ兵器の適正と金と家の力で代表
候補生にしてもらい、実績も無い癖に偉そう
にして、素人の一夏に苦戦したり、ラウラに
完敗して国から完全に干されてる螺旋頭と
一緒にして欲しくないんだけど。

クラスメイトでも無ければ友達って認めたわけでも無いんだし、相応の態度って言うのが有ると思うんだけどね。
自分が篠ノ之束とは無関係だって言うなら尚更よねぇ。
（ー―ω―ー）はぁ
・・・帰ろ。顔洗って出直すわ。
「ま、待て！まだ話は終わって無い！」
いや、完全に終わってるから。せめてもう少し会話が出来るようになるまでは話しかけないで欲しいんだけど。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「授業が終わったらすぐに来ると思ったけど、予想以上に時間が掛かったね？
それにシャワーを浴びてきたのかな？」
まだ髪が半乾きだから、もう少し乾かした

方が良いと思うけど。

「えぇ。ちょっとね」

まぁこれからトレーニングで汗かくし

その後でもう一回お風呂に入ることに

なるからね。

それに司馬少佐の前に来るのに汚れてたり

汗臭かったりしたら困るもんね。

社会人は身だしなみも大事って自覚して

きてるってことかな?

それとも織斑を部屋に連れ込むことに成功

したって言う事後 () 報告とかだったり?

「あぁ、時間制限ですか?劉楽音の病状が

悪化して治療が受けれなくなるくらいまで

体力が落ちたら、治療を受けると決断

しても無意味でしょう?そういう意味です」

「おぉう、当たり前のことでしたね(・・ω・)」

なんか急にリンちゃんから連絡が来て

「いざとなったら一緒に嘆願して！」
って言われたけど・・・そう言うことね。
てっきり事後（）報告でゴム付け忘れた
とかだと思ったのに。
君にはがっかりだよ。
そもそもこの治療は大佐殿からの提案
なんだから、よっぽどシツレイなことを
しない限り司馬少佐は取り下げたり
しないと思うよ？
流石に大佐殿を寝取れ云々は危険だったと
思うけど。
「治療を受ける旨は了解しました。では医療
スタッフに予定を組ませますので、都合のいい
日時を准尉のサポートスタッフに伝えて下さい」
「はいっ！ありがとうございます！」
うんうん。コレでリンちゃんの家庭の事情は
片付いたね。

あとはアホの織斑をどう落とすかになると思うんだけど・・・

「そ、それで司馬様、治療費ってどうなるんでしょう?」

あぁ、その心配もあったか。中国の医療制度はよくわかんないけど、お金持ちが率先して受けたがる治療だもんね。

大佐殿も司馬少佐も基本的に公私混同しないヒトだから、医療費がどうなるか確認しないとそりゃ怖いよ。

「請求書が准尉の元に届く形となりますね。給料からの天引きか一括で支払うかは准尉次第となります。

金額としては・・・学園に居る3年間は半分くらいが引かれる形で収めましょう」

「えっと、基本給が１９３０００円（税込）で各種手当が付くから・・・あれ?

その半分って結構余裕ありませんか（Φ ω Φ）？」
だよねぇ。お金持ちが列をなして予約する
ような治療にしては良心的だよね？
「そもそもが救済処置ですからね。それに
子供が親を亡くすのを厭うというのも師の
趣味の延長のようなモノです。
あくまで「不平等だ」と言われない為の
口実みたいなモノでもありますし」
まぁ実際は司馬少佐のお友達に対する配慮
だから、お金なんか取る気もないんだろう
けど・・・この辺はちゃんとしないと
リンちゃんが逆恨みされたりするからね。
その結果が3年間給料の半分なんでしょ？
学生の私たちにとってはそうでもないけど
普通の社会人にしてみたら減棒５０％が
３４ヶ月って相当な負担だし。
「あ、ありがとうございます！」

もうそれしか言えないよねぇ

「あとは・・・そうですね。治療後の両親の就職先です。働く宛があるなら特に何も言いませんが、もし宛が無いと言うなら日本で中華料理屋を再開してみてはどうか?と言う提案がありますね。店舗も提供するとのことでしたよ?」

・・・やりすぎじゃないですかね?

いや、司馬少佐の立場を考えればリンちゃんみたいな学友って言うのがモノスゴク・貴重なのもわかりますし、恩は売れるときに売るって言うのもわかるんですけど。

「さ、流石にそこまでは私の判断では決断できませんので、後で二人に確認を取ってみます!」

そりゃそうだよね。あんまり恩が重なるとどうして良いか分かんなくなるし。

裏が無いってわかってても怖くなるよね？

「そうですか？師としては日本人好みに
アレンジされた中華料理も味わって見たいし、
冬林技研の連中にも経験させたいと言う
ことでしたので、ある意味でコチラからの
要望となります。
それ故遠慮は不要ですし、むしろ恩返しを
考えるなら出店をお願いします」

大佐殿が食べたいだけだった！
そして大佐殿が望むならそれを全力で叶える
のが司馬少佐だもんね。うん納得の高待遇。

「ま、前向きに検討させます！」

政治家みたいな言い方だけど、自分じゃ決断
できないからねぇ。けどこれが恩返しになる
って言うなら全力で動くのが普通だよね？

「えぇ、もし無理でも師も私も特に
罰することはありませんから、気楽に

考えてください」

「（。д。）。＿。）。д。）。＿。）」

いや、大佐殿はともかく、司馬少佐はナニカするんじゃないかなぁ？

リンちゃんも無言で頷いてるけど、コレ絶対わかってるよね？

ーー世に平穏のあらんことをーー

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

おまけ

「そもそもリンちゃんって昔から凰鈴音って話だったよね？」

「（Φ ω Φ）？まぁそうね」

本場は酢豚にパイナップル入れるって
聞いたことあるけど本当なんだねぇ。
「お父さんは婿養子だったの?」
昔は男尊女卑で一人っ子政策とかしてた
から、男の人の方が外に出るって中々
無かったと思うんだけど・・・
「・・・あれ?その辺どうなんだろ?」
ま、まぁ両親の馴れ初めとかは深く
聞く場合と聞かない場合があるからね!
本題は別だよ別っ。
「それで、なんで両親が中国のヒト
なのに日本に来て中華料理屋を?」
「んん?どゆこと?」
なんて言うか、不自然だよね?
「いや、ダメとかそういうんじゃないけどさ、
中学で離婚した時にお母さんと一緒に中国に
帰ってるじゃん?」

「・・・まぁそうね」
「お父さんも中国に帰ってたじゃん?」
「・・・まぁそうね」
「それでなんで日本で中華料理屋してたのか
なぁって、ふと疑問に思ってさ?」
てっきり在日華僑とかそういうのだと
思ったら、普通に中国が実家だし?
資金は中国で貯めてたって事かもしれない
けど、わざわざ物価が高い日本で中華料理屋?
「しかもアホの織斑とか他の幼馴染以外に
何の付き合いもなかったんでしょ?
お父さんの伝手もお母さんの伝手も無い
のに、なんで規制の厳しい日本で料理屋を?」

「(。Д。)ナンデダロ?」

「さらに小5の時に来日で中2で帰国って
ことは、お父さんの癌が発覚したり離婚云々を
含めても店は4年しかやってないじゃん?
離婚調停に1年かかっても3年でしょ?」
すんなり別れたわけじゃないって話
だから、そのくらいはかかるよね?
「・・・そうね」
「来日したときは癌ってわかって無かった
はずだよね?滞在の場合入国審査とかで
病気の有無の確認は必須じゃん?」
病原菌とか持ってたりする可能性も
あるし。
「・・・そうね」
「さらに飲食店なら毎年の健康診断も
必須でしょ?」
まぁコレは飲食店に関わらずかも知れない

けど、伝染病とか大腸菌とかあるし料理人
が病気持ってたら普通に食中毒の感染源
になったりするもんね？
確か保健所からの指導要綱にもあったはず
「・・・そうね」
「なら、りんちゃんのお父さんの癌が
発病＋発覚したのは最長でも離婚前の
1年前くらいだよね？」
離婚云々合わせても最長2年？
「・・・そうね」
「それって癌治療の観点からみたら
初期の初期だけど、普通に治療
したら薬だけで治ってるんじゃない？」
離婚に踏み切る前に相当悩んだって話
だったけどさ、それ以前にどんな治療したの？
今だって普通に出歩ける程度の進捗状況
なんでしょ？

まさか癌⇒治らない⇒離婚
なんて言わないよね?病院で「治りますか?」
って聞いたら普通に「治ります」って言われる
レベルの早期発見だと思うんだけど?

「（。Д。）アイツ、ナニシテヤガッタ?!」

第28話

『ふはははは！なじむ！実に！なじむぞ！私が一番上手くヴォルフガングを使えるんだ！』

なんつーか色々混じってるが、人間は辞めたらあかんぞー。

「少尉、その全力機動はあくまで宇宙空間だからこその機動だ。大気圏内でヤルなよ」

『ハイ！』

うん、最高に「ハイ！」ってヤツだな。

そういえばあのヒトって、宇宙空間に行ったらどうなるんだ？恒星って全部太陽と同じだよな？

太陽の光が直射（）しているわけだが・・・やっぱり灰になるんか？

そうなると火山で宇宙・・・とまでは

行かなくても、一定の高さまで押しやれば
灰になるわけか。
究極生命体の方は、もう宇宙に飛ばして
考えることを辞めた石になってもらう
必要があるが、あれって他の星に行ったり
しないのか？
いや、大気があれば大気圏で燃え尽きるか。
泡とかはちゃんと思考力があったからこその
対処法だもんな。
つまりＡＩＣのような特殊な力場を作り、箱に
詰めて宇宙へ飛ばせば勝ちか。
うむ。時間を止めたり回したり過去に逆行
されたりしたらどうしようもないが、
アレも人の精神が生み出した力とすれば
中々難しい扱いになるよなぁ。
「とりあえず荷電粒子砲と陽電子砲の稼動は
確認した。この完成度なら簪のアルレシャに

搭載しても大丈夫そうだ」
アイツは自分で試したいと言うかもしれんが、流石に宇宙空間での試験は土日ではできんし、ここはラウラに頑張ってもらうしかないよな。
んじゃ次だな。
「反響定位用意」
『ハウリング・エコロケーション起動します』

オオオオオオオオオオオン

ふむ、まさしく遠吠え。音響兵器にもなりそうだが・・・コレに指向性を持たせれば、俺や束相手に通用する武器になるんじゃないか？
『見える！私にも敵が見えるっ!!』
気のせいだ。そこに敵はいない。
いやまぁ、スペースデブリが敵と言うならそうなんだろうが・・・

領域設定をもう少し弄った方が良さそうだ。
今は補助システムも全力起動してるから良いが
単機でしかも地上でヤったら情報量が多すぎて、
脳が焼ききれるかもしれん。

「あぁぁ～うぅぅぅ～」

おいおい、なんてゆっくりしたあーうーだ。
二日酔いのＯＬじゃないんだから
もう少ししっかりしろ。
「束、お前はもう少し鍛錬が必要だな。
細胞単位で優秀なのは良い事だが、朝に
弱いのと足腰が弱いのは頂けん。
宇宙空間での生活に慣れすぎじゃないか？」
重力が無いからな。擬似的なモノを
作ってもどうしても筋力や骨が弱る
もんだし・・・

「今痛いのは耳だし、朝に弱いのと
足腰が立たないのは宇宙空間云々じゃ
なくて、リー君が犯人なんだよ?!」
己の不摂生を他人のせいにするとは
・・・コレは矯正か?
「お母様?お父様はいつも通り朝ご飯を
作ってくれましたし、私にもチャーハンの
作り方を教えてくれました!」
うむ。朝食は活力の源だからな。
それと食材を無駄にしてはいかん。束は
消し炭でも食えるが、クロエが自分で
食えんモノを作らせてどうする。
味覚障害に関しては諦めて、黙って
レシピ通りに作らせればいいのに。
愛情?それは完成品に対してかける
トッピングだろう?
料理は科学と言う料理人も居るんだ。

そっち方向を目指せばクロエみたいな
タイプが料理に失敗することはないし、
なんなら炊飯器を使ってもイイじゃないか。
束が造る炊飯器なら当たり前にハンバーグ
も作れそうだしな。
「なんか話の方向性がよく見えないけど・・・
とりあえず、今日の朝ごはんのチャーハンは
クーちゃんが作ったんだね？リー君とは微妙に
調味料の量が違ったから誰が作ったかと
思ったら、流石クーちゃん！美味しかったよ！」
あれだろ？なんか俺と束が喧嘩？しそうに
なったから頑張って止めようとしたんだろ？
「は、はい！ありがとうございます！」
うむうむ。今までも美味しいと言ってもらって
いたが、自分でも食べれなかったのを褒められ
てもなぁ。
今回のは自分でも自信作だから、普通に

嬉しいだろうよ。
束は束でちゃんと褒める事が出来る子だし。
なんでコイツが天災扱いなのか未だによくわからんな。
「それとVTシステムの基地と他の軍事基地に関してだが、明日以降ならいつ潰しても構わんぞ」
三日経っても未だに研究を辞めて無いし。
ソレならもう全部いらんだろ？滅べ。
「お、他のも殺っちゃって良いんだね?!」
「本当ですかお父様！」
うむうむ。あれだけの情報をヤったのに自分で調べることも出来ん無能共に国家の軍隊を束ねることなど許さん。
『知らなかった』が2度も通用すると思うな。
「構わん。アレはドイツ軍全ての罪と判断しよう。せめてクロエのストレス

解消に役に立てば良いんだが・・・」
ラウラが所属していた部隊もここで
完全に終わらせる。
もはやドイツにＩＳはいらん。連中に
ナニカさせても宇宙開発には何の役にも
立たんモノしか生み出さなかったしな。
「ふっふっふっ！とうとう阿呆共に
裁きの雷が降る時が来たんだよ！」
「埋葬します！」
ふむ。一応注意しとくか
「束。衛星兵器の使用は許可しないし、
民間人への攻撃も許可しないぞ」
「えぇぇぇぇぇ!?」
やっぱりか。コイツが裁きの雷なんて
言うから絶対使うとは思ってたが、
アレはタダの大量破壊兵器だからな。
あくまで宇宙から来る隕石や外敵に

使う為の武装なんだから、地上に向けて撃っちゃダメに決まってるだろ。

「ドイツのＩＳコアは全部没収して初期化。その際、匿名で全世界の首脳部に対してドイツがＶＴシステムの研究を行っていたことを糾弾する内容のメールでも送っておけばいいだろう」

ルール違反者には罰を。あとは架空のテロ組織でも・・・機業が居たな。

スコールの胃には悪いが、アイツ等は基本的に横の繋がりがないから右手がしてることを知らん。よってこういう時に使いやすいんだよな。

あとは各国が勝手に疑ってくれればいい。

俺たちは・・・どうするかな。

３個くらい貸してやるか？いやしんぼめ。

「むぅ。なんて言うか面倒なんだよ！」

「民間人だって軍を支えていた連中です。
奴らこそ滅ぼすべきではないのですか?」
束はともかく、クロエの言う事は決して
間違ってるわけではない。
だが、ソレをやると世界中の人間を
殺さなきゃダメになるからな。
それじゃヒトの歩みが止まってしまう。
「いいかクロエ、逆に考えるんだ」
「逆ですか?.殺すの逆は・・・生かす?」
おぉ、憎しみに囚われずキチンと正しい
道を選べるじゃないか。
これこそがニュータイプっ!
「そう、連中は生かした方が今後の
面倒事が増えるだろ?」
「・・・なるほどなー」
それに進歩の可能性も増える。
国防の要が無くなったらあの国の

民間人はどう動く?
前回大量の技術者を捕えて殺して、今回もまた大量に失うことになるが、その場合国家はどう動く?
ＩＳに頼らない新たな技術としてＡＣを欲するか?
それともＩＳに固執してコアを強請るか?
それとも独自にナニカを開発するか?
さぁ勤勉の代名詞たるドイツの諸君!
俺に地獄の底から這い上がるヒトの可能性を見せてもらおうじゃないか!
「・・・あぁ～こうなったらもう何言ってもダメだね。民間人の殲滅は諦めて一緒に基地だけ潰そっか?」
「はい。お母様と一緒です!それにお父様は楽しそうですから、お手伝いしたいです!」
ふはははははは!さぁお前らの輝きを

魅せてみろ！
『私はラウラ・ボーデヴィッヒだ！過去を
捨てた女だっ！』

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

荷電粒子砲と陽電子砲も大丈夫。推進力
特化からのランスチャージも成功。
あとはマルチロックによる複数の標的を
狙い撃つ砲身・砲弾と加速器を使った高速弾
による長距離狙撃システムか・・・
「簪ーなんか冬林技研から資料が届いた
みたいだけど、簪の専用機のヤツ？」
「うんそうだよ。基本的にはラウラさん
と同系機だからね。武装の流用は可能だし
長期の稼動試験が必要なのはアッチでやって
もらってるんだ」

ホントは最初から最後まできっちり手掛けたいんだけど、そのためには夏休みに入らないとダメだし。

ソレならココで雛形を作っておいて、夏休みに改良する形にした方が無駄がないからね。

「ラウラと同系ねぇ。私は甲龍の資料しか知らないから何とも言えないけど、あんまし好き勝手やって司馬様や副所長さんを困らせちゃダメよ？」

「司馬少佐や大佐殿を困らせるなんてとんでもない」

司馬少佐は生粋の技術者じゃないからアレなときがあるけど、大佐殿は普通に楽しんでるし！

「・・・まぁいいけどさ。それとさ、あの話って本気なの（・ω・）？」

「あの話って何？」

惚けてるんじゃなくて、機密が多すぎてアレとかソレとかアノじゃわからないんだよねぇ。

「ラウラを副所長さんのお妾さんにするって話よ」

「あぁソレ？本気も何も。私と司馬少佐がソレ系で冗談を言う訳無いじゃん。まぁ当然ラウラさんが拒否しなかったらって条件付きだけどね」

望む望まないは多分無いから、拒否するかどうかって事になったんだよね～

「あ、扱いが軽いっ?!（。Д。）。いやお妾さんってアレなんでしょ？家に認められてない愛人さんなんじゃないの？」

前に話してたことはちゃんと覚えてたんだねぇ。

「そうだよ？だけど正妻さんが目こぼし

することもあるって言ったじゃん?」
色んなケースがあるから何とも言えないけど今回は私たちが認めたからね。
コレでラウラさんの立場も安定するよ!
「あぁっと。まぁ言ってたけど、つまり副所長さんとの子供を作れってことなの?」
リンちゃんはその辺まだよくわかって無いからなぁ。
「そうだね。産まれた子は表立って李家の子とは認められないけど、確実に大佐殿の子。李家の分家筋の人にしてみたら、何としても家に迎え入れたくなる程の価値が有るの」
自分の子と大佐殿が無理なら、大佐殿の子と自分の孫をってのもかなり居るからねぇ。
「ほ、ほぇ〜(・Д・)」
「元々暗部だから、表立った正妻や側室の子供よりは妾さんの子の方が色々都合が

良いって言うのもあるけどね」
「つ、都合が良いって、ソレ虐待とか
されるんじゃないの?!」
「ん～それは無いかな?」
確かにああいう家には虐待じみた修練もあるけど、それだって大佐殿から見れば無駄な修練だからって改善されてるし。
今は近代的な視野を含めて、より効率的に地獄を見せるトレーニングメニューを作成中だから、子供が鍛錬を出来る歳になる頃にはキチンとした理論に基づくトレーニングになると思うよ?
「とにかく、ラウラさんはちゃんとした
後ろ盾が無いからね。
子供が生まれればその子を欲しがる家はラウラさんの味方になるし、そもそも
今のままじゃラウラさんってマトモに

結婚できないじゃん？」
子供とか産めないし育てられないでしょ？
「・・・まぁそうよね。病院に行ったら
遺伝子改造とかされてるのがわかるし、
ラウラの子供も実験動物扱いよね」
アホの繊斑も遺伝子改造されてるから、
リンちゃんとの間に子供が出来たと
したら、ＩＳ云々関係なく実験動物だよねぇ。
「今は別にそこまで考えなくても
良いかもしれないけど、１０年後を
考えるとね」
繊斑千冬みたいに一人でビール飲んでる
なんてかわいそうじゃない。
大佐殿は妾とか関係なく愛してくれる
と思うし。
「あぁ、まぁ１０年後って言われるとね。
やっぱり当たり前に家のことを考えてる

と結婚観はまるで違うわよねぇ（ ゛Д、）」
「ん～むしろそういうのを考えない
リンちゃん達が凄いと思うんだけど」
特に螺旋頭。アレはほんとどーするんだろ？
「いや、最近は一夏の周りがアレじゃん？
一夏も八方美人だからどうしてもイライラ
しちゃうじゃん？
イライラしてるのが側に居たら一夏も
面白くないだろうし、かと言って
あんまし離れてると不自然だし・・・」
んん？不自然とな？好きとか嫌いとか
誰かに取られるとかじゃなく？
「別に無理して近くに居る必要も無いん
じゃない？失敗が許されない任務じゃなく、
自由恋愛の許可が下りてるんだからさ」
「まぁそうなんだけどねぇ（ ；゛Д、）」
う～んコレは織斑離れ？それとも織斑の

周囲の連中に疲れた感じ?
実際問題、今は織斑千冬を落としてないから
アホの織斑の側に居てもあんまり意味は
無いんだよね。無駄に牽制してるから自分も
周りも疲れるだけって状態だよね。
う〜ん。どちらにせよ依存が弱まってるなら、
少しでもコッチに引き寄せた方が良いよね?
更識あたりがリンちゃんを使った離間計
とか仕掛けてきても困るし。
いや、司馬少佐はソレも考慮に入れてる
けど・・・なんだかんだでリンちゃんは
貴重な仲間で友達だからね!
・・・シャーク〇ードシリーズは終わった
から、次はシャー〇トパスシリーズなんて
どうだろう?それとも、もうちょっと
踏み込んでみる?
アニメも良いと思うんだけど、普通の映画と

アニメの間には深く険しい谷があるからね。
アニメはリンちゃんにはまだ早いかも。
好みの問題もあるし。
とりあえずは少女漫画系か少年漫画系かを
調べてからにしないと。
変なのを紹介して拒絶反応を起こされても
困るからね。
けどソレを言ったら大佐殿は普通に一緒に
見てくれるし、技術的な意見交換とかも出来る
からやっぱり最高だよね！
司馬少佐は「後で観ましょう」って言っては
くれるけど、一緒には観てくれないし。
ＤＶＤを割ったりデッキを叩き割ったりはして
ないから、そんなに悪い感触では無いと思う
けど・・・入りやすいのから行ってるから
まだ大丈夫だよね？
この調子でアニメまで布教出来たら・・・

ふふふ。

「簪ー？今のアンタって凄く悪い顔してるからねー。まぁどーせ布教とかでしょうけど、あんまし変なのを広めたら副所長さんあたりにお仕置き喰らうと思うわよ？」

そんなこと無い！と言いたいところだけど、流石に司馬少佐に変なの教えたら怒られるかな？

無駄にエロい服着てるロボットモノとか、無駄に装備が薄着なダンジョンモノとか、なぜか服を脱がす悪魔のヤツとか・・・

あぁ言うのはちょっとありえないよねぇ。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

『サメ映画なぁ』

「はい、竜巻にサメがいる意味がイマイチわからないので、特尉になんと言って良い

モノか悩みまして」
アレの感想って・・・そもそもサメって
丸呑みなんかしないでしょ?
シリーズで5まであるって、フロリダ沖に
鮫多すぎじゃないですかね?
というか大きなサメより小さな魚があの
勢いで振って来た方が被害大きいですよね?
いや、フィクションに突っ込むのは邪道
だというのもわかるのですが、コンセプト
が全くわからないと言いますか、
1が売れたから続編作ろう的な製作者側の
情熱と惰性が混じり合った感じの不可解な
雰囲気がこう・・・
『そのツッコミで正解だ』
「えぇ?!」
これで良いのですか?!
『むしろアレを見て広めようとしている

人間全員がそのことに対するツッコミ待ち状態だからな。ソレをすっとばして他の部分にツッコミ入れたらショボーンとされてしまうぞ』

「そ、そうなんですね！」

側室から薦められたＤＶＤの内容を邪険に扱うこともできないと思ってましたが、まさかそれこそが狙いとは・・・深い。

『簪はそうやってお前のサメに対する抵抗感を無くしつつ、少しずつＺ級に舵を切るつもりだろう』

「ぜ、Ｚ級?!」

なんですかソレ?なんか最終兵器みたいなんですけど、そんな映画あるんですか?

『うむ。ただアイツはアニメも好きなはずだから、アニメには付き合ってやれ。

簪がお前に奨めてくるモノなら、それなり

に気分転換にはなるだろう。
ただし実写化を出してきたら逃げても良いぞ』
アニメですか。日本のアニメは質が異常に
高いですし、参考になることもあります
から、その辺の日本の１０代女子のように
拒絶反応を起こすようなことはありません。
「アニメはまぁインスピレーションに
役立ちますし、クリエイターの技術と
情熱は見事と褒めますが・・・実写？」
あぁ言った空想の技術を実現しようと
ＨＥＮＴＡＩは日夜努力してるのですよね？
実写化したらソレはソレで参考になるのでは？
『まぁ実写化も善し悪しなんだが、
どうしても地雷が多い。原作が好きなら
我慢できないと言う人間は、どんな作品
にも必ず一定数存在するもんだ』
・・・そういえば昔、〇国で作られた

北斗○拳の実写版を見た師がＤＶＤデッキを叩き壊した事がありましたね。

『どうしても無理なら実写のデビ○マンをテレビの前に置いて、頭を抱えてれば良い。アイツから逃げていく筈だ』

デビル○ンは魔除けか何かですかね？

「まぁ、それについてはわかりました。アドバイスありがとうございます」

サブカルチャーは確かに現地の文化と言えますが、あんまり強く推してこられてもねぇ。

少女漫画にも興味ないですし、青春モノと言われても・・・師以外の男を見てもどうしても師と比べてしまいますから感情移入ができないんですよねぇ。

武が関連するモノだとご都合主義が過ぎますし。

弱いのが一念発起して鍛えたって、強いのがずっと鍛え続けたのに勝てるワケないじゃ無いですか。
努力は否定しませんが、そもそも修練とはどれだけ効率的に地獄を見るかです。
土台も作らないでチャンバラさせたって強くなるわけが無いでしょう。
練度は地獄を味わった回数と時間に比例するのですよ。
ソレを成長期が終わった高校生がいきなり覚醒して、自分が気に入らないことをする大人をなぎ倒すって・・・タダの憂さ晴らしであって、勧善懲悪ですらないし。
『まぁ最終的な決断はお前に任せるがな。
それで、ラウラを妾にしろって?』
あぁ、そうそう、コッチが本題なんです。
サメの衝撃にヤられてましたね。

「そうですね。現状少尉は冬林技研以外で結婚もできませんし、子も産めません」
一般の冬林技研の職員であっても駄目。
長期的に見れば一定以上の権力を持たない者では子供共々実験動物扱いされてしまいますよね・・・キサラギに。
『冬林技研以外なら国の実験動物だし、冬林技研の内部ならキサラギの実験に巻き込まれるのか・・・』
「ええ、キサラギの暴走を止める為には師が一番適任ではないかと思いまして」
なんたってヤツは兎すら捕らえる男だし。
実はアイツって狩人として見れば、師に一番近い存在なのでは?
『ん~そんなに人材居ないか?ウチの国って一人っ子政策で男が余ってる筈なんだがなぁ』
ゴミが余ってるだけですからね。

「甲斐性がなければ意味がありませんよ。
キサラギに言うことを聞かせる強さも
必要ですし。
まぁ少なくとも師は5人は娶って貰って、
各員2人は子を産んで欲しいところです」
何せ冬林技研は大きくなりすぎましたから、
そのくらいしないと今後の運営が出来ないんですよねぇ。
まさか子供に師や私のような組織運営力を身につけろとは言えませんし。
『家の関係や会社が大きくなりすぎたからなぁ。事業部を分けて運営させるにしても信頼出来る人間は必要か』
「そうですね」
能力的には育てれば良いですし、無駄に足を引っ張る無能な連中なら潰せば良いだけですが、そこそこ優秀な連中を懐柔

して使えるようにするなら婚姻が一番です。
それに師の仕事量を見たら、その地位は
分割するものであって独占するものでは
無いと言うことに気付くでしょう。
『わざわざお前が奨めて来るくらい
だから母体としては問題ないんだろう。
あとはラウラの気持ち次第と言った
ところか？』
「そうですね。少尉が今回の件を望まない
と言うなら、このまま一人寂しく人生を
暮らしてもらいましょう。
部屋に黄蓋のアレを飾らせるのも良いですね」
月下老人・黄蓋の縁結びの書。まさか
此処まで伝説が残るとは驚きですが、
主家の男不足を嘆き、自らの恥を捨てて
の嘆願書ですからね。
独り身の女の誇りと哀愁が漂う名作として

語り継いだネコモドキが見事なのでしょう。
結局やつは最後まで独り身でしたからねぇ。
ネコモドキや淫獣の子供を抱いて頬を
引きつらせていた様子が目に浮かびますよ。
『アレはなぁ。まぁ忠義と欲望を
両立させた不朽の名作には違いない
から禁止とかはしないが、憐れではある』
ですよねぇ。あんなのが残ってるなんて、
小姓に浮気の釈明書を書いた武田信玄より
情けないですよね。
『結論としては俺としてはお前が望むなら
それでも構わんよ。だが、普通に体外受精
じゃ駄目なのか？』
子に関して師に手間を掛けさせるのは
恐縮ではあるのですけど、体外受精は
微妙なんですよねぇ。
「どうしても子が出来ないなら、ソレも

有りかとは思いますが、やはり生存競争を勝ち抜いた遺伝子の方が生まれてくる子も良いような気もしまして」

あくまで気分と言われたらそれまでですが、アレも立派な生存競争です。

『なるほどな。一理ある』

戦いを勝ち抜いた遺伝子の方が強い子が生まれるというのは一定の説得力がありますよね?

「それに体外受精なんか認めたら、師の遺伝子情報がどんな扱いを受けることになるかわかりませんよ?」

冷凍保存されて高値で取引とかされたりする可能性だってあります。

まぁ私も兎もそんなのを許す気はさらさら有りませんが。

『あぁ、ソレもあるか。それなら妾

でもなんでも普通に相手した方が俺も
相手もマシだよな』
「ですね」
基本的にヤリたいことをヤリたいように
するのが師ですからね。
女色に溺れないのは良い事だと思います
けど、もう少し気を使って欲しいです
『ソレはお前の仕事だからな。正妻と
しての仕事を奪う気はないぞ』
「・・・そうですか」
まったくもう！師と来たらいつもそうやって
不意打ちを・・・まぁ騙されてあげますよ！

ーーーーーーーーーーーーーーーー

『さて少尉、三日振りですね』
「はっ！」
今まで何の連絡も無かった少佐殿から

急な直通連絡が来たから緊急事態かと
思ったら、特にそんな感じはしないな？
凰准尉は居ないが簪特尉は居る。
これは専用機の進捗状況の確認とか、
護衛に関する打ち合わせですかね？
『今回の連絡は軍務や業務ではなく、
プライベートのモノとなりますので
それほど身構える必要はありませんよ』
「はっ！」
ぷ、ぷらいべーと？私生活だよな？ここ
数日は実験と勉強と鍛錬しかしてないけど、
何か問題あったっけ？
『本来このような申し出はとても無礼な
モノであり、喩え上官であっても、いえ
上官だからこそ慎まねばならない事柄
なんですが、まずは落ち着いて聞いて下さい』
「はっ！」

無礼？少佐殿が私に？普通に「死ね」
って言われても無礼とは思われないと
思うんですけど・・・
『ラウラ・ボーデヴィッヒ、貴女は師の妾
となって師の子を産む気はありますか？』
「はい？」

師と言うのは教頭殿のことですよね？

妾って言うのは・・・なんでしたっけ？
それでえっと、子供を生むって？私が？

わけがわからないよ！

第29話

『えっと、あのですね。アレ？子供と言われましてもその、私がまだ子供らしいですし？』

あぁ、やっぱりラウラさん混乱してるね。

オロオロする銀髪ロリ・・・尊いっ！

まぁコレもいきなり本題を叩きつけて動揺を誘い、その後の話し合いを有利に運ぶって言う話術の1つだから、軍人のラウラさんが司馬少佐が作った流れに逆らえないのはシカタナイことだけどさ。

「では司馬少佐、私が説明しますね？」

こう言うのは副官で側室の私の仕事だもんね！

「えぇ。委細お任せします」

あ～司馬少佐はわかってるよね！この即断

即決に言葉選び！ナチュラルに私の副官魂に火を着けますよねぇ！

『「・・・」』

おっと、待たせちゃった？今は説明説明っと。

「それじゃあラウラさん。とりあえずコッチが現在心配してることと、大佐殿のお妾さんになるって事がどういうことかを説明するから、落ち着いて聞いてね？」

こう言うのは焦っても良いこと無いからね。

『あ、あぁ、よろしく頼む』

相変わらず素直だよねぇ。この子は変な男に騙される前に保護しなきゃダメだと思うんだ。

「うん、それとコレはあくまで私たちが勝手に考えてる事だから、ラウラさんからしてみたらはっきり言って余計なお世話だと思うの。

だから別にラウラさんが嫌なら断っても誰も叱らないし、直ぐに決めなきゃいけない

問題でもないから焦らなくて良いからね？」
大事なことだから何度でも言いたいけど、
落ち着いて、焦らずに聞いてほしいよね。
『そ、そうか。ならすまんが説明を受ける
前にちょっと深呼吸させてくれ』
「うん。どうぞ」
『ひっひっふー。ヒッヒッフー』
「「・・・」」
お～い。ヒッヒッフーは深呼吸じゃないぞ～？
誰だ～ラウラさんに嘘教えたヤツは。
司馬少佐もいきなり出産準備されて
どうして良いかわかって無いじゃない。
まぁ、遺伝子の関係上ラウラさんと絡むのは
キサラギさん達だろうから、あとで研究室の
人達は事情聴取だね。
だけど、気持ちはわかるよ。
素直な銀髪ロリは尊いからね！

『よし、も、もう大丈夫だ』
おや、ちゃんと産まれたのかな？
「・・・特尉説明を」
「はっ！」
冗談さておき、ちゃんとやりますか。
「じゃあ説明するよ、つまり・・・」

カクカクシカジカオメカケサントムートンイトウ

『・・・ってことなの』
「なるほどな」
うん。言いたいことはわかった。確かに私の子供云々の話になれば遺伝子操作の影響も出るだろうし、そもそもがまともに

病院にすら行けない身だからな。
今はともかく、１０年後を見据えれば私に後ろ楯が有った方が良いのも事実だし、
今なら教頭殿の周りにも妾や愛人が居ないからな。
正妻の司馬少佐殿としても、どこの誰ともわからん女に教頭殿の子を産ませるくらいなら、裏切りの心配がなく変な後ろ楯も無い私に子を産んで欲しいと言うのもわからなくはない。
私自身、ドイツとの政治的な優位を生むために引き取られただけだから、最悪生きてさえいれば良いなんて扱いになる可能性も有るわけだし・・・妾だと公式には妻としては扱われないが、李家の中では大佐殿の子供の母親としての立場が得られるわけか。
うん。まぁ特に問題ないんじゃないか？

お節介と言えばお節介だが、私にとって損は無いし、司馬少佐殿や簪特尉が認めてるなら妾だからと言う理由で不当な虐待もされることは無いだろうし。
そもそも司馬少佐殿や教頭殿が引き取ってくれなければ、証拠隠滅の為に事故死させられてた身。
廃棄の前に性的虐待もされる可能性だって有ったんだから。
それに愛人扱いとは言え母子ともに実験動物として扱われるよりは、まともに扱って貰えるんだからその方が良いよな。
更に相手が教頭殿だと言うなら、我が身を預けることに異論があるはずも無い。
「私としては何の問題もありませんね」
むしろお願いしますと言うべきだろう。
『少尉の決断に感謝します。ただ、初夜に

関しては明日の夜に私も冬林技研に行きますから、その際にしてもらいます。
コレは大丈夫ですか？』
し、初夜か・・・正直少し怖いんだが、
まぁいずれは経験することだしな。
別に死ぬわけでもないし、痛いと言っても
命奪崩壊拳に比べたらマシなはず！
それに少佐殿や簪特尉も越えた道だし、
ここは覚悟を決めるべきだろう！
「はっ！問題ありません！」
『ふむ。この度の無礼な申し入れに対して
即決と快い承諾に重ねて感謝を』
無礼って言う程でも無いと思いますけどね。
『私達も、軍の柵が無くなったラウラさん
には自由恋愛させてあげれれば良かったんだけど・・・どう考えてもラウラさんには
普通の男の人との恋愛って難しくて。

力不足でゴメンね？』

うん。まぁ確かに真面目に私の事情を考えたら、自由恋愛なんか出来ないよなぁ。

今までは特に気にしたことは無かったが、１０年後・２０年後を考えればやはり今のうちにこう言う選択を出来たことを幸せに思うべきなのだろう。

それに私の将来をここまで心配してもらえたことに感謝すべきだとすら思うんだがなぁ。

「今まで特に恋愛など考えたこともなかったし、良い切っ掛けになったと思ってるから謝罪は不要だよ。これからは女としても特尉の後輩となるから、その、なんだ。よろしく頼む」

司馬少佐殿は女としても主になるんだよな。

しっかり鍛えて護衛せねばならん！

『うん！これからもよろしくね！』

ふっ、ただの部品でしかなかった私が、

善き上司と善き同僚、善き職場に善き伴侶まで
得ることが出来るとはな。
・・・公私共に順調と言うか、未来は明るい
と言うかはわからんが、少なくとも過去には
全く興味が無くなったよ。
何せアレほど忠義を誓っていたドイツに、
今や欠片も未練を感じないのだから。
なんでも明日以降にドイツ軍は一度潰される
らしいが、まったく気にならんからな。
未だにＶＴシステムの稼働実験を辞めてない
って馬鹿じゃないか？
一度私達の件で軍部を洗い出したんだろ？
そりゃ反省の色なしと見なして潰されるよ。
まぁ私以外のデザインチャイルドは軍務
から外されたらしいから、後に残るのは
国を欺き我々を利用してた連中だ。
連中が自浄出来ないと言うなら滅べば良いさ。

「ま、まさかシャルが女だったなんて！」
コレは・・・どうすれば良いんだ？
千冬姉は知ってるのか？いや、知って
いたら俺と同じ部屋にはしないよな？
山田先生だって普通に男子として扱ってたし。
「今まで騙しててゴメンね・・・」
「いや、まぁ、うん」
この場合、なんて言うのが正解なんだよ?!
なんかフランスの会社が第三世代機の開発が
出来てなくて？少しでも俺の情報を得て、
自分たちの第三世代機開発に役立てたいって
話らしいけど、別に俺の情報を集めても
第三世代機の開発には関係無くないか？
いや、今はソレよりも考えなきゃいけない
事があるよな。
「とりあえず今後どうするかだ。まさか

ずっと学園中のみんなを騙し通せるなんて
ことは無いからな」
今回は事故だったけど、その事故が今後
二度と起こらないなんて有り得ないし、
そもそも臨海学校はどうする気だったんだ？
「今後かぁ・・・普通なら産業スパイとして
捕まるか、アラスカ条約違反として捕まるか、
少なくとも公文書偽造の現行犯で捕まるね」
捕まってばっかりだなっ！しかも全部現行犯
だから始末に終えない。
て言うか一体シャルの親は何がしたかった
んだよ？コレってシャル一人を切り捨てて
終わる話じゃ無いだろ？
とりあえず、すぐに千冬姉に相談するか？
いや、ＩＳ学園としてもシャルは地雷だ。
男だと思ってたら騙されました♪なんて
軽い感じで扱われることなんかないよな？

シャルが言うには、下手に爆発される前に
証拠隠滅とかする可能性もあるって話だし。
千冬姉がそんなことをするとは思わないけど、
真っ向から逆らったら間違いなくＩＳ学園と
仲が悪くなるよな？
折角まともな就職先を見つけたのに、面倒事
に捲き込んで千冬姉を無職になんかさせる
わけにはいかないし・・・
ん？就職先？就職先かぁ。
そうだよ冬林技研はどうだ？ドイツのニュース
は俺も見たけど、ラウラは軍人だけど学生で
無関係だからって言って受け入れたんだよな？
シャルもフランスやデュノア社に強要
されたってことにして、司法取引みたいな
ことは出来るんじゃないか？
公文書偽造だって、正確にはシャルがやった
わけじゃ無いだろ？

誰かに指摘されて捕まるんじゃなく、
自首なら扱いもマシになる可能性も高い。
デュノア社が文句を言ってきても、普通に
はね除ける力も有るよな？
アレ？意外と良いアイディアじゃないか？
学園には司馬さんも居るし、リンが居てくれ
れば繋ぎも取れるよな？
問題はシャルを受け入れてアッチに何の得が
有るかって話なんだけど、これは俺たちだけで
考えてもダメだな。まずはリンに相談しよう！
セシリアや箒は・・・ダメだ。建設的な意見
が出てくる気がしない。
あとの問題はシャルが親御さんを裏切ること
が出来るのかどうかだ。
司法取引なんかしたら間違いなく向こうには
帰れなくなるからな。
「シャル。シャルにフランスを、デュノア社

を捨てる覚悟が有るなら何とかなるかも知れないぞ」

シャルが嫌だって言うなら別の方法を考えなきゃダメだけど。今のところはこれしか無いと思う。

リンが新しい意見をくれるかもしれないけど、それだってリンに相談しなきゃ駄目だしな。

「なんとか、なるの？」

「あぁ。とは言ってもあくまで可能性だけどな」

アッチも会社だから、何の利益もなく自分達が潰れるような真似はしないだろうけど、逆に言えば利益が有れば説得は不可能じゃない。

「・・・僕はフランスからもデュノア社からも捨てられたようなモノだからね。

もうお母さんも居ないし、あんなところにこだわりなんか無いよ」

よしっ！いや、良いことかどうかはアレ

だけど、コレなら何とかなるかも知れない！
「よし、なら直ぐに相談に行こう！」
こう言うのは時間をかけちゃ駄目だ！
「そ、相談？織斑先生に頼むの？」
不安そうだな。まぁ千冬姉に頼むってことはＩＳ学園に頼むってことだし、あらゆる政治や組織に関わらないってことは、学園を出たら守らないってことでも有るからな。
今後一歩も学園から出られないなんてなったら困るって言うのは当然だ。
だけど冬林技研は違う！・・・と思う。
「いや、まずはリンに相談する。シャルのことを話すことになるけど、良いか？」
冬林技研だけじゃなく、中国としても取引が出来るかもしれないしな。
「凰鈴音さんか。確かに彼女達ならなんとか出来るかも・・・」

これは相談するのはＯＫってことだよな？
て言うかそもそも正直俺一人でなんとか出来る
ような問題じゃないだろ。
キサラギさんも常々言ってたが、努力で
なんとかなることは多々ある。
だけどお金は無理なんだってばよ。
ＩＳ学園で三年間時間を稼ぐって言っても、
シャルの専用機の整備はデュノア社だし、
維持費とかはフランスが出してるし。
どうしたって問題にしかならないだろ？
万が一そこが何とかなっても、その後の
生活とかどーすんだよ？
学園から出られないから出会いもないし、
ずっと無職のニートするのか？ダメだ働け。
最悪専用機は無くすけど、ラウラみたいに
移籍とか、もしくは亡命とかした方が今後の
生活基盤を整えることが出来るんじゃないか

って思うのは間違って無いと思うぞ。

「リン、頼む！力を貸してくれっ！」
「（；・ω・）」
夜の鍛練が終わってからシャワーを浴びて、
サメ映画を観ながら呼吸を整えてたら一夏が
フランスの阿呆を連れて、何やら頼みに来た
件について。
いや、まぁ一夏に頼まれたら大概のことは
嫌とは言わないけどさ。
アレでしょ？フランスの阿呆と話してて
自分の近接戦闘技術の拙さを解消する為には
私の協力が必要だって感じになったんでしょ？
そんで、時間とか考えずに突撃してきた
感じよね？
普通ならこんな夜中に来たら夜這いとか
勘違いするかも知れないけど、私は騙され

無いわよ！
だってフランスの阿呆も居るもん！（＃　。Д。）
「まぁ部屋の前で頭を下げられてもね。
とりあえず中へどーぞ（Φ ω Φ）」
「お、おう。すまん」
「お、お邪魔します」
一夏一人だけなら良かったんだけどねぇ。
「んで、私はどう力を貸せば良いの？」
私の動きは基本的に勘頼りだからね。
きちんとした技術を得るなら基礎鍛練から
きちんとするべきなんだけど、一夏に合った
鍛練となるとねぇ。
簪や司馬様ならトレーニングメニューを
組めると思うけど、簪は一夏が嫌いだし、
まさか司馬様にそんなの頼むわけには行か
ないからね。
とりあえずは走り込みと三次元戦闘の基礎

を教えなきゃ駄目かな？
「驚かないで聞いて欲しいんだが・・・」
ん？驚く？
「じ、実はここに居るシャルは男じゃなくて
女だったんだ！」
ん？ソレがどうしたの？
「「・・・」」
あ、なんか言わなきゃ駄目な感じ？
「ふーん、それで（Φ ω Φ）？」
いや、それで何なの？私に相談に来るって
ことは今は千冬さんがＩＳ学園に報告を上げて、
轡木十蔵がフランスと協議中なんでしょ？
私に何をしろと？コイツの友達になれとか？
「いや、それでって・・・」
「ぼ、僕が言うことじゃ無いと思うけど、
何て言うか・・軽すぎない？」
本当にアンタが言うことじゃないわよね。

てか、もしかしてバレてないと思ってたの？
「そう言われてもねぇ。最初から知ってたし？」
「えぇ?!」
いや、そんな完全に予想外って顔されても。
コイツら世の中舐めすぎじゃないかしら？

知ってた？しかも最初からって?!
「ち、ちなみに最初っていつからだよ?!」
「え？ソイツが願書出して承認された後だろうから、４月の中頃くらいには情報が来てたかな？」
入学する前から知ってたのかよ！
「それで、何で何も言ってこなかったんだ？」
「いや、ＩＳ委員会からの正式な承認を得て転入してきたのよ？何か理由が有るって考えるのが普通じゃない（Φ ω Φ）？」
「あぁ・・・」
・・・それはそうだよな。フランスが

知らないわけないし、ＩＳ委員会だって調査くらいするよな。

「そもそも一夏は男性操縦者の価値を軽く見すぎなの。ソイツが本当に二人目ならただのクラスメイトじゃ済まないのよ？」

軽く見すぎ？

「ＩＳが男も使えるとなれば、戦争利用は勿論のことだけど、冬林技研でやってるような医療とかにだって使える人間が増えるのよ？専門の医療知識を持ったＩＳ乗りが世界に何人居ると思ってるの？」

「まぁ、ほとんど居ないよな」

千冬姉ですら兵器としか認識してないんだ。

研究者だって大体は工学部卒業だろうし、医学部を卒業してＩＳの技術を持つ人間なんてどれだけ貴重なのかって話だろ？

「そう、ほとんど居ないの。今からそんな

人間を鍛えるのも難しい。だけど、今いる経験豊富なお医者さんがＩＳを使えたらどう？」

「あっ！」

そう言うことかっ！わざわざ子供を鍛えなくても、経験豊富な男の先生がＩＳを使えればソレだけで良いんだ！

ＩＳが普及する前は医学とかは男の教授が多かったし、ＩＳを背景に女権団体関係者に無理やりその座を奪われた人たちは最低限の引き継ぎはしたけど、技術や経験の伝授はしなかったんだよな。

そんな人たちがＩＳを使えるようになったら、まさしく技術革新が起こる！

「今のは医術で例えたけど、実際には様々な分野で男は不当な扱いを受けて社会的地位を奪われたの。ＩＳに関係あることから全く関係無いことまでね。一夏の存在は、そんな男の

人たちにとっての希望なのよ」
技術者とかもそうだよな。
様々な経験を持つ職人の人たちが不当に
その職を奪われたり、差別や冤罪のせいで
会社を潰されたりしたって話は良く聞く。
そう言った人たちから見たら俺は・・・
「そんな時に見つかった二人目でしょ？
しかも二人目以降は見つかってないときた。
そりゃ世界中の諜報組織が家族構成から何から
徹底的に調べるわよ。一夏との共通点が
あるかどうかなんて最優先事項じゃない？」
「な、なるほど」
それはそうかも知れないな。
「デュノア社の社員だって何人も狙われてるし、
フランス政府が多少の警備をしてるみたい
だけど当然限界はあるわ。本人の拷問や家族を
人質にとっての尋問だって当たり前よ？」

「ご、拷問?!」
「そんな、やりすぎだろうっ!」
いくらなんでもそこまではしないだろ?!
「やりすぎじゃないわ。それだけ二人目の男性操縦者には価値があるの。偶然の一人目とは違う、必然の二人目なんだからね」
「必然の二人目・・・」
世間的にはそうなるのか?
「一夏、貴方は現状を甘く見すぎ。前に分解させてくれって言われたって冗談混じりに言ってたけど、笑い事じゃないわよ?これから先、ＩＳを使える男が一人も生まれなければ必ず一夏を捕まえて実験しようとする連中が現れるわ。
子供が産まれたらその子供は国が管理する病院に隔離されて管理されることになるし、精子から遺伝子情報を抜いて勝手に体外受精

させたりする可能性もあるのよ?」
こ、子供って。いや、それ以前に研究に実験?さらに勝手な体外受精?!
そこまで・・・するんだろうな。
キサラギさんならそのままクローン創ったり、変な生き物と合成するくらいはヤるもんな!
趣味でそんなことをするヒトが居る以上、国からの命令でヤることは有るんだろう。
「あんまり自覚が無いからお説教みたいに言っちゃったけど、本当に気を付けなきゃ駄目なんだからね?」
「あぁ俺の存在もそうだが、シャルの存在も俺が思ってた以上に重いんだってことは良くわかった」
そこまでのモノなら当然背後関係は調べられるだろうし、デュノア社の人間ならシャルが女だってのは知ってるよな。

それで、中国の諜報機関もそのことを
しっかり把握してたわけか。
「ソイツが本当に男だったらね。今まで
何も無かったのは、おそらくソイツが得た
一夏の情報を他の国にも分配するって取引
があるからじゃないかって言うのが私たち
の予想よ」
「はぁ?俺の情報の分配?!」
だ、第三世代機じゃないのかよ!
「そりゃそうよ。白式の情報を貰っても
基礎技術が足りない国には意味無いからね。
それに解析や再現が終わる頃には今の試作機
じゃなく完成型が出来てるでしょ?」
「そ、そうだな。あっちが研究してる間も
こっちだって研究開発してるんだもんな!」
最新型を造らなきゃ駄目なのに、出来上がる
のが劣化版じゃ意味がない。

「それなら男の操縦者の情報があった方が良いに決まってるじゃない。宗教関係は殆ど男性優位か男尊女卑だったりするしね」

「な、なるほど！」

さっきも言ったように、男が使えるようになれば世界が変わるんだもんな。

特に宗教は厄介だ。イスラム教やヒンドゥー教をはじめとした宗教関係は殆どが男性優位だし。

いや、ソレを考えたら俺はなんで無事なんだ？

かなりヤバいところに居るんじゃないか？

「で、そんな事情を完全に無視して中途半端に男性操縦者に偽装してることで、世界中の諜報員から失笑されてるシャルロットさんに対して、私は何をすれば良いの？

いくら一夏の頼みでも、ここから誤魔化すのは無理よ？」

「な、名前までバレてるんだね・・・」

そりゃそうだ。男装云々じゃなく、既にデュノア社の人間から血縁関係やら背後関係まで全部情報を引き出されて、本当の意味で全部知られてるんだからな。

だけどそれなら話が早い！

「頼む！シャルを冬林技研で保護する方法を一緒に考えてくれ！」

「（。Д。）ハァ？」

流石に司馬さんに直訴するだけじゃダメだ。何か利益を提示しないと取引は出来ない！

て言うかそんな感じで接触したら間違いなくキサラギさんが来るっ！

さっきの話を聞いて確信したっ！最悪の場合すでに俺のクローンが造られてて実験とかされてそうだし。

人間の形をしてたらアレだからって言って、俺と同じ遺伝子配列のタコとかサメを造って

合成とかしてるんだろ?!
ＩＳ関係ねーじゃん！ってツッコミすら無視して好きなモノを造るくらいはヤるヒトだ！
だから、あくまで取引じゃなきゃダメなんだ！
貸し借りは絶対に作っちゃダメなんだ！

いや、冬林技研で保護ってどう言うこと？
千冬さんが上に報告してるんじゃないの？
「えっと、千冬さんはシャルロットさんのことを知ってるのよね？」
こんな奴にさん付けなんかしたくないけど、今は一夏が守ろうとしてるからね。
司馬様や簪からもコイツの存在は認めた方が良いって言われてるから邪険にはしないけどさ。だからって無条件で守る

ような事はしたくないんだけど。

「いや、まだ伝えてない。千冬姉なら守ってくれるかも知れないけど、そのせいでＩＳ学園と仲が悪くなって辞職とかされても困るしな」

あぁ、中途半端に政治を考えたのね・・・

さらにＩＳ学園をただの学校みたいにしか思ってないから、さっきの諜報云々とは無関係だって考えてるのかぁ。

だけど、駆け落ちみたいな感じで、全てをなげうって動かない分だけマシなのかしら？

まぁ千冬さんの辞職が絡むから、姉魂の一夏にしたら選べないわよね。

それで私を頼ってくれたのは嬉しいけど。

さて、この場合どうするべきかしら？

たしかコイツが自分の意思で全部捨てて亡命を望むなら受け入れるって話だったけど、一夏経由で来たかぁ（；・ω・）

コレでコイツが助かれば、一夏の中で
私の株は上がるかもしれないけど、
頼りになるトモダチで終わりそうなのよね。
対してコイツは「ありがとう一夏♥」とか
言い出して女として押していくわよね？
一夏にしてみても最低限の責任は取ろうと
するだろうし。かといってここで私が
断れば、私の株は『使えねぇヤツ』って感じで
ガタオチするわよねぇ。
まぁコイツに関しては後で考えるか。
「とりあえずシャルロットさんの事情を
聞いていくから、録音させてくれない？」
まずは証言を録らないとね。
「「録音？」」
一夏はともかく、なんでコイツはこんなに
無関心なのよ？
「もし冬林技研で保護するなら扱い的には

亡命に近いものになるからね。
司馬様を説得するためにも今のシャルロットさんに何が出来るのかを纏めたいし、きちんとした形が欲しいのよ」
「そ、そうなんだ？」
コイツみたいに一夏の影に隠れてるようなヤツって、司馬様が一番嫌いなタイプだし。
逃げ道塞いでハッキリと意思表示が出来ないと、話にならないわ。
証言データさえ取れれば、政治的には問題ないでしょうしね。
「なるほど。確かに自分に何が出来るかを自分で理解してないと他人の説得なんか出来ないもんな！」
一夏もなぁ。他人に流されないで自分で考えることが出来れば良いんだけど、まぁ今の環境じゃシカタナイわよね。

私はまだ何も確約してないのに、証言
データを渡しちゃ駄目でしょ?
相手が私だからともかく、螺旋頭とかなら
何も考えないで本国の担当に連絡してるわ。
「くれぐれも内密に!」とか言って相談して
しっかり周りに聞かれるのよね。
その結果フランスもデュノア社もコイツも
潰されて終わっちゃったりするのよ。
・・・ま、今回は信頼の証ってことにして
おこうかしら?

「じゃあ始めるわよ～・・・」

カクカクシカジカシャルロットムートンイトウ

はぁ、聞けば聞くほどフランスの連中のアホさ加減がわかるわね（；￢＿￢）
そりゃマジノ線要塞群造るわよ。
さて、この音声データを司馬様に渡してあとはコイツをどうするかって話なんだけど・・・
今日はもう遅いしとりあえず二人を部屋に帰して、明日の朝イチにでもデータを渡しに行こうかしら？
それとも女ってバレたんだから、ここに泊める？
確か簡易ベットとか寝袋は有るわよね。
うん、そうしよう。何が悲しくて一夏の寝室に女を入れなきゃダメなのよ！
そうと決まればさっさと準備をさせないと。
「一夏、今日はもう遅いからアンタは部屋に

戻った方が良いわ」
別に泊まっても良いけどね（Φ ωΦ）
「あ、あぁそうだな。もうこんな時間か。
夜遅くにすまなかった」
「ご、ご迷惑をおかけしまし「待たれよ」
たって。え?」
何さらっと一緒に帰ろうとしてんのよ?
「シャルロットさんはコッチ。今までは男って
誤解されてたから良いけど、女ってわかった
以上同じ部屋はダメよね」
「「え、えぇ?!」」
当たり前でしょうが。誰が許すか（# 。Д。）
「一夏だって嫁入り前の女の子をキズモノに
したって言われたら困るでしょ?」
責任取れって言われてもねぇ?
「しねーよっ!」
よし、まだちゃんと女としては見てないわね!

「一夏はそうでも周りが勝手に騒ぐのよ。
シャルロットさんのお父さんとかさ」
これは冗談抜きで。なんかかなり執着してるんでしょ?きっと娘の為の最後の贈り物と言わんばかりに騒ぐわよ?
「むっ。父親か。娘と男が同じ部屋にいたらそれは有るかもしれないな・・・なんたってシャルを利用する気しかないんだもんな」
「・・・そうかも」
二人とも父親の真意を知らないからねぇ。わざわざ教えてやろうとも思わないけど。
それに、さっき男の操縦者の価値を散々話したからね。
下手に口実を与えたら危険だって、少しは危機感をもってくれたみたい。
「わかったら簡易ベット出すから手伝ってくれる?ソレが終わったらシャルロットさん

は部屋から着替えとか寝具を持ってきてね」
「お、おう！」
「は、はい！」
誰かに見られたら変な噂が立つかもしれないけど、まぁすぐに女だってわかることだし。
何より一夏は誤解だって知ってるしね。
さて、後は政治のお話だから司馬様と副所長さんにお任せよ～（Φ ω Φ）♪
ん？そう言えば司馬様って・・・（。Д。）ヤバイ！

およ？リンちゃんから連絡？今日はサメ映画観て寝るって言って無かったっけ？
「もしもし？どうしたの？」
もしかして次をお望みかな？
『簪―！助けて！このままじゃ私、司馬様に

殺されちゃうっ！』

いや、殺されちゃうって、そんな大袈裟な。

そもそも司馬少佐は殺すとき相手に

予兆なんか見せないでしょ？

「何をしたか知らないけど、明日は命奪崩壊拳だよ？ソレで全部許してくれるんじゃない？」

基本的に司馬少佐は引き摺らない

ヒトだからね～。

『無理だと思う！これから司馬様のところに行くから、何とかフォローしてっ！』

「これから？」

もう２２：００過ぎてるよ？それなのにわざわざ会いに行くって言うなら相当な非常事態なんだろうけど、ソレなら司馬少佐だって普通に応対するよね？

それなのに殺されるの？

わけがわからないんだけど？

リンちゃん・・・君は一体何をしたのかな？

第30話

「し、司馬様ー司馬様ー（；´д｀）」
めっちゃ小声だし。なんて言うか、寝てたら良いな～的な下心が見え隠れしてるよね。
悪いけどアポとってるから無理だと思うよ。
「リンちゃん。それじゃ聞こえないって。せめてノックしようよ」
いやまぁ、気持ちはわかるけど。
まさかフランスの阿呆がアホの織斑を巻き込んでリンちゃんに相談してくるとは。
いや、正確にはアホの織斑がフランスの阿呆を引き連れてリンちゃんに相談して来たんだけどさ。
て言うか、タイミング悪すぎない？司馬少佐は明日冬林技研に行くって言ってたよね？

先週だって向こうに行けなくてストレス溜めてたのに、下手したら今週もって・・・
先週のラウラさんに関しては大佐殿の意向だし、任務兼ご褒美のナニか（最終的になんなのかわかってないんだよね）もらったし、なんだかんだで頼りになりそうなお妾さんも見つかったから良いけどさ。
今回はどーでも良いフランスの阿呆でしょ？
アイツのせいで大佐殿に会いに行く機会を潰されるってなったら・・・普通に殺されちゃう可能性を考えちゃうよねぇ。
私ですら「何でこんなヤツの為に」ってなるだろうし。
て言うかぶっちゃけコレって来週でも良かったんじゃないの？
別にフランスの阿呆の性別がバレても私たちは痛くも痒くもないんだしさ。

明日は休ませて、土日は部屋から出ないようにして、月曜に報告でも問題ないような気がするんだけど。
しかも何でわざわざ部屋に入れちゃうかなぁ？
私が個室なのはイジメが口実だけど、リンちゃんは専用機持ちなんだよ？
アホの織斑なら連れ込んで秘密を共有って形でも良いけど、何でスパイを泊めるの？
意図的に情報を流したって言われたら、関係者共々スパイ容疑だよ？
中国国内においてリンちゃんの敵はかなり多いんだから、その辺は気を付けなきゃダメなのにさ。
報告・連絡・相談は基本だけど、今回は返事を保留して二人を部屋に戻してから私に相談するだけで良かったんだよね。
そしたら「フランスの阿呆がリンちゃんに

接触してきたみたいです。来週接触して詳細を纏めておきます」って感じに出来たのに。
週末は私達も命奪崩壊拳だから、身動きとれないからシカタナイねってなってたと思うんだけどなぁ。
それなのに、司馬少佐に連絡入れてから私に相談されてもねぇ。正直困るよ？
「リンちゃん。諦めて普通に報告しよ？
骨は拾ってあげるから」
流石にフォローは無理だけど。
「いや、助けてよ！（　。Д。）、；・・」
唾飛んでる唾！司馬少佐の部屋の前だよ？
あんまり騒いでたら明日を待たずに尊厳が崩壊しちゃうんじゃない？
「・・・准尉、夜分に騒ぐモノではありません。
ナニか急ぎの報告があるのでしょう？
どこぞのチョビヒゲじゃ無いんですから夜間

だからと言う理由で罰したりはしませんよ」
ですよねー。ただ威力が増すんですよねー。
「し、司馬様・・・」
まさしく『絶望』って感じだねぇ
「いや、何で准尉が絶望してるんですか?
報告が有ると言ってきたのは准尉ですよね?」
ですよねー。自分から呼んでおいて出て来たら
絶望って、普通にシツレイですよねー。
「は、はい。この度は誠に申し訳ございません!」
なんて早い土下座!私じゃなきゃ見逃し
ちゃうね!
「・・・夜分に部屋の前で、大声出して土下座
するのは止めなさい。
ソレは謝罪ではなく嫌がらせです」
ごもっともです。
「す、スミマセンデシタっ!」
だから大声出すなってば。まぁ今回は大佐殿

も絡むからねぇ。
普段からお世話になってるお二人に迷惑をかけるんだから、戦々恐々するのもわかるんだけどさ。
「話が進みませんね。特尉、その土下座人形を部屋に運び入れて下さい」
「はっ！さぁリンちゃん。行くよってアレ？」
ん？う、動かない?!ここに来て意地でもこの場を動きたくないと言う、部屋から絶対に出ない引きニート並の抵抗だとっ?!
「か、簪。なんとか、なんとかならないの?!」
いや、土下座しながら小声で必死に聞かれてもね。
まぁここで「私も内容は聞きましたが、来週でも大丈夫だと思いますよ？むしろ聞いたら司馬少佐の週末が潰れるから聞かない方が良いと思います」って感じに

話をもって行けば大丈夫かもしれないけど。
「特尉、さっさと運びなさい」
「はっ！」
悲しいけどコレ、命令なのよね。
「お願い、お願いだからなんとかしてー！」

あきらめろん（ノ―＿―）ノ┣┫ ウワー

夜間にも関わらず准尉が急ぎの報告が有ると言うから、サメ映画の鑑賞を中断して報告をさせようとしてみれば・・・何で報告を嫌がってるんでしょうね？
しかし、雪の中を泳ぐサメは予想外でした。
雪って固体ですよ？泳いだら穴が空くし、通過した所は「すぼっ」て行きますよね？
雪が薄いところなんか普通に地面まで泳いでるじゃないですか。

穴は空かないの？
アイスなのかスノーなのか。
シャークなのかジョーズなのか
はっきりしなさい。
何故か露天風呂みたいな感じの風呂を
作って無理やり露出シーンを出すのもねぇ。
雪山で何してんだ。建物の中に作れよ。
まぁ師が言うには、サメ映画である以上
水着の女は必要不可欠らしいですけど、
師はあんな感じの水着が好きなんですかね？
・・・ふむ。少しパターンを解析してみる
べきでしょうか？
アルバト〇ス・・・あなどれません。
いや、監督のスコット〇ホイーラーは確か
シャーク〇ードの撮影担当でしたね？
となると元凶はアサイ〇ムですか？
しかし連中はサメの可能性を追究している

ＨＥＮＴＡＩ共かと思いきや、コンセプトは何故か『低予算でサメ映画』ですからね。
監督や制作会社も、当たったら続編を作る程度の情熱。
だからこそ色々模索してるんでしょうが、とにかく数と発想が凄い。
しかもアイツらに時間と予算を与えても、質が向上すると言うことは無いと何故か断言出来るのがまた凄い。
なんたって同じ俳優、同じロケ地で別のタイトルもあるし・・・あらかじめ何パターンか撮影してるかのような錯覚を覚えましたが気のせいですよね？
うん。結論としては新しい発想を得ると言う点においては無駄では無い。
師との話題にもなりましたし。
いやはや、あのサメをどうやって倒すのか。

終わりが楽しみになってきましたね。
ふむ。今度兎とキラサギに宇宙を泳ぐ
サメの研究をさせましょうかね？
ＩＳは宇宙服ですからアレですが、ＡＣには
明確な敵が居た方が色々進化する
かもしれませんし。
対宇宙サメ用武装とか師と考えるのも
面白いかもしれません。
いや、コレは特尉や少尉も交えて討論
すべき内容かもしれませんよ。
それとも先にキサラギが造ってるナマモノ
にサメの因子を加えてみますか？
元が海洋生物ですから海に放つなら、
それほど調整が必要とも思えませんし。

・・・臨海学校に向かった生徒を襲うサメの
ようなナニか。ソレを迎え撃つ准尉！なんて

面白そうですよね?

師が喜ぶアトラクションになるかも?
まぁソレはソレとして・・・
「いい加減報告を受けたいのですが、本気でサメ（?）と戦いますか?」
いつまで土下座してるんですか。土下座のまま運ばれるとか、何をしでかしたんです?
「サメ（?）って何ですか?!（。Д。）」

サメ（?）って、そりゃあサメのようなナニかだよ。
うんうん、司馬少佐にも布教が進んでいるようで何より!
まぁ大佐殿があのネタを理解してくれる人だもんね。
大佐殿の事を理解したい司馬少佐にして

みたら、アレも研究する対象なのかも。
根が真面目な人だから、変な風に感化
されなきゃ良いけど・・・もしそう
なったら私のせいになっちゃうかな?!
し、正気に戻すためにナニか用意しないと
ダメだよね！
アニメの実写は・・・元ネタがわからないと
意味がないし、普通のアニメは普通だし。
じ、ジャパ〇パークなフレンズに癒しを
・・・ダメだ！キュルカスが居るっ！
ま、まぁ少しずつ普通の映画にして行けば
良いよね？
「あのですねー、何と言いますか・・・」
「・・・はっきりしなさい」
うん。大佐殿から１０代女子相手の物理的な
矯正は控えるように言われてるから司馬少佐も
我慢してるけど、普通は上官の前でこんな

事してたら張り倒されるよね。
「ふぅ。特尉、貴女は准尉から何か報告を受けていますか?」
あ、リンちゃんに聞くのを諦めました?
「はい、一応概要は聞いてます。私としては特に急ぐ必要が無かったのを、リンちゃんが自爆してしまったように思えますね」
「か、簪、あんた裏切る気!?」
いや、話が進まないからね。
そもそも報告するって決めたのリンちゃんなんだから、裏切るっておかしくない?
「はぁ、准尉の自爆ですか?」
不思議そうにしてますけど、わかります。
今の状況で自爆して緊急報告をしなきゃいけない内容なんて想像出来ませんよね?
「簡単に説明しますと・・・」

カクカクシカジカアホトアホウガムートンイトウ

「何をやってるんですか・・・」
「・・・スミマセン」
まぁ亡命してきたら受け入れると言うのが基本スタンスでしたから、対応としては悪くは無いのかもしれませんが・・・何で阿呆を部屋に泊めるんです？
普通に部屋に帰せば良かったじゃ無いですか。
准尉の立場でスパイを受け入れるなど論外。
私とて師になんの連絡も入れず爆弾を抱え込んだとなれば、評価は・・・落ちないと思いますが、師の折角の休日が潰れてしまうと言うのは頂けない。

私や少尉の事も有りますが、師にだって
休日は必要なのですよ？
ＩＳ学園に連絡は・・・駄目ですね。ヤツら
は嬉々として我々を巻き込んでくるでしょう。
週末に准尉と特尉に命奪崩壊拳を使うのは
必須事項。今回の件も中途半端な学生気分
が原因とも言えますからね。
さっさと殻を破って貰わないと、今後にも
影響が出ます。
かと言って部屋の主が垂れ流しにしてたら
阿呆が騒ぎますよね。
つまり一度阿呆を部屋に戻す必要が有り
ますが、その理由が無い。
それさえなんとかすれば、あとは特尉が
言うように部屋から出さずに週明けの
対処で問題無いと思いますが・・・
まずは今日をどうするかですよ。

織斑一夏とて既に就寝してるでしょうし、
准尉がスパイを部屋に入れたのは事実。
学園もこの点を突いて来ますよねぇ。
織斑一夏なら男を連れ込んだで済む話ですが、
泊まった相手がアレだから我々も秘密を
知ったと言う事が確定してしまった。
今までのように知らなかったと他人事には
出来ません。
連中に後から公表されたなら「当然
知っていたが、何か意図があると思った」
と言った感じで行けましたが、しっかり
事情聴取までしちゃいましたからそういった
言い逃れも出来ないし。
今さら知らない振りをしても、阿呆や
織斑一夏とて黙って処罰は受けないでしょう。
特に阿呆は必ず我々に話したと主張します。
無視すれば共犯。告発すれば被告を守ら

なければいけません。
この状況でガキが三日間何もせず待てと言われて我慢できるか？秘密を守り通せるか？・・・無理だ。必ず暴発する。
休ませて隔離するにしても、その理由はどうする？同室の織斑一夏が「具合が悪くなった」等と言っても織斑千冬にはバレるだろうし、阿呆が自分で言ったところで、織斑一夏に確認されればボロが出る。
そうなれば、なし崩しに学園との交渉。
あぁ。師のお休みが消える。

とは言え、こちらで抱え込んでも政治的に遅れを取ることは決まってます。
かといって果断な方法を採るには、阿呆が信用出来ないし。
「そもそも阿呆は亡命を望んでるんですよね？

あとになって自分の提供した情報が生んだ惨事に対し、妙な責任を感じてわけのわからない行動とかとりませんよね？」

亡命とは自分の命以外の全てを投げ打つと言う行為。極論すれば「自分の命が助かるならなんでもする」と言う決意が必要です。

阿呆が一人で来たと言うなら、まぁ少しは信用しても良いかもしれませんが。織斑一夏に連れられて来たのでしょう？

こういう輩は何もかもを他人のせいにして、己の言動に責任を取ることはありません。

思考放棄して織斑一夏に依存して、そのまま織斑一夏が重みに耐えられなくなるまで寄生する寄生樹木のような存在ですよ。

「えっと、正確には『冬林技研で保護する方法を考えてくれ』って言われました・・・」

保護？政治的な保護と言う意味ですかね？

それとも少尉のように単純に所属を変えたいと思ってる？

アレだってドイツの首相や大統領との交渉をはじめとした、様々な取引があった結果なんですがね。

亡命は個人の意思と受け入れ先の意思が有れば出来ますが、所属の変更は互いの国家の意思が関わります。

そのへんの調整をどう考えているのやら。

「いっそ螺旋頭に話をつけて、イギリスに亡命させれば手っ取り早いのでは？」

螺旋頭とて己がまずい状況だと言うことくらい自覚してるでしょう？

・・・してますよね？

そんな時に転がり込んできた政治的な手柄。

さらに織斑一夏に恩も売れるとなれば、

一も二もなく飛びつくと思うんですけど。

「司馬少佐、ソレをやったらアホの織斑の中で
リンちゃんの評価が落ちちゃいますよ?」
「・・・あぁ。ソレもありますか」
「すみません・・・(゛Д゛)」
織斑一夏の篭絡は准尉に与えられた正式な
任務ですからねぇ。サポートすると言って
いる以上、投げやりには出来ません。
師にはきちんとお休み頂きたいのですが、
まさか「軍務より師の休日を優先するから
数日待て」など言えば、周りはともかく
師が私を許しませんよねぇ。
「とりあえず師に報告しましょう。あぁ、
准尉は部屋に戻って良いですよ。スパイを
一人部屋に置いて好きにさせるのはマズイ
ですからね」
一緒に居てもダメだし、一人にしても
ダメですからね。

なんでスパイを部屋に入れたんですか。
黙って織斑一夏と既成事実を作らせれば良かったものを。
「は、はい！」
「また緊急連絡があるかもしれませんし、何よりスパイの行動が読めません。
今日は寝ないで監視をすること。
映像記録もきちんと録るように。
准尉はスパイと接触しているが、情報のやりとりなどを行っていないことの証拠として、きちんと残してください」
焼け石に水ではありますが、やらないよりはマシでしょう。
「は、はい！」
「それと准尉の学生気分を何とかするには命奪崩壊拳では足りん。週明けには新血愁・心霊台で地獄を見てもらう。

アレの痛みは命奪崩壊拳の比では無い。
授業は全部休み。それどころか発狂死も
覚悟してもらうぞ」
尊厳死では足りません。コイツは一度死ぬ
べきと判断しました。
幻魔拳を使って恐怖公での蹂躙も考えましたが、
アレって私が味わった事が無いし、捕食の瞬間
等を細かく見たことも無いからリアリティに
欠けるんですよね。
・・・そんなことを口に出したら経験するか？
とか言われるから絶対に口には出しませんが。

「（　。Д。）」

「まぁ、今回は自業自得かな？」
ええまさしく自業自得です。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

『とまぁこんな状況でして・・・』

中々ぶっ飛んだ状況よなぁ。まぁ織斑一夏の部屋に女を入れたくないって言う１０代女子の気持ちはわからんでもないが・・・

大前提として、相手はスパイだからな？

そんなの部屋に入れちゃダメだろ。

「まぁ鳳准尉については新血愁・心霊台でかまわん。しかしお前の場合は確実に殺す事になるから、俺が殺ろう」

コイツは何故か命奪崩壊拳を試練の拳で、新血愁と心霊台は拷問用と思ってるからな。

拷問に容赦は不要！って感じで遠慮が無いから、今の准尉だと間違いなく死ぬ。

『そんな?!師にそこまでお手間を取らせるわけには行きません！』

まぁ気持ちはわかるんだが・・・
「そもそもアレが織斑一夏を巻き込んでくると考えなかった俺にも責がある。部下に責任を押し付けるような真似をさせてくれるな」
ほんとにな。国と企業に作られたスパイが同じ部屋に居るだけの、政治的な力を持たない男子生徒に何もかもを話して相談することも予想外だし、その男子が姉に相談せずに凰准尉に相談してくることも想定外。いやはや、俺の予想を超えてくるなんてヤルじゃないか。
『・・・申し訳ございません』
「ま、週末の暇つぶしが出来たと考えるさ。お前もコッチに来てゆっくり休めよ」
弟子も疲れてるだろうからゆっくり休ませてやらんとなぁ。

「とりあえず明日は授業を休め。
ＡＭ０６：００にそちらに迎えが到着するように手配するから、今のうちに准尉と簪とお前の外出届けを書いておけ」
『はい』
今の状況で学園に残しても良い事などない。
ヘタに絡まれる前に避難させる。
「それと准尉から阿呆にもその旨を伝えて外出届けを準備させろ。当然のことだが拒否は許さん」
拒否する権利など無いし、拒否したらフランスごと死んでもらう。
『はい』
「織斑一夏には准尉から、「学園に居たら何かの拍子でバレる可能性がある。危ないから冬林技研に避難する」とだけ伝えさせろ。寝てるならメールでもかまわんだろう」

アレは自分でも姉に隠し事が出来る性格じゃ
無いと自覚してるだろうから、特に異論を
唱えることはないだろうよ。
『なるほど、了解です』
外出云々については監査員としての権限
が有るから出ることは可能だろう。
届出だけ出してしまえば、許可が無くとも
出てしまえばいい。
あとはソレを知った轡木十蔵が動く前に
コチラも動く必要があるか。
「あとは・・・そちらでやることは
特に無いな。明日に備えて休むといい」
今から届出を書いて寝れば、4時間は
寝れるだろう。
本来子供は寝るものだからな。
『了解しました。私の監督不足で師に
このようなお手数をおかけして誠に申し訳

ございませんが、よろしくお願いします』

まったく、気にしすぎだ。

「上司が部下の面倒を見るのは当たり前だよ。師が弟子の面倒を見るのも、旦那が嫁の面倒を見るのもな。だから謝罪は不要だ。コッチにきたら飯を作ってくれて、茶を入れてくれればそれでいいさ」

ついでに仕事も手伝って貰おう。弟子と簪が居れば普段より処理速度は上がるからな。

『は、はい！精一杯頑張ります！』

うんうん。子供はそれでいいのだよ。

昔はそんな余裕がなかったが、今生は甘える事が許されるんだ。

精一杯甘やかしてやらんとな。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「さて束、仕事だ」
　こっからは大人の時間ってな。
「ん～？今の流れで束さんがする
　ことって何かあるのかな？」
　ふむ・・・コレは別に弟子を邪険にして
いるわけでは無くて、普通にわかってないな。
「フランスの連中とＩＳ委員会、そしてＩＳ学園
を嵌める。弟子にあんな顔をさせた連中を
ただで済ます気はない」
　阿呆共が。勝手に自爆してれば良いモノを
弟子を巻き込みやがって。
　迂闊な真似をした准尉もただで済ます気は
無いが・・・織斑一夏に関しては今回は
セーフだな。アレは自分が出来ることを
最大限やろうとした結果だ。
　学生ならあんなもんだし、周りに頼れる大人が

居ないのは本人のせいでもない。
アレを利用しようとしたＩＳ学園にこそ罪があるだろうよ。
「あ～なるほど。まぁ束さんもしーちゃんがあんな顔してるのは初めて見たからね。ちーちゃんもちょっと無責任かなぁって思ってるし」
うんうん。なんだかんだで認めた相手には優しいところがあるよな。
そもそもコイツらは仲が悪いわけじゃ無いからなぁ。お互いを同格の存在と認め合っているが故の喧嘩仲間みたいな関係だし。
束には同格と認める存在が織斑千冬しか居なかったからアレに依存気味だったが、アレだって束にしてみたら身体能力のみ同格って感じか？
同じ位階に居るが、やっぱり格下なんだよ。

だが弟子は違う。身体能力はほぼ互角な上、
戦えば技で弟子が勝つし、政治や企業運営
では絶対に勝てないとはっきりと認めてる。
夢を叶えるために必要なだけじゃない。
本当の意味での同格の存在だ。
まぁ片や技術で、片や政治と言った感じで
畑違いではあるが、それでもお互い唯一と
言って良いほどの理解者。
今の束は織斑千冬への依存が薄れているが、
だからと言って弟子に必要以上に依存して
いるわけでも無い。
だからこそアイツ等を客観的に見れるって
わけなんだが・・・
「ソレを記録に残して、後でからかうのは
やめておけよ？記録媒体ごと殴られるぞ？」
「ふっふっふっ。普段束さんを技術馬鹿
扱いしてる罰なんだよ～♪」

事実だろうに。
まぁ弟子も同格の兎と全力でじゃれあうことで、ストレス発散になるかもしれんな。
「とりあえず今から国連にフランスのアラスカ条約違反の現行犯と公文書偽造の罪でＩＳコア所有権放棄の決議をかける。お前は明日の朝１０：００（日本時間）に無人機をデュノア社の本社と第一研究所、各工場に突っ込ませて自爆させろ。現地は夜だからあまり人は居ないだろうが、例え社員が居ようが研究員が居ようがかまわん。
ただし規模はあくまで本社や工場を破壊する程度に抑えること。可能か？」
「もちろん出来るよ！アレだね？デュノア社しか狙わないのは連中が証拠隠滅に動いたって事にするためだね？」

ほほう。コイツもだいぶわかってきたな。
頭を撫でてやろう
「その通り。決議を出した数時間後に
デュノア社の爆破だからな。フランスが
阿呆の情報が漏れた時に備えて準備を
していたと言う方向で話を進める」
問題はＩＳコアだが、一緒に自爆させるか？
それともシールドエネルギーを出させて
防御させるか・・・一応防御させるか。
「やっぱりね！束さんも成長してるんだよ！
だからもっと撫でていいんだよ！」
コイツもまともな人生歩んで来なかった
からなぁ。
甘えさせてやるのは一向に構わんッ！
「言われなくても撫でるさ。あとは・・・
あぁ、自爆の５分前に阿呆の公的な情報を
全部、いや半分程度書き換えて女にしてくれ」

ソレもフランス及び共謀していた
ＩＳ委員会の一派のせいにしてやろう。
「ふふん。了解了解。いや～まったく、
しーちゃんの尻拭いもタイヘンなんだよ～♪」
正確には凰准尉だが・・・まぁいいや（）
クロエには悪いが、ドイツに対する粛清は
もう少し後かな。
フランスのゴタゴタを見て、自国の軍事を
洗い直してＶＴシステムを発見する可能性も
微粒子レベルであるし、なにより犯人
扱いされるであろうスコール達の胃が持たん。
あとはＩＳ学園か？そもそも阿呆の公的
情報を全部女にしたら、轡木十蔵は
どう動くんだろうな？
退学させるか？それとも政治の被害者と
して学生のままにして引き抜きか？
どちらにせよデュノア社と言う軛が

なくなり阿呆が自由になるなら、
凰准尉が受けた依頼もほぼ解決だろ。
あくまで冬林技研で保護する方法を
考えるんだからな。
そのまま保護されるか学園に行くかは
阿呆次第。
そっから先は知らん。
亡命するなら本人の意思で亡命させる。
こっちから手を差し伸べる気はないし
ＩＳ学園からの引き抜きを止める気も無い。
あぁ、一応亡命した場合は織斑一夏との
接触を禁止するって説明もしないとな。
亡命者に凰准尉の任務の邪魔をさせる
わけにはいかんからなぁ（愉悦）

シャルロット・デュノアに轡木十蔵。
次はお前たちの選択を見せてもらう。

つまらんことはしてくれるなよ？

第31話

「はぁ?!」

司馬監査員と凰鈴音と更識簪が揃って外出届?さらにシャルロット・デュノアも?ん・・・まて、本名で提出しているだと?!守衛としても監査員としての立場で動く司馬監査員達を止めることは出来なかったと言うのは当然だし、事務局が空くのが０７：３０だからそれまで書類を預かっていたと言われれば咎めるわけにもいかん。何せ書類は正当なもので、緊急時の対応としては何も間違っていないのだからな。さらに守衛に対してそのような異常を真っ先に私に伝えろと言うのも酷な話だ。・・・それで連中は０６：００にはすでに

迎えが来ていてそのまま出て行ったと？
目的地は冬林技研の日本支部か。
現在が０８：００・・・くそっ！完全に後手に回った！何を企んでいるかは知らんがこの時間差は痛いぞ。
それにしても更識は何をしていた？もしかして連中に潰されたのか？学園の敷地内で？
まぁ今はあちらの事情は良い。警備に関しての報告は受けるが、とりあえずは現状把握が先。
まずこの動きはなんだ？普通ならデュノアに女であることを打ち明けられた司馬監査員が動いたと判断するのだろうが・・・それなら最初は我々に「フランスと共謀していたのか？」と言う確認の連絡が来るだろう？
そうなったら彼女のフランスでの扱いを伝え、監査員を引き込む段取りまで組んでいたと言うのに・・・読まれたのか？

いや、読まれたとしても我々に何も伝えず
に移動する理由がわからん。
間違いなくデュノアは我々の弱みなのだ。
前回の乱入事件と言い、何故連中は我々に
何も言ってこない？
「じゅ、十蔵さん！国連が！ＩＳ委員会が
ヤバイって！」
国連・・・またヤツが動いたか！
しかもコチラに一切触れずに直接国連だと?!
・・・今向こうは１９：００か。
時間的には非常識と言うような時間では無い。
だが司馬監査員たちの動きを見た上で
こちらに何も連絡が来ていないことから察するに
コチラの時間で昨日の夜の段階で事態を把握し
必要な根回しを行い、今になって議題を提出して
きたということになる。
時差が有るとはいえ、ヤツは何時寝ているんだ?!

いや、ソレより内容だ。今回奴は何をした？
何を議題にあげて、何を獲ようとしている?!

――――――――――――――――

カクカクシカジカイロイロムートンイトウ

――――――――――――――――

「馬鹿な・・・」
フランス・デュノア社・承認をした担当委員、
そしてＩＳ学園が共謀した政治的犯罪だと・・・
「デュノアさんの本人の音声データまで録った
上、ＩＳ委員会の担当者からの証言で、私たち
ＩＳ学園も彼女が女性であると知っていたことを
暴露して来た?!」
さらに我々は彼女を女性と知りながら織斑一夏と

同じ部屋にして、彼の各種情報を習得するよう
動き。フランスとその同盟者に売りさばく仲介
としての役割を担っていただと?!
誰がそんなことをするか！邪推もいいところだ！
だが・・・否定が出来ん！状況証拠が揃いすぎ
ている上、本人はフランスとデュノア社に
ついて、ＩＳ委員会の担当者は我々が彼女の
性別を知っていたと証言してしまっている！
コレを偽造とするには本人への聞き取りと
何らかの取引が必要になるが、その本人は
すでに連中の懐の中に確保されてしまっている！
こうなれば我々からの接触は不可能。
第三者委員会を作り対処せねばならんが、
彼女が女性であり、ソレを知っていたと
いう事実がある以上対処も何も無い。
しかも勧告内容が秀逸だ。

『彼女が女性であることは当方の監査員は当然知っていた。
だがフランスやＩＳ委員会からの正式な承認があってＩＳ学園に入学した以上、何かしらの意図があると推察しコレを黙認した。
だがこの度、シャルロット・デュノア本人からの救助要請があり、事情を確認したところデュノア社とフランス政府、その両者から賄賂をもらったＩＳ委員会の担当が、男性操縦者である織斑一夏の情報を売り物にしようとしていた意図が判明。
我々はそれらの政治犯罪に無理やり巻き込まれたとみなし、シャルロット・デュノアを一時的に保護することとした。
本来なら彼女も産業スパイとして罰するべきなのだろうが、彼女は母親を失くした後、

引き取った父と継母の虐待により一種の心神喪失状態にあり、彼らからの命令を拒絶することが出来なかった。
彼女はフランスやデュノア社によって作られた被害者であると断言しよう。
今回、そんな彼女を保護出来たのは同室の男性操縦者である織斑一夏が、戸惑う彼女の背中を押して我々に助けを求めたからだ。
私は彼の勇気ある行動に敬意を表すと共に、どの国の干渉も受けないと言いながら、特定の学生を売り物にするＩＳ学園の在り方に疑問と憤りを覚えている。
我々が生徒目線の監査員を派遣した結果、まだ２ヶ月も経過していないのに至急改善すべき問題点が２桁を超えている現実を見て欲しい。

干渉を受けないと言うのは自由気ままにさせるという意味ではないだろう？
特定の大国の意思を反映し誰かを特別扱いするのではなく、どの国の出身の学生であっても平等に扱うと言う理念のはずだ。
断じて不正を許すという意味ではない！
私はフランスの行いに対しアラスカ条約違反と公文書偽造、さらに人権侵害の罪を持ってＩＳコア所有権放棄の決議案を提出させて頂く。
またＩＳ委員会の担当者に対しては賄賂や偽証公文書偽造の罪を鳴らし、関係者全員の聞き取りや背後関係の調査を。
デュノア社には全ての嫌疑が晴れるまで即時資産凍結と業務停止命令。
社長をはじめとした幹部社員・内部告発をしなかった技術者も同様にアラスカ条約と公文書偽造の共犯であるとみなし、

刑事罰を与えるべきであるとフランス政府に
通達したい。
またＩＳ学園に対する処罰だが、学園はＩＳ委員会
の下部組織であるため、何らかの処罰を与える
為にはＩＳ委員会の内部調査が終わることが
前提となる。各国の担当殿にはその内容に
応じた処罰の草案の作成をお願いしたい』

――――――――――――――――――――

「・・・」
グウの音も出ないとはこのことだ。
少なくともデュノア社とフランス政府と
ＩＳ委員会の担当者の全員が現行犯。
我々が賄賂を貰っていたと言われたら
そんな事実は無いと突っぱねていたが、
それに関しては一言も触れていない。
さらに「特定の学生を」売り物にしている

とは言うが、ソレがデュノアや織斑一夏であるとも一言も言ってない。
だがこんな報告書を挙げられた周囲はＩＳ学園をどう見る？
『なんの言及もされなかったからＩＳ学園だけは無関係』と言うモノは居ないだろう。
かといって連中は何も言及して居ない。
あくまで『ＩＳ委員会の調査終了後』に『何らかの罰を与える』と言っているだけ。
公文書偽造を知りながら受け入れたのは事実である以上、無罪放免とは行くまい。
「・・・織斑先生は？」
問題はコレだ、もし織斑千冬が先に織斑一夏から連絡を受けていて、その上で我々ではなく司馬監査員に相談するよう指示を出していたら？
ソレ自体は犯罪ではない。裏切りとも違う。

実際彼女にはフランスが認めた男性操縦者だが、素性が怪しいから注意するようにとしか言ってないからな。
なんでそんなのを自分たちで独占せずにＩＳ学園に送り込んで来るんだ?と言った感じの疑問は有っただろうが、女性とは気付いていなかった筈。
気付いてたら態々アレを弟と同じ部屋に置こうとはしなかっただろう。
絶対に後から揉めるからな。
つまり我々こそが彼女を裏切ったと言う事になる。
さてそこをどうケアするべきか・・・
「えっと、今こちらに向かってるみたいです」
「・・・そうですか」
さて、どうやって誤魔化したものか。

織斑一夏がこちらでは無くアチラを頼ったのは、前々からの関係もあるがドイツのラウラ・ボーデヴィッヒの移籍の実績があるからだろう。
アレは子供にも政治の力が働いたとわかりやすい事例だったからな。
アレから5日。受け入れた連中も組織的なゴタゴタが一段落したあたりだな。
・・・まさか此処まで狙ったのか？
奴らの中で期限を決めていて、それまでに我々が手を出さなかったから出してきた？
クソっ！手を出せば美人局か条約違反で叩く気で、手を出さなければコレ！
結果我々は何も得ることなく、ダメージだけが残された。
虎穴に入らん者に得るモノなどないと言うことかっ?!

ー ー

ど、どどどどーゆーことだ？
シャルル・デュノアがシャルロット?!
男じゃなく女?!
本人の証言だけならまだしも、ＩＳ委員会の担当者が公文書偽造を認めてる?!
しかもＩＳ学園も知ってただと？
確かに怪しいとは言われていたが、怪しいの意味が違うだろっ！
しかもそんなスパイを一夏と同じ部屋にしてたって・・・私は何をやってるんだ！
一夏を守るどころか、一歩間違えば一夏がスパイの協力者になってたんだぞ?!
アイツのことだ「自分から打ち明けるからもう少しだけ待ってくれ」とか言われたらソレをバカ正直に実行しかねん。

・・・ソレはスパイ行為の容認となる。
今回はきちんと司馬監査員に報告と相談を
してくれたおかげで、アイツはスパイの
共謀ではなく善意の第三者となる事が
出来た。
実際に相談したのは司馬監査員ではなく
凰だろうが・・・
まぁそれはいい。そして彼女らは今日の朝方
問題のシャルル、いやシャルロット・デュノア
を一夏から引き離してくれた。
コレで一夏が誰かに政治的に何かされる
ことはない。
あるとすればＩＳ学園に裏切り者扱いされる
可能性だが、裏切ったのはキサマらだ！
一歩間違えば一夏が犯罪者になっていたのだ。
その場合男性操縦者と言う付加価値も相まって
どのような目に遭っていたか見当もつかんっ！

今からその真意を確認するが、ソレを
誤魔化したり内容が余りにも舐めたモノ
なら私もただでは置かんぞ。
まず一夏を退学させて冬林技研に保護して
もらおう。
・・・キサラギさんなら喜んで迎え入れる
だろうし、凰も居るからな。
まぁ下手な扱いにはならんだろう。
その後は束と話をつけて、私や箒にならち
ょっかいをかけるのは良いが、冬林技研に
だけはちょっかいをかけるのを辞めてくれ
と交渉する必要があるな。
先月のあの事件。犯人は束と特定されたワケ
ではないが、最後の自爆があった以上アレは
束の仕業で間違いない。
間違いないと思うんだが、なぜ司馬監査員

がいるところに殴り込みをかけてきたのか
未だにわからん。
彼女に何かあったら宇宙開発どころじゃ
ないだろう?
素手で竜巻を破壊する人間・・・人間?
に命を狙われるんだぞ。
せっかく子供の頃からの夢を実現出来て
いるのに、理解者であり出資者でもある
彼に喧嘩を売る理由がわからん。
宇宙開発について意見の衝突でもあったか?
それで癇癪起こしてついヤっちゃった☆とか?
有りそうで怖い。
まぁソレは良い。とりあえず学園の意向を
確認しないことにはな。
もし一夏の情報を使って何かやましい
真似をしていたら・・・関係者どもには
地獄というモノがどういうモノなのかを

教えてやろう。
具体的には。連中にも目つきの悪い鬼に遭って殴り倒されてから、柱に括りつけられて火炙りされながら金魚を生で喰らうという拷問を心ゆくまで味わってもらうぞっ！
「織斑です、早朝に申し訳ございませんが、至急確認したいことがありますので・・・さっさとドアを開けろ更識」
「ハイッ！」
この織斑千冬、容赦せんっ！

ーーーーーーーーーーーーーーー
なるほどなー。確かにこの形なら阿呆の逃げ道を塞いだ上で、織斑一夏も守れてリンちゃんの扱いも一晩保護しただけって形になるのか。
「さすが大佐殿ですね。まさか即興でココ

まで連中を追い詰めるなんて」
まさしく回避不能、防御不能の一撃だよね。
ざまみろＩＳ学園っ！
「特尉、それは師を過小評価していますよ」
「え？そうなんですか？」
過小評価なんですか？
「そうなんです。即興で何かをすると言うのは準備が不足しているからです。
今回は阿呆が亡命してくる可能性を考慮していたからこそ、ソレを利用する為の資料や文章を纏めていたのですよ。
予想外に織斑一夏が絡んだせいで多少の手直しは有りましたが、大筋は阿呆が編入してくる前から準備を終えていたのです」
「な、なるほど」
それは確かに私が大佐殿を過小評価してるよね！大佐殿や司馬少佐は阿呆が亡命

してくることも予想して準備してたんだもん。
司馬少佐にしてみたら問題は『なんでこのタイミングなんだって』だけの話だったのか。
「各種手続きや打ち合わせで師の週末のお休みが潰れてしまいますからねぇ。
特尉も知っての通り、師は多忙です。
今でさえ常人ならば過労死してしまうレベルの仕事量なのは貴女にもわかるでしょう？」
「・・・そうですね」
机の上とかは綺麗ですけど、処理済みのデータとか申請書類の量は明らかに人間が処理出来る量じゃないですよね。
「兎が一日を三十五時間使うなら、師は少なくとも四十八時間は使っています。
そのうち睡眠時間は二時間もありません」
「死にますよね?!」
二十四時間戦うどころじゃ無いですよ！

毎日がゾーンに入って時間圧縮をしてる状態じゃないですか！

一瞬が数秒に感じるとかそーゆーのを意図的に起こしてるんでしょうけど、ソレを常に行ってたら脳が持たないし身体だって持たないですよ！

「だから我々と過ごす休日が必要なのですよ。基本的にあの方を一人にしてはいけません。また、兎と一緒にしても駄目です」

「確かに。近い時間軸で働く兎が側に居たら、大佐殿も休むどころか精力的に仕事を処理しようとしますよね」

まぁソレを言ったら司馬少佐も兎と同類かソレ以上のことが出来る人だと思いますけど、少なくとも大佐殿を休ませようとはしてますからねぇ。

「て言うか・・・夜とか普通に一晩中なんです

けど、アレは大丈夫なんですかね？」
かなり体力を使うはずなんですけど。
「まぁ、本当はあまり良いことでは無いのかもしれませんが、仕事をせずに寝台で横になるだけでも随分違いますから」
あぁそう言うことか。確かに気分転換になるだけじゃなく、時間の圧縮を抑えて横になるだけでも良いもんね。
司馬少佐が子供を作る気が無いのに大佐殿とアレをスるのは、好きだからってだけじゃ無くそういう目的もあったのか。
それなら私やラウラさんを女として巻き込むのもわかります。
司馬少佐一人だと絶対に無理ですもんね！
「とりあえず少なくとも今日一日、師は国連で動くことになりますから拠点へのお戻りは夜になるでしょう。今回は少尉と

私が師のお相手をしますと伝えてますから
戻らないと言うことは無いですね」
私は会えないからなぁって、んん？
「夜？アメリカとの時差を考えれば、戻る
ことなんて出来ないんじゃ無いですか？」
普通はずっと向こうじゃないんですか？
「あぁ、語弊が有りましたか。まぁ特尉と
准尉は冬林技研に到着次第、借りている
部屋に行って命奪崩壊拳を受けてもらいます
から気にしなくて良いですよ。特尉の挨拶は
日曜の夜でも大丈夫ですし、准尉は週明けに
新血愁・心霊台ですから挨拶はその後ですし」
ほぇ？私たちは気にしなくて良い？
つまり日本に戻って来るわけじゃ無い？
何か流れがおかしくない？
いや、そうか！そう言えばラウラさんは
宇宙空間で荷電粒子砲や陽電子砲の実験を

したんだもんね！

「なるほど、宇宙空間でドッキングですか。
それなら時差も何も無いですから、大佐殿
の時間を無駄にしなくて済みますね」

大気圏脱出用のロケットで宇宙空間まで
出ればＩＳやＡＣが回収して宇宙ステーション
に運べるから、そのまま例の宇宙拠点へ
移動してもらえば良い。

ラウラさんもアッチに居るんだから、後は
司馬少佐が向かえば良いだけってことか。

「そういう事です。宇宙ステーションより
先に対して連中の目は届きませんからね」

大佐殿が宇宙開発事業を率先して行ってるって
言うのは有名な話だし、ＩＳはそもそも宇宙服。
宇宙で活動するためには専用の拠点が必要
だからって、大きめの人工衛星を打ち上げて
簡易型の拠点にしたんだよね。

その先に兎が作った拠点があるけど、
その事を知ってるのは極々一部の人間だけ。
国連に関してはこっちは既にボールを投げてるから後は大佐殿が居なくても処理できるだろうし、急ぎの内容になりそうな案件は今日のうちに片付けて誰かに引き継げば土日くらいなら大丈夫だよね。
あとは通信さえ切れば大佐殿にお仕事をさせなくて済むわけか。
「ではシャルロット・デュノアに関しては日本支部で監禁ですか？」
「まぁソレも悪くはありませんが、一応は客人扱いになるでしょうから・・・
精々が軟禁扱いと言うところでしょうか」
軟禁・・・微妙な扱いだなぁ。
これから週末にかけて私もリンちゃんも動けない。

そうなるとアレが一人になるよね。
変なことをさせないためには自由を奪って
監禁するのが一番だと思うんだけど違うの？
「今回の件に関して、現状アレは政治的被害者。
軟禁なら保護したと言えますが、アレが
『監禁された』とか騒ぎ出したら我々の
大義名分が根底から無くなりますからねぇ」
「えぇ？そんなことしますかね？」
アレが色々諦めて自暴自棄になってるのは
わかるんだけど、今さら私たちまで敵に回す
ような真似をするとは思えないけど・・・
「例えばＩＳ学園の教師に対して『予想以上の
大事になったから凰鈴音や司馬監査員に
確認を取ろうとしたが、外部へ連絡することも
部屋から出してもらうことも出来なかった』
などと言われたら、ソレを聞いた人間は
どう判断するか？と言うことです」

なるほど、私たちからしたらアレはまだスパイだけど、対外的には政治的被害者として保護したって宣告したんだもんね。
それなのに「外部に連絡を取れないのはやりすぎだ」とか「行動を制限するのはおかしい」とか言って論点をずらして、話を有耶無耶にしようとして来る連中も出てくる可能性がある。

ついでに言えば、アレ自身が今までアノ男装がバレて無かったと本気で考えていたと言う、頭の中がお花畑のお気楽思考の持ち主。
こっちの配慮や計画を全部無視して、後程来るであろうＩＳ学園の関係者やマスゴミの誘導に引っ掛かって、阿呆な発言をしかねない。
「さて、そんな能力的にも人格的にも信用出来ないアレを特尉ならどうしますか？」
おぉ、コレは私、試されてますね！

「ん～部屋に閉じ込めることが出来ないなら、
関係者以外立ち入り禁止の区域の中に部屋を
用意して放置する形にするのはどうでしょう?」
そうすれば、他の部屋に入れないのは機密が
あるからだし、機密がある場所だからこそ
アレを守るのに最適だったって言えるもんね。
「えぇ、ソレで正解です。アレの保護と
コチラの機密保持を両立させることで行動を
縛り、余計な真似を防ぐと言った形に
なるでしょうね」
いぇい!コレでトンチンカンなこと言ったら
ヌケサク扱いされちゃうから、頭の良いヒト達
との会話は油断出来ないんだよね。
そういう緊張感を持たないからリンちゃんは
今回みたいな失敗するんだってばよ。
まぁ今まではそういう基礎も何も無かった
学生だからシカタナイのかも知れないけどさ。

とりあえず今までは今まで。
軍人として第三世代機を預かるリンちゃんが、学生と言う身分にかまけて油断した結果が今のコレなんだから、私も他人事と思わずちゃんとしないと駄目だよね。
「阿呆の外部への接触に関してはどうします？」
テレビでニュースを見たら無駄に騒ぐことは目に見えてますよね？
騒いだところでナニが解決するわけでも無いのにさ。
「外部への連絡に関しては基本的には許可しません。ただ織斑一夏への連絡のみ時間と回数の制限を付けた上で許可します。またスパイ容疑が晴れているわけでは無いのでメールのようなものは禁止。電話連絡も内容は全て記録されることを告知する必要がありますかね」

それらを告知しなきゃ自分の立場も忘れて
「盗聴だ！」とか言い出す可能性も有ります
からねぇ。それに・・・そうか。
「その上でアホの織斑に連絡を取るような
阿呆なら・・・冬林技研には置けませんよね」
現状でアレが誰かと連絡を取れば、その誰かは
共犯ないし阿呆と相当親しい仲と判断される。
更にその相手がアホの織斑なら、アイツが
ハニトラに引っ掛かったと言う疑いまでも
が出てしまう。
それはまさしく恩を仇で返す行為。連絡した
所でなにか解決するわけでも無いのに、
自分の寂しさや不安を紛らわす為だけに他者を
巻き込むような人間が信用出来るはずが無い。
リンちゃんも『関係者全員の立場が悪くなるから
絶対に一夏からデュノアとは連絡を取るな！
週明けには連絡が取れるようになるから、

3日間だけ我慢して！』って釘を刺してたもんね。

「ええ、その通りです。准尉からアレと我々が接触することの危険性を説明させてますから、我々とも連絡を取ろうとはしないでしょう。織斑一夏への説明も准尉からしていることも案内させてますので、許可があるとはいえアレが連絡を取る理由は無い。

さらにコチラの要望は、とりあえず週明けまでの数日間黙ってろと言うモノ。

・・・その数日も我慢できずに外に連絡を取るような、忍耐力も思考力も無い阿呆を抱え込むわけにはいきません」

「ですよねー」

元からそうだけど、学園を出た以上は阿呆と私たちは対等の友人ではないからね。

通信機器を没収されなかった理由は、試されてるからだってことに気付く事も出来ず、

己の身も弁えることが出来ない阿呆なら・・・

一体彼女は、これからどうなっちゃうの～？（棒）

――――――――――――――――――――

基本的には外部への連絡は禁止だけど、
一夏とだけは話しても良い？
もちろん内容は聞かれて録音もされるけど
・・・別に何か聞かれて都合の悪いことを
話すわけじゃ無いし。
僕が無事だってことは凰さんが伝えてくれてる
らしいけど、一夏も心配してるよね？
この週末は僕の護衛を兼ねて機密が多い区域に
部屋を用意するって話だから、少なくとも

フランスからの暗殺とかそういった危険は
無いってだけでも伝えた方がいいよね？
うん。これ以上一夏に心配を掛けない為にも
僕は無事だって連絡は入れなきゃ駄目だよ！
まだ授業は始まって無いし、今なら一夏も電話に
出れるよね？

「も、もしもし一夏？」

第32話

『も、もしもし一夏？』
え？てっきりシャルの携帯を使って
リンか誰かが連絡してきたかと思った
から電話に出たんだが・・・
「この声はシャルか？どういうことだ？」
なんで？どうして向こうから連絡してきた？
何か非常事態でもあったか？
いや、それにしては向こうは物音もしないし
声も落ち着いているよな？
『ど、どういうことって？』
「いや、なんでそっちから連絡を
入れてきたんだろうなって思ってな」
なんだこの状況は？どうなってる？？
『何その言い方？僕から連絡したら

何かダメだったの?!』
ここで怒るって・・・なんだ?
「ダメって言うか・・・」
今は間違いなくダメだろ?
だって昨日リンが散々言ってたじゃないか。

～～ほわんほわんほわん姉魂～～

『いい?これから言うことをよく聞いて。
これから週明けまでどんな事があっても、
絶対に一夏からシャルロット・デュノアに
連絡しちゃダメよ!』
「な、なんでだよ?!」
部屋に戻って来たものの、寝るに寝られず

色々考えてるときにいきなりリンから連絡が来たと思ったら・・・シャルに連絡するなってどういうことだ?!

『あのね一夏。そうやって誰かに聞く前に少しは自分で考えて。これから数日間私は居ないし連絡も取れないんだからね?』

「・・・」

考えろ、か。確かに昨日リンに言われるまで俺は自分の立場を軽く考えすぎてた。

いや、何も考えていなかった。

あれからリンに言われて考えたみたけど、俺が思い付くだけでも今のシャルの状況は正直シャレになってない。

なんてったって全世界に嘘付いてスパイしてる状況なんだもんな。

さらにフランスやフランスの大企業までそれに加担してるんだ。

シャルを助けるためには、冬林技研でも
かなりの無茶が必要だってことはわかる。
その無茶の中に、俺が連絡したら段取りが
台無しになる何かがあるってことか？
『今はすぐに答えが出ないだろうから
教えるけど、まず私たちを頼ると決めた
なら指示には絶対従って。
本来なら「なんで？」とか「どうして？」
なんて問答してる時間は無いし、もっと言えば
一夏を納得させる必要だってないんだから』
「・・・そうか」
重要なのは俺が納得することじゃない、
シャルを助けることだ。
それに冬林技研の人たちは基本的に
技術者であり科学者。
自分でモノを考えることが出来ないヤツ
とか理解力のない馬鹿が嫌いなんだよな。

何も考えずに喚くだけのヤツなんて、
あの人達が一番嫌うタイプの人間だし。
それに「助けてくれ」って頼んでおきながら
わざわざ説明を求めるっていうのは、相手を
信用してないってことだ。
コッチは頼んでる立場であって、相手の気分で
全部台無しになる可能性だってある。
「連絡するな」って言われたら「わかった」
って答えなきゃダメだったんだ。
『とりあえず先に簡単な状況と予想される
流れを教えるわ。
そのあとで指示を出すからよく聞いて』
「あぁ、頼む」
こうして教えてくれるのだってリンの
優しさなんだ。時間を無駄にしない為
にも、無駄口は叩かない！
『コレからデュノアは冬林技研の日本支部

で一時保護することになるわ。
そして彼女の安全の確保が終わったら、
国連に対してフランスとデュノア社・
ＩＳ委員会の担当者と、ＩＳ学園の犯罪行為
について告発するの』
「はぁ?!」
フランスとデュノア社・ＩＳ委員会の担当者
はわかるけど、学園も何かしてたのか?!
『驚くのも無理ないわね。ただ、こういうのは
中途半端に隠すからダメなんであって、隠さず
表に出すことでシャルロット・デュノアを国と
企業に翻弄された悲劇のヒロインに出来るのよ』
いや、俺が驚いたのはソコじゃ無いんだが・・・
何も言わない方が良いよな。うん。
『まずシャルロット・デュノアが親の会社
とフランスによってスパイを強要されたと
言う事実があるでしょ?』

「そうだな。それは紛れもない事実だ」
　うん。元々がフランスとシャルの両親が企んだことだもんな
『当然審査したＩＳ委員会の担当者もグルよね？』
「・・・そうだろうな」
　入学前からリンはわかってたんだ。普通に審査したらすぐにわかることなんだよな。
『ＩＳ学園も独自に審査してデュノアが女だってことは知ってたのよ』
「・・・そうなのか?!」
　ＩＳ委員会からの申請書類が有るからＯＫってわけじゃ無いんだな。
　じゃあもしかして千冬姉も？
『おそらく千冬さんは知らないわ。
　知ってたらスパイを一夏と同じ部屋になんて絶対しないもの』
「・・・そうか」

まぁ、それはそうだよな。弟がスパイになるってことは自分だって無関係じゃない。普通に考えればありえないか。

『それで、知っていながら黙ってたＩＳ学園は信用出来ないって理由で連れ出すの。私たちも知ってたけどソレは昨日言ったように、何か理由があるんだろうって感じで黙殺してたことになるわね』

「・・・そうか」

確かに昨日も言ってたな。存在しない人間を存在してることにして、さらに世界中の注目を集める２人目の男性操縦者として大々的に送り込むなんて、よほどの事がない限りありえないことだ。

『一夏が関係するのはここからよ。私たちが何か理由があると思って黙殺していたところ、織斑一夏に諭されたデュノアが

司馬様に保護を求めてきたって形になるの』
「うん。まぁ、その通りだな」
正確には相談しに行った先はリンだけど、極論を言えばリンの後ろ？横？まぁリンのサポートをしてくれている司馬さんに助けを求めたって言われても間違ってはないよな。
『そこでフランスとデュノア社の企みを聞いた司馬様はすぐさまコレを上司である中国のＩＳ委員に報告。
報告を受けた上司は、その情報の裏取りをした後で国連のＩＳ委員会にこのことを報告して、さっき言った連中の罪を鳴らすわ』
「なるほど」
俺はスパイを説得して、監査員である司馬さんに連絡するよう促したって感じか。
『そうなった場合のデュノアの立場はね。
スパイ兼被害者なの』

「え？スパイのままなのか？」
被害者ってのが追加されたけど、それじゃ
ダメだろ?!
『そう、あくまで一時的に保護してるだけ。
今の状況を例えれば、デュノアは国と会社を
内部告発した証人であり裁判中の被告なの』
「内部告発と裁判中の被告・・・」
そうか、そうなるのか。ＣＩＡのスパイが
亡命先で内部告発したって感じか？
それとも内部告発してから亡命したって
感じになるのか？
どちらにせよスパイの肩書きはまだ
残ってるわけか
『有罪も無罪もまだ決まってない状況だし、
警察も敵になる可能性も高いから、弁護士が
彼女の身柄を保護してる形になるわね』

「なるほどな」
なるほど。それなら俺から連絡したら
問題にしかならないだろうな。
俺はあくまでスパイ活動を辞めるように
説得した人間でしかないんだ。
ソレが弁護士に保護された裁判中の人間と
連絡を取り合ってるなんてありえない。
そもそもそう言った人間が外部に連絡を
取ること自体不可能なのが普通だよな。
「ようやくわかった。でもそれならシャルの
携帯とかは没収してるんじゃないのか？」
普通はそうだよな？
『そう本当に状況はわかったみたいね？
普通はそうなんだけど、連絡手段である
デュノアの携帯を奪わないのは
「連絡できるけどしない」ことで一夏は
この件とは無関係であるってことを周囲に

印象付けるためよ』

「あぁ、そういうことか！」

奪われて連絡できないのと、連絡出来るけどしないってのは違うもんな！

『さらに、もしココで一夏がデュノアと連絡を取り合うようなら、一夏はスパイに篭絡されたって声が出てくるの』

「はぁ?!友達を心配したとかじゃなく、そういう話になるのかよ！」

ありえないだろ?!

『普通に考えれば、女スパイを必死で擁護する男の子なんて色香に引っかかったようにしか見えないもの。

更に相手は少しでも私たちの足を引っ張ろうとしてる連中よ?

少しでもそういう素振りを見せれば容赦なく突いてくるわね』

「・・・そうかよ」

これが大人の政治ってやつか・・・

『だから一夏はデュノアに連絡をしちゃ駄目。履歴を消しても無意味。携帯の画面では消えても、着信と発信の履歴は残るからね』

あぁ、それはそうだ。携帯会社の方に履歴が残ってて警察とかが調査すればすぐにわかるんだもんな。

『あとは、これから誰に何を言われてもデュノアに対して否定も肯定もしちゃ駄目。もっと言えば、今日は授業を休んで誰とも接触しないで欲しいわ』

「そこまで・・・しなきゃダメなんだな？」

肯定すればスパイの仲間扱いで、否定すればスパイの被害者扱いされてしまうってことか？

フランスって国やＩＳ委員会を敵に回すんだ。

相手だって必死で来るんだから、何も
考えないでいつも通り授業なんて受けてたら、
彼らの息がかかった連中に言質を取られる。
週刊誌でさえ何気ない一言をどんな風に捏造
してくるかわからない世の中だ。
国が絡むなら尚更だよな。
それにＩＳ学園の上層部だって自分達が
犯罪者になるのは避けようとするはず。
俺が誰かに何か不用意に発言したら
ソコから持っていかれるってことか。
『えぇ、そこまでしなきゃ駄目よ。けど
最初に言ったけど期間は週明けまでの
３日で良いの。その間は誰とも連絡を
取らないで部屋で待機してくれれば良いわ』
これは・・・つまりこの3日の間にシャルの
立場が決まるってことか。
そして、俺が三日間しっかり言いつけを守る

ことが出来るかどうかってことを試してる
って意味もあるんだろうな。
『たかだか三日って思うかもしれないけど、
一夏の立場だと結構難しいかもしれないわ』
「はぁ？三日だろ。そのくらいは何とか
するさ！」
なんたって国と喧嘩するんだもんな！
三日くらい我慢できなくてどうするって話だ！
・・・籠城に備えて今のうちに購買でカップ麺
とか買って来た方が良いのかな？
『私も今の一夏がその辺の女子に絡まれて
余計なことを言うとは思ってない。
厄介なのは篠ノ之箒とイギリスの代表候補生
セシリア・オルコットよ』
「・・・あぁアイツ等か」
授業を休めば必ず来るよな・・・善意から
なんだろうけど今は正直言って邪魔だ。

さらに冬林技研の人たちがシャルの事情を
国連で暴露したら、今までの生活とか
そういうのを絶対に聞いてくる。
やましいことは何もしてないんだから
ソレを説明すれば良いだけかもしれない
けど、どんな言葉が俺たちを追い詰める
ことになるかわからないんだ。
ヘタに説明は出来ない。三日待てって
言われても「三日後に話せるなら今話せ」
って言ってくるよなぁ。
『誰にも話さないから自分だけに
話してくれって言って聞いてくるかも
しれないけど、そんなのは連中の好奇心よ。
この話はそんな次元の話じゃないのは
一夏だってもうわかってるでしょ？』
「だな」
これは国や大企業、ＩＳ委員会との戦いだ。

別にあいつらの好奇心を納得させる必要なんかない。

『さらに言えばセシリア・オルコットはイギリスの紐付きよ。彼女は知ったことを報告しなければイギリス本国から叱責を受ける立場にあるの』

「そうか。ヘタに何かを教えればセシリアは『知っていながら報告をしなかった』ってことになるのか」

それくらいなら、何も知らない方がセシリアの為にもなるってことだな。

箒は・・・完全に好奇心だから別にいいか。あとは籠城しても扉を破壊してくる可能性だよなぁ。

「・・・俺も保護してもらえたりしないか？」

いやマジで

『出来るわけ無いでしょ。ソレをしたら

私たちだって、一夏と何かしらの取引をしたって言うことになっちゃうじゃない』

「あぁ、そっか。あくまでシャルからの内部告発を受けて動いてるんだもんな」

損得勘定はフランスとデュノア社とシャルの間に生まれるモノだけじゃなきゃ駄目なんだ。

そこに俺が絡んだら冬林技研の中立性が無くなっちまうってことか。

『そういうことよ。さらに言えばヘタに私たちが一夏と接触すれば、何かやましいことが有るからだって言われちゃうの』

保護どころか接触もダメか・・・

映画とかでよくあるけど、ホント政治ってのはめんどくせぇ世界だな！

『だからそうね・・・千冬さんを頼りなさい』

「え？それっていいのか？」

千冬姉だって学園の教師で立場があるんじゃ

ないのか？

『担任で姉なのよ？むしろ頼って当然じゃない。おそらく学園から事情の説明も受けるだろうから、隠し事もする必要ないし。何か下手なことを言っても一夏が不利になるようなことを報告したりはしないわ』

「いや、でもそれって・・・」

さっきのセシリアみたいに「知ってて報告しなかった」ってことになるんじゃないか？

『もしソレで千冬さんが無職になったら、冬林技研で雇うことになるから問題ないわよ』

「え？そうなのか？」

千冬姉って次の就職先決まってんの？

『もしもの話だけどね。この状況でＩＳ学園が千冬さんを放逐なんかしたら、世論は間違いなくＩＳ学園の敵に回るわ。連中だって無意味にそんなことしないわよ』

「あ、あぁ、そうか。そうだな」
やべ。普通に千冬姉の就職先のことしか
考えてなかった。
だよな、世間の声って言うのだって有るよな。
っていうか次の就職先が決まってるなら
別に千冬姉に相談しても・・ダメか。
ＩＳ学園もアッチ側なんだもんな。
いくら千冬姉でも政治的な力はないだろうから、
結果的に司馬さんを頼るのは変わってない。
ヘタに千冬姉があの人達に借りを作ったら
・・・キサラギさんが来るっ！
７２時間耐久稼動試験とか普通にやりそうだ。
『???。まぁそんなわけだから、
千冬さんの部屋に避難するのが一番かな？
あ、そうそう。千冬さんの部屋といえば、
この前部屋の前を通りがかったとき
司馬様が「腐臭がする」って言ってたから、

掃除とかあんまりしてないんじゃない？
確か千冬さんって家事は得意じゃないって
言ってたわよね？最近忙しいみたいだし、
代わりにしてあげたら？』
「・・・そうか、情報感謝する」
そうか。千冬姉。部屋の前から腐臭が
わかるくらい掃除して無かったか。
しかもお世話になってる司馬さんに
バレるとか・・・
これはもう頼る頼らない以前の問題だな！
後から行くぞ千冬姉！洗濯モノと
ゴミ袋の貯蔵は充分か?!

～～ほわんほわんほわん姉魂～～

なんてこと言ってたんだぞ?
確かに俺からは連絡してないけど
シャルだって連絡なんかしちゃダメだろ?!
今のシャルと電話してたら俺もシャルも
立場が悪くなるんだぞ!
いや、落ち着け。なにか非常事態があって
助けを求めてるかもしれないじゃないか!
「シャル、なにか緊急の・・・いや、
なにか問題でもあったか?」
おそらくこの会話だって聞かれてるよな?
スパイに何の手も打たずに普通に電話なんか
させる筈無いんだから。
さらに言えばシャルの携帯履歴を調べられたら
俺への通話履歴が残ってしまってる。
なら焦って切ったりしたらダメだ。
何の問題もなく、普通に終わらせないと・・・
けどこの場合の普通ってなんだ?内部告発

して保護されてるスパイから電話が来て、
普通の会話で終わる？
違和感しかないだろ?!
なにか二人にしかわからないような隠語で、
証拠隠滅に動くような指示が出てるかも
しれないじゃないか！
スパイ映画とかじゃそうだよな?!
『いや、特に問題はないけどさ。無事に
保護されて安全の確保もされたから心配
しなくて良いって伝えようと思って』
コイツっ・・・馬鹿かよっ！
リンに言われた通りだ。保護をお願い
しておきながら心配するなんてことは
しちゃダメだろ?!
しかもソレだってこっちから頼んだんだぞ？
その上、相手だって知らない人間なんか
じゃない！個人的にも俺だって少しは接点が

ある冬林技研に頼んだんだぞ?
シャルが無罪になるかどうかとか、今後は
どうするのかってのは心配してたけど、身の
安全についての心配なんかしてねーよっ!!
「・・・なんて言えば良いかわかんない
んだけど、今のシャルがどんな内容であれ
外部に連絡とかしても良いのか?」
「おかしいな?」とか思わないのか?
常識云々以前に、スパイしてたんなら最低限の
勉強もしてるよな?その不自然さに気付くだろ?!
『あぁ、さっきのもそういう事?なんか
週明けまでは外部との接触は禁止なんだけど、
一夏だけには連絡しても良いって言って
もらえたんだ!』
・・・あ、これはヤバイ。シャルは
自分が試されてることに気付いてないっ!
あえて俺だけに連絡しても良いって

言ったのは、今のシャルには俺しか連絡する人間が居ないってわかってるから。
その上で現状と自分の立場を理解して、『俺への連絡ができるけどしない』って言う選択が出来るかどうかを見られてるっていうのにっ！
つまりシャルは現在の自分の立場が理解できてないってことだ。
俺が教えるか？・・・ダメだ。スパイへのアドバイスなんか絶対にアウトだ。
このままならどうなる？俺に関しては被害者だからリンが色々教えてくれたけど、本来なら自分で気づかなきゃいけないことなんだよな？
なのに昨日一緒にリンに考えが足りないって説教されたのに、現状に気付けないでこんな電話をしてくる時点でシャルは

信用なんかされないだろ?!
あの人達は一心不乱に夢を追うが故に
現実的だから、その障害になるモノには
絶対に容赦しない。
馬鹿・無能・邪魔者・スパイ・・・マズイ。
このままなら間違いなく冬林技研はシャルを
切り捨てる。
いや、コノ場合は切り捨てるんじゃなく
懐には入れないって言うべきか?
あくまで一時的な保護であって、別に
中国に所属が変わったわけじゃ無いからな。
それで、捨てられたシャルはどうなる?
フランスやデュノア社もただでは済まない
だろうから、おそらく日本への亡命?
・・・だけど日本が受け入れるのか?
フランスと仲が悪くなるよな?
ソレを上回る利益を出せるのか?

いや、もうソレどころじゃない。他人の心配が出来る状況じゃなくなったんだ。
リンは一貫して俺をタダの被害者って形にしようとはしてくれるんだろう。
だけど、この電話に出たことで俺の評価も下がった。ただの被害者から、スパイと仲が良いかもしれない被害者になった。
・・・何やってんだ俺はっ！
千冬姉も言ってただろう?あの人達は俺に価値を認めてはいないんだよ！
千冬姉の弟とか男性操縦者っていう色眼鏡で見ない代わりに、その行動や結果で評価されるんだ。
そんな人たちから見て今の俺はどうだ?
・・・ただの馬鹿だ。
昨日散々考えろって言われたろうがっ！
俺だって試されてるってわかっていながら

なんで留守電にしなかったんだ！

『い、一夏？』

「・・・無事なのはわかった。冬林技研の人たちにシツレイな事をしないようにな」

これ以上はダメだ。俺だけの問題じゃない

千冬姉の再就職も、リンの立場も悪くなる。

シャルが電話してきたのは不安とか心細いからかもしれないけど、国と戦うって言ってる人間がそんなことじゃダメだろ！

『う、うん。それでね？』

「・・・すまないが切るぞ」

それでも何もないだろ。世間話が出来る状況だと思ってるのか？

『え？』

え？じゃねーよ。迷惑かけてるって自覚があるなら少しは大人しくしてくれよ！

なんで週明けまで待てなかったんだよ！

・・・マズイよなぁ。助けてくれって頼んだ相手の足を引っ張っちまった。
仲介してくれたリンの立場も悪くなるよな。
もしかしたら司馬さんの怒りを買うかも。
冬林技研の社長令嬢もそうだけど、中国で司馬さんの家は絶対権力者だろ？
そんな人の怒りを買ったら、一般市民のリンはどうなる？
もしヤバイことになったら、あそこまで気を使ってくれたリンになんて言えばいい？
国と渡り合うあの人たちに俺が政治的になにかするなんて不可能だ。
ヘタにほかの国の人を巻き込むのも駄目。
そもそも今の段階で俺たちと連絡が取れなくなるっていうのは、アイツの立場を守るためだよな？
それなのに俺が敵対行動取ったら、さらに

止めを刺すことになる。
あぁ・・・もう千冬姉に相談するしかないよな。
リンも千冬姉になら相談しても良いって
言ってたし！

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「シャルロット・デュノアの境遇には同情
する点もありますが今回は関係ないでしょう」
それともなにか？親から虐待を受けてたら
公文書偽造してウチの弟の部屋に潜り込ませて
スパイ活動して良いとでも言う法でもあるのか？
「まぁ・・・そうなんですけどね」
「そもそもそんなのはアチラの家庭の事情。
公文書偽造を認める理由にはなりません」
犯罪は犯罪だろうよ。親に虐待されて
無理やり万引きさせられている子供が

居たらどうする?
子供を保護して親を訴えるだろうが。
虐待云々がわかってたと言うならさっさと亡命をさせるなり、なんなりさせれば良い。
わざわざ二週間近くの間、故国を離れ右も左もわからん状況の小娘に男装させてスパイ活動を継続させる?
意味がわからん。
教師としても大人としても、そんなことを容認する理由は無いし、そもそも我々は児童相談所でも駆け込み寺でも無いだろう。
「フランスとの交渉はしていない。
デュノア社からの賄賂も、ＩＳ委員会の担当者からの賄賂も受け取っていないのはわかりました。・・・ソレで?」
そんなのは別にどーでも良いんだよ。
なぜ私に性別を教えず、一夏と同じ部屋に

するように仕組んだかって話だろうが。
怪しいと忠告していた？曖昧にしてボカした理由を聴いてるんだよ。
これが「私が気付くかどうかの試験」など抜かしてみろ。その瞬間にそんなモノに一夏を巻き込んでくれた礼をさせてもらうぞ。
「・・・どうやら織斑先生も本気のようですね。この際無駄な隠しごとはやめましょう」
「十蔵さん?!」
「そうしてもらえると助かりますね」
更識も共犯か。ということは日本政府が何か企んでるのか？
「今回デュノアさんを受け入れたのは、彼女を引き抜くためです」
「引き抜き？」
まぁ両親に虐待された挙句女子校に男装させて入学させられたんだ。

まともな精神状態じゃ無いのはわかるし
引き抜きも簡単だろうさ。
「なら2週間も放置したのは何故ですか?
まさか相手から助けを求めて来るのを
待ってたと言うわけでもないでしょう?」
親から虐待を受けて海外まで飛ばされた
子供が、そう簡単に他人に助けを求める
ことなどできるものかよ。
それに引き抜きたいというなら、こちらから
手を出すべきだろう。
まさかアチラから助けを求めさせることで
交渉の主導権を握るだとか、その後の立場
に関する交渉を楽にしようなどとは・・・
「その通りですよ。我々から接触すれば、
司馬監査員によって引き抜き目的で公文書
偽造を容認したとされてしまいますからね」
「事実でしょう?」

そのものズバリじゃないか。
あくまで悲劇のヒロインを救出するために
入学を許可したというスタンスを崩したく
なかったが故に、我々は彼女に精神的虐待を
与え続けたわけか。
私は知らなかった！とは言えんよな。何せ
十蔵さんも更識も知っていたんだから。
周りから見れば立派な同罪だ。
ならば一夏と同じ部屋にしたのは美人局か？
ふ、ふふふ。
ナメタマネヲシテクレタナ？
・・・よし。まずは一夏を退学させよう。
私がこいつらに協力しているのは一夏の
立場を守るためであって、こいつらの
利権のためじゃない。
ここに居ても利用されるだけで、守る
どころじゃないってのはわかったからな。

冬林技研に保護してもらうとして・・・
今は向こうもゴタゴタしてるから
来週だろうな。
「そちらの事情はわかりました。聞きたい
ことは聞けましたので、コレで失礼します」
もうこいつらに用はない。
辞める口実もコイツらが作ってくれたし。
「えっと・・・織斑先生?」
「どうした更識?」
裏切り者とはいえ、私はまだ学園の教師で
コイツは生徒だ。一応話くらいは聞いて
やろうじゃないか
「いや、なんかあんまり怒って無い
なぁ〜って・・・」
「ん?別にお前をココで挽肉にしても、
何か解決するわけじゃないだろう?」
して欲しいならしてやるが・・・なぁ?

「そそそ、そーですよね！暴力駄目ですよね！」
お前らがシャルロット・デュノアにやった事はそれ以上の拷問だがな。
「では、理事長。私はＨＲに向かわせていただきます」
「え、ええ。よろしくお願いします」
さてその前に一夏に連絡を取らねばな。
今日は授業を休ませたほうが良いだろうし。

ん？着信が・・・１５件?!
さらにメールまで?!

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

件名　大至急
ごめん千冬姉。問題が発生したから大至急連絡下さい。

あと今日の授業休ませて。

あ、部屋の掃除もするから部屋の鍵
開けといて
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

問題？デュノアの件だろうが大至急だと？
授業を休ませるのは元々そのつもりだった
から問題ないが、アイツから言って来るとは
・・・一体何があったと言うのだ？

それに部屋の掃除。うん。とうとうバレたか。
・・・ゴミ袋買っていこう。

第33話

「あー大変だなー。いやーなんて言うか、
しーちゃんの後始末が大変だなー（棒）」
この兎は・・・
「アレぇ？しーちゃん居たの？確か
今日は学校の日だよねぇ（棒）」
・・・わざとらしい、だがまぁ仕方あるまいな。
「えぇ、金曜は平日ですね。師より休んで
こちらに来るように言われたのですよ」
しかし後始末と言いましたか？コイツが？
私の？破壊活動以外に何か出来ることが
あるんですかね？
「へぇー。リー君がねぇー。ま、何が有った
かは知らないけどさ、後は束さんとリー君
に任せてゆっくり休んでれば良いんだよ！」

お前さっき後始末とか言ってただろうが。
ウザい・・・極限までウザい。
先に准尉と特尉に命奪崩壊拳を打ってきたのは失敗でしたか。
「そうですか。では私は師が処理していない仕事をこちらで処理しながら、貴女の作業を見学させてもらいましょうか」
「・・・へぇ」
ふっ、技術馬鹿の兎には絶対に出来ない作業ですよ。
「まぁ黙々と頑張ってリー君の雑用を減らして置くんだね！ただでさえ少ないリー君の睡眠時間が今回のしーちゃんのミスせいで、また減ったんだからさぁー」
「・・・そうですね」
ちっ。腹立たしいことこの上ないが、この度の准尉のミスで師にご迷惑をかけた

のは事実。部下のミスは上司のミス。
この程度の屈辱は甘んじて受けようではありませんか。
「ええ、そのつもりです。貴女も精々後始末とやらに失敗しないようにしてくださいね。そもそも貴女が考えなしに色々ヤるから師が寝れてないんですし」
自らの失態は受け入れるが、こいつに言われるのが納得できん。
大体此処まで師が寝れなくなったのはお前が考え無しにテロ行為をしたせいだろうに。
「ほほう?·まぁ束さんは大人な女でリー君に愛されてるからねぇ。
夜だってラブラブだし?
平日学校なんかに行ってる誰かさんとは違うのだよ!誰かさんとはなぁ♪」
ソッチじゃねーよっ!それに学園への

出向自体お前が仕組んだことだろうがっ！
「・・・まぁ夜だけでも師を休ませてる
のであればソレで良いですよ。
テロリストである貴女がまだ生きている
のは、その無駄な回復力で師を寝台に
繋ぎ止める為ですから」
私たちが居なくても師を休ませること
が出来るのなら、コイツの存在だって
許せますよねぇ・・・ええ、許せますとも！
「あ～確かにリー君は普段から束さんも
びっくりするくらい働き過ぎてるからね。
仕事してないで休んでるのって夜のアレとか
朝にクーちゃんと一緒に料理を作ってるとき
くらいだし・・・」
師と一緒に料理だと?!
子兎め・・・うらやまけしからん！
だがまぁ良いでしょう。アレは伯師妹とは

違いますが、師にとって【白っ子】を
思い出させる存在ではありますからね。
少尉だってソレがあったから助けたような
モノでしたし・・・。

「正直に言って貴女は嫌いですが、
師の周りで師を休ませることが出来る
数少ない人材ではあります。
私の後始末で何をするかは知りませんが、
出来るだけ師の負担にならないように
処理をしますので、終わったらこちらに
詳細を流してください」

コイツに協力するなどゴメンですが、元が
私の不始末。
それに師が1分・1秒でも多く休めるよう
にする為には仲違いなど無駄なことは
してられませんからね。

「束さんは別にしーちゃんのこと嫌いじゃ

ないよ?まぁリー君の愛を独占するのに
邪魔だなぁって思うくらいでさ!
それに今回は元々しーちゃんの後始末だから、
しーちゃんに処理してもらっても大丈夫かな?
うーん。きっと大丈夫だね!
そうと決まったら後で概要を流すからリー君
用にまとめて置くんだよ!」
邪魔だと思ってるじゃないですか・・・
まぁ良いですよ。心の中で何を考えて
たって、師の為に動くならシカタナイと
言う寛容の心を見せてやろうではないですか。
「ええ、コレも師の為です。それと阿呆に
ついては何か聞いてますか?」
あの阿呆。3日どころか3時間も我慢
出来ないとは・・・
いくら10代女子でも国家代表候補生で、
スパイの真似事を仕込まれたのでしょう?

忍耐と言う言葉はないのか？

「特には何も聞いてないねー。

まぁいっくんと連絡取った時点で放逐は決まってるからさ。考えるだけ無駄だよ。

馬鹿には無駄に干渉しない、関わらない。

週明けまで放置で良いんじゃないかな？」

なるほど、兎も何も聞いていませんか。

まぁ我々も最初から阿呆が我慢できるとは考えてませんでしたからね、当初の予定通り三日間保護した後で学園に押し付ける形になるのでしょうか？

「ふむ。まぁ良いでしょう。それで

貴女の仕事はココで私と話をしていても出来るような内容なのですか？」

師に依頼された私の後始末らしいですからね。

情報は欲しいですが邪魔をするわけにも行きません。

「問題ナッシーンッ！もう手配は終わってるからね！後は映画でも見ながら待てば良いって感じだよ！」

「そうですか」

そうなると仕事は情報系の仕事？それとも無人機を使ったモノ？

まぁコイツは軍人ではなく科学者ですからね。

自分が動く必要もないと言うのは確かです。

「しかし貴女が映画とは珍しい。何か貴女の琴線に触れるようなモノが有ったんですか？」

サメとか

「んーやっぱりアニメに関しては中々興味深いのも有るよね！夢を現実にするって言う姿勢は束さんも嫌いじゃないし！」

まぁロボットモノは日本のＨＥＮＴＡＩの夢が詰まってるらしいですからね。

「最近のお気に入りはコレだね！」

コレ？・・・特大スクリーンまで出して
無駄な科学技術を披露されてもねぇって
『・・・申し訳ございません』
・・・
・・・・・・・
・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・
「ＨＡＨＡＨＡＨＡ☆この、なんてゆーか
アレだよね！この映像の前で束さん大勝利☆
って言うのが最近の流行りなんだよね！」
「・・・」
「いやー頑張ったんだよ？正面だけじゃなく
横とか後ろとかも加工して、３６０度どこ
からでも見える立体映像にしてさー。
『・・・申し訳ございません』って言い
ながら衣装チェンジまで出来るんだよ！

コレからリー君にも見せるんだ☆」

なっ?!誰がさせるかっ!!

「上半身のバネだけで・・・こうっ!」

ちっ機械ごと守りやがったっ!

「甘いっ!予備動作を消したところで

攻撃が軽いんだよ!くらえ!

『・・・申し訳ございません』!

あ〜ははははははははははははは!」

くっ!コレは消すっ!私の意地と誇りに

かけてコレは許しておかんぞっ!

「天破活殺っ・・・「甘い!」なにっ?!」

効かんだと?!喩え前後だけでなく

左右が違っても問題ないはずの位置に

打ち込んだと言うのに?!
「はははははは!・鍼みたいなナニカを
飛ばしてくるのは驚いたけど、
束さんの経絡秘孔はそんじょそこらの
凡人とは位置が違うんだよ!
『・・・申し訳ございません』
ひゃーはははははははははは♪」
ウザいっ!
「ならば直接幻魔拳で妹に嫌われる
地獄を見せ付けてくれるわっ!」
「な、ナンダ『・・・申し訳ございません』
ッテー?!アハハハハハ!」
くぉぉぉぉぉぉ!どこまでも舐めおって!
燃えろ!私の小宇宙ぉっ!!

「ふはははははははは怒りと焦りが
しーちゃんの技を鈍らせてるんだよ!

『・・・申し訳ございません』未熟者
って言われてリー君に説教されるがいいよ♪」

こっのおおお兎いいいいいいいい！

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「それで、緊急事態とはデュノアのことか？」
部屋の掃除に関してはアレだよな？ついで
みたいなモノだよな？
「あ、あぁ。リンから週明けまで誰とも連絡を
取らない方が良いって言われてさ。
だけど千冬姉だけは大丈夫だから、周りの
連中が動く前に相談して保護して貰えって！」
そうか。流石の一夏も事態のヤバさに
気付いたか。
それにしてもソレを自覚させ、更に私に相談

するように促した凰には感謝せねばならんな。
ここで下手に「デュノアとの約束だから詳しいことは誰にも話せない」等と抜かしたら、一夏までスパイとして扱われていたぞ！
「うむ。凰の言うことは正しい。今のお前は世界で唯一のＩＳ男性操縦者で、フランスのスパイの調査目標でありながらそのスパイを説得して自首と内部告発をさせたクラスメイトと言う、話題性の塊だ」
わかってはいるだろうが、何度でも釘を刺さんとヤバイからな。
オルコットの時のように学生の戯言で済むような話では無い。
「つい勢いで」だとか「そんなつもりじゃ無い」なんて言い訳は出来んのだ。
「だよなぁ・・・」
下手なフォローは必要ない！今は現状を

正しく把握させ、身を守らせることを
第一とせねばならん！
「学園内にマスゴミを入れることは無いが、
お前と話をした生徒が面白おかしく話を
広げてくる可能性もある。
その為授業を休み、連中との接触を断つ
のは間違ってはいない」
むしろソレが唯一の正解だ。本来授業を休む
のは誉められたことでは無いが、ソレだって
状況によりけりだ。
自分の立場を弁えて食堂等にも行かず、
こうして大人しく避難していると言うのが
奇跡に近い。凰よ、重ね重ね感謝するぞ！
「そうだよな。リンに言われて俺も考えた
んだけど、どう考えてもヤバイよな？
普通の学生がフランスや世界を股にかける
大企業なんかと戦えるはずがないんだ。

周りに迷惑をかけないようにする為にも、
今は下手に誰かと接触しちゃ駄目なんだろ？」
あぁ、一夏が今まで自分の立場を自覚出来て
いなかったのは、ＩＳと言う良くわからないモノ
を通して周りを見ていたから、感覚が麻痺して
いたせいかもしれんな。
こうしてＩＳだのなんだのと言った、ある意味
特殊なフィルターを通さずに現状を見れば、
学生が国に歯向かうなど無謀だとわかるよな。
「その通りだ。ただ正直な話、私も現状を理解
しきれているとは言えないのだ。
お前が凰から聞いたことを教えてもらう
ことは可能か？」
凰とて危ない橋を渡っているからな。
内容によっては、私に対しても詳細な説明を
しては行けないモノも有るだろう。
ただ、最低限の情報の共有はしておきたい。

「あ、あぁ。千冬姉に口止めはしなくて良いみたいなことは言ってたから、問題はないと思う。ただ誰かに話を聞かれたりしても困るから場所は移したいんだけど・・・」

なるほど、ソレはその通りだ。今まで隙だらけで関係者をヤキモキさせていたが、ついに防諜に関しても意識を持ってくれたのか！

「そうだな。それではまずは私の部屋に・・・」

あ、不味い。掃除が！

「・・・部屋から腐臭がするって言うのは聞いてるよ。正直細部まで掃除したいところだけど、流石に今はキチンとした掃除をしてるような状況じゃないからな。

軽くモノを寄せる程度にして、情報を共有することを優先するさ」

「う、うむ！今はソチラを優先せねばな！」

助かった！この期に及んで優先順位を間違え

ないくらいの冷静さも持ってくれたか！
しかし部屋の外まで臭いが漂っていたとはな。
腐臭と言うが、何か腐るようなものって
あったか？いや、そう言えば酒って発酵
させてるモノなんだから、ソレが溜まった
臭いは腐臭になるのか？
そんな酒の臭いが蔓延してる部屋を未成年の
一夏に片付けさせるってのはなぁ・・・
うーむ。流石に空き缶くらいは捨てるべき
だったか。
「じゃあ行こうぜ！・・・そう言えばもう
ＨＲの時間だけど大丈夫なのか？」
おっと。掃除のことよりもまずは現状の
把握と一夏の不安を取り除くことが優先だ。
「私も無関係では無いからな。流石にこの
状況で普通にＨＲだの授業は出来んさ。
故に山田君に一任してきたよ」

理事長にはＨＲと言ったがな。一夏の持つ情報を知らねば口裏も合わせられんし、下手なことを言われて困るのは学園も一緒のはず。私に自粛を求めるのが普通だろうさ。

「な、なるほど。まぁ普通はそうだよな。こんな状況で授業なんか受けてたら、間違いなく頭の中が疑われるよな！」

「あ、あぁ。そうだな」

・・・オルコットや箒は既に頭の中を疑われているからな。

普段ヤツらと一緒にいる一夏が汚染されて居なくて本当に良かった！

さて部屋の前に着いたモノの、鍵はどこだっけな？え～と、確かコッチに・・・

「千冬姉・・・コレはねぇよ」

ん？一夏が黄昏てるが、何かあったのか？

いや、いくらなんでもコレは無いだろ。
普通に部屋のドアを開ける前から臭ってる
じゃねーか！
何でコレで周りから文句が来ないんだ？
て言うか、何で服とかから臭わないんだよ！
アレか？ＩＳ学園特製のファブ〇ーズとか
消〇元のお陰か？
「あぁ、有った有った。それではドアを
開けるぞ。
・・・少し散らかってるが、まぁ先程も
言ったように今は掃除より優先するモノ
がある。優先順位を間違えるなよ」
何かキリッとした顔して良いこと言ってる
けど、相当ヤバイんだろ？絶対に騙されねー
からなっ！

「まぁ、大体想像できた。とりあえず先に
入って下着とかだけでも自分で寄せてくれ」
今さら千冬姉の下着でどうこうすることも
無いけど、何だかんだで良い歳だしな。
弟に見られたくないモノとか有るだろうし、
教師として生徒に見られたら不味いモノとかも
有るよな？
そーゆーのも今のうちに寄せてくれ。
「ん？あぁ、まぁそうだな。とりあえず少し
だけ待ってもらおうか」
やっぱりそーゆーのも投げっぱなしかよ。
まぁ、俺だってコレ以上知らなくても良い
ことなんか知りたく無いからな！
正直一杯一杯なんだよ。
「はいはい。とりあえず時間が無いから、軽く
寄せるだけにしてくれ。時間は・・・１０分
くらいで頼む」

そんくらい有ればひとまずは片付くよな。
片付けて出来ない人達って、制限時間切らないと絶対にマゴマゴして終わるからなぁ。
とりあえず10分なら危険物だけでも隠すだろ。
「う、うむ。では10分したら呼ぶぞ」
「おう。出来るだけ早めで頼む」
こうやって話してるうちにもシャルからの着信が来てるからな・・・
さっきの安全云々はともかく、今の段階で話すことは無いって自分でも言ってたろうが。
スパイが世間話なんかしてどーすんだ？疑われるだけじゃないか?!
マジでアイツはなに考えてんだよ!
後は箒とセシリアか・・・多分ニュースを見たんだろうが、俺がHRを欠席した以上これから俺の部屋に押し掛けて来るだろうな。
うん。早めに避難出来て良かった。

居留守と決めつけて勝手に扉を破壊されたりする可能性もあるけど・・・その場合はドアを超合金とかにしてもらえるように頼んでみるか？

・・・・・・・・・・

「よし、もう大丈夫だぞ！」

お、色々考えてたらもう１０分経ってたか。

とりあえず部屋の中は見ない！臭いも・・・

今は気にしない！

「りょーかい」

今はリンがくれた情報を有効活用しないと、危険を犯して情報をくれたリンに申し訳がたたないからな！

・・・シャルからのメールは開封しないで千冬姉に見せた方が良いよな？

って、汚なっ！空き缶とか止めろよ！
せめて水で濯いでから缶の袋に入れないと
そりゃ残ったのが腐って臭いも出るって！
あとツマミ！チーズの欠片とか何してんだ?!
それにシンクの角のカップ麺っ！ちゃんと
全部捨てて水で流せよ！
うわぁ割りばしが悲惨な目に・・・普通に
燃えるごみの袋に入れるだけのことが何で
出来ないんだよ！
キサラギさんとかに見つかったら普通に
細菌兵器の温床にされてるぞっ！
「散らかってるが、とりあえずソコに座れ。
ソレで情報に関してだが・・・」
散らかってるって次元の話かよ?!
勢いで流そうとしてるけど、こんな環境で
暮らしてたらハウスダストとかだって酷い
ことになるし、何より部屋が傷むし、各種

備品まで悪くなるぞ！
引っ越すときとか弁償って言われても不思議じゃないレベルだ。
「ど、どうした？目付きが怖いんだが・・・」
目付きだって悪くなるさ！これはしっかり話し合わなきゃな。
だけどまぁ、まずは情報からだ。国との喧嘩をしてるのに、掃除を優先するわけにはいかない！
「目付きについては後でってことにして置く。とりあえずそうだな。昨日の夜、俺がシャルの性別に気付いたところから話すか・・・」

カクカクシカジカオンナノムートンイトウ

「って感じで今に至るんだ」
「・・・なるほどな」
まさか入学前の段階で、中国がデュノアの二人目の男性者操縦者と言う肩書きが嘘であると暴いていたとは。
だが凰の言うことは何も間違ってはいない。
本来二人目とはソレだけの価値があるのだ。
それなのに私は学園から与えられた中途半端な情報を信じて、性別を疑うと言うある意味で当たり前の確認を怠った。
学園が誤魔化したのは事実だが、私が迂闊すぎると言われれば否定ができん！
「ソレで、リンからはクラスメイトはもちろんだけど、特に箒とセシリアに気をつけろって言われたんだよ」
箒とオルコットな。確かにそうだろう。

オルコットはイギリスの紐付きで、フランスの弱点を探るように命令だって受けているはずだし、知った情報は本国へ報告しなければ国家反逆罪と言われてもおかしくはない。
まぁ何も気付かなった時点で無能の烙印は押されるだろうが・・・スパイだの国家反逆罪扱いされるよりは何も知らない無能扱いの方がマシだろう。
実際外交官には情報収集の役割も有るが、オルコットには何一つ出来てないからな。
自分で代表候補生は国の代表を兼ねた外交官のようなモノだとか言っておきながらコレだ。
そりゃ能力的に誰にも信用されんよ。
箒に至っては、教える必要がまったく無い。
鳳が言うように好奇心でしかないからな。
かと言って何も言わなければ、しつこく付きまとってきて扉だの何だのを破壊してくる

わけだろ？

・・・勘弁してくれ。

「まぁ他の生徒に助けを求めてもヤツらが来るから、私に保護を求めたのは正しい判断だ」

下手にクラスメイトの布仏とかに助けを求めていたら、そのまま更識が干渉して来ただろうからな。

凰の判断なのか司馬監査員の判断なのかは知らないが、少なくとも凰には今度何か礼をしなければならんだろう。

「俺もそう思う。今だって携帯に何回も着信が来てるし・・・コレはもう出ない方が良いんだよな？」

「あぁ。しかし凰が言うように携帯を壊したり、持ち歩かないと言うのも駄目だ」

あくまで連絡が取れるけど取らないと言う姿勢を貫かねばならん。

私が出るなと命令する分には・・・微妙ではあるが、今のように聞かれたから答えると言った感じで担任からのアドバイスとすれば、無しではないだろう。
立場上、私から連中に対して一夏に連絡をするなと言うことは出来ん。
当然一夏に出るなと言うことも出来ん。
下手なことを言えば査問委員会において私の証言に嘘が混じることになるからな。
あくまで一夏の意思なのだ。
まぁ唯一の救いは鳳に説教されて、一夏が自分の立場を正しく理解していることだろう。
下手な事を言って言質を取られる危険性も理解してるし、箒やオルコットに対しても事情を説明しようなどとは考えていない。
何と言っても、奴らはスパイ云々とかフランスの情報収集がどうとかではなく、純粋に友人を

心配している・・・と言う自分に酔っているだけの阿呆なのだからな。
一夏の事を心配するなら、凰のように連絡を取らないのか正しいんだ。
今は奴等の好奇心を満たしてやるような状況では無い。
それなのに、何故奴等は自分達の好奇心が一夏を追い込むと言うことがわからんのだ?!
さらに言えばシャルロット・デュノアっ！
現状に不安なのは仕方ないかもしれんが、国を、親を捨てると決めたのだろうが！
自分の立場を考えれば外部に連絡を取ることの危険性などわかるだろうに、わざわざ現在進行形で一夏を巻き込みおって！
最初の電話は一夏が心配しないようにと言った意味合いがあるかもしれんが、今はどんな用事が有ると言うのだ！

頼むから大人しくしていろ！
「しかしアレだ、凰は避難は週明けまでで良いと言って来たんだな？」
「あ、あぁ。週明けまで何とか三日耐えてくれって言われたぞ」
・・・ふむ。今や一夏にとって完全に信用出来るのは凰とその周囲だけ。
私ですら政治的に問題を解決することは不可能なんだからな。
その凰が三日で良いと言うからには何かしらの根拠が有るはずだ。
無論凰が何かをするのではなく教頭が動くのだろうが、ここから何をするつもりなんだ？
むぅ。一度私から教頭に連絡を取るべきか？
いや、しかし下手に動いて彼らの邪魔をするわけにもいかん。
デュノアはともかく、今の一夏は教頭によって

純粋な被害者であり、勇気有る善意の第三者にしてもらえたんだ。
一度ヤツからの電話に出たことで多少立場が危うくなりつつ有るが、これ以上この立場を崩させるわけにはいかん。
「一夏、お前もわかってるだろうが、現在私も下手なことは言えんのだ」
「・・・あぁ、わかってる」
うむ。ここで騒がずに私の言葉の裏を考えることが出来るだけの冷静さが有るか。
「もし私が証人喚問を受けても、今なら何も指示を出していないと断言できる。嘘発見器を使われようが自白剤を使われてもな」
実際何も言ってないし。
「・・・あぁ」
情けない話だが、今の私に出来るのは三日間一夏を守ることだけだ。

「だからこそ、友を、幼馴染みを信じろ！」
　箒じゃないぞ！わかるな？
「あぁ！アイツが俺の為に色々考えてくれて
いるのは知ってるからな！」
よし、伝わった！まさかこの状況で箒が色々
考えてるなんて言うはずがないからな！

コレでとりあえず一夏は大丈夫だ。
あとは今も一夏を巻き込もうとしている
デュノアと、好奇心で一夏を陥れようと
している箒とオルコットをどう料理すべき
かなんだが・・・
「あぁそういえば一夏に聞かねばならんこと

が有ったんだ」

「ん？なんか目か座ってるけど、なんだよ？」

もしも一夏が嫌がるようなら別の手段を

考えねばならんからな。

「お前、ＩＳ学園を退学することになったら嫌か？」

第34話

「退学・・・退学かぁ」
嫌か？って言われても、元々ココには
入学したくてしたワケじゃないし。
あれよこれよと流されて気付いたら
こんな感じだったし。今考えたら相当
脅し文句とか入ってたよなぁ。
最終的には諦めて現状を受け入れろって
感じだったし。
コレ、徴兵されたようなもんだろ？
試験会場を間違えたのは確かに俺だけど、
そのせいで試験を受けれなかったら
そのまま冬林技研で就職してたよな。
高卒資格は千冬姉みたいに後からでも取れるし。
むしろあのまま浪人して、冬林に勤めてたら

こんな面倒事もなかったわけで・・・
「あぁ、今更一般の学校には行けないのは
わかるだろう?」
そりゃそうだよな。ＩＳ学園以外の学校に行けば
間違いなく色んな国とか企業が絡んでくる。
そうなったら、俺だけならまだしも転校先の
クラスメイトとかにも迷惑かかるだろうし、
まぁ普通に学生なんかできねーよな。
はぁ、試験会場を間違えるまでは良いけど、
なんでＩＳなんかに触っちまったんだ・・・
いや、わかってる。俺が馬鹿だからだ。
リンにも言われたが、この学園に入ってから
色々諦めて思考停止してたよ。
キサラギさんたちに散々言われていた
「自分で考えて行動する」ってことが
どれだけ大切なのかを忘れてたんだ。
でもこれからは流されるだけじゃダメだ。

ヘタに考えなしに動けば俺だけじゃない
千冬姉もリンにも迷惑がかかる！
「退学は別にかまわない。だけど千冬姉も
ココが一番安全だから俺がここに入学する
ことを認めたんだろ？」
だからこそ初日に下手な抵抗してないで
さっさと慣れろって言ってきたんだろうし。
リンから聞いた事情を考えれば、ＩＳ学園
への入学が俺の安全にも繋がったって
考えられなくもないんだけど・・・
「うむ。今まではそう思ってたのだがな。
正直私の判断ミスだった」
ち、千冬姉がミスを認めた?!
いや、よく考えたらこの前も謝ってきたよな。
まぁ千冬姉だって俺から見たら大人だけど
周りの年寄り連中から見たら、まだまだ小娘
なんだもんな。

しかも政治の世界とか、普通なら関わらないような世界だし、どうしようもないんだよな。

「流石に今回のように中立面しておきながらフランスからのスパイの存在を容認し、お前に接近させるような連中は信用できんよ」

「そうだよなぁ」

中立どころかズブズブじゃねぇか。

確かに女権団体とか変な研究所からの接触は無くなったかもしれないけど、その代わりに国とか世界的な大企業が出てきたんじゃ意味ねーし。

あ、そうなると俺が退学した後って・・・

「もしかして退学したら冬林技研で受け入れてもらえるってことか？」

世界的大企業には世界的大企業で対抗するしかないだろ。

さらに中国って国がバックにつくから・・・

だとしたら俺的には万々歳だ。
元々高校に行かないで冬林技研で働く気だったし。
キサラギさんも「来るなら歓迎する」って言ってくれてたしな。
大体こんなことになったら卒業した後の働き先だって、よっぽどのところじゃないと色んな国とか企業の影響を受けるんだろ？なら最初から知り合いが居て、ある程度信用できる所にした方が良いよな。
「まだ受け入れの話はしていないがな。流石にドイツのラウラや今回のデュノアの件があるから、向こうもすぐにお前を受け入れることは出来んだろう」
「まぁ、それはそうだろ」
うん。そりゃそうだ。向こうだっていきなりこんなことになってかなりゴタゴタしてる

はずだし、ココで世界で唯一の男性操縦者
である俺が、いきなりなんの下準備も無しに
勝手に「ＩＳ学園辞めて冬林技研に移籍します！」
なんて言いだしたら大問題だよな。
・・・リンの胃に穴が開くかも。
「本来は国連直属の組織であるＩＳ学園を
退学することは難しかったが、連中が
公文書偽造とスパイの容認と言う犯罪を
犯したからな。司馬監査員が言うように
学園の中立性が疑われている以上、辞める
口実はいくらでもある」
なるほどなー。ここが中立だからこそ
「誰かが独占するんじゃなくて、皆で
世界で唯一の俺の情報を共有しましょう」
って話なんだもんな。
その不文律を連中が自分で壊したんだから
「信用できない。出て行く」って言う

のも単純に俺の我儘とは言えないような状況になったってことか。
そうなると残る問題は、冬林技研だってボランティアじゃないってところだ。
「でも俺がいきなり中国の企業に移籍するとなると、向こうにもかなりの混乱があると思うんだけど？こっちから冬林技研に対して何か利益って提示できるのか？」
基本的にあの人たちは俺も千冬姉も特別扱いしてないんだろ？
それなら俺が移籍しても面倒事が増えるだけだよな？
「凰が言ったように男性操縦者がＩＳを使えるようになれば、その利益は計り知れん。その研究の手助けをお前が率先して行うとなれば向こうも考えるだろうよ」
なるほど。特別扱いはしてないけど

有る物は有効活用しようってか？
「向こうにしてみればわざわざ面倒事を
引き起こしてまでお前を確保しようとは
思ってないだろうが・・・お前から向こうに
救助を要請すれば受け入れる余地はあるだろうな」
なるほど。わざわざ引き抜きはしないけど、
来るものを邪魔だって拒むレベルでは無いか。
だけどその場合、俺って特に保護されたり
しないよな？
「・・・そうなると俺の仕事は実験体か？」
き、キサラギさんか?!奇跡の部屋か?!
「いや、まぁ言い方は悪いが、現状だって
お前は実験体兼種馬候補みたいなもんだ。
中立面して保護役を気取った連中に、
無理やりデータ取りの一環として色々
やらされるよりは、向こうのほうが
お前の為になると思うぞ？

・・・少なくとも種馬扱いは無いからな」
種馬って・・・まぁ確かに子供が生まれたら
隔離されて実験と研究とか言ってたもんな。
そうなるとクラスメイトの連中って偶然あの
メンツなんじゃなく、日本とかＩＳ学園が色々
手を回した結果なのか？
・・・ありえる。今の俺の学術的な価値を
考えれば、本人たちにはそこまで言って
なくても「そういうことになれば良いな」
って感じで仕込んでる可能性は高い。
なんたってドイツの軍人やフランスの
スパイをわざわざ俺と同じクラスに
転入させるくらいだからな。
漫画とか映画の世界だけかと思ったら、
普通に俺の周りが政治の闇に包まれ
てるじゃねーか！
いやしかし、ソレを考えたら中国は

かなりマトモだよな？
幼馴染のリンも別のクラスだし、そもそも俺って４組の司馬さんに何か頼み事（命令でも同じだな）されたら断れる気が一切しないのに、ソレを知ってるはずの向こうからは何も言ってこないんだからさ。
今回だってそうだ。俺に貸しを作ったり、いくらでも自分たちが有利になるようにコントロールできるのに、してきたのはリンによる警告だけだ。
まぁあんまし馬鹿すぎて引き入れる気もしないって感じで失望された可能性はあるけど、それでも俺が「使いようによっては利益を生み出す存在」であることに違いはない。
そんな「俺の使い方」が俺以上に

わかってる人たちが今回の件に俺を
絡めないのは・・・多分リンのおかげ
なんだろうなぁ。
「実験体になるのは構わないって言うか、
普通にデータ取りとかテストパイロット
とかはする必要があるとはわかって
るんだけどさ・・・」
ただリンがいくら頑張ってくれても、
自分から助けを求めた以上、タダ飯喰らいの
無職はダメだ。
俺だって冬林技研の社員になるんだから
当然働かなくちゃ行けないだろ？
けど俺に出来ることって言われたら
実験体になるくらいなんだよなぁ。
「まぁそうだな。何もしないという
わけにはいかんだろうし、お前に出来る
仕事となればソレが一番可能性が高い」

だよな。それは良いんだ。向こうも企業だし
最大の利益を出すために社員を最大限有効に
使うって言うのもわかる。
わかるんだけどさ・・・
「・・・俺、分解されたりしないよな？」
この可能性がなぁ。
普通なら無いって言い切れるんだけど、
あの人たちは研究者で科学者だから
どこまでネジが吹っ飛んでるかさっぱり
わかんねーんだよなぁ
「大丈夫だろう・・・多分」
「・・・そうか、そうだよな」
千冬姉もアノ人たちの行動については
断言は出来ないか。
束さんならなんとかわかるかもしれない
けど、この辺が常識人の限界か。
「一応根拠もある。冬林技研の副所長は、

教頭と言われる程に教育に関しての意識が
高い人でな？子供に対する無意味な虐待や
実験を認めるような人では無いんだ」
うん。中卒の千冬姉を雇ってくれたのも、
俺たちに社宅を用意して、普通に生活
できるようにしてくれたのも副所長さん
だって話は聞いてたけどさ。
だからって騙されんぞ！
一見まともな人のように聞こえるけど
それはフォローじゃねぇ?!
「【無意味】じゃなかったらどうなるんだよ？」
「・・・なんの躊躇もなくヤる人だ」
やっぱりな！
まぁ向こうだってかなりの数の従業員を
抱えてるんだ。
ソレを食わせるために必要なことなら
躊躇も遠慮もしないって言うのはある意味

企業の経営者としては正しいだろう。
シャルの家みたいにトチ狂って何か変なことしてるわけでもないし。
・・・いや、ナニカの実験ってダメなヤツじゃないか？
・・・・・・いやいやいや。アレはあくまで雰囲気から来るイメージだし？
ナニカ証拠があるわけでも無いから、疑うのがシツレイな話ではあるんだけど、あの人たちって肯定も否定もしないからなぁ。
いや、まぁその辺の色んな割り切りも重要なんだろうけど、流石になぁ。
リアルに自分を切り売りするのはなぁ。
「ま、まぁ先程も言ったが、すぐに退学して移籍出来るわけでもない。
あくまで可能性の一つだし、移籍するに

当たって契約に条件のようなモノを
付ければ、彼らからソレを破るような
ことはせんよ」
契約は遵守するモノってか？契約書に
小さく「分解アリ」とか書かれて無い
限りは大丈夫っぽいけど・・・
今はそれ以前の問題だもんな。
「・・・それもそうだ。あくまで
仮定の話だし。
契約の時だってリンや千冬姉に相談
して契約すれば良いだけだしな」
わざわざ追い込んでは来ないと・・・
思いたいけど、どこまで譲るかって言う
境界線は考えておかないとマズイよな？
「そういうことだ。まずは三日耐えて、
週明けに何がどうなるかを確認してから
動くことになる。

退学するにしても、相手の準備が整わないうちにコッチが勢いで退学なんてしたら、飢えた獣の群れの中に生肉をつけて放り出すようなモノだ。どう転ぶにせよ、もうしばらくは我慢が必要だぞ？」

そうだ、この三日で俺の評価がどうなるかによって俺の将来だって変わるんだ。

もし冬林技研に所属させると不利益となる可能性があるなんて判断されたら・・・

アレ？その場合俺ってどうなるんだ？

ＩＳ学園の教師？ココから出られないなら俺は大学だって行けないぞ？

ココから出るにはどこかに所属しなきゃ行けないよな？

ＩＳ学園だって国連の組織だし。

もし国連に所属したらどうなる？

【世界のために分解します】なんて言われる

可能性だってあるし
【世界のために種馬にします】って言われて
密室で色々搾取される可能性だってあるよな？
・・・つまり冬林技研以外アウトじゃねーかっ！
シャルの心配してる場合じゃなかった！
ヤヴァイ！コレはマジでヤヴァイぞ！
将来の就職のことを軽く考えすぎてた！
クソっこれが考えることを放棄していた
俺に対する罰かっ！

ピピピピピピピ

ん？携帯？俺のはもうマナーにしてるから
千冬姉か？
「・・・考え事中にすまんな。山田君からだ。
急にＨＲや授業を任せてしまったから、
何かあったら連絡するように言っていてな」

「そうか。まぁしょうがないよな」
千冬姉は教師だから他の生徒だって守る必要があるし、山田先生だって急なことだから色々不測の事態も起こるよなぁ。
けど山田先生もなんだかんだで上級生からやまやんとか渾名を付けられてるんだよな？
少なくとも2年以上は先生してるだろ？
アレ？けど千冬姉も2年目だぞ？
先輩後輩は日本の代表候補生とかそういうのがあったんだろうけど、職場では同期なはずだよな。
それなのに千冬姉が学年主任で担任なのに、山田先生が副担任なのっておかしくないか？
俺がいるから？いや、普通は肉親が居る場合は担任なんかなっちゃダメだろ？
・・・コレもＩＳ学園の仕込みか？

『せ、先輩！大変ですっ!!』
　おっと、どうやら千冬姉は俺にも聞かせるつもりらしいな。
「どうした山田君。何か問題でもあったのか？」
　まぁセシリアと箒は間違いなく問題起こすよなぁ。それともＩＳ学園が何かしたか？
『お、オルコットさんと篠ノ之さんがっ！あ、いや、ソレについては後でお話します！ですけど今は違うんですっ！』
　やっぱり何かしてたか・・・
　俺の部屋のドアは無事かなぁ？
「山田君。デュノアの件で混乱しているところに何か有れば焦るのはわかるが、少し落ち着け」
　・・・みんな一杯一杯なのか。まぁ山田先生

だって副担任なのにシャルが女って知らなかったんだ。
本当のことを言っても世間的には「嘘つくな！」って言われるだろうし、そりゃ焦るよなぁ。
『デュノアさんに関してはアレですけど！いえ、無関係ではありません！まず大至急ニュースを見てください！』
「ニュース？」
また国連で何か情報が暴露されたのか？
『はい！チャンネルはどこでもいいから、早く確認して下さい！』
チャンネルはどこでも良いってことは全部のチャンネルで同じ内容を放送してるってことか？
そこまで急ぎの緊急速報的な何か？
「わ、わかった。えーリモコンリモコン・・・」
まったくちゃんと片付けないから・・・
「ほい」

メガネメガネじゃないんだから、
ベッドの下とか探したってなぁ。
普通はそんなところにねーよ。
「む、すまんな」
まぁ説教は後だな。まずはニュースの
内容を確認しないと。
シャルに関係があるなら俺にだって
関係あることだからな。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

カクカクシカジカデュノアシャガムートンイトウ

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「はぁ?!」
「・・・そうきたかっ」
デュノア社の本社と研究所・工場の爆破

とは・・・コレは間違いなく証拠隠滅っ！
「ち、千冬姉？コレってどういうことだ?!」
・・・一夏が焦るのもわかる。凰の
お陰で少しはモノを考えることが出来る
ようになったが、所詮は高校一年生。
国が本気で動けばこうなるなんて、
想像することも出来なかったんだろう。
「山田君、大至急情報収集を頼む。
今日の授業は自習だ。
あぁそれと生徒を寮に返して、部屋から
出ないように指示を出してくれ」
下手に情報が拡散されても困る。
普通に考えればデュノアの内部告発と
これが無関係なんて有り得んからな！
そうなれば一夏に接触してきて、
少しでも情報を獲ようとするだろう。
『は、はい！』

まさかフランスが此処まで露骨な手を
打ってくるとはな！
「一夏。お前の予想通り、コレはフランスに
よる口封じだろう。
・・・これが国を相手にするという事だ。
お前も他人事では無いと肝に銘じておけ」
「あ、あぁ。だけどまさか此処まで・・・」
此処までと言うが、おそらく人的な被害は
ほとんどないだろう。
今日本が１０：００でフランスとの時差は
７～８時間と考えれば、現在の向こうは
ＡＭ０２：００～０３：００。
国連でフランスが提訴されたのが
００：００と考えれば動くまで２時間か。
書類の押収から爆破まで、十分な時間だな。
一般人はほとんどいないだろうから、
書類やらＩＳコアやら何やらを全部回収

してから爆破した？
それにしてはデュノア社や工場だけがピンポイントで破壊されている。
これは、最初からデュノアのことが発覚して他所から責められることになったときに備えて準備していたと考える方が妥当か。
しかしフランスはどうする気だ？深夜のこの時間にデュノア社をピンポイントで狙ったテロが起こったとでも説明する気か？
「なぁ・・・コレってどうなるんだ？」
「正直わからん。今更デュノア社を爆破したところで、フランスが公文書偽造とデュノアのスパイ行為を容認していたことは事実だ。コレから収拾を付けるとなると・・・」
どうする気だ？普通に考えれば「フランス軍は今回の偽証には無関係でＩＳ担当者が勝手に行ったことだ」と言って担当者を切り捨てて、

担当者を尋問する為に捕えようとしたら抵抗され事故死したといった感じにするのだろうが、ここまで露骨にされるとな・・・フランスが他の国との交渉材料を持っているなら押し通せるかもしれんが、現在の状況だと・・・イギリスはオルコットが色々やらかしてるからともかく、ロシアもアメリカも中国もフランスに何かを譲る必要は無い。担当者が死んだからわかりませんなどといったふざけた言い訳を許すような状況では無いが・・・

これは完全に政治の領域だ。理事長がどう動くのかはわからんが、少なくとも一夏に対してどうこうと言うのは無くなる。

何せスパイを命じていた連中が軒並み死ぬんだからな。

・・・凰はコレを知っていた？いや

それなら三日という期間にはならんよな。
フランスが証拠隠滅の準備をしている
ことは掴んでいても、ここまで早く動く
なんて予想出来なかったということか？
しかし教頭や司馬監査員が予想を外すとは
思えん。
ならばコレも予想の範囲内と考えて・・・
この証拠隠滅の裏にはどんな意味が有る？
まぁ度を超えた阿呆は理解出来ないと
言っていたから、その可能性もあるんだが
・・・いや、ココで思考停止はダメだろう！
とはいえ私は政治屋ではないし、束に確認
を取ってもアイツも政治に関しては完全な
素人だから意味がない。
専門家である教頭に連絡を取れれば良いが、
今の段階で私が冬林技研の副所長に連絡を
取れば、自分の教え子であるデュノアに

対する便宜を図ろうとしたと判断されるだろう。
ヘタには動けんっ！かといって何もしないと言うのも悪手。
「ち、千冬姉・・・」
一夏・・・そうだ落ち着け！私より当事者の一夏の方が怖いに決まっているんだ！
私が一夏の前で不安を見せてどうする?!
「・・・安心しろ。今すぐにお前にナニカが起こるという事は無い。
まずは落ち着いて情報収集をせんとな」
そう、落ち着け。焦りは何も産まんのだ。
「そ、そうだな。フランスが国内で動くのとココでナニカするのは違うよな！」
一夏も少しは落ち着いたか。確かにコレは大事件だが、あくまでフランス国内の事件。
コレから連中が国際社会に対してどうする釈明するか。

それによって一夏に対する態度も
変わることになるだろうよ。
今までなら誰かに嵌められたなどと
強弁もできたのだろうが、ドイツは軍の
再編成で忙しいし、イギリスを始め
とした近隣諸国はドイツを注視している
からなぁ。
流石に今回はドイツにはアリバイがあると
言えるし、他にフランスに攻撃を仕掛ける
ような動機や戦力がある国は周辺に存在
しない。
そもそも他国に軍を動かす前には、必ず
予兆と言うものがある。
ＩＳのような単体で襲撃を可能にする
戦力もあるが、ソレはフランスとて
警戒しているだろうし、近隣諸国だって
無警戒と言うわけではない。

それなのに何の予兆も掴めなかった
と言うなら、コレを行ったのは国外の
勢力ではなくフランス国内の戦力だ。
自作自演か政府と軍部の主張の違いかは
わからんが、ＩＳ学園に武力行使出来る
ような状態ではない。
「その通りだ。戦力的な意味もあるが
政治的にもここには簡単に手は出せん」
そうだ。焦るな。事が起こったのは
あくまでフランスだ。
動かざること山の如しと言うだろう。
正しい情報がなければ急いで動いても
無意味。いや、周囲の足を引っ張る分
マイナスになる。
まずは山田君からの連絡を待つ！
・・・それか理事長あたりが接触して
くる可能性もある。

タイミングといい規模と言い、誰が
どう見てもあきらかに政治的な事件だし
更識がコレに付いて何か知っている
可能性だってあるだろう。
なにせ暗部の暗部、デュノアのことを
知りながら私たち教職員に隠すくらい
のことは出来るのだからな。
・・・さて、誰がどう動く？
ＩＳ学園だろうが更識だろうが、この後に
及んでナメタマネをしてくれるなよ？

――――――――――――――

「デュノア社で爆発事故ぉ?!しかも
本社と各工場と研究所が同時に?!
朝の段階でそんな予兆無かったわよね？

ドイツに送った人員からナニカ情報は
入って無いの?!」
ドイツの状況を探っていた人間に
フランスも探るように伝えていたが、
向こうは深夜だし、移動どころか
準備だって時間がかかるだろうよ。
ゲームのコマじゃ無いんだぞ?
あの放送のあとで深夜に慌ただしく
動けば周囲に暗部の存在がバレるし、
静かに動こうにも深夜に国境を越えるのは
並大抵のことでは無い。
現地の連中にしてみたら、深夜にたたき
起こされてフランスへの侵入の段取りを
組んでる状態でのコレだ。
どうしようもないだろ?
というかこの状況で普通に授業を
受けに行く神経がさっぱりわからん。

「もぉ！フランスで何が起こってるって
言うのよ!!」
ソレを調べるのがお前らの仕事だろうに。
さて、問題はコレがタダの口封じではない
場合だろうな。
冬林技研がコレを起こした可能性は・・・
無いだろうな。
黙ってればいくらでもフランスや
デュノア社から搾り取ることができたんだ。
その搾取先を自ら無くす筈が無い。
シャルロット・デュノアの身柄も抑えて
いる以上、引き抜き工作も出来るしな。
となると、やはり国内の勢力争いか？
デュノア社とて国内外に敵は多いはず。
その敵と組んだ勢力が動いた可能性
もあるし、もともとフランス政府が
口封じのために色々準備しているのも

当然だからな。
さて、ここから我々を無罪に持って行くにはどうするべきか。
とにかく情報だ。おそらく国連では今日中は決議にはならんから、今後はフランスの情報を多く得たモノが有利になるだろう。
ドイツからフランスへの調査員の移動を止める必要は無い。
まぁ移動した先で他の組織の連中とぶつからないように、きちんと符牒を決めさせる必要はあるかもしれんがな。

さて、ここから反撃・・・という訳ではないが、少しでも被害を減らすために動かねばならん。
「更識さん、現地調査員に指示を出して

もらえますか？」

――――――――――――――

なるほどなー。兎にはこういう使い方もあるんですね。

「ふっふっふっ！自爆することで証拠は一切ナッシングだし、無人機が降りる前に改良版ジャミング機能付き閃光弾をぶち込んでるから、無人機が落下してきたなんて目撃証言だって無いんだよ！」

ほほう。徹底してますね。

「まぁ何も知らない連中にしてみたら、夜中に光って凄い音がしたと思ったら

デュノア社が爆発してるんですからね。
深夜に黒いステルス性能がある無人機と言う
条件がありながら、油断せずに閃光弾
まで打ち込むとは・・・成長しましたね」
タダでさえ尖った性能を持つが故に
他人を見下す癖のある兎にここまで
周到な襲撃をさせるとは・・・流石我が師。
「ふふん♪成長してるのはしーちゃんや
リー君だけじゃないんだよ！
とりあえず馬鹿な連中はフランスの
証拠隠滅ってことを疑ってないし、
あとはしーちゃんに任せるね！」
「了解しました」
確かにこれからは私の仕事でしょうね。
「ではこれより【水銀の蛇】展開します。
演算領域を拡張・・・情報の抜き出しと
改竄を開始・・・」

「いやー流石しーちゃんだよね。束さんも
演算と情報の抜き出しくらいはできるけど、
ソレの改竄になるとねぇ・・・馬鹿が
何を望んでるかわからないから、一斉には
出来ないんだよ♪」
何が楽しいのか知りませんが・・・まぁいいや（）
今は師のお仕事を優先ですよね

「・・・では、今宵の恐怖劇をはじめましょう」

第35話

「まともな情報がまったく集まらない?」
どういうことだ?アレから二日経って、
デュノア社の関係者が軒並み捕まるか
抵抗を試みて射殺されたのはわかってる。
フランスからの公式回答が無いのは
・・・まぁシカタナイにしても
フランスで起こっていることに対して、
山田君が探っても何も情報が得られない
などありえんだろう?
「・・・はい。まずフランス外務省で公式と
された内容では『デュノア社への攻撃は
フランス陸軍による独断』であることを発表。
対して軍は『今回のデュノア社のスパイ
活動について何も知らなかった』とし、

『自国の恥を濯ぐ為に行動を起こした』と
言う声明を出しました」
公式回答があったのか?!しかし内容が酷い。
デュノア社は犯罪を犯したかもしれんが
本来なら軍が動くことでもあるまいに。
ヤったことは軍による民間人の粛清だぞ。
「典型的なトカゲの尻尾切りだな」
予想はしていたが・・・反吐が出る。
「問題はソレだけじゃないんです。
フランス政府からは『デュノア社の爆破に関して
政府は何も知らなかった』という声明と
『軍が勝手に動いた』と言う声明が出されました」
「はぁ?」
政府が軍の動きを知らないって、ソレはもう
クーデターだろうが!
いや。そもそも外務省は『陸軍の独断』
と言う声明を出している。

つまり・・・どういうことだ?

「さらに30分後、陸軍から『自分たちは一切動いていない、これは政府による証拠隠滅と自作自演の茶番劇。政府は我々に責任を押しつけようとしている』と言う声明と、アリバイの証明のためなのでしょうか?当時の全部隊の展開状況の一覧をネット上に公開したんです」

「軍の展開状況一覧だと?!」

それも全軍?最上位の軍事機密だろうが!

さらに自分たちが「自浄の為に動いた」と言っておきながら、今度は「動いてない」だと?いや、政府直属の部隊みたいなのが居れば爆破や証拠隠滅は出来るだろうが、何故それを陸軍に押し付けねばならんのだ?

「さらにさらに陸軍はこれを政府による情報漏洩とし、咎める声明を発表。

また『デュノア社への攻撃は空軍か政府のＩＳ部隊による証拠隠滅の為の犯行』と断じ徹底抗戦の構えを見せています。
対して空軍も『当方はデュノア社への攻撃など一切行っていない』と反論。
情報漏洩に関しては『自分たちは無関係である』と切って捨てました」
はぁ？自分で無実を主張しておきながら、同時に公表した軍の展開状況は政府の漏洩？
「なんだソレは？担当の大臣やら長官が直接集まって話し、軍と政府で談話でも出せば済むことだろう？」
完全に支離滅裂じゃないか。
「確かにそうなんですが、その談話を作るためにはデュノア社を攻撃した犯人の特定が必要不可欠なんです。
まさか「深夜に正体不明の敵が現れて

フランス国内にあるデュノアの工場や
研究所をピンポイントで破壊した」なんて
ことはありえませんからね」
「それはそうだな。どう考えてもそんなことは有り得ん」
束あたりなら出来そうだが、アレが動く
なら被害はこんなモノではないよなぁ。
さらに言えばこれから冬林技研が連中から
色々と搾り取ろうとしているのに、ソレを
邪魔する理由も無い。
そもそも今回の襲撃はタイミング的に
かなり政治が絡むから、煩わしいことを
嫌う束が独断で動くとは考えづらい。
冬林技研も束も動く理由が無いどころか、
動けば損をするわけだ。
ならばやはりこれはフランス国内の問題
となるはずなんだが・・・
「それで、今回の襲撃の犯人にされて

しまえば陸軍も空軍も政府も大打撃です。
あの後で逃げようとしたデュノア夫妻や
研究者の射殺は、彼らもＩＳを持っている
可能性を考慮され今はシカタナイこと
として周囲にも受け入れられてはいますが、
一番最初の証拠隠滅の為の爆破については・・・」
「それはそうだろうな。これを認めれば、
今後都合が悪くなれば正体不明のナニカ
によって証拠隠滅されることになるんだ。
そんなの国民が認めるわけがない」
で、国民を納得させるためには談話を出す
必要があり、談話を出すためには犯人の
特定が必要不可欠だが、それが見つからない。
一番怪しいのは陸軍だろうが・・・
「更にタチが悪いことに、最初の陸軍の
声明と外務省の声明は何者かに改竄され
ている可能性が出てます」

「何っ?!」
　軍と政府の公式発表が改竄されている?!
「まさか相手はフランスを狙った国際テロ組織か何かと言う可能性もあるのか?」
　これだけのことを仕出かすテロ組織が存在するとなれば・・・この混乱に乗じてナニカ仕掛けてくるか?
「いいえ。それならあの状況で手は出しません。黙っていればフランスはもっと混乱してましたからね」
「・・・そうか」
　それもそうだ。しかも今は国内事情を優先させているが、対外的にも国際社会で孤立しつつある状態なんだもんな。
　それも現在進行形で。
　テロ組織が居るなら黙ってるか、政府が口封じをしようとしたところを映像に

でも収めていたほうがよほど効果的だ。
「色々な憶測が飛び交う中で、現在は声明の
改竄すら政府の自作自演ではないかという声が
上がっている状態でして・・・」
あぁ『自分も被害者だから犯人は他に
居る！』と、政府が見せかけようとした
と考えた方が自然だよな。
「ならば現状で一番怪しいのは、政府直属のＩＳ部隊か？」
陸軍のＩＳ部隊が動いてないならそれだよな。
最高軍事機密を知り、今回の件で最も
ダメージを受けるであろう政府の誰か
が独断で動かしたと言うケースもある。
「そうですね・・・しかももっと
厄介なことがあるんです」
「これ以上厄介なこと？」
・・・想像できん
「はい。データ上にあるデュノアさんの

公文書が、女性に書き換えられてるんです」
「なんだと?!」
ありえんだろう!今更ソレを書き換えて何に
なるというのだ!
「さらに情報が書き換えられたのは、
デュノア社の爆破の5分~10分前と
言うことが判明してるんです」
「・・・デュノア社の人間が情報を隠匿しようとした、か?」
それ以外でそんなことをする理由が無いよな?
「その可能性は高いです。そして我々
のデータベース内の文書も半分程が
女性に書き換えられています」
「はぁ?!」
いや、そうか。【公文書】の改竄と
言っていたからな。
・・・これはまさか束の仕業か?いや
理由がない。さらに束なら半分と言わず

全部やるよな?

「・・・デュノアさんの名前に反応する
ウィルスのようなモノでしょうか?
改竄をしていた担当者は紛れもなく天才で
しょうが、コレを見ると途中で死んだ
のではないかと思われます」

「爆破の前に犯人に殺されたか・・・」
政府かデュノアか、もしくはＩＳ委員会の
関係者に何らかの指示を受けて動いていたの
だろうが、情報の伝達に誤りでもあった?

「そうですね。口封じの可能性もあります。
そんなわけで、現在フランスが出している
声明には一切の信憑性がないんです」

「それは・・・そうだろうな」
出したと思ったら『改竄されていました』では話にならん。
フランス語の文法はわからんが、日本語は
【は】【が】【の】【を】【に】を

変えるだけでまったく意味合いが違うモノになるし、添削した上で公開した長文の中でソレを意図的に変えられていた場合、発見はかなり遅くなる。
なにせ添削した本人たちが見なければそれが正しいのかどうかもわからんし、そもそも公式見解として公開されたモノに対して、他者はその文章こそが公式のモノと見なすんだからな。
例えばフランス語の文章を和訳する場合、政府の公式発表に対して「助詞が違う」などと突っ込む翻訳家は居ないだろう。
それは翻訳家の仕事では無いからな。
「フランス軍も政府も混乱しているなかで、民衆のデモまで発生してます」
「あぁ」
それもわかる。犯人が国外の戦力やテロ組織

なら警備の在り方に問題が有るし、国内の組織なら共犯であっても都合が悪くなれば何時でも何処でも口封じされてしまうという事だからな。

さらに公式見解まで改竄されているとなると、今の政府や軍は能力的も人格的にも信用できん。そりゃフランスと言うデモが好きなお国柄じゃなくても、政府や軍に文句をつけたくもなるだろうさ。

「あ・・・さらに厄介ごとです」

「・・・今度は何だ?」

どれだけ情報を集めても、私たちは政治的に動くことが出来んから最終的には理事長が何かするんだろうが・・・流石に今回の件に関しては私も山田君も当事者だ。

理事長と更識が全てを預けるに足りんと判明した以上は、独自に情報を集める必要がある。

・・・集めた情報を有効活用するための
パイプが無いのが痛いところだがな。
「今こうして話をしている最中に中国、いえ
冬林技研がＩＳ委員会で提案を出しました」
「はぁ?この状況で?」
フランスの声明が二転三転してる以上、何が
正しくて何が出来るかわからんのだぞ?
今は情報収集するべきじゃないのか?
「恐らくこの状況だからこそ、何かしらの
情報を出してきたんだと思います。
会議の様子を映し出しますね?」
「あぁ、頼む」
さて、教頭はどう動くつもりだ?

ここ数日フランス国内で発生した問題では、

フランス国内の組織による責任の擦り付けや
一向に状況の改善が見られないことに対して
皆が不安と不満を抱いていることだろう。
また対外的に我らを馬鹿にしているような
二転三転する公式回答に対しては、皆が失望し
失笑し、そして憤慨していることだろう。
だが、勘違いして欲しくないのだが、そもそも
我々がＩＳ委員会に今回の件を問題提起した最大の
目的は、スパイとしてＩＳ学園に送り込まれてきた
少女シャルロット・デュノアの救済だ。
よってフランスの事情を考慮する前に、政治に
翻弄された一人の少女を救済したいのだ。
まずＩＳ委員会とフランスとデュノア社による
共謀はすでに白日の下に晒されているのだから、
彼女の扱いについては、スパイではなく虐待
による被害者と言う形で決着をつけたい。
親に虐待され、国に脅された少女には他に

取れる手段がなかったのだからな。
もしこの意見に異を唱えるモノが居るならば、
ソレは個人で国と戦えると言う夢想家であり、
現実と言うモノを理解出来ない者だろう。
それに・・・すでに彼女はスパイですらない。
何せソレを命じたデュノア夫妻は、フランスが
提出してきた資料を信じるなら既に死んでいる。
さらにフランスとて今さら彼女が得た情報を
渡されても困るだけだろう。
故に我々は彼女を両親とフランスの軛から解放
されたと見なし、現在行っている彼女の一時
保護をこれにて終わりにしたい。
説明するまでも無いだろうが、これはフランス
の国内事情に対し我々は口を挟むつもりが無い
と言うことの意思表示でもある
かと言って、現在の彼女をフランスに戻す
ことなどあり得ない。

我々は抱え込まない。フランスには戻せない。
ならば彼女はどうすれば良い？
簡単だ。我々中国はシャルロット・デュノアを
ＩＳ学園に再度入学させることを提案する。
ＩＳ学園はＩＳ委員会の下部組織として今度こそ
『あらゆる国や組織からの干渉を防ぐ』と言う
役割を果たして頂きたいと切に願う。
ＩＳコアの所有権に関しては一時ＩＳ委員会預かり
とし、専用機は自衛の為にもそのまま保持して
もらいたい。
また、ＩＳ委員会及びフランス政府は彼女に
対して賠償責任が有るものとする。
要するに、少なくともフランス国内が
落ち着くまでの間、ＩＳ委員会とフランス
政府は彼女がＩＳ学園内において今まで通り
フランスからの留学生として・・・いや、
もはや男装の必要はないので、彼女が一人の

少女として過ごせることが出来る環境を作ることを要求する。
具体的には、まず生活費の負担。まぁこれは両者による定期的な補償金の支払いと言う形で良いだろう。
次に国家代表候補生では無くなるだろう彼女が、専用機を使うことで発生する費用の負担。
これもフランスとＩＳ委員会で負担すること。
次に身辺の護衛。暗殺だけではなく、生徒同士の虐めや虐待の可能性もあるので、これの監督はＩＳ学園が責任をもって行うこと。
以上をもって被害者の少女に対する謝罪とし、先日我々が上げた関係者各位の罪状から「彼女に対する人権侵害」と言う項目を抹消したい。
・・・まぁ結局のところは、政治や軍の責任逃れに子供を巻き込むなと言いたいのだ。

幸い学園は休日で彼女が休んだのも一日だけだから、学生として授業についていけないと言うことは無いだろう。
少女の社会復帰の意味を込めて、この議題は早期に解決したいのだよ。
さてこの提案に・・・異論の有る方は挙手を。

「「・・・・・・・」」

ふむ。どうやら異論は無い様子。
では委員会執行部は即座に手続きを取ってもらいたい。
彼女の安全が確立されたと判断したら、現地スタッフが彼女をＩＳ学園まで送り届けよう。
まさかＩＳ学園が委員会の決定に逆らうとは思えないが、情報伝達に不備があると困るし彼女も不安を覚えるだろうから、学園への

連絡は文章だけでなく他の国の代表が見ているこの場で行ってもらおうか。
『聞いていない』だの『伝達を忘れた』だの『書類が改竄された』だのと言った言い訳は許さん。
政治云々ではなく、一人の大人として誠実に職務に当たることを期待する。
・・・以上が我々からの提案です。

「「・・・・・・・」」

つまり、どう言うことだ？
「わ、私たちＩＳ学園はデュノアさんを普通の学生として迎え入れて、虐めや虐待が無いようにきちんと監督しろって事ですよね？」
「そうとしか聞こえんが・・・」

スパイで無くなったのなら普通の学生。
まぁこの理屈はわかる。
そもそも海外からの留学生は、多かれ少なかれ情報収集が任務に入っているからな。
これを罰していては学生の受け入れなど出来ん。
故に問題なのは、男として送り込んできたフランスとデュノア社・ＩＳ委員会の担当者とソレを知りながら受け入れたＩＳ学園にある。
この中でＩＳ学園は対外的にはＩＳ委員会の下部組織でしか無いのだから、ＩＳ委員会の指示で有れば従わなければならないと言う方向性に話を持っていけば、無実は難しいかもしれんが減刑にはなっただろう。
理事長の狙いはソレだったろうし。
だが、ここで贖罪の場を与えられたことで、ＩＳ学園はこの件から完全に手を引くことが出来るようになった。

デュノアは一学生として学園に通うことになり、
一夏は最初の切っ掛けだけの関わりで、その後
ほぼ蚊帳の外にしてもらえた。
週明けに箒やオルコットが騒いで説明を要求
してきても『ＩＳ委員会の調査が終わるまでは
詳細は話せない』と言わせれば良い。
元々奴等は無関係でわざわざ説明をする必要も
無いことだとは一夏も理解しているしな。
しかしコレで冬林技研に何の得がある？
いや、凰が一夏にいきなり押し付けられた案件
と考えれば、利益云々よりもフランスの混乱に
巻き込まれることを嫌ったのか？
向こうにしても一夏が学園ではなく、自分達を
頼るなんて考えて無かっただろうし・・・
私とて、一夏が私の就職先を心配して向こうに
相談に行ったと言われたときは、頭が真っ白に
なったからな。

心配をしてくれるのはありがたいし、私が最初に学園を頼っていれば理事長や更識の企みにも気付けなかったのだから、私たちとしては悪くはなかったんだが・・・夜中にいきなりこんな大事の種を持ち込まれて、さらにその日の内に司馬監査員に伝えに行ったんだろ?

今の凰の胃がどうなってるか心配だよ。

「とりあえずここまで大々的に告知されたんだ。今さら理事長も隠しだては出来んから、何かしら指示が出るだろう。

情報収集を怠る気は無いが、今回の件に関して我々に選択肢は無い」

「・・・そうですね。流石にデュノアさんが女性と言うことを隠していた学園に対しては思うところも有りますが、そもそも2週間も見てきて気付かなかったのは私たちの不明

です。上層部は信用出来ませんけど、彼ら
だけを責めるのも違いますし」
全くだ。教頭が目の前に居たら『そんな節穴は
要らんな？』とか言って目を抉られるレベルの
失態だ。
はぁ、凰は私がＩＳ学園を退職したら冬林技研で
雇用する用意が有ると言っていたらしいが
この様ではな・・・最初は矯正からだよなぁ。
「うむ。お互い自責を忘れずにいこう。それに
デュノアが虐めや虐待を受けないように監督
するのは教師としては当然の務めだ。
ＩＳ学園やＩＳ委員会の思惑はともかくとして、
私たちは教師として当たり前のことを
当たり前にやろうじゃないか」
「はいっ！」
・・・確かに不当な虐めや虐待は許さんが、
だからと言って一夏を巻き込んだことを

許すつもりもないがな。
シャルロット・デュノア。貴様に一夏は
絶対にやらんぞ！

あのヤロウ！爆弾をコッチに投げ棄てやがった?!
「十蔵さん・・・コレは?」
「・・・ええ、フランスの度を越えた醜態に
嫌気がさしたのでしょう。
シャルロット・デュノアさんを抱えることで
得られる利益よりも、関わることで生じる
面倒ごとを避けた。とも言いますがね」
こちらがフランスの動きに注視していた隙に
最低限の根回しは終えていたのだろうな。
そんなことが無くてもいきなりこんな要求を

出されて、拒否だの異論を唱えることが出来る人間などいない。
そもそもシャルロット・デュノアに抱え込む
価値があるか?と聞かれればどこの国だって
『無い』と答えるんだからな。
正体がバレたスパイに価値は無い。更に
フランスの弱味を握ると言う意味であれば、
すでに彼女の存在そのモノが弱味だ。
抱え込む必要がまるでない。
あるとすればＩＳコアくらいだが・・・ココで
もし『彼女を引き取る』と宣言する国が有れば、
ソレは間違い無くＩＳコアが目当てだと世界中に
宣言することになる。
そんな宣言をしたら、その国は彼女を引き
入れる為にどれだけの金や資財を提供させ
られることか・・・更に彼女が持っている
専用機は第二世代型と言うのも、無理をして
まで欲しがる理由にはならん。

誰だってコアは欲しいが、その所有権は委員会にあると明言されているし、あくまで自衛の為に彼女に一時預けられているだけ。
つまり彼女を抱え込む場合、新しい技術を得ることは出来ないし自国の強化にも使えない。
それなのにＩＳ委員会の紐付きの元スパイを国内で養う必要があるわけだ。
更に言えばフランスの混乱の巻き添えをくらう可能性が極めて高い。
そして引き取る大義名聞も無いのが問題だ。
奴が彼女を度々『学生』だの『少女』だのと言っているのは、中立を唱うＩＳ学園以外ではまともに学生として扱われないであろう『学生』を『学園』に戻すことで、自分達が無責任に放逐したと言われないようにするためのモノ。
そして我々には贖罪として彼女を迎え入れ、その後の面倒を見ろと言ってきた。

・・・我々はこれを拒絶できん。
そもそもＩＳ委員会の執行部から正式な申し入れに加えて、世界中の関係者が見ている中で『学生の保護』を断るなど不可能だ。
今ごろ妻は承諾の意を伝えてるだろうな。
「け、けど、コレってアレじゃないですか？フランスの邪魔とか周囲の目とか、そう言うのを関係無しにデュノアさんを引き抜けたって事になりませんか？」
「まぁ、見方を変えればそうなりますね」
我々にしてみれば、贖罪の機会を与えられたのだ。正直言ってかなり助かる。
学園としては『過去の過ちを糧に、今後は特定の国の干渉を受けること無く学生の為の運営を行って参ります』と言った感じの声明を出すことになるだろう。
フランスにしてみても、彼女はただの被害者だ。

ＩＳコアは惜しいが、今はソレどころじゃない。
そもそもの制裁決議案はＩＳコア所有権剥奪なのだ。
周囲もココで下手につつけば、その矛先を
自分達に回されると知っているから、今は
静観しているだけ。
国内の状況が落ち着けば次は国際社会との
折衝が待っているんだ。
少なくとも『人権侵害』のレッテルだけでも
剥がせるなら剥がしたいところだろうよ。
それに、問題の大元である彼女に関する関心が
薄れれば薄れるだけフランスはやり易くなる。
ならばフランスの最終判断は『ＩＳ学園で静かに
暮らしてろ』と言うモノに落ち着くだろう。
中国としてはフランスに関わらないと言う
スタンスを取ることで、あくまで自分達は
保護を求めてきた学生を保護しただけと
言い切ることができた。

これによってフランス国内の面倒ごとから
完全に手を引けたし、世界的な信用を得る
ことも出来たわけだ。
ついでにシャルロット・デュノアと織斑一夏の問題も片付いた。
シャルロット・デュノアは国と親に翻弄された
悲劇のヒロインで、織斑一夏はただの善意の
第三者・・・いや、正義の味方となった。
これからシャルロット・デュノアと接触しても
誰にも文句は言われないだろうな。
少なくとも関係者が誰も損をしていない。
この神懸かった利害調整こそが政治を司る
司馬家の政治顧問を勤めるヤツの真骨頂か！
「とりあえずは書類の作り直しです。シャルル君
が居なくなり、新しくフランスから女生徒が転入
してくるといった形の手続きを急ぎましょう」
完全に掌の上で転がされたが、この上は無駄に
時間をかけずに彼女を受け入れ、国際社会に

対して反省しているとアピールするとしよう。
「あーそうなるんですね。コレが平日だったらどれだけの生徒が混乱していたことか。いやほんと、週末で助かりましたよ・・・」
「・・・そうですね」
ここまで見越してのことなんだろうが、明らかに冬林技研に得が無いんじゃないか？人も得られず、コアも得られず、信用だって元々低くはないだろう？
中国が信用だの名声だのを重んじる国だと言うことはわかっているが、冬林技研は利益を求める企業だぞ。

くそっ！連中は一体何を得たと言うんだ？

うむ、綺麗にぶん投げる事に成功したな。
「流石リー君。阿呆は無事に突っ返したし、ちーちゃんはＩＳ学園に対して不信感を抱いたし、いっくんも自分の立場を理解したんだよ！」
俺的には阿呆の返却が一番嬉しい。
アレを見てるとイライラするんだよな。
「その上で私の水銀の蛇の単一仕様能力を世界規模で実験することができました。
政治に特化した轡木十蔵には我々の動きを理解することも出来ないでしょう」
世界規模の実験なんざそうそう出来んからな。
しかもその罪をフランスが被ってくれたし。
「更にフランスを中心とした欧州の政治的混乱が俺たちの行動を隠蔽してくれる。
ソレらを考えれば、今回の件は織斑一夏の信頼を勝ち得ていた准尉の手柄ってことになるかもな？」

予定では阿呆が自分で俺たちの下に亡命を希望しない限り、アレの性別に気付いた織斑一夏が姉に頼み、轡木十蔵が動いて終わる案件だったからな。

切っ掛けを持ち込んで来た准尉は順調に任務を遂行してると言えるだろう。

「え～？貧乳は明らかにミスしてるじゃん！フォローしたのは束さんとリー君だよ！」

「それはそうだが、この辺は上司の仕事でもあるからなぁ。まさか１０代女子の学生にミスの責任を負わせるような真似は出来んよ」

「・・・兎の言うことに賛同するのは癪ですが、准尉は明らかに失態を犯しています。これ挽回したのは師の手腕ですから、准尉に対しての罰は実行するべきかと」

「ふむ」

アレか。

コイツにしてみたら軍規違反である以上は
結果的にプラスになっても違反を咎めるべき
だって話だな。
正直１０代女子の学生にそこまで規律を
求めては居ないが、アレも立派な軍属。
信賞必罰はキッチリしておけと言うことか。
やれやれ。子供に甘いのは俺の悪い癖だな。

「そうそう！しーちゃんは部下のミスの責任を
取って『・・・申し訳ございません』してれば
良いんだよ～♪」
「ほほぅ」
弟子の立体映像か。司馬家の人間には
高く売れそうではある。
バリエーション増やせば中々の売り上げに
なりそうだ。
「なっ！貴様、師の前でっ！」

まぁ、コイツが認めるはず無いけどな。
「束。とりあえずソレは没収だ。からかう程度ならかまわんが、相手が本気で嫌がることをするんじゃない」
「え～」
え～じゃない。ここで争われて機材を壊されても困るし、本気で弟子が兎に殺意を抱く前に冗談で終わらせておけって話だ。
「でもって弟子は修行が足りんな？」
「あうっ！」
見せるならまだしも、相手に自分の感情を読まれてどうする。
しかも相手は人の気持ちがわからん束だぞ？
今回はシカタナイって見逃してやっても良いんだが、准尉を罰する以上は弟子にも罰が必要だよな。
「よって弟子は矯正。束は・・・後で何か

やろうかね。今回はきちんと仕事をしたし
弟子に対するコレは仕事とは無関係だしな」
流石に弟子をからかったからって矯正は
出来んし、する気はない。
弟子にも束にも対等の友人は必要だからな。
「へへ～ん。リー君はしーちゃんだけを
特別扱いしないからね～。そう言うところが
大好きなんだよ～♪」
「くっ・・・今回はシカタナイですね」
はいはい。その調子で仲良くしてくれよ。

さてさて、とりあえずフランスについては暫く
放置でかまわんな。
ドイツ軍に関してはもう少し様子見っと。
んで弟子と簪とラウラは明日の朝には学園に

戻るから、あんまし夜更かしさせるわけにはいかんよな。
弟子の矯正は・・・今回は時間もないし幻魔拳で良いだろう。
冷徹な人にオマカセだＺＥ！

んじゃ、ラウラ呼んでさっさと寝るか。

「アッーーーーーーーーーーーー！」

第36話

「うむぅ・・・まだ腰に違和感が・・・」

金曜の初夜は痛みとかも無かったし、色々遠慮もして貰ってたんだなぁ。

さすがに足腰立たないのは治療してもらったが、アレとはあんなにも凄いモノだったのだな。

アレに嵌まることを肉欲だの色欲だのに溺れると言うが、まさしく溺れてるような感覚だった。

それに一晩中とは言うが、途中から意識が飛んで色々あやふやになるからなぁ。

あの感覚を味わいたくて行為に嵌まる連中が居ると言うのもわからんではない。

うん。あの言葉の意味を魂で理解出来たよ。

「あ～あ～ラウラさんは良いよなぁ。私なんて命奪崩壊拳でダウンしてて、痛みに耐えて

ナニかをはね除けたと思ったら月曜の早朝だよ？
うーらーやーまーしーいー（　ＴДＴ）」
「おおぅ。なんと言うか・・・感情が篭ってるな」
そ、そう言えば簪特尉もアレが出来るん
だよな。教頭殿の女に必須の技能なのかと
思って少佐殿に習おうとしたら「覚えなくて
良い」と言われて、習得はしなかったんだが。
とは言え、だ。
「いや、羨ましいと言いたいのはコチラだぞ？
ドイツ軍の命令でＩＳ学園に来たと思ったら周囲は
ただの小娘どもだし。
これでは己を高める術など教官に個別に教えを
受けるしか無いと諦めていたのに、准尉と言い
特尉と言いしっかりとしたサポートを受けて
いるじゃないか。
その上特尉に至っては教頭殿とアレまでして
いたのだろう？」

完全に勝ち組と言うヤツじゃないか。
「いや、ラウラさんより早く大佐殿とアレなことをしてたのは事実だけどさぁ。
冬林技研に行った以上はやっぱりアレはしたいんだよぉ～」
あぁ、元々准尉がミスをしなければ少佐殿だけが冬林技研に戻っていたらしいからな。
最初から機会が無いなら諦めもつくが、なまじ近くに寄れたから勿体ないと言う感情に繋がるのだろうな。
「気持ちはわかるが、もう過去のことだ。諦めて気持ちを切り替えた方が良いと思うぞ?」
例え特尉が先輩でも私とてアノ時間を他人に渡すのは面白くは無いからな・・・
うむ、やはりちゃんとローテーションは守って貰うと言う意味も込めて、ここは諦めてもらうべきだろう!

「確かに気持ちの切り替えは大事だよね。
うん。よし、切り替えよう！それで・・・
リンちゃんは今週一杯お休みなんだよね？」
切り替わった・・・か？まぁアレな話では
無くなったから良しとするか。
でもって、鳳准尉なぁ。私はそのとき冬林
技研に居たから報告でしか知らんが、
アレがやったことは普通にスパイの共謀として
銃殺されてもおかしくないようなミスだ。
それが疑似的な地獄送りで済んでるのだから
まだマシなのかもしれんが・・・
「あぁ、名目上は甲龍の駆動部のオーバーホール
と慣熟訓練だが、実際は地獄旅行とリハビリだ。
・・・私には命奪崩壊拳以上の痛みなど
想像もできんし、したくもないな」
教頭殿からは『こんな感じだ』と言われて
北斗〇拳を見せてもらったが、アレって

一週間でどうにかなるのか？
むしろさっさと殺してやった方が慈悲なんじゃないか？
「だよねぇ。リハビリとかも含めたら年単位が必要だと思うんだけど・・・とりあえずヘアカラー位は用意しておこうかな」
だよな。全身から血とか色々出るんだろ？爪が弾け飛んだら一週間とか言う問題じゃないよな？
さらに、髪の色まで落ちたらＩＳ学園に戻るとき大変だろうに。
いや、ヘアカラーでなんとかなるのか？
「その辺は教頭殿が上手くやるんだろうさ。それにそれだけの罰を受けるからこそ凰准尉も本国から叱責を受けることは無かったと考えれば、悪くはないんじゃないか？」
少なくとも李家と司馬家は凰准尉に対して

の抗議をせず、むしろ立ち上がったら自分達で雇いたいと言ってきたらしいし。
少佐殿を問題に巻き込んだにもかかわらず司馬家が率先して凰准尉を許すって。
一体どんな地獄を味わうというのやら。
「うん。リンちゃんは正式な中国の国家代表候補生だし、司馬少佐の側仕えなんてご褒美以外の何物でもないからさ。潜在的な敵がモノスゴク・多いんだよねぇ。
そんな人達をまとめて納得させるんだから、新血愁・心壺台・・・スゴイ奥義だ」
「・・・スゴイの一言で済むかどうかはわからんがな。
准尉の立場を考えればいつまでもただの学生気分では困ると言うのもわかる」
ただでさえ代表候補生の席は過酷な争いを潜り抜けて手に入れるモノなのだ。

しかも徴兵された訳でもなく、自分の意思で戦い掴み獲った立場なのにな。
そんな准尉があまりに腑抜けていたら、候補生になれなかった連中も他の候補生も納得はしないだろうし、敵意を抱いてもおかしくはない。
それらを納得させるためにも早めの矯正は必要不可欠だったのだな。
後は成長した自分を周囲に見せ付けることで、自分は腑抜けていないと示せば良い。
ここまで考えての矯正なのだろう。
うむ！流石は教頭殿だ！
「リンちゃんはそれで良いとして、ラウラさんは元々学生気分って感じじゃ無かったからそこは大丈夫だとは思うけど・・・逆に学生らしくしろって言われてるんだよね？」
「う、うむ。私はまだ子供で学生なのだから、

軍人らしく有りすぎても良くないらしい」
これがなぁ。いや、世間一般の考えで行けば
私なんか小娘もいいとこだし、軍人としても
未熟なのはわかるんだ。
さらに『基本的な一般常識を知らないと敵に
裏をかかれたり、敵の行動の予測が出来なく
なるから無駄と思われる知識も学ぶように』
と言われてるんだよなぁ。
まさしくその通りだから、その点に関しては
なんの文句も無いんだが・・・
だからと言ってアレみたいになれって
訳でも無いだろう？
いやはや、難しいモノだ。

シャルが学園に戻ってきたのは良い。
昨日のニュースで言ってたように、確かに

俺たちは子供で学生だ。
政治に巻き込むなって言うのもわかる。
アレのお陰で俺はほとんど蚊帳の外にして貰えたし、シャルは女生徒としてＩＳ学園に戻ってこれた。
ＩＳ学園は暫くは俺達への干渉を控えるだろうし、他の女生徒たちには『フランスの事情が絡むから俺の口からは何も言えない』って言えば情報の漏洩にもならないし、取り合えず一年この調子でいれば俺の持つ情報も価値が無くなるらしい。
保護からアフターケアまでバッチリだし、
リンには頭が上がらないな。
・・・問題は
「一夏！本当にコイツとは何も無かったんだな?!」
いや、アレだけの騒ぎだぞ？何も無かった

ワケないだろ。情報の共有とかリンからの説教とか、色々有ったっつーの。

・・・言えないけど。

「水臭いですわ一夏さん！私を頼って頂ければスパイの小娘の一人や二人なら何とかしてあげましたのに！」

いや、無理だろ。そもそもイギリスとフランスは仲悪いんだから、普通に政治に利用されてるだろ？

・・・当然俺も巻き込んで。

あぁ。もしかしたらソレがシャルの入学を黙認したイギリスの狙いだったのかもな。

「ありがとう一夏！これからは今まで以上に授業とかＩＳの操縦を教えてあげるからね！」

ありがとうって言われても、俺は何にもしてないよな？

むしろリンと司馬さんに感謝を伝える

べきじゃないか？
まぁシャルにしてみたら、頼れるのは
俺しか居ないって感じなんだろうけどさ。
・・・だけどなんか距離が近くないか？
いくらフランスのスパイじゃ無くなったとは
言え、今だってシャルが下手なことを言えば
フランスがダメージを受けるんだぞ？
そんなのと世界唯一の男性操縦者や、イギリスの
代表候補生であるセシリアが近くに居るって
ヤバくないのか？
せっかく政治から解放されたのに、自分から
問題起こしちゃダメだろ？
暫くは普通に海外から来た女子学生って
感じで扱って貰えるんだから、俺以外の生徒と
仲良くするようにしなきゃダメなんじゃないか？
いや、フランスの情報を考えたら普通の生徒と
接触したらダメなのか？

うーむ。わからん。
「はっ！貴様に教わる事など何もない！立場を弁えて大人しくしていろ！」
いや、射撃武器の特性とか間合いとか色々学ぶことはあるけど。
大人しくしていて欲しいって言うのは確かに有るよ・・・筝もな。
「そうですわ！一夏さんにコレ以上迷惑をかける事が無いように、貴女は大人しく授業を受けていれば良いのです！」
口調は荒いけど、まぁそうだよな。
千冬姉やリンに迷惑が掛かるから、正直大人しくしてて欲しい。
・・・セシリアもな。
「大人しくするのはソッチでしょ？一夏は事情が有って喋れないって知ってるくせにグダグダとおんなじこと聞いてきてさ。

『誰にも言わないから～』って言うなら
別に君たちに教える必要だって無いじゃん」
「なんだとっ!?」
「なんですって!?」
これはまさしくその通り。
こいつら、リンが予想してきたことを
そのまま言って来たからな。
言えないって言ってるんだから素直に諦めろよ。
まぁ千冬姉とリンが言うには箒は単純な
好奇心だけど、セシリアはイギリス国内でも
かなり評価が悪いらしいんだよな。
元々女尊男卑思想な上、周囲に高飛車に
接していたから男女関係なく嫌われてて、
千冬姉の前で日本人を東洋の猿扱いしたり、
二人部屋なのにもう一人のスペースを奪ったり、
新人同然の俺に苦戦したり、ラウラの挑発に
乗って戦った挙げ句完敗したり、シャルの

男装に気付かなかったり・・・二ヶ月でここまでマイナス重ねるのって相当だよな。
そんなこんなで、ただでさえ低かった評価がかなり低くなってるらしい。
だからこそ少しでも情報が欲しいし、俺に対して貸しを作りたかったらしいんだよな。
今回の件で、タダより高いものは無いってのはこーゆー事なんだってのも知ったよ。
誰が引っ掛かるか。
俺が種馬候補にされてるって言うのがわかった以上、クラスメイトにも下手な接触や考えなしの発言は厳禁。
例外はリンとかラウラみたいに、俺に特別な価値を認めていない冬林技研がバックに居る人達だよな。
司馬さんをトップにした人達ならフランスの事情も知ってるし、俺を無理に囲い込もう

としない。
まぁ囲い込まれても、俺や千冬姉の就職が楽になったりするだけだし？
それに俺のＩＳ技術の向上にはリンに協力を頼むのが一番だって話だしな。
そりゃそうだよ。俺の白式は近接戦闘オンリーなんだから、射撃特化のセシリアじゃまともな訓練にならないし。
シャルの機体は第２世代で単純な出力が足りないから、白式と正面から打ち合うには力不足。
箒に至っては訓練機だし。剣道は無意味ではないかもしれないけど、生身ならともかく三次元戦闘が基本になるＩＳだと思考の幅が狭まるから、無駄に拘るなって千冬姉から言われてるし。
言われてみたら納得したよ。

剣道は空を飛ぶ相手を想定してないからな。
つまり今の俺は近接戦闘の基礎すらまともに訓練出来てない。
逃げる相手を追う訓練は出来ても、逃げずに迎撃してくる相手との訓練が出来てないんだ。
その結果が近接戦闘しか能が無いくせに、近接戦闘が未熟って言う意味がわからない形になってしまってる。
かかり稽古すら出来ないんだもんなぁ。
何とかしたいんだけど、なまじ白式の出力が高いうえに俺が未熟だから手加減も出来ない。
手加減無しで全力でぶつかれる相手がリンしか居ないんだよ。
リンに頼もうにも、今週一杯は休みらしいし。
・・・名目は甲龍のメンテらしいけど、実際は謹慎みたいなもんだよな。
スパイを部屋に入れて泊めるなんて、本来

ならスパイの共謀扱いなんだろ？
日曜にリンの休みの申請がメールで提出されたって聞かされたとき、千冬姉が『済まん』って呟いてたからなぁ。
リンの厚意に報いるためにも無駄な時間を過ごしたく無いんだけど・・・
「大体さ、一夏が休んだからってドアを破壊するって意味がわからないんだけど」
わっかんねぇよなぁ
「そ、それは一夏を心配してだな！」
「そうですわ！電話にも出ないし返事も無いのですから、非常事態と判断しましたのよ！」
非常事態では有ったけどよぉ
「いや、普通なら留守って考えるでしょ？
それにあんなことになってるのに、無関係な君達からの電話なんか出れるはず無いじゃん」
まともな事を言ってるように聞こえるが

お前だって散々着信入れてきたからな？
お前からの電話こそ一番出ちゃいけない電話だったんだぞ？
「無関係だと?!聞き捨てならんな！」
いや、無関係だから。
「そうですわ！友人を心配するのは当たり前のことですわよ！」
いや、今言ってるのは友人とかじゃないから。て言うかセシリアの裏事情を知った上で友人とか聞くと、かなり白々しいぞ。
もし本気で友人として心配してたとするなら、セシリアも自分の立場を理解していないって事になるんだよな。
・・・自分が崖っぷちに立ってるって理解してないヤツの側に居るのって、実はかなり危険なんじゃないか？
下手に関わればフランスの次はイギリスの

政治に巻き込まれるよな？
いや、次どころか重なる可能性まで有る。
さすがに何度もリンに頼るのはアレだけど、
リン以外に頼れるのも居ないわけで。
うん。とにかく出来るだけこいつらとの
接触は控えるべきだよな。
そうなるとラウラに話しかけた方が良いか？
・・・自分を巻き込むなって怒られるかも。
とにかくこの三人を何とかしない限りは
俺に安息の日はこないって言うのはわかった！
「人の話もろくに聞かないで木刀だの真剣だのを
振り回すヤツが心配？それがドアを壊す理由
になるわけないじゃん！」
「なっ！」
あ～うん。ソレについてはもっと言ってやれ。
少なくとも金曜の時点ではあの部屋は俺と
シャルの部屋だったんだ。

ドアを壊された恨み言を言う権利はあるぞ。
「それにソッチはイギリスの紐付きだろ！
それなのに一夏から聞いたことをしゃべらない？あり得ないだろ！」
「くっ、そ、それは・・・」
うんあり得ないな。
「そんな君たちが側にいたら一夏が迷惑するだけなんだから少しは自重したら？」
「「お前が言うな!!」」
うん。どっちもどっちだな。
さて、部屋のドアを超合金にしてもらうまでは千冬姉の部屋に居候するかね。
・・・クラス替えとかしてくれないかな？

「「・・・」」

まったく月曜の朝から廊下で大声出して何をしてるんだか。

まぁあそこで織斑一夏が口を挟まないだけマシになったかな？

下手に口出しをしても連中がヒートアップするだけだからね。

自分の置かれた状況を把握して少しは考えて動くようになったらしいけど、周りの連中の手綱を取れないならやっぱりアホだよ。

「特尉。前々から不思議に思っていたのだかな」

「ん？何かあった？」

サメの頭が増える理由は考えちゃいけないよ？

「いや、セシリア・オルコットが偉そうなのはまだわかるんだ。実が伴っていないとは言え専用機を任された国家代表候補生だし、それなりの矜持もあるのだろう？」

まぁ家とか金の力を使ったのは事実だけど、
ＢＴ兵器の適性は本物だからね。
それに関する専用のトレーニングだけを積んで、
それなりの成果をあげたからこそ近接戦闘が
全く出来ないのにイギリスの国家代表候補に
なれたんだろうし？
「だね。本国から干されつつ有るとは言え、
肩書きと第３世代型の専用機は有るし。
シミュレーターとか実機でも訓練してるだろう
から、それなりの実力と自負は有ると思う」
少なくともＩＳ学園の一年生の中では間違いなく
トップクラスの実力者だし。
まぁ司馬少佐・ラウラさん・私・リンちゃん
の次くらいじゃないかな？
いや、阿呆となら良い勝負になるかも。
「うむ。それでシャルロット・デュノアが
アレと対等な口を利くのも、まぁわかる。

今の立場はスパイではなく一学生だが元々は
フランスの代表候補生。
セシリア・オルコット同様に下地も十分に
あるだろうし、そもそもＩＳ学園で重要なのは
所属国家ではなくＩＳの技能。
言い替えれば強さだ。
アレの専用機は第２世代型ではあるが完成度
は高いから、所詮は試作機であるイギリスの
第３世代型とも戦える。
それを考えれば、卑屈になることなくああして
他人とぶつかることが出来ると言うのはヤツの
人間的な強さと言っても良いかもしれんよな」
いや、アレは単純に織斑一夏は自分の男だ
ってアピールしてるだけだよ。
ただの女の争いですお疲れさまでした。
「まぁ、シャルロット・デュノアについての
勘違いは追々晴らすとして。

ラウラさんが言いたいことはわかったよ」
うん。そりゃ疑問に思うよね？
「そうか？しかしあえて聞くが、篠ノ之箒があそこまで偉そうなのは何でだ？確かＩＳに関しては素人同然の知識と実力しかなく、姉である兎殿を嫌っているのだろう？彼女の威光が無いのなら代表候補生であるセシリア・オルコットやシャルロット・デュノアと同格のような口振りはおかしいだろう？まぁ学生だから身分差は無いと言うのかも知れんが、それだって・・・なぁ？」
「だよねぇ。兎さんの威光がなければアレは何処にでもいる学生でしかないし」
はっきり言ってタダの雑魚なんだよなぁ。
アレを見て私たちが不思議に思ったり周りが『代表候補生に対して生意気だ』って思うのは単純な立場だけじゃなく、その立場を得る為に

した苦労や努力に対してアイツが敬意を払って無いからなんだよね。
私たちはアイツが部活で剣道とかしてる時に一心不乱にＩＳに乗ったり、ＩＳの勉強をしたりしてたんだよ?
そしてやっと手に入れた代表候補生の座に多かれ少なかれ誇りを持ってる。
アイツだって高校に入ってから剣道を始めた初心者が、自分に対して最低限の敬意を払わなければイラつくだろうし場合によっては周りが怒るよね。
私たちもソレと同じような気持ちになるのはシカタナイと思うんだ。
「端的に言って不快だ。教頭殿や少佐殿からすれば未熟者と叱られるのだろうが・・・」
「わかるよ。スゴク・良くわかる」
司馬少佐はともかくとして、大佐殿は普通に

頭を撫でてくると思うよ?
あの人は他人の努力は評価しないけど、努力の結果を称賛する人だからね。
だから兎さんや、私たち全員の努力の結果を無視してるアレを評価することは無い。
兎さんだって宇宙と言う未知に対して色々試行錯誤してるのに。
一家離散の原因の一つではあるんだろうけど悪いのはその技術を正しく使えないアホな連中なのにねぇ。
もしかして日本政府に洗脳教育みたいなことでもされたのかな?
普通なら姉と仲良くしてもらって、懐柔してもらおうとするよね?
わざわざ「姉が嫌い」なんて公言するようには育てないでしょ?
護衛するなら「嫌い」とかって言うよりは、

「姉なんて居ない」って事にした方が良いんだし。
その辺はどう考えてたんだろ？
まさか無能の更識が関わってないよね？
・・・あり得ないと言えないのが怖い。
「結局のところアレは姉の威光を理解してない
アホなんだよ」
そう言う意味では更識の血の意味を正しく
理解してなかった私と同類。
まぁ姉のせいで家族が離散して色々と面倒
に巻き込まれたって言うのは決して間違い
ってわけでは無いから、恨むのは別に構わ
ないけどさ。
私との違いは、私は姉を越えるために自分で
色々とやってたけどアイツは姉を恨むだけで
終わったってところかな。
せめて自分が特別扱いされてるのを自覚して、
姉の庇護下から逃れようと努力するべき

だったんじゃないかなって思うよ。
私はその方向性を間違えてたけど、アイツの場合は簡単だよね？
苗字を変えれば良いだけなんだもん。
保護プログラムの担当者だって、その方が安全性が増すから喜んで変えてくれるよ。
そうすれば少なくとも普通の人達はアイツを特別扱いしないじゃん？
特別扱いが無いならその後に得られた結果は自分の努力の結果として認められるよね。
有るものを使うって言うなら、姉を嫌うとか公言するのはおかしいし。
まぁソレも保護プログラムの一貫かもしれないけど。
とにかく、現状では自分が兎さんの妹であることを利用しつつ周りが勝手に気を使ってるだけだって言うスタンスを崩してないでしょ？

浅ましいって言うのかな？まぁ子供だから
シカタナイって言ったらそうなんだけど、
あんなのに第４世代型を準備されてもねぇ。
「そんなアホでも兎殿の家族だものな。
自衛の為にも「力を持って欲しい」と願う兎殿の
意思が間違っているとは思いたく無いが・・・
今のアレに武器を持たせても良いモノか？」
うん。心配するよねぇ。
「暴走したときに誰かが止めてあげたり、
失敗をフォローしてくれたり、説教して
くれるって言うのが最低条件だね」
そもそも私たちから見たら欠陥だらけの
第４世代型とは言え、世間では最新鋭機を
越えた機体。
普通の１５か１６の小娘に持たせるような
モノでは無いよ。
私たちの場合は・・・司馬少佐は説明不要。

私は更識の家で暗部としての知識や常識を
学んだし、ラウラさんは軍人教育を受けて
来たからって理由で最新鋭機の所持を
認められたんだし。
それだって、もしも私たちが感情に任せて
アホなことをしたら司馬少佐が責任を持って
粛清するって言う条件付きだし。
「ふむ。つまりは監督者か・・・ちなみにアレ
がアホなことをしたら誰が責任取るんだ？
やはり兎殿か？」
まぁ、普通に考えたらそうだよねぇ。
『未熟者には使いこなせない最新鋭の武器を
渡したら、使い手がアホで増長して暴走して
事故を起こしてしまいました』ってことでしょ？
本来なら兎さんが責任をとるべきなんだけど
「ん～内容によるんじゃないかな？ＩＳ学園とか
日本に被害が出る分には、私たちとしては

構わないでしょ？むしろ勝手に暴走して勝手に自爆させてれば良いんじゃない？」
この場合の責任云々は私たちが考えることじゃないしね。
「なるほどな。所属も指揮系統も違うから、我々が関わらないところで勝手に自爆する分には責任も何も無いわけか」
「そーゆーこと。だからラウラさんも不用意に連中には近づかないようにね」
連中は完全に織斑一夏に執着してるし、あんな連中の側にいたら何が理由で爆発されるかわからないんだから。

「とりあえず私たちは連中には近付かないで、
遠くから茶番を見て爆発する様を眺めて
メシウマしてれば良いってことだよ」
「め、めしうま？」
・・・ラウラさんには一般常識が足りないね。
よろしい。私が教えてあげようじゃないかっ！

第37話

「いやー選抜タッグマッチは茶番でしたね」

元々茶番にしか成り得ないイベントでしたけど、アレは酷い。

単独ですらまともな戦闘行動を取れない上に、訓練機を借りても連携訓練なんか出来ない一年の生徒を、普段から専用機を使って連携訓練してるヤツ等が蹂躙するだけの試合でしたからねぇ。

明らかに八百長で、男らしさも何も無いですが。

何も考えずに「抜群のチームワークだね！」とか言いながら満面の笑みを浮かべる阿呆に対して、織斑一夏は終始渋面。

アレは状況を正しく理解したうえで、自分が弱いもの虐めをしているって自覚して殺って

ましたねぇ。

「まぁ今回のアレは元々男性操縦者のお披露目のようなモノでしたからね。
特尉も少尉も准尉も出ないとなればあの結果は必然です」

「少佐殿の言う通りですね。ただ私としてはシャルロット・デュノアが当たり前のように出場することに驚きましたが」

だよねぇ。普通ならそうだけど、連中は普通じゃないからね。
少しでも織斑一夏の側に居れる機会があるならソレを逃したくないんだよ。
ソレを、どうラウラさんに伝えたら良いかな？

「ラウラさん。シャルロット・デュノアは織斑一夏に妄執の域で依存してるんだよ。
だからタッグのペアを誰かに組ませるような真似はしたくないんだね。

それに優勝したら織斑一夏と付き合えるってアホな情報を本気で信じてるから、尚更パートナーを誰かに譲ろうとはしなかったんだと思うよ」

アレはねぇ。端から見ても異常だよね。

「そうですね。アレの普段の行動を見れば特尉の予想に間違いはないでしょう。

その上で学園の思惑も有ります。この場で隔離や特別扱いをしないことで、アレを一人の生徒として扱っていると言うことを内外に見せたかったのでしょう」

ですよねー。阿呆の執着と学園の思惑が奇跡的に一致したんですよねー。

「なるほど。そもそも学園の思惑は織斑一夏を優勝させることでしたね。

ソレにシャルロット・デュノアの宣伝をプラスしただけと言うことですか」

こう考えれば学園的には万々歳なのかもしれないけど、ソレは織斑一夏の内面を無視した場合だよ。

「織斑一夏は自分が見せ物であり、周りが自分を優勝させるように動いていることに気付いてました・・・アレはリンちゃんが教えたんでしょうか？」

もしそうなら情報漏洩の罪がプラスされちゃうんだけど。

「いえ、凰准尉は無関係ですよ。今はリハビリ中ですしその前の会話にもソレらしい情報は含まれていませんでした」

ほほぅ。そうなると織斑千冬かな？

「准尉が現実を見るように諭し、教官がその為の情報を与えたと考えるべきだろうな」

なるほど、愛の合作ってところかな？

「ま、なんにせよ織斑一夏が現状に気付き

連中やクラスメイトと距離を取りたがっているのは事実のようですねぇ」

自分が種馬だって気付いたみたいだけど、誰が繁殖牝馬なのかわからないからね。いっそ全員と距離を取るって言うのは間違いでは無いよ。

「そのようですね。少尉に対して接触してくるかと思いましたが、流石にあの三人が付きまとっている状態での接触は不味いと考える程度の頭は有るようですし」

ですよねー。まぁもしもラウラさんに接触してきたら『私を巻き込むな！』って言って逃げるように言ってますからね。

4組まで逃げてきたら勝ちですよー。

「正直騒がしくて困ります。休み時間もずっとアレですし。あの分では簪特尉から貰った資料のように『トイレの中が唯一の安息地』

と言うのが冗談では無くなるでしょうね」
便所メシじゃないよー。育児ママとか中年の
お父さんの話だよー。
「・・・今まで思考停止をしていた報いと
言えば良いのでしょうが、中々に惨めですね。
それと貴女方にも伝えておきますが、師は
『織斑一夏が現実を見て自分で物事を考える
ことが出来るようになったのなら、それは
周囲に踊らされる人形ではなく庇護すべき子供
になる』とお考えのようです」
あぁ。前に大佐殿に『アレは適性が有るからと
言って無理矢理徴兵された学兵であって、
本来なら大人によって庇護されるべき子供だ』
って言われたもんねぇ。
思考停止して周りの意見に流されるのは
ただのお人形さん。
ベルトコンベアの上に乗って移動するお人形

さんには興味がなくても、自分の意思で前に進もうとする子供は大人として応援するって言う大佐殿の理屈はわからないでもないです。

「私が言えたことでは有りませんが、確かに今の織斑一夏は以前とは違い現実を見据えて鍛練をしているように見受けられますよ」

あんまり織斑一夏を知らないラウラさんから見ても、変わったってわかるんだねぇ。

まぁ前があまりにも酷かったからね。自分が崖っぷちに立ってるって気付いたのに何もしないんじゃただの人形以下だし。

「何でも織斑千冬にトレーニングメニューの作成を依頼したとか。とりあえず最低限の動きとしてＩＳ操縦者としての自分の価値を高めようとしていると見るべきですかね？」

そんなこと頼まれたら弟魂としては全力で取り組むよねぇ。

「その方向で見て問題は無いでしょうね。
今の織斑一夏には邪魔者を邪魔者と切り捨てるだけの強さは有りません。
ですが敵も味方もわからず、後ろ楯も何も無い状況ではソレもシカタナイと言えるでしょう。
よってこちらで明確な味方を用意します」
「明確な味方ですか？」
あぁ。ラウラさんはこっちの事情はあんまり詳しくないからね。
確かに今の織斑一夏からしてみたらリンちゃんは数少ない明確な味方です。
「えぇ。准尉が戻り次第織斑一夏のトレーニングに合流させ、映像を確認しながら私と特尉で准尉と織斑一夏のトレーニングメニューを作成することとなります。
コレは師からの正式な命令となりますので、特尉にも拒否は許しません」

「はっ！了解しました！」
正直織斑一夏は嫌いだけど、いつまでも
好き嫌い言ってることを許されるような
立場でも無いのはわかってる。
つまりコレはいつまでも拘ってないで
いい加減吹っ切れろって言う司馬少佐と
大佐殿からのメッセージ。
まぁそうじゃなくても元々大佐殿からの命令に
反対する気もないし、いつまでもウジウジして
られないもん。
・・・それにこの辺でしっかり区切りをつけ
なきゃ私も『成長しろ』って言われて新血愁・
心霊台を受けることになるよね？
「え？簪特尉はともかく、少佐殿が直々に
トレーニングメニューを組まれるのですか？」
「・・・何か問題でも？」
大佐殿から司馬少佐に出された命令に

疑問を抱くなんて・・・ラウラさん君もバカだったな。

「あ、いや、違います！教頭殿からの命令とあらば異論は有りませんが、教官がすでに織斑一夏の為のカリキュラムを組んでると思われます。

二重になればヤツは教官の作ったメニューを優先するのでは無いかと考えまして・・・」

あ～なるほど。わからないでもないけど、その心配はちょっと方向性が違うかな？

「ラウラさん。織斑千冬はリンちゃんの強さを正しく把握出来てないから、織斑一夏が一人で鍛練するためのメニューは組めても二人で訓練するときのメニューは組めないんだよ」

色々隠したり制限させたりする必要もあるし手加減とかも有るからね。

「あぁなるほど。それに准尉の機体はまだ

第3世代型だが今回のオーバーホールで
イメージインターフェースの性能を落として
出力の向上に充てると言っていたな。
そうなれば以前とは全く別物の機体になるから
教官もカリキュラムの組みようが無いか」
わざわざ学園に機体の新スペック情報を
教える必要も無いし。
開示を要求されても『信用出来ない』って
言って断れるし、ラウラさんや私の機体も
メインコアだけ稼働するようにしてれば
外見はただの第3世代型と変わらないからね。
「そう言うことです。そもそも准尉の為の
トレーニングメニューが主題です。それに
我々が織斑一夏に対しても手を差し伸べるのは
あくまで我々の都合です。故に織斑一夏が
その手を払い除けても構いませんよ。
ソレが彼の選択と言うだけの話ですからね」

ですよねー。今の段階で私たちが頼まれたわけじゃないですし。
まぁリンちゃんとトレーニングをするようになれば、向こうから頼んでくると思いますけどね。
「では次の話題ですね。来月の臨海学校についてなのですが・・・」
あぁありましたね臨海学校。
「私と司馬少佐が学校に残り、ラウラさんとリンちゃんが向こうに参加ですよね?」
「なにぃ?!き、聞いてないぞ!」
言ってないもーん（ ?▽?）
大体さ～ナニが悲しくて連中と海なんかに行かなきゃダメなんだって話だよね。
機動実験なら冬林技研のラボとか宇宙で出来るし?むしろ連中の前でわざわざ専用機を開示する理由がわかんないよ。

て言うか気分転換するほど授業の密度って
無いよね？
しかもようやく歩行訓練が一段落した程度
の連中が外で訓練機使うって馬鹿じゃない？
学園もなんか「機密があるから～」とか言って
臨海学校の場所の情報を隠したり、ダミー
を出したりしてるけど、螺旋頭とか
リンちゃんが国許から装備品を受けとる
為に座標を報告してるから意味ないよね？
更に毎年同じ場所だから、他の国もすでに
わかってるし。
アレかな？マスゴミ対策かな？それなら
場所もちゃんと変えろよって思った私は
悪くないはず。
ま、どちらにせよ関係ないけどね。
「私たちは学校休んで大佐殿と旅行に
行くんですよね～♪」

「な、なにぃ?!」
ふはははははは!これぞ正妻と側室の特権!
ラウラさんは諦めてリンちゃんの面倒を
見てれば良いのだー。
「・・・その予定でしたが、兎の横槍が入り
ましてね。私たちも現地入りすることに
なりました」
「えぇ~?!」
マジですか!Σ(?□?;)
「横槍って確かモップの誕生日に第4世代型を
渡すって話ですよね?」
「えぇ。その上で茶番も予定しているようで
したね。兎から『ゆっくり見ていってね!』
とか言われましたよ」
そんで臨海学校の日程は・・・あぁしっかり
7月7日に被ってますね。
くそう。普通の臨海学校ならリンちゃんと

ラウラさんに監査をお願いすれば良いだろうけど、第4世代型を渡されたモップに対しての学園のリアクションとかとなるとなぁ。
でもって茶番？なんだろう？
織斑一夏を巡っての痴情の縺れとか？
「さ、流石に心臓に悪いですよ。私一人があの連中の中に放り込まれたら無意識の内に武装を展開してしまいそうですから・・・」
うん。気持ちはスゴク・良くわかるけど、リンちゃんを向こう側にやるのは少し可哀想じゃないかな？
いや、恋する乙女だから良いのか？
「未熟者。と言えれば良いのでしょうが、私とてソレについては否定は出来ません。とりあえず海に入る必要は無いので私は暗殺防止を理由に室内に篭ります。
専用機の機動実験にも当然参加はしません。

故に私たちからしたら完全に休暇扱いです。
二人が泳ぎたいなら止めませんから、まぁ好きに過ごすと良いでしょう」
暗殺防止もあるだろうけど、基本的に司馬少佐は大佐殿以外に肌を見せる気が無いからねぇ。
私も室内で待機が許されるなら室内で待機してる方が良いかな？
「私も別に泳ぎたいとは思いませんから室内で良いですね」
それに本音とかに接触されても困るからね。
私に疚しいことが無くても何かしらを仕込んでくる可能性があるから、ここは避難一択だよ！
「私は少佐殿の護衛ですし、何より海に行ってまで連中の近くに居たくありません。何卒室内でお願いします」
うわぁ。連中は普段から相当騒がしいん

だろうなぁ。

「そうですか。まぁ好きに過ごすと良いと言ったのは私ですからね。部屋割りについては我々が纏まることが出来るように手配をしましょうか」

「ですね。機密の関係も有りますから無理な要求と言うほどのモノでは無いですし」

て言うか他の生徒と一緒にされても、他の人達も困るよね。

「・・・助かります」

あぁ。普通に助かったって感じだよね。

ラウラさんの場合だと同じ日に転入してきた阿呆と一緒にされる可能性が高いし、海外組ってことで螺旋頭も混ざるかも知れないから、確実に安眠は出来ないもんね。

それに加えて鍛練の邪魔されたり機密を覗かれたりする可能性を考えれば、コッチに来た方が

絶対良いって。
あとは茶番に関する情報だけど・・・兎さんも副所長さんもネタバレは嫌う方だから基本的に秘密だよね。
被害が出る類いのモノって可能性も有るからとりあえず纏まってた方が安全かな?
「ふむ話のついでに伝えておきますか」
「ほぇ?なんか「話のついで」とかって言い方は珍しいですよね?」
司馬少佐は必要と判断したことは伝えるし、必要ないと判断したら伝えない人だからさ。
この言い方は微妙に違和感が・・・
「まぁついでとしか言いようがありませんからね。とりあえず聞きなさい。
まず兎が篠ノ之箒に用意する予定の第4世代型の性能は貴女方が使う機体の半分近い性能を誇ります」

はぁ？

「・・・いや、第４世代型ですよね？」

ソレなのに複合コアシステム搭載型の

半分って・・・コアの容量を増やした？

もしくは他の何かを切り捨てたのかな？

「それはつまり、完全に燃費を捨てて出力に

舵を切った機体と言うことなのでしょうか？」

そうだよね。ラウラさんが言うように、

燃費とかを捨てて出力に特化しないと

第４世代型で私たちの半分なんて不可能だよ。

それに宇宙開発とかじゃなく、モンドグロッソ

を見据えた超短期決戦型なら燃費を気にする

必要も・・・無いってわけじゃないけど、

まぁ納得できるコンセプトではあるよね。

「そうだとも言えるし、そうではないとも

言えますね。とりあえず機体性能は現行の

ＩＳと比べて極めて高いと言える機体です。

当然篠ノ之箒に取り扱いが出来るような機体ではありません。
兎が用意する茶番にも関わってくるでしょう。
故に必ず事故があるので、連中の近くには行かないようにしてください」
「「はっ！」」
確かに他人の事故に関しては私たちが注意してもどうにもならないからね。
『近寄るな』って言うだけのことなんだから話のついでにしかならないよ。
しかし素人に第４世代型なんてなに考えてるんだって思ったけど、わざと燃費を悪くすることで暴走したときの時間を短縮する狙いとかはあるかも知れないか。
兎さんは何だかんだで妹大好きな変態だからねぇ。
暴走しても司馬少佐に問答無用で撃墜されない

ように色々と仕込んでる筈だよね。
前の自爆システム搭載機と言い、兎さんは
中々にロマンを知る科学者であり技術者だし。
ふふふ、コレは技術者としてしっかり観察
せねばなりませぬなぁ～。
リンちゃんには・・・後から司馬少佐から
伝えるよね？
「しかし、なぜ兎殿は篠ノ之箒に第４世代型
を用意したのでしょう？その気になれば
第五世代型とて渡せたのでは？」
あ～それはそうだよね。兎さんはＩＳコアの
製造と宇宙開発に必要な観測機の作製や宇宙
空間や星に関する様々な計測が主な職務だけど、
そのために必要と判断されたら、試作機を造る
権限だって有るんだもんね。
クロエさんがいればテストも出来るんだし
大佐殿を誤魔化すのは不可能だろうけど、

ソレでも交渉すれば第五世代型を造ること
だって難しくは無いはず。
妹ダイスキーな変態が型落ちを提供するって
言うのは確かに違和感があるかな?
「アレも多少は人の社会と言うものを理解
したと言うことですよ」
マジですか?!
「あのＩＳを世に広める為にミサイル原潜の
システムにハッキングして日本に打ち込んだ
破綻者に社会が理解出来るんですか?」
いや、そういえば以前無人機をＩＳ学園に
放ってきたときも、司馬少佐の暗殺の為に
学生や世論って言う社会性を利用してきた
から無くは無いのかな?
「ええ、あの破綻者がです。まぁそれも偏に
あの技術特化のアホ兎に正しく教育を施した
師の実力あってのモノですが」

「さ、流石は兎殿だけでなくキサラギ殿やアリサワ殿を従える教頭殿ですね・・・」

うん。凄い説得力だ！

アリサワさんはともかくとして、兎さんですらキサラギさんには関わろうとしないのに、副所長さんは真っ正面から向き合って意見交換してるからね。

火星の大地に特殊苔と恐怖公が根付いて、ソレを捕食するＡＭＩ〇Ａが増殖する日は決して遠くないぞっ！

「えぇ。私ですらアノＨＥＮＴＡＩ共を従える自信はありません。流石我が師です」

ですよねー。大佐殿がいなければ間違いなく連中は衝突して、お互いが損耗して終わってますよねー。

「ちなみに師に似たようなことを聞かれた兎はこんな回答をしたとか」

――ほわんほわんほわんしばしば～――

「妹から専用機が欲しいと頼まれたから専用機の製造許可が欲しい？」

普通なら「アホか」で済む話なんだが、わざわざ束が許可を取りに来たと言うことを評価すべきだろうな。

今までなら好き勝手に造ってただろうに、やはり会社の金が宇宙開発に使われてるから、束としても横領やら着服をして会社の足を引っ張りたく無いのだろうよ。

「そうなんだよ～。正直箒ちゃんにはまだ早いと思うんだけど、自衛の力は必要だろうし～」

ふむ・・・まぁ言ってることは間違ってはいないよな。

各種依存は少なくなってるが、束にとって
妹が急所で有ることは変わらぬ事実だ。
いずれ自立するにしても、それまで束の
威光頼りと言うのはいただけん。
「とは言え専用機を渡しても使えんだろ？」
ウチで開発してる機体はラウラみたいに
遺伝子強化されてたり簪みたいに専用の
訓練を積み重ねた結果、最低限の基礎が
出来上がっていることが必須条件だからな。
他のＡＣだって基礎的な軍事訓練と宇宙での
特殊訓練をこなしてる事が最低条件だし。
素人が使うような汎用性を高める機体は
まだ出来てないんだぞ？
「う～ん、ど～せなら最新鋭の機体を
あげたいんだけど・・・リー君が言うように
扱いきれないだろうし、他のヤツらにも
目をつけられちゃうよねぇ～？」

流石に妹スキーでも素人に最新鋭機は使えないことくらいは理解してるか。
まぁ研究者は基本的にロマン主義者ではあるが現実主義者でもあるからなぁ。
出来ることと出来ないことの境界線はハッキリしてるんだ。
若葉マークの、いや、教習所で学び始めたばかりで仮免以下の妹にＦ１の車なんか使える訳がない。
普通ならシミュレーターと座学の時間だし。
マニュアル車どころかオートマ車だってダメだろ？
しかし、それ以上に特筆すべきは束が他の奴等の思惑を予想したことだ。
『馬鹿の考えることなんか知らないよ！』を地で行く束が、そんな配慮が出来るようになっていたなんてなぁ・・・

うむ。とりあえず頭を撫でてやろう。
「うわっ！き、急に頭を撫でられても困るんだよ！毎回毎回前置きも何もないから束さんもビックリするんだよ！」
「ふはははは。たまには驚かないと人生つまらんだろ？」
人の成長には予想外が付き物。だからこそ面白い！
「・・・束さんはリー君たちのお陰で沢山驚いてるし、毎日が楽しいんだよ。だからリー君たちには迷惑をかけたくないんだけど・・・」
「構わんよ。姉は妹を守り、愛でるモノだ。最初に電話で話したときにも似たような事を言ったと思うが、夢を追うには現実を生きねばならん。束が前に進むためには妹が無事であることが大事なのだろう？ならばソレを

邪魔する気はないさ」
前進するには後顧の憂いを無くすのが当然のことだからな。
「うん・・・うん！そうだよね！リー君ならわかってくれるって信じてたんだよ！」
俺だって弟子たちに自衛するだけの力があるからこそ、こうして別行動を取ってるわけだし。
これも束の拘束を解く為には必要な出費だ。
「それで、様々な要因で妹に第五世代型を渡せないのがわかってるならどうする？
今さら第三世代型を造っても、今の状態では妹が未熟すぎてイメージインターフェースの容量が酷いことになるんじゃないか？」
当たり前に使えるようにするだけでかなりの容量を喰うよな。
成長の度合いに併せてリミッター解除って

方法も有るが、妹の性格じゃあ初期段階で不良品とか言い出しそうだし。

「そうなんだよ～。だから今の箒ちゃんがちゃんと使えるようにするためには、高性能の学習型のＡＩを搭載させて箒ちゃんのイメージを先読みしたうえで、動きを最適化するような機構も必要になるね～」

・・・一歩間違えれば完全にＡＩに操られる人形に成り下がるが、使いこなせばそれなりの機体にはなりそうではある。

「全体的な最適化が必要になるから第三世代型じゃ厳しいな。第五世代型は無理なんだから第四世代型にするのか？」

第三世代型の場合装甲やら武装が動きの邪魔をして『思い通りに動かない！』とか言って癇癪起こしそうだからなぁ。

普通なら武装や装甲が有ることを前提に

動かねばならんが、そんな訓練をしてる時間もなければ己の未熟を自覚出来ないアレにソレを理解しろと言っても無意味に終わるだろうよ。

「そうなるね。展開装甲が箒ちゃんの考える通りに形を変えれば、いずれは箒ちゃんの専用機として相応しい形になるだろうし。それに各種アシスト機能だって、箒ちゃんが成長すれば少しずつ容量を減らして燃費に回せるからね！」

妹の安全と成長を考えた機体か。まぁソレなら単純な甘やかしでもないから問題ないな。

「なるほど。機体製造に関しては特に問題はない。

素人を使った展開装甲と自動アシスト機能のデータ収集を目的とした実験機の製作と言うことで許可しよう」

ウチと関係がない素人をテスターにするのは難しかったからな。これなら今回の特別扱いも十分な理由になるだろうさ。

「なるほどなー。箒ちゃんを束さんの妹として特別扱いするんじゃなく、素人のテスターとして扱うんだね！」

そのテスターとして選ばれたのは紛れもなくコネだが、そのくらいなら便宜を図っても誰も文句は言わんだろうよ。

「そう言うことだな。言うまでもないことだが造るからには手を抜くなよ？それと、妹には試練を与えるように」

「うぇ?!箒ちゃんに試練?!」

何を驚いているのやら。

「いきなり姉から最新鋭機を渡されたら周りから嫉妬だのなんだのを受けるし、妹だって増長するだろう？」

国だのＩＳ委員会を黙らせる事はできても
そーゆーのはどうしようもないからな。
「むぅ。馬鹿な学生どもなんかどーでも良い
けど、箒ちゃんが事故を起こすのは避けたい
んだよ・・・」
「だろ?だから増長する前にキッチリ
鼻っ柱を折って地道にトレーニングを
させる必要があるんだよ」
そうして最新鋭機を持つに相応しい実力が
有るんだってことを周りに理解させないと、
今のままじゃ姉の威光を振りかざして気分で
木刀を振りかざす性格破綻者だ。
「確かに・・・束さん達が予想しないところ
で事故を起こすくらいなら、最初からしっかり
監督出来る方が箒ちゃんも安全だよね！」
そう言うことだな。第四世代型をもらって
調子に乗って弟子や簪やラウラに舐めた真似

したら束が介入する前に殺されるし。
「納得したところで試練の内容だが・・・」
「ふむふむ・・・ほほぅ。コレはコレは。
うん。確かに丁度良いね！」

――ほわんほわんほわんしばしば～――

「と、言った感じですね」
何をするつもりかまではネタバレになる
らしいから聞きませんでしたが、間違いなく
面倒ごとですよ。
なんで兎の妹の茶番に私が関わらなきゃ
いけないんですかねぇ。
「いや。普通に大佐殿が黒幕じゃないですか」
そりゃそうでしょ。師が黒幕じゃなかったら
逆に驚きます。

世の中で引き起こされる大規模な事件事故のうち、少なくとも八割には師が絡んでると思いますよ。

「・・・ですね。何をするつもりかは知りませんが臨海学校中は篠ノ之箒には絶対に近づかないようにします」

うむ。漠然とした予測による警告ではなく約束された事故ですからね。

注意を怠らないようにするのは当然です。

私としてもこんな事で万が一にも師の側室や妾を失うわけにはいきませんからね。

この仕事も奥を差配する正妻としての仕事の一環と割りきりましょう。

鳳准尉には・・・黙っておきましょうか。
対応力と判断力、それとどれだけ成長したのかを周囲に見せる良い機会ですからね。

海に汚い花火が上がるのかはたまた
線香花火が堕ちるのか。
師が用意した試練と茶番が無聊の慰めになれば良いのですがねぇ。

第38話

「うぉおおおおおおおお！」
叫びながら剣を振りかざして来るけど・・・
コレはもう癖なのかしら？
「叫ばなくて良いから。むしろ叫んだら
位置がバレるから、声は出さないで」
て言うか、そもそも正面から一直線だから
回避も反撃もやり放題なんだけどね。
「うぉっ?!」
雪片の刃の腹の部分に青龍刀の柄を
当てて軌道をずらして、突撃の勢い
ごと力の方向性を変えてその場で
回転させる円の捌き・・・
「まだだっ！ってえぇぇ!?」
流されたことに抵抗して、自分から半回転

するまでは良いんだけどねぇ。
身体に無駄に力が入ってるからハイパー
センサーで見れば狙いが丸見えだし？
上半身に意識が集中してるから、下から
上に力を加えて縦回転させちゃえば・・・
「は、はぁ?!」
円は横回転だけじゃ無いのよ？
グルんと回って自失してるところに攻撃を加えれば・・・
「ハイおしまい」
これで何勝目かな？まぁ素人同然の一夏に
何連勝しても誇れはしないんだけどさ。
けど流石一夏よね！技術的にはまだまだ未熟も
いいとこだけど、それでも腐らずに向かって
来るだけマシだわ！
「あ～。全然敵わねぇなぁ～」
そりゃそうよ。
「とりあえず声を出す癖は何とかしましょ？

声を出すことで他人を攻撃することに
対する後ろめたさを吹っ切るって意味も
あるかもしれないけど、そういうのは
未熟の証だから真っ先に無くさないと駄目」
奇襲の意味も無くなるし、相手に拍子と
呼吸を読まれることになるもんね。
「あ～うん。そうだな。簡単に直せる
ところは直さないと駄目だよな」
そうそう。直す気が無いなら直すまで殺るわよ?
「それと雪片を両手で持って振りかぶる
癖も駄目ね。パワーアシストがあるんだから
武器の重さは感じないないでしょ?
わざわざ両手を使う必要は無いわ」
本当は空いた手に中距離攻撃が出来る
武器を装備出来れば良いんだけど・・・
もしくはゼロ距離で使えるトンファーや
小盾みたいな感じかな?

雪片は大太刀だから懐に入られると小回りが利かないのよね。
最悪は素手の武術でも良いかもしれないけど、私は専門外だしなぁ。何かないかしら？
「え？いや、けど両手の方が威力が出るだろ？」
はぁ・・・今まで近接戦闘は剣道バカの助言に従ってたから、知識もソッチに偏るのもしかたないんだろうけどさぁ。
「あのね一夏。ＩＳでの戦闘に剣道の理屈は無意味よ。むしろ邪魔になるからＩＳを操縦するときは剣道に関しては忘れて頂戴」
「剣道が無意味って言うのは何となくわかるんだけど、邪魔になるのか？」
うん。今まではこんなこと言われたら感情的になって反論してきたけど、今はちゃんと私の話を理解しようとしてるわね。
「ええ、そもそも剣道は三次元戦闘を想定

していないからＩＳ戦闘に向いてないって
言うのは一夏も理解してるんでしょう？
でもそれ以前に必要な術理がまるで違うのよ」
「術理・・・」
一夏ってば興味深々じゃない。流石簪考案の
説明ね。
男のロマンをくすぐるパワーワードが満載だわ。
「えぇ。まず一夏の雪片は紛れもない特殊
兵装。当てるだけでシールドエネルギーを
削るんだから、攻撃に重さなんか要らない。
求められるのは手数と速さよ」
エネルギー切れの心配があるから
その辺のバランスも磨く必要があるけど、
まずは当てることが出来ないと無意味。
だから速さと連撃できる回転を習得すれば、
それだけでほとんどの敵にアドバンテージが
取れるんだから、相手にしたらもう反則よね。

「あ、そ、そうか。そうだよな」
今までその発想に至らなかったのは、
周りが正しく白式の性能を理解して
無かったからかしら。
「そうなのよ。むしろ勢いを付けすぎたら
シールドを突破して相手を殺しちゃうわよ?」
少なくとも第二世代の訓練機なんかじゃ耐えられないわよねぇ。
「こ、殺す?!そんな・・・いや、そうか。
俺が使ってるのはそれほど危険な武器なんだ
ってことを知らなきゃ駄目なんだよな」
今更?って感じではあるけど、ちゃんと
自覚出来ただけ良しとしましょうか。
それにまだ誰も殺していないんだから
手遅れってこともないでしょ。
「そうなのよ。よく試合で誰も殺さな
かったなぁって思ってたんだけど、一夏
なりにちゃんと手加減してたのね?」

それが無かったら間違いなく死傷者が出てたわよ。
「・・・あぁ。けど手加減と言うよりは
弱いモノ虐めに耐えられなかっただけだ。
何せ相手はこの間歩行訓練を初めた
ばかりで、さらに訓練機での訓練すら満足に
出来ていない人達だ。
あんなのどう考えても真っ当な試合じゃない」
お、ちゃんと自分でそれに気付けたか。
「その通りよ。あの試合は男性操縦者で
ある一夏のお披露目のための茶番。
ラウラや私が出場しても勝てるように
タッグ戦にしたり、色々学園が裏で小細工
をしていたの。
それに気付かないで増長するようなことが
無くて安心したわ」
どこぞの阿呆は全く気付いてない。というか
そんなこと考えもしてなかったからね。

周りも褒めるだけだし。あんな奴らの側に居たら一夏は間違いなく堕落する。
その前にこうして一夏を鍛えることが出来て良かったわ。
「今こうして叩きのめされてるからな。慢心も増長も出来ねーよ」
「ソレは良かったわね。一夏が弱いモノ虐めして調子に乗るような人間になる前に矯正出来たってことだもの」
一夏には英雄症候群の兆しがあるって話だったからね。
今のうち矯正して今後自分より強い相手が現れたとき、むやみやたらに突っかかるんじゃなくちゃんと考えることが出来るようにしないと。
「・・・そうだな。前に「千冬姉を守るくらいになる」って言ったものの、今の俺は

自分の身すら守れない未熟者ってことを
ちゃんと理解しないと成長なんか出来ねぇよ。
まず自分に出来ることと出来ないことを
知って長所と短所を理解しないと、肝心
な所で周りの足を引っ張っちまうしな」
まったくもってその通りよ。
「ソコまで理解してるなら大丈夫ね。
今の一夏は自分で言ってたように「近接
戦闘しか能が無いのに近接戦闘が未熟」
って言う歪な状態だからね。
遠距離攻撃をしてくる敵との戦闘経験も
重要だけど、その前に折角の武器を活か
せないんじゃ意味がない。
セシリア・オルコットみたいに近距離が
全く出来ないヤツなんか他には居ないん
だってことを忘れちゃ駄目よ」
実際ＢＴ兵器適性頼りのアレを参考に

されても困るのよね。
「あぁ、シャルだって技術的には俺より上だもんな。近付いても上手く捌かれてあしらわれるんじゃ意味が無い。少なくとも簡単に捌かれない技術と、的確に距離を詰める技術が必要なんだ！」
「その通り。白式の武器はその速度と雪片よ。ソレを活かす為には剣道のような戦い方では駄目。移動に使うのは足じゃなくスラスター。踏み込みを利用した移動じゃなく、背中のスラスターで空を滑るように動くことを心がけてみて」
もしくはホバークラフトのホバーって
簪は言ってたけど・・・
まぁどっちでも良いわね。
背中のスラスターが理解できなかったらホバーを教えれば良いでしょう。

「足じゃなく背中か。なるほど・・・」
お。なんか理解してる?やっぱり司馬様と
簪が監修した教えは凄いわね。
「さっきも言ったけど一夏がまず意識
すべきは速さよ。
もう瞬間加速は出来るみたいだから、私が
居ないときでも瞬間加速を繰り返し使用して
自分の機体の最高速度を把握して、どこまで
の速度が出せるのかをしっかり理解して。
それと最高速度で動いた時に自分に掛かるG
にも慣れるようにして頂戴」
毎回一夏の練習に付き合えるわけじゃ
ないしね。
この修行は多少体に負荷はかかるけど、
修行ってもともとそういうモノだし。
「なるほど。別に瞬間加速は一人でも
出来るからな・・・」

そうそう別に敵に向かうだけじゃ無いのよ。
むしろ相手から距離を取ったり、相手の
視界から一瞬で移動するために使ったり
出来るの。
下手な先入観を無くして様々な方向から
試行錯誤することが重要なのよ。
そうすればハイパーセンサーの解除も
しやすくなるらしいし。
とにかく相手より早ければ攻撃も避けれる
し当てれるようになる。
普段から高速の世界に慣れることで反応
速度も上がるってわけよね。
うん。私も勘頼りだけじゃダメだし、
キチンと理論を習得しないと駄目よ！
司馬様と簪の作った練習メニューを
消化するだけで一夏はそれなりに戦える
ようになる。

私がソレに置いて行かれたら意味が無いわ。
理論の上に勘を乗せる戦い方の習得を
急がなきゃ。
「そうよ。それにＩＳ戦闘では真後ろ
どころか、真上からでも真下からでも
攻撃が来るの。
だから意識を前に集中しちゃ駄目だし、
それどころか平面に区切っちゃ駄目なの」
今の一夏は前しか見れてないから
意識の幅が狭いのよね。
「・・・なるほど。それじゃやっぱり
剣道じゃＩＳ戦闘に対応できないよな」
そりゃそうよ。前提条件が違うんだもの。
あの剣道至上主義者には全くわからない
理屈だろうけどさ。
「まぁね。前後左右上下に斜め。それぞれの
距離もあるわね。

さらに相手が居ればある程度の予測まで必要になるし、目の前の敵が急に視界から消える事もあるのよ？

そんなの卑怯だ！とか言いたくなるかも知れないけど、ＩＳ戦闘では当たり前のことよ。

喚くだけで対応できないんじゃ相手と同じ土俵にすら立つことが出来ないわ」

特にモップなんかね。上に瞬間加速とかして間合いを外されたら卑怯だ！とか言いそう。

「そうか。相手が卑怯なんじゃなくて対応出来ない自分が未熟なんだもんな」

そうなのよ。対応出来ない自分を恥じる気持ちが無ければ成長なんて出来ないわ。

「だからこそ一夏は常に動いて頂戴。

私たちだって相手の視覚から消えたり、ハイパーセンサーを誤魔化す技術はある。

暫くは単純な近距離戦闘の技術の他に、

こんな感じで効率的に間合いを詰めるための技術を習得して貰うわよ」

「お、おう」

スラスターを使った縮地モドキとか。

コレはホント役に立つのよね。

「それで、何か聞きたそうな顔してるけどどうしたの？」

言いたいことを感情に任せて言う癖が無くなりつつあるのは良い事だけど、修行に関係することならハッキリ言って貰わないとね。

「いや、思った以上にちゃんと鍛えて貰えてるからさ」

「あら？頼んで来たのは一夏でしょ？そりゃ教導を引き受けた以上はちゃんとやるわよ。それとも手抜きとか手加減でもして欲しかった？」

映像記録を録ってるし、そんなこと
した時点で一夏との訓練は打ち切りに
なっちゃうんだよね。
それに、私としても一夏にはしっかり
鍛えて強くなって貰いたいから、甘やかし
たりはしたくないんだけど。
もしこの程度で「厳しすぎて疲れた」とか
「ついて行けない」って言われたら、司馬様
に見切りを付けられるわよ？
「いや、そうじゃない。俺としてもココまで
本気で鍛えて貰えるのは正直ありがたいと
思ってるんだけど・・・リンは良いのか？」
「ん？どういうこと？」
良いも悪いも無いわよね？
「そういうのって基本的に秘密にしないと
マズそうなんだけど、こうやって俺に色々
教えてもリンは大丈夫なのかなって思ってさ」

・・・一夏が心配してる。
あの一夏が！私の心配を?!
ふへへへへへ！リンちゃん大勝利っ☆
いや～リハビリ終わって学園に来てみたら、
一夏からは鍛えてほしいって言われるし、
司馬様も簪と一緒に一夏との戦力差を見て
最適なトレーニングメニューを考えてくれ
てるって言うし！至れり尽くせりよね！
『教えるのは良いけど、私の場合は軍事機密も
あるから、モップと螺旋頭と阿呆は練習の見学
を禁止にしたい』って言ったら、一夏から手を
握って来て『ありがとう！本当にありがとう！』
なんて言われるし！
ふへへへへへ（?▽?）
あのときは嬉しくて思考回路がショート寸前
だったんで気付かなかったんだけど、
一夏ってば相当疲れてたわよね?

モップと螺旋頭と阿呆が誰か分かってたし。
千冬さん曰く、クラスメイトも信用出来ないってことにようやく気付いて、今更ながらに警戒してるせいで普段から気が休まらないみたいだって話だけどさ。
気付くの遅くない？てっきりそう言うのを理解してたから、モップとか螺旋頭を側に置いてガードしてるもんだと思ってたわよ。
ソレ以外に用途が思い浮かばなかったとも言うけどね（Φ ω Φ）
「・・・リン？急に黙ったけど、アレか？やっぱりマズいのか？」
おっと、今は一夏よね！せっかく二人きりで練習出来てるんだから。アイツらの事なんか忘れないと。
ソレにＩＳを使った練習中に気を抜くなんて有り得ない。

切り替え切り替え・・・

「ごめんなさいちょっと考え事してたわ。
質問の答えだけど、今回はちゃんと許可を
取ってるから大丈夫よ。
一夏の戦闘データの取得もあるけど、
それ以上に一夏が弱いままだと私の鍛錬
にならないでしょ？」

【今回は】ね！まぁ許可どころか
しっかり鍛えなさいって言われて送り
出されてきたけど、ソコまでは言う
必要無いわよね？

「そうか・・・まぁそうだろうな。
ソッチに得が無かったら、専用機の
使用許可も下りないだろうしな」

うーん。微妙な感じみたいね。コレは未熟
って言われたこと？それとも純粋な厚意
じゃないってことかな？

司馬様の話では「ちゃんとギブアンドテイクが出来てるんだって思った方が一夏も気が楽になるだろう」って話だったからこうして情報の開示もしてるけど・・・

もしかして私の印象悪くなって無いわよね？

「そういう事よ。一夏的には微妙かもしれないけど、タダより高いモノは無いからね。私だって中国・・・と言うよりは冬林技研の紐付きだし。

純粋に一夏の力になりたいと思う気持ちはもちろんあるけど、冬林技研に利益が無いことに対して専用機の展開許可は下りないわ」

実際近距離戦闘だけとはいえ、駆動部分の部品交換だって必要だし。

ＩＳに限らず兵器って色々とお金がかかるのよねぇ。

「あ、いや。ソレはわかってる。むしろ

そうやって言ってもらった方が変な下心が無いってわかってる分、気は楽だよ」
良しっ！一夏が他人に無償の厚意を求めるようなガキじゃなくて良かった！
つまり自分の未熟さを恥じてるって感じか。
「そう言って貰えると助かるわ。それに甘えて一つ言わせてもらえば、今の一夏が未熟なのは当然のことなのよ？
なんてったって、今まで自分には関係無いって思ってたのにいきなりこんな状況だもん。今までＩＳに乗る為に鍛えて来た私たちとはどうしても差が出るってことは理解しておいた方が良いわよ」
変に「女には負けれない！」なんて言って無理されても困るし。
「だよなぁ。差が有って当然なんだよな。

むしろいきなり俺に追いつかれたら、
リンたちの立場がなくなるよなぁ」
ほんとにそうね。それで立場を無くした
螺旋頭も居るし。
今じゃ普通に負け越すレベルなんでしょ？
有り得なくない？
私があんな風になったら立場を失う
どころか、副所長さんに『未熟者』って
言われて再度矯正されちゃうわ。
・・・いやはやしかし矯正と言えば
新血愁・心霊台は洒落にならないわ。
『今回は人格の矯正はしない。精々痛みの
信号を強く意識させることで身体を動かす
と言うことの本質が理解出来る程度にして
やろう』なんて言われたけどさ。
いや、アレはもうアレよね。私にも世紀末
が見えたわ。

痛みに目の前が真っ暗になってるときに
目付きが悪い鬼みたいな人に散々殴り飛ばされたり、金魚みたいなのを延々と食べさせられたり、猫に襲われたりした夢を見たけどアレはアレで紛れもない地獄よ。
あんなのを経験したら、そりゃ同じミスなんか絶対しないわよね。
人格を変えない為に投与されてた薬とかリハビリで使った怪しい薬のお陰で後遺症とかトラウマはないけど・・・アレでトラウマが無いのが逆に怖いわ。
いやまぁ、色々垂れ流したのを見られて介護と処理して貰ったことで、尊厳的なのは間違いなく死んだわよ?
アレ以上の痛みを想像出来ないから、どんな速い攻撃だって余裕を持って見ていられるし?

「もう何だって来いやっ！」
って感じになったのは自覚してる。
それと痛みの流れって言うの？どこを
動かせばどんな感じに傷むのかって
言うのがわかったおかげで、動作に
無駄が無くなったのがわかるわ。
攻撃に対する恐怖心が薄れて動作に
無駄が無くなれば、紙一重の回避と
反撃も出来るようになるのよね。
リハビリ中に自分の身体能力が格段
に上がったのを自覚出来たけど、コレが
思考に体が付いて来るってことなんだ。
ソレを理解したおかげでイメージインター
フェースの容量を減らすことが出来たし、
甲龍の出力も上がったから良い事ずくめ
なんだけどさぁ。
だからと言ってアレを何度も受けよう

なんて思わないわよね。
鍛えなきゃ（小並感）
「そういう事ね。今の一夏は広く浅くって感じで技術を習得するんじゃなく、狭く深くが基本ね。
少なくとも近接戦闘で私と戦えるようになるまでは、余計な癖をつけないためにアイツらとの練習は禁止。
私との組手や千冬さんの作ったメニューの消化に専念して貰うつもりよ。良い？」
「おう！望むところだ！」

ふへへへへへへ！コレでアイツらは放課後一夏に絡めない！
ありがとう箒！ありがとう司馬様！
おかげで鈴ちゃん大勝利ですっ☆

ほう・・・以前の乱入者との戦闘でも
強いとは思っていたが、さらに近接戦闘
の技術が磨かれているじゃないか。
流石冬林技研で鍛えられているだけの
ことはある。
「アレが中国の代表候補生ですか・・・」
ふっ今の段階でも近接戦闘に限れば鳳が
更識を凌ぐ技量を持っているのは理解
出来るだろう。
なんでも一夏があまりにも不用心だから、
更識が直接護衛と教導をするとか抜かして
きたが・・・今更貴様らの世話になど
なるものか。
「現状一夏には全てが足りていないが、
機体の性能と武装の関係を鑑みれば
特に重要なのが近接戦闘技術だ。

教導に関してはアイツが担当してくれるようだから、暫くお前の助けはいらんよ」
一夏と私に恩を売る気だったのだろうが残念だったな。
第三世代機の性能も高いし、性能に振り回されることなく良く使いこなしている。
今の凰を相手取るのは私とて楽勝とはいかん。
さらに教えも的確だ。箒のせい・・・とは言えんが、一夏の動きには幼少の経験と箒との鍛錬に影響されて剣道の型が大きく出ていたからな。ソレを根底から破壊してＩＳ戦闘に対応できる動きを教導してくれている。
いやはや正直天才肌で勘頼りの操縦と思っていたんが、アレはしっかりと基礎を習得している者の動きだ。
・・・一夏も感覚頼りなところがあるし、

そもそも近接戦闘には一定の勘が必要になるモノだ。
無理に言葉で伝えようとせず、ああやって叩きのめしながら鍛えることが出来ると言うのも大きい。
ココからでも一夏が凰の動きを見て、少しずつ動きを最適化させていくのが分かる。
一夏もソレが分かってるのだろう。
普段の鍛錬より楽しそうだ。
今が一番伸びる時期だし、今まで面倒ごとでしかなかったＩＳを楽しめるのは良い事だ。
あとの問題は・・・一夏の基礎鍛錬に関しては私が練習メニューを組めるが凰と一緒になると、どうしても難しいというところか。
ふむ。どうやら司馬監査員が一夏と凰の２人で修練するとき用の訓練メニューを考えているようだし、冬林技研が許すなら

このまま凰に一夏の教導を頼むのが一夏にとっても一番良いだろうな。
・・・そのまま仲良くなって結婚でもしてくれれば、一夏も自然な形で冬林技研に所属出来るかもしれん。
むぅ・・・凰は性格も悪く無いし料理も出来る。その上将来も安泰だよなぁ。
少なくともシャルロット・デュノアやセシリア・オルコットより数百倍マシだ。
箒は・・・昔から知ってるからあんまり厳しいことを言いたくは無いが、アレの側に居たら一夏も気が休まることが無いだろうな。
うむ。奴らがトチ狂って妙な真似をして来る前に凰をキチンと捕まえて、逃がさんように言うべきか？
最低限友人でも構わんからパイプは切る

べきじゃないよな。
媚びれとか機嫌を取れと言うつもりは無いが、せめてアイツの気持ちには正面から向き合うようにしないと・・・
男としても不義理が過ぎると言うモノだろう。
「そうですね。正直近接戦闘では凰さんに勝つのは不可能でしょう。
まだまだ切り札も隠してるでしょうし、もしも彼女が選抜戦に出てたら2対1でも織斑君達では勝てませんでしたね」
おっと、今は一夏の訓練に関してだったな。
「そりゃそうだ。あの時のラウラにだって勝てたかどうかギリギリだったのだ。
それに凰が出るなら2対1になどならん」
なるはずが無い。むしろ逆に一夏が最初に落とされてデュノアが2対1を強いられる結果になっていただろうさ。

「・・・そうですね」
コイツにしてみたらアレなんだろうが
私たちを嵌めようとしてくれたんだ。
同情の余地など無いぞ。
「まぁなんにせよ、更識簪を連中に
引き抜かれたのは痛かったな」
「あぐっ!!」
冬林技研所属の凰が出るなら同じ所属の
更識簪だって出るだろうからな。
アイツの専用機は第二世代型のテンペスタ
らしいが長年鍛えられてきた基礎とＩＳを
自作する為に蓄えた高い理解度が有る。
つまり元々アイツは1年では別格の実力者
だったんだ。
ソレが教頭に鍛えられるんだぞ。
今のアイツは学業や様々な仕事を抱える更識楯無
では絶対に勝てない領域に居るだろうよ。

「が〃、が〃ん〃ざ〃じ〃ち〃ゃ〃ーん〃・・・」
・・・どうやって発音してるんだか。
しかしコイツと言い束と言い、姉と言うのは
妹に嫌われる生き物なのか？
いや、まぁ束の場合は夢を追った結果が
アレだからな。
妹が好きだから夢を諦めろと言うのは
違うだろう。
例えテロ行為をしていなくても、日本政府が
アイツに自由な行動を許さなかっただろうし、
冬林技研に就職していたとしても束にとって
箒は急所であることに違いは無い。
故に遅かれ早かれ人質という意味を込めて
保護対象にされてただろうさ。
その結果家族離散で色々面倒に巻き込まれ
たと言う事実がある以上、箒が束を恨む
のは・・・まぁわかる。

悪いのは束を利用しようとした日本政府なんだが、政府と言う曖昧なモノを子供に理解しろって言うのも難しいしな。
だがコイツの場合は完全に自業自得だろう。
姉が妹を虐待とか意味が分からん。
暗部の人間の側に居たら危険だと思って、中途半端に引き離そうとして嫌われたって・・・ソレで冬林技研に拾われたなら本望じゃないか？
「少なくとも今の更識簪は周囲に虐めを受けていた時や、一人で整備室に籠っていた頃よりは明るくなってるぞ」
せめて姉としてソレを喜ぶんだな（愉悦）
「う〃う〃。普段から司馬さんの側に居るから写真も撮れないし、本音も近付けないし・・・カンザシウムが足りないんですよぉ！」
「知るか」

突っ込まんぞ。自業自得だ。

「臨海学校にも参加はするみたいだけど、司馬さんと一緒に先に現地入りするみたいだし、接触する機会が全く無いんですよ～！織斑先生からも何とか言ってみてくださいよ！」

・・・散々ダミー情報を流してるのに司馬監査員には当たり前に場所が割れてるのな。まぁ鳳の装備を送る為には座標を知らねばならんし、司馬監査員がメンテナンス担当だから漏洩にはならんのだが・・・なんだかなぁ～。

それはそれとして私がお前の為に何かするはず無いだろうが。

「イジメの加害者が被害者に何をする気だ？更識簪が接触を拒むならソレに異を唱えることなど出来んよ」

姉妹とは言え、妹は姉の所有物では無いのだ。
それなのに自分の都合を押し付けて周囲に
誤解を招いたうえ、あんな扱いをされて
いる妹を助けないとか何様だ。
放置だって立派なイジメだろうが。
私は一夏関連で接触を拒まれていたし。
結局司馬監査員に見いだされて救われたと
言うのが、教師として力不足を嘆くところ
なのだろうが・・・
あのままよりは１００倍マシだと言うのは
確信をもって言えるぞ。
「私はイジメなんてしてないんですけどー！」
加害者はみんなそう言うんだ。
中途半端に悪だくみばかりしている
己の日頃の行いを悔いるのだな。

さて来週は臨海学校か・・・まさか箒が
束に専用機を強請るとはな。
一応やりすぎるなとは言っておいたが、箒に
直接頼まれて浮かれる束の気持ちも分かる。
普通の第三世代型では無いと思うのだが、
一体どんな機体を持ってくるのやら・・・。

そろそろ山田君には胃薬が必要になるかもしれんなぁ。

第39話

「ロン。清一七対子（デザインドチルドレン）！」

くっ。まさかラウラさんが自虐ネタだと?!

「ほほう。やりますね少尉。早い段階で
壱萬・参萬・四萬を切り捨てておきながら
まさかの弐萬単騎とは」

そう、まさかラウラさんがココまで迷彩を
かけて来るなんて想定外っ！
普通に清一色を狙ってればもっと早く
上がれていたし。九連宝塔だって狙えた
のに・・・まさか自虐ネタを使う為に
全てを切り捨ててくるなんてね！

「ふっ教頭殿に仕込まれたのは夜のアレ
だけではありませんからね。
それに私の出身であるドイツは技が

豊富なのですよ」
おぉう。ここで下ネタまでぶっ込んで来る
なんて・・・コレも成長と言えるのかなぁ？
あの純真無垢な銀髪ロリは何処に行って
しまったんだろうね（´・ω・）
て言うか確かにそうだよ。アレは前半
のほとんどがドイツ関連だからソレを
考えたらラウラさんが一番ヤバイはず
だったんだよ。
まさか全自動雀卓を使っての燕返しは
・・・無いな。ラウラさんでは
司馬少佐の動体視力を上回ることは
不可能だし、ハイパーセンサーは使え
ないけど、私だってそう易々とサマを
させることは無い。
そうなると警戒すべきは司馬少佐なんだ
ろうけど・・・

いや、そうやってラウラさんを軽く見て振り込んだんじゃないか。
まだだ！まだ終わらんよっ！
「・・・簪特尉、もう諦めたらどうだ？今ので残り１０００点。リーチ一回・ノーテン一回で箱だぞ？」
ふっ愚問だね。
「対戦相手に負けを認めるように懇願するとは・・・甘い。ソレは極上の料理に蜂蜜をぶちまけるが如き思想だよラウラさん。だって私はまだ負けてないんだから！」
ここで負けを認めてたまるかっ！夏休みがリンちゃんの監督なんてゴメンだよ！私は側室として旅行に置いて行かれるわけには行かないんだ！
「その通りです。相手が立っている限り勝負はわかりません。相手の心を

折る為の口上だとは理解していますが、
油断慢心は行けませんよ？」
司馬少佐は流石の余裕だね。役満
直撃しない限り逆転は不可能。
この人の辞書にはムダヅモも放銃も無い！
まさしく鉄壁！この方と大佐殿の麻雀こそ
神々の麻雀（ラグナロク）でした！
「はっ！」
電撃戦が得意なラウラさん。
上家が司馬少佐だから中々鳴けなくて
その速さが潰されてたけど・・・
まさかここでアノ世界の技を使って
来るとは。
今の彼女はまさしく第四帝国の戦乙女（ワルキューレ）っ！
「・・・」
そして数合わせのＡＳ●ＭＯ！
兎さんが作成したらしいけど高性能

な読みと、良く分からない引きで周囲の流れを力ずくで変えてくる・・・
コイツこそまさしく力こそ正義（パワーオブドリームス！）
だけど私だって負けてない！
私は技術立国ニッポンの出身として
このままじゃ負けられないんだ！
●ＳＩＭＯもニッポン？知らんなぁ。
ラウラさんは逃げるつもりだろうけど
逃がさないよ！オーラス連打からの
究極の国士無双十三面（ファイナルラジャングサン）をみせてやる！
「いや、海に来て麻雀って・・・しかも麻雀専用のロボットまで用意してるし。て言うか司馬様まで麻雀してるんですか?!」
ほぇ?このとかちつくちてとか言いそうで、
下ネタが得意そうな声は・・・
「リンちゃん?もう来たの?」
確かリンちゃんだけはバスで移動

だったよね？
時間の無駄だよなぁって思って待ち時間で
こうして麻雀してたんだけど・・・

「「カカッ！」」

ん？今の伝説の騎士が現れそうな音は
ナニかな？しかも三つ？

「「・・・・・・」」

んんん？なんかおかしい。さっきまでと
場の空気がまるで違わない？
コレはリンちゃんの登場云々じゃ無いよね？
うん・・・私の勘が警報をならしてるよ。
何を切ってもダメな予感がする。
さっきまではこんなのは無かったよね。
つまり・・・やりやがったなっ?!
この場はまさしく卓上のヤルタ会談っ！
ならば待っているのは三家和かっ!!
「さて。准尉が来たのは予想外ですが
オーラスですからね。丁度良いと言えば
丁度良いでしょう。さっさと切りなさい特尉」
司馬少佐は逃げる気じゃない。ここで確実に
止めを刺して全てを終わらせる気だっ！
「ですね。さっさと敗者を決めて旅行先を
考えましょう。ほら簪特尉、親が切らんと

始まらんぞ?」
ラウラさんっ!最初に自分が旅行からハブられてたからって、ここで私と立場を交換するつもりだな?!
「ハヤクキレ」
A●IMO!貴様喋れたのかっ?!
不味い。不味いぞ!明らかに三人とも張ってやがる。
普通なら一番安い相手に振り込むんだろうが一巡目の一打目。
安牌は不明だし、轟盲牌で白を創って逃げれば振り込みは防げるかもしれないけど、白が狙いの可能性も有る。そもそも振り込まなくても私以外が上がればその時点でアウトっ!
もしかしたらラウラさんとASI●Oが相打ちになって、どっちかが箱る可能性

もあるけど・・・いや、そんな希望的観測にすがるようじゃ司馬少佐の副官なんか名乗れやしない！

だけど、状況はあまりにも悪すぎる。

くそっ！止めを刺しに来るのはわかってたのに、何で私は目を離したんだっ！

「特尉、確かに時間制限は設けてませんがあまり長考するのはいただけませんね」

時間制限・・・そ、そうだ！リンちゃんが来たと言うことは他の連中も来たと言うことだよっ！それならもう少し耐えれば場を壊す兎さんが来るかもっ！

「確かに我々を焦らすのも一つの作戦ではあるかもしれんが・・・往生際が悪いな」

往生際が悪くても最後まで生き残れば良いのだ！

小田原で籠城した北条氏康のようになっ！

（氏政と氏直は駄目だけど）
「ハヤクキレ」
黙れＡＳＩＭ●！そもそも何で数合わせの
ロボットが積込だのイカサマしてるのさ！
「あ～そろそろ千冬さんも来ると思うから
諦めて切ったら？」
リンちゃん・・・君も敵か。
まさしく四面楚歌。だけど時間を稼ぐ方法
なんざいくらでも有るのだよ！
「すみませんっ！お腹痛いんでトイレ行って
きて良いですか？」
「「・・・」」
「簪、あんたって子は（　ＴДＴ）」
逝くんだ簪！この乙女の尊厳を一部捨てた一撃
を以て、時間を稼ぐのだっ！
「・・・まぁ目の前の敵から目を逸らすと
言うのは大きな失態でしたが、自分が死地に

あると判断したことと、何としても死地に
向かわぬよう万が一の可能性に賭けて時間を
稼ぐと言うその生き汚さは評価しましょう」
ふっ、何と言われようと牌は切りませんよ！
イカサマの瞬間は見てないけどヤラれた
のは間違いないんだからね！
「・・・少佐殿が認めるなら私に否はあり
ませんね。それに元々が准尉達が到着
するまでの時間潰しですし」
そうそう！知的鍛練兼時間潰しだからね！
「チッ」
貴様。中の人は誰なんだい？もしかして
兎さんじゃないよね？
「あ～確かに司馬様のお仕事を考えれば
仕事より麻雀を優先してましたって
わけには行きませんよね～」
「「・・・」」

「え?何この空気（Φ ωΦ）?」
そっか。リンちゃんには何も伝えてないから私たちは普通に監査の仕事をしに来てるって思ってるのか。
うん。まぁ今はそう言うことにしておこう。
「では司馬少佐。私たちは教員たちや機材の搬入担当の連中の監査に行きますか?
あ、ラウラさんも準備してね」
ＡＳＩＭ●は知らん。
「そうですね。学園の訓練機だけでなく准尉の甲龍の見せ兵装も有りますから、明日のお披露目の前にチェックは必要でしょう」
あぁソレも有りましたね。ソッチは私が担当だから、しっかりやらないと!
「準備は構わんが・・・水着など持ってきていないから服装はこのままで行くぞ?」
別に良いんじゃないかな?

痴女どものサービスショットが必要な世界
じゃないんだし、あんな隙だらけな格好する
護衛なんか居ないって。
「あ、もしかして私って一夏と一緒に遊ん
だりは・・・出来ないですよねぇ（つД`）」
当たり前じゃない。何しに来たと思ってる
のかな？かな？
リンちゃんは明日の茶番に巻き込まれる
可能性もあるんだし。
ソレを知らなくたって新しい兵装なん
だからさ。ちゃんと調整しないと死ぬよ？
「准尉。確かに織斑一夏との接触も貴女の
任務です。ですが何事にも優先順位と
言うものが有りますよね？
・・・理解できんなら理解させてやろうか？」
うん。警告するだけマシだよね。
大佐殿に人格矯正はされなかったけど、

最低限切り替えは出来る子だと思ってたんだけどなー。

「スミマセンデシタッ！」

「・・・阿呆な事を口に出す前にもうすこし考えるようにしなさい」

まったくだよ。いくら直情的にぶつかるのがリンちゃんの取り柄とは言え、いつまでも学生気分で腑抜けてたら怒りたくもなるよね。ただでさえ大佐殿との旅行の予定を潰されてまでこんなところに来てるんだもん。

正直私もイライラしてるんだから、もう少し空気読めって感じだよね。

まぁ学生生活との両立が任務だから、境界線がわかりづらいって言うのもわかるけどさ。

「とりあえずラウラさんが用意するのは日傘と簡易クーラーと水分補給用の水だね。工具とか計測機器は向こうで出すから

あとは資料と併せて調整しよっか？」
「うむ。了解した」
日焼け止めクリームは当然塗るとして・・・
待てよ。大佐殿って日焼け属性は有るのかな？
司馬少佐が日焼けとかしたら司馬家の人に
連帯責任で殺られる可能性があるよね？
ラウラさんは多分真っ赤になるんじゃない？
健康的って言うよりは痛々しい感じかな。
兎さんに日焼けってイメージは無いよね。
コレは・・・独占出来るかも？
「少尉・准尉。特尉が何やら怪しげなこと
を考えてますので、しっかり妨害するように」
「はっ！」
酷い！ソレがニンゲンのヤることですか?!

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「はぁ・・・」

最近は放課後にリンとトレーニングして
成長の実感が出来て、ようやくＩＳの操縦が
楽しくなりかけてきたのに・・・何で
海なんかで遊ばなきゃ駄目なんだよ。
そもそも俺の立場じゃこうして遊んでる
暇なんか無いだろ？
今は少しでも成長して自分の価値を
高めないと、普通にヤヴァイんだよ！
移動中の時間も勿体無いし、初日は海で
気分転換って・・・馬鹿か！
リンだってＩＳ学園は明らかに時間の
割り振りがおかしいって言ってたよな。
千冬姉だって、最初に俺たちが使うＩＳは
『危険な兵器だ』って言ってたのに。
肝心のＩＳの事を学ぶ時間が少なすぎる。
まぁその辺に気付くことが出来るかどうか
の選別作業と、生徒の自主性を育てる為

って可能性も有るらしいけどよぉ。
それならこの臨海学校なんか要らないだろ？
自主性のある生徒は学校に残ってアリーナで練習してれば良いんだし。
わざわざ大量の機材も持って来て・・・
人件費の無駄だろうが！
「ん？溜息など吐いてどうした？」
千冬姉と同じ部屋ってのが唯一の救いだよなぁ。
一人部屋とかだと絶対こうして考えることなんか出来ないだろ。
「千冬姉・・・今の俺にはこんな事してる時間って無いんじゃないか？
気分転換とかはもっと余裕がある奴がやるもんだろ？」
リンは俺よりずっと強くても一切の鍛錬を怠って無いじゃないか。

司馬さんとかラウラとかサラシキさん？
はリンよりずっと強いって言うし。
今だって他の生徒が遊びに行くって言う
のに、リンは専用機と新しい兵装の
調整に行ってるし。
アレが正しいＩＳ操縦者の姿なんだろ？
「・・・そうだな。本来なら凰と共に鍛錬
に励むか、一人でも出来るトレーニング
メニューをこなして欲しいところだ」
「だよなぁ」
流石に最新型の機密情報が関わるから
リンの所には行けないし、かといって
俺の白式は倉持の技術者が来るまで
調整も何も出来ない。
千冬姉と生身の鍛錬をしたいところ
だけど絶対に邪魔が入るしなぁ。
ソレに千冬姉にも息抜きして欲しいって

のもあるから、無理は言えない。
あぁ～せめて整備士さんが居ればＩＳ起動して鍛錬が出来るのにっ！
「お前は今が一番伸びる時だ。だからこそ今のように慢心を消して修練しようとする姿勢は間違ってはいない。
本来は海に行ってクラスメイト共にファンサービスする必要も無いんだが・・・」
ファンサービスなぁ。初日にも思ったけど、やっぱり俺はパンダなんだよな。
いや・・・種馬だったか。まさか連中に品評されに海に行けとか言わないよな？
「今後の学園生活を考えれば、一切の接触を断つのは危険だ。
お前に全くその気が無いと周囲にバレれば夜這いだの痴漢冤罪だのを仕掛けられる可能性も有る。場合によっては下着を

仕込まれて下着泥棒扱いだってされるかもな」

「うげっ」

勝手に夜這いしてきて、俺が手を出せば責任問題で、出さなけりゃ痴漢冤罪？

そんでもって俺に隙が無ければ、部屋の前に下着でも置いて「なんだこりゃ？」ってやった瞬間を撮影して下着泥棒か？

リンから渡された冤罪手口一覧にあった通りのことをしてくる可能性が有るってことだよな。

実際手を出したかどうかなんか当人にしかわからねぇし、国が絡めばいくらでも無茶をしてくるのはシャルの件でも確定的に明らか。

シャルの場合は男装させるって言う親がトチ狂った方法を取ったからこそ、政治的な話が絡んで冬林技研が助けてくれたけど、

流石に夜這いだの痴漢冤罪だのに関してはなぁ。完全に個人の問題だし。
下着泥棒の方は写真とかに撮られてたらアウトだから、落し物は絶対に拾うなって言われたな。
何かあったら、安直に動かないでリンか千冬姉に連絡するようにって言われてるくらい気を付けなきゃヤバイんだよなぁ。
前のシャルの電話に出たせいで俺の評価も下がったハズだし。
コレ以上は本当にヤバいんだ。
だからこそ遊んでる暇は無いんだけど、構わなければ構わないで犯罪に巻き込まれるって・・・もう勘弁してくれよ。
「ソレにアノ三人がな」
「三人？あぁさっき部屋の前に来てた三人？」
リン曰くモップと螺旋頭と阿呆か。

最初は悪口はどうかと思ったけど、端から見たら相当印象悪いって話なんだよな。
映像見せて貰ったら納得だよ。
箒は普段から他のクラスメイトに対して上から目線で話すし、近くにきた人を睨みつけてるからな。
・・・アレは駄目だろ。
セシリアは普通に近づきがたいって感じだけど、最近は失態続きで焦ってるみたいで余裕が無いし。
シャルに至ってはもうベッタリだ。
完全に俺に依存してるだろ。
パンダ・・いや、種馬を独占しようとしてるから嫌われるし、リンとか相川さんみたいな普通の友人も排除しようとするからなぁ。
そりゃ嫌われるよ。

女の喧嘩は怖いらしいから呼び方程度なら
可愛いもんだよなって納得したよ。
下手に首を突っ込むなって言うのもわかる。
そう言えばのほほんさんが日本のスパイ
って聞かされた時には驚いた。
そうは見えないけど、そりゃスパイが
俺みたいな素人が一目見てわかったら
困るよなぁ。
あぁやって相手の油断を誘って、色んな
情報を持って行くプロなんだとか？
そういう素振りが見えなくても実は
しっかり情報を抜かれてるらしい。
喩え本人に情報収集の能力が無くても
機械が有ればいくらでもフォローは
出来るって話だし。
対象に警戒心を抱かせずに接近するのが
一番難しいのに、ソレを簡単にこなす凄腕

って言われたら・・・そうなんだろうな。
リンだけじゃなく、千冬姉ものほほんさん
が日本の暗部に所属する工作員ってことは
認めてたし。
今まではそういうのが側に居た方が
俺の安全の為になるって考えてた
らしいけど、日本政府も信用出来ない
って話だもんな。
もうリンが居なかったら確実に人間
不信になってる自信があるぞ。
だからこそ最低限信用出来るリンの
ところに避難したいのに、避難すれば
リンの邪魔になる。
あぁ～大体なんなんだよあの三人！
アイツらだって海で遊んでる余裕
なんか無いだろ?!
いや、箒は・・・まぁアレか。束さんの

関係者だからこそＩＳ学園に居るけど、
別にＩＳに関わらなくても生きて行ける
から遊んでても良いのか。
とりあえず俺以外の友達作れよ。

けどセシリアとシャルはなぁ。
とくにセシリアが理解出来ないんだよ。
代表候補生で成績が振るわないなら
トレーニングしなきゃ駄目だろ？
少なくとも一週間前の俺に負け越すよう
じゃ話にならない筈だ。
リンと組手したり映像記録を見てて分かった
けど、セシリアの射撃は素直過ぎるから
避けやすいんだよな。
ソレに止まって撃つ癖があるうえ近接戦闘が
出来ないから高速機動戦に弱い。
間合いを詰めればタダの獲物だし、セシリア

が高速で間合いを取る為に動いてるときは当然狙いも粗いから接近しやすいんだ。
この戦い方を選択した場合、俺がセシリアに負けるとしたら適当に狙いをつけた攻撃が偶然直撃した場合くらいらしい。
いや、リンと組手するようになってまだ一週間だぞ？リンに手も足も出ないのにおなじ代表候補生のセシリアにそんなに簡単に勝てるのか？って思ったら「一緒にすんな！」って怒られたなぁ。
セシリアは代表候補生の中ではかなり特殊な存在だって話だろ？
あくまでイギリスが開発してるＢＴ兵器の適正が高いから代表候補生なのであって、他の代表候補生みたいに操縦技術を優先したわけじゃないんだとか。
そりゃ白式をもらった直後の俺にも

苦戦するよなぁ。
しかも弱点の改善をしないで射撃に拘るし。
・・・射撃以外の訓練もしろよ。
対してシャルは、デュノア社の関係が
あったとはいえキチンと操縦技術を
学んでるから、第二世代機のラファール
でも第三世代機のセシリアとも戦えてる。
基礎が出来てるから第三世代機を渡され
てもそれなりに使えるって話だよな？
まぁ今は何処にも所属して無いし、
色んな柵から解放されたばかりだから
はしゃぐのはわかるけどさ。
せめて女友達作ってそいつらと遊んで
くれないかな？
俺の訓練の邪魔はしないで欲しい。
て言うか将来どうする気なんだ？
俺を種馬にしたってさぁ。アイツの立場じゃ

子供はどうなるって話だろ？
どう考えても隔離されて研究所一直線だと思うんだが・・・将来とか考えてんのか？
「うむ。あの三人だ。お前も分かってるだろうが、正直言えば今のお前にとってあの三人とつるんでも良い事など何も無いだろう」
おっと危ない危ない。コレ以上考えたら表情に出ちまう。
「あぁ。むしろマイナスが大きいよな」
箒が推奨する剣道はＩＳ戦闘には邪魔でセシリアはイギリスの紐付きだし。
シャルは器用だけど、今の俺に求められるモノは相手をあしらう器用さじゃなく速さとソレを活かした近接戦闘の技術。
ＩＳ以外の私生活でもアイツらが周囲を威嚇するから空気が悪くなってるらしい。

・・・虫よけには良いみたいだけどな。
どうせならリンや、リンより強いって
言うラウラに教えを請いたい俺としては
アイツらって居ない方が良いんだよな。
いや、友達としてなら良いんだけどさ。
俺を自分の所有物みたいにするのは
止めて欲しいところだぞ。
「だが無視してたら連中に刺される
可能性も有る」
「・・・はぁ」
溜息しか出ねぇよ。
確かに箒とシャルにはそんな危うさが
あるかもな。
リンと最初のトレーニングしてるとき、
電話に出なかったし呼びかけにも答え
なかったからドア壊したって・・・何でだよ。
早く箒から木刀と日本刀没収しろよな！

シャルの時もやってたろーが。しかも
今回はシャルまで参加してるしよぉ。
普通に考えれば留守だって分かるんじゃ
なかったのかよ？
別に口止めされてるわけじゃないから
リンとのトレーニングだって言ったら
「自分も混ぜろ」とか意味わかんねーし。
リンの許可が必要だし、リンだって機密
が有るから駄目だって言っても
「それならリンとトレーニングするな」
って何様だ。
コッチが鍛えて下さいって頼んでるんだよ！
最初の鍛錬を見て千冬姉もリンとの
訓練が俺には合ってるってお墨付きを
くれたし。
実際成長の実感できてるし。なんで
アイツらに邪魔されなきゃ駄目なんだ。

「とりあえず自分で自分の身の安全を
守れるようになるまでは、程々の接触
をしておけ。
ただし必要以上に踏み込ませるなよ?」
「・・・おう」
何処までがそのラインかは知らないけどな
「それとお前には伝えておこう」
「ん?何か厄介ごとでもあるのか?」
コレ以上何か言われても俺だって
一杯一杯だし。誰かのフォローも
出来ないぞ?
「束がな・・・」
「束さん?」
臨海学校に何か関係あんのか?
前の乱入事件は束さんが関わってる
可能性が高いらしいけど・・・
また何かやらかすのか?

「箒に専用機を用意するらしい」
・・・専用機?
・・・・・・誰に?
・・・・・・・・箒に?!
「殺す気かッ!!!」
何してくれてんだよ束さんっ!
箒に専用機って木刀どころじゃねーだろ?!
部屋のドアどころか、部屋が吹っ飛ぶわ!
布団ごとな!
「無論無断展開は規制するし、事故が
起こらんよう監視もするが・・・」
いやいやいや
勢いと感情に任せた行動に定評のある
箒が、そんなんで止まるわけないだろ!
「これからどーすんだよ!専用機持ち同士で
訓練とかは無理だぞ?俺だってまだまだ
機体性能に振り回されてるのを矯正中

なのに。今更変な癖は付けたくないし！」
具体的には剣道とか射撃特化とか
器用貧乏とか。
それに機体が有れば良いってもんじゃ
ないって言うのは痛いほど良く分かって
るからな。
どんな機体になるか分かんないけど
それこそシャルやセシリアと練習
させれば良いじゃねーか！
箒は遠距離の敵と戦う経験積めるし
セシリアは近接戦闘の勉強できるし
シャルは両方学べるだろ?!
ほら！一石三鳥だぞ！
「私も凰との鍛錬には割り込ませんように
するが、お前が一人の時の鍛錬には干渉
してくる可能性が高いだろうな」
そう来るか・・・来るだろうな。

「毎回リンが居るわけじゃないし、千冬姉にもソレを防ぐ理由が無いってことか」
学生同士で何とかしろってなるだろうし学園としても束さんが造った新型のデータは欲しいだろうよ。
俺のデータも一緒に取れれば万々歳ってか？
情報規制とかの言い訳も出来ないしなぁ。
そもそもあいつ等とのトレーニングはリンに禁止されてるって言ったら・・・
三人でリンに殴り込みをかけそうだ。
むぅ。コレは後でリンに相談しないとなぁ。

あ～なんか腹が痛くなってきた。
中国四千年の歴史を誇る胃薬とか
持ってねーかな？

第40話

「む、無理やり日焼け止めを塗るなんて酷すぎるよ。髪の中までベタベタするし」

何を企んでるかと思いきや、まさか日焼け属性?を狙っていたとはな。

確かに私や少佐殿は肌の質から見て日焼けなどしないだろうし、兎殿も日焼けはしないだろう。

日焼けが似合いそうなのは凰准尉だが彼女は大佐殿と関係ない。

そうなれば海から帰った後の大佐殿の興味と視線は簪特尉が独占できる。

第一側室と言う立場がありながら自分をアピールするための努力を惜しまんとは・・・流石簪特尉。

別に少佐殿を差し置いて正妻に納まろうとするのではなく、李家の繁栄の為でも有るから本来なら褒められる行為なんだがなぁ。

唯一にして最大の欠点は、簪特尉も日焼けするような肌質では無いと言う事だろう。

「少佐殿の命令だ。あきらめろ」

むしろ止めなかったら、赤くなって大変だったと思うぞ？

個性が～とか言ってるが、ＨＥＮＴＡＩで水色で眼鏡な時点で十分だろうが。

大体どういう遺伝が有れば純粋な日本人の髪が水色になるんだ？普通青っぽい黒とか黒っぽい青だろ？

しかも姉妹揃ってコレって・・・自然で有り得るのか？

まさか簪も私たちと同じデザインベビー？

「まぁそうなんだけどさー。で、専用機持ちはアッチらしいけど、司馬少佐はどうするって言ってたの？」

・・・まぁ簪特尉の出生に関しては触れないようにしよう。

「少佐殿は甲龍のメンテとデータ取りが有るから、技術者として向こうに行くとのことだ。当然護衛の私も向こうだし、副官の簪特尉も向こうになるぞ」

少佐殿は専用機を持っているが監査員として情報の開示を拒否してるからな。学園としては見ておきたいのかもしれんが、どう頑張っても無理だろうよ。

「そうだね。司馬少佐が向こうに行くなら私も行くよ」

うむ。織斑一夏に対する確執というかナニカが有ったようだが、ソレは無事に吹っ切れて

いるようだな。
と言うかシャルロット・デュノアは向こうで何をするんだろうな?
デュノア社が崩壊しているから新装備の実装など出来ない筈なんだが・・・
「ん?なんか不思議そうな顔してどうしたの?」
少佐殿や大佐殿は思考まで読んでくるからアレだが、簪特尉も他人の内面を推し量ることに関してはかなり鋭い感覚を持っているよな。
流石は少佐殿の副官と認められるだけの事はある。
「いや専用機持ちが別行動を取るのは新兵装のデータ取りだろ?シャルロット・デュノアが向こうに行って一体何をするのだろうかと思ってな」
単純に依存先の織斑一夏から離れたくない

だけかもしれんが、何かあるなら知って
おかないと。
少佐殿に聞かれて「わかりません」では失望
されてしまうからな。
「あぁ、アレね。学園の生徒が造った部品を
試すみたいだよ。元々の器用さとラファールの
汎用性を使った実験だね」
「学園の生徒が造った部品だと？大丈夫か？」
おいおい、子供の工作じゃないんだぞ？
いや、簪特尉のような異端の才能が居ない
とも限らんから何とも言えんが・・・
「馬鹿だよねぇ。型落ちの設備と学生の
技術で何が出来るんだか。
まぁプロには無い発想が見れるかもしれ
無いって言う意味では無駄では無いん
だろうけどさ」
そうなんだよなぁ。いくら才能が有っても

学園では設備も機材も資材も足りん。
それにそもそもラファールは、その汎用性の高さから各国の研究者たちが集まり、それぞれの国が相当数の種類の装備品を試作して来たんだぞ。
今更学生の閃きが入る余地があるとは思えんが・・・
いや、学生の経験と考えれば悪くは無いのかもしれんな。
研究所への所属を願う学生にしてみればこんなモノを造りました！だのこんな研究をしてました！と言うのはアピールポイントにもなるだろうし。
ただ、所詮は学生が造った兵装であると言うことは忘れてはいかん。
「とりあえずアレも暴発する可能性が有ると見た方が良いな？」

「うんそうだね。試作品の試運転に
問題が無いなんてありえないからね」
ソレも造ったのが未熟者の学生だからな。
「あとは篠ノ之箒か・・・専用機持ちの
方に呼ばれたところを見ると、教官は
知っているようだな?」
兎殿が告知したか?
「流石に誰にも教えずに、抜き打ちで
専用機なんか渡せないよ。
何かあって困るのは本人と教師。
この場合は妹と織斑千冬だからね」
まぁソレもそうか。少し前まではその
当然の配慮すら出来ないと思ってたんだが、
兎殿って予想以上に社交性あるのな。
・・・単純に予想が低すぎた可能性も有るが。
「なるほど。時間は・・・08：30まで
あと5分と言ったところか。

授業開始時間の前には来るだろうから
そろそろ到着するだろう」
少佐殿からは撃ち落とすなと言われて
いるから不審物が来たら弾くくらいに
するんだが・・・そう言えば大気圏内で
リニアレールガンや荷電粒子砲を使った
場合の測定値がまだ不足していたな。
加速器を使った狙撃銃の実験もあるし、
８０ｃｍグスタフは水中からでも撃てる
んだったか？
まぁ今の私はあくまで少佐殿と簪の護衛
だから本格的な兵装を使う気は無いがな。
「あ、来たよ。兎さんは上からで機体は
・・・ん？海から？」
「海？」
なんでわざわざ兎殿と別方向から？
「ん～どうやって牽引してるのかが

見えないけど、たぶんクロエさんがステルス性能を全開にした
【吾輩は猫である（名前はまだない）】を使って運んでるのかな？」
ほほぅ流石は簪特尉。ハイパーセンサーの部分展開とその視界の広さはまだまだ敵わんか。
それにクロエ殿か。私と同じドイツによって造られたデザインベビーだが失敗作扱いされ、廃棄処分を受ける前に兎殿と大佐殿に拾われたと言う事だよな。
兎殿を母と呼び、大佐殿を父と呼んで、少佐殿が司馬姉様らしいが・・・
私はどうなるんだろう？
簪特尉も接触したことが無いとのことだったが・・・何と言うか。もによる。
いやいや、気を取り直していこう。

なんでも兎殿は少佐殿の命を狙うことが
稀によくあるらしいからな！
気を抜いたところに襲撃なんかを
許したら、少佐殿は無事でも私が無事
では済まされんだろうし。
まぁその襲撃が冬林技研と兎殿の関係に
対する迷彩になってると言うのが、
また何とも言えん事実ではあるんだがな。
まぁいいや（）
「さて、どうやって牽引してるかは
わからんが、アノ赤いのが噂の第四世代型
なんだろう？
折角のお披露目なんだからじっくり見物
させて貰おうじゃないか」
「ま、そうだね。第四世代型で私たち
の機体の半分の性能が出せるなんて
普通に凄い事だからね。分析できる

範囲で分析させてもらおうかな～」
流石はＨＥＮＴＡＩ。調べる気満々か。
私はアレだけに気を取られるわけには
いかんが、使い手の未熟さから暴走の
危険もある。
警戒レベルを引き上げよう。
それでもし少佐殿にナニカしようと
したら、事故だろうがなんだろうが
この場で木端微塵にしてやるさ！

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー
カククカシカジカダイヨンセダイノムートンイトウ
ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「「第四世代型?!」」
ど、どう言うこと？いきなり篠ノ之束博士が
乱入してきたと思ったら、今まで訓練機も

マトモに使えなかった篠ノ之箒に最新型の機体を渡すって！ソレも第四世代型って！即時万能対応型？展開装甲??

「・・・ふっ」

コイツ！今絶対僕を見て笑ったな！

確かにデュノア社がフランスに爆破されたせいで新型の兵装は届かず、学園の人達が考案した兵装の確認が僕の仕事だけど！

そもそもデュノア社で用意できた僕の専用機は第二世代型なんだけどさぁ！

「束・・・やりすぎるなと言っただろうが」

織斑先生は博士がコイツに新型機を造ってことを知ってたんだね？

だけど第四世代型とは思ってなかったってこと？

「ふふーん♪箒ちゃんの安全を考えたら第四世代型が一番なんだよ～♪」

それはそうだよ！今世界各国が第三世代型の試作機を造ってるときに、第三世代型の完成機を通り越して第四世代型って！
しかも篠ノ之束博士が、妹の為に自分で造って自分で渡したことによってアレは国の所有物じゃなく、篠ノ之箒個人の所有物となった！
引き抜き工作とかは有るだろうけど直接的な危害を加えられる可能性は著しく減ったとも言えるよね！
くそっ！未熟者の分際でっ！
「いや、だけど束さん。今の箒に第四世代型なんて扱い切れるのか？」
「「「ズキュウウウン」」」
流石一夏！僕たちには言えないことを平然と言ってのけるッ！
そこにシビれる！あこがれるゥ！

「なっ?!一夏っ!ソレはどういう意味だっ!」
いやそのまんまの意味でしょ?
「あのな箒。俺たちが使ってる第三世代型
だってみんな完全に使いこなしてるとは
言えない状況なんだぞ?
それなのに第二世代型ですらマトモな操縦
経験がない箒が第四世代型って・・・
コレって車の免許が無いのにスポーツカー
をもらうようなもんだろ?」
おぉ。凄い的確なツッコミだ!
あのドヤ顔してた篠ノ之箒が
ワナワナ震えてるよ。
でも言ってることは一夏が正しいんだよね。
まぁあえて訂正するならスポーツカーどころ
じゃなくF1の車輛だってくらいかな?
「流石いっくん!その心配は至極当然
なんだよ!」

「姉さん?!」
　まさか渡した篠ノ之博士まで認めた?!
「だけどそこは束さん印の安心設計!
　学習型ＡＩと強化されたイメージインター
　フェースが箒ちゃんをばっちりサポート!
　箒ちゃんの腕が上がれば上がるほど
　出力や動きが安定して、目に見えて
　燃費も良くなるのだ～」
　んと・・・補助輪みたいなモノかな?
「えっと、良くわかんないけど大丈夫
　なんですよね?出力が強すぎて思った
　以上の攻撃力が出て、目の前の人間を
　殺したりはしないんですよね?」
「「「あぁ」」」
　なるほどね。一夏の心配はソレか。
　確かに普段から木刀を振り回す暴力女が
　専用機なんて振り回したら怖いよねぇ。

「む、なるほど。そういう心配か。
確かにアクセルを踏んだら思った以上の出力が出て・・・と言った機械的なミスによる事故は有りそうだな」
いや、ソレ機械的なミスじゃなくて機体のスペックを把握しないでアクセルを踏むようなアホのせいで起こる人災だから。
しかも第二世代型すら満足に使えない未熟者って言う言葉は聞こえなかったことにしたのかな？
そんな都合の良い頭してたら、そりゃ人災もおこるよね。
姉が天災で妹が人災って。ナニしてくれてるのさ。
親の顔が見てみたいね。
「その辺は慣れが必要だね！「えぇ?!」
と言っても学習型ＡＩが有るからね！

最低限の調整は今日のうちに出来る
から大丈夫だよ！」
「な、なるほど」
一日の慣熟訓練で手加減の調節が出来る？
確かにＩＳコアには自立型学習ＡＩが
有るって話だけど、その補助輪優秀過ぎない？
まぁその分容量を食うから、暴力女が腕を
上げれば上げるだけＡＩに掛ける負担が
減って燃費が良くなるのか。
・・・それって相当容量使ってるよね。
「そうか。とりあえず事故を起こす確率は
出来るだけ減らすようにしてくれ。
では箒はこのまま束と一緒に初期設定と
登録・基本動作確認を終わらせるように。
他は予定していた兵装の動作試験の準備
を急げ。時間は有限だモタモタするなよ！」
あ、織斑先生は諦めた？

まぁいつまでも驚いててもしょうがないし。
勘違い貴族と違って情報を報告しなきゃ
いけない相手が居るわけでも無いし。
中国の嫁気取りはコッチを無視して試験
してるけど・・・どういう事だろ？
アイツだって第四世代型の情報は欲しい
んじゃ無いの？
周りの人も特に注意を払ってる様子は無い。
最初は水色の人が興味深そうに見てた
けど、すぐに視線を外したし。
ドイツのラウラ・ボーデヴィッヒは
第四世代型を見てるけど、アレは興味
って感じじゃないよね。警戒してる？
まぁさっき言ったような事故も有るし、
軍人としては素人が武器を持ったら
警戒するのが普通かな？
まぁいいや（）

勘違い貴族が高速仕様のパッケージ
なら一夏と一緒の訓練は出来ないよね。
学園の兵装を試す為にも相手は必要だし、
一夏に手伝ってもーらお！

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

なんて言うか・・・無駄だなぁ。
「一言で言えば無様だな。簪特尉は
アレをどう見る？」
「ラウラさんと一緒かな」
織斑一夏が言った通り、所詮は第二世代型
の訓練機すら満足に使えないモップの為に
用意された機体だね。
「だな。余りにも使い手が未熟すぎる。
あの兎殿ですらアシスト機能と学習型ＡＩ
がなければ満足に動かせないと断言する
となると・・・相当アレなレベルだぞ？」

ほんとそうだよ。どんだけ容量の無駄遣いしてるんだか・・・

「どうやら篠ノ之箒がアレを完全に使いこなせるようになれば、瞬間的に私たちの半分には届くって話みたいだね」

期待して損したよ。

いや、元々が素人に使わせるためのアシスト機能と学習型ＡＩとの組み合わせの試験だから、アレで良いって言えば言いのかもしれないけどさ。

ギアチェンジどころかブレーキとハンドル操作までＡＩ任せで、搭乗者はアクセル踏むだけって・・・どうなの？

ゴーカートじゃ無いんだよ？

しかもせっかくの第四世代型なのに近接戦闘特化だし。斬撃をビームみたいに飛ばせても肝心の搭乗者が間合いを

理解出来てないから無意味でしょ？
「ふむ。しかしあそこまでアシスト機能が充実しているなら、事故の可能性は少ないのかもしれんぞ」
あ～それはどうだろうね。
「いや、アシスト機能がブレーキを掛けてるのに「なんで言うことを聞かない！」とか言ってアクセル踏んで、事故るパターンだね」
スマートストップもなんのそのってね。
「・・・ありそうだな」
絶対やるよ。そもそも第四世代型に関わらず、機体を使いこなせるようになるためには正しい知識と深い理解が必要なのにさ。
「アレには知識も技術も経験も才能も何もかもが足りない。

さらに自分を見ることが出来ないし、
兎さんを警戒して誰も叱ってくれないから
成長もしない。せいぜいが第二世代型や
セシリア・オルコットみたいなのに対して
機体性能の差で勝てるくらいでしょ？
もう弱い者いじめ専用機だね」
兎さんも人に説明出来るタイプの人じゃ
無いし、説明書だけ見たってアレには
理解出来ないでしょ？
私たち以外の人間には第四世代機に
関しての知識が無いから、誰もアレに
正しい教育を行うことが出来ない。
ソレを自分が凄いと勘違いするようなら
もうアイツは終わりだね。
使って覚える？ＩＳはそんな簡単なモノじゃない。
いつまで経っても中途半端なアシスト機能
におんぶにだっこ。

機体の性能を引き出すことも出来ないで、
中途半端な状態が最高の状態と勘違いして
世界の頂点に君臨するのかな。
で、本当に使いこなせる奴の踏み台に
なるわけだ。
・・・その前に兎さんが第五世代型でも
渡す？んー大佐殿は許可しないと思うし、
流石に学園を卒業したら自立するよね。
『もう束さんに弱点はない。箒は束さん
から離れた。自分の意志で生き！
自分の意志で死んでいくだろう！』
って感じになるはず。
なるよね？
なって欲しいなぁ。

「なるほどな。しかしアレだけの機体を
腐らせるなど、普通に考えたら世界中の

ＩＳ関係者を敵に回す行為だが・・・
アレはソレを自覚出来ると思うか？」
ハハッ。ラウラさんは面白いことを言うなぁ。
「無理無理。自覚なんて高尚なことを
アレが出来るわけないじゃん」
自覚・自制・自省が出来るならあんな風に
凶器を振り回す人間にはならないって。
自分の意思で刃物振り回して、自分の
意思で殺されに行くでしょ。
「そうか。そうだな・・・普通なら世界中の
ＩＳ搭乗者が『あんな未熟者に使わせる
くらいなら自分に使わせろ！』と言って
来るのだろうが、どうやら本当の意味でアレの
専用機らしいからなぁ没収も出来んだろうし」
馬鹿に管理を任せたら普通に奪われる
もんねぇ。
整備に関してもおそらく自動修復を

強化してるだろうから、必要なのは
補給だけって感じにする？
「だね。個人認証もしてるだろうから、
他の人じゃ使えないでしょ。
あとは研究するしかないんだけど・・・
日本政府やら倉持がアレを煽てて自分
たちの所属にするんじゃないかな？」
そして整備するとか言って研究するわけだ。
情報の漏洩に関しては完全に頭に無い
だろうから、その辺も兎さんがロック
をかけるんだろうけど・・・
それってもうＩＳ搭乗者要らなくない？
「完全に時限爆弾じゃないか。それに
そういえばアレは正式な所属は決まって
いなかったか。
いくらなんでも冬林技研では受け入れん
だろうから・・・やはり日本だろうか？」

あんなの受け入れたら癇癪で何人の
技術者が死ぬかわかんないからねぇ。
「まぁ普通に考えたら日本でしょ?他に
行こうにも、アレに外国の文化とかが
理解出来るとは思え無いし。
我慢だって出来ないでしょ?
絶対に我儘抜かして問題起こすよね。
もしくは織斑一夏と同じようにＩＳ委員会
所属にして共有の財産にするかな?」
いや、日本がアレを手放すわけないか。
おそらくＩＳ委員会の不祥事を理由にして
共有化は突っぱねるだろうね。
どちらにせよ整備担当は倉持。
ふふふ。連中はもうマトモな開発者には
戻れないだろうねぇ。
どこまで行っても兎さんの背中を追って、
型落ちの装備だのなんだのを開発するだけ

の集団に成り下がることになる。
ま、白式すら理解出来ない連中に何が出来るとも思えないけどさ。中途半端な自尊心を持って頑張ればいいと思うよ？
「そうか。日本にせよ共有するにせよ我々に関係がないところでヤッてくれればソレで良い」
だよねー。
もし織斑一夏が『冬林技研に所属したい』とか言ってきたら絶対アレも絡んでくるよね。
『アレをなんとかしろ』って条件を付けるべきだって司馬少佐に進言しとこ。
あとはリンちゃんがどこまで織斑一夏と接近出来るかだよねぇ。
第三世代型の開発やら研究の進捗を考えれば甲龍が世界でも最先端だと思うんだよね。

そもそも現状第三世代型で量産出来そうなのって甲龍とイギリスのアレくらいでしょ？
アレは三番機まで出来てるらしいけど、ＢＴ適正がなきゃ使えないのを量産するっておかしいと思うんだよねぇ。
紅茶キメ過ぎて、第三世代機がＩＳの完成形って勘違いしちゃったかな？
どちらにせよ汎用性や燃費の良さから言ったら、間違いなく甲龍が世界中のシェアを席巻することになりそうだね。
そうなればテストパイロットを務めるリンちゃんの功績？
リンちゃんはまた一つ功績を積み重ねたのであった・・・
めでたしめでたし＼（＾▽＾）／

って感じで終わればイイハナシダナーで
済む話なんだけどさ。
「アノ阿呆。司馬少佐に感謝の言葉の
一つも無いってどういう事かな？」
今までは接点が無かったからアレかも
知れないけど、こうして冬林技研の
人間が集まってるんだから最低限の
アイサツくらいするべきじゃない？
「ん？あぁシャルロット・デュノアか
確かにあの態度はいただけんな」
織斑一夏に関してはリンちゃんに
感謝を伝えたらしいし、司馬少佐には
出来るだけ近付かないように織斑千冬
とリンちゃんに言われてたらしいから
ソレで問題はないけどさ。

・・・実際司馬少佐に織斑一夏が近づいたら、李家とか司馬家の人がドコかに運んでナニカするよね？
そんでもってどこかの女権団体が犯行声明出して、怒り狂った織斑千冬に潰されるまでが流れかなぁ？
あぁいや。今は織斑一夏は良いんだって。
「でしょ？あの阿呆が度を越してシツレイなのは間違いない事実だからさ。ちょっとお話する必要があると思うんだよねぇ」
ん～一塊をウェルダンにするよりは幾つかに切り分けてミディアムレアかな？
それともファラリスを使って蒸し焼きなんてどうだろう？
ろくな後ろ盾も無いくせに司馬少佐にシツレイを働くと言う愚行。

そんな阿呆がどうなるのか世界中に思い知らせてやらないとね。

「いや、何もする必要はありません。むしろ許可があるまで動かないで下さい」

・・・ええ～。まさかの司馬少佐からのストップですか?

「いや、だって。アレのせいで大佐殿の睡眠時間削れちゃったんですよね?」

いずれはヤルことだったかも知れないですけど・・・

「それはそうなんですがね。そもそも我々に救援を依頼したのは織斑一夏であってアレではありません。

そして織斑一夏は准尉に礼を述べ、准尉もソレを受け入れました。

師も私もあの件に関してコレ以上何かを求めようとは思ってませんよ」

「なるほど・・・」
　理屈としてはそうですけどね。
「少佐殿のおっしゃることもわかります。
ですが助けてもらったならソレ相応の
態度と言うモノが有るのでは無いですか？」
ラウラさんの言うとおりですよねぇ。
土下座しろとは言いませんけど
最低限お礼は言うべきでしょ？
それなのにあの阿呆ときたら、お礼を言う
どころかリンちゃんのことを織斑一夏を
狙う邪魔者みたいな扱いをしてるらしい
じゃないですか。
　いやソレ自体は事実だし、間違ってるわけじゃありませんけど。
「下手に感謝された結果アノ阿呆が師に
依存しても困りますからね。
放逐すると決めた以上はあんなのと関わり
合いたく無いのですよ」

なるほど・・・感謝の気持ちを持たれる
より忘れてくれって感じですか。
「ソレにアレにしてみれば我々は
三日間匿っただけですからね。
デュノア社も父親もフランス政府に
よって消されたと本気で考えている
ようですし・・・それなら特に感謝
されるようなことでは無いでしょう?」
ニュースをそのまま信じてるって・・・
どんだけお気楽思考なんだか。
「それでは国連での教頭殿の演説は
どうなるんです?」
あぁうん。そうだよね。
『子供に政治を押し付けるな』って言うのと
『コアをＩＳ委員会預かりにしてＩＳ学園に
通わせる』って言う大佐殿の演説が有った
からこそ、アイツはこうして織斑一夏のケツを

狙えてるんだよね？
・・・女が男を狙う場合もケツを追いかけるって言うのかな？
うーん。これもうわかんないな。
「普通に見てないんじゃないですか？」
おっと危ない危ない。腐るとこだった。
流石にソレはね？大佐殿に嫌われそうだからソッチ方向には行かないゾ？
「見てないって・・・あぁそう言えば、私は命奪崩壊拳を受けてましたから直接確認はしてませんが、織斑一夏が電話に出なくなったせいで三日目の日曜日はかなり情緒不安定だったとか？」
周囲がドン引きしてたって話だよね？
「あぁ簪特尉はアレを見てなかったか。
電話にブツブツ話しかけたり、部屋の隅で体育座りしたり、いきなり笑い出して

『一夏！必ず助けてくれるって信じてた！』
とか言い出したりしてな」
うわぁ。病んだ挙句、完全に悲劇のヒロインになってるよ。
男装して女子校に潜入なんて、ストレスが溜まってたのは事実かもしれないけどさ。
私たちには関係ないんだよねぇ。
けどその所為であの演説も何も見てないなら、私たちは『自分を助けた』どころか、むしろ『三日間自分と織斑一夏と引き離した元凶』としか思ってないってこと？
それならリンちゃんに向ける悪意みたいなのもわかるけど・・・
都合の良いニュースだけ見て他は見てないって、元国家代表候補生としてそれで良いの？
「そうですね。正直言ってアレの思考は

理解出来ませんし、する気もありません。
シツレイなのは確かですが、あくまで
学園での付き合いしかありませんし・・・
学園内では同じ学生ですからね。
それを不敬で殺すわけにもいかないのですよ」
なるほどなー。だけどその理屈なら・・・
「気付きましたね?どうせ学生のウチだけ
です。残り三年も無いのですから好きに
生きれば良いのではありませんか?」
最長三年。司馬少佐が監査員を辞めたら
ソレが更に早まるのか。
「わかりました。もしアレがコレから
の学園生活で悔い改めるようなら・・・
痛みが減るくらいですかね?」
許すことは無いぞ。
「ひと思いに殺すか?いや、それだと
教頭殿にもシツレイだな。

かと言ってあんな汚物に貴重な時間を
使いたくもないし・・・」
今回の件に対して私たちに感謝しない
って言う事は実際に動いた大佐殿に
対する無礼であり不敬だからね。
司馬少佐も許す気は無いし。私も
許すことは無い。ラウラさんだって
そうだよ。
ふふっ。あの阿呆がリアルデスノートに
自分の名前が記載されたことを知るのは
何時になるやら。
「内容によるでしょうね。それに師が
『子供が阿呆なのは当たり前。故に許す』
と言うなら無傷で放逐するしかありません」
あぁ大佐殿なら言いそうだなぁ。
この場合は子供に甘いと言うよりは
最初から期待してないから無礼も

有るだろうって感じなんだろうけどね。
大佐殿がアレの存在を忘れてくれて、
何も言わないでいてくれれば私たちで
友愛することになる。
うん！しっかり準備しとかないとね。

「なんか三人が怖いんだけど・・・
私なんかしたっけ？（ˊ・ω・ˋ）」

第41話

「・・・ヤレる！この紅椿ならっ！」

何をヤる気だ何を。

少なくとも今の貴様に一夏はやらんぞ。

しかし第四世代型か・・・あきらかに宝の持ち腐れだが、説明を受ければアレくらいしないと箒にはマトモに運用出来んと言うのはわかる。

展開装甲についてはまだ良くわからんが、形を変えるのならおそらくは体に染み込んだ剣道の動作を邪魔しないような形状になるのか？

・・・普通は武装に合わせるモノだろうに。

一夏もそうだが、歪すぎる。

タダでさえ基礎が出来てないのに、

誰も第四世代型の教育なんざ出来んのだ。
アシスト機能を重視して、燃費性能を
極限まで落としたらしいから長時間の
戦闘はできんし、暴走したら即エネルギー
切れを起こすという事だが・・・
最初に白式を使った時の一夏と同じと
言うことだろう。
常にエネルギー残量を確認する癖を
つけさせないとマズイだろうな。
まぁ自衛の為の機体と考えれば悪いモノ
ではない。
それどころか箒の成長にあわせてアシスト
機能に使われていた容量が燃費や出力に
回せると言う話だろ？
箒が成長すればするほど強くなると言う
なら束なりに箒の成長や将来を気遣った
機体とも言える。

「ふっ、しばらく会わないうちに束も
成長したもんだな」
コレも教頭のおかげか？
「ふふん♪絶えず成長するのが束さんが
天才兎である所以だからね！だけど
ちーちゃんは・・・全然変わらないねぇ」
・・・ほほう。
「いつの間に私の横に来ていたのかは
知らんが、箒を見てなくて良いのか？」
急制動とかで体に負荷がかかるかも
しれんぞ？良いのか？良いのか？
「学習型ＡＩがうまく作動して最適な行動
を取ってくれてるからね。
今の箒ちゃんはアレが自分の力って思って
るけど、ソレが機体性能のおかげだって
気付くことが成長の第一歩だからしばらく
はこのままで良いのさぁ♪」

なるほど。体を痛めることで最適な行動を覚えろと言うことか。
コイツが箸を甘やかすだけでなく、鍛えることも覚えたとはな。
「で、私が成長していないとは？」
確かに貴様には成長の片鱗が見えるが、流石に聞き捨てならんぞ？
「え？普通に成長してなくない？教師としては新米だから仕方ないにしてもさ。ちーちゃんが最後に本気出して戦ったのって何時？本気で鍛錬したのって何時？」
・・・そういう意味か。
「確かに身体的には鈍ったと言えるだろう。教師としても毎日が手探り状態だし、ここ数ヶ月の失態を考えれば確かに成長したとは口が裂けても言えんよ」
ようやく日本も学園が信用出来んと理解して

自分で情報収集をするようになったものの、
そのきっかけとなったデュノアが一夏に依存することになり、それに引きずられて箒やセシリア・オルコットが過剰に接触してくるようになってしまった。
そのせいで他の一般の生徒との溝ができ、鳳とも気楽に接触が出来ない状況になりつつあるからな。
とりあえず鳳にクラスの女子の裏取りをしてもらい、安全と思われる奴と接触して少しでも心労を無くして欲しいのだが・・・
「それもあるけどさ～。それ以前にちーちゃんはいつまで乙女なのかな～って束さんは真顔で女友達を心配してみたりする」
「はぁ?!」
何をいきなり。一夏が一人前になるまで

男なんざ作ってる暇が無いんだよ。
ん？まてこの言い方はミサ、いやマサカ。
「ちーちゃんが幸せにならないと、
いっくんだって彼女なんか作れないと
思うんだけどな～」
お、おぅそういう意味か。てっきり
コイツに男が出来たかと思ったぞ。
中身はともかく体つきは立派だから
有り得なくはないかもしれんが・・・
いやナイナイ。束に男って。アルワケナイ。
まったく・・・焦らせるな阿呆が！
「・・・その辺は追々だ。少なくとも
一夏が一人前、いや自衛が出来るくらい
の強さを獲るまでは無理だな」
男は妻を娶って一人前だろうから、
まずは自衛だ。
自分を守れん奴に好いた女を守れる

とは思えん。
まぁ凰なら自衛も出来るし、いざと言うときは物理的にも政治的にも守って貰えるんだがな。
もし一夏が『私を気にして恋愛出来ない』なんて状態だとしたら・・・コレはなんとかしないとダメだよなぁ。
一夏のためにも凰のためにも、ついでに私のためにもそろそろ真剣に考えねばならんか？
だが急に男について真剣に考えろと言われてもなぁ。
いや心優しい一夏が私を気にして遠慮してしまうのはわかる。わかるんだがなぁ・・・
ステイタスだの体目当ての男がしたり顔で言ってくるなら、腹に命奪崩壊拳（劣化）を打てば終わりだが、束に言われたって

言うのがなぁ・・・

「織斑先生!・大変ですっ!」

ん?・山田君?・妙に焦っているようだが

・・・いつまで学生気分で居るつもりだ?

「山田先生、生徒の前です。慌てずに

報告をしてください」

教師が慌てていたら生徒も焦るだろう。

しかも今は兵装試験中なんだぞ?

事故の元じゃないか。

「お、落ち着いている場合ではないんです!」

何が起こったかは知らんが・・・

「山田君。非常事態なら尚更声を抑えろ」

生徒に知られたら困ることなんだろう?

ハイパーセンサーで口を読まれること

だってあるんだぞ。注目を集めるな馬鹿者が。

「あっ・・・すみませんでした。えっと・・・」

ハンドサインは覚えていたか。

危険・非常事態・大至急・危険・・・なるほど。
危険が二回出てくるほど厄介事のようだな。
「とりあえず了解した。すぐに移動して
状況確認しよう。
・・・ナニカ指示は出ているか？」
本当に緊急の非常事態ならその情報にも
規制が掛かる。
海で遊んでるＩＳ学園の教師に連絡が入る
程度の緊急事態なら、何かしらの指示が
出ると思うんだが。
「あ、はい。専用機持ちは別室で待機させ、
他の生徒は室内で待機。
情報の拡散を防ぐようにとのことです」
・・・微妙だな。情報の拡散を防ぐなら
専用機持ちも同じように待機で良い筈。
わざわざ別室に纏めるということは、
奴らにナニカさせる気か？

「あ、あの、織斑先生？」
山田君は何も疑っていないか。まぁ
専用機を持つということの意味を
正しく理解出来ているからな。
だがコイツらはまだ学生で、専用機の
ほとんどは試作機だということを失念
している。
もしコレが全体的なモノだとしたら
・・・危ういな。
「いや、何でもない。ではすぐに生徒に
指示を出そう。監督者がいきなり焦って
いなくなっても困るし、事故が起きたら
洒落にならんだろうからな」
誰が緊急連絡を入れてきたか知らんが
学生に何をさせる気だ？
とりあえず焦らしてその性根を見定める。
「そんな事してる場合じゃ・・・

「あぁ?」い、いえ、そうですね。
まずは生徒さんの安全が第一ですよね!」
当たり前だ。学生を最優先するのが教師と
言うものだろうが。
「わかったら落ち着いて行動するように。
別にナニカ具体的な命令を受けたわけでは
無いのだろう?」
非常事態だからってなんでも対応出来る
ワケじゃない。
知ってもどうしようもないことって
のはあるからな。
「あ、言われてみればそうです・・・
すぐに織斑先生に知らせるようにって
言われただけです」
だろうな。今までの私なら緊急事態と
言われてたら、情報を得るために即行動
してただろうさ。

だがココに束と司馬監査員が居る以上、
本当の意味での緊急事態は発生しない。
あれ?そういえば束がいつのまにか
居なくなってる。
いやまぁ束が横に居たら流石の山田君
でも情報の開示はしないよな。
その辺を読んで消えたとしたら・・・
やはり人間的にかなり成長しているか。
置いていかれてる感じがするが、
今は友としてアイツの成長を喜ぼう。
まぁ成長してても箒が大事なのは変わらん
みたいだし。
つまりは箒が傷付くことは束が許さんだろう。
機体制御に失敗して体を痛めるのは外的要因
ではなく箒の自爆だし、成長の糧となる。
そして司馬監査員が傷付くことは教頭が
許さん。ついでに司馬家と李家もな。

とりあえず今現在ココは世界でも有数の
安全地帯というわけだ。
そしてココが安全ということは一夏も
安全だし、私が担任として受け持つ
生徒や、学年主任として受け持つ生徒も
無事と言うことだ。
ならば後は他の連中の仕事だろう？
私はあくまでＩＳ学園の教師。軍の所属
でもなければ日本を守る責任も無い。
アレだ。もう更識がヤレば良いじゃないか。
暗部のくせにロシアの国家代表なんかに
なって十分目立ってるんだから、今更
表に出たって問題ないだろう？
まぁ指示が出てる以上は動くが・・・
「さて緊急事態が発生したので今日の
演習は中止だ！
専用機持ちは装備を回収し指定された

部屋へ移動。
一般の生徒は部屋に戻って待機だ。
許可なく部屋から出たら罰則が有るから
大人しく待機するように！」
・・・さてそろそろ私も行くか。
山田君があれだけ慌てる緊急事態だ
どーせ碌でもないことだろうから
聞きたくないんだがなぁ。

・・・・・・・

「・・・馬鹿じゃないか？」
連中は何を考えてるんだ？

┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗

緊急事態ねぇ・・・山田先生は焦ってた

けど織斑千冬はそうでもない。
コレは情報を知らないから?それとも織斑千冬にしてみたら緊急でも何でもないってこと?
「なるほど・・・特尉、少尉、データを送りますので確認なさい」
「「はっ!」」
うん。どうやら司馬少佐にしてみたら大したことじゃないみたいだね。
えーナニナニ・・・

・・・・・・

あ~なるほどね。
うん関係者全員馬鹿じゃない?
「確認しました。とりあえず部屋に戻りますか?」

こんなの確認する為にわざわざ海まで来たのか～。麻雀してた方がマシですね。

「そうですね。多少は見るモノもあるかもしれませんが・・・今は特にすることもありません。さっさと部屋に戻って待機するとしましょう」

「「はっ！」」

待機という名の麻雀ですね。わかります。

「（。Д。）エッ?!司馬様、私は?!」

・・・この子は何を言ってるのやら。

「いや、リンちゃんは専用機持ちじゃん。向こうに行かないと」

指示出てたよね?

「そうだぞ。凰准尉は教官の指示を聞いて無かったのか?」

まったく。ウッカリしすぎじゃないかな?

ウッカリん・・・うっ頭がっ！

「いやいやいや、司馬様はともかく
簪もラウラも専用機持ちじゃん！
私を置いて逃げないでよ！」
逃げるんじゃない別の戦場に行くだけだよ。
コレから司馬少佐と麻雀するんだからね。
てかあんな連中の溜まり場に行ってたまるか。
司馬少佐には抑えるように言われてる
けど、阿呆の態度に我慢できず殴り倒す
かもしれないし。
「准尉。私は監査員である以上学園とは
違う指揮系統にあります。ソレはわかり
ますね？」
監査員が監査対象の指示に従うわけには
いかないですもんね～。
「は、はい」
まぁソレはリンちゃんもわかってる
からさっき『司馬様はともかく』って

言ったんだろうけど。
「特尉と少尉は私の補佐役であり護衛です。よって私の側を離れる訳にはいきません」
「その通りです」
「（。Д。）」
いやー流石司馬少佐。完璧な理論武装です。
「え？いや、それって大丈夫なんですか？」
大丈夫もなにも・・・
「ねぇリンちゃん。そもそも私たちがＩＳ学園の指示に従わない場合の罰則ってなんだと思う？」
わっかるかな～？
「えっと、まずは国家代表候補生としての立場を失うわよね・・・（。Д。）ハッ?!」
気付いたね？
「そう。私たちは国家に所属してないの。入学の際に非常時の指揮系統に関する

委任状があったけど・・・ラウラさんの
場合はドイツから移籍してる上に
司馬少佐の護衛として登録してるから
司馬少佐と一緒にいても何の問題もないね」
ドイツに所属してた時の書類には「緊急時は
ＩＳ学園の定めた指揮官の指示に従う」って
文面にサインしてるんだろうけど、今じゃ
そんなの無意味だよね～。
なんたって保証人と責任者が違うんだもん。
もし書き直してるにしても優先順位は
司馬少佐〉〉超えられない壁〉〉ＩＳ学園で何の問題もない。
「うむ。そうだな」
だからこそラウラさんは向こうに行く
必要がないんだよね。
「そして私は元々退学希望なんだよ！」
「（　。　Д。）ソーユーモンダイ?!」
そういう問題だよ。

そもそもＩＳ学園からしてみたら違反者は
退学させるしか出来ないでしょ？
そうじゃなかったら寮内で武器を
振り回したりＩＳを無断展開して織斑一夏を
追いかけ回したりする連中に対して
何かしらの処罰があるはずでしょ？
それが反省文って。軍規違反舐めてんの？
あんまり悪質な場合は刑事罰だろうけど、
司馬監査員の補佐は立派な仕事だし？
退学によって生まれる制裁とか、コア没収
って言う副次効果が怖いからみんな最低限
の指示には従うんだろうけどさ。
私には関係ないね！
「普通は学園を退学になったら国家の面目
を潰したってことになって代表候補生の
座を下ろされて、専用機も没収されるよね？
だけど私たちは冬林技研の所属だし、私の

専用機のコアだって国とは関係ないし」
このコアはあくまで冬林技研が造ったコア。
兎さんが造って中国政府に割り当てられた
コアはそのまま塩漬けされてるんだよね。
「だから私が留意すべきは学園の意見じゃ
なくて冬林技研の意見なの。
そして退学になったとしても、その理由が
『司馬少佐の護衛を優先した』って
言うなら冬林技研の誰からも責められない！」
むしろ褒められるよね？
「だけどリンちゃんは中国の国家代表
候補生としてココにいるじゃん？
「命令違反で退学」なんてなったら
リンちゃんの足を引っ張ろうとしてる
連中がわんさか寄ってくるよ？」
もうピラニアシャークだよ！
・・・もうピラニアで良いじゃん！とか、

そんなの流行るわけないだろ！とか、
上水道に酒を入れても空気中のは関係
ないよね？とか、その程度の濃度で死ぬなら
下水に居るサメは最初から死んでるよね？
とか、え？ソレ核でなんとかなるの？とか
ツッコミんだらダメだぞ。
「そんなわけだから、諦めて連中が
待つ部屋に行ったら？」
「（。Д。）アキラメロダト?!」
織斑一夏が待ってるよー。多分今までの
人生で、一番リンちゃんの登場を心待ち
にしてるんじゃないかな？
やったねリンちゃん☆
「まぁ随分簡略しましたが、特尉の
言った内容に間違いはありません。
つまり私が向こうに行く気がない以上は
特尉と少尉も行きません。

それともアレですか？私から補佐と護衛を奪いますか？」

強制するってことはそう言うことですよね～。

「そ、そんなことはしません！」

冗談でも頷いたら殺されてるよね～。

「それに我々がいたら織斑一夏が凰准尉に近付けんだろう？

今ならばホラ、阿呆三人をなんとかすれば凰准尉の一人勝ちだぞ？」

なんとかするのが大変だけどね～

「（　。Д。）ナントカッテナニ?!」

「まぁ恋愛は戦いだからね。阿呆三人組から勝ち取ってみせなきゃ！」

配管工がお姫様助けるよりは簡単だよ。

いやー大佐殿に甲斐性が有って良かった良かった。

「（ 。Д。）コノリアジュウガッ！」
ふふふ。負け犬の遠吠えだね（愉悦）
「ここで何を言っても変わりませんよ？
さっさと向こうに行って織斑姉弟からの好感度を稼いで来なさい」
おぉ。とうとう司馬少佐から好感度とか言う言葉が出てきたよ。
コレはそろそろ次の段階かな？
「いや、好感度って・・・緊急事態なんですよ？そんなことしてる場合じゃ無いと思うんですけど！」
「「・・・」」
あ～えっと・・・うん。そうだね。
「あれ？何この空気？私なんか変なこと言った（Φ ωΦ）？」
言ってることはまともなんだけどなー
コレが情報弱者かぁ。

いや、黙ってる私たちが問題なんだろうけど。
（これ、告知した方が良くないですか？）
（私もそう思うが・・・少佐殿は？）
（無論このままです。非常時における対応力を試さねばなりませんからね）
（了解しました！）
司馬少佐が言うならソレで決定です。
「いや、三人して目で語ってるけど・・・何？緊急事態って茶番なの？」
お、まぁ流石に気付くよね。
「向こうに行ったらわかるよ。私たちは麻雀してるから何かあったら連絡してね？」
ＡＳＩＭ●の充電も終わってるだろうし、さっさとアレに雀卓と麻雀牌を出させよう！
「（　。Д。）チャバンカヨ！」

茶番にするか悲劇にするか喜劇にするかは・・・貴女次第です！てねっ☆

第42話

う～む。空気が悪い。ギスギスしてさらにピリピリしてる気がする。
これはハウスダストと静電気の夢の共演か？それともアスベストが肺に侵入してピリピリしてるのかね？
ん～エアコンは・・・効いてるな。
換気扇も・・・大丈夫。
窓は・・・開けない方が良いよな。
よし。現実逃避はこの辺にしておこう
「専用機持ちとはいえ第二世代型。訓練機と同じなのだからお前はほかの生徒と同じように自室で待機していた方が良いのではないか？」
この空気の元凶は間違いなくコイツラだ！

これはアレだろ？言葉だけ聞けば気遣ってるようだけど「邪魔だからどっか行け」って言ってるんだろ？
ていうかさ、今まで訓練機すらマトモに使えなかった筈が言うセリフじゃねーよな？
さっきはソコソコ動けてたけど、束さんの説明を聞いた感じだと機体性能のおかげだろ？
しかもかなりフォローしてもらってるみたいじゃねーか。
それで一人前の顔されてもなぁ。
俺だって面白くはないぞ。
「まぁ、一理ありますわね」
いや、有るか？そもそも非常事態の内容がわからないんだから、自分の機体性能を理解してて使いこなしてるシャルの方が事故もないだろうし汎用性は高いと思うんだけどなぁ。
「いや、未熟な君が第四世代型っていう

高性能な貴重品を使っても絶対事故るよ。
簡単に修理とかメンテ出来ないんだから
今は大事に飾ってた方が良いと思うよ？」
確かに。修理のことを考えたらなぁ。
常に束さんがいるワケじゃないし。
「私が未熟だと!?」
いや、未熟だろ？１５か１６でＩＳの
操作を極めてるヤツなんかいないんだから。
極めてないなら総じて未熟だよな。
つーか自分からケンカ売っておきながら
言い返されたら怒るって・・・子供かよ。
「まぁ、一理ありますわね」
うん。確かに一理あるんだよ。
いくら展開装甲って言うのが万能型でも
使い手が未熟な箒だから、近接戦闘
だけだろ？束さんも剣と剣からビーム
出るヤツしか用意してないし。

箒も射撃については壊滅的だったもんな。
学習型ＡＩがオートで狙いをつけてくれるかもしれないけど、ソレだけに頼るのはやっぱり未熟だよなぁ。
「さっきから『一理ある』しか言ってないが、貴様とて間合いを詰められたら何も出来ないタダの的だろうが」
ん～確かにソレはあるけど、フェアじゃないよなぁ。箒は俺がそうやって戦ってたのを見てるから言えるんだし？
いや、情報戦も立派な戦いだから卑怯とか言うつもりはないんだけど、せめて自分でヤってから言うべきじゃないか？
第四世代型の性能が有れば間合いを詰めるのも簡単だろうし、一方的に情報を持ってるから、最初のウチはみんなに勝てると思うけどさ。

肝心の箒に基礎も何も無いから対策取られたら終わりそうだぞ。
機体の性能の差が戦力の決定的違いじゃないって言葉もあるし。
「だね。誰かの影に隠れて遠距離から
射撃するのが英国紳士のやり口だろ。
自分一人じゃ何も出来ないんだから
偉そうにしないで欲しいんだけど」
そうなのか？まぁ二枚舌外交と、
ブラックジョークがジョンブル魂？
の証って言うのは聞いたけど。
バカみたい熱い紅茶で舌が火傷しても
良いように、英国紳士には舌が二枚ある
って言うのは面白いと思ったもんだ。
「ふっ。新型の専用機を貰ってはしゃい
でるだけの未熟者と型落ちの第二世代型
が何を言うかと思えば・・・
物事には何をするにも連携が必要なのです。
未熟な第四世代型で一夏さんと満足な

連携が取れますか？
型落ちの第二世代型で全力の一夏さんについていけますか？」
なるほどなー。連携って言う意味なら
近接戦闘特化の俺と遠距離特化のセシリアは相性が良いのかも・・・
それに同じ第三世代型だから速度的にも合うだろうし。
リンと組んだ方が絶対に楽できるけど、
俺が楽をするってことはリンに苦労を掛けてるってことだからなぁ。
鍛えなきゃ（小並感）
「私なら出来る！」
いや無理だから。箒の専用機のスペックがイマイチわからんし。
近接戦同士ならよっぽど鍛えてないと確実にお互いの間合いを潰すことになるんだぞ？
いやはや、あの乱入事件のときの俺は本当にリンの邪魔をしてたんだって実感した

よ。
それを謝っただけで許してくれて、今も俺を鍛えてくれるリンには感謝しかないな。
「状況によるかな？少なくとも僕にはタッグトーナメントで優勝した実績があるし」
シャルは不敵に笑ってるけど、セシリアがいうようにそもそもの機体の速度がまるで違うからなぁ。
確かにシャルは器用だけど、今の俺の近接戦闘にアノ機体で併せるのは難しいと思うんだが・・・
それに実績ってあの弱い者イジメか？
アレを実績って言われてもなぁ。
「「ぐぬぬっ！」」
なんか悔しがってるし。
セシリアから振っておきながら自爆って箒と同レベルかよ。
・・・初対面の時もこんな感じだったけど、

やっぱり人間根っこは変わらないモンだな。
少なくとも俺はシャルの立場を安定
させる為の種馬でもなければ、セシリア
の失点をカバーするための種馬でもないぞ。
箒は友達を取られたくないのか何なのか
知らないけど、正直友達だと思ってくれる
なら空気の悪化と事故への巻き添えは
勘弁して欲しいんだけどなぁ。
「お待たせ～って。ん？一夏？なんか背中が煤けてるけど体調でも悪いの（Φ ωΦ）？」
「「ちっ！」」
リン！やっと来た！これで勝つる!!
「いや、体調は悪くないんだが場の空気がなぁ」
お、コレは上手いこと言ったんじゃないか？
「ふぅん。まぁ何となくわかったけど、
ほっとけば？とりあえずお茶でも飲んで
ゆっくりしてましょ。
どーせ呼ばれるまで待機してないといけ

ないんだし、まさか勝手に出て行くわけにもいかないからねぇ」
だよな。邪魔だとか他の部屋に行けとか言ってるけど、そもそも俺らは千冬姉からここに集まって待機してるように言われてるんだからさ。
勝手な判断はダメだよなぁ。
でもリン一人っておかしくないか？
「ちなみにラウラとサラシキさんは一緒じゃないのか？さっきまで一緒に兵装の試験してたよな？」
ラウラもサラシキさんも自分の機体は展開して無かったけどさ。
そもそもラウラはコアをドイツに返したけど新しく専用機もらったんだろ？
それにサラシキさんは専用機を持ってるって前の乱入事件のとき千冬姉が言ってたよな？
兵装の試験とかしなくて良かったのか？

それに専用機持ちならコッチじゃないのか？
「あぁ、あの二人は司馬様の護衛
だからね。コッチには来ないんだって」
・・・なるほどなー。
司馬さんクラスになれば護衛は必要
だろうし、ラウラも冬林技研に所属
したんだもんな。
サラシキさんは元々護衛みたいだし。
さらに司馬さんは専用機を持ってない
から向こうに行くし、司馬さんが向こうに
いくなら護衛のラウラとサラシキさんも
向こうだよな。
でもってリンは中国の国家代表候補生として
コッチに来たわけか。うん納得した。
「はぁ？何を勝手な事を言っているっ！」
箒？さっきお前は何を言ってた？
少なくともリンが言ってることには

筋が通ってるし、ＩＳ学園も認めるだろ？
「そうですわ！専用機持ちはコチラに
集合するように命令が出たのですから、
コチラに来てアイサツするのが筋と
いうものではなくて?!」
セシリア？
いや、アイサツって言われてもな。
普通なら散々お世話になった俺がアイサツに
行かないとダメなんだけど、下手に司馬さんに
接触したらキサラギさんに連れていかれる
ことになるんだよなぁ・・・。
リンからも「司馬様へのアイサツは必要ないって言うか止めた方が良い」って言われ
てるし。
まさか司馬さんをこの場に呼ぶわけには
いかないし、司馬さんの護衛を無理やり
引き離すなんて有り得ないんだけど。
もしかしてセシリアはイギリス人だから

司馬さんがどんだけ偉い人か正しく理解
出来てないのか？
それにそもそも司馬さんはＩＳ学園には監査員として来たんだぞ。
その監査対象であるＩＳ学園の教師の命令に従うわけないってわかりそうなもんだけどなー。
もしかしたらその事すら知らないとか？
いや、有り得ないよな。もしそうなら、
どんだけイギリスから干されてるんだって話になるし。
「そうだよ。緊急事態だって言われてるんだから、連携を乱すような真似をされたら困るんだけど？」
シャル。さっきまで喧嘩してたお前らが言う台詞じゃねーぞ。
それにむしろ俺たちが居た方があの人たちの連携を乱すことになるんじゃないか？
何せラウラもサラシキさんも司馬さんも、
負けず嫌いのリンが自分より上って素直に

認めてる程の実力者だ。
本当にヤバくなったら動くだろうし、
その時に足手まといは居ない方が良い
と思うんだが・・・
まぁコイツらはリンの強さすら知らないし。
て言うか、あんだけ世話になった人達に
言うことじゃないよな？
リンに相談して、司馬さんが即座に動いて
くれたからフランスを追い込めたし、
向こうからの反撃もないんだろ？
俺が一人でフランスやデュノア社を訴えて
も、普通に意見を封殺されてシャルを回収
されて何も無かったことにされてたと思うぞ。
つまりこうして普通に学生でいれるのも司馬さん達のおかげだろ？
少なくともリンを睨み付けるのは違うだろう。
リンは・・・良かった。気にしてない。
とりあえずコイツらの言うことは筋とか

そーゆーのは全く関係ないみたいだから、
話し半分に聞いた方が良さそうだ。
何かあったらまずはリンか千冬姉に相談だな。
「文句が有るなら自分で言えば？
今から殴り込みをすれば直接殺して
貰えるかもしれないわよ？」
ある意味慈悲だよなー。捕まって生きたまま
奇跡の部屋に送られるよりはマシかも。
「ほう？大きな口を叩くが、この私をそう
簡単に殺せるとでも思っているのか？」
いや、箒よ。専用機を持ってから少ししか
経ってないのになんでそんなに自信満々なんだ？
元々上から目線で口調は厳しかったけど、
これは自信を得たと言うよりは増長してるんだろ？
専用機が有るから代表候補生と同格って
考えてるかも知れないけど・・・リンは
専用機頼りの半端者とは違うし、何より

代表候補生は基礎をしっかり修めてるからこそ強いんだ。
基礎も何も無い箒じゃ、生身でもＩＳでもリンには勝てないだろうな。
それに箒の場合は実力とか第四世代機云々よりも、束さんの存在が有るからちょっかいをかけられないってだけだろ？
だけど司馬さんは冬林技研の人だぞ？
「出来るに決まってるじゃない。「この私」とか何を偉そうに。
普段は姉は関係ない！とか言ってる癖に、今回お姉さんに泣きついて造って貰った新型はそんなに使い心地良かったの？
見た感じ明らかにあんたの未熟さが機体の足を引っ張ってるけど・・・
まぁあんな欠陥機どーでも良いわ。
とりあえず司馬様にあんたのお姉さんの

威光が通じると思ったら大間違いよ？」

「な、な、なっ！」

だよな。束さんの技術を特許申請して、
束さん本人にＩＳに使われてる技術の特許
使用料を払わせるくらいだしなぁ。
本人に容赦しないんだから、妹にだって容赦はしないだろう。
て言うか箒から束さんに新型をくれって頼んだのか？
その結果が第四世代機かよ。
なんてゆーか、そりゃ周りの連中もズルい
っていうよなぁ。
あの人は純粋に箒が好きだから箒から
頼まれたら喜んで専用機を造るだろうし、
コネも立派な力ではあるけど・・・
せめて自分の身に合った機体なら文句も
少なかったろうに。
けど欠陥機？アレに何か欠陥があるのか？
・・・そう言えば束さんが第四世代機の説明

をしてるときも、リン達は特に箒や束さんに
注意を向けてなかったよな？
欠陥を見抜いて興味を無くしたのか？
いや、それでも第四世代型は存在だけ
でもかなりの意味を持つんじゃないのか？
ん～わからん。
箒はまさしく返す言葉も無いって状態だから、
とりあえず箒から売った喧嘩はリンが上手く
捌いて終わりみたいだな。
他の二人もこんな風にスパッと終わってくれればなぁ。
「なるほど、未熟者が分不相応に篠ノ之束
博士に専用機を下さいと泣きついた結果が
アレですか。確かに誰かさんが普段から
言っていることとまるで違いますわね？」
イギリス人もビックリするくらいの
二枚舌ってか。やるな箒。
てかセシリアは箒の味方じゃないのか？

てっきり次はセシリアが論破されるもんだと思っていたんだが・・・

「あ～僕もデュノア社の関係者だからって散々言われてきたけど、流石にコネクションじゃ篠ノ之さんには敵わないな～」

おぉう。シャルも便乗してきた。いやはやさっきまで一致団結してリンを攻め立ててたのに、コイツらいきなり裏切ったぞ。

まさしく死体蹴り。コレが女ってヤツか・・・恐ろしいもんだなぁ。

「はぁ。なんて言うか・・・醜いわねぇ」

けどリンは何か違うよな？

なんつーか、ドロドロしてないって言うか。

「まぁ、否定はしない」

とりあえず曖昧に肯定しとくか。リンなら気付くだろうし。それに下手になんか言ったら、また纏まってコッチに噛みついてきそうだし。

「ん～まぁコレも勉強か（；・ω・）」

む？勉強？

「あのね一夏。良い機会だから教えておくけど

・・・あいつらはね？自分に芯が無いから口喧嘩もまともに出来ないのよ。

ちゃんとした目的があるわけじゃなく、感情を優先して周りの評価を落とそうとしてるだけ。

そんなんだから、目の前に餌を差し出されたら罠も疑わずに食い付くのよ」

・・・なるほどなー。箒は話題を逸らして仲間割れさせる為の餌なのか。

確かに二人は第四世代型を貰った箒に嫉妬してるところも有るからなぁ。

ふむふむ。言われて見れば確かに芯が無い。

箒は束さんが嫌いとか言ってた癖に専用機をねだるし、セシリアはイギリスでの自分の立場がヤバイから、相手のミスに便乗して

少しでもマウントを取ろうと必死だし。
シャルに至っては完全な根なし草だもんな。
自分の評価を上げるのは実績が必要だけど、
実績なんてそう簡単に作れないから周りの
評価を落とそうとしてるわけか。
対してリンは中国の国家代表候補生で
しっかり実績も上げてて、さらに冬林技研
所属で給料とかも貰ってる。
箒達が学生だとすればリンは社会人みたい
なもんだよな。だから言動に余裕が有る。
箒達に何を言われても子供の戯言って
割りきってるのか・・・
それで言ったらセシリアは色んな会社を
経営してるって話だけど、あんな感情的
で良いのか？
普通はそう言うのは隠すもんだろ？
それ以前に俺ならあんな上司はゴメンだけど。

「まぁ、とりあえず一夏はアイツらのアレを良く見ておきなさい」
　ええー。アレって、アレを？
「・・・正直関わりたくないんだけど」
　醜いって言うか酷いって言うか・・・
「関わりたくないのはわかるけどね。
　口上戦とか舌戦って言う言葉もあるように、
　アレだって一つの戦いよ？
　何せこれからの一夏には沢山のイチャモン
　だとか意地の悪い質問が向けられるわ。
　ソレに対してイチイチ感情的になっちゃ
　ダメなの、あんな風になりたい？」
「・・・なるほど」
　コッチが避けて通ろうとしても、向こうから
　俺を挑発してきて、自分達に有利なコメント
　を引き出したりするってことか？
「まず何をするにしても、目的をキチンと
　持つことね。例えば私を挑発したいなら、

最後まで私を狙うこと。
次に誰が敵で誰が味方かの把握も大事よね。
それに、頼りにならない味方は味方としてカウントしちゃ駄目よ。あぁなるから（Φ ω Φ）σ」
す、凄くわかりやすいな！
人の振り見て我が振り直せってのはこういうことか。
「だまれだまれだまれっ！こんなのはきっかけに過ぎん！」
こんなのって。束さんも浮かばれないなぁ。
「ご自分で頼んだ癖に良く言いますわね」
「ほんと便利な言葉だよねぇ」
全くだ。まぁ箒が自分から束さんに
連絡を取って何かを頼んだって言うのは、
確かに前進したとも言えるかもしれないけど。
それにしたってあんまりにもあんまりな戦いだよなぁ。
うん。俺も下手に千冬姉や束さんに何かを頼むのは止めておこう。
・・・練習メニューは大丈夫だよな？

「無理ですね」
　出来るわけないだろう。
『・・・やりもしないで決めつけるのかね？』
　いや、馬鹿か？
「やって失敗した場合のリカバリーが効きませんからね。何度でも試せることだったり生徒の成長に繋がることなら、当たって砕けるという経験を積ませるのも良いかも知れません。
ですがこの場合の『砕ける』は死亡ですよ？
教師としては到底認められませんよ」
普通に考えたらわかるだろうが。
『・・・日本がどうなっても良いと？』
　話をすり替えるな。
「では担当員殿は日本の為なら学園の生徒がどうなっても良いと？」
『・・・いや、そうは言ってない』
　心の中でどう思ってるかはしらんが、この場で

どうなっても良いとは言えんだろう？なんと言っても貴様らが使おうとしている生徒たちの中には国家代表候補生も居るんだからな。日本の国防の為に命を懸ける必要が無いし、命を懸けろと命令する権限も学園にはない。出来るのはあくまで協力要請だ。まぁ正式な採決によるモノなら別だが・・・

「大体いつからＩＳ学園の生徒が日本の国防を担うことになったんですか？日本には日本のＩＳ部隊が居るでしょう？それにＩＳ学園は完全中立。どこの国の内部事情にも関わることは有りません」

ハワイ沖から日本まで６４００キロ。最高速度がマッハ２の時速２４５０キロで巡航速度は早くても時速２０００キロにはならんだろう？。

『・・・』

ならば三時間近い猶予があるんだぞ。
情報が秘匿されていて暴走が一時間前のことと言っても、今現在で残り二時間有る。
日本とて無能ではないから、ハワイ沖での第七艦隊が起こした事故についての情報は掴んでいるはずだし、その事故現場からナニかがマッハ1から2の速度で向かって来ていることだって知って居るはず。
ソレだけの情報と時間が有ってスクランブル発進も出来んならただの無能だろうが。
「そもそもがアメリカとイスラエルがアラスカ条約に違反した軍事用の機体を造り、実験していたのが元凶です。
ソレが暴走したからと言って学生が命懸けでソレを止める理由にはなりません」
一番近くに居る我々が対処すれば良い？
寝惚けるな。

一番近くに居るのは米軍だろうが。
屋外でのＩＳの起動試験の場に他のＩＳが居ない
など有り得んだろう。
そいつらが負けたと言うなら半人前以下の
学生に勝ち目など無い。
しかも何故我々教師ではなく学生限定で当たらねばならんのだ。
第三世代型の専用機が有る？一夏と
オルコットは２対１で山田君に軽く
あしらわれるレベルだぞ？
どうせ第三世代型同士の全力戦闘のデータ
取りか、他国の第三世代型を潰し合わせたい
などと考えた連中が居るんだろうがな。
『しかしコレはＩＳ委員会の決定だぞ！』
見え透いた嘘をつくなよ。
「ＩＳ委員会がアメリカとイスラエルのアラスカ
条約違反を咎めたと言う情報は有りません。
司馬監査員に確認をとりますので今作戦に

対しての採決の流れを教えて貰えますか？」
どーせ正式な採決なんか取ってないんだろ？
あやふやに暈して伝えて、ＩＳ学園にやらせる
と言った内諾を取っただけだろうが。
『・・・ソレが君の意見かね？この緊急
事態を前にしてそんな形式に拘っている場合
ではないっ！そんなこともわからんのか！』
はっ馬脚を表したな。
「私の個人的な意見と言うよりは、常識の
問題でしょうか。
緊急時だからこそ我々は規律を守り、正しく
戦力を運用しなくてはなりません。
そもそも正式な命令系統を通さない命令を
受け付ける訳にはいきませんね。
更にその命令が生徒の命を危険に晒すと
なれば尚更です」
感情的にさせてこちらのミスを煽る

気かもしれんがな。誰が乗るかよ。
ＩＳ学園の戦力を使うためにはＩＳ委員会での
正式な採択が必要。
さらに命令を出す場合はＩＳ委員会から
ＩＳ学園に対してその決議を伝え、ＩＳ学園から
我々に命令が出るんだ。
一人の担当員が緊急時だからと騒いだ程度で
誤魔化せると思うな？
『・・・そうか。後悔するなよ？』
後悔、後悔ねぇ。
「こちらは音声データも映像データも
録っているので、いつでも公開出来ますが？」
どんな歪曲をする気か知らんが・・・
少なくともここに司馬監査員が居る以上、
一方的にやり込められると言うことはない。
中国にしても、司馬監査員を無駄に危険に
晒したアメリカやイスラエルに譲歩を迫れる

だろうし、自分の在学中にＩＳ学園に干渉しようとする無能な担当員の排除は司馬監査員とて望むところのはず。
政治を絡ませればいつでもヤれると思ったら大間違いだぞ。
虎の威を借るようで微妙ではあるが、政治って言うのは基本的にそーゆーモノだからな。割りきらねばならんだろうよ。
『なっ！』
なんだ？私が貴様らの言いなりにならなかっただけでなく、こういった予防線を張ったことがそんなに意外か？
「お話は終わったようですね？では私はコレから司馬監査員と今後についての打ち合わせが有りますので・・・これにて失礼します。山田君後は頼む」
「は、はいっ！」
さて、突っ込まれる前に行くとするか。

『ま、待てっ！』
聞く耳持たん。

全く下らん茶番だ。
どうせアレも誰かの手先なのだろう？
日本の紐付きである理事長や更識がどう動くか
知らんが、私がいつまでも貴様らの思い通りに
動く人形だと思うなよ。

第43話

これは・・・どういうことだ？
「アメリカとイスラエルが共同で軍用兵器として開発していたＩＳが暴走?!」
ハワイ沖で第七艦隊がＩＳの起動試験をする予定だとは知っていたが、まさかここまで堂々と軍用開発をしているとはな。
しかし問題なのはそこではない。日本を始めとした世界各国がＩＳを国防兵器として利用している以上、より高性能な機体を造ろうとするのは有る意味で当たり前。
問題はわざわざそれを我々に明かしてきたことだ。
別に軍用開発した等と馬鹿正直に言う必要が無いだろう？『暴走したからリミッターが外れていて出力は競技用の枠を越えている』

とでも言えば良い話ではないか。
わざわざアメリカとイスラエルがアラスカ条約に違反したと、ＩＳ委員会の下部組織で有る我々に伝える必要が有るのか？
もしかしたらこの担当員が知っているだけで、他の委員会の人間は知らないと言うパターンじゃないだろうな？
ＩＳ委員会の担当員とアメリカとイスラエルからの要請が有る以上、普通はＩＳ委員会も承認していると考えるのが妥当だが・・・
どうにも信用出来ん。
このまま我々が要請に従った場合、条約違反を黙認したと言う形で共犯にしようとしている？
・・・司馬監査員か他のＩＳ委員会のメンバーに報告すべきだな。
現地の織斑先生は、正式な命令系統からの命令ではないと言うことで援助要請を拒否したらしいが・・・これではな。

「このスペックは不味いですよ！すぐにでも
対応しないと大変なことになります！
織斑先生は何故援助要請を断ったの?!」
いやいや、むしろ勝手に承諾していたら問題だったから。
確かに非常事態の際の指揮権は織斑先生に
あるが、その非常事態を判断するのは
妻と私であって織斑先生ではない。
更にＩＳ学園がその戦力を使えるのは自衛のためだけ。
一度でも日本の為に動いたら他の国の
国防にも動かなければならなくなる。
暴走？それを主張してるのはアメリカと担当員だけだろう？
そもそも暴走と言うなら一直線に日本に
来ると言うのがおかしい。
いきなり進路を変更して南に行ったり、
北に行ったりするものだろうが。
速度だって、限界速度を出したり急に
減速したりするものだろう？

それが何故ここまで明確に進路と時間の
予測が出来ている？
何故ここまで予測が出来ていながら、
在日米軍が動かない？
更に要請内容が異常だ。
本来我々に援助を要請するなら、その内容は
『こちらで処理するから関わるな』と言う
モノか『在日米軍が処理に失敗したときの
為に、日本の自衛隊と共にスクランブル発進
の準備をしてくれ』と言うものでなければ
おかしいだろう。
なのに存在自体が国際条約違反であり、
更に暴走した自国の最新兵器の処理を
国連所属の組織にさせるだと？
有り得んだろう。
フランスとドイツは無くなったが・・・
最低でもイギリス・中国・日本が直接関わる

上に更識を加えたらロシアも絡むんだぞ？
世界に対してどれだけ恥を晒し、借りを作ることになると思っている？
いや、単純な貸し借りだけではないな。
死傷者や建物の損壊が有れば補填が必要になるだろうし、世界の警察を自称するアメリカが自分が国際条約違反をしたと大声で吹聴してまわることになるんだぞ？
・・・いや、狙いはソレか？
女権団体には『織斑一夏とソレに懸想する女の裏切り者を消せる』と囁き、男の権力者たちには『ＩＳの危険性を証明する機会』とでも言えばいい。
更にＩＳ関係者には『リミッター無しの軍用ＩＳと第三世代型の実戦データが取れる』とでも囁くか？
その結果、我々が勝っても負けても

ＩＳが危険なモノだとして規制に動けるよな。
コチラに死傷者が出れば尚良し。
危険なＩＳのコアを減らせるし、ＩＳ学園の
戦力も減らせるな。
そうすれば今回のコレはただの暴走ではなくなるが・・・
しかしそれでもアメリカと言う国家の
威信に傷が付くぞ？
それともアメリカ国内の女権団体はソコまで
しなければならないほどヤバイのか？
あ、いや違うな。無論それもあるだろうが
一番は軍事産業だ。
そもそも連中が調子に乗るのはＩＳの存在
が有るから。そのＩＳが制御不能の危険物だと
して女権団体の勢いを落としつつ、抑止力
として他の軍事兵器への出資を考えている
としたらどうだ？
有り得なくはないな。ＩＳがどんなに強力な

兵器でも所詮は世界に５００も無いのだ。
造ろうと思えばいくらでも造れる戦車や
戦闘機、空母やイージス艦に比べたら
どれだけ小さな市場かは誰でもわかること。
だからこそアメリカだけではなく、様々な国が国家の産業保全や男性の軍人・技術者たちの為にＩＳからの脱却を求めている。
しかしながら、現状ＩＳと軍事産業が上手くいっているのは冬林技研を有する中国のみ。
それに追随したい国は多い。
つまり、アメリカやイスラエルは、多少国としての威信を落としてでもＩＳの評判を落とすことを優先した可能性があるな。
ふむ。軍事産業関係者が幅を利かせる欧米社会では
十分に有り得る話だ。
ＩＳが普及しはじめて１０年・・・我慢の限界なのかもしれんな。
そう考えれば『軍事用に開発した機体が学生が操る競技用の機体に負ける』というのは中々の醜聞だが……倒すのもＩＳでは効果が薄い。
向こうには他にもなにかしらの狙いはあるだろう。

アメリカだけでなくイスラエルの事情も考えるべきか？
そもそも広域殲滅型のＩＳを必要としているのは
アメリカよりイスラエルだろうからな。
そう考えれば、イスラエルは実戦データを得るため。アメリカは国内にＩＳ以外の兵器の必要性を訴えるためと考えれば自然ではある。
普通なら最新技術を導入した兵器の共同開発
などあり得んが、国内のユダヤ人にも配慮した
結果だろう。
そうなれば担当員が喚くのもわかる。
ユダヤ系か宗教系か、買収されたか・・・
どちらにせよ我々には得がない。
最悪は勝手に戦力を動かしたとしてＩＳの
運用数と運用方法に制限が掛かるだろう。
そうなれば先程の担当員殿は責任を取って
辞任するだろうが仲間内では
『良くやった！』と称賛され、それなりの
立場を得るだろうな。

・・・舐めやがって。
日本の技術者が造ったモノを日本が独占することを許さず、更に日本の税金でコアを量産させ、その知識を学ぶ学園まで作らせておきながらこれかよ。
「十蔵さん！早く織斑先生に迎撃の指示を出さなきゃ間に合わなくなりますよ」
うるせぇよ。もう少し現実を見ろ小娘が。
「間に合わないと言いますが、今の段階で現地を自衛するには十分な戦力があります。ＩＳ委員会からの正式な決議が有るまでは警戒と防衛は指示しますが、迎撃の許可は出せませんよ」
何をするにもまずは【勝手な戦力の運用】という口実を潰す必要が有る。
織斑千冬の言うように正式な手順を踏んでからの行動が求められているのだ。
「そんな、日本を見捨てると?!」

阿呆が。お前は対外的にロシアの国家代表で、
その専用機はロシアのモノだろうが。
何故率先して日本を守らねばならないのだ？
と言われたらどうする気だ。
「そもそも我々が動かなければ日本を
見捨てることになると言う論法がおかしい
のですよ。本来は在日米軍と自衛隊が当たる
べき事柄でしょう？
こちらに責任を押し付けられましてもねぇ」
それくらい気付けよ。
専用機の弊害だろうが、コイツらは自分達を
特別扱いしすぎだ。
こんな奴等に囲まれていたら織斑一夏とて
英雄症候群を発症するだろうさ。
・・・元々の資質もあるだろうがな。
「あ、いや、だけど自衛隊は第二世代型が主流だし・・・」
だからなんだ？

「第三世代型をもつ一年生よりはマシですよ」
個の強さも有るだろうが、戦場に必要なのは数と連携だ。
特に連携に関してはかなりの慣熟訓練が
必要になる。
弱いもの虐めをして調子に乗っていた
多少器用なだけのフランスのガキがやって
いたようなのは連携とは言わんのだ。
それなら代表候補生が何人居ても1対1が
4回いや、篠ノ乃箒が第四世代型を手に
入れたようだから5回か。
まぁ第四世代型と言っても使い手が未熟
なために、現状では第二世代型を使う
シャルロット・デュノアと互角程度で、
事故の確率を考えれば篠ノ之箒は使えない
とのことだったな。
技術的なことは良くわからんが、戦力の運用
を考えるなら篠ノ之箒は無しだろう。

ただでさえ貴重な第四世代型を事故で失うわけには行かんし、篠ノ之束との繋がりが明確になった以上はアレは自身が貴重品なのだからな。
今は織斑一夏に執着しているから問題ないが、今後を考えれば日本の所属にするべきだろう。
あまり日本を優遇しているように見せるのは不味いが、今回は問題なかろう。
元々日本人だし、代表候補生の座をチラつかせれば二つ返事で承諾するだろうしな。
整備担当は倉持なんだろうが・・・未だに織斑一夏の白式すら理解出来てない連中に第四世代型を扱えるのか？
いっそ冬林技研に回した方が成果を挙げそうでは有るんだがな。
しかしアレだな。世代による出力の違いは

知らんが、第二世代型で第四世代型と戦える
デュノアが優秀なのか、第四世代型を使い
第二世代型に圧勝出来ない篠ノ之箒が未熟
なのか・・・これもぉわかんねぇな。
いや、この場合は素人を国家代表候補生
レベルと戦えるようにする技術が凄いと
言うことなんだろうか？
「いや、だけど篠ノ之箒さんには第四世代型
があるみたいだし・・・あ、本人が未熟
過ぎて使いこなせないか。
ソレに慣熟訓練もしてないから足手まとい
にしかならない？」
やはりＩＳの操縦者としては第四世代型が気になるか。
「そうですね。スペック上ならともかく、
実戦となれば彼女は戦力として信用する
訳にはいきません」
素人・最新装備・訓練不足・初陣と言った。

事故が起こる条件のほぼ全てを満たしてるからな。
あぁ、更に女の嫉妬や確執も有るか？
・・・後ろから撃たれて終わりだな。
「なら私が行きますよ！現地に向かう時間もあるし、私ならこの銀の福音とも戦えます！」
戦えるとか戦えないじゃねーよ。
在日米軍と自衛隊が先に動くのがルールだって話をしてるんだよ。
しかしこいつ、妙に焦れ込んでるようだが
『更識として日本の為に戦わねばならん』
とか考えているのか？
ん？いや、そうか。
「現地に居る妹さんなら問題有りませんよ」
この焦りは向こうに更識簪が居るからか。
「な、何でそんなことが断言出来るんですか?!今頃簪ちゃんは恐怖で震えてるかもしれないんですよ！」

図星か。しかも我欲を隠そうともしないとか。
これが暗部の暗部として恐れられた更識の
当代楯無だとはな。
・・・サラシキハモウダメダナ
いやほんと。先代を呼びつけたいところ
だが先代は日本政府にしか従わんと
明言してるしなぁ。
「え?今、何か言いました?」
口に出ていたか?いかんいかん。こんなのでも
現在ＩＳ学園が動かせる中では最高戦力なんだ。
下手に機嫌を損ねられても困る。
「いや、何も。まぁわかりやすく言うなら
現地には司馬監査員がいますからね。
ある意味世界で一番安全な場所なんですよ」
幼少の頃から織斑千冬と戦えたと言う鬼才
だぞ?当代楯無など比較にならん強さが
あるだろうし、その気になれば李家の教頭が

動くのだろう?
素手でＩＳを破壊した化物が織斑千冬の師を
はじめとした冬林技研の精鋭を率いるのだぞ?
そうなれば銀の福音だろうが何だろうが終わりだ。
現在司馬監査員は避難行動を取っていない。
つまり緊急事態だと思っていないということだろう。
ならばそのそばに居るのが一番安全だ。
織斑千冬はソレを理解したからこそ危険を
犯してまで迎撃すると言う選択肢を捨てた。
担任教師として、また学年主任として自らの
責任で守るべきモノを守ると決めたのだろう。
それで正解だ。世界一だからと言って世界を
守る必要などないのだからな。
「た、確かにそうかもしれませんけど!
だけど、もしかしたらその司馬さんを守る
ための捨て石にされるかもしれないじゃ
ないですか?!」

最悪はそうなるだろうが・・・まさかコイツ、知らんのか？
更識には『李家に関わるな』という遺訓が
あるから調べてない？
それともコイツの妹に対する執着を知る
連中が情報を隠している？
……どちらにせよ情報を扱う人間としては
失格だな。
ここはさっさと現実を教えて頭を冷やした
方が良さそうだ。
「最後の最後ではそうなる可能性も
ありますが、基本的にはありえませんよ」
「そんな確証はどこにもっ！」
あ～やかましい。
真実を知って黙るがいいさ。
「なんと言っても妹さんは李家の教頭の正式な
第一側室ですからね。
正妻が司馬監査員ですので、李家にしたら

妹さんこそ李家の正妻と言っても良い存在。
故に彼女も立派に保護対象なんですよ」
その辺の文化は日本人の大名とかと大して
変わらんから理解しやすいだろう?
更識にしてみたら雲上人に娘を嫁がせる
ことが出来たんだ。
先代辺りは喜んで祝杯を挙げただろうよ。
「へ?か、簪ちゃんが、そ、側室!?誰の?
李家の!?どういうこと?私聞いてない!」
どうした?笑えよ楯無?(愉悦)
しかし、やはり知らされていなかったか。
まぁソッチの都合は知らん。
更識家とこの件ついて連絡を取り合っていれば、
コイツはこれ以上口を出すことはないだろう。
その間にコチラはコチラで動くとしよう。

カクカクシカジカコクレンニムートンイトウ

「と、まぁこんな感じでしてね。なんやかんや
で正式な迎撃命令が出るでしょう。
まぁ最初の罠を切り抜けたのは上出来ですよ」
「なるほど・・・」
あの担当員は、はじめから辞職まで織り込んで
私を動かそうとしていたのか。
更に女権団体と軍事産業。ＩＳ関係者と
イスラエルにとって必要なデータ取り。
一手に様々な事情が絡み合っているのだな。
「更に日本政府は篠ノ之箒が篠ノ之束から
第四世代型を受領したことを知りました
からね。他所に目を付けられる前に実績を

挙げさせて、代表候補生として囲う可能性も有るでしょう」

確かに。楯無が知れば日本政府に報告が行くだろうし政府も報告を受けたら動くだろう。

「それは確かに有りそうです」

さらに現在アイツは無所属だからな。

日本政府にしてみたら、ＩＳコアに限りはあっても国家代表候補生の数に限りなど無い。

称号を与えるだけで第四世代型を入手出来るなら、即座にやるだろう。

今回の件に出動すれば、それを実戦経験の実績として周囲を納得させることも出来るだろうし。

他の候補生が騒いでも無意味。実戦経験の有無と言うのはそれだけの説得力がある。

箒とて取り合えず肩書きだけでもオルコットやデュノアと肩を並べる事が出来るからな。

断るようなことはしないだろう。
もしや束の狙いはソレも有るのか?
代表候補生となればその身分は日本政府に
保証されるし、専用機を持っていても特に
文句を言われるような問題でもない。
箒の未熟さを知るＩＳ学園の生徒にしたら
面白くは無いだろうが、束がそんなものを
気にするとは思えんし・・・箒も気にする
ような性格はしてないな。
負け犬の遠吠えだとか、僻みとしか受け取らんだろうよ。
そんなのが一夏に執着って言うのがなぁ～
「取り合えず、先の理由からＩＳ委員会は貴女に
迎撃の命令を出すためにごり押しをしてくる
と言うことは理解出来たでしょう?」
うむ。やはり司馬監査員に報告と相談にきて正解だった。
政治と言うモノに対する理解が深いし、
情報も豊富。

さらにその使い方と教え方が非常に上手い。
何せ私にすら政治を理解させるのだからな。
「そうですね。特に実績とデータと言う意味であれば反対するような国は有りません」
イギリスなんてその最たるモノだろう。
もしもオルコットが出て成果を納めればソレでよし。堕ちても悲劇のヒロインとして問題児を片付ける事ができる。
国どころか、オルコットも自分の立場を向上させるための実績になるからな。
デュノアは自分自身の身を立てるために実績が欲しいだろうし、箒に関しては一夏の目の前で活躍出来るチャンスとしか思わんだろう。
その上で中国。というか冬林技研は？
「我々は取り合えず待機ですね。
別に手柄など要りませんし、何より未熟者と

同じ戦場に配備されたら銀の福音と一緒に
未熟者を撃ち殺してしまいそうですから」
そうなるよなぁ。唯一の救いは凰が向こうに
居ることだが・・・
「凰鈴音はよろしいのですか?その未熟者と
組ませる可能性も有りますが?」
いや、運用する側としてはブレがなくて
汎用性の高い強者と言うのは得難いモノ
だし、一夏の胃を守るためには是非とも
このまま協力させて欲しいのだが。
「彼女は冬林技研の所属である以前に
中国の国家代表候補生ですからね。
ＩＳ委員会における正式な決議の上での
出動ならば是非もないでしょう」
なるほど。たとえ中国が反対してもＩＳ委員会
において正式な決議が出たら、そうなるか。
「さて、私から貴女に渡せる情報は今の

ところはこの程度です。
そちらから何も質問がなければ、これから来るであろう迎撃命令に備えて準備と段取りを組んでおいたほうが良いでしょうね」
準備と段取りか。まずは最初にすべきは一夏達に開示する情報の選別だな。
「私は職務上、貴女方ＩＳ学園が専用機持ちの生徒たちをどう使うか監査させてもらいます。ですが、あくまで監査。
無駄に犠牲を出すような運用方法でなければコチラから意見を言うことは有りません」
「・・・了解です」
それは【無駄】でなければ犠牲も許容するということか・・いや、命令を出すのはＩＳ委員会で現場で指揮を取るのがＩＳ学園の教員である私だ。
責任は命令を出す側に有るのだから、今の段階で司馬監査員になにかを求めるのは違

うよな。
それに、いざと言うときは司馬監査員たちを頼れると考えれば、悪い話ではない。
しかし、それはあくまで我々にとって悪くないというだけで、アメリカやイスラエルにとっては違う。
「……我々が敗れた場合アメリカは銀の福音をどうするつもりなのでしょう？」
在日米軍が動いている気配がないんだよな。
ここで我々が抜かれたら、日本の国土に被害が出る。
アメリカが開発した兵器が他国に被害を出したら大問題どころの話ではない。
故に我々以外にも何かしらの予防線を張ってあるはずだ。それが何かが気になるところだが。
「燃料切れか自爆でしょうね」
なるほど。燃料切れはありえる。
そもそもＩＳの欠点はその燃費の悪さにある。
三時間以上高速機動をした後で戦闘などしたらエネルギーが不足するのは明白。
残量を計算すればどれくらいで機能を停止するかはわかるからな。

我々が削った後は、自衛隊と在日米軍のＩＳ部隊で遅滞戦を行えば勝てる、か。
それでも負けそうなら自爆させる？
いやはや束以外でも自爆するんだな。
「おや？何か驚くことが有りますか？
どんな兵器とて、事故が有ったときの保険や相手への情報を渡さない為と言う名目で重要な部分には自爆機構を組み込むのが当たり前でしょうに」
「た、確かにそうですね」
うむ、言われてみればそうだ。自爆は束の専売特許ではない。軍事的な常識だ。
むしろソッチが元ネタなんだよな。
そうなると、前回の乱入事件には束が関わってない可能性もある、のか？
うーむ。最初から束の仕業と決めつけてしまっていたが、悪いことをしてしまったな。

「そういうことですので日本の為!とか
罪無き人たちを守るため!と言ったお題目
を生徒に押し付ける必要は有りません。
一度迎撃に出てから軽く当たって撤退する
くらいで丁度良いと思いますね」
なるほどなるほど。司馬監査員が出るとか
出ない以前の問題なのか。
政治を考えるなら、ここまで見越してから
動かねば足を掬われることになる、というわけだ。
そんな政治の世界で化物と呼ばれる理事長で
すら化物と呼ぶのが司馬監査員だからな。
味方とは言えんかもしれんが、近くに居る
だけでコレほど安心出来るヒトは中々居ない。
むぅ。一夏を受け入れてもらうためには
どうしたら良いのやら・・・
やはり凰とくっつけるしかないか?
だがそんな扱いだと凰も面白くはない

だろうし、一夏も肩身が狭いよなぁ。
「用が済んだのなら行きなさい。監査員と監査対象が仲良く話をしているようではお互いに不正を疑われてしまいます」
おっと、今は緊急事態（仮）だった。
あまり余裕が有っても怪しまれるだろうし、まずはコチラに集中しようか。
「確かにそうですね。それではこの辺でシツレイします。情報の提供ありがとうございました」
司馬監査員は年下で学生だが、大学を卒業してて冬林技研のお偉いさんでもある。
更に監査員なんだから、こっちが頭を下げないと駄目なんだよな。
まぁこの人に頭を下げることには何の抵抗も無いから良いのだが。
「えぇ。教師として、生徒の為に最大限有効に活用してください」

「はい！ではシツレイします！」

あ～緊張した。やはり私みたいな一般人が
あんな立場のヒトと直接話すとか無理なんだよ。
凰を通じて連絡を取ってる方が楽で良い。
今までも直接の接触は控えていたが、今後は
出来る限り接触を押さえるようにしよう。
ナニかシツレイな事をして一夏の受け入れに
反対されても困るしな！

・・・さてそれでは別室で待機している

一夏たちを呼び出すか。取り合えず
伝えるべき情報は、銀の福音のスペックと
予想進路・接触予想地点と時間で良いな。
でもって作戦区域に展開させるのは・・・
その際の戦法は・・・・・・

「ハイハイ。そろそろ千冬さんが来るだろう
から、醜いガキの喧嘩はその辺にしときな
さいよー」
「「・・・あぁ!?」」
リン、済まない。俺のために憎まれ役を
買ってくれて本当に済まないっ！

第44話

アメリカとイスラエルが共同で開発してた機体が暴走した？
「なんだと?!」
「なんですって?!」
「一大事じゃないですかっ?!」
なるほどなー。確かにコレは茶番だわ。
「な、なぁリン。コレってヤバいんじゃないのか？」
ん～別にヤバくはないけど・・・千冬さん
は神妙な顔してるわね？
けど焦ってはいないから、ちゃんと必要な
ことはわかってるって感じかな？
司馬様たちはコレを知ってたのよね？
私に情報を与えなかったのは、私の対応力
とか判断力のテストか。
うん。相変わらず優しいけど甘くはないわね。

「一夏、ヤバいどころじゃないよ！」
「そうですわ一夏さん！まさしく非常事態です！」
いや、あんたらに聞いてないし。
「ほっといても良いわね。むしろ何で千冬さんが私たちを集めたのかが不思議なくらいよ」
花火見学かしら？
「「はぁ?!」」
息ぴったりね？普段からそうなら一夏も胃を痛めなくて済むのにねぇ。
「貴様！日本がどうなっても良いとでも言うつもりか?!」
いや、いつからアンタが日本の国防を語る身分になったのよ。
「コレは他人事では有りませんわ！」
いやいや、他人事でしょ（Φ ω Φ）
「そうだね。君は民間人を守ろうとか無関係な人を助けようとか思わないのかい？」
いやいやいや、少なくとも私は無関係だから
助けて欲しいかな～。
ていうかさ、チラチラ一夏を見ながら言われてもねぇ。もう少し心を込めたら？

「リンがほっといても良いって言うなら
そうなんだろうけど、それなら俺たちは
何のために集められたんだ？」
「「一夏（さん）!?」」
うんうん。馬鹿の感情論に引っ張られない
のは良いことね（？▽？）。
説明は千冬さんに任せても良いのかしら？
「結論から言えば、今回の件は凰のいう通りだ。本来なら放置で構わん。更に言えばお
前達に告知する必要もない案件だ」
ですよねー。
「「えぇ!?」」
ねぇ、今どんな気持ち？調子に乗って一夏の
前で意気込んだ結果、阿呆面を晒すことに
なった今の気持ちはどんな気持ち？
「そ、そうなのか？だけど本来なら必要ない
ことをわざわざ告知してきた理由ってのは？」
お、そこはちゃんと自分で気付いたわね。

まぁ普通は気付くんだけど、周りがコイツら
だからねぇ？
勢いで流されて「俺がやる！」とか言わなくて
良かった良かった。
「諸事情によりＩＳ委員会がお前達に迎撃を
指示する可能性が極めて高くてな。
基本的な情報と計画の打ち合わせが必要
と判断した」
あぁ、諸事情ね。政治とか政治とか政治よね。
それじゃあシカタナイわ。
「迎撃ですか！腕がなります！」
いや、アンタにはなる腕がないでしょ？
「なるほど、それならば何より大事なのは
情報ですわ。相手の基本的なスペックの
確認が必要になりますわね」
いやいや、なんで真っ正面から戦う気なの？
「う～ん。僕は一夏のサポートに回る感じになるのかな？」

いやいやいや、何で一夏限定なの？
ていうか、アンタはサポートすら出来ないんじゃない？
「いや、諸事情って・・・どんな事情が有れば
競技用に開発された機体を使う俺たち学生に、
軍用開発された兵器と戦わせるなんてことに
なるんだよ！そこに疑問を抱かないのか?!」
一夏が言ってることが正しいのよねぇ。
「日本の危機だぞ！臆したか一夏?!」
いや、臆すとか臆さないじゃなくてさ。
無駄な戦いをしないのは当然のことでしょ？
「一夏さん。私たち専用機持ちは有事の際
には兵士としてその力を使わなければなら
ないのです！」
いやいや、国家代表や国から専用機を預け
られた国家代表候補生は【所属する国】の
為に兵士として動くことは有るだろうけど、
一夏は国に所属してないから。

あと私たちが動くにはＩＳ委員会の正式な決定が必要なんだけど。
有事かどうかを判断する権限はないのよ？
「一夏、一夏が戦いたくないっていうなら無理強いはしないよ？僕が一夏の分まで戦うから！」
いやいやいや、私良いこと言った！みたいなキメ顔されてもねぇ。質問に答えてないし。
「なっ?!」
コイツらは良い所を取られた！って顔してるし。話になんないわね。
今回は私たちにとっては無駄だけど、上の連中にしてみたらそうじゃないってだけの話でしょ？
「コイツらの妄言はともかく・・・一夏、それが政治と言うものよ。
常識的に考えたら無駄でありえないこと

でも、それをすることで得をする人間が
上に居るからこうなるの」
「「はぁ?!」」
上の連中に使われるのが嫌なら政治を覆せるくらいの強さが必要よ。
具体的には司馬様や副所長さんみたいな突き抜けた強さが必要になるわ。
「政治・・・か。正直ただの学生には荷が
重いけど、アメリカとイスラエルが絡む
時点で厄介事だもんなぁ。それなら尚更
下手には動けないんじゃないのか?」
うんうん。受験勉強してたんなら流石に
パレスチナ問題くらいは知ってるわよね。
後はユダヤ人とアメリカの軍事産業と
女権団体かな?
場合によっては【暴走したＩＳによる事故】で
私たちを殺してコアを破壊させるか回収する
とか?軍事バランスを崩すってのも有るかも?
「一夏っ!ソイツの言うことに納得して

どうするっ！今は政治だの何だのと気にしている場合ではないだろう！」
ソレを気にしないからアンタは阿呆なのよ。
「私は政治を気にしなくても良いなどとは言いませんが、確かに今はそのような事を気にしている場合ではありませんわよ？」
アンタにしてみたら漸く訪れた名誉挽回の機会だもんねぇ。
さらにパレスチナ問題はイギリスの三枚舌外交が原因だし。
変な入れ知恵すんなってことかしら？
「そうだね。そう言うのは偉い人に考えて貰えば良いんだよ。
僕たちは僕たちに出来ることを精一杯やるべきだと思う！」
シャルロット・デュノアはキメ顔でそう言った。って感じかしら？

偉い人に考えてもらった結果が男装して
ＩＳ学園への潜入だったけど、忘れたの？
そもそも最初から千冬さんが乗り気じゃない
ことに気付かないのかしら？
「・・・リン？」
あぁ、一夏には情報が足りないもんね。
勢いで動かないで考えろって言ったのも
覚えてるみたいだから、まずは判断材料
が欲しいのかもしれないわ。
「とりあえず今の状況を簡単に言うなら、
さっき一夏が言ったように学生が出張る
ような案件じゃないわ。
在日米軍と自衛隊でなんとかするべき案件ね」
本来日本の国防を担うのはコイツらだし。
「だよなぁ。普通ならそうだよな？」
当たり前のことじゃない。在日米軍への
思いやり予算はこう言うときのために

支払ってたんでしょ？
さらに元凶がアメリカとイスラエルの
開発してたＩＳなんだからさ。
「そいつらが率先して動いてない時点で、
この銀の福音は脅威足り得ないってこと」
在日米軍はともかく、自衛隊が動かない
で私たちにやらせようって言うなら
そう言うことよね。
まさか日本政府が『ＩＳ学園の学生を信じて
ました。まさか負けるとは思わず何の対処
もしていませんでした』なんて言えるわけないし。
「な、なるほど」
「それに考えてもみなさい、ハワイ沖から
平均時速２０００キロでコッチに向かって
飛んで来てるのよ？暴走してるんだから
当然休憩も補給もしてない」
スペック上の最高速度は時速２４５０キロ

なのに、それに近い巡航速度で長時間の機動なんかしたら・・・ねぇ?
「あっ!燃料が持たないし、各駆動部の部品も持たないのか!?」
「うん正解。良くできました（Φ ωΦ）ノ」
言いつけ通り瞬間加速や最高速度での機動で鍛練してたみたいね。
「だから在日米軍も自衛隊も焦ってない。つまり今の状況は、黙ってれば自壊する敵にわざわざ私たちをぶつけようとしている連中が居るってことなの」
例えばアメリカとイスラエル。自壊する前にデータは取りたいわよね?
「なるほど・・・」
「騙されるな一夏!全てソイツの憶測ではないか!」
いや、予測と言って欲しいわね。
「そうですわ!不確かな情報をもとに

相手を過小評価してはいけません！」
いやいや、言ってることはその通りだけど
スペックデータを参考に何かをしようと
してたアンタが言うの？
「そうだね。希望的観測を頼りに動くのは危険だよ！」
いやいやいや、男装がバレてないという
希望的観測にすがって動いていた人間が
言うと説得力が・・・有るのか無いのか
良くわからないわね。
「事実に基づいた予測を否定されてもねぇ。
そもそもアンタらは手柄になる強敵
が欲しいだけでしょ？」
雑魚じゃ手柄にならないもんね？
わかりやすすぎ。
「あぁ、そういうことか・・・」
そうそう、コイツらを良く見なさい一夏。
焦りは目を曇らせるのよ。

「ち、違うぞ一夏！」
「そ、そうですわ！」
「そ、そうだよ！手柄なんかのために・・・」
焦れば焦るほど内面が透けて見えるわよ？
「手柄云々はともかくとして、私も凰と同じように考えている。今回の件には政治が絡んでいて、主な目的は機体か自壊する前にできるたけデータを取ることなのだろう。他にも幾つかあるが、それは現場には関係がないからな。政治に関しては司馬監査員に任せることになっているから安心しろ」
ん？あぁ司馬様に接触済みだったのね。
それなら千冬さんが余裕なのも納得だわ。
司馬様が味方についたなら、ＩＳ委員会が何をしようとも政治的に後手に回ることはないだろうし。
「そ、そうか。司馬さんが後ろに居るなら安心だな！」

そうよー。これ以上ないくらい安心よー。
司馬様でもどうしようもないような事態なら
もぉ諦めるしかないわよー（Φ ωΦ）
「一夏っ!そんな後ろの安全なところで
高みの見物をするようなヤツを信用するな!」
「・・・」
いや、作戦指揮官ってそう言うモンでしょ?
あとソレ、千冬さんにも刺さってるって理解してる?
「そうですわ!未だに私たちにアイサツに来ない無礼者ですわよ!」
いやいや、何でアンタらにアイサツしなきゃ
いけないの?
社会的に見たら司馬様の方がアンタより
数段偉いから。普通にアンタのところの
女王陛下がアイサツに来るくらい偉いから。
「一夏!アイツらを信用しちゃ駄目だよ!」
いやいやいや、アンタ何言ってるの?
頭は大丈夫?司馬様と副所長さんが

居なかったらアンタは今でもフランス
とＩＳ学園とデュノア社に操られてるからね？
・・・そもそもアンタがいなければ私も
新血愁・心霊台なんか受けなかった
のよね（＃　。Д。）
いや、まぁアレは私の自業自得だし、
アレのお陰で殻を破ったってのも
有るけどさ。
大元は女の癖に男装して一夏に近付いた
コイツだってのは間違ってないわよね？
・・・それはともかくとして。
一夏も千冬さんも過去に冬林技研にお世話に
なってるし、今回は千冬さんが司馬様を信用
して後ろを任せるって判断したのよ？
それに対する反対は、姉魂の一夏には逆効果
にしかならないってことに何で気付かないの？
更に言えばもし司馬様が本気で敵対行動を

取ったらアンタら纏めて死んでるけど?

「いやはや。何度スペックを見てもコンセプトがわからない機体だよね～」
アメリカもイスラエルも、何考えてこんなの造ろうと思ったんだか。
「ん?広域殲滅型と銘打っているようだが、簪特尉から見たら違うと?」
いや、コレのどこが広域で殲滅になるのかがさっぱりわからないよ。
「あのねラウラさん。確かにこの機体は第三世代型としては速いよ?だけど、現在の戦闘機の最高速度はマッハ2．8。およそ時速３０００キロだよ?
大陸弾道ミサイルなんかマッハ3～10

なんだし、普通に追い付けないじゃん」
迎撃に出ても振りきられるし、そこから
国土にミサイル爆撃されたらどーすんの？
拠点防衛って言っても、ＩＳと違って戦闘機は
何機でも造れるんだよ？
高機動兵器と数を使った声東撃西なんか
当たり前にやるし。
それに、今の戦争は東の声を無視したら、
そのまま東が爆撃されることになるんだよ？
「あぁ。単純に速さが足りんのか」
「その通り。白騎士事件でアレがミサイルを
迎撃出来たのは全部白騎士に向かって
飛んできてたから。
バッティングセンターじゃないんだから、
実際のミサイル砲撃の着弾点はバラける
のが普通でしょ？」
この機体を防衛に使うなら、たとえばハワイ

周辺を守るだけでも最低で東西南北中央用の五機が必要になるし、戦闘機や対空兵器との連携訓練もしなきゃ防衛なんて不可能。
考えなしの弾幕はフレンドリーファイヤを引き起こして味方や守るべき土地を破壊することになるからね。
かと言って味方に配慮した弾幕は弾幕じゃない。
固定砲台として使うならマッハ2の速度は要らないし、現地までの展開スピード云々言うなら専用の輸送機を開発すれば無駄なエネルギーを喰わない分稼働時間が延ばせる。
そもそも無人機って訳じゃ無いんだから、ソコソコ速い輸送機で操縦者を運べばそれで十分でしょ？
あとは操縦者を空中投棄して、空中でＩＳを展開すれば良いだけなんだから。
それならロマンも認めたのにさ。

「ふむ・・・それに自分が攻撃する分には良いかもしれんが、防衛の場合は肝心の戦域で自分を無視されたら後方の拠点が落とされる。迎撃もできんし防衛も出来ん。攻撃用にしても汎用性が低すぎるし必要性が無い。確かに軍用としての存在意義はないな」

そう言うこと。

「戦闘機の方は別に対ＩＳ戦闘なんかする必要はないからね。軍事目的って言うけど、なんの為に使うのかって目的がわからないんだよ」

軍事にも色々あるでしょ？国土防衛とか、拠点攻撃とか、情報戦特化とか、戦力撃破とか、ミサイル迎撃とか、その他色々。

まず速さが足りないから国土防衛には使えない。固定砲台として考えても・・・無理だね。

例えば地上近くに高度を落として、上空の航空編隊を落とそうとした場合、相手との

距離が有れば弾幕は弾幕じゃなくなる。
高度を上げた場合は、下に回り込まれたらアウト。
下に向かって砲撃したら、相手を落としても
避けられても守るべき土地を自分で破壊する
ことになる。
つまり防衛兵器としては使えない。
ハイパーセンサーを駆使したミサイル迎撃特化
の固定砲台としてならありかもしれないけど、
これはさっきも考えた通り着弾点がバラけたら
終わり。
今のミサイルは通常弾ですら直撃しなくても
半径十キロに甚大な被害を与えることが
出来る程度の性能が有るからね。
わざわざ打ち落としやすいように時間を
ずらしたりはしない。
同時着弾を狙われたら終わりでしょ?
中途半端な速さの意味がない。

なら拠点攻撃はどうかな？
拠点を攻撃するだけなら航空編隊組んだ方が速いじゃん。そっちの方が数も有るし。
戦闘機の先駆けとして対空砲火を潰すための機体って言うなら解るけど・・・それなら弾幕より、ピンポイントで狙いをつける武装の方が効率が良いよね。
「う～む。確かにそうだな。国土防衛型としても速さが足りんから意味がないし、対ＩＳ用戦力としてはコンセプトがおかしい」
「でしょ？対ＩＳ用にするなら広域殲滅型じゃなくて、狩猟型とでも言うのかな？単体戦特化にするのが正解だよ」
対ＩＳに特化した白式が一番分かりやすい例だよ。
それなのにこれって何なの？
ＩＳ戦に向かず、拠点攻撃に向かず、防衛にも向かないって・・・

対民間人用広域殲滅型じゃないの？
だけどそれならＩＳじゃなくても良い。
ＩＳを使うにしてもエネルギーを使った
弾丸の弾幕は効率が悪い。
ラファールに大量のクラスター爆弾持たせて
狙いをつけて破壊した方が早いよね？
それに、そもそもイスラエルの国防理念は
『殺られる前に殺る』だから、イスラエルの
国防を考えたら機体は電撃戦特化にしないと
おかしいんだよ。
でも攻めるにしては無駄が多すぎて
確実に相手の反撃を生むでしょ？
守るにしてもイスラエルは国土が狭いとは言え、
南北から攻められたらどっちか片方しか対応
出来ない。更に対応しても放置されるし、
量産して砲台化しても戦えば戦うほど国土が
荒れるという欠陥兵器。

アメリカからしたら『殺られる前に殺る』
なんて出来ないし、初期の防衛用として使う
には国土が広すぎてカバー出来ない。
量産しても国土が荒れるのは変わらないし。
攻めにも守りにも使えないってどう考えても
軍事的に無駄だよね?
情報戦特化?ハハッ。スペックを見ろよ。
衛星とのリンクがなきゃ単独行動を取れる
ような機体じゃない。
まぁこの部分に関しては反乱予防の意味もあるんだろうけど。
だけどそもそも軍事目的で開発したんでしょ?
どんな軍事的な目的があるって言うのさ?
もしかしてリミッター解除とスペックの
確認の為の実験機だったりする?
それならイスラエルと共同開発なんかしないよねぇ。
アメリカも紅茶キメちゃった?それとも本気で
世界一のお笑い軍隊を造る気になったのかな?

「単体戦にも向かんな。う～む。
やはり無駄にしか見えん。
簪特尉が首を捻るのもよくわかる」
完全に無駄無駄無駄だよね。
「考えられる可能性としてはやっぱり
『いくら頑張ってもＩＳだけでは国土防衛は
出来ない』って言うことを証明するための
機体なんじゃないかな？」
『考えうる限り頑張って開発したけど
ダメでした』って結果があれば、国内の
軍事産業に税金を投入する理由にもなるし。
アメリカ単体じゃなくて共同開発をしていた
イスラエルもそれを認めたら、尚更国内世論
を説得しやすくなる。
「なるほど。そうしてＩＳ絶対主義者を確かな
結果で黙らせて、少しずつＩＳからの脱却を
目指すのか」

こう言うのは一気に出来ないからねぇ。
「たぶんね。まずはＩＳを基軸にした混成防衛部隊の設立の為に、航空戦力と歩調を合わせることが出来る機体を開発していたというなら・・・」
「うむ。それなら銀の福音の開発は税金の無駄遣いにもならんから、世論も認める事が出来るだろうな」
さらに国内産業の活性化にも繋がるから、反対するのは女権団体だけ。
「更にこの暴走によって女権団体の発言力を削ぐことができるかな？」
「ん？あぁ。そうだな。暴走事故もそうだが、軍用開発された機体が学生が使う競技用の機体に負けたなんてことになれば、ＩＳの軍事利用を促進しているであろう連中の意見に根拠がなくなるな」
そーゆーこと。

そうなれば政府は大手を振って国内産業に
税金を投入できるようになる。
「つまりこの機体は『ＩＳ単独では国防が出来ない
ことを証明するため』の機体、かな」
その結果国内産業が活気付いて、国内の軍人や
研究者に就職先が出来たら選挙でも圧勝出来るよね。
「部品を生産する工場も働き手が必要になる
から、失業率の低下に歯止めもかかるぞ」
「それもあるね」
なんと言うか、ＩＳが産み出した澱みを
取っ払うための機体と言えば良いのかな？
最終的に国内の軍事産業が復活するから
軍事利用と言えなくもないけど・・・
回りくどい言い回しだねぇ（；・ω・）
ただ、この理屈なら世界各国を納得させられる。
流石に表立っては言わないだろうけど、
密室会議なら十分だよね。

「更に言えば今回の【暴走】で各国の最新鋭機との戦闘データも取れるし、ＩＳ学園の戦力の撃墜も出来れば最高・・・ということだろうな」

狙いすぎな気もするけど、まぁそんなところかな？

後はどこまで根回しが終わってるか。

ソレによってアメリカとイスラエルに対する罰則も変わるだろうね。

普通に考えたらＩＳコアの所持と開発に関して何らかの制限をつけるだろうけど、根回しが終わってるなら暴走したコアの凍結って感じに収まりそう。

冬林技研としては、ＩＳの軍事利用からの脱却は兎さんの目的でもあるし・・・今回の茶番はコレが本題になるのかも？

ついでに篠ノ之箒に自衛の為の機体を与え、実戦経験と言う実績でもって立場を補強すれば、アレが兎さんの庇護が無くても

生きれるようになるよね。
つまり兎さんの楔を外すことになる。
・・・うん。間違いなく大佐殿の狙いはこっちだよね。
アメリカの国内産業やら何やらを考慮して
開発された機体の存在を知ったから、今回の
実験で暴走させたのか。
こっちはそ知らぬ顔して【暴走】に驚いた
振りをして、向こうから接触して来るのを
待つんでしょ？
で、篠ノ之箒の専用機所持と日本への
所属を正式に認めさせるって？
過保護って言うか、完全に危険物扱いじゃん。
そりゃ兎さんも肩身が狭いよねぇ～。
恐る恐る大佐殿に第四世代型の開発許可を
申し込んだって言うのもわかるよ。
モップがどれだけ理解してるか知らないけどさ。
ここまで考慮されたことで、調子に乗って

司馬少佐に喧嘩を売るようなら・・・アレも
友愛しなきゃダメだよね。
阿呆は卒業までの命だけど、モップは
いつまで持つかな？
まずは兎さんに対しての予防線だよねぇ。
大佐殿に許可を貰って、大佐殿から
兎さんを説得してもらおうかな？
いや、大佐殿が駄目って言うなら我慢
するけどさ。だけど、
ついカッとなって殺ってしまった。
反省はしてるが後悔はしていない！
って風にすれば、大佐殿は苦笑いかも
しれないけど少なくとも李家と司馬家の人は
笑顔でサムズアップしてくれるはず。
よし、そうと決まればまずはラウラさんを
巻き込もう！
司馬少佐に言ったら『放っておけ』とか言い

そうだから、内緒にしとかなきゃ。

「ラウラさん。モップの廃棄処分に関する打ち合わせをしたいんだけど～」

・・・まさか反対しないよね？

第45話

「織斑先生！ＩＳ学園から通信です！」
「・・・来たか」
正式な命令系統を遵守するように言った
から、ＩＳ学園から連絡が来るのは問題ない。
また、私が政治には一切配慮しないと明言
したことから、政治的な配慮が可能な理事長
を説得した方が良いのも事実。
時間が無いことは奴らが一番良く
わかっているから、最短で動くしか
ないよな。
何せ黙っていれば銀の福音が堕ちて事態が
終息してしまうのだから。
いやはやしかし、鳳には何度感謝をすれば
良いのやら。

まさか一夏が燃料切れや部品の磨耗にまで気付くようになるとはな。
危うくあの場で私も褒めるところだったぞ！
実績の為に強敵を望む阿呆どもは殴り倒そうかと思ったが、まぁ今回は正式な作戦行動の前だし自由な討論で互いの認識の擦り合わせもさせる気だったから止めなかった。
だが司馬監査員を彼処まで敵視しているのはいただけんな。
恐らくことあるごとに一夏が自分達の意見より凰の意見を優先したから、その上司である司馬監査員も敵視しているのだろうが・・・あんな感情的な連中の意見を重視するヤツなんざ居ないだろう。
それにあの場で騒ぐだけなら構わんが、もし公の場であのような事を言ったら洒落にならんぞ。

特に国家代表候補生であるオルコットはな。
アレがイギリスの意見と判断されたら、
次の瞬間には潜入している工作員により
イギリス王家に銃撃が加えられるぞ？
何せ今の李家の連中は二人居ればハイジャック
だの原子力発電所の乗っ取りも可能な連中だ。
バッキンガム宮殿の襲撃など当たり前に
こなすだろうさ。
問題はそのことをオルコットが理解出来ている
かどうかだが・・・アイサツに来いだの抜かし
てる時点で無理だな。
とりあえず凰には私も一夏も司馬監査員に
含むところはないし、ましてやアイサツなど
求めてはいないと言うことをきちんと弁明
しないと不味いだろう。
『おはようございます織斑先生』
ん？・・・あぁ日本の社会人の最初の

アイサツは夜勤でも『おはよう』が
常識だったな。
一夏が司馬監査員にアイサツするときは、
日本の常識にこだわらんように注意を
せねばならん。まぁそっちは今は良い。
まずは理事長の相手をしようか。
・・・用件はわかりきっているがな。
「おはようございます理事長」
アイサツは大事。古事記は知らんが冬林技研では常識だ。
『本来なら臨海学校の様子はどうなって
ますか?とか、篠ノ之束博士についての
情報を頂きたいところなのですが・・・』
明らかに面倒臭そうだな。
ま、事情が事情だからシカタナイとは
思うんだが、もう少し演技した方が良い
んじゃないか?
『十蔵さん!そんな事を言ってる場合じゃないでしょう?!』

ほら怒られた。しかし理事長は落ち着いているが、楯無が焦る？二人とも現状は理解しているはずなんだが、何か認識に相違でもあるのか？

『いやはや、そちらには司馬監査員が居るから慌てる必要がないと言ってるんですが、彼女はどうしても妹さんが心配なようで』

あぁなるほど。ＩＳには詳しくなくても司馬監査員の存在がある以上こちらには危険が無いと判断している理事長と、下手にＩＳに詳しいが為に妹を心配する楯無という構図なのか。

『心配するのは当然です！正妻が自分より可愛くて魅力的な側室のことが邪魔で、事故に見せかけて殺したりするかもしれないじゃないですかっ！』

・・・はぁ？

「あの、正妻とか側室と言うのは？」
何かの隠語か？
『・・・混乱させてすみませんね。作戦行動に関する隠語や暗号ではなく、ただの事実ですよ』
「はぁ」
ただの事実と言われてもなぁ。
『織斑先生も知っての通り、正妻が司馬監査員で側室が更識簪さんの事を指す言葉というだけの話ですよ』
・・・はぁ？
司馬監査員が正妻と言うことは相手は教頭か？
いやまぁ、教頭は私と同い年だし司馬監査員と婚約を交わしているのは知っているが、更識簪が教頭の側室だと？
日本の法律だと年齢的に結婚出来るのは１６からだから・・・今年だよな。
今が１５だろ？地域によっては普通に結婚も

出来る年齢だから国際社会を基準に考えれば
犯罪にはならんのだろう。
しかし側室とはまた、なんと言うか・・・
いやいや、よくよく考えれば司馬監査員の
子供は司馬家の子供になるからな。
教頭は李家の子を作らねばならんから、側室というか第2夫人は作らねばならんのだろう。
で、それが更識簪だと？
まぁ私が知る更識簪なら、正妻である
司馬監査員の邪魔をするような性格
でもないし、司馬監査員のクラスメイト
だから互いのことも良くわかる。
ついでに更識は血統も確かではあるが、
中国に地盤がないから権力争いにもならない。
そう考えれば教頭の第二夫人としてはそれなりに好条件ではあるのか。
んで、妹がそんな立場に有ることを知った
楯無が色んな意味で妹を心配していると。

はぁ～。一夏の同い年ですら婚約だの側室だのと言ってるのに私ときたら・・・
そりゃ一夏も心配して恋愛も出来んよ。
「とりあえず楯無の心配はありえんから安心しろ」
ここで殺すくらいなら、わざわざ司馬監査員が側室になどするはずがないだろう。
正妻が嫉妬から側室を殺したなどと言う醜聞も我慢できんだろうし、教頭や李家の事情を考えれば、下手に権力争いを起こさない側室がどれだけ貴重なモノかわかるだろうに。
それに更識とて名家。血統を重視した見合い結婚など当たり前だろうし、日本の裏稼業が李家と繋がりを持てるなんて本来ならあり得んことだぞ？
更に相手が李家の麒麟児だの武神の再来だのと呼ばれ、政治やら組織運営で実績を積み

重ねている教頭だ。
先代楯無とてあの人以上の相手は用意出来まい。
年齢が若いことを気にしてるかもしれんが、
下手に別の男に惚れたりなんだりする前に
誼を通じることが出来たことを喜ぶべき
じゃないか？
『そんなのわかんないじゃないですかっ！』
あ～やかましい。小娘が。
「もう黙れ更識楯無。裏稼業の人間が感情を表に出して声を荒げるな」
それも内容が身内の心配って。
そんなに心配ならしっかり守らんか。
『ぐっ！』
「そもそも今この場はお前の愚痴や意見を
聞くための場ではない。
理事長からの命令の伝達の場だろうが」
ＴＰＯくらい守れよ。
お前が納得しようがしなかろうが世の中は

回るし。世の中を回している人間はお前の意見など求めてはいない。
文句が有るなら自分で司馬監査員か更識簪か教頭に言うんだな。
『その通りです更識さん。今は貴女の感情より優先しなければならないものがあります。それが理解できないのなら【更識楯無】を名乗るのはやめなさい』
『・・・』
こんなの現場に連絡を入れる前に終わらせておくべきだろうに。
いや、もしかして理事長が自分一人が悪者になるのを嫌ったか？
ありえるな。なんやかんや言っても更識だし。
だがまぁ、理事長がどう思おうが私には関係ない話だ。
「で、そちらの問答は終わりましたか？」
三文芝居を見せる為に通信をよこしたわけじゃないだろう？

さっさと本題に入れよ。
『・・・見苦しいものをお見せしました』
ほんとにな
『ＩＳ委員会からの正式な命令が出ました
ので通達します。
【ＩＳ学園の戦力でもって暴走した銀の福音を
止めるように。
ただし使用する戦力は安全性を考慮して
第三世代型の専用機持ちに限る。
また国家代表候補生への指揮権も一時的に
現場に委譲する】
とのことです』
・・・なるほど。どうやって学生に限定
するかと思えば第三世代型縛りか。
確かに連中が欲しいのは第三世代型
同士の戦闘データだろうし、何より
ＩＳ学園の戦力や専用機持ちと言うだけ

なら教師も出られるからな。
そうなると、第四世代型の箒と第二世代型のデュノアは強制的に留守番に回せる。
あとは一夏の白式も一部第四世代型を使用しているから3・5世代ということで待機させることもできる。
残るは凰とオルコットか。
よし。凰にやらせよう。
この命令をそのまま司馬監査員に伝えたら
更識簪やラウラへ実績をあたえる為に
あの二人も出してくるかもしれんが、
箒・オルコット・デュノアの三人と
比べたら信頼性が段違いだから問題はない。
そもそもオルコットやデュノアと凰を一緒に出撃させても凰の邪魔にしかならんだろう?
単騎で突っ込んで負けるだけならまだしも、
凰が勝ちそうになったら横槍入れるとか
後ろから撃つとか普通に殺りそうだ。
そうなったら流石に庇いきれんぞ。

まぁ一夏と組ませる分には良いかも
しれんが、流石に足手まといを抱えて
軍用機と戦闘させるのもな。
一夏の経験や実績どころじゃかくなる可能性もあるし。
やはり安全第一で行くべきだろう。
懸念があるとすれば……。
「第三世代に限定するのであれば、
フォルテ・サファイアやダリル・ケイシー
は第二世代型だから出れませんが更識楯無
は参加可能ということですか？」
今からＩＳ学園を出発しても、所詮はバスで
数時間の距離だからな。
ＩＳならすぐ現着出来るだろうし。
凰が一人で出て周りからやっかみを受ける
くらいなら、コイツにヤらせた方が良い
と思うんだよな。
コイツも手柄が手に入るし、凰は手柄を

気にしてないから不満を述べることも
ないだろう。
連中が想定する交戦区域で戦う気など
ないから、時間はまだ猶予があるから
グダグダ抜かすなら出てくれば良いんだ。
『そ、そうよ十蔵さん！私が出るわ！』
妹云々は別にしても、日本の国防に
更識が出ても文句はあるまい。
『残念ながら国家代表である貴女への出動要請は出来ません』
『「・・・」』
なるほど。まぁ、そうだな。
国家代表候補生の指揮権は委譲されたが
国家代表への指揮権は委譲されていない。
アメリカとしてはＩＳ委員会ならまだしも
下手にロシアに貸しを作る訳にはいかんか？
政治政治。ここにも政治・・・まったく
面倒な世の中だよ。

「では銀の福音を止めよとのことですが、
　撃墜許可と判断してよろしいでしょうか？
　あえて言う必要はないと思いますが、
　暴走する軍用の機体を、学生が競技用の機体
　で手加減して抑えることは不可能ですよ」
【言わなくてもわかるだろう】と言うのは
　政治・外交上では甘えだ。
『止めろと命じたのであって撃墜許可など出し
　ていない』と言われて賠償請求されても困る。
「許可が出ていると思いました」など言い訳
　にすらならんからな。
　しっかり言葉に出して伝えねばならん。
『搭乗者がいるので、出来るだけ破壊
　しないで欲しいとのことですが。
　最悪の場合の撃墜許可は出ています』
　あとは現場判断に任せると？
　ＩＳ委員会め、子供に人殺しをさせる気か？

それとも殺しが出来ないだろう子供が
手加減して逆に潰される様でも放送するか？
どちらにせよ非人道兵器としての宣伝には十分だな。
我々に軍事産業の復活の為の礎となれと？
子供や搭乗者が数人死んでも、万を越える
労働者が助かるなら採算は取れるもんなぁ。
・・・クソヤロウどもがっ！
束のＩＳの宣伝の仕方が悪かったのは事実だが、
キサマらの愚策の責任まで子供に押し付けて
どうする。
自分たちの力で通常の軍事産業とＩＳを
両立させることだって出来ただろうが！
こいつらの思惑に乗りたくはないが、
正式な命令が出た以上は動かねばならん。
「了解しました。それでは直ちに状況を
開始しようと思いますが、何か特別な
伝達事項はありますか？」

特に中国から司馬監査員に関して
何かしらの指示があると思うんだが。
『いえ、特にはありませんね』
「・・・そうですか」
特にない、か。まぁ茶番とわかっている
モノに手も口も出す気はないと言うことか。
とはいえこれでオルコットや一夏を差し
置いて、凰を使うことに文句もでないと
言うことがわかった。
後はこちらで交戦戦域を定めて凰に
待機させるだけだな。
『あぁ、これは特殊な伝達事項とは違いますが」
ん？妙な言い回しだな。
「なんでしょう？」
何か個人的な依頼でもあるのか？
『お手数をおかけしますがよろしくお願いします』
・・・あぁ、この辺は如才無いな。

流石轡木十蔵だ。
「・・・了解です。では失礼します」
さて、問題児どもの相手をするとしようか。
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
「ふーん、まぁ妥当かな（Φ ωΦ）」
「なんだと?!」
「なんですって?!」
「なんだって?!」
三馬鹿はホント仲良いわよね～（棒）
しかしどんな命令を出してくるかと思ったら
『相手が第三世代機だから、安全を考慮して
第三世代機の専用機のみで当たるように』
って言ってくるとはねぇ。
あからさまではあるけど、出力とか
性能の面を考えれば素人なら納得する
意見でもあるわよね。
腹が立つことではあるけど、今回は許してやるわ！

なんたって千冬さんが一夏の白式を
3・5世代型として戦闘への参加を許可
しなかったし。
これで一夏が傷付く可能性も減らせたし、
女権団体の狙いを一つ外せた。
そして一夏に手柄を立てさせて男の復権を
狙う連中の梯子も外せたわ。
後はこの件に賛成した連中の名簿を、中国の
ＩＳ委員会担当者から副所長さんがもらえば
アホどもを一網打尽に出来るわね。
私たちをハメようとした連中に一泡
吹かせれるなら、これくらいはヤって
見せるわよ。
「いや、リンが強いのは知ってるけど、一人で大丈夫なのか？」
あぁ一夏の心配が私を包んでくれるわ～。
黙って普通のことをするだけで一夏と
千冬さんの評価が上がるんだから、ホント

ウハウハよ。まったく阿呆共は最高だぜ！
・・・それはさておき、心配してもらってるんだから真面目に答えますか（Φ ω Φ）
「ま、大丈夫じゃない？もともと甲龍は耐久性と燃費が良いから遅滞戦に向いてるし、相手の銀の福音は中距離メインの特殊射撃型。相性も悪くないわね」
遠距離だと弾幕が薄くなるから回避し放題でしょ？
かといって近距離だと、弾幕が密集することになるけど砲台の数は所詮３６門。
連射性能が気になるところだけど、そもそもそれだけの砲数が必要でさらにそれを維持出来るってことは一撃はそれほど重くない。
「そうなのか？」
そうなのよ
「弾幕を張る機体は、当然全弾当たるなんて

考えてない。つまり銀の福音の放つ弾は
回避されること前提のエネルギー弾なのよ」
「あーうん。そうなるか」
そうなるのよ。
「で、回避されることを前提とした弾に
強力なエネルギー弾なんか使ったら……ねぇ?」
わかるでしょ?
「あぁ!強力なエネルギー弾ってことは
それだけエネルギーを使うから連射なんか
出来ないのか」
「そーゆーこと（・ω・）」
しかも今回は移動にかなりの無理をしてる
から、無理に攻撃しなくても回避するだけ
でもエネルギーは枯渇する。
まぁその回避に技術が必要なんだけど・・・
螺旋頭なら、ビットをあっさり壊されて
スナイパーライフルで狙いをつけようとして

止まったところに弾幕でアウトだし、一夏はまだ高速戦闘には慣れてないからね。
ハイパーセンサーのリミッター解除も出来てそれなりの技術を持つ私なら、今のアレくらい一人で十分相手出来る。
ＩＳを利用した三次元戦闘では３６０度の空間全部を使えるんだから、適度な距離を保って燃料切れを待てば良いだけだし。
私を無視して抜けられたら、後ヨロシクー（・ω・）ノ　ってなもんよ。
後は誰も見てないところで自爆させて、
「もともと限界だったようだな・・・」
とか言うんでしょ？
究極的には戦力の運用方法については千冬さんの仕事だし、私は持ち場を守れば良いだけ。
それでも何か言われたら『出来るだけ破壊は

しないように言われたから撃墜は控えた』
とか言っておけば良いでしょ？
つまり約束された勝利のリンちゃんよ☆

・・・まぁ落とせなかったら司馬様あたりに
『未熟者』とか言われて矯正される可能性
もあるけど・・・流石に今回は戦術目標を
クリアしてるし、大丈夫よね？
「なるほど耐久が低い俺の白式や、セシリア
のブルーティアーズも遅滞戦に不向き。なら
リン一人で出た方がやりやすいってことだな」
その通り。正直言って今の一夏じゃ足手
まといだし、下手に心配して集中を乱され
たら万が一の事故もある。
その結果私に待つのは垂れ流しでしょ？
こんなどうでもいい戦いで矯正なんか
されてたまるもんですかっ！

「連携訓練とかもしてないからね。
フレンドリーファイヤとかされても困るし。
それに一夏達だって無関係じゃないわよ？
私が素通りされた場合に備えて第二陣に
なるんだから、気を抜いちゃダメ」
一応実践配備になるから、一夏やモップに
してみたら悪くない経験になるんじゃないかしら？
「納得出来ません！私の紅椿なら遅滞戦などしなくても勝てます！」
いや、無理でしょ。機体性能が良くても
使い手が未熟すぎるわ。
それに遅滞戦などって言うけど、長時間の
戦闘はそれだけデータが取れるって事だから
アメリカやイスラエルを黙らせるのにも
使えるし、中国だって喜ぶのよ？
つまり政治が絡むの。それも理解しないで、
機体性能頼りの高出力の一撃で落としたり
なんかしたら・・・関係者全員から

バッシング喰らうんじゃない？
第四世代型の実践データも欲しいって
言うならそれこそ遅滞戦しなきゃダメだし。
自分からソレをしないって言ってる時点でダメよね。
「未熟者の根拠のない妄言はともかく、
国家代表候補生で第三世代機が条件なら
私だって出れますわ！」
出れるだけよね。普通にアンタに背中
預けたくないし、射撃の都度止まるような
奴のガードなんかして無駄な被弾とか
したくないから。
後ろでバグパイプでも吹いてたら？
「第二世代機でも、未熟者や近接戦闘が
まるで出来ないヒトよりは戦えますよ？」
未練がましい。アンタは普通に機体性能
が不足してるから戦力外。
黙って螺旋頭の前で盾でも持ってなさい。

「リン一人を戦わせるのはアレだけど、
実際足手まといだからな。今回は勉強
させてもらうよ」
「偉い！偉いわ一夏！」
これにはさっきまで顰めっ面で頭を押さえ
てた千冬さんもニッコリよ！
「一夏！いつから貴様はそんな惰弱な人間になったのだっ！」
いや、千冬さんの指示に従うって言ってるだけだし。
「そうですわ！確かに一夏さんの機体は
３・５世代と言える機体かもしれませんが、
戦おうとする気概をなくしてはいけません！」
いやいや、足らぬを知るのは成長の兆しよ。
見て勉強して次に備えるって言ってるじゃん。
「僕は一夏の側に居れれば良いかな。
一夏に危険な目に遭って欲しくないし」
いやいやいや。そもそも私が抜かれたら
アンタらが時間稼ぐんだからね？

まぁ相手の攻撃を誘って回避すれば
良いだけだから、アホなことをしない
限りは危険な目には遭わないだろうけど
「「・・・っ?!」」
それに阿呆のキメ顔とモップと螺旋頭の
歪んだ顔はどうにかならないの?
一夏なんか普通にドン引きしてるじゃない。
「一夏。何度も言うけど私が抜かれても
無理に戦う必要は無いからね?
今回は時間を稼ぐだけで良いの。
それにもし銀の福音が本当にヤバイライン
を超えたら、簪やラウラが動くから。
だから死守とかもしなくて良いからね?」
俺の後ろには日本の民間人がっ!とかいらないから。
「ん。わかってる。今の俺は実戦経験も
なければ軍人としての教育を受けたわけ
でもない素人だからな。千冬姉の決めた作戦

に文句を言う気もないし、専門家の言う事に逆らう気もないよ」

おぉ！流石一夏！そうよ！素人は無理をしないのが一番の援護なのよ！

「うむ。織斑の言う通りだ。そもそも現在貴様らの指揮権は私にある。そして私が出した指示は『第二防衛ラインにて教師と共に待機』だ。私の指示に従わんと言うなら、気絶させてから身柄を拘束して個室に閉じ込めるが・・・どうする？」

うんうん。さっきまでと違って正式な命令が出た後だもんね。

『第三世代型が抜かれた時に備えて待機してました』って言うなら、第二世代型の教師が出ても問題ない。

むしろ予防は当たり前のことだもんね。

「「・・・」」

流石のモップも螺旋頭も千冬さんに正面から
逆らうことはしないわよねぇ。
「僕は最初から反対してないし？」
・・・まぁ出れるって言っただけで、一夏が
後ろに下がるってわかった途端に側にいる
発言しただけだもんね。
コレは強かというか小狡いと言うか・・・
少なくとも千冬さんの性格なら【小賢しい】
って判断するでしょうね。
さて、アホ共が黙ったところで出撃準備しないと。
あぁ、司馬様や簪。ラウラにも状況の
説明は必要よね～。
モップとか螺旋頭とか阿呆の言った
ことは・・・報告しなくて良いか。
陰口みたいだし、アイツらが死んだら
なんだかんだで優しい一夏も傷付く
だろうしね（´・ω・）

・・・一夏にはあぁ言ったけど、相手は
軍用に開発されてリミッターも外した機体。
偉そうなことを言っても私だって未熟者。
油断？そんなのしたら一瞬で堕ちるわ。
だけど司馬様は私なら出来ると判断して
私にこの戦場を任せたのよ。
簪もラウラも私よりずっと強くても
私を見下すことなく接してくれたわ。
そして「後ろは任せろ」って背中を
押してくれたのよ！
なら私がすべきは全力でやるべきことをヤルだけっ！

・・・敵は一人、私も一人。
・・・何を怖がることがある？
・・・恐怖を捨てろ敵を見ろ。
・・・戦え。決して立ち止まるな。
・・・退けば負けるぞ、臆せば死ぬぞ！

「中華人民共和国国家代表候補生凰鈴音。甲龍っ！出るわよ!!」

第46話

「予定戦域は・・・ここですか。特尉、准尉に地形情報と銀の福音に関するスペックデータから予測されるエネルギー残量と戦闘可能時間を提供するように」

「はっ！」

ＩＳも燃料無ければタダのゴミってね。多少の誤差は有るだろうけど前後三十分位の誤差にしておけば、リンちゃんも情報に依存しないで参考程度にして戦えるよね。

「無論短期的に相手がデータ以上の動きを見せる可能性もあるので、データより実際に感じたことを優先するようにと付け加えるのも忘れないでください」

「はっ！」

うん。先入観があると危険だからって理由で相手の情報を重視しないヤツもいるけど、やっぱり最低限の情報は必要だよね。

その上で、この銀の福音は多対1を得意とする機体だからリンちゃん1機で向かうのは悪くない。

馬鹿みたいに「連携だ」とか「仲間だ」とか言って場を乱す奴が居ないから、自由に空間を使えるのも良い。

今のＩＳ学園で、天才肌のリンちゃんの全力の動きに合わせられるのは私達しかいないし。

織斑千冬の「邪魔するくらいなら出さない」って判断は正しい。

まぁ第三世代型のみの出撃許可だし、螺旋頭なんかだしてもねぇ。

「やはり中の搭乗者の意識が無いのが
厄介だな。暴走しているのが機械で、
オートの攻撃だから癖を読むのが難しい」
「だね。人間が使っていれば関節だとか
視線の方向の関係上意識はどうしても前に
向くけど、機械にはソレがないからね」
中の人はGと疲労で気絶してるみたいだし
兎さんも中の人までは殺すつもりは無い
みたいだから（興味が無いだけだろうけど）
関節外して後ろに向かって殴りつけるとか
はしてこない、と思う。
あとは銀の福音のＡＩ次第かな？
切羽詰ったらヤる可能性もあるんだよね。
「基本は無駄のない動きを最短で行うのが
機械の癖です。
故に相手の筋肉や関節の動きを元に
したハイパーセンサーでの先読みは

出来ませんが、人としての観察眼を養えばいくらでも行動を操れます。
准尉が苦戦することはないでしょうね」
（ソレが出来るのは貴女達だけです！）
いや、言いたいことはわかりますけどね？
「司馬少佐。超高速戦闘の中で集中力を加速させて思考能力と反応速度を上げるなんて芸当は普通じゃ出来ませんよ？」
思考速度が加速するゾーンの場合はあくまで最適の行動を自分の意思で反射の速度で出せるようになるのであって、その反射だって０．２秒前後が限界。
一秒で３０とか６０数えるような真似が出来るのは大佐殿と司馬少佐だけです。
「少尉ならともかく特尉がソレを言いますか？
戦闘の時に体感時間を圧縮するのは東洋では常識です。その感覚に体がついて来ないと言う

ならそれは特尉の未熟と言うことでしょう？」
いや、まぁ、そうなんですけど。
確かに刹那って言葉もありますけどね？
1フレームをハイパーセンサーの補助
無しで本当の意味で知覚するって言うのは
ヒトとしてどうかと思うんです。
「まぁ学生が未熟なのは当然です。
今は己が未熟であることを知り、成長の
糧としなさい。その段階で足踏みしている
ようなら特尉は師の足を引っ張るだけの
存在に成り下がることになりますよ」
「それは・・・嫌ですね」
大佐殿の足を引っ張るのも大佐殿や
司馬少佐に失望されるのも嫌っ！
私はもう学園の整備室で現実から目を
背けて一人寂しく機械イジリをする
なんて耐えられない！

「生身を鍛えればその分ハイパーセンサーのリミッターも外せます。それに少尉のような特殊な目はなくとも、特尉には技術者としての視点があります。アルレシャを使いこなす為にも自身を鍛え、思考することを忘れてはいけません」

「はいっ！」

そうだ！目の前にやってる人が居るんだから「出来ない」なんて言うのは逃げのセリフ！

司馬少佐は私よりもっと地獄を見たからこそ今の強さがあるんだから、私だって地獄を味わうことを躊躇しちゃ・・・躊躇しちゃダメなんだ！

「特尉が納得したところで少尉は予想戦域の海中にて待機。任務は准尉が落ちた時の回収ですね」

「はっ！」

なるほど。援護もしないし代わりに戦うこともしない。
負けは負けで受け入れてその結果を見させようってことだね。
あくまでリンちゃんの戦場ってことか。
それで、他の国の工作員に回収されたりコアを奪われないようにするためにラウラさんが待機するわけか。
機体とか武装の相性を考えたら私よりラウラさんの方が良いもんね。
たとえリンちゃんが負けても銀の福音は銀の福音で無傷ではないだろうから、弱ったところを教師と他の連中で集中砲火して終わりかな？
織斑一夏が人殺しを許容出来るかどうかになるけど・・・リンちゃんの仇と思えば勢いで殺るよね。

もし訳のわからない理屈をこねて殺らないようなら、銀の福音共々私が殺るぞ？
・・・あくまでもリンちゃんが負けた場合だけどさ。
「ついでに予定戦域に来るであろう観測員が乗る船を全て沈めなさい。無断で作戦区域に入るモノは全て敵です。
アメリカ海軍が民間の船に偽装している場合も有るでしょうが構いません、沈めなさい」
あぁ、戦闘の様子を撮影するために連中の観測班が来るよね。
だけど馬鹿正直にリンちゃんの全力戦闘を見せる必要はない。
ＩＳ学園には映像が残るけど軍事機密を理由に公開させないようにするのか、幾つかのデータを改竄してから渡す感じかな？
「はっ！」

この分ならリンちゃんが福音を落としたらデータを抜いてコアを破壊だね。

「それと銀の福音が戦域から離脱した場合についてですが、第二防衛ラインに向かうなら放置。それ以外に向かうなら撃墜するように」

あぁ、逃げる可能性も有りますもんね。

普通なら罠が張ってある方に行くような真似はしないでしょうし。

状態にもよるけど逃げに徹されたらリンちゃんだと追いつけない可能性が高い。

海中からのグスタフかそれともランスチャージかは知らないけど、銀の福音が背中を見せたら間違いなく終わる。

「はっ！」

操縦者は・・・ナターシャさんね。

よかったねナターシャさん。

逃げたらラウラさんが殺すし、リンちゃんが
勝ったらリンちゃんかラウラさんが殺す。
リンちゃんが負けたら、教師たちか織斑一夏か
私が殺してあげるから二階級特進が確定したよ。
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

さてと、来たわね。
簪からの情報だと、あの翼っぽいのが
スラスターであり砲塔なのよね？
私を無視して突っ切る可能性も有るから、
まずは当たらなくても良い先制攻撃で
ＡＩに私を敵と判断してもらう必要がある。
そうすれば砲塔を戦闘に使う必要もある
から、高速移動は出来なくなる・・・と。
つまりアレは元から最高速度を維持しての
高機動戦闘が出来ないのね。
スラスター半分。砲撃半分とか？

それとも螺旋頭みたいに一時停止して
全部砲撃に回すのかしら？
半々なら機動力も弾幕も薄れるし、全部砲撃
ならタダの的。さらに近接戦用の武器も無い。
戦闘機や戦車。民間人を相手取るなら
ともかくＩＳ相手には相性が悪すぎるわよ？
どちらにせよ中途半端。造ったヤツは
実戦を知らない技術者ね。
まぁいいや（）
それで、アレは機械だから搭乗者の意志と
知覚が必要な瞬間加速は使えない。
使えば即ムチ打ちか骨折が待ってるわ。
代わりにハイパーセンサーは全能力を
開放してるだろうから、見切りは人間
の反射を凌ぐ。
最適の行動を最速で行うが、中の搭乗者
が居るので、以前の無人機のような速度

での近接戦闘は出来ない。
攻撃方法も砲撃のみ。まぁ蹴りや拳
くらいは使うかも知れないけど、そもそも
速度を出す為に軽量化してるから重さが
不足してるのよね。
つまり最初の一撃で動きを止めて、距離を
詰めれば負けは無い。
しかも第二防衛ライン以外の方向に
逃げたらラウラが処理する？
でもって第二防衛ラインを越えたら
簪が潰すんでしょ？
・・・もうご愁傷様としか言えないわ。
私にしてみたら逃がしても良いってこと
だから気は楽になるし、墜ちてもラウラが
回収してくれるみたいだから、死ななきゃ
良いって話よね。
私のハードルは下がる一方で、アレの

ハードルは・・・もはや棒高跳びのバーのレベルよねぇ。

「ま、ナニが目的でこっちに流れて来たかは知らないけど、まずは先制させてもらわ！」

簪から借り受けた冬林技研製の対ＩＳ用新兵器。当たれば御の字。あくまで開発中の兵装で物理的な攻撃力はまだ薄く、見た目だけのロマン兵器でしかないらしいけど・・・

相手の注意を引くには十分よね！

さぁ喰らえ！

「マルチプルパルス起動っ!!」

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「う、うぉぉぉぉっ～!!」
なんだアレ?ナンダあれ!ナンダアレ?!
リンの甲龍の両肩にいきなりでっかい箱?
みたいなのが出てきて、そっから大量の光線が
出て銀の福音を襲ったぞ!?
「近距離殲滅兵器、とでも言うのでしょうか?
いえ、アレだけの数が直撃しても墜ちて
ないということは、威嚇用ですか?」
「そうみたいだね。ダメージを与える
より自分を敵と認定させるために使った
みたいだけど・・・」
すっげー。もう、すっげー!
なんつーの?あの大量のレーザー?が
縦横無尽に襲い掛かるって・・・すっげー!
((めっちゃ感動してる))
「一夏!あのような見せかけだけの攻撃に
何を感動しているっ!」

見せかけだけだから良いんだろうが！
アレに破壊力なんかあったら虐殺兵器だぞ！
「そうですわ！あんなのは数が多いだけの
弾幕にすぎません！射撃とは必殺必中
であるべきです！」
ならセシリアのは必殺で必中なのかよ！
「うーん。目立つのは確かだけど、ちょっと
効果が薄いかな。相当なエネルギーを
使うし、ここで使う必要があったのかな？」
何言ってんだ、必要があったから使ったんだよ！
『……未熟者の為に補足しておくが
鳳は無意味なことなどしていない』
ほらな！
「い、いえ銀の福音の注意を向けることが
出来たのは事実でしょうけど・・・」
「そ、そうですね。それが彼女の任務
だから無意味ではないと思いますけど」

あ～俺の白式もあんなカッコイイ兵器使えたらなー。
・・・確かラファールとか他の機体の武装
でも搭乗者の承認が有れば白式でも銃火器
を使えるんだよな？
リンから借りられないかな～
『まずアレは武装本体に一斉射撃に必要な
エネルギーを蓄えた使い捨て兵器だ。
その為本体のエネルギーをほとんど
使わずに攻撃が出来るらしい』
へぇ。なるほどなぁ。
……ん？あれ？それっておかしくないか？
「はぁ？」
「ん？」
セシリアとシャルも気付いたか。
箒は・・・分かってないな。
「エネルギーって基本的にＩＳコアから
生まれてるのを流用してるんだろ？

武装に蓄えるなんてこと出来るのか？」
電池とかバッテリーみたいなモンだろ？
そんなことが出来るならＩＳがなくても
ＩＳのシールドバリアを突破することが
できる兵器が造れるってことだよな？
「そ、そうですわ！そんなことができたら
現行の兵器でＩＳが破壊されてしまいます！」
だよな。そんなのが出来たら男は大喜び
だろうけど、女権団体は騒ぐよな？
『その疑念はもっともだ。だが、
そもそもＩＳに使われてる技術の大半は
冬林技研で研究されているからな。
実験兵器として開発したそうだ。
さらに全くエネルギーを使わないわけではない。
ＩＳ用の実弾に使われるように、ＩＳのシールド
バリアを突破する為には先端部分に本体の
エネルギーを乗せる必要があるらしい』

あー。なるほどなー。
ＩＳが使う普通の銃弾とかミサイルが何であんなにシールドエネルギーを減らすのかって思ってたんだが、本体のエネルギーを弾丸に上乗せしてたのか。
そういう理屈がないと普通の歩兵が使うマシンガンで撃たれただけでシールドが突破されるし、戦車砲に一斉射撃とかされたら終わるもんな。
「な、なるほど・・・それならまぁ私のブルーティアーズの原理も似たようなモノになりますから、不可能ではないのでしょうね」
あぁ、アレもビットにエネルギーを蓄えてるって言えばそうだもんな。
『そういう事だ。故にアレは自分に意識を向けさせるための目くらましでもあるし、

相手のシールドエネルギーを減らす為の攻撃でもある』

「「・・・なるほど」」

「はっ！あんなモノに頼らねばならんとは情けない！」

いや、第四世代型の性能に頼る等が言っても説得力ないから。

それになんだかんだでセシリアとシャルは最低限の訓練を受けてるんだよな。

アレの有用性に気付いたら、その対処法とかだって考えなきゃ駄目だろうし。

特にセシリアにしてみたらリンの甲龍に使われてる武装のデータは欲しいところだろうな。

『さらに銀の福音の出鼻を挫いてアレの速度を殺し、間合いも潰せたな。

見ろ、もはや射撃が主となる中距離では

なく斬撃や打撃がメインとなる近距離戦闘の間合いだ』

「「あっ！」」

すっげー！アレだけのビームを打ちながら光に包まれた敵に向かって、間合いを潰してたのかよ！

『これからがヤツの戦場だ。よく見ておけヒヨッコども。甲龍を駆る鳳の近接戦闘能力は私に匹敵するぞ？』

「「はぁ!?」」

あぁ、前に生身や第二世代型の訓練機同士なら負けないけど、訓練機の千冬姉と甲龍を使ったリンならわりといい勝負になるって言ってたもんな。

この場合、第二世代型の訓練機で第三世代型の専用機と良い勝負が出来る千冬姉が凄いのか、第二世代型の訓練機相手とはいえ千冬

姉といい勝負が出来るリンが凄いのか・・・
よくわかんねぇよ。
ただ今はリンの戦いを見て参考にしねぇと。
せめて次は一緒に戦えるくらいにならないと
何時まで経っても千冬姉を守るなんて不可能
だからな！

――――――――――――

簪ぃぃぃ！
いやいやいやいや！どこが殺傷能力がない
ロマン兵器よ！マルチプルパルスのパルス
ってパルスレーザーじゃない！
むしろ『バルス！』じゃない！
ちょっと間合いが遠かったからアレ
だけど、福音が防御に回した羽が一部
溶断されてるわよ！
物理的な攻撃力不足ってアレか？【まだ】
戦車とかを破壊するには至らないってこと?!

軽量化されて耐久性が低い銀の福音に
したら相性最悪の兵器じゃん！
・・・次からは具体的な破壊力とか
確認しないと駄目ね。知らずに使って
大量虐殺とか笑い話にもならないわ！
いや、まぁ相手の砲をいくつか潰して
間合いも詰めれたから良いけどさ！
さて、私の衝撃砲も4門に増えて
使い勝手は上がってる。
機械が近接戦闘でどこまでやれるか
見せてもらうわよ！
ーーーーーーーーーーーーーーー
『ふっ』
リンの上から振り落とした攻撃を福音が
紙一重で回避したかと思えば、そのまま
左が裏拳気味に出て来て自分を狙う砲を破壊。
『よっと』

リンが突きを入れたかと思えば、銀の福音はまたまた紙一重で回避、そのまま羽を向けて砲撃を加えようとしたところを、体ごと横に寝せて回避と薙ぎ払いを同時に行い更に差し出された砲を破壊。

『そりゃ！』

上と見せかけて右。右と見せかけて下。

中の人が気絶してるか何かで人工ＡＩが自律行動してるから、銀の福音の動きは機械的で一切の無駄がない。

だけど機械だからこそフェイントにも反応しちまうのか。

それにリンの機体の動きが早すぎる遠くに居ることと、本部からの映像。

それから高速機動の為に使ってきた白式のハイパーセンサーがあるからなんとか把握できてるけど・・・

そうか、リンはあんなに強かったのか。
『もうわかっていると思うが、凰の狙いは銀の福音の生命線である翼であり砲だ』
だよな。本体を回避させて反撃の為に向けられた砲を破壊してるよな。
「あぁ、アレがスラスターとしての役割も果たしてるからこそ、高速の移動も出来るし戦闘中の回避もスムーズに出来てるんだろ？」
アレがあるから変な体勢からでもすぐに持ち直せるし、あの紙一重の特殊な動きもできるんだろうな。
それくらいは俺にもわかる
『その通り。更に銀の福音は攻撃の為に砲口を相手に向けねばならん。
回避と同時に反撃を行うという無駄のない行動をしようとする機械だからこそ、凰の

掌からは逃れられん』
「けど、普通に考えれば紙一重で避けた後に反撃しようとすれば潰されるんだ。距離を空けるか何かしないと話にならないんだけど何で銀の福音はそれをしないんだ？」
同じパターンじゃないか。
いくら機械でも、いや、機械だからこそ何回もヤられたら別のパターンになるんじゃないのか？
『凰は同じ攻撃をしていないからな』
ん？どういうことだ？
「・・・一夏さん。彼女は攻撃の度に間合いやリズムをずらしているんです」
リズムをずらす？なるほど。人間の俺達からしたら、攻撃を加える→回避される→反撃に合わせてカウンターって感じで同じ流れに見えるけど、機械からすれば

①相手の攻撃を回避
②反撃
③相手の反撃を受ける
ってのは矢印で動く流れじゃなく一つ一つが独立した事象なのか。
それでもリンがしてくるのが同じ攻撃なら
パターン化も出来るけど、一回一回違う
行動だとすれば・・・
「・・・さらにわざと紙一重で回避出来る
ような所に打ち込んでるから、銀の福音の
回避する場所やタイミングも完全に彼女
の思惑の中。後は差し出された砲を破壊
していけば銀の福音の攻撃力も機動力も
奪えるね」
なるほど・・・敢えて回避しやすいよう
に攻撃をしてるのか。
あの翼は中身が空洞だから、エネルギー攻撃
ならまだしもリンの双天牙月を防御

なんかしたら叩き割られる事になる。
最善の動きが回避だし、避けれる場所はリンによって用意されてる場所だ。
そこに避けられるのもそこから反撃されるのもリンからしたら予想通りの動き。
ならば、回避も防御も反撃も思いのまま。
『そのうえ銀の福音は搭乗者を守るような動きを見せるからな。そこを突けばいくらでも行動を操れるという訳だ』
ん～。深い。
今の俺にリンと同じことが出来るか？と言われたら絶対無理って答えるしかない。
動きの予測って言うけど銀の福音だって遅くはないんだ。
遠くからこうして見てる分にはリンが掌で転がしてるように見えるけど、
リンの反応が一瞬でも遅れれば、砲から

反撃のエネルギー弾が出る。
実際リンも何回かエネルギー弾を撃たれてしまい、反撃じゃなく回避を選択してるし。
至近距離からの弾幕を受けることを考慮した上での近接戦闘。
『時間稼ぎに専念すれば勝てる』って
自分で言ってたのにソレをしないのは、
恐らく俺たちに向かって来た時の為だ。
戦闘を長引かせて消耗を誘い、俺たちに
銀の福音の癖を見せて、さらに翼を潰す
事で攻撃力と機動力を落としてる。
「情けない！ＡＩが搭乗者を守ると言うなら、
さっさと搭乗者を狙って堕とせば良い
だけの話ではないかっ！」
コイツは……リンの気遣いを無駄にする気か？
「箒。それは無理だ」
ＡＩが搭乗者を守る為に捨て身の行動に
出る可能性が有るし、何よりまだ相手の

攻撃力を奪いきってない。
今の段階で搭乗者を狙うってことは翼を無視するってことだ。
翼だけを狙ってる今でさえ反撃はギリギリ出来てるって状況なのに、翼から意識を離したら至近距離から集中砲火を喰らうことになる。
このままヤれば勝てるのに、わざわざそんな危険な賭けをする必要はない。
それに無駄なく最短で最適な動きをする銀の福音相手に、余計な動きをする余裕はリンにもないんだ。
つまり動きを操る為の牽制程度の動きにしなきゃ、今の有利な状況も覆されることになっちまう。
「なっ！一夏はアイツの味方をするのか?!」
箒は何を言ってるんだ?

「はぁ?そりゃそうだろ?」
なんで銀の福音の味方をしなきゃ駄目なんだよ。
一応、搭乗者の人を殺さないようにした方が良いとは思うが、ソレだってリンに余裕がある場合だ。
相手は暴走した軍用機だぞ?元々手加減出来る相手じゃないし、リンだって必死なんだ。前回みたいな横槍も無責任な口出しもする気はないぞ。
「・・・」
『織斑。戦況は凰有利だが、油断するな。何が起こるかわからんのが実戦だ。待機は気を抜いて良いという命令ではないということを忘れるなよ』
「お、おう!」
何で俺だけ?ここは箒じゃないのか?
・・・いや下手に刺激して不貞腐れて

も面倒だし、手柄を求めてリンの邪魔をされても困るから、か？
俺が注意されれば箒も他人事じゃないって思ってくれるかも知れないって感じなのかも知れないけどさ。
「・・・」
千冬姉。コレ絶対なんかやらかすぞ？

ーーーーーーーーーーーーーーーー

所詮は機械ね。司馬様が言うように最短で最適な行動を取るから、行動の誘導も容易いっ！
『ｌａ～♪』
砲撃、コチラに向けた2枚の翼は囮で後ろの４枚がメイン!!
『ｌａ～♪』

歌うような声・・・前の叫ぶだけの
無人機よりはマシだけどさっ！
『ｌａ～♪』
その声が予備動作になってるのよっ！
差し出された２枚をもらうわっ！
「１７・１８枚目っ!!」
でもって壊れた羽を崩山で爆破っ!!
『ｌａ!!!!』
体勢が崩れたところを後ろの翼で調整
しようとするわよね？
そこを抜くっ！
「１９・２０枚っ！」
爆発の中、体勢を整えながら相手を
探して効果的な反撃が出来るほどの
練度はないようねっ！
所詮ＡＩ。搭乗者を守るのか相手を殺すのか
ハッキリしないから、牽制も中途半端に

なるのよ！
今のアンタは闇雲に銃を乱射するだけの素人でしかない！
「２１枚目！」
更に龍砲の貫通衝撃弾を防御させれば・・・
『ｌａ～』
ちっ避けたか。今のは拡散にして広範囲にした方が良かったかしら？
だけど３６枚有った翼も２１枚は完全破壊。
１５枚のウチ７枚は中破。小破が３枚ってとこかしら？でもって無傷は５枚。
斬って叩いて爆破してようやくコレよ。
流石に崩山はエネルギー喰うわね。
まぁ良いデータが取れたとしましょう。
それと、なんか近くの海面で船が沈んでるけどら流れ弾かしら？
戦闘区域への立ち入り禁止指示に逆らった

アホがどうなっても知ったことじゃないけど。
さて、私は私の仕事をしましょう。
・・・機械に話しかけるのは何かアレだけど、一応ルールだし。
「銀の福音の搭乗者に告げます。こちらはＩＳ学園所属中華人民共和国国家代表候補生鳳鈴音です。
現在貴女にはＩＳ委員会より拘束もしくは撃墜指示が出ています。
状況を鑑みて、一度だけ警告を行います。
武装解除して降伏しなさい」
『・・・』
・・・動く気配はなし。これは機械が私の話を理解しているのかしら？
「降伏した場合、貴女は軍法会議に掛けられますが機械の暴走であることは判明しています。よって貴女個人が罪に問われる

可能性は極めて低いでしょう」

『・・・』

暴走の責任を取るのは担当技術者でしょ？
別に意図してこんなことしてるわけじゃかいんだし。

「降伏を拒否した場合は、先ほども言いましたが撃墜させて頂きます。
その際の貴女の身心及び生命の保障は出来ませんのでご了承下さい」

『・・・』

テロリストとかならこんなこと言わなくて良いけど、あくまで友軍機だもんね。

「１０秒待ちます。それまでに返答が無ければ降伏の拒否と見做し撃墜させて頂きます。ＩＳコアが有るから殺されない等とは思わないことです。我々はＩＳコアの破壊を躊躇することはありません」

『・・・!?』

反応あり。もしかして人工ＡＩに簡単な自我が出来たってこと？

それで「死にたくない」から暴走した？

なら猶更初期化か破壊しなきゃ駄目よね！

ＡＩが暴走してＩＳを勝手に操り、人を殺すなんて事になったら、世界中で大量殺戮が起こることになるわ。

コイツはここで終わらせて、司馬様に報告して原因究明とＡＩの凍結を具申しなきゃ！

「９・１０。１０秒経過しました。これより銀の福音及び搭乗者ナターシャ・ファイルスを危険因子として撃墜します」

『ｌａ～！ｌａ～！』

何を言ってるか分からないけど・・・砲を向けてるから降伏ではないのはわかるわ。

さしあたり近付くなってところかしら？

「断る、シネ」

『ｌａｌａｌａ

こんなヤツの自爆に巻き込まれてたまるか！
後退許可が出てるなら退くわよ！

『lalalal

衝撃も海水が防いでくれますもんね！
後はシールドエネルギーで何とか・・・
ならなくてもラウラが居るから大丈夫か。
ならば迷う必要なし！

「了解です！凰鈴音。突貫します！」

第47話

対ショック姿勢っ！って言うけど、水の中で口を開いたらどうなるのかしら？
いや、ＩＳは宇宙空間でも使えるから呼吸が問題なく出来るのはわかるのよ？
けどＩＳを纏ったまま栄養補給とかしたことないから、口から海水とかが入って来たりするのかなーって思ったり思わなかったり。
・・・・・・・・・
それにしても爆風がこないわね？
もしかして自爆が途中で終わった？
それとも簪あたりが特殊なシールドを使って衝撃に方向性を与えた？
『ふむ。准尉、どうやらアレは自爆に

失敗したようです。
それどころか自爆の際に生じたエネルギーを
利用して二次移行をしたようですね』
「（。Д。）セカンドシフトォ?!」
自爆じゃないんですか!?
つまり私は変身ヒーローが変身するのに
驚いて逃げたってことぉ!?
なんて間抜けっ！
『凰、下がれ！セカンドシフトした
機体は今までとは別物だぞっ！』
とは言うものの・・・ねぇ?
「退いても良いなら退きますが、私は
アレに敵認定されてますよね?
そうそう簡単には撤退できないと思うん
ですけど?」
何かサポートとかあるの（；・ω・）?
三十六計逃げるに如かずって言うけど

退却だって立派な兵法。
むしろ被害が出ないように退くのは至難の業ですよ?
『いや、二次移行しようが何だろうが、
武装が変わるわけではありません。
そのまま潜って帰投できるでしょう?』
「(。Д。)ソウデシタ!」
攻撃方法がエネルギー弾しかないから
このまま普通に帰れますよね。
追尾してきたら教師たちが待機してる
区域に誘導出来るってことだし。
だけどアッチに誘導した場合は
一夏が心配なのよねぇ。
「後退が簡単なのは了解しました。それで簪。
実際今のアレはどんな感じなの?」
司馬様からの通信があるってことは簪も
会話を聞いてるはずよね?
データも取ってるだろうし、戦力予測や行動予測

とかも立ててるはず。
行動は読めなくても戦力はそれなりに読めるわよね？
そもそもがリミッターを外した軍用機って言っても私一人に負ける程度だし。
二次移行がどうなのかはよく分からないけど、手も足も出ないほど強いのかしら？
『ん？話にならないね』
おおぅシンラツ！
『本来セカンドシフトは操縦者とＩＳのＡＩの共振によって発生する現象なの。操縦者の経験や意志を反映してＡＩが最適化するって感じかな？
それなのに今回はＡＩが半強制的に進化を選んだでしょ？』
あぁ、まぁそうなるわよね。
『出力は上がるかもしれない。

エネルギータンクの容量も増えたかも。
リンちゃんが与えたダメージは回復して
翼は・・・なんだろ?エネルギーの塊
みたいなのを纏ってるね』
ほうほう。何と言うか・・・ご都合主義よねぇ。
「コレはアレね?最近のゲームのボスキャラよね?」
最近のボスキャラは一度倒しても復活するし
そのときは何故か変身して強くなるもんだけど
・・・まぁそんな感じでしょ?
『まんまそうだね。ただ本来は状況や
操縦者の意思にあわせて外見も多少最適化
されるんだけど、今回は・・・』
「あぁ。操縦者に意識が無い。タダの搭乗者
になってるから、あくまでＡＩにとっての
最適な変化になったってこと?」
『Ｅｘａｃｔｌｙ』
それじゃぁ駄目よ。ダメダメよ（Φ ω Φ）。

技が使えるようになるわけでもなく、あの砲を兼任してた翼がエネルギーの塊？みたいになったのはわかった。

損傷を回復して、出力を高め、攻撃力を増やしたわけだ。

恐らく推進力も上がってるわよね？

「つまりは、一度限りの展開装甲？」

自爆のエネルギーを使っての形状変化ならそう言うことよね？

しかし兎博士は質量保存の法則って知ってるのかしら？それとも自爆のエネルギーがそこまで強かったの？

『あぁ、うん。ソレが近いかな』

死にたくないっていう気持ちだけで第三世代型を強制進化させて、さらにダメージを回復させるなんてことが出来るなら、どこの国だってＩＳを

自爆させようとするわよねぇ。
「結局のところは多少速くなって攻撃力が上がるだけってことでしょ？」
砲撃に関しては私の龍砲みたいに全角度に対して撃てるようになるかな？
『その通りだね』
ついでに武装がエネルギー弾しかないのと中の人が居るから無理な機動ができないのは変わらない。
つまり殺ることは一緒。
そりゃ簪からしたら話にならないわよ。
「りょーかい。一度補給のために戻るけど、ヤツの動きはどんな感じ？」
流石にアッチが全快したのにコッチが消耗してたんじゃ負けるかもしれないし。
無理しないで帰りましょう。
『ん～今は止まってるね。別にリンちゃんを

探してるわけでもなさそう。ＡＩが自分の変化を把握しきれてなくて、自己診断中って可能性が高いかな？』

なるほどねぇ。今なら襲い掛かれば一方的に勝てるかも知れないけど、逆に追い込まれたことで行動を促すことになるかも知れないのか。

まぁいいわ。

「じゃあ千冬さん、一度補給の為後退します」

どちらにせよこのままじゃ戦えないしね。

『了解した。こちらも状況が変わったので作戦を練り直す。教師陣はそのまま第二防衛ラインで待機。

織斑・オルコット・篠ノ之・デュノアは一時帰投するように』

うんうん。見学の時間は終わり。学生が居ても邪魔なだけだからね

「了解！」

うん。一夏はしっかり理解出来てるわね。
「千冬さん！今なら勝てますっ！」
いや、根拠が無いわよ。
「そうですわ！二次移行したばかりで
自身の性能も理解出来ていない今こそ
撃墜の好機ですわよ！」
いやいや、根拠が出来たけど、アンタじゃ
決定力不足でしょ？
さっきより速くなったとしたらアンタの
能力だと一方的に撃たれて終わるわよ？
「・・・そうですね。アレが動き出したら
僕たちの手に負えなくなる可能性も
あります！」
いやいやいや、可能性どころか最初から
アンタの手には負えないから。
しかし阿呆まで賛同したのは意外よね？
一夏が戻るって言ってるのにさ？

・・・あぁ手柄か。
第三世代型の二次移行なんて世界初の現象だもんね。足止めでもデータ取りでも十分な手柄になる。
さらに私は私の仕事を遂行したけど現場からはなれるんだもんね。
そりゃ螺旋頭も阿呆もチャンスって考えるわ（ﾟ・ω・）
モップは倒すことしか考えてないけど、まぁ・・・戦力調査には良いんじゃないかな？
指揮官が後退って指示を出してるのに逆らって意見具申してるくらいだし。
多少の損害は自己責任で良いでしょ？
「千冬さん。ここで私が退いたら、第二防衛ラインの人たちは情報も無いままアレと戦うことになりますよね？」

戦わせましょう。私的には一夏が無事なら
それで良いし。
死んだら墓くらい建ててやるわよ。
『・・・そういうことか。わかった』
そういうことですよ（Φ ω Φ）
千冬さんだって少しくらいコイツら
が痛い思いして反省してくれた方が
良いでしょう？
「千冬姉？」
一夏は優しいなぁ。３馬鹿が死にたいって
言ってるんだから望み通りにしてやれば
良いのよ。

んじゃ三馬鹿＝サン。とりあえず私帰る
から時間稼ぎ宜しくね～（Φ ω Φ）ノ

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

いやぁ今回はマルチプルパルスが一番の収穫だね！やっぱりロマンは良い！
ただ、やっぱり第三世代型じゃ出力が足りないよね？
本来ならコアをまるごと一つエネルギー源として使用する必要が有るから、複数のコアを使える第五世代型用の武装なんだし。
アレを第三世代型に使いやすくするためにはどうしたらいいかな～？
いやはや右手が疼きますなぁ♪
「さてさて、第三世代型が二次移行ですか」
あー司馬少佐の興味はソッチかぁ（；・ω・）
まだまだ布教が足りないみたいだね！
けどまぁアレはアレで不思議な現象だし、世界で最初ではあるんだよね。
第三世代型としては。
「・・・自爆のエネルギーを自己進化に

充てるっていうのは予想外でしたね」
どう言う原理か不明だけど、しちゃった
モノはシカタナイネ！
「ですね。そもそも二次移行するには
操縦者もＡＩも経験が絶対的に足りません。
アレがなぜ出来たのやら・・・
追い詰められて本能で！というなら世界中の
機体が二次移行出来ることになりますが」
ですよねー。やっぱり自爆のエネルギーが
大きいと思うんですけど・・・リンちゃん
が言ったように一回限りの展開装甲って
感じですよね。
「武装が変わるわけではないですし、
いざとなれば私が出れば終わるんですけどね」
あくまでも形が最適化されて出力が増えただけ。
アレだね。エネルギータンクの容量を
貯水地として、出力を水道の蛇口と

考えればわかりやすいよね。
貯水地が蓄えることが出来る水の量が増えて、蛇口が大きくなった感じかな？
アレはアルレシャとの相性が悪すぎるよ。
いや、この場合はアルレシャが相性良すぎるって言った方が良いのかもしれないね。
手柄とかは要らないし、変に名前が売れるのも嫌だから出るとしたら最後の最後だろうけど。
「ふむ。確かにアルレシャならコア1つ分の出力でも勝てますね」
はい！余裕です☆
「はい。それに結果を見られても相性と言い張ることも可能です。あの阿呆共が抜かれるようなら行きますか？」
私の好き嫌いより司馬少佐の身の安全が第一だし。まさかあんな雑魚相手に

司馬少佐の水銀の蛇なんか出すわけにも
行かないからね。
「ふむ。准尉も自分の仕事は果たしましたし、
少尉もしっかりと船を沈めていますからね。
後は特尉と私ですか」
リンちゃんはともかくラウラさんが凄いよね。
まさかエコーロケーションの共振破壊だけで
船を沈めるなんて、流石に予想外。
しかも他の海洋生物に一切のダメージを
与えてないんだもん。
肺力狙音声（ハイパワーソニックボイス）の応用かな？
アレって水中でも出来るんだねぇ・・・
それはともかくとして。
「流石に司馬少佐の前に私が出ないと
周りが納得しませんよ。
護衛はリンちゃんに任せますので、
司馬少佐には情報処理をして頂きたい

ところなんですけど」
手柄とかじゃなく、単純に序列の問題で。
ラウラさんが出たら次は私ですって。
それにデータの改竄は私も出来るけど、リアルタイムで教師や織斑一夏たちがつかうＩＳのハイパーセンサーや作戦室で使ってる衛星・その他観測機器の映像全部を差し替えるなんて芸当は司馬少佐にしかできませんからね。
「・・・部下の活躍の場を奪う気もありませんし、少尉や特尉の情報の秘匿も私の仕事ではありますがね」
ん？なんか不満そうですね？
「何か問題でもあったんですか？」
リンちゃんもラウラさんも自分の仕事はキチンと果たしたって言ってたし、
私が手柄を立てることになるけどそんなの気にするような人じゃないよね？

「いえね？相手が敵で、目撃者は機械のみ。
さらに目標が海上に居るじゃないですか？」
あぁ、なるほど。
「オーバードウェポンを試すには絶好の
シチュエーションですね」
もうここしかないって感じですよね。
「そうなんです。折角師が造ったのですから
試運転くらいしたいじゃないですか？」
なるほどなー。まぁそうですよねぇ。
今を逃したら何時になるか分からないし
試運転だけでも大佐殿は喜びますよねー。
「大佐殿が喜ぶなら全力で叶えて上げたい
んですけど・・・地形変わりますよね？」
モノによっては津波とかも出るし、海洋
生物に対する被害がどうなるか・・・
「それもありましたか。海底の地形を
変えてしまえば潮の流れも変わるし、

生態系を乱すことにもなりますね」
そうなんですよねぇ。
大佐殿は人間も好きだけど自然も好きだし、
そもそも人間至上主義者が大嫌いなんです
よねぇ。
「そうなると実験出来るのは・・・」
「話は聞いたよ!!」
うわっ！兎さん?!ナンデ押し入れから?!
「おや仮眠はもう良いのですか?」
あ、司馬少佐は知ってたんですね?
「おうともさ！箒ちゃんも戦場で待機命令を
しっかり守れてたし、これからちーちゃんの
許可を貰ってアレと戦うんでしょ?
負けたのを回収したらレッツパーリーだよっ！」
負け前提って。第四世代型でスペックだけなら
圧勝してるのにね。
やっぱり使い手がちゃんとしないとどんな

モノだってゴミなんだよねぇ。
「ふむ。篠ノ之箒が負けた後は教員が責任を
もって回収するでしょう。螺旋頭や阿呆たちを
回収する教員も我々には関係
ありませんからね。
・・・あぁ、少尉は下がらせますか」
モップに関しては、本当は回収すらアレだけど
アレでも兎さんの妹だしねぇ。
展開装甲と学習型ＡＩの試験機だからデータも
取らずに無くなったら困るからシカタナイなぁ。
「そうだよ！箒ちゃんが居なくなったら、
箒ちゃんを傷付けたアレに裁きの雷を
くれてやるんだ！」
モップが傷付くことを前提にしているんです
けど・・・まぁ自分から戦場に出るなら、
それくらいは覚悟しなさいって感じかな？
まだ過保護気味だけど、少しずつ妹を

自立させようとしてるよね。
何だかんだで良いお姉ちゃんだよなぁ。
・・・ウチのとは大違いだよ。
まぁウチのはともかくとして。
「裁きの雷って確かドイツにやろうとして大佐殿に止められたヤツですよね？」
なんか民間人の虐殺になるとか？
「そうなんだよかんちゃん！せっかく造ったんだから試さないと、いざと言うとき『予定の出力が出ませんでした』じゃ困ると思わない？」
うん。それはわかる。
「それはわかりました。後は武装の中身ですが雷と言うなら地形に影響を与えるモノではないということですか？」
あ、司馬少佐も知らないんだ？
「もちのロン！海面で拡散するから、浅い所にいる魚とかには多少のダメージが有る

かもしれないけど、それだって出力を抑えれば良いだけだしね！」
ん～確かに雷って感じの効果だけど、全力でやったら海面に穴が空きそうですよねー。
「なるほどなるほど。では後は師からの承認が貰えるかどうかですね」
実験なら問題ないと思うけど、コストの面を考えれば許可は必要ですよね～。
「え～大丈夫だよ！撃った後でしーちゃんが『撃ったよー』って言えばリー君は苦笑いで納得するからさ！」
どこのローエングラム様ですか。それに司馬少佐が「撃ったよー」って大佐殿に報告するところが想像できないんですが。
「つまり・・・私が言わないと怒られると言うことでしょうか？」

「ぎくっ！」
あぁ、そういうこと？
まぁ相当な兵器みたいだから、一発撃つのにもコストがかかるだろうし。
モノによってはシャレにならない金額になる可能性もあるんだよなぁ。
「しかも水銀の蛇の能力開放も必要になるんですかね？」
「ぎくぎくっ！」
あぁ、水銀の蛇の能力開放が必要なのか。
そりゃ許可取ろうとしても駄目だって言われるよね。
「そもそも能力開放は師の許可が必要ですし、現在情報の改竄以外の許可は出ていません。兎が自力でどうにか出来ないのですか？」
流石に大佐殿に無断でそんな兵器は使えないよね？

それで少佐を怒ることは無いけど、大佐殿のお仕事を増やしたら意味ないし。
「あーうー。束さんはもうリー君から駄目って言われちゃったから、束さんが勝手に使う訳にはいかないんだよ～」
あぁ～ドイツの時に駄目って言われたから、その後で使うにしても許可を取る必要があると。
でもって司馬少佐はダメって言われてないし、丁度良くオーバードウェポンの話をしてるから撃っちゃえ！って感じなのか。
「そんなの私だって怒られるじゃないですか。撃った後で苦笑いなのは、許してるんじゃなくて諦めてるだけでしょう」
ですよねー。撃ったモノはシカタナイねって感じですよねー。
「え～だってさぁ～束さんのＩＳを

あんな風に使ってる奴らに天罰を
与えたいんだよ～」
まぁそのための茶番では有りますけど、
雷で天罰ねぇ・・・まさかそれって
「あの、兎さん?もしかして兎さんが
使おうとしてるのって雷神の鎚ですか?」
まさかねー。
「流石かんちゃん!大当たりだよ!」
いや、大当たりってソレは駄目でしょう!?
宇宙ステーションの先に宇宙開発用拠点
として造った第六世代ＩＳと言う名の
直径六キロの人工衛星兼宇宙要塞
【Ｉｓｅｒｌｏｈｎ（イゼルローン）・Ｓｔｒｏｎｇｈｏｌｄ（要塞）】の主砲ですよね?!
「いや、アレはダメに決まってるでしょう。
宇宙から地上に攻撃する兵器はいくつか在り
ますが、アレを使ったら宇宙に我々の軍事拠点
があることを世界中に知られてしまいます」

ですよねー。いくらカメラや監視映像を改竄しても目撃証言はどうしようもないですし・・・宇宙から雷が落ちて来るなんて、普通に神話ですよ？

折角宇宙ステーションの影に隠れて、地上からは観測出来ないようにしてるのに。

「それにそもそもアレは隕石とか、宇宙からナニかが来たときのモノでしたよね？地上に向けて撃ったら普通に気候変動が起こるんじゃないですか？」

具体的にはオゾン層がなくなったり、大量の海水が一度に蒸発したことで生じる水蒸気やら何やらが、地球環境に対して物凄い悪影響を及ぼすことになりそうですよね？

「特尉の言う通りです。地形変動はなくとも悪影響が大きすぎますから普通に師に折檻されてしまいます」

折檻で済むのがアレですけどねぇ。
「むぅ～流石に地球なんてどうでも良い！
なんて言えないなぁ～」
モップが居ますし、大佐殿が怒りますからね。
「せめてヒュージブレードなら良いのでは？」
ヒュージミサイルは流石に水銀の蛇の力が
必要だし、核だの水爆は環境に悪影響だし
マスブレードは柱だし・・・
規格外六連超振動突撃剣も良いけど
アレは別に海じゃなくても使えるし・・・
尤もアレはアレで遠距離攻撃できるけど
軌道が直線だから地球の丸みとか計算しないと
駄目ってのもありますが、地形とか生態系には
ダメージないから怒られないですよね？
「悩みどころですね」
「だね～」
この二人が悩むなんて中々ないよねぇ。

ある意味銀の福音は偉業を成したよ。
それに免じて私がでることになったらしっかり殺してあげよう！
暴走機械の冥土の土産にはちょっと豪勢すぎると思うけどね。
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「では作戦を説明する」
『『はいっ』』
『作戦など不要です！私と紅椿ならっ！』
・・・箒、調子に乗りすぎだろ？
リンが色々見せてくれたとは言え、相手が二次移行した時点で初見の相手との戦いだぞ？
「・・・不用意な接近は厳禁。
まずはオルコットの遠距離狙撃に対する反応を見る。
篠ノ之が前衛、銀の福音の弾幕を相殺。
デュノアが漏れたエネルギー弾を防御。

オルコットが狙撃だ」
なるほど。近距離の動きは変わらないだろうし、中距離は銀の福音の間合いだもんな。
遠距離なら弾幕も薄くなるし、箒が機体操作に慣れる時間にもなる。
流石千冬姉だな！
『了解しましたわ。スターライトｍｋＩＩＩにて標的を狙い撃ちます！』
ようやく来た出番だからな。イギリスに良い報告する為にも頑張りたいとこだよな。
『了解しました！』
シャルもな。今はＩＳ学園に居るから良いけど、卒業後を考えたらどうしても実績が欲しいんだろ？
第二世代型だけど、箒の打ち漏らしを防ぐだけだからそれほど厳しい仕事って訳でもない。
怪我をしないように頑張って欲しいよ。

『私が露払いですか・・・』
お、中々上手い事言ったけど・・・
不満たらたらだな。
わざわざ千冬姉が考えてくれた作戦に逆らうなら出なきゃ良いのによ。
「文句があるならさっさと下がれ。貴様が露払いしなければデュノアやオルコットが弾幕を受けることになる。そうなればデータ取りどころではなくなるのだぞ?」
だよなぁ。いくら距離があるって言っても、セシリアは狙撃の時は動きが止まるから、普通に考えれば箒のブレードで相殺しないと集中砲火喰らうんだよな。
リンの場合は上下左右全体に砲塔を振らせたから弾幕も分散したけど、

今回は方向がある程度定まってるから
弾幕もあんまりバラけない。
流石にシャルだけだと持たないぞ。
『あぁそうですね。了解しました』
「「・・・」」
ん？いきなり納得した？てっきり
『データなど取らなくても倒せます！』
とか言うと思ったんだが・・・
「なぁ千冬姉」
アレ、絶対やらかすぞ。
具体的にはシャルとセシリアを
見捨てて突貫すると思う。
「・・・あぁ、わかってる」
だよなぁ。完全に前に出る気満々だしなぁ。
「オルコット、それにデュノア」
オープン回線じゃなく二人に絞ったか。
『『はい』』

まぁ二人もなんとなく分かってると
思うけど・・・
「篠ノ之箒は素人だ。露払いが失敗する
可能性も有れば、入れ込んで前に出過ぎる
可能性も有る」
なるほど。意図的な命令違反じゃない
って事にしてやるのか。
優しいって言うよりは教師として生徒
を守ってる感じか?
『なるほど・・・了解しましたわ』
『ですね。素人を頼りにするなって
ことでしょう?了解です』
どんな機体を持ってても使い手が
素人だもんなぁ。
まず剣道はＩＳ戦闘の役に立たないって
理解して、行動の殻を破らないと最低限の
働きも期待できないし。

さらに今は調子に乗ってるだろ？
あんなの俺だって背中を・・・いや
この場合前か？とりあえず、今の箒
には命を預けたくねぇよ。
「そういう事だ。後ろには教師も
控えてるし、じきに凰の補給も終わる。
危険と判断したら即座に海に潜れ」
『・・・了解です』
『・・・了解』
２人、いや箒を入れたら３人か。
みんなリンに対抗意識を燃やしてるよな。
けど千冬姉だってソレをわかってるはず
なのに、わざわざ今ソレを言ったのは
なんでだ？
「なぁ千冬姉？教師のことはともかく
アイツらにリンの事を言うのって
逆効果じゃないのか？」

撤退とかしなくなるんじゃ？

「何、己の感情を抑えられない未熟者には作戦を任せることは出来んからな。指揮官から忠告を受けた上で抗命すると言うなら、今後は連中を作戦に組み込む必要もなくなるだろう？」

「なるほどなー」

今回はしょうがないけど、次回からは『前回命令に逆らって問題になった』って実績を使えるもんな。

しかも銀の福音はその攻撃手段から、墜ちても海に潜れば追撃はない。

攻撃も即死するような威力はないってリンも言ってたよな。

二次移行が気になるところだけど、やっぱり弾幕である以上一撃はそんなに重くはないハズ。

「それにアイツらが負けたら更識簪が

出るらしい。話を聞く限りだと専用機は
第三世代型か第四世代型だろう」
サラシキさんなぁ。リンより強いって
話だからあの三人が負けても十分
リカバリーが効くだろうけど・・・
「第四世代型？紅椿以外にもあるのか？」
いやまぁ、俺の雪片も展開装甲らしいから、
データ解析されてたら同じのを造る
くらいは出来そうだけどよ。
「あくまで可能性だがな。冬林技研の
技術者は束と同類のＨＥＮＴＡＩだ。
束ができたことができんとは言い切れん」
おぉ・・・すげぇ説得力だ。
「とにかく、銀の福音とは相性がすこぶる
良いらしい。エネルギー弾のような攻撃
に対する備えが出来ているのだろう」
はぁ。それなら銀の福音は餌にしか

ならないよな。
確実に勝てる相手が目の前にいるのに
前に出て来ないのは、アイツらと
違って手柄を求めていないからか。
「ま、ラウラも居るのにサラシキさん
しか出さない余裕があるくらいだしな。
それにサラシキさんは司馬さんの護衛なんだろ?」

そんな人が出るって言うなら確かに
問題ないよな。
なんてゆーか近衛!って感じで強そうだし。
「その通りだ。更に言えば元日本の国家代表候補生でもある」
うぇ?エリートじゃん!その上でリンより
強いんだから、そりゃ近衛だよ!
「お前も、もしかしたら冬林技研に
所属するかもしれんのだ。
その場合は先輩になるのだから、今から

シツレイのないようにな」

「お、おう！」

確か司馬さんもサラシキさんも4組だろ？

4組には絶対に逆らわねぇぞ！

いやしかし、そこまで強い人が二次移行した銀の福音を見ても自信あるって言うんだから、どんな戦い方をするのか見てみたいよな。

どんな戦い方でも勉強になるだろうし。

接近戦か遠距離か。中距離で圧倒するって可能性もあるし、もしかしたらさっきのリンみたいなビームも見れるかも！

いやぁ楽しみだ！

『セシリア・オルコット、出ます！』
『同じくシャルロット・デュノア、出ます！』
『篠ノ之箒、行くぞ！』

あ、すまん。正直忘れてた・・・

第48話

「私は前衛として弾幕を捌けだと？
ふん。何故わざわざ私が型落ちの
足手纏いを守らねばならんのだ」
箒ちゃんは誰にも聞かれてないと
思ってるみたいだけど・・・残念！
束さんがちゃんと聞いてるのだ☆
けどアレだね～みんなの予想通り
箒ちゃんは完全に増長しちゃってるな～。
まぁリー君も予想してたし？
少し痛い目に遭って、機体性能だけじゃ
駄目なんだって気付いてもらわないと
箒ちゃんの成長はないからねぇ～。
だけど銀の福音？のＡＩがなぁ。
まさかＡＩ単独で二次移行するなんて

束さんも予想外なんだよ！
これは一回全部分解したいとこだけど、
かんちゃんが殺っちゃうからなぁ。
けどこの状態で搭乗者が死んだら
どうなるのかな？
かんちゃんの場合は両方殺しちゃうけど
その辺調整できるのってなかったかな？
「しかし良い事を聞いた。確かに私が
露払いしなければ一夏に付きまとう
２人はここで消せる、か」
をぉ～黒いなぁ。
黒い箒ちゃんも可愛いけど、意図的に
そんな事したら、ちーちゃんもいっくんも
怒ると思うんだけどなぁ。
「後は私を差し置いて幼馴染面している
凰鈴音だが・・・所詮アレも第三世代型。
一夏はアレの戦い方に関心していた

ようだが、あんなのは小細工を弄した弱者の戦い方ではないか。
私が強者の戦い方と言うモノを見せれば、一夏の方から教えを請いに来るだろうよ」
ん～貧乳のアレは小細工って言うか、リー君達が使う技術だよね？
アレは束さんみたいな天才の発想から生まれたのを、何十年も何百年も練磨して継承してきたモノ。
しーちゃんなんかソレだけで束さんに勝つこともあるし、リー君に至ってはもうアレだよ？
侮っちゃ駄目だぞ～。
それに紅椿の機体性能でごり押ししてもいっくんに真似は出来ないし、
参考にもならないと思うからあんまし意味ないと思うけどなー。

あ、でもかんちゃんがどんな戦い
をするかってことには期待してたよね！
まぁマルチプルパルスなんて見たら
シカタナイよね！
今回のかんちゃんは貧乳と同じように
コア1つ分しか使わない予定で純粋な
アルレシャの性能だけでヤるから、
オーバードウェポンは使わないことに
なっちゃったけど、いっくんはがっかり
しないかな？
けど見世物としてなら箒ちゃんの戦いも
それなりに面白いと思うんだけど、
かんちゃんと箒ちゃんの差は何なんだろ？
それが分かればいっくんも箒ちゃん
の戦いに期待してくれるよね？
ん～後でリー君か、かんちゃんに
聞いてみよ！

さてさて、束さんは箒ちゃんの凛々しい姿を見学しましょうかね。
いや～ほんと色々（）成長したよねぇ。
そんな恰好までしてるのにいっくんに迫れないのはどうかと思うけど。
まぁ紅椿もあげたし、自衛も出来るようになったから少しは積極的になるとは思うけど・・・
肝心のいっくんが箒ちゃんに失望してるっぽいんだよなぁ。
貧乳みたいに普通にするだけで良いのに、なんでいっくんに暴力振るうかなぁ？
ん～ん～わっかんないなぁ。
リー君ならわかるかなぁ？それともしーちゃん・・・は無理だね。
かんちゃんもちょっと違うからなぁ。
いや、人の恋路に口出ししたらリー君

に蹴られて死んじゃうからしないけど。
うんうん。失恋も一つの成長だよねぇ～。
・・・・・・・
『篠ノ之箒、突出しているぞ。
デュノアの速度に合わせろ』
「・・・了解です」
う～ん箒ちゃんは不満そうだねぇ。
「ちっ。型落ちが。足を引っ張るなら
出て来なければ良いモノを」
素直なのは良い事だと思うけどさ～
もぉ少し抑えるべきかなぁ？
それに、こーゆーのは一番遅いのに
合わせるのが常識なんだよ～。
「しかし連中より前に到着して私一人で
アレを倒してしまったら、連中は無傷の
ままだしな。手柄を私に独り占めされた
奴らが『アレはただの雑魚だった』など

と騒ぐ可能性も出てくるか・・・」
そんな発想が出てくるってことに
束さんはビックリだよ！
確かにかんちゃんやしーちゃん
からしたらタダの雑魚なのは確かだよ？
でも今の箒ちゃんじゃ一人で勝つのは
難しいと思うんだけどなぁ。
この自信は何処から来るのかな？
もしかしたら箒ちゃんには束さんも
知らない何かがあるのかな？かな？
「まぁ良い。戦場で味方の足を引っ張る
ヤツは、その味方に後ろから撃たれる
こともあるのだろう？」
うん。軍隊モノの映画とかには良くあるよね？
だけど、このままだと箒ちゃんが撃たれる可能性が高いと思うんだけど。
そんなことしたら束さんが撃った奴を処するけど！
う～ん。だけどどうしよっかなぁ。

追い込まれてから復っ活☆
ってのが恰好良いと思ってアレを仕込んだけど、今の箒ちゃんだと追い込まれた時点でパニックになっちゃうよね？
アレを解放するどころじゃなくなるだろうし？
あんまし無様を晒したらリー君に処理されちゃうかもしれないなぁ。
よし、パニックになったらエネルギー消費を増やしてエネルギー切れってことにして不自然じゃない程度のダメージで着水させよっか！
そんで教師かなんかが来る前に自動で逃がしてあげよう！
それで決定っ！
ふふ。箒ちゃん。意地を張るには力が必要で、その力って言うのは他人から貰える

モノじゃないんだよ？
ちゃんと自分で気付いてね～。

――――――――――――――

「箒め、やはり逸ってるな」
だよなぁ。アレは間違いなく命令違反するよなぁ。
俺が出てたら・・・どうだろうな？
それなりに配慮はしてくれると思うけど、連携は無理だ。
間合いが被るのがなぁ。
武装の関係から考えれば、俺がゼロ距離の
近接で箒が近距離よりの中距離って感じに
なるんだろうけど・・・無理だな。
リンなら交互に行くとか、俺が近接してる
時に相手の後とかに回ってサポートして
くれる可能性も有るけど、箒にはソレができる
だけの視野も技術もない。

間違いなく俺ごと斬られて終わりだ。
「お疲れ様で～す（Φ ω Φ）ノ」
「リン！」
戻ったのか。シャルやセシリアと比べて随分早いけど、まぁずっと海に潜って来るわけでもないしな。
それにアイツらは現着してから戦闘があるけど、リンは戻るだけで良いし。
うーん。全力戦闘に見えて、しっかり帰りの分の燃料も考えて戦ってるんだな～。
「うむ。戻ったな。見事な戦いぶりだった」
だよなぁ。完全に相手を掌で転がしてたし、ダメージも受けて無いからエネルギー補給したら即座に出れるってのもすげぇよ。
「あぁどうも。まぁ最後のアレは自分でもちょっとどうかと思いましたけどね」
最後のアレ？あぁ、二次移行か。

「仕方あるまい。そもそもアレが自爆する
予定であったのは事実だ。それが第三世代型
の二次移行に繋がるなど想像できんよ」
うんうん。そこまで予想出来たらそれはもぉ人間じゃねぇよ。
そもそも第三世代型の二次移行なんて
世界初の事なんだろ?そんなのわかるはず
ねぇって。
「いえ、それもありますけど、さっさと
海に潜るってことに気付かなかったのが
ねぇ・・・(・ω・)」
「「あぁ・・・」」
うん。アレはな。言われてみればそう
なんだけど、むしろいきなりの事なのに
あんな的確な指示を出せた司馬さんが
すげぇだけだと思うんだけど。
「司馬様からはこっちで三馬鹿の戦闘を
見てろって言われたけどさぁ。後で

私の戦闘記録見ながら矯正されるのが確定してるじゃん?もう怖くて怖くて・・・」

「きょ、矯正?」

な、なんていうか穏やかじゃないよな?

「あぁ、お前は知らんか。李家、つまり冬林技研の副所長門下生には『「未熟。故に矯正」の理』と言う理があってな」

「問答無用の理だな!」

反論の余地がねぇ!

「そうなのよ。実際に自分の悪かった所とか、どうすれば良かったのかっていうのを教えてくれた上でのモノだから成長につながるし、有り難いモノなんだけどね?」

言わなくてもわかった。物凄く・スパルタなんだな。けど、国家代表候補生が弱いってのもだめだろうから、きちんと指摘してもらえるのは

むしろありがたいことなんだろう。
それはそれとして、その内容が厳しいから憂鬱だ、って感じか。
「副所長は『人間が成長するには痛みが
必要だ』というタイプの人間でな。
体罰などイカン！ということは簡単だが、
実際痛みを知っている人間と知らない人間
では物事に対する慎重さが違うのも確かだ」
あぁ、一回痛い思いしたら繰り返そうとは思わないもんな。
少なくともセシリアとシャルはそういう
意味では痛い目を経験してるのか。
「それに、あのモップの入れ込みようを見れば何となくわかるでしょ？」
「あぁ、完全に浮かれてる。敵に恐怖とかを感じていないな」
箒はそういう痛みは経験してないからな。
「そうだ。今の箒は勇気と言うモノを
勘違いしている。
勇気とは高性能の武器を持って恐怖を
感じなくなることではない。

怖さを知りつつも前に出る心意気のことを言うのだ」

俺にも『怖気づいたのか?!』とか何とか言って来たもんなぁ。

俺からすれば未熟者が出しゃばったら周りが迷惑するってことを知ったから、プロの意見を優先するってだけのことなんだけど。

成長する為には自分を知らないと駄目だってリンに散々言われたし。

千冬姉やリンから貰った練習メニュー見たら俺のしてた練習は練習と言えるモノじゃなかったんだよなぁ。

そもそも一歩間違えれば分解されたり、女権団体に冤罪着せられるんだから、もっとしっかり上を見て鍛錬しなきゃ駄目だったんだ。

油断慢心ダメ絶対。せめてリンに並ぶ

くらいにならないと俺に未来は無いっ！
そのリンも厳しい鍛錬を積んでどんどん
成長してるんだから、リンより弱い俺は
必死で努力する必要がある。
本来はこんなところでモニター見てる
場合じゃないけど・・・リンの戦いを
見れたし、これからアイツら三人の
戦いも見れるからな。
「ちなみにリンの予想ではどうなんだ？」
勝てるってのはないだろうけど、
どれくらい持つのかとか気になるよな？
「ん～？まともな戦闘にはならない
と思うわよ（Φ ωΦ）？
モップが前に出て馬鹿正直に真正面から
向かって弾幕で迎撃されて撃墜。
阿呆が動けない螺旋頭をガードする為に
前に付くけど、シールド破壊されて撃墜。

螺旋頭は逃げまどって終わるんじゃない？」
なるほど。距離があるから回避に専念すれば同じ第三世代型のセシリアはそれなりに耐えられるのか。
問題は距離を詰められたときだけど、その場合は海ん中に逃げる？
「凰の言う通りになるだろうな。
素早い回収の為、何人か戦闘区域の海中に潜ませた方が良さそうだ」
千冬姉も同じ意見か。まぁアイツらが完璧な連携を組めるかって言われたら間違いなく無理だもんな。
「ちなみにリンならどう戦うんだ？」
俺、気になるぞ！
「私なら？さっさと簪を呼ぶわね」
「お、おぉ」
そういう意味じゃなかったんだが・・・

「うむ今回のような場合はそれが正しい。
敵の実力がわからない場合は、無理に自分で
解決しようとせず、解決できる人間に任せる。
これも立派なチームワークだ」
・・・なるほど。むしろさっき
みたいな質問をすること自体が未熟
ってことなのか。
「まぁ今のはちょっと意地が悪かった
けどね。でも、あんまり周りに自分が
未熟だって喧伝するような言動は控える
べきだと思うわよ?」
「あぁ、すまん」
こうして警告を貰えるだけ俺は恵まれて
いるんだよな。
「それを加味した上で答えるなら、
まずは中距離戦闘で相手の最大威力と
連射性能を確認するわね」

ふむ・・・なるほど。情報が無い相手
だからこそ敢えて全力を出させることで
情報を獲るのか。
「その選択もきちんと相手の攻撃を
捌けるだけの技量が有ってのものだ。
雪片を使えばエネルギー弾にも対抗
出来るが、織斑の場合はまだ回避技術や
エネルギー分配に難があるからな。
まだまだ単独での戦闘はさせられんよ」
うーむ。確かに雪片なら大丈夫じゃね？
とか考えたのは事実だけど、そうだよな。
相殺するためのエネルギーとかも良く
わかんねーから、無駄にエネルギー使うし。
「そうね。それに一夏には私みたいに中距離
攻撃もないから、常にヒットアンドアウェイ
しなきゃ一方的に撃たれて終わりだからね。
しかも二次移行したせいで砲の位置とかも

わからなくなったから、エネルギー弾を
狙って捌くのは難しいわ」
なるほど。とりあえずの対策は中距離
から間合いを外して弾幕の密度を
薄くして回避するか、シャルみたいに
シールドを掲げて防ぐか。
箒なら第四世代型の性能を使っての
切り払いを選択させるのか。
俺の場合も切り払いか回避。あとは
身体の前に雪片を掲げて防ぐ感じか。
だけどそれだと攻撃できないもんな。
「やっぱりアレと戦うには最低でも二人か
三人必要になるよなぁ」
流石に一人で何とかするのは無理だ。
「普通はね？リミッターを外した軍用の
第三世代型で更に二次移行した機体なんか、
競技用の機体を使った学生が二人か三人で

何とか出来るものじゃないわよ?」
あ～それもそうだな。
それでも二人か三人って言葉には
否定の意見が出ないのが白式の凄さ
なんだろうけど。
「今回はこっちの戦力は第四世代型が1機・
第三世代型が1機・第二世代型が1機
でしょ?まぁ千冬さんが言った通り
動けばソコソコ戦えるし、情報も取得
出来るから任務的には達成なんだけどね」
アイツらがなぁ。特に箒がヤバイ。
「箒が落とされたら撤退、いや避難か?
しないとまずいってことだよな?」
アイツらはその引き際の見定めもできるか
どうかってのも見られるのか。
「そうね。遠距離で弾幕を捌きながら
戦えるだけの技量が有れば良いけど、

目標だって止まってるわけじゃない。
螺旋頭は間合いを詰められたら
終わるし、阿呆は単純に性能不足」
うん。勝てねーな。
「それでも情報収集に専念するなら
それはそれで評価対象ではあるが、
自分が墜ちたら意味がないからな。
やはり引き際が重要になる」
千冬姉も箒が墜ちること前提だし。
「けどさぁ千冬姉？箒が堕とされたら、
束さんがブチ切れたりしないのか？」
本人がここに居なかったらアレかも
知れないけど、ここに居るだろ？
あの人が『超強力ＩＳ破壊ミサイル☆』とか
言って核に匹敵する攻撃をしたり
するんじゃないのか？
「あぁ、束からは『箒ちゃんが自分で

出るって言ったなら束さんはソレを
応援するんだよ！その結果負けても
しょうがないかな？それも経験だしね！』
というメッセージが来ているから大丈夫だ」
おぉ。何というか、当たり前の
ことなのに違和感を感じる。
「織斑が言いたいことはわかる。
だが束がここ数年で人間的に成長している
ことは事実だ。もし実際等に取り返しの
つかない傷がついたらどうなるかは不明……
いや、アイツが治療するか。
つまり、死なない限りは地球破壊爆弾
みたいな真似はせんだろう」
死んだらやるのかよ！
「その場合は副所長さんが止めると
思うから大丈夫だと思うわよ？」
う～ん。自信満々だけど、リンは

束さんの規格外さを知らないからなぁ。
「副所長さんってさ、よく話を
聞くけど、政治家なんだろ？流石に
箒の件で切れた束さんを止められるほどの
人じゃないと思うんだけど」
「・・・」
なんか国連で話してるの見たけど・・・
見た目は細いよな？なんつーか黒い軍服が
似合いそうな人ではあったな。
ん？なんか空気が変わったか？
「一夏、司馬様たちの前でそんなこと言ったら絶対駄目よ」
「お、おぅ」
やべぇ。リンがめちゃくちゃ真顔だよ。
「そうだな。本来なら凰の前でも言う
べきではない。
副所長、いや、教頭本人は笑って許すが、
周囲はそうではないからな」

「お、おぅ」
やべぇ。千冬姉もめちゃくちゃ真顔だよ。
「わかりやすい例を挙げるなら、
教頭は竜巻を自分で造って自分で壊す
ような人間（？）だ。私も束も生身では
勝負にならん。逃げることも不可能だ。
故に怒らせたら普通に土下座案件だな」
「はぁ？副所長さんって社会的に偉い
だけじゃないのかよ?!」
竜巻？自然現象だろ？壊すってなんだよ！
一層わからねぇよ！それに、千冬姉と
束さんが揃って土下座すんの!?
そ、想像できねぇ・・・
「無論社会的な立場の違いもあるが、束
がそんなのに恐れ入るわけがないだろう。
普通に強いし怖いんだよ」
そ、想像できねぇ・・・

「ふむ。こう言えばわかるか？教頭は
ノリにノったキサラギさんを真正面から
力で止めることが出来る人だ」
「すげぇな！」
あの人を止めるって想像出来ねぇよ！
「まぁそんなわけだから、副所長さんの
能力を疑うような発言は止めてね？
もしも『私が容認した』なんて思われたら
リアルに地獄見るんだからね！」
「お、おう」
リアルに地獄って・・・いや、面白半分で
突っ込んだらダメだな。いきなり
後ろから出てきて『ならば経験するか？』
とか言って殺られそうだ！
「うむ。そもそも司馬監査員の婚約者でも
あるのだから、教頭に対する無礼は司馬
監査員に対する無礼にもなる」

「それはほんとにダメなヤツじゃねーかっ！」
そんなん最優先で知らなきゃ駄目なことだろうが！もっと早く教えろよ！
「うん。社会的にはそれで正解なんだけど……」
「だな。普通は司馬監査員の方が有名なんだ。一夏の反応が正しいのだろうが……」
なんだ二人とも微妙な顔して？
「「知らないって怖いな（わ）」」
いや知らないも何も、司馬さんの旦那さんってことは婿養子みたいなもんだろ？
竜巻がなんの例えなのかが良くわかんねぇけど、いくら腕力とかが強くてもいろんな意味で司馬さんには勝てねぇだろ。
「まだ良くわかってないみたいだけど、とりあえずは良いわ。あんまり喋って情報漏洩扱いなんかされたくないもの」
うわぁ。あのリンが完全に怯えてるよ。

「あぁそれもあったな。一夏、基本的には
彼のことは話題に出すな。
噂に対して下手なコメントも厳禁だ。
誰かがナニかを言ってきてもシツレイが
ないような言葉選びをするように」
千冬姉も若干怯えてる？それとも俺がシツレイ
な事して消されるのを警戒してるのか？
まぁ知らないからってシツレイして良い
レベルの相手じゃないからな。
うん。気を付けよう！
「警告が終わったところで、丁度良く連中も現着したみたいね」
お、そうだそうだ。箒たちが銀の福音に
向かってたんだよな。
「さて、二次移行によってアレは先程までとは
基本性能もまるで違う機体になったはず。
連中がどこまで耐えられるか・・・」
千冬姉も勝てるとは思ってないのな。

「戦い方や基本的な武装は変わらないから、
変わるのは速さと攻撃の強さなんだよな？」
どれだけのスピードで間合いを詰めるのか。
さらにシャルの防御がいつまで持つか。
それによって速度と攻撃力を算出する
わけだな。
「そうね。さらにこっちは遠距離で先制する
つもりだけど、相手がいつまでもその距離
を維持させてくれるはずがない」
つまりは前衛の箒次第ってことか・・・
もうこの時点で駄目な気がするのは
俺だけか？

「さて、見た目は多少変化したようだが、
所詮は第三世代型！
私の敵ではないと言うことを見せてやろう！」

あっ、このバカっいきなり?!
「いきなり何してんのさ！僕たちは前衛として弾幕の対処するのが仕事だろ！」
素人だからってコレはないよね！
「そうですわ箒さん！不用意に間合いを詰める前に、まずは遠距離攻撃に対する相手のリアクションの確認をするのが今回の作戦ですわ！」
そうだよ！話聞いてたの!?
「確認など不要！私が沈めてやるっ！」
普通に命令違反じゃん！
いや、たしかに英国人のお守りなんて仕事は楽しくないだろうけど、織斑先生が決めた正式な命令だよ?
相手が想定外の行動を取ってきたとかならまだしも、気分で命令に逆らえばどうなるかも考えられないの?!

「くそっ！オルコットさん。これから弾幕が
来る！もう狙いを定めてる余裕なんかない
から、動きながら撃ってよね！」
そもそも敵に姿を晒しておきながら、
動きを止めて撃つなんて言うのがおかしい
んだよ！コレだから英国面とか言われるん
じゃないか！
「命中率は下がりますが仕方ありませんわね！
防御はお願いしますわ！」
「何発耐えられるかわかんないけど、できるだけやってみるよ！」
僕もコイツも最低限の仕事は果たさないと
ヤバイのは一緒だからね！
せめて何発かは受けたり捌いたりして
連射速度と威力は測らせてもらうよ！
「行くぞっ！てやぁぁー！」
行くぞって、何でアレだけの性能が有る
機体で真正面から突っ込むんだよ！

正妻気取りの戦い方を見てなかったの?!
上下前後左右に敵を揺さぶっていただろ!
それとも簡単にやってるように見えたから
自分でも出来るって勘違いしたの!?
「あ～もぅ!何なんだよアイツはっ!」
あんな馬鹿に第四世代型なんか持たせるなよ!

「アレはもう、なんて言うか。完全にダメだね」
てっきり私みたいに兎さんの妹として比べ
られてきたからあんな風に歪んだのかな?
って思ってたけど、兎さんはあくまで天才
科学者だもんね。
あと、個人保護プログラムの対象として兎さんの妹であることは秘匿されていから、
普段から比較されたわけでもなければイジメを受けたわけでもない。

そもそもの話、頼んだら第四世代型をくれるくらい愛されてるなら、ソレで良いじゃん。

アイツの性格があんな風に歪んだのは、
アイツ自身の弱さと保護観察役の教育不足。
愛されてることに甘えてるから駄目なんだよ。
一家離散がアレなのかも知れないけど、
この歳になったら事情くらいわかるでしょうに。
まぁ、だからこそ専用機を貰うことで心理的にチャラにしようとしたのかな？
随分と高い自己評価だねぇ。
それかＩＳを低く見積り過ぎだよ。
あのままただの学生で居たら大佐殿から見ても保護か教育対象だったのに、
自分から兵器を欲しがり戦場に出るなら言い訳は一切聞かない。
今のアイツはただの未熟者。ソレ以上でもソレ以下でもない。いや、味方の足を引っ張ってる

からタダの未熟者以下か。
『くっ何だこの弾幕はっ！先程より圧倒的に多いではないかっ！』
そりゃ真正面から行ったら弾幕も集中されるでしょうよ。リンちゃんの何を見てたの？
『うわっ！一撃でこんなにっ?!』
所詮は競技用の第二世代型。防御特化装備にしたのは良い判断だけど、出力がねぇ？
『あ、当たりませんわ！』
そりゃそうでしょ。近接戦闘でリンちゃんの攻撃を回避できるんだよ？
遠距離狙撃・・・狙えてないから射撃か。
そんなのが当たるはずないじゃん。
当てたいなら被弾覚悟で動きを止めて相討ち狙いか、もう少し間合いを詰めてビットと併用すべきだね。
ま、ビットと射撃の両立が出来ない時点でアウトだけどさ。

『う、うぉおおお

だと思うんだけど？
『特尉、出撃準備を』
「はっ！」
司馬少佐もこれ以上は無駄と判断した
みたいだね。
ま、予想以上には粘ったと思うよ？
後はさっさと落とされて回収されれば良い。
・・・奴らに私の戦いを見せるわけには
行かないからね。
『くそっ！足手まといさえ居なければっ！うわぁぁぁぁぁ！』
足手まといねぇ。どっちもどっちかな？
『は、速い！コレが第三世代型の二次移行機っ！きゃぁぁぁぁぁ！』
へぇ瞬時加速もしてきたか。搭乗者が気絶して
も使ってくるのは意外だったね。
う～ん。それを引き出したのは一応お手柄
なんじゃないかな？
・・・私には関係ないけどね。

前座ご苦労様でした。あとは私が片付けてあげる。
自衛隊も在日米軍も、日本の国家代表も
織斑千冬も更識楯無もＩＳ学園のアホ共も。
貴様らが想像もできない高みの存在を
私が教えてやるぞ。
己の無能を噛み締めろ！

「冬林技研所属更識簪。アルレシャ出ます！」

第49話

うわぁ・・・なんかあっさり負けたな。
堕ちた順番が予想と違ったのは、紅椿のＡＩが予想以上に優秀だったからか。
「ん～まぁモップはアレだけど、螺旋頭と阿呆は良くやった方じゃない？」
そ、そうなのか？良いところが全くなかった感じなんだが。
「だな。弾幕ですら第二世代型の防護特化の楯なら容易く撃ち抜く威力があるということがわかったし、瞬時加速も見れた」
「な、なるほど・・・元々の任務は連射性能と攻撃力の調査だから、それに加えて移動速度も見れたなら偵察としては十分なのか」
弾幕の量は箒が食らったことでわかるしな。

命令違反ではあるけど最初から織り込んでいたから、失望することも怒りもないってか？

「そういうこと。それにしても・・・

モップはアレね。わざと前に出て螺旋頭と阿呆を先に落とさせようとしたみたいね」

「はぁ？」

ただ入れ込んだだけじゃないのか?!

なんでそんなことを!

「そうだな。おそらく手柄を独占しようとしたのだろう」

あ～手柄の独占か。第四世代型をもらって浮かれてたし、シャルやセシリアがヤられたのを倒すって結果を出せば自分がコネだけの存在じゃないとでも言えたかもな。

俺だって男だからって理由で専用機を貰ってるからわからないではないけどよ。

束さんに頼んで造って貰ったっていう事実が

ある以上、それは甘んじて受け入れるべき評価だろうに。
んで、これから努力して専用機持ちに相応しい技量を手に入れれば良かったのに、今回焦ったせいで信用を失っちまった。
連携を乱して仲間を見捨てて突っ込んで負けたって・・・もう最悪だろ？
慰めの言葉もねぇよ
「・・・まぁそうですね」
ん？何か言いたげだな？
「とりあえず全員生命反応に異常はない。セシリアとデュノアは帰投中。
箒は・・・気絶しているようだが、機体がオートで動いて帰投しているようだな」
オートで帰投ねぇ。学習型ＡＩの中にそう言うプログラムがあるんだろうけど、
銀の福音みたいに暴走とかしないよな？

「オートで帰投ですか。なんかそのままＡＩに戦わせたほうが良いような気もしますね」
あ、リンも似たようなこと考えたか？
「そうなっていればおそらく紅椿が圧勝していただろうよ。
バイタルや視線の動き。さらに弾幕に対する防御行動を見ても今のアイツはあまりに未熟だ」
あ～うん。無駄に興奮して、無駄に視線を動かして、無駄に落とさなくても良い弾幕まで落としてる。
「もしかして、箒が堕ちたのってダメージじゃなくエネルギー切れか？」
なんかそんな感じだよな？
「そうね。雪片と一緒でエネルギーを刃に乗せて切るタイプだから、あんなに闇雲に振り回せばそれだけエネルギーを使う

ことになるから。
生命維持と帰投用のエネルギー以外はほぼ空でしょうね」
まさしくセシリアと試合したときの俺と同じ状態か。
エネルギー残量とか消費量がわからないからガス欠するんだよな。
「ま、瞬時加速が見れただけでも十分よ。これで簪に負けはなくなったわ」
「なんつーか、凄い自信だな」
あの速さであれだけの威力の弾幕をあんなに連射してくる敵なのに。
「まぁね。機体性能とかは流石に機密があって言えないけど、相性が良いし。ソレに瞬時加速はその機体が出せる最高速度だからね。それさえわかれば間合いなんか掴み放題よ」

あぁそうか。最高速度がわかってればそれ以上の速度はないんだもんな。
例え時速３０００キロだろうがそこまで出せるってわかっていれば安全な距離を算出できるし、機械には技や駆け引きがないから自由に転がせるのか。
うーむ。やっぱり深い。
ＩＳ戦闘に剣道はいらないけど、そう言う技を磨くのは大事だな。
「さて、簪が出るわよ。千冬さん。教師陣を第二防衛ラインからさらに下げて貰えますか？」
「何？」
ん？第二防衛ラインから下げたら
サラシキさんが負けなくても、
抜かれるだけで不味いんじゃないか？
「さっきも言ったように機密が有るから

全部は話せないんだけど、簪の機体には
見せ武器が二つ有るのよ。その一つが
広範囲に影響を与える武装でね？」
「見せ武器？」
なんじゃそら？
「読んで字の如く、見せても良い武器よ。
知ってのとおり簪は司馬様の護衛でしょ？」
「あ、あぁ」
護衛なら武器を見せちゃダメなんじゃないのか？
「本来護衛が武器を見せびらかすのは
アレだけど、簪の場合は抑止力って
意味もあるのよ」
抑止力？
「・・・なるほどな。強力な武器を
持っている護衛が居るとわかれば、
刺客も容易には手を出さんと言うことか」
あ、あぁ～なるほど。

そもそも襲われないのが一番だもんな。
そのために、敵を威圧する為に見せる武器があると。
で、その武器が教師を巻き込む可能性があるくらい強力なんだな？
「もしかしてさっきのレーザー？みたいなの使うのか!?」
だとしたら是非見たい！
「ん～どうだろ？私が使ったのは実験とＡＩに対する牽制があったからだけど、簪の場合は・・・そういうの大好きだけど今回は司馬様の命令で出るからね。公私混同はしないんじゃないかしら？」
趣味と実益を兼ねるならまだしも、趣味だけじゃ使わねぇってことか。
あのレーザーだってコストを考えればすげぇことになるんだろうし、無理も

ないか。
「残念がってるけど、今の私たちは簪から学ぶことが沢山あるわ。見せてくれるものは全部見るくらいの感じじゃないと成長なんか出来ないわよ？」
「そ、そうだな！見取り稽古だって立派な稽古だ！本来なら司馬さんの護衛の戦いなんか見れないんだから、しっかり見せてもらわなきゃな！」
『冬林技研所属更識簪。アルレシャ出ます！』

お！出た！機体の色は黒メインで、所々に金のラインが入った感じか。なんて言うか、帝国軍人！って感じだな！けどなんだ？何か違和感があるぞ？
「ほう。これは中々……」
千冬姉？

「……ですね。流石は更識簪。司馬様の護衛は伊達じゃないと言ったところね」

リン？

なんだ？二人は何に感心してるんだ？

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「簪ちゃんが出撃ぃ!?」

凰鈴音の一騎打ちでの奮闘から

銀の福音の二次移行。さらに

専用機持ちの三人が敗北するといった

怒涛の展開から、まさか司馬監査員が

護衛の一枚を切ってくるとは。

「じゅ、十蔵さん！止めて！

今すぐ簪ちゃんを止めてっ!!」

なにを言ってんだコイツ？

「無理です」

彼女はＩＳ学園とは別の指揮系統に

有るから、我々では止めることができん。

さらにＩＳ委員会の決定である「第三世代型の専用機持ち」でもあるから止める理由がない。
「うわぁぁ！あ、あんなのに一人で勝てるわけないじゃない！
だって連携が出来なかったとは言え、同じ第三世代型のオルコットさんや第二世代型だけど技術は有って、さらに防御特化のデュノアさんが瞬殺されたのよ？」
まぁそうだな。篠ノ之箒が暴走したことで３機での連携は連携以前の問題となったが、それぞれの動きは決して悪いものではなかった。
しかも今回はデュノアが防御に専念し、オルコットが狙撃に専念すると言うことで２機の連携は悪くはなかったのだ。
それなのにデュノアを性能差を利用した高威力の弾幕で押しつぶし、オルコット

を瞬時加速で間合いを詰めての弾幕で
一方的に潰した。
篠ノ之箒が粘れたのは・・・機体性能の
おかげだな。
闇雲に振り回してるだけの攻撃が
うまく機械にアシストされて弾幕を相殺
出来ていただけだ。
現地からの報告では、新人で初陣のガキ
が入れ込むのは当然のこととした上で、
弾幕の連射性能の確認と威力調査。
最高速度の確認とエネルギーの消費と
いった偵察に必要な事項はしっかり
確認出来たので、差し引きで功罪なしと
いう報告が上がってきているな。
・・・そもそもこちらは篠ノ之箒に対して
罰を与えることなど出来んのだから、
この報告書は渡りに船。

オルコットも二次移行した第三世代型の
情報を本国へ送れただろうし、
デュノアもＩＳ学園の指揮の下で仕事をした
という実績にもなった。
ここで司馬監査員が動いたのは、ＩＳ学園
の見せ場は終わりと言うことだろうな。
「きっと司馬のヤツが、可愛くて最高の
側室である簪ちゃんを潰すために嫌がる
簪ちゃんを無理やり脅して向かわせた
に決まってるわ！」
まだ言ってたのか・・・
「いやこの場合は、むしろ更識簪さんに
手柄を与える為に出したのでしょう」
実戦での手柄は武門の家にとって何よりの
説得力になるからな。
李家の中の連中を納得させることにもなる
からこその出撃だろうよ。

「それだって勝てなければ意味がない
じゃないですか！名誉と共に死んだら
意味ないんですよ！」
コイツはそんなに妹を殺したいのか？
「いや、現地の凰さんからも教師が
巻き添えを食らうから下がるようにと
いう提案まで出てます。
彼女には必勝の策があるのでしょう」
いざという時の援軍すら不要と言い切る
のだぞ。これは確実に堕とすという自信
の表明だろう。
「え、援軍をなくした!?それじゃあ
簪ちゃんが落とされたら誰も救助
出来ないじゃない！
本音！本音は何をやっているのっ!!」
まぁ、曲解すればそうなるんだが・・・
『う～専用機持ち以外はお部屋で待機

命令が出ちゃってます～。更に生徒がおかしなことをしないように監視付きですし、私は特に見張られてます～』

織斑千冬が非常事態に更識関係者にウロチョロされるのを嫌ったか。

まぁ指揮官としては少しでも目の前の敵に集中したいだろうからな。

「か、簪ちゃーーーーん！」

まったく。もう少し妹を信用出来んのか。

あれだけの強さを見せた銀の福音だぞ？

ここで沈めることが出来なかったら司馬監査員にも被害が出る可能性がある。

それなのにラウラ・ボーデヴィッヒや凰鈴音を出さんで更識簪一人で出すと言う意味を考えろよ。

いや、考えて曲解した結果がコレなのか。

もう救えんな・・・

『冬林技研所属更識簪。アルレシャ出ます！』

トチ狂った妹魂の更識は置いておこう。

まずは見せてもらおうか、冬林技研のＩＳの性能とやらを！

「か、簪ちゃーーーん！・・・えっ?!」

ん？更識簪の映像が出てまた騒ぎ始めたと思ったらいきなり止まった？

真顔で画面を凝視しているが・・・普段からこのくらいの真面目さを見せれば、従者の布仏虚も気が楽になるだろうに。

「・・・コレ、本当に簪ちゃん?」

いや、全身装甲型だから顔はわからんが、ここで素性を偽る理由はないだろう？

彼女に何か違和感でもあるのか？

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「なぁリン?何か違和感があるのは

わかるんだが、これは何だ？
千冬姉もリンもこれがなにか知ってるんだよな？」
ん？あぁ一夏にはまだわかんないかな？
「一夏、その違和感は大事にしなさい」
今後もＩＳに関わっていくならこれを理解して実現することが一流のＩＳ操縦者の証になるからね。
「私も正直更識簪を見縊っていた。
まさかこれほどの実力者とはな」
ですよねー。こんなのを飼い殺しにしてたんだから日本って馬鹿ですよね。
「この感じが大事なのはわかった。
それでこの違和感は何なんだ?!」
まぁ引っ張ってもしょうがないか。
「色々な要素があるんだけどね。まずは簪の技量よ」
「ぎ、技量?」

そうとしか言い様がないわね。
「そう、簪の飛行には一切の無駄がない。
姿勢のブレもなければ、空気抵抗に対する
シールドも最低限しか張ってないわ」
「そうだ。その上で速度を出しつつ
周囲の警戒も怠っていない。
つまり更識簪は機体性能頼りで飛んで
いるわけではない。
風すら掴んで空を泳いでいると言った
方が近いのだろうな」
千冬さんの言うとおり。まさしく空を泳いでるわ。
「えっと、それだとどうなるんだ?」
何も考えないで飛んでわからないわよね。
「まずエネルギーの無駄な消費がなくなるわ」
最後の最後で一発分の銃弾が明暗を
わけることもあるからね。
「次に各種の機械の負担が減るな」

エネルギーとはちょっと違うけど、
まぁ同じ方向性よね。
「機械の負担？」
「そうよ。重力に逆らって空を飛ぶという
行為は、簡単に見えてかなり複雑な計算と
物理現象の上に成り立ってるの。
それらを軽減することで空いた容量を
ストックすることもできれば、他に回すこと
もできるのよ」
ラウラのヴォルフガングが空を駆けるのとはまた違う。
静かだけど恐ろしいまでの威圧感がある。
魚どころじゃない。空を征く黒い鯨よ。
アルレシャは元々そう言う設計なんだ
ろうけど・・・月末に仕上がった
ばかりでしょ？
それなのにあそこまで無駄なく使い
こなすのは、あの機体を簪が考案・設計

してその癖を全部掴んでるからか。
この分だと簪の機体に対する理解度は、もはや司馬様を凌ぎ、篠ノ之束や副所長さんに次ぐというのも本当ね。
「あ、あぁなるほど。その無駄のなさと風を掴む？技量がこの違和感の正体か」
「それだけじゃないわよ？」
それはあくまで動作に関してでしょ。
「え？」
それじゃ簪の技量はわかっても怖さまではわからないわ。
「そうだ。更識簪はさっきの三人と違い、データ取りだとか手柄などは一切考えていない。ただ『敵を殺す』というだけの意思をもって動いている」
そう。この精神の歪みのなさが生む空気こそ実戦の空気。
「さ、殺意ってやつか？」

「「それは違うぞ（わ）」」
「え？」
　簪が纏うのは純粋な殺意じゃない。
　ただ処刑人が罪人を殺すが如くよ。
「簪はね？銀の福音をまな板の上に
　乗った鯉程度にしか見ていないの。
　食材に殺意を抱く料理人なんかいないわ」
「しょ、食材って。あの銀の福音が？」
　二次移行した後の速度や、攻撃力の
　増加には目を見張るものが有った。
　だけどそれだけね。
「そうよ。簪にとってはもうアレは
　処理するだけの獲物なのよ」
「そうだな。戦いに感情を持ち込まない
　のはプロの鉄則だ。
　・・・戦場に華などない。相手の夢も誇りも
　未来も命も、その全てを奪い合うのが戦場だ。

もし一夏が「何も奪いたくない、だけど何も奪われたくない」と物語の主役のような事を言うならば全てをねじ伏せる意志と力を持て」

「・・・」

まったくもってその通りよ。中途半端が一番ダメ。今の簪は決められた行動を、決められた通りに行って、決められた結果を出す機械。それも戦場で敵として遭遇したら、間違いなく問答無用で殺される殺戮機械よ。これが【更識】としての簪、か。

・・・こんなのを飼い殺しにするなんて本当に日本政府は何を考えてたの？

ーーーーーーーーーーーーーーーー

なるほど。処刑人としての更識か。確かに処刑人は罪人に対して敵意を

抱かんだろう、殺意も抱かんだろう。
ただ粛々と刃を落とすだけだ。
はっきり言って目の前の更識楯無より
よほど更識に相応しい人材だ。
逃がした魚は大きい。いや、大きすぎた。
李家は更識簪の中にコレがあるのを
知っていたのか？
「まさかあの簪ちゃんが……よりにも
よって絶対になって欲しくない暗部と
しての更識に目覚めるなんて」
家族が何を言おうが、体に流れる血は
否定できん。
更識の人間と知りながらきちんと管理せず
放置したのが失敗だったか。
「司馬仲達！簪ちゃんを地獄に導いた
アイツだけは絶対に許さないっ！」
いや、お前らが放置しなければなんの

問題もなかっただろうに。
そもそも更識が生きることが出来るのは
地獄だけ。今回はより深い地獄にいた
李家の教頭と司馬監査員が、キサマらの
用意した鳥かごから彼女を連れ出した
だけだろう?
それに司馬監査員に対して敵意を持つ
のは頂けないな。
向こうはいつでもこちらを殺せる
事を忘れていないか?
更識家如きがなんとか出来る相手じゃないぞ?
・・・はぁこの場合は、私も連帯責任で何か
されるのだろうか?
いやだなぁ。
┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗┗

・・・目標まで距離１００００。

位置・高度は変わらず。体勢は、丸まってる？
この位置まで来て動きがないってことは
自分の有効射程内に入るか、ロックオンさえ
されなければ動かないってこと？
アレがなぜ動かないのかはしらないけど、
すでに破壊の許可は出ている。
あんな目立つ場所で佇んでる余裕が
あるなら、どこぞに隠れて待機状態に
なっていれば搭乗者は救えただろうに。
所詮は未熟なＡＩ。大佐殿は成長したら
個性と見るかもしれないけど、本来
兵器に心なんか不要なんだよ。
ま、そもそも宇宙服だったのを兵器として
改造された己の不幸を呪うんだね。
「超振動突撃刃夢現起動（ゆめうつつ）」
『・・・？』
規格外でもないし6連でもないのがアレだ

けど、今回はこれで十分。
「円状十二王方牌大車併展開」
『ｌａ～♪』
ん、気付いた？だけどどうする？
弾幕を展開する気？その距離で？
・・・エネルギー弾は曲射出来ないから
どうしても距離１００００の敵に当てる
には接近するしかない。
けれども、瞬時加速で見せた推定最高速度
マッハ３でも９～１０秒かかるぞ？
有効射程が距離１０００なら８～９秒。
どちらにせよ終わりだ。
『ｌａ～♪ｌａ～♪』
良いのか？接近すればするほどコレはハマるぞ？
「沈め。天魔波旬交響曲（ロイヤルデモンシンフォニー）！」
リィーーーーーーーーーーーーン

『lalalalalalalaaaaaaaaaaaaaaa!!!!』

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「何が起こった?!」
「わ、わかりません！いきなり画像がっ！」
な、なんだ?銀の福音が凄い勢いで
サラシキさんに向かったと思ったら、
いきなり画像が荒くなったぞ?!
サラシキさんは、なんか丸い玉みたいなの
を出して削った?みたいだけど・・・
「あー先にソッチか。じゃあ銀の福音は
もう終わったわね（Φ ω Φ）」
「はぁ?」
リンは何か知ってる?もしかしてこれが
サラシキさんの武器か?!

「・・・凰、コレは説明できるのか？」
ん？千冬姉の言い方が微妙だけど・・・
あぁ、そっか。司馬さんは学園とは違う
指揮系統だから、その技術について
教えろって命令は出来ないのか。
「アレは見せ武器ですから大丈夫ですよ」
見せ武器。そうだよな。別に隠そうとも
してなかったもんな。
「アレは音波と衝撃で超広範囲に強力な
各種妨害電波を発信するモノです」
「各種妨害電波？そ、それで画像が荒く
なったのか。だけどなんでそれを？」
今にも襲われるって時にすることか？
「あの妨害電波はね。人間が喰らえば
内臓が共振破壊を起こすし、機械が
喰らえば振動で部品が破壊されるわ。
更にジャミング機能によりハイパー

センサーをはじめとした各種機能を
無効化し、衛星との接続も絶たれる上に
機械系統に対して特殊な信号を流すことで
欺瞞情報の錯綜を発生させるの」
えげつねぇな・・・
「なるほど。人間の体は大部分が水分で
出来ている。そこに特殊な音波を複数方向
からブチ込むことで体内から破壊するのか」
えげつねぇな・・・
「そうです。さらに今の銀の福音はＡＩ
が動かしてますからね。
ＡＩが動かしているのにセンサーが動かない。
さらに情報もデタラメなモノが流し込まれ
ますので、もうアレはタダのゴミですよ」
えげつねぇな・・・
「なるほど・・・まさに処刑だな」
だよな。戦うとか戦わないなんてチャチ

なモンじゃ断じてねぇ。
もっと恐ろしいものを味わったぜ！
「中の操縦者に関しては、うまく間合いを外したり、音波に対しての対処をしていれば死ぬことはありません。
ただ機械系統は壊滅しますので、篠ノ之箒のような機体性能頼りのヤツは瞬殺されてしまいますね」
なるほど。護衛として考えればＩＳで司馬さんを狙っても、いきなり機能を強制停止させられるようなもんか。
千冬姉とかリンみたいに機械性能に頼らずに戦える人間ならまだしも、機械が動かしてる銀の福音じゃどう転んでも勝てねぇ。
そりゃリンも安心して見てるはずだよ。

―――――――――――――

中の搭乗者は死んだか？それともまだＩＳが解除されていないから瀕死？
センサー系統と各種バランサーが破壊されたのにまだ姿勢を保って空に浮いてるのは・・・ＰＩＣは破壊されなかったか。
兎さんには良いデータになったかな？
それで、問題はコイツか。油断して確認のために近づいたら、最後の力を振り絞った反撃を受けるんでしょ？
誰が引っかかるか。
「ドリルモジュール　叢（MURAKUMO）　起動」
確認は殺した後で。コレが常識。
『・・・』
スラスターを使った瞬時加速が貴様の

専売特許だと思うなよ。
「搭乗者ごと死ね」
ギガ・ドリル・ブレイクウウウウウ！
『ｌａｌａ～！』
ーーーーーーーーーーーーーーー
おぉぉぉぉ！なんか、なんか足に
ドリルが出たぞ！
「おそらく中の搭乗者は死んでるわ。
だけどＡＩが生きてる。簪は止めを刺す気ね」
「え？なんでＡＩが生きてるってわかるんだ？」
さっきのは機械にとって致命の一撃なんだろ？
「一夏。奴はまだ浮いているだろう。
つまりＰＩＣを制御する機構は生きている」
あ、そうか！
情報がデタラメで現在地も何もわからない
から身動きがとれないだけで、ＡＩ自体は

死んでいないのか。
それで止めを刺すために選んだ武器がドリル！
「本来の試合用だとドリルじゃなくて
薙刀なんだけどね。
今回は機械を完全破壊するのが目的
だから破壊力と貫通力重視にしたのね」
いや、俺にはわかる。アレは効率とか
破壊力とかじゃねぇ。ロマンだっ！
「本来なら搭乗者が死んでいる機体に
追い打ちなどかけさせたくはないが、
ＡＩが暴走している以上、これから
どうなるかわからん。
ましてこの状況で自爆などされたら
環境にも悪影響が出るからな」
・・・そうだよな。ロマンとか以前に
人が死んでるんだもんな。
流石に不謹慎だった。

「おそらく一撃で終わらせるわ。
一夏、よく見ておきなさい。
戦いの場に立つからには中途半端は
絶対にダメ」
「・・・あぁ」
「あの敵を生かしておけば、ここにいる
１００人の学生が死ぬ可能性がある。
私たちには敵も味方も全部助けるなんて
不可能なんだから、絶対に守るべきもの
を心に決めて。
優先順位を忘れちゃダメよ」
『勝負が終わったから殺すな』なんて
舐めたことは言うなってことだろ？
そうだよな。見ず知らずの搭乗者さんには
悪いけど、あんたと千冬姉のどっちかを
選べって言われたら、俺は迷わず千冬姉を選ぶ。
今回はサラシキさんが殺ってくれたけど、

次は俺が殺ることになるかもしれないんだ。
他人事と思わず、結末まで見届けるのが筋ってもんだろ。
『搭乗者ごと死ね』
一直線！一気にぶち抜く気だなっ！
『ｌａｌａ～！』
はぁ?!まだ動けたのか！
それにあの弾幕の量はヤバイだろっ！
「マズイ！簪の速度が乗りすぎてる！」
リンが焦ってる?!これは計算外なのか?!
「直撃するぞっ!!」
千冬姉も?!まさかほんとにピンチなのか!?
まずいぞ！教師陣を下がらせてるから救助が出来ない！
す、すぐに救助の準備をしなきゃ!!
速度が乗ったサラシキさんと銀の福音が放ったエネルギー弾が接触するぞ！

「簪っ!!」
「更識っ!!」
「か、かんざしちゃーーーーーーん?!」

第50話

くそっ確実に直撃だっ！
第四世代型の箒でさえ気絶するくらいのダメージを受けたのに、正面からあんなのを喰らったらヤバイ！
すぐに助けに行く準備をしないと！
・・・・・・・
・・・
アレ？着弾して周囲に電磁波？とか衝撃波？が出て映像がまた乱れたけど破壊音とかそういうのがないぞ？
『うん知ってた』
「「はぁ？」」
いや、おかしいだろ？今確実に銀の福音の弾幕と正面からぶつかったよな？

なんで無傷でピンピンしてるんだよ！
なんで銀の福音にどでかい穴が空いて、
サラシキさんが無傷で後ろにいるんだよ！
いつの間に？何が有った？
「「どうなってるんだってばよ!?」」

――――――――――――――――

「うん知ってた」
正確には司馬少佐に情報を差し替えて
貰って、全ての情報を正面から突撃
してるように見せかけただけで、実際は
違う動きをしていただけなんだけどね。
ハイパーセンサーも、サーモセンサーも
ブリーズセンサーも、どれが生きてたかは
知らないけど・・・かろうじて稼働して
いる機能を総動員しても、貴様には正面から

ナニカ来るとしか思えなかっただろう？
だから最後の力を振り絞って前に
弾幕を張ったんだろう？
それが機械の限界だ。

いつから私が正面からぶつかると錯覚していた？

反撃があるってわかってるのに、私が
バカ正直に突っ込むわけないだろうに。
「死ねよ旋回式鮮血鋳薔薇（ブラッディーロローズ）」
『?!?!?』
そもそもこの技に勢いなんか要らない。
なんたって刺されば終わるからね。
向こうの映像では腹に穴を開けた

感じになってるのかな？
そうなるとさっきのは「知ってた」よりも「残像だ」の方が良かった？
まぁいいや（）
『?!?!?!』
んん？まだもがいてるの？。
・・・随分しぶといね。
コレはシニタクナイ！って言う、自身に芽生えた生き物としての本能と、搭乗者を殺したくない！って言うＡＩとしての本能なのかなぁ？
まぁどっちも死ぬけどね。
その棘を抜くにはＩＳを解除する必要があるけど・・・解除したら生身の搭乗者を殺して、コアだけになったお前を壊すだけだし。
せめて武器のデータ取りに役立ってね。

お前のシールドエネルギーと搭乗者の
血を全て吸い取って、赤い花が咲いたら
終わりだから。
徐々に全てを失う絶望を知って死ね。

――――――――――――――

?!　?!?　?!?!　?!?!?　?!?!?!

『！』

『・・・ｌａ』

『・・・ｌａ・・・・ｌａ』

『・・・・・・ｌａ・・・・ｌａ・・ｌａ』

『・・・・・・・・・・・・ｌａ』

『・・・・・・・・・・・・・・・』

――――――――――

・・・ＩＳも解除されたか。後は搭乗者の

頭を潰してっと『ボンッ』・・・これで
確実に終わったね。
あ～けど死体が残ったらデータ取りとか
埋葬の関係もあるし『持ってこい』って言われるよね？
「司馬少佐、頭を潰した死体はどうしましょうか？」
持って帰るのは良いけど、その場合
コアも回収されてしまいますよね？
バカ正直にアメリカに渡すのもなぁ。
少しだけどアルレシャのデータとか
抜かれそうだし、ここで壊したほうが
良いと思うんですけど。
『そうですね。それは自爆したことにします。
映像処理が終わり次第連絡を入れますので、
特尉はその後帰投するように』
ん、やっぱり司馬少佐も同じ判断か。
「はっ！了解しました！」
んじゃこのコアは破壊して、後始末は

太平洋のサメにでも頼むとしようかな。
・・・なーんか兎さんからコアの回収の
お願いが来てるんですけど。
持って帰ったら絶対面倒事になると思うんだけどなぁ。
けど無視したらアレかもしれないし、
とりあえず司馬少佐に聞いてみよ。
今回は確かに茶番だったけど、最終的に
マルチプルパルスが見れたしなぁ。
リンちゃんもラウラさんも仕事あったし。
私はアルレシャの武装の性能も試せたから、
オッケーってことにしておくかな?
まぁ大佐殿との旅行の方が良いに決まって
るんだけどね。
『特尉、処理が終わりましたので帰投を開始しなさい』
「はっ!」
指揮所じゃアレでしょ?今頃腹を貫かれた
銀の福音がジジジジってなって自爆してる

んでしょ？
映像も音声もリアルタイムで書き換えるんだから、流石司馬少佐と水銀の蛇。
世界中の情報を書き換える単一仕様能力は機械に頼る連中にとっての天敵だよねぇ。
後は指揮所の連中に終わったことを伝えて・・・あぁ、口裏を合わせるためにどんな映像を見てたか確認する必要も有るか。
「銀の福音の自爆及び、搭乗者ナターシャ・ファイルスの死亡を確認しました。更識簪帰投します」
殺人は初めてだったけど、特に何も感じないなぁ。
コイツに関してはもういいやってだけ。
コイツは今回巻き込まれただけとも言えるけど、所詮は殺戮兵器を使う兵士。
そもそも軍用開発された機体ってことは人殺しの兵器だもんね。

試験とはいえ軍務。つまり人殺しの兵器を実用化して、ソレを使おうとしてた兵士。なら誰かを殺す前に誰かに殺されるのは当然のことだよね？
もし被害者面して絡んで来る奴がいたら、そのまま奇跡の部屋に招待してやる。
ＡＭＩ●Ａの餌になるか、遺伝子情報を抜かれてナニカに使われるか、サメの餌になるかは知らないけど・・・どうでもいいね。
・・・
さて、切り替え切り替え。さっさと帰って麻雀だ！
結局夏休み中の間はリンちゃんはサポート
スタッフに任せて、大佐殿と司馬少佐と
私とラウラさんの４人で一緒に旅行に
行くことになったから、後は旅行先を決めないとね！
『いや、説明しろよ!!』
あぁん？説明ぇ？そんなの軍事機密に
決まってるでしょーが！

ま、映像に合わせた話をテキトーに作るけどさ。
――――――――――――――――――

何がどうなった?最後の力を振り絞った
銀の福音の弾幕に正面からぶつかった
はずの更識簪が、いつの間にか後ろに居て
さらに銀の福音の腹には大きな穴?
いや、穴がドリルで貫いたモノなのはわかるが・・・
『銀の福音の自爆及び、搭乗者
ナターシャ・ファイルスの死亡を
確認しました。更識簪帰投します』
いやいやいや。まぁそうだろう。あんな
傷を負ったら間違いなく死ぬだろうさ!
そして自爆というよりは、負荷が祟って
機体ごと爆発したのもわかる。
全身装甲があのような形で貫かれたのだ。
流石にあの状態では機能不全を起こすし、

空中で待機状態になどなれなかったのだろう。
だがそれ以前の問題だ！
「「いや、説明しろよ!!」」
ホラ、凰もこう言ってるぞ！
『え？ただの質量を持った残像だよ？
瞬時加速を使って速度の緩急を生み、
熱排気と表面塗装を排出することで
銀の福音のセンサーを誤認させ、微妙に
位置をずらしただけの話だね』
ん、んん？それは、出来る……のか？
「な、なるほど。その結果簪が居た位置とは
微妙にズレた位置に弾幕が集中したわけね？
それで簪はその残像の影に居て、弾幕が
残像を襲ったところを影から強襲したと？」
なるほど。あの一瞬でそこまで考えて
動いたのか。いや、正確には違うな。
銀の福音が生きていて、最後の反撃が

あると言う事まで見越して手を打って
いただけの話。
止めの際に油断などしないという、まさしく
処刑人としての【更識】としての動き。
流石生まれた時から暗部として鍛えられ、
さらに教頭と司馬監査員に見出されて
鍛えられただけのことはある。
『そうだね。広範囲ジャミングの後だから、
そっちの観測映像も細かいズレは認識
できないだろうし、そもそも私がその誤認
した残像に隠れるように動いたから。
ソッチでも正面からぶつかったように見えたかもしれないね』
・・・ふむ。瞬時加速の中で緩急を利用し
熱や表面塗装?を排出することで銀の福音の
各種センサーを誤魔化したと言ったな。
こちらのサーモセンサーやハイパーセンサー
は、それ以前の広域ジャミングに対して

完全に機能も回復していなかったし、海に
潜って観測をしようとしていた連中なんて
機能が停止しかけて死にかけたからな。
音波は空気中より水中の方が伝わり
易いのは常識だし、下がれと警告をされて
いたのに観測を重視して潜んでいた連中が
悪いと言われればそれまでだ。
・・・更識か日本政府関係者だろうが、
あまり心証を悪くしないで欲しいモノだ。
だがまぁわかった。とりあえず任務の完了は
確認したし、証拠は・・・どうなるんだ？
まさか自爆したナターシャの肉片を持って来いとも言えん。
コアに関しては・・・おそらく粉々だろう。
第三世代型の二次移行したコアなど貴重品
どころではないが、撃墜許可は出ているし、
そもそもが違法な軍用開発機。
表立って文句を言われる筋合いでもない。

それに、軍用開発された機体を一蹴する
冬林技研の第三世代型の性能が確認出来たのだ。
相性の差とはいえ、音波やジャミングに
対する備えについてのきっかけと考えれば
各国の研究機関も文句は言わんだろう。
更にこれはＩＳの軍事利用に歯止めをかける
技術でもある。
なんといっても音波や衝撃はＩＳのシールド
を貫くと証明したのだからな。
多少の対策は出来るだろうが、衝撃を
完全に防ぐなど不可能である以上、今後
軍事産業関係にそちらを研究するよう
指示を出して税金を投入することも可能。
結果この事件はアメリカ・イスラエルだけで
なく世界中の軍事産業に福音を与える結果と
なったわけだ。
しかし冬林技研としては・・・どうなんだ？

更識簪が司馬監査員の護衛としての存在を
表に出してきたが、それだって銀の福音が
二次移行しなければそのままだったよな？
更に三馬鹿が負けていなければ出てくる
こともなかったということを考えれば、
デモンストレーションとしてこの件を
利用しようとしていたという線は無い。
となると純粋に司馬監査員に何かあると
困るから、三馬鹿が負けた時点で出た
ということなのだろうな。
で、今回の件で一番怪しいのは、やっぱり束と
言いたいところなんが、束もなぁ。
最初は箒に実績を与え、第四世代型を持つ
ことに対する周囲の風当たりを弱めるとか、
慣熟訓練も兼ねた茶番なのかと思ったが
鳳に先陣を任せた時も特に口出しして
こなかったし、あくまで箒の意思を尊重

していたよな。
なんというか、心から箒の成長を願ってた
みたいなんだよなぁ。
あの様子を見れば、束が銀の福音を暴走させたという線もないだろう。
うーむ・・・ナニカある度に束や教頭を黒幕
と思ってしまうのは悪い癖だな。
やりかねんのは確かだが、流石に
理由なく箒や司馬監査員を危険に晒す
ような真似はしないだろうし。
可能性が大きいのはやはりアメリカの
軍事産業関係者か。
イスラエルの宗教関係も怪しいところ
ではあるが、第七艦隊にも被害が出ている
事を考えれば、装備を一新する為の狂言で
あるとも取れる。
誰がどこまで仕組んだか知らんが、やはり
政治的なパイプは必要だな。

かといって今から司馬監査員に接触
するのは周囲に警戒させることになる。
そうなれば・・・
「ふむ。今回の件はコレで終わりだ。
後片付けは我々に任せて、織斑と凰は
戻っていいぞ」
「了解しました（Φ ω Φ）ゞ」
うむ。流石に切り替えが出来てるな。
「ま、まだよくわかんねぇけど、了解だ」
こっちは・・・しょうがないだろうな。
何せモニター越しとは言え人が死んでいるんだ。
落ち着くにも時間が必要だろうし
今回の細かい事情やら何やらはさっぱり
理解できてないだろうからな。
「あぁ、言っておくが今回の作戦に関しての
口外を禁ずる。情報の漏洩があった場合は、
話した方も聞いた方も禁固刑が下される可能性

があるので、そのつもりで居るように」
「「了解」」
知らないで話したとか言っても困るしな。
他人に迷惑をかけるとなれば、一夏の性格なら頼まれても口を割らんだろう。
「一応補足すると、元々知ってるあの3人とは話してもいいけど、絶対に周りに誰もいないことを確認してね。
もし偶然誰かが聞いてたとかなったら、一夏が意図してなくても情報の漏洩になるんだから。軽く考えちゃダメよ？
それと、簪の戦い方や能力については絶対に話しちゃダメ。特にあの3人には」
うむ。誰にも話せないとなればストレスになるかもしれんからな。
流石に私の口から「話題に出しても良い」とは言えんし、その配慮は正直ありがたい。

「あぁ、なるほど。元々知ってるなら秘密も何もねぇもんな。
で、サラシキさんについては・・・護衛云々じゃなくて常識の話だな？」
うむ。まさしく常識の話だ。
ソレがなければ司馬監査員や教頭に粛清されることになるからな。
「そうよ～（Φ ωΦ）。これからＩＳ学園やＩＳ委員会が勝手に解析するだろうけど、わざわざ言いふらすような奴は誰にも信用されないからね」
当たり前の話だな。
「ちなみにデータの持ち出しは許さん。
まぁすでに記録されているものに関しては流出を禁じることしかできんがな」
今の凰ならコレだけでもわかるだろう？
「ん？あぁ、なるほど。そう言うことですか？」

ふっ。察したな?今回の件が誰の仕掛けかは知らんが、せめて有効活用してくれ。
「えっと、どういうことだ?」
束が言うように、私に男が出来ん限り一夏が恋愛に目を向けるのは難しいと言うのは事実だろう。
だが、恋愛に目を向けた時、信頼できる相手が側に居なければ問題だからな。
「あまりにもアホすぎて愛想を尽かされてた」なんてならんように、少しずつ意識を変えていかなくては。
「私は二次移行した福音の能力も見たし、簪の力の一端も見たわ。だから私とのＩＳの演算機能を使ってのシミュレーションくらいなら良いって事よ」
うむ。多少強引な解釈では有るが、更識簪が見せる事を前提とした能力だけを使用

したと言うなら、こういう使い方も有り
だろうさ。
むしろ、アレを見ていながら何の対策も
練らんような阿呆は教頭に矯正されるだろう。
「お、おぉ、そう言うことか!
これからもよろしく頼むぜ、リン!」
「まーかせてっ!(Φ ωΦ) b」
うむ。その調子でしっかり凰の世話になれよ。
・・・間違っても三馬鹿に行くなよ?

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

『さて、今回の件でアルレシャの性能も
確認出来たし、オーバードウェポンも試せた。
イベント自体は茶番であったが、ウチの
研究者連中からしたら、最低限無駄では
無かったと言えるだろうな』

確かに。それがなかったら今回の件は
完全に兎の自己満足でしたよね。
「ですね。それに特尉も少尉も准尉も
それなりに実績を上げることが出来ました。
それぞれの立場の安定にも繋がります」
私や特尉はともかく少尉はね。暗部として
姿を前に出すことなく仕事が出来るという
のは大きいです。
准尉は、まぁ普通に実績ですよね。
『そうだな。それもこれもお前がしっかり
手綱を握っているからだ。苦労をかけるが
もう少し我慢してくれ』
「はっ！」
正妻として側室や妾の世話をするのは
当然ですからね。
今までそちらの仕事を出来なかった分、
万全にこなして見せましょう。

『あとは夏休みの旅行だが・・・行き先は三人で決めるとか?』

そう、こんな茶番より旅行ですよ!

結婚式の体験・・・いえ現地の文化調査は夏よりも秋から冬に試すとして、まずは師との婚前旅行です!

当初の予定と違い、特尉や少尉が居るのが若干アレではありますが、そこはアレです。正妻として師に負担をかけたくないですし、私一人だと夜がアレですからね。

3人でイロイロ頑張る予定ですよ!

「そうですね。師に行きたいところが有ればそちらを優先しますが、無いと言うなら我々で決めたいと思います」

日本に関しては特尉がいますし、少尉はあんまりアテに出来ませんが、知識が無いからこそ面白い場所を見つけることが

出来るかもしれませんからね。
先入観がないのも時には重要です。
『前にも言ったかもしれんが、俺は
お前が居ればそれでいいから。とは言っても
簪やラウラを蔑ろにする気はないが。
アレだ、まずはお前が楽しめるところで頼むぞ』
も、もう！師ときたら・・・もうっ！
「りょ、了解しました！」
本音を言えば私だって師が居れば、研究室だって中国の自宅だってどこだって良いんですよ！
『んじゃ、後は任せる。何度も言うが無理はするな。何かあったら連絡をくれ』
はぁ、お気遣いが身に染みます。
流石に普段からこんな調子だとアレかもしれませんが、今は昔と違って気を抜ける時が増えましたからね。
お互い過労で倒れない程度に気を抜く

こども大事です。とは言えアイサツは
きちんとしなくてはいけません。
「はっ！お気遣いありがとうございます！お疲れさまでした！」
はぁ、本当は通信なんかじゃなく直接
お会いしてお話したいんですけどねぇ。
まぁ夏休みまでの辛抱ですか・・・

『あ～なんかしーちゃんだけ狡くない？
束さんだってイロイロ頑張ってるのにさ～』
あぁん？どっから出てきたこの兎？
「頑張ってるもなにも、今回は兎の我儘に
我々が協力したのですよ？コレは当然の権利です」
兎とて師と私が認めた妾ではありますから、
無駄に邪険にする気はありませんけどね？
コイツは我儘が過ぎるんですよ。
『ん～そう言われたらアレだけどさ～。

かんちゃんがアレを潰してくれたおかげで、
いっくんも無駄に出撃しなくてよかったし
箒ちゃんも無事。
紅椿も渡せたし実戦の空気を知ったよね！
自分の未熟さを知って成長するかどうかは
まだわかんないけど・・・それでもきっかけ
はあげられたよね！』
確かにきっかけは与えたでしょうが・・・
アレは絶対に自制も自省もしないでしょう？
手柄を取られたって逆恨みするタイプです。
「言うまでもないことでしょうが、
こちらに絡んできた場合は処分しますよ？」
他はどうか知りませんが、私が容赦する理由
は有りませんからね。
『あ～うん。とりあえずちーちゃんとかに
言っておくよ。だけど箒ちゃんもＩＳ学園に
通う１０代女子なんだから、他の人と

同じくらいの寛容さは欲しいかな～』
むぅ・・・確かに兎の妹とは言え学生。
他をシカタナイで許しているのに、アレ
だけを処するのはよろしくないかも
しれませんね。
「内容によります。流石にいきなり特尉達
に真剣で襲いかかるようなら・・・」
木刀程度ならまだしも真剣を振り回していますからね。
そんな阿呆に寛容さなど見せる必要はありませんよね？
『あ～うん。とりあえず紅椿に使用制限つけておくよ～』
まさかいきなり専用機を振り回す
とは思えませんが・・・いえ、阿呆には
限りがありませんからね。こちらの常識を
当て嵌めるのは危険でしょう。
「ですね。シールドエネルギーを常時展開して、
生命維持と絶対防御だけを稼働するようにして
おけば、自衛の初動としては十分でしょう」

後は成長に併せて開放する形にして
いけば事故も防げます。
感情のままに殺傷力のある兵器を振り回す
ことで起こるのは、事故ではなく事件だと
思いますけどね。
『だよねー。下手に気分で殺人とかされると
揉み消しが面倒だし、束さんもリー君に処
されちゃうよ』
でしょうね。敵の兵士とかならまだしも、
同じ学び舎に通う学生を気分で殺害する
ような破綻者を庇うなら、兎とて捌かれる
ことになりますよ。
「そういえば・・・」
ふと思い出したんですけど
『ん？何かな？』
どーでも良い話ではあるんですけどね？
「ドイツ軍ってどうなったんです？

阿呆の件で一時保留っていうのは聞いて
ましたけど、子兎と一緒にＶＴシステムの
研究施設だの軍事施設を強襲するのでは
なかったのですか？」
特にナニカしたって話は聞かないんですけど？
『あっ！箒ちゃんに紅椿の製造を
頼まれた嬉しさですっかり忘れてたっ！』
おいおいこの兎。自分から師にＶＴシステム
は許さんとか言っておきながら・・・
「私や少尉はどうでも良いですけど、
ドイツ軍に対する攻撃を止められてる
子兎にしてみたら、完全に不完全燃焼
なんじゃないですか？」
アレがドイツ軍を恨むのは当然だし、報復
する権利とてあるでしょう？
少尉と違って師の養子みたいな立場に居る
からと言っても、ドイツに対して良い思いが

あるわけでもなし。
目の前に餌をぶら下げっぱなしで
放置するのは流石にどうかと思うんですがね。
『あぁ～ごめんねくーちゃん！明日っ！明日に
なったら絶対に行くから！直ぐに準備しよ！』
・・・・・・
いや通信切るのはいいですけど、アイサツ
くらいちゃんとしないと子兎の教育に
悪いと思うんですが・・・
まぁ正式な養子というわけでもないですし、
アレの教育は師と兎の仕事ですからね。
はぁ・・・私も早く師と共に子供の
教育をしたいものです。
『司馬少佐、後5分で帰投します』
ふむ。予定通りですか。初の実戦にも
関わらずこれだけスムーズに動けるのは
流石特尉と言ったところでしょうね。

「了解しました。少尉を迎えに出します。
特尉はそのままデータを取りつつ帰投するように。少尉は特尉の到着に合わせて浮上し、特尉と共に何食わぬ顔で正面から戻りなさい」
出るのは良いけど戻りがアレなんですよね。
本来は違う指揮系統だから文句を言われる筋合いは無いのですが、まぁ面倒事を避ける為です。
『『はっ！』』
何か言われても「迎えに出したのが一緒に帰ってきただけだ」と言えばいいし、
いつの間に外に出していた？と聞かれたら「特尉に万が一があったら直ぐに出られるように待機させていた」とでも答えましょう。
実際特尉が抜かれた時に備えて待機してたのですからね。

いやはや。こういう地味な作業を堅実にこなすことが出来る人材は貴重です。
更にＩＳを使う１０代女子でしょう？
母体としても問題無いしますます貴重な存在ですよね。
うむ。特尉といい少尉といい、本当に良い拾い物をしました。
この場では無理ですが、近いうちにきちんと労う必要がありますね。
さしあたって、二人には埃を落としてもらい一息ついたら麻雀です。
皆で師と共に楽しめる旅行先を探しましょうか。

凰めっ！二次移行する前の雑魚を
倒しただけの癖に偉そうにしおって！
それに私にサラシキや二次移行した敵の
情報はやれんだと?!
一夏だけでなく千冬さんまで洗脳したかっ！
クソっクソっクソっ！
サラシキだって私が弱らせた敵を横から
かっ攫っただけだろうがっ！
姉さんがくれた紅椿も・・・勝手に敵から
逃げるとは何事だ！
相手は乗り手が気を失っても戦い続けて

いたというのにっ！
なんて惰弱なっ！
クソっクソっクソっクソっ！
このままでは一夏が！あの連中に一夏が
取られてしまうっ!!
一夏とは私が最初に出会ったんだ！
一夏は私のモノなんだっ！
一夏は絶対に渡さんっ!!

┐┐┐┐┐┐┐┐┐┐┐┐┐┐┐┐┐┐┐

・・・・・・・・・To be continued

考察

とある作者の考察（成層圏、コアの数編）

さて、ＩＳと言う作品の主役とも言えるＩＳ。
その総数は読者の皆さんなら誰もが知ってる
４６７個。
そのうち実戦配備されているのが３２２個で
１４５個が企業や研究機関に貸し出しされてる
とのこと。
で、この１４５個の中から実験機を専用機と
して貸出しているとか。
まぁコレは企業や研究所が所属する国の所有
と考えても良いかもしれませんね。
戦争に使える戦力を完全に企業に預ける
国なんか存在しません。
それこそＡＣ世界の企業体が生まれちゃいます。

ちなみに国家代表候補生の場合は・・・
特に明記されてません。
シャルロット・デュノアは企業のを
私物化してる可能性が高いですけどね。
セシリア・オルコットは・・・国でしょう。
量産機が3つありますから。
一つの企業に3個とか無いでしょ？
リンちゃんは国ですよね？中国だし。
ラウラウも国ですね。特殊部隊ですし
実戦配備されてますから。
かんちゃんは倉持ですが、コレも半分
以上は国でしょう。
更識楯無？ロシアだと思うんですけどねぇ。
ちなみに学園には３０個だそうです。
訓練機と教員用と実験機の合計ですね。
実験機がドレかは知りませんが、
ダリルとかはコレでしょうか？

けど普通に亡国機業に移ってる？
・・・エクスカリバーもそうですが
『兵器を私物化すんなや』ってツッコミ
は無いんですかねぇ？
まぁ良いでしょう。

では次はそれぞれのＩＳの所属について。
まずは【実戦配備】から見ていきましょう
わかりやすいのがドイツです。
ラウラウはドイツ代表候補生ですね。
クラリッサ副隊長の量産機と
名前有りの部下が最低四人います。
精鋭部隊（自称）だから全員が一次移行
してると考えればラウラウを足して６人
で一小隊でしょうか。
で、ラウラウの製造過程を考えれば
反乱防止や証拠隠滅の為に最低でも

同程度の部隊が必要ですよね？
まぁ国家代表が別に居ますから、
代表が他の隊を率いてたら更に５～６。
ラウラウとクラリッサのが研究用とかも
考えたとしても敗戦国のドイツに最低で
１０ありますね。
学園と合わせて４０・・・まぁ学園の実験機
などを５とすれば３５ですね。

で、次はイタリア。ココには世界二位の
テンペスタが居ますよね？
更にイグニッション・プラン用で研究
されてるとか？最低で１０。
コレで４５です。

第二次大戦の敗戦国であるイタリアとドイツに
やるくらいならＥＵ加盟国である

スペイン、ポルトガル、ノルウェー、
フィンランド、オランダ、バルト三国、
ギリシャ、ポーランド、オーストリア、
チェコ、デンマーク、スウェーデン
アイルランド、ハンガリー、ルーマニア
スロベニア、クロアチア、スロバキア

等、作者がざっと思い付く
くらいでもコレくらいにはやりますよね。
17国＋バルト三国ですね。
あとルクセンブルクもありましたか。
最低でそれぞれ5〜10。（バルト三国は一つに
つき二つくらい？）
17×5だったら85個　85＋45＝130
17×10なら170個　170＋45＝215
バルト三国で6個だとして　136〜221個
ドイツに10ならルクセンブルクは

話の都合上１０～１５はあるでしょう。
ヴァチカンにも5はありそう。
スイスもありますね。ドイツと同じ１０は
無いと中立とか言えませんよね？
三国で２５～３０個あるとして
最低で１３６＋２５＝１６１
最大で２２１＋３０＝２５１
中東について
エジプト（北アフリカ諸国）・サウジアラビア、
ＵＡＥ・　イスラエル、トルコ
かなり省略してますし、お金も影響力も有る
国が有りますので概算でそれぞれ十としましょう。
５０個として　２２１～３０１
クウェート・イラン・イエメン
中東の火薬庫ですね。ＩＳが無いなんて
有り得ないので、それぞれ・・・まぁ
最低で5としましょうか。

１５個　　２２６～３０６です。
南アジア。
インド１５・パキスタン５・バングラデッシュ５。
スリランカとか他の国を抜かしてますが、まぁ
周辺国含むって感じで考えて貰えれば・・・
周辺も合わせて２５。　　２５１～３３１。
東南アジア。
タイに専用機持ちで国家代表候補生でＩＳ学園
に来た人が居ましたね？
タイに居るなら周辺にも戦力が必要ですから
マレーシア・ベトナム・ミャンマー
フィリピン等・・・他にもたくさんありますが
まぁ省略で。あくまで最低の個数を算出する
モノだと思ってください。
そんな感じでそれぞれ５としますか。
２５個　２７６～３５６個
アメリカ、ロシア、フランス、イギリス、

中国の５大国。
ドイツより少ないと言うことは絶対ないので各２０個。
１００と考えて　　３７６～４５６個
オセアニア諸国
オーストラリア１５　ニュージーランド５
コレももっと有りますが・・・まぁ代表ってことで勘弁して下さい。
２０個として３９６～４７６個
北米にはカナダも有りました。
１０～１５個で４０６～４９１個
日本。これもドイツより少ないのはありえないから１０～２０個。
４１６～５０１個

中央・南アメリカ。
メキシコ　５

ブラジル　５～１０
アルゼンチン　５
チリ　５
その他　５
その他って言うのがあまりにも
適当ですが・・・まぁ概算概算
２５～３０個として４４１～５３１個
ココまでが国が持ってる個数ですよ？
で、企業や研究所１４５個・・・
５８６～６７６個？
まぁ、イタリアとかは研究と実戦配備を
混ぜてますけど、フランスは少なくとも
実戦配備以外にデュノア社が３つ持って
ますよね？
シャルロット・デュノアのラファールと
第三世代型コスモス。
第三世代型を１機作ったらコアが無くなる

なんてことは無いでしょうから、他の
研究用も最低１個は必要でしょう？
英国の量産型も実戦配備ではなく研究
されてた試作機ですから、コレも最低３つ。
・・・このいやしんぼめ。
つまるところそれぞれの先進国の研究用に
２～３個あるんじゃないですかね？
アメリカとかは５個以上あるでしょう。
アラクネ型とかあるくらいですし。
ガバガバ計算でコレです。
南アジアやら東南アジア（台湾含む）やら
アフリカやら中東やら中央アジアやら、
南アメリカやらオセアニアやら色々な国や
地域を無視しても最低で５８６～６７６個？
ドイツの１０がおかしいのか？
実は黒兎隊しか部隊がなくて、国家代表は
部隊を率いていない特記戦力で、国家代表

候補生がラウラウ一人だけで、国家代表は
一人で黙々と修行してるのか？
それならドイツは５～６になりますが、
国で唯一のＩＳ部隊の隊長が遺伝子改造を
受けたデザインベビーなんて有り得ますか？
更にその隊長を単独で国外に出向させ
ますかね？
無い無い。もし１部隊しかないなら
最低でも国家代表が代行するでしょ。
ソレが無いからＩＳ部隊は最低二つあります。
そうじゃないと反乱防止にもならないし、
軍内派閥とかがおかしくなりますからね。
つまりドイツに最低１０個は必要なんです。
で、ドイツにソレだけあるなら他の国も
もっと必要ですよねぇ・・・
特にアメリカなんか各方面軍と国防でしょ？
２０で足ります？

アメリカにソレだけ有ったらバランス的に
考えて、ロシアだって同数は必要でしょ？
ちなみに最低数を5にしてるのは、
それぞれの国で実戦配備されていても
交換やらメンテやら休暇が必要だし、
最低で3人一組にしないと反乱やら
暴走が有った際止められないからです。
国境警備や国内の治安維持を考えれば
最低1小隊5人は必要なんですよねぇ。
本来なら1小隊だけだと反乱とか、敵国に
取り込まれた際の抑止力が無いから不自然
なんですが・・・
この作品の不自然さなんか今更ですし？
気にしたら負けかなって・・・

ん～（・ω・）

とりあえず、少なくとも１００個はコアが
足りない中で、行方不明とかありえねぇと
断言できるんですが、どの二次ＳＳを見ても
誰もツッコミ入れて無いんですよねぇ。
そもそも何でラウラウについてツッコミが
無いのか不思議でならん。
ドイツで遺伝子操作された人造人間で
少年兵ですよ？
ＶＴシステム以前の問題だと思うんです
けどねぇ。
私がナニカサレタのでしょうか？
それとも世界が無限月読に落とされてる？

ん～（・・ω・）

とりあえず、このガバガバの考察に
対するツッコミもお待ちしております。